



ihi™ WebFOCUS®

ReportCaster 利用ガイド

バージョン 9.2 | October 2023

目次

1. ReportCaster の概要	13
ReportCaster とは	13
ReportCaster の概要	14
セルフサービスインストールでのスケジュールの作成	15
ReportCaster の処理	17
タイムゾーンの考慮事項.....	21
夏時間の考慮事項.....	23
ReportCaster 一時ディレクトリの設定.....	24
Distribution Server 機能	25
Distribution Server のスタートアップ.....	25
ibi™ WebFOCUS Client とは異なるマシンにインストールされた Distribution Server の構成に関する重要な考慮事項.....	26
リカバリ.....	26
スキャンバック.....	28
ReportCaster 構成ツール.....	29
Distribution Server のフェールオーバーとワークロード分散.....	29
2. ReportCaster ステータスの使用	33
ReportCaster ステータスの使用	33
サーバステータス	34
Distribution Server ステータスの表示.....	35
データサーバ別のジョブキュー.....	38
サーバパフォーマンス	39
Java ヒープダンプ機能の使用	39
フェールオーバー Distribution Server のステータスとタスク	40
ジョブステータス	42
ジョブログ	43
ReportCaster の構成	43
構成タブのアイコン.....	44
構成タブのフォルダ.....	47

構成設定の変更.....	48
デフォルトユーザ ID の変更.....	49
Distribution Server の設定.....	49
ReportCaster フェールオーバーおよびワークロード分散の構成.....	59
Distribution Server へのアクセスを特定の IP アドレスリストに制限.....	61
設定 - 全般.....	63
スケジュールタスク設定の指定.....	64
スケジュールフォーマット設定の指定.....	66
スケジュール配信方法の設定.....	67
Email 配信.....	68
許可する Email ドメインおよびアドレスの確認.....	75
無効な Email アドレスおよびドメインの例.....	76
無効な Email アドレス.....	77
無効な Email ドメイン.....	77
Email ドメインおよびアドレスの制限.....	77
Email アドレスの選択ダイアログボックス.....	79
Email アドレスのみのリスト.....	80
Email ドメインとアドレスのリスト.....	81
Email ドメインのみのリスト.....	82
通知.....	82
FTP の設定.....	86
FTP の設定ユーザインターフェースの理解.....	87
FTP 構成の詳細情報の理解.....	89
FTP 設定構成の展開.....	94
デフォルト FTP 設定構成の設定.....	96
圧縮 (ZIP) の設定.....	102
ZIP 暗号化保護デフォルトプラグインの使用.....	105
デフォルトスケジュール.....	108
ログ削除と ReportLibrary 有効期限.....	108
LDAP の設定.....	110

データサーバの設定.....	112
ReportCaster での Reporting Server の構成.....	117
ReportLibrary の設定.....	118
ReportLibrary 配信オプションの制限.....	124
スケジュール禁止期間の使用	126
週単位スケジュール禁止期間の構成.....	130
週単位スケジュール禁止期間の設定.....	131
月単位スケジュール禁止期間の構成.....	133
月単位スケジュール禁止期間の設定.....	134
1 日スケジュール禁止期間の構成.....	135
1 日スケジュール禁止期間の設定.....	135
毎日スケジュール禁止期間の構成.....	135
毎日スケジュール禁止期間の設定.....	136
スケジュール禁止期間のインポート.....	138
スケジュール禁止期間インポートファイルフォーマット.....	140
1 日スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト.....	140
週単位スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト.....	140
月単位スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト.....	141
毎日スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト.....	141
スケジュール禁止期間プロファイルのエクスポート.....	146
ファイルフォーマットのエクスポート.....	146
スケジュール禁止期間終了後のスケジュール実行日付の制御	147
実行 ID	149
グローバル更新	152
ジョブログの削除	157
スケジュールの削除	157
コマンドプロンプトインターフェースを使用したスケジュールの削除.....	158
3. 配信リストの作成と保守	161
配信リストの作成	161
配信リストの編集と削除	164

配信リストへのアクセス	165
配信リストの公開.....	167
レポートのバースト	170
バーストのガイドラインと制限.....	171
外部配信ファイルの作成	174
メンバーリストのインポートによる配信リストの作成	176
ダイナミック配信リストの作成	178
WebFOCUS リポジトリプロシジャからのダイナミック配信リストの生成	180
複数 Email アドレスの指定	181
4. スケジュールの作成	185
ベーシックスケジュールツールの概要	186
ベーシックスケジュールのクイックアクセスツールバー.....	186
ベーシックスケジュールツールのリボン.....	186
ベーシックスケジュールツールによるスケジュールの作成	188
ベーシックスケジュールツールのタスクの概要	190
ベーシックスケジュールツールのタスクオプション.....	191
アラートスケジュールの遅延設定.....	193
パラメータ値の指定.....	195
パラメータ値による Analytic Document および複合レポートのバースト.....	207
各パラメータ値の実行前または実行後プロシジャの実行.....	210
フィルタ設定済みおよびフィルタ未設定レポートを含む Analytic Document または Excel 複合レポートのバースト.....	215
フィルタ設定済みレポートのみを含む Analytic Document または Excel 複合レポートのバースト.....	217
パラメータの削除.....	221
新規パラメータの作成.....	221
レポートフォーマットの選択.....	223
実行前プロシジャおよび実行後プロシジャをスケジュールするには.....	224
タスクの詳細設定.....	226
パラメータ値としての変数の使用	227

ベーシックスケジュールツールの配信オプション	230
ベーシックスケジュールツールでの Email 配信オプションの使用.....	230
埋め込み Email メッセージとして DHTML レポートを配信する際の考慮事項....	241
メールサーバオプションの指定.....	244
ベーシックスケジュールツールでの FTP 配信オプションの使用.....	245
ベーシックスケジュールツールでの ReportLibrary 配信オプションの使用.....	250
ベーシックスケジュールツールでの最上位フォルダへの ReportLibrary レポートのバ ースト.....	258
ベーシックスケジュールツールでのリポジトリ配信オプションの使用.....	261
ベーシックスケジュールツールでのリポジトリ配信方法によるファイルシステム配信.	263
単一ファイル FTP 配信での FTP フィールド自動入力	264
ReportLibrary ファイルのタイトル自動入力	264
ベーシックスケジュールツールの通知オプション	264
ベーシックスケジュールツールでのエラー時通知と常に通知の設定.....	265
ベーシックスケジュールツールのプロパティの概要	266
ベーシックスケジュールツールの実行間隔の概要	267
1 回だけ実行.....	268
分単位.....	268
時間単位.....	268
日単位.....	268
週単位.....	269
月単位.....	269
年単位.....	270
カスタム実行間隔.....	270
詳細設定	270
レポート配信を ReportLibrary のみに制限	271
制限されたスケジュールの警告メッセージ.....	273
ログ情報.....	274
5. アドバンストスケジュールツールによるスケジュールの作成	275
アドバンストスケジュールツールの概要	276

アドバンストスケジュールツールのクイックアクセスツールバー	277
アドバンストスケジュールツールのリボン	278
アドバンストスケジュールツールでのスケジュールの作成	281
アドバンストスケジュールツールのタスクの概要	284
スケジュール内のタスクの無効化.....	290
WebFOCUS スケジュールタスクタイプを使用したスケジュールタスクの構成	292
WebFOCUS スケジュールタスクの実行モードオプション.....	295
呼び出し先スケジュールで使用されたパラメータ値の上書き.....	295
アドバンストスケジュールツールの配信オプション	299
アドバンストスケジュールツールでの Email 配信オプションの使用.....	300
アドバンストスケジュールツールでの FTP 配信オプションの使用.....	309
アドバンストスケジュールツールでの ReportLibrary 配信オプションの使用.....	315
アドバンストスケジュールツールでの最上位フォルダへの ReportLibrary レポートの バースト.....	322
アドバンストスケジュールツールでのリポジトリ配信オプションの使用.....	325
アドバンストスケジュールツールでのリポジトリ配信時のファイルシステムへの配信.	327
スケジュールでの複数の配信方法とタスクの指定.....	327
アドバンストスケジュールツールの単一ファイル FTP 配信での FTP フィールド自動入力 ...	329
アドバンストスケジュールツールの ReportLibrary ファイルでのタイトルフィールド自動入 力	329
アドバンストスケジュールツールの通知オプション	329
アドバンストスケジュールツールでのエラー時通知と常に通知の設定.....	330
アドバンストスケジュールツールのプロパティの概要	332
アドバンストスケジュールツールの実行間隔の概要	333
6. スケジュールの保守	337
スケジュールの共有	337
スケジュールの公開	341
コンテキストメニューオプションによるスケジュールの有効化と無効化	341
7. スケジュールのトラッキング	343
ログレポート	343

コンソールによるスケジュールのトラッキング.....	343
スケジュールログの使用.....	343
ジョブステータスの確認.....	344
ReportCaster のパフォーマンスログによるスケジュール実行のトラッキング.....	347
8. ReportLibrary の使用	349
ReportLibrary の概要	349
ReportLibrary コンテンツの表示	350
ReportLibrary コンテンツの表示.....	351
ReportCaster エクスプローラからの ReportLibrary コンテンツの表示.....	352
ReportLibrary ウォッチリストの使用.....	354
ReportLibrary レポートの公開.....	357
ReportLibrary レポートの保存.....	359
ReportLibrary コンテンツの削除.....	360
切り取りと貼り付けによる ReportLibrary レポートの移動.....	362
Web ビューアレポートの表示.....	362
Web ビューアレポートの検索	365
ReportLibrary レポートの特定バージョンを Excel および他のドキュメントで開く	369
アクセスリストの作成と管理	370
アクセスリストへのアクセス	377
アクセスリストの公開.....	378
ReportLibrary レポートのパラメータ値の表示	381
9. ReportCaster エクスプローラ	383
ReportCaster エクスプローラの使用	383
エクスプローラのツールバー	385
エクスプローラのツリー	388
エクスプローラの項目リストパネル	388
エクスプローラのスケジュール詳細情報	388
エクスプローラの配信リスト詳細情報	389
エクスプローラのアクセスリスト詳細情報	389
エクスプローラの ReportLibrary レポートおよびウォッチリストレポート詳細情報	389

エクスプローラの項目オプション	390
サブフォルダの検索	397
10. トレースの使用	399
トレースの有効化	399
Servlet トレース	399
Distribution Server スタートアップトレースファイル	402
スケジュールトレースおよびレポートトレース	403
特定のジョブに関連付けられたトレースファイル.....	403
トレースエラーファイル.....	405
スケジュールトレースファイルのクリーンアップ.....	405
Resource Analyzer のサポート.....	405
ReportCaster ジョブトレースファイルのダウンロード.....	405
Distribution Server 初期化トレース	406
Reporting Server のトレース	408
11. ReportCaster レポートコーディング上のヒントとテクニック	409
WebFOCUS プロシジャの編集	409
アンパサンド (&) または一重引用符 (') の使用	410
HTML レポートおよびドリルダウンレポート	411
-HTMLFORM の使用	412
ReportCaster による目次レポートの配信	414
EXL2K 目次レポートの配信.....	416
データのグラフ化	417
GRAPH FILE コマンドの使用	419
グラフィメージを組み込んだ PDF レポートの配信	421
FML の作成	429
&&KILL_RPC フラグの使用	430
Excel 複合レポート	432
複合レポートと統合された複合レポート	433
アコーディオンレポート機能によるソートデータの表示制御	433
WebFOCUS 機能の制限事項	436

SET コマンドによる有効リンクまたはドリルダウンへのアクセス.....	437
WebFOCUS コマンド使用時の既知の問題	438
バーストレポートでの WebFOCUS コマンドの使用	439
バーストレポートでの総合計の自動非表示.....	440
バーストレポートの列合計表示.....	440
スケジュール出力の言語指定	441
A. スケジュール出力の ReportCaster フォーマット	443
AHTML	444
ALPHA	444
APDF	444
COM	445
COMMA	445
COMT	446
DFIX	447
DHTML	447
DOC	448
EXCEL	449
EXL07	449
EXL07 FORMULA	450
EXL07 TEMPLATE	450
EXL2K	451
EXL2K FORMULA	451
EXL2K PIVOT	452
EXL2K TEMPLATE	453
EXL97	453
GIF	454
HTML	455
HTML5	456
JPEG	457
PDF	457
PNG	458
PPT	459

PPT TEMPLATE	459
PPTX	459
PPTX TEMPLATE	460
SVG	461
TAB、TABT	461
WK1	461
WP	462
XML	462
B. ReportCaster の WebFOCUS リポジトリテーブル	465
リポジトリレポートの概要	465
WebFOCUS リポジトリテーブル	465
C. ReportCaster 変数	469
ReportCaster 内部変数	469
D. DBLocator イグジットの使用	471
DBLocator イグジット変数	471
DBLocator イグジットの作成	472
DBLocator イグジットの要件	472
DBLocator イグジット JAR ファイルの展開	476
WebFOCUS の DBLocator イグジットへのリダイレクト	477
Legal and Third-Party Notices	481

1

ReportCaster の概要

ReportCaster は、ibi™ WebFOCUS® レポート、URL のコンテンツ、ファイルの実行および配信を一元的に管理するスケジュールおよび配信アプリケーションです。ReportCaster は複数の管理者による使用が可能で、組織内の情報配信の管理を集中して制御することもできます。

ReportCaster の各ツールは、Web ベースのリッチインターネットアプリケーションです。このアプリケーション機能を使用して、ReportCaster 構成の管理や、スケジュール、配信リスト、アクセスリスト、ログレポート、ReportLibrary レポートの作成を行えます。

トピックス

- ☐ [ReportCaster とは](#)
 - ☐ [ReportCaster の概要](#)
 - ☐ [セルフサービスインストールでのスケジュールの作成](#)
 - ☐ [ReportCaster の処理](#)
 - ☐ [Distribution Server 機能](#)
-

ReportCaster とは

ReportCaster では、レポートの実行を特定の時間や間隔でスケジュールし、Email や FTP 経由で WebFOCUS リポジトリに配信することができます。ReportLibrary または WebFOCUS リポジトリに配信するレポートは、データベースに格納され、権限を所有するユーザのみがアクセスできます。レポートは、単一のアドレスに配信することや、配信リスト、配信ファイル、動的リストを使用して受信者グループに配信することができます。

レポート全体の配信および ReportCaster バースト機能によるレポートの分割配信が可能です。レポートをバーストすると、関連するレポートセクションのみが送信されます。

ReportCaster のツールのそれぞれへのアクセスは、WebFOCUS のセキュリティ処理により制御されます。管理者は、このセキュリティモデルを使用して、ReportCaster で次の操作を実行できるユーザを制御することができます。

- ☐ 配信リストの作成および保守。

- スケジュールの作成および保守。
- ReportLibrary レポートのアクセスリストの作成および保守。
- スケジュールステータスのトレース。
- スケジュールログ情報の表示および削除。
- ReportCaster 構成の管理。

ReportLibrary ReportLibrary では、ReportCaster により配信されたコンテンツを格納して管理することができます。これにより、コンテンツの検索や使用をより迅速に行えるようになります。

ReportCaster API Java テクノロジおよび Web サービスを使用する ReportCaster API があります。

ReportCaster の概要

権限を所有するユーザは、WebFOCUS ホームページから次の ReportCaster ツールにアクセスすることができます。WebFOCUS バージョン 9 では、Client セキュリティモデルにより、スケジュールツールへのアクセス許可が制御されます。ReportCaster ツールへのアクセスを制御する権限についての詳細は、『[ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド](#)』を参照してください。

- **スケジュールツール** ReportCaster のベーシックスケジュールツールおよびアドバンスドスケジュールツールは、レポートプロシジャ (FEX) の実行日時、出力フォーマット、出力の配信方法など、スケジュールのパラメータを定義します。ベーシックスケジュールツールについての詳細は、185 ページの「[スケジュールの作成](#)」を参照してください。
- **配信リスト** リポジトリに格納されるリストで、スケジュールのレポート出力が配信される際に、複数の受信者を指定することができます。詳細は、161 ページの「[配信リストの作成と保守](#)」を参照してください。
- **アクセスリスト** スケジュールの実行により ReportLibrary に配信されたレポート出力にアクセス可能なグループおよびユーザを定義したリストです。作成されたアクセスリストは、何度でも使用することができます。
- **ログレポート** ジョブが正常に実行されたかどうか、レポート出力がいつ配信されたか、レポートがどのフォーマットで送信されたか、どの配信方法で配信されたかなどの配信ジョブについての情報を表示することができます。ログレポートについての詳細は、343 ページの「[スケジュールのトラッキング](#)」を参照してください。

- ❑ **ReportCaster エクスプローラ** エクスプローラのインターフェースを使用して、ReportCaster の特定のタイプの項目を、すべて一度に表示して確認することができます。特定の項目タイプ (スケジュール、配信リスト、アクセスリスト、ReportLibrary レポート、ウォッチリストレポート) を選択すると、その項目タイプに特化した情報が表示されます。
 - ❑ **ReportCaster ステータス** このコンソールからは、ReportCaster 管理ツール (サーバステータス、ジョブステータス、構成、グローバル更新) および ReportCaster スケジュール管理ツール (ジョブログ、スケジュール禁止日、実行 ID) にアクセスします。
- リソースツリーには、現在の環境で使用可能なフォルダ、レポート、スケジュールがすべて表示されます。リソースツリーからコンテンツをスケジュールする場合、コンテンツの [プロパティ] ダイアログボックスに、スケジュールに関連するチェックボックスが 2 つ表示されます。
- ❑ **スケジュールのみ** 書き込みアクセス権限を所有していないユーザは、ReportCaster でのレポートのスケジュールのみを実行できます。
 - ❑ **スケジュールを ReportLibrary のみに制限する** レポートのスケジュール配信を ReportLibrary への配信のみに制限します。

詳細は、271 ページの「[レポート配信を ReportLibrary のみに制限](#)」を参照してください。

セルフサービスインストールでのスケジュールの作成

WebFOCUS バージョン 9 のセルフサービスインストールでは、ユーザが作成したスケジュール、配信リスト、アクセスリスト、ReportLibrary コンテンツは、WebFOCUS リポジトリに格納されます。WebFOCUS にログインすると、これらの項目がリソースツリーのフォルダ内に表示されます。リソースツリーの各フォルダは実フォルダで、コンテンツを格納するには、これらのフォルダを作成しておく必要があります。

作成済みのフォルダを右クリックすることで、アドバンスドスケジュールツールを起動することができます。このツールを起動するには、[新規作成] オプションを選択し、[スケジュール] をクリックします。スケジュールを起動するには、レポート起動ページの [スケジュール] ボタンをクリックする方法もあります。

次の手順の目的は、セルフサービスインストールでスケジュールを作成するために、従う必要のあるステップを定義することです。

手順

セルフサービスインストールでスケジュールを作成するには

1. フォルダおよびスケジュールの作成権限を所有するアカウントで WebFOCUS にログインします。詳細は、『[ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド](#)』を参照してください。

2. 次の手順に従って、フォルダを作成します。
 - a. ナビゲーションウィンドウのリソースツリーで、[ワークスペース] を右クリックします。
 - b. [新規作成]、[フォルダ] を順に選択します。
 - c. [タイトル] テキストボックスにタイトルを入力し、必要に応じて [概要] テキストボックスに概要を入力します。
3. フォルダを右クリックし、[新規作成]、[スケジュール] を順に選択します。

注意：コンテキストメニューに表示されるツールオプション、および作成可能なファイルタイプは、WebFOCUS Client ライセンスに応じて異なります。ReportCaster セルフサービスライセンスキーを所有している場合、コンテキストメニューから選択可能なレポート開発ツールは、テキストエディタです。この場合、.HTM ファイルタイプのみを作成できます。

注意：ユーザがレガシーライセンスを使用している場合、コンテキストメニューに表示されるツールオプション、および作成可能なファイルタイプは、WebFOCUS Client ライセンスに応じて異なります。Golden Key を使用している場合、コンテキストメニューのツールオプションおよび作成可能なファイルタイプのすべてを利用することができます。ReportCaster セルフサービスライセンスキーを所有している場合、コンテキストメニューから選択可能なレポート開発ツールは、テキストエディタです。この場合、.HTM ファイルタイプのみを作成できます。

アドバンストスケジュールツールが表示されます。

権限を所有するユーザは、フォルダからこのスケジュールツールを起動し、スケジュールを作成することができます。セキュリティについての詳細は、『[ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド](#)』を参照してください。

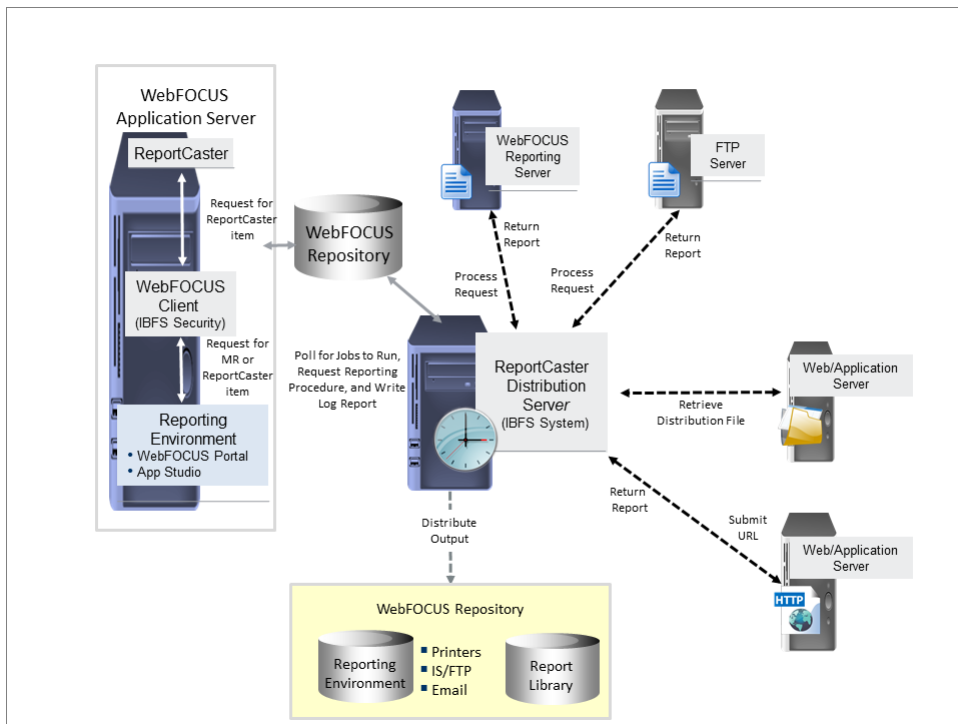
手順

App Studio で作成した HTML ページからスケジュールを保存するには

1. アドバンストスケジュールツールにアクセスするか、App Studio で作成した HTML ページからスケジュールツールを起動します。
2. スケジュールの条件を定義後、[保存して閉じる] をクリックし、スケジュールの保存先フォルダを選択します。フォルダが存在しない場合は、15 ページの「[セルフサービスインストールでのスケジュールの作成](#)」の手順 1 を参照してください。

ReportCaster の処理

下図は、ReportCaster が SQL リポジトリにアクセスしてジョブのスケジュールを作成し、これを実行して配信する際の処理および ReportCaster コンポーネントを示しています。



Distribution Server は、スケジュール済みジョブの実行および配信の処理を管理する Java アプリケーションです。Distribution Server は、ibmTM WebFOCUS[®] Reporting Server およびそのコンポーネント (Web サーバおよび Application Server 上に常駐) と同一のプラットフォームにインストールすることも、異なるプラットフォームへインストールすることもできます。

WebFOCUS Reporting Server は、スケジュールされたリクエストを処理し、データを検索した後、Distribution Server にレポートを返します。これにより、出力が配信されます。

ReportCaster では、複数の Reporting Server (ReportCaster 構成ツールで指定) と 1 つのリポジトリ (管理コンソールの [アプリケーションの設定] 下の [リポジトリ] ページで指定) がサポートされます。

ReportCaster スケジュールを作成する際、ReportCaster により設定されるスケジュールのプロパティの 1 つは、スケジュールの次回実行時間 (NEXTRUNTIME) です。Distribution Server は、NEXTRUNTIME 値が現在の時間よりも小さいスケジュールがあるかどうか、リポジトリ内を検索します。スケジュールジョブが実行されると、NEXTRUNTIME の値が更新され、スケジュールの次回実行時間に設定されます。

参照

ReportCaster によるスケジュール済みジョブの処理

次に、Distribution Server が実行するスケジュールを識別した後の手順について説明します。

1. Distribution Server は、スケジュール済みジョブを Distribution Server キュー上の別のスケジュールと比較して、優先順位を決定します。スケジュールを作成するときに、[優先度] パラメータに 1 から 5 までのいずれかの値を指定することができます。1 は優先度が最も高く、5 は優先度が最も低いことを示します。デフォルトの優先度の値は 3 です。
Distribution Server で実行待ちする際は、スケジュール済みジョブは、優先度および時間の順でソートされます。あるスケジュールサイクル中に 1 つ以上のジョブがキューに残る場合、次のスケジュールサイクルの開始時に、キューに受信される新しいジョブを含めてこれらのジョブの優先度が再設定されます。
2. Reporting Server へのセッション (スレッド) が利用可能な場合、Distribution Server は、スケジュール、パラメータ、アラート情報を WebFOCUS リポジトリから動的に取得します。ジョブディスパッチ可能な並列スレッド数は、ReportCaster 構成ツールで指定する [最大スレッド] パラメータにより制御されます。ReportCaster で構成された各 Reporting Server には、それぞれ独自のスレッドが割り当てられます。また、Reporting Server を使用しないジョブにスレッドを割り当てることもできます。スレッドの最大数は、これら個別のスレッド設定の合計になります。また、レポート (WebFOCUS Reporting Server プロシジャ、WebFOCUS レポート、マイレポート) は、セキュリティおよび WF Client 構成処理のためにパッケージ化されて IBFS システムに送信されます。スケジュール済みジョブは、IBFS システムから Reporting Server に送信されます。

3. 各スケジュール済みジョブの実行内容は、次のとおりです。

- ❑ **プロシジャ (WebFOCUS サーバプロシジャまたは WebFOCUS レポート)** 取得されたレポートは、Reporting Server への送信用にパッケージ化されます。ReportCaster は、WebFOCUS サーバプロシジャまたは WebFOCUS レポートのスケジュール済みジョブを送信する際に、Reporting Server に送信するためのコマンドを IBFS システムに送信します。次に Resource Analyzer がこれらのコマンドを取得して、レポートの配信に使用されたリソースのモニタに使用します。Resource Analyzer は、Reporting Server に送信されたリクエスト、およびレポートの作成に使用されたリソースのトラッキングとモニタに使用される機能です。Reporting Server は、プロシジャを実行してデータを取得し、レポートを作成した後、そのレポートを IBFS システムに送信します。送信されたレポートは、IBFS システムから Distribution Server に返されます。次に Distribution Server が配信情報を処理し、レポートを配信します。GRAPH リクエストの場合、データは Distribution Server に送信され、Distribution Server がグラフィメージを作成して配信します。

注意：WebFOCUS 管理コンソールのユニバーサルプロファイル設定を使用して、特定のコマンドがスケジュールジョブの前に実行されるよう指定することができます。

- ❑ **URL** Distribution Server は、Web サーバに URL を送信します。URL は Web サーバで実行され、コンテンツは Distribution Server に送信された後、ReportCaster Distribution Server により配信されます。
 - ❑ **ファイル** Distribution Server は、マッピングされたドライブにアクセスしてファイルを取得し、そのファイルを配信します。
 - ❑ **FTP** Distribution Server は、FTP サーバにアクセスしてレポート出力を取得し、その出力を配信します。
 - ❑ **WebFOCUS スケジュール** ユーザが選択したオプションに基づいて、Distribution Server が、呼び出し先のスケジュールを実行待ちジョブの前に即座に実行するか、呼び出し先のスケジュールを優先度に応じてキューに追加します。
4. Distribution Server は、スケジュール出力を Email、FTP または SFTP、WebFOCUS リポジトリフォルダ内のレポート、ReportLibrary のいずれかとして配信します。また、FAX プロバイダへの Email を使用して、スケジュール出力を FAX マシンに配信することもできます。

WebFOCUS サーバプロセスおよび WebFOCUS リポジトリフォルダ内のレポートでは、バーストレポート配信がサポートされており、特定の受信者にレポートの一部を送信することができます。表形式のバーストレポートを配信する場合、バースト値は、最初の BY フィールドで決定されます。グラフ形式のバーストレポートを配信する場合、バースト値は、2 番目の BY フィールドで決定されます。バースト値は、内部マトリックスにより自動的に決定されます。内部マトリックスは、各データベースフィールド値を保存したり、TABLE または GRAPH リクエストで参照される値を計算したりするメモリ領域です。

5. Distribution Server は、出力の配信後 (あるいは出力配信不可の場合)、ログ情報を処理し、WebFOCUS リポジトリ内のログテーブルにジョブ情報を書き込みます。

注意：従来はスケジュールの終了時にすべてのメッセージが一度に書き込まれていましたが、現在のバージョンではログ処理が変更され、メッセージが作成されるたびに WebFOCUS リポジトリに書き込まれます。ReportCaster ログ情報は、スケジュールの進行中にログテーブルに書き込まれます。これにより、スケジュールの進行中でもログレポートを実行して、スケジュールの進行状況を確認することができます。

ログレポートのエラー内容は赤色、警告はオレンジ色で表示されます。

6. 通知がリクエストされると、Distribution Server は、Email 通知を送信します。通知 Email を処理するメールサーバ名は、ReportCaster 構成ツールの [通知メールサーバ] 設定で指定します。この通知メールサーバを指定しない場合、Email スケジュールの配信に使用するデフォルトメールサーバが使用されます。このメールサーバは、ReportCaster 構成ツールの [メールサーバ] 設定で指定されています。

ログレポートまたは通知には、次の場合にエラー条件が発生します。

- ☐ FOC エラーメッセージが Distribution Server に返された場合。
- ☐ 配信するレポートがない場合。
- ☐ サービス (Email、FTP、SFTP、WebFOCUS レポート、リポジトリ、ReportLibrary) への通信時にエラーが発生した場合。

ヒント：通知および Email 配信には、異なるメールサーバを使用することをお勧めします。個別のメールサーバを使用することで、デフォルトのメールサーバに問題が生じた場合でも、通知を受信することが可能になります。

例 スケジュール済みジョブの実行

この例では、Distribution Server は、スケジュール済みジョブを検索するために、BOTSCHED テーブルを毎分ポーリングします。ただし、権限を所有するユーザは、ReportCaster 構成ツールの [読み込み間隔] 設定を使用して、Distribution Server のポーリング間隔を変更することができます。間隔には、1 から 999999 (分) までの値を指定することができます。

1. 9:01 AM にジョブをスケジュールし、開始日時にその日の 12:00 PM を、終了日時に翌日の 3:00 PM を指定したことを想定します。このジョブは、2 時間ごとに実行されるように指定されています。
2. Distribution Server は、9:02 AM に、NEXTRUNTIME 値が現在の時間である BOTSCHED テーブルのレコードをすべて読み取ります。この例のジョブは、開始時間が 12:00 PM であるため、実行の対象にはなりません。
3. その後、Distribution Server は、BOTSCHED テーブルを毎分ポーリングし、NEXTRUNTIME 値が現在の時間よりも小さいジョブを検索します。
4. Distribution Server は、この BOTSCHED テーブルを 12:00 PM に読み取ります。NEXTRUNTIME 値が現在の時間に等しいため、このジョブは実行の対象になります。ジョブが Distribution Server のキューに送信されます。Distribution Server は、NEXTRUNTIME 値を 2 時間後である 2:00 PM に更新します。
5. その後、Distribution Server は、BOTSCHED テーブルを毎分ポーリングし、NEXTRUNTIME 値が現在の時間よりも小さいジョブを検索します。
6. Distribution Server は、この BOTSCHED テーブルを 2:00 PM に読み取ります。NEXTRUNTIME 値が現在の時間に等しいため、このジョブは実行の対象になります。ジョブは Distribution Server のキューに送信されます。Distribution Server は、NEXTRUNTIME 値を 4 時間後である 4:00 PM に更新します。
7. この処理が繰り返し実行されます。ジョブは、翌日の 3:00 PM まで 2 時間ごとに実行されます。最後にジョブが実行キューに送信されるのは、翌日の 2:00 PM です。

注意：その他の考慮事項については、21 ページの「[タイムゾーンの考慮事項](#)」を参照してください。

タイムゾーンの考慮事項

ジョブスケジュールに表示される時間はすべて、割り当てられたタイムゾーンで定義されます。スケジュール内で定義されたタイムゾーンを使用することにより、Distribution Server は、Distribution Server の配置先のタイムゾーンに関わらず、適切なローカルタイムでスケジュール配信を実行することができます。

製品のインストール時に、WebFOCUS のインストール先サーバのオペレーティングシステムに割り当てられたタイムゾーンが ReportCaster 構成に追加されます。タイムゾーンは、デフォルト設定で、すべての新しいスケジュールに表示されます。ただし、スケジュール配信コンテンツの受信者がこのタイムゾーン外に位置している場合、適切な時間にスケジュール配信コンテンツが受信されるようスケジュール時間を調整する必要があります。この調整を行うためには、デフォルトタイムゾーンを、コンテンツ受信者のタイムゾーンで置換することをお勧めします。

タイムゾーンを選択するで、配信コンテンツの受信者にとって最も都合の良いローカルタイムに配信をスケジュールすることが簡単にできます。この場合、スケジュールの時間に割り当てる値に時差を考慮する必要がありません。たとえば、ニューヨークでデフォルトタイムゾーンの東部標準時間 (EST) で仕事をしている場合、ロンドン時間の午前 9:00 にコンテンツの配信を開始するには、タイムゾーンエントリから [(UTC+00:00) ダブリン、エジンバラ、リスボン、ロンドン] を選択し、[開始時間] を 9:00 AM に設定するだけです。この機能を使用しない場合、ニューヨークでのローカルタイムを計算し、[開始時間] にこの値 (4:00 AM) を使用する必要があります。

タイムゾーンは、UTC (協定世界時) からのオフセットとして識別されます。これらのオフセットは、ローカルタイムゾーンが経度 0 度のタイムゾーンより何時間進んでいるか、遅れているかを示します。タイムゾーンのエントリは、タイムゾーンの名前または各タイムゾーン内の都市でも識別することができます。たとえば、(UTC - 5:00) は、東部時間 (米国およびカナダ) のエントリとして識別されますが、この時間帯に入る南米の都市 (ボゴタ、リマ、キト) のエントリとしても識別されます。どちらのエントリも同一のオフセットを使用するため、時間値を変換する際は、両方のエントリで同一の時間数が使用されます。

ReportCaster は、Windows の設定に関わらず、夏時間を調整する Java テクノLOGYを使用します。夏時間を使用しない地域では、スケジュール済みジョブは正しい時間で実行されます。ただし、夏時間の間は、一部の内部ファイルにはタイムスタンプに 1 時間追加されます。これらのファイルには、以下があります。

- ☐ Distribution Server ログおよびトレースファイル
- ☐ ログレポート内のレポート時間情報
- ☐ Servlet トレースファイルなどの、Servlet エンジン上で実行されるプログラム

夏時間の考慮事項

ReportCaster によるスケジュール済みジョブに対する夏時間の影響を考慮する際、夏時間への移行が 1:59:59 AM に行われることを認識することが重要です。夏時間の開始時には 3:00 AM に、夏時間の終了時には 1:00 AM に、時間が変更されます。

時間が変更されても、スケジュール間隔は変更されないことに注意してください。これは、スケジュール済みジョブは、実際の時間ではなく、経過時間に基づいて実行されるためです。

下表は、ReportCaster がスケジュールしたジョブの夏時間に関連した動作について説明します。

間隔	説明	以下はその例です。
指定した時間に一度だけ (または毎日、毎週、毎月、毎年) 実行するよう設定されたスケジュール。	スケジュールは、夏時間に関わらず、指定された時間に実行されます。	9:15 AM に設定されたスケジュールは、9:15 AM に実行されます。
夏時間の開始後、標準時間で毎分または毎時間実行するよう設定されたスケジュール。	スケジュールは、1 時間繰り上がります。	2 時間ごと (12:00 AM、2:00 AM、4:00 AM) に実行されるスケジュールは、12:00 AM、3:00 AM、5:00 AM に実行されます。 3:00 AM は、1:59:59 に時間が 3:00 AM に変更されるためです。
夏時間の終了後、夏時間で毎分または毎時間実行するよう設定されたスケジュール。	スケジュールは、1 時間繰り下がります。	2 時間ごと (12:00 AM、2:00 AM、4:00 AM) に実行されるスケジュールは、12:00 AM、1:00 AM、3:00 AM に実行されます。 1:00 AM は、1:59:59 に時間が 1:00 AM に変更されるためです。

ReportCaster 一時ディレクトリの設定

ReportCaster 一時ディレクトリは、レポートのステージングエリアです。一時ディレクトリの場所を ReportCaster ツールで構成することはできません。ただし、デフォルト設定の一時ディレクトリがレポートのステージングに十分な領域を確保できない場合、コマンドを発行することで、別の場所を指定することができます。

手順

ReportCaster 一時ディレクトリを指定するには

以下の手順では、新しい一時ディレクトリの場所は、Windows では D ドライブ上に作成され、UNIX/Linux では新しいディレクトリになります。

1. 新しい一時ディレクトリとして使用するパスを新規に作成します。

Windows 上のパスの例

```
D:¥ReportCaster¥temp
```

UNIX または Linux 上のパス参照の例

```
path_to_newdir/ReportCaster/temp
```

このディレクトリを作成する DOS コマンド

```
D:  
mkdir ReportCaster¥temp
```

このディレクトリを作成する UNIX または Linux コマンド

```
cd path_to_newdir  
mkdir /ReportCaster/temp
```

2. 元の ReportCaster 一時ディレクトリを削除します。

Windows 上の元のデフォルトパス

```
C:¥ibi¥WebFOCUS82¥ReportCaster¥temp
```

UNIX または Linux 上の元のデフォルトパス

```
/home/user/ibi/WebFOCUS82/ReportCaster/temp
```

このディレクトリを削除する DOS コマンド

```
cd C: ¥ibi¥WebFOCUS82¥ReportCaster  
rmdir temp /s /q
```


このディレクトリを削除する UNIX または Linux コマンド

```
cd /home/user/ibi/WebFOCUS82/ReportCaster
rm -r temp
```

3. 元のディレクトリの代わりに使用する「temp」という名前の仮想ディレクトリを作成し、D ドライブ上の新しいディレクトリを指定します。

このリンクを作成する DOS コマンド

```
mklink /D C:¥ibi¥WebFOCUS82¥ReportCaster¥temp D:¥ReportCaster¥temp
```

このリンクを作成する UNIX または Linux コマンド

```
ln -s path_to_newdir/ReportCaster/temp /home/user/ibi/WebFOCUS82/ReportCaster/temp
```

これにより、必要な構成の変更が実行されます。

Distribution Server 機能

権限を所有するユーザは、次の Distribution Server のアクティビティおよび機能についての説明を参照してください。

- ❑ 25 ページの「[Distribution Server のスタートアップ](#)」
- ❑ 26 ページの「[リカバリ](#)」
- ❑ 28 ページの「[スキャンバック](#)」
- ❑ 29 ページの「[ReportCaster 構成ツール](#)」
- ❑ 29 ページの「[Distribution Server のフェールオーバーとワークロード分散](#)」

Distribution Server のスタートアップ

Distribution Server は、開始時に IBFS システムを呼び出して、WebFOCUS リポジトリとの通信方法に関する情報を取得します。WebFOCUS Client のインストール中に、既存の SQL データソースを指定するか、WebFOCUS により Apache Derby SQL をインストールして構成するかを選択することができます。リポジトリと通信できない場合、Distribution Server は開始されません。Distribution Server が開始されない場合は、Distribution Server スタートアップトレースファイルおよびログファイルに記録されたエラーメッセージを確認してください。

初期化に成功すると、Distribution Server は、[リカバリ] パラメータおよび [スキャンバック] パラメータに基づいて回復処理が必要なジョブを確認し、各スケジュールの NEXTRUNTIME に基づいて実行が必要なジョブを確認します。

ibi™ WebFOCUS Client とは異なるマシンにインストールされた Distribution Server の構成に関する重要な考慮事項

ReportCaster Distribution Server が WebFOCUS Client とは異なるマシンにスタンドアロンサーバとしてインストールされている場合、管理コンソールで変更された構成が ReportCaster にも反映されるよう追加の手順を手動で実行する必要があります。これは、スタンドアロン Distribution Server が、管理コンソールで更新される WebFOCUS 構成ファイルにアクセスできないためです。この手順の実行は、WebFOCUS に対して外部セキュリティを構成する場合に特に重要です。Distribution Server が WebFOCUS Client と同一のセキュリティ設定を使用していない場合に、ReportCaster ジョブが正しく実行されない可能性があるためです。

次の手順に従って WebFOCUS の構成に変更を加え、その変更を Web ブラウザでテストすることをお勧めします。すべての設定が正しいことを確認した後、その構成が ReportCaster にも反映されるよう次の手順を実行します。

1. `..\ibi\%WebFOCUS92%\config` ディレクトリの `webfocus.cfg` ファイルおよび `install.cfg` ファイルを、スタンドアロン Distribution Server マシンの `..\ibi\%WebFOCUS92%\config` ディレクトリにコピーします。
2. `..\ibi\%WebFOCUS92%\client\%wfc%\etc` ディレクトリの `odin.cfg` ファイルを、スタンドアロン Distribution Server マシンの `..\ibi\%WebFOCUS92%\client\%wfc%\etc` ディレクトリにコピーします。
3. `..\ibi\%WebFOCUS92%\client\%wfc%\etc` ディレクトリの `cgivars1.wfs` ファイルを、スタンドアロン Distribution Server マシンの `..\ibi\%WebFOCUS92%\client\%wfc%\etc` ディレクトリにコピーします。
4. Distribution Server を再起動し、スケジュール済みジョブの動作をテストします。

リカバリ

ReportCaster 構成ツールのリカバリパラメータの目的は、Distribution Server キューに送信されたが、スケジュールの実行処理が完了しなかったジョブの回復処理を行うことです。この状況は、Distribution Server または Reporting Server が停止されていた場合などに発生します。リカバリ機能を有効にするには、[ReportCaster Distribution Server の構成] インターフェースで [リカバリ] パラメータを [オン] に設定します。

スケジュールを作成し、[リカバリ] パラメータを [オン] に設定すると、BOTSCHED リポジットテーブルのスケジュールの [RECOVERY] の値は、[N] に設定されます。スケジュールが実行キューに送信されると、[RECOVERY] の値は [Y] に設定されます。つまり、ジョブがキュー内に存在する状態で Distribution Server が利用不可になった場合、ReportCaster は、ReportCaster 構成ツールの [リカバリ] パラメータが [オフ] に設定されている場合でも、Distribution Server が利用可能になった時点でジョブの回復処理を実行します。ジョブが実行され、すべてのレコードが書き込まれた後、[RECOVERY] の設定は [N] に戻されます。

[リカバリ] パラメータが [オン] に設定されているために実行するジョブはすべて、一度だけ実行されます。ジョブの実行キューへの送信後、その [次回実行時間] の値は、現在の時間の後に実行される時間に変更されます。たとえば、ジョブが毎時間実行されるようスケジュールされており、Distribution Server が 4 時間利用不可となる場合、Distribution Server が利用可能になると、ジョブは一度だけ実行され、その後毎時間実行されます。

注意

- ❑ スキャンバックオプションは、リカバリの設定とは無関係に動作します。スキャンバックオプションについての詳細は、28 ページの「[スキャンバック](#)」を参照してください。
- ❑ スケジュール済みジョブのみがリカバリできます。オンデマンドで送信されたジョブはリカバリできません。

参照

ジョブのリカバリ

スケジュール済みジョブのリカバリは、次の方法で実行されます。

1. Distribution Server は、起動時に ReportCaster の構成で [リカバリ] パラメータが [オン] に設定されていることを確認します。
2. [リカバリ] パラメータが [オン] に設定されている場合は、レコードのスケジュール情報や [次回実行時間] の値に関係なく、Distribution Server は [RECOVERY] の値が [Y] に設定されている BOTSCHED テーブルからレコードをすべて読み取り、それらのレコードを実行キューに送信します。
3. Distribution Server はポーリング処理を開始し、[RECOVERY] の値が [Y] に設定されているジョブをすべてキューに送信した後、実行するジョブを検索します。
4. スケジュール済みジョブが Distribution Server キューに送信された後、その [次回実行時間] の値は、現在の時間の後の次回実行時間に変更されます。

注意

- ❑ [リカバリ] パラメータが [オフ] に設定されている場合、Distribution Server は、BOTSCHED テーブル内の [RECOVERY] の値が [Y] に設定されているジョブすべてのこの値を [N] に変更します。これにより、すべてのジョブのリカバリは行われなくなります。

- ❑ [リカバリ] パラメータの設定が [オン] に戻されると、その時間より後の [次回実行時間] の値を持つジョブのみが有効になります。

スキャンバック

Distribution Server が、ある期間利用不可になることが考えられます。この間、スケジュール済みジョブは実行されません。デフォルト設定では、Distribution Server が再び利用可能になった際に、次回実行時間の値が現在の時間よりも前の時間に設定されているすべてのジョブの検索と実行が行われ、さらに、ジョブの次回実行時間に応じて、スケジュールが再設定されます。Distribution Server が長時間利用不可になる場合は、この動作を変更することをお勧めします。スキャンバックパラメータを使用して、特定の停止時間内に見つかったジョブのみを実行することや、実行されなかったジョブすべてを実行せずに、その次回実行時間を再設定することができます。

スキャンバックパラメータには、次の 2 つがあります。

- ❑ スキャンバックタイプ (オン、オフ、次回実行時間)
- ❑ スキャンバック間隔 (日数)

[スキャンバック間隔] は、[スキャンバックタイプ] が [オン] の場合にのみ有効になります。詳細は、49 ページの「[Distribution Server の設定](#)」を参照してください。

[スキャンバックタイプ] パラメータは、次のように設定することができます。

- ❑ **オン ([スキャンバック間隔] として 0 より大きい整数値を指定した場合)** Distribution Server が再開した時間から数えた 24 時間間隔の時間を表します。Distribution Server は、この時間を使用してスキャンバックを実行し、次回実行時間が現在の時間よりも前のジョブを検索して実行します。

たとえば、Distribution Server が 3 日間利用不可で、スキャンバックが 2 に設定されている場合、Distribution Server は、サーバが再開する 48 時間前までに見つかったジョブのみを実行します。

有効な値は、1 から 365 までの任意の整数です。デフォルト値は、15 日間です。
- ❑ **次回実行時間** 次回実行時間の値が現在の時間よりも前の時間に設定されているすべてのジョブを検索し、次回実行時間を次回スケジュールされているジョブの実行時間に再設定します。
- ❑ **オフ** スキャンバックを無効にします。Distribution Server は、デフォルトの動作を実行します。つまり、現在の時間よりも前の時間に設定されているすべてのジョブを検索して実行し、スケジュールの再設定を行います。

注意

- スキャンバックオプションはリカバリの設定とは無関係に動作します。リカバリオプションについての詳細は、26 ページの「[リカバリ](#)」を参照してください。

ReportCaster 構成ツール

ReportCaster 構成ツールは管理ツールの 1 つで、権限を所有するユーザはこのツールを使用して、ReportCaster の構成を定義するさまざまな設定を確認して変更することができます。たとえば、Distribution Server のポーリング間隔を変更することや、Reporting Server ごとの接続数を制御する最大スレッド数を定義することができます。これらの構成設定には、ReportCaster ステータスの [構成] タブからアクセスします。

ReportCaster の構成設定についての詳細は、43 ページの「[ReportCaster の構成](#)」を参照してください。

Distribution Server のフェールオーバーとワークロード分散

ReportCaster では、バックアップ Distribution Server を組み込んだり、複数の Distribution Server を構成してスケジュール済みジョブの実行を共有したりできます。

- Distribution Server のフェールオーバー機能を使用して、第 1 Distribution Server が (計画的または非計画的に) 中断した場合に、ReportCaster の処理を再開するバックアップ Distribution Server を構成することができます。同期サービスは、第 1 サーバを監視して、そのサーバが稼動していることを確認します。稼動中に中断が発生すると、フェールオーバーサーバが開始され、第 1 サーバのロールを引き継ぎます。フェールオーバーサーバの設定についての詳細は、使用するプラットフォームの『[ibi™ WebFOCUS® インストールガイド](#)』の「[ReportCaster インストール後の作業](#)」を参照してください。

ReportCaster ステータスには、第 1 サーバおよびフェールオーバーサーバのモードやステータスなどの情報が表示されます。ReportCaster ステータスで、Distribution Server を中断、開始、停止することができます。

注意： ReportCaster 構成ツールで [リカバリ] オプションを [オン] に設定すると、Distribution Server は処理途中のスケジュール済みジョブを回復します。

- ワークロードの分散機能により、複数の Distribution Server にわたるスケジュール済みジョブを ReportCaster で配信することができます。これにより、大量の ReportCaster スケジュールを短時間で効率的に処理することができます。

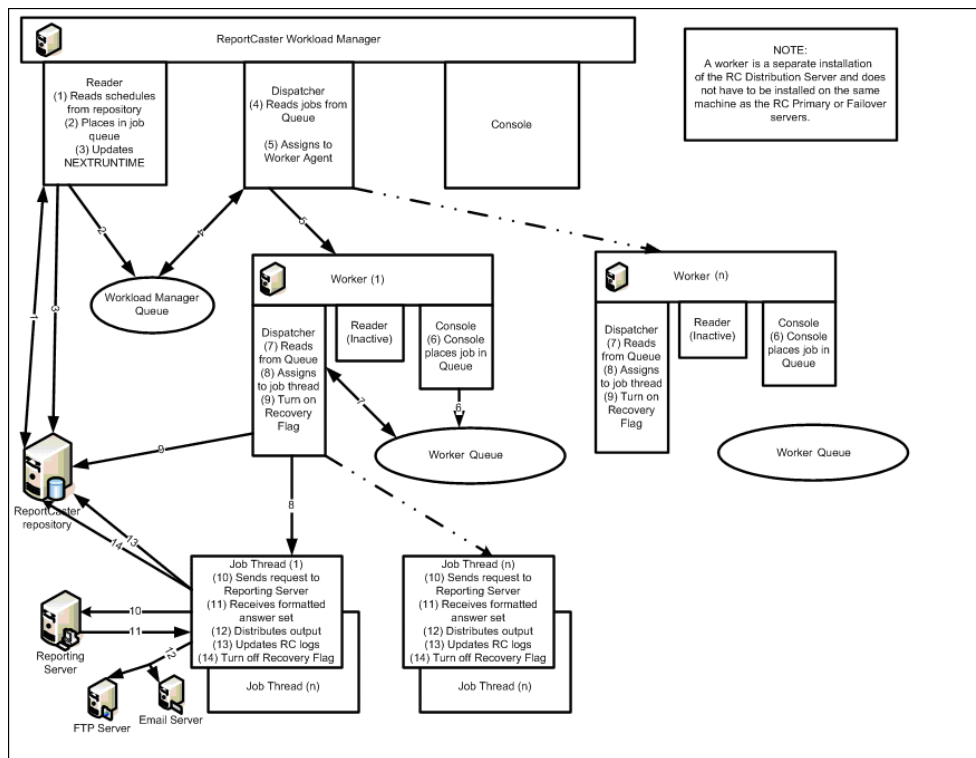
複数の Distribution Server インスタンスを 1 つまたは複数のホストにインストールすることができます。一方のインスタンスをワークロードマネージャとして指定し、それ以外をワーカとして指定することができます。WebFOCUS リポジトリは、ワークロードマネージャとワーカで共有されます。

注意: ワークロードの分散を構成するには、ReportCaster 構成ツールの [Distribution Server] フォルダ下の設定を使用します。すべてのサーバが構成情報一式を共有します。構成が変更された場合、ワークロードマネージャにより、すべての変更が、ワーカに適用されます。

ワークロードマネージャは、WebFOCUS リポジトリをポーリングして、実行するスケジュール済みジョブを取得し、これらのジョブをキューに配置します。さらに、個々のジョブを次に使用可能なワーカに送信します。

ワーカは、ワークロードマネージャから送信されたジョブをキューに配置し、ジョブを送信して実行します。ワーカは、実行されたジョブから出力結果を配信し、ReportCaster ログファイルを更新します。

下図は、ワークロードマネージャとワーカとの間で実行される処理および関係を示しています。



Distribution Server のフェールオーバーは、第 1 Distribution Server であるワークロードマネージャに適用することができますが、ワーカには適用できません。

ワークロードマネージャおよびワーカは、ReportCaster ステータスの [サーバステータス] ウィンドウでモニタして管理することができます。

2

ReportCaster ステータスの使用

ReportCaster ステータスからは、Distribution Server を管理するツール、およびスケジュールジョブログ、スケジュール禁止日、実行 ID を管理するツールにアクセスすることができます。

注意：このセクションでは、「ReportCaster ステータス」を「コンソール」と記載しています。

トピックス

- | | |
|--|--|
| ☐ ReportCaster ステータスの使用 | ☐ ReportCaster の構成 |
| ☐ サーバステータス | ☐ スケジュール禁止期間の使用 |
| ☐ サーバパフォーマンス | ☐ スケジュール禁止期間終了後のスケジュール実行日付の制御 |
| ☐ Java ヒープダンプ機能の使用 | ☐ 実行 ID |
| ☐ フェールオーバー Distribution Server のステータスとタスク | ☐ グローバル更新 |
| ☐ ジョブステータス | ☐ ジョブログの削除 |
| ☐ ジョブログ | ☐ スケジュールの削除 |
-

ReportCaster ステータスの使用

コンソールからは、次のツールにアクセスすることができます。

- ☐ [サーバステータス](#)
- ☐ [サーバパフォーマンス](#)
- ☐ [ジョブステータス](#)
- ☐ [ジョブログ](#)
- ☐ [構成](#)
- ☐ [スケジュール禁止期間](#)
- ☐ [実行 ID](#)
- ☐ [グローバル更新](#)

- ❑ ジョブログの削除
- ❑ ReportLibrary の削除
- ❑ ウォッチリストの登録解除
- ❑ リフレッシュ

各ツールへのアクセスは、WebFOCUS Client のセキュリティ認可モデルにより制御されます。ReportCaster ツールへのアクセスを制御する権限についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

ReportCaster ステータス には、次の場所からアクセスすることができます。

- ❑ WebFOCUS Hub で [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
- ❑ WebFOCUS ホームページで、[ユーティリティ]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。
- ❑ 管理コンソールで [ReportCaster] タブを選択します。

ReportCaster コンソールが開き、デフォルト設定では [サーバステータス] タブが表示されます。

コンソールの直観的なリボンが、新しいブラウザウィンドウに表示されます。リボンには、ユーザにアクセスが許可されたツールのボタンが表示されます。

サーバステータス

管理者は、サーバステータスツールを使用して、選択した Distribution Server を再起動、中断、停止することができます。また、このツールを使用して、複数のサーバの切り替え、トレースの表示、データのリフレッシュを行うこともできます。

Distribution Server ステータスの表示

サーバステータスツールにアクセスするには、コンソールの [サーバステータス] タブを選択します。このツールでは、Distribution Server のステータスを確認することができます。

ReportCaster でフェールオーバー Distribution Server またはワークロード Distribution Server を構成した場合、すべてのサーバのステータスが表示され、第 1 サーバとフェールオーバーサーバのロールの切り替えなど、基本的なフェールオーバータスクを実行することができます。また、サーバステータスツールには、ホスト名、ポート番号、ステータス、実行中および実行待ちのジョブ数など、Distribution Server の詳細が表示されます。Distribution Server 情報には、次のものがあります。

- ❑ **Distribution Server** コンソールで、サーバの識別に使用する名前です。「第 1」は、ReportCaster 構成ツールで [第 1 Distribution Server] として設定されたサーバを表します。「フェールオーバー」は、ReportCaster 構成ツールで [第 2 Distribution Server] として設定されたサーバを表します。Distribution Server 設定、フェールオーバーの構成、ワークロード分散の構成についての詳細は、40 ページの「[フェールオーバー Distribution Server のステータスとタスク](#)」を参照してください。

注意：Distribution Server がメールサーバとの SMTP 接続を試行する場合、メールサーバとの接続は、5 分後にタイムアウトします。

- ❑ **ホスト、ポート** Distribution Server のインストール先のホスト名とポート番号です。

- **モード** Distribution Server の状態および機能です。次のオプションがあります。

マネージャ マネージャとして動作する Distribution Server は、オンデマンドジョブのリクエストをモニタするとともに、スケジュールジョブのリポジトリをポーリングします。マネージャは、スケジュールジョブおよびオンデマンドジョブを、ワーカとして動作する Distribution Server に送信します。マネージャがジョブを実行することはありません。マネージャは、ワーカ上で実行中のジョブをモニタし、Client および ReportCaster API との間でジョブのステータス情報を通信します。

ワーカ ワーカとして動作する Distribution Server は、マネージャからジョブを受信して実行します。ワーカは、Client と通信してリポジトリに格納されているプロシジャを取得し、Reporting Server と通信してスケジュールジョブプロシジャを実行します。また、ワーカは、HTTP リクエストを送信したり、ファイルシステムや FTP サーバと通信して配信用のファイルを取得したりします。ワーカは、Reporting Server から返された結果 (HTTP リクエストまたはファイルリクエスト) を、スケジュールで指定された方法 (Email、FTP、リポジトリ、ReportLibrary) で配信します。また、ワーカは、ジョブ情報が記録された ReportCaster ログを更新したり、スケジュールの次回実行時間を更新したりします。

- **フルファンクション** Distribution Server が実行中で、機能していることを示します。ReportCaster で第 2 Distribution Server が構成されている場合、このモードは、そのサーバが第 1 Distribution Server として機能していることを示します。
- **フェールオーバー** ReportCaster でフェールオーバー Distribution Server を構成した場合は、このサーバがフェールオーバー Distribution Server として機能していることを示します。詳細は、40 ページの「[フェールオーバー Distribution Server のステータスとタスク](#)」を参照してください。
- **停止中** Distribution Server が停止していることを示します。
- **実行中** 現在実行中のスケジュール済みジョブおよびオンデマンドジョブの数です。
- **待機中** ジョブキュー内のスケジュール済みジョブおよびオンデマンドジョブの数です。
- **サービス** Distribution Server で現在実行中のサービスです。次のオプションがあります。
 - **キャッシュクリーナ** Distribution Server は、このサービスを使用して、IBFS キャッシュのリフレッシュを実行します。キャッシュのリフレッシュを実行する頻度は、管理コンソールの IBI_Repository_Sync_Interval 設定で制御します。
 - **コンソール** Distribution Server は、このサービスを使用して、ReportCaster アプリケーションまたは API からの情報を受信します。

- ❑ **ディスパッチャ** Distribution Server は、このサービスを使用して、スケジュール済みジョブを実行します。

注意: サーバ構成によっては、[サーバステータス] ウィンドウに 1 つまたは複数の追加ディスパッチャが表示される場合があります。
 - ❑ **フェールオーバーモニタ/同期** 第 2 Distribution Server は、このサービスを使用して、第 1 サーバへの切り替えが必要かどうかを確認します。第 1 Distribution Server および第 2 Distribution Server は、このフェールオーバー/同期サービスを使用して、それぞれのステータスをモニタします。
 - ❑ **リーダー** Distribution Server は、このサービスを使用して、リポジトリのポーリングを実行します。
 - ❑ **ステータス** Distribution Server で現在実行中のサービスのステータスです。次のオプションがあります。
 - ❑ **準備完了** サービスが利用可能であることを示します。
 - ❑ **スタンバイ中** サービスがスタンバイ中であることを示します。
 - ❑ **中断** サービスが中断していることを示します。
 - ❑ **リスナモード** コンソールサービスがリスナモードになっていることを示します。
 - ❑ **ポーリング** リーダサービスが有効になっていることを示します。
 - ❑ **モニタ中** リポジトリモニタが有効になっていることを示します。
 - ❑ **待機中** 実行キューに送信されたジョブが Reporting Server 接続を待機している際に表示されます。この待機状態は、複数タスクのスケジュールが開始され、1 つ目のタスクで Reporting Server に接続できるが、2 つ目のタスクで Reporting Server 接続が可能になっていない場合に発生します。
- [サーバステータス] インターフェースでは、次のタスクを実行することができます。
- ❑ **リフレッシュ** 最新情報を取得し、それに基づいて Distribution Server ステータスを更新します。
 - ❑ **切り替え** このオプションは、フェールオーバー Distribution Server が構成されている場合にのみ利用可能です。現在のサーバロールを変更し、第 1 サーバをフェールオーバーサーバに、フェールオーバーサーバを第 1 サーバにします。
 - ❑ **再起動** Distribution Server と Application Server を再起動します。

❑ **中断** フェールオーバー Distribution Server が構成されているかどうかに関係なく、このオプションは常に利用可能になっています。Distribution Server サービスは中断されますが、サーバが停止することはありません。サーバを中断すると、[中断] ボタンは [再開] に変わります。

❑ **停止** Distribution Server を完全に停止します。

注意：このオプションを使用して Distribution Server を停止した場合、Distribution Server がインストールされているマシンで Distribution Server を再起動する必要があります。Distribution Server をリモートで再起動することはできません。

❑ **トレースの表示** scheduler.log、main.trc、reader.trc、console.trc、dispatcher.trc ファイルのトレース情報を表示することができます。また、Distribution Server トレースのオンとオフを切り替えることもできます。詳細は、38 ページの「[Distribution Server トレースのオンとオフを切り替えるには](#)」を参照してください。

注意：この機能を使用すると、Distribution Server トレースが、ジョブトレースとは別にトラッキングされます。Distribution Server トレースを確認するためにジョブトレースをオンにする必要はありません。

❑ **ヘルプ** サーバステータスのオンラインヘルプを開きます。

手順

Distribution Server トレースのオンとオフを切り替えるには

1. ReportCaster ステータスで、[サーバステータス] をクリックします。
2. Distribution Server のリストからサーバを選択します。
3. リボンの [サーバログ] ボタンの下向き矢印をクリックします。
4. [サーバトレースオン] を選択して、Distribution Server トレースを有効にします。

Distribution Server トレースを無効にするには、上記の手順 1 から 3 を実行し、[サーバトレースオフ] を選択します。

データサーバ別のジョブキュー

Distribution Server では、Reporting Server ごとに個別のジョブキューが使用され、Reporting Server を必要としないタスクにも別のキューが使用されます。そのため、Reporting Server ごとに少なくとも 1 つのジョブスレッドが常に存在するほか、サーバに関連しないジョブにも少なくとも 1 つのスレッドが存在します。利用可能なすべてのジョブスレッドを、特定の Reporting Server に関連するジョブに限定して使用することはできません。

注意：この機能は、バージョン 8.0 SP02 以降で 사용할 ことができます。

各 Reporting Server に割り当てられたジョブスレッド数は、それぞれの Reporting Server で利用可能な接続の合計数に等しくなります。[最大スレッド] 設定には、各 Reporting Server のスレッド合計数に、残りのタスクに割り当てられたスレッド数を加えた数になります。

サーバパフォーマンス

[サーバパフォーマンス] タブには、選択した Distribution Server の 1 時間メモリ使用履歴、1 時間アクティブジョブ、1 時間 CPU 使用履歴のそれぞれがグラフとして表示されます。また、アクティブジョブの 1 日履歴も表示されます。

下図は、[サーバパフォーマンス] タブの例を示しています。



Java ヒープダンプ機能の使用

ヒープダンプ機能を使用して、ReportCaster ステータスから直接 Java ヒープダンプファイルを生成することができます。これにより、特定タイプのソフトウェアの問題に関するトラブルシューティング処理が簡素化されます。

[サーバパフォーマンス] ボタンをクリックすると、[ヒープダンプ] ボタンが表示されます。[ヒープダンプ] ボタンのドロップダウンリストからは、新規ヒープダンプファイルの作成または過去のすべてのヒープダンプファイルの削除のオプションが選択できます。

ヒープダンプファイルを作成すると、ログファイルが作成され、ヒープダンプファイルがユーザの WebFOCUS ソフトウェアのディレクトリに保存されたことが示されます。このログファイルを開くには、ReportCaster ステータスリボンの [ジョブログ] ボタンをクリックします。[ジョブログ] ウィンドウで、[system] フォルダをクリックすると、[Java Heap Dump] ログフォルダが表示されます。

フェールオーバー Distribution Server のステータスとタスク

ReportCaster でフェールオーバー Distribution Server を構成した場合、[サーバステータス] ウィンドウには、第 1 Distribution Server と第 2 Distribution Server の両方のステータスが表示されます。

第 1 Distribution Server は、フルファンクションモードで実行されています。コンソールサービスは ReportCaster からの情報の受信を待機し、リーダサービスはリポジトリをポーリングしています。また、デイスパッチャサービスは ReportCaster ジョブの実行待ち状態にあります。第 2 Distribution Server は、フェールオーバーモードで実行され、第 1 Distribution Server をモニタしています。フェールオーバーサービスは、第 1 サーバがアクティブ状態を継続しているかをモニタし、アクティブでない場合は、フェールオーバーサーバに第 1 サーバの役割を引き継ぐよう指示します。フェールオーバー Distribution Server が構成されている場合、第 1 Distribution Server を選択すると、[中断] オプションが選択可能になります。このオプションを選択すると、第 1 サーバのサービスが待機状態になります。

[サーバステータス] インターフェイスで実行可能なフェールオーバータスクおよび各タスクの手順は次のとおりです。

- ☐ フルファンクションまたはフェールオーバー Distribution Server を再起動する。
- ☐ フルファンクション Distribution Server を中断する。
- ☐ フルファンクションまたはフェールオーバー Distribution Server を停止する。
- ☐ フェールオーバー Distribution Server をスタンバイモードにする。
- ☐ サーバロールを切り替えて、フェールオーバー Distribution Server をフルファンクション Distribution Server (またはその逆) にする。詳細は、41 ページの「[サーバロールを切り替えるには](#)」を参照してください。

手順

サーバを再起動するには

1. 実行中のサーバを選択します。
2. ツールバーの [サーバの管理] グループの [再起動] をクリックして、サーバを再起動します。

サーバの再起動を確認するウィンドウが開きます。

3. [はい] をクリックします。

手順

サーバを中断するには

1. フルファンクションモードのサーバを選択します。
2. ツールバーの [サーバの管理] グループで [中断] をクリックします。

サーバの中断を確認するウィンドウが開きます。

3. [はい] をクリックします。

手順

フェールオーバーサーバをスタンバイモードに設定するには

注意: この手順を実行するには、複数のサーバが構成され、いずれかのサーバがフェールオーバーモードである必要があります。

1. フェールオーバーモードのサーバを選択します。
2. ツールバーの [サーバの管理] グループで [スタンバイ] をクリックします。

フェールオーバーサーバをスタンバイモードに設定することを確認するウィンドウが開きます。

3. [はい] をクリックします。

手順

サーバを停止するには

1. 実行中のサーバを選択し、[停止] をクリックします。

サーバの停止を確認するウィンドウが開きます。

2. [はい] をクリックします。

手順

サーバロールを切り替えるには

1. フルファンクションモードのサーバを選択します。
2. ツールバーの [中断] をクリックします。

サーバの中断を確認するウィンドウが開きます。

3. [はい] をクリックします。
4. ツールバーの [サーバの管理] グループで [切り替え] をクリックします。

サーバロールの切り替えを確認するウィンドウが開きます。

5. [はい] をクリックします。
6. [リフレッシュ] をクリックして、サーバステータスを更新します。

注意：切り替えが完了するまで 1 分程度を要する場合があります。

ジョブステータス

スケジュールのトラッキングを行うには、ジョブのステータスを確認する方法もあります。スケジュールステータスは、Distribution Server で実行待ち中の、スケジュール済みジョブリストを提供します。ステータス情報には、スケジュール ID、スケジュールの開始時間、ジョブのステータスなどがあります。

スケジュール情報には、次のものがあります。

- ❑ **ジョブ ID** ジョブに割り当てられた ID です。
- ❑ **スケジュール ID** ジョブをスケジュールする際に、ReportCaster が生成してジョブに割り当てる一意のキーです。
- ❑ **説明** スケジュールを作成する際に入力された説明です。
- ❑ **優先度** スケジュールの優先度です。1 は優先度が最も高く、5 は優先度が最も低いことを示します。
- ❑ **開始時間** スケジュールの実行が開始された時間です。
- ❑ **オーナー** スケジュールのオーナーのユーザ名です。
- ❑ **ステータス** スケジュール済みジョブの名前です。次のいずれかの値が格納されます。
 - ❑ **実行中** スケジュール済みジョブは、現在実行中です。
 - ❑ **待機中** スケジュール済みジョブは、リクエストを実行するためのスレッドを待機中です。
- ❑ **サーバ名** ジョブの送信先 Reporting Server です。
- ❑ **ディスパッチャ名** ジョブを送信した Distribution Server のディスパッチャです。
- ❑ **フルパス** WebFOCUS リポジトリ内のスケジュールのフルパスです。

ジョブログ

[ジョブログ] タブでは、ユーザ自身が実行したジョブのログを表示したり、権限を所有している場合は他のユーザが実行したジョブのログを表示したりできます。[ジョブログ] タブでは、ログおよびトレース情報を表示する以外に、トレースファイルのダウンロード、ジョブログを開く、ジョブログの削除、ジョブログのリフレッシュ、ジョブログに関連するヘルプの表示も行えます。また、日単位やオンデマンドで実行されたログ削除ジョブ、スケジュール削除ジョブおよび ReportLibrary 有効期限ジョブに関するログおよびトレース情報を表示することもできます。ログ削除ジョブ、スケジュール削除ジョブおよび ReportLibrary 有効期限ジョブに関するログには、[system] フォルダからアクセスすることができます。その他のジョブのログには、各ジョブが属するユーザのフォルダからアクセスすることができます。

注意: [ジョブログ] タブでは複数選択機能がサポートされるため、複数のファイルを同時に開いたり、削除したりできます。

ジョブログ情報には、次のものがあります。

- **ジョブ ID** ジョブに割り当てられた ID です。
- **開始時間** スケジュールが実行された時間です。
- **継続期間 (秒)** ジョブを完了するまでの所要時間です。
- **ジョブステータス** ジョブの処理が完了した際のステータスです。
 - **成功** スケジュール済みジョブの処理中に、エラーは発生しませんでした。
 - **エラー** スケジュール済みジョブの処理中に、1 件以上のエラーが発生しました。レポートの生成や配信は行われませんでした。
 - **警告** スケジュール済みジョブの処理中に、1 件以上の警告が発生しました。レポートは生成され、配信されました。

ReportCaster ジョブのトレースファイルのダウンロードについての詳細は、406 ページの「[ReportCaster ジョブトレースファイルをダウンロードするには](#)」を参照してください。

ReportCaster の構成

管理者は、構成ツールを使用して、Distribution Server、Servlet (WebFOCUS Web アプリケーション) に展開) インターフェースおよびツールの表示と管理を行えます。管理者が変更可能なオプションには、[Distribution Server]、[設定 - 全般]、[Email 配信]、[通知] などがあります。

注意：構成設定を変更した場合は、このイベントが管理コンソールの監査ログファイルに記録されます。構成イベントは、デフォルト設定で記録されます。詳細は、『[ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド](#)』を参照してください。

構成タブのアイコン

管理者は、ReportCaster ステータスリボンの [構成] タブに表示される一連のアイコンを使用して、次のタスクを実行することができます。

注意：ReportCaster ステータスリボンの [構成] をクリックすると、リボンの左端に [構成の管理] グループが表示されます。[サーバステータス]、[サーバパフォーマンス]、[ジョブステータス]、[ジョブログ]、[スケジュール禁止期間]、[実行 ID] オプションのいずれかをクリックすると、選択したオプションに応じて、このグループの名前および機能が変わります。これらのオプションはすべて、リボンの [表示] グループに表示されます。

□ 構成の管理グループ

- **保存** 構成設定に加えた変更を保存します。この場合、保存を確認するメッセージが表示されます。構成設定に加えた変更を有効にするには、変更を保存する必要があります。詳細は、48 ページの「[構成設定の変更](#)」を参照してください。
- **新規作成** 新しい Reporting Server 接続を作成します。このオプションは、[データサーバ] フォルダで作業中にのみ有効になります。
- **削除** ReportCaster の構成から Reporting Server を削除します。この場合、削除を確認するメッセージが表示されます。このオプションは、[データサーバ] フォルダで作業中にのみ有効になります。
- **テスト** 選択したサーバまたはリポジトリとの接続をテストします。このオプションは、[データサーバ] フォルダまたは [LDAP の設定] フォルダで作業している場合にのみアクティブになります。指定したサーバに接続する際、ユーザ ID とパスワードの入力が要求される場合があります。その後、テストの結果を示すメッセージが表示されます。
- **再起動** Distribution Server および ReportCaster を再起動し、Distribution Server の構成に加えた変更を有効にします。詳細は、48 ページの「[構成設定の変更](#)」を参照してください。
- **構成ファイル** ReportCaster 構成ファイルを表示およびダウンロードするオプションが選択できます。矢印をクリックして、次のファイルにアクセスします。
 - **dserver.xml** 現在の ReportCaster 構成設定のレコードが格納されています。

- ❑ **sendmodes.xml** MIME 出力ファイルフォーマットに関する情報が格納されています。
- ❑ **rc_preference.xml** ユーザインターフェースの各種オプションの表示に関する情報が格納されています。

上記のファイルオプションのいずれかを選択すると、ブラウザウィンドウにファイル情報が表示されます。[構成ファイルのダウンロード]を選択して、すべてのファイルを単一の ZIP ファイルとしてダウンロードすることもできます。

❑ ツールグループ

- ❑ **グローバル更新** 権限を所有するユーザは、スケジュールおよび配信リストに格納される値をグローバルに更新することができます。[グローバル更新] インターフェースで更新可能な設定には、次のものがあります。

- ❑ メールサーバ
- ❑ FTP サーバ
- ❑ Email アドレス
- ❑ Email 送信者
- ❑ ReportLibrary URL
- ❑ データサーバ
- ❑ 通知タイプ
- ❑ 通知返信 Email アドレス
- ❑ 通知件名
- ❑ 通知簡易メッセージの宛先
- ❑ 通知詳細メッセージの宛先
- ❑ 第 1 実行前プロシジャ
- ❑ 第 2 実行前プロシジャ
- ❑ 第 1 実行後プロシジャ
- ❑ 第 2 実行後プロシジャ

詳細は、152 ページの「[グローバル更新](#)」を参照してください。

- ❑ **ジョブログの削除** ログをオンデマンドで削除することができます。また、削除する過去のジョブログの日数を指定することもできます。たとえば、前月のジョブログを削除するには、デフォルト値の 30 日を使用します。さらに、トレースオプションとして [デフォルトトレース]、[トレースなし]、[トレースオン] のいずれかを指定することもできます。詳細は、157 ページの「[ジョブログをオンデマンドで削除するには](#)」を参照してください。
- ❑ **ReportLibrary の削除** 期限切れの ReportLibrary レポートをオンデマンドで削除することができます。デフォルト設定の [期限切れ ReportLibrary レポートの削除] オプションを選択することも、[削除する過去の ReportLibrary レポート (期間)] オプションを選択し、指定した日付より前のレポートをすべて削除することもできます。ドロップダウンリストのカレンダーから日付を選択するか、特定の日付を直接入力します。さらに、トレースオプションとして [デフォルトトレース]、[トレースなし]、[トレースオン] のいずれかを指定することもできます。詳細は、46 ページの「[期限切れ ReportLibrary レポートを削除するには](#)」を参照してください。
- ❑ **スケジュールの削除** すべての非アクティブスケジュールまたは再実行なしのスケジュールを、オンデマンドで削除することができます。さらに、トレースオプションとして [デフォルトトレース]、[トレースなし]、[トレースオン] のいずれかを指定することもできます。詳細は、157 ページの「[スケジュールの削除](#)」を参照してください。
- ❑ **ウォッチリストの登録解除** 権限を所有するユーザは、ReportLibrary ウォッチリストに登録されている任意のユーザの通知をキャンセルすることができます。
- ❑ **アクショングループ**
 - ❑ **リフレッシュ** 最後に保存した構成設定を反映する設定です。
 - ❑ **ヘルプ** オンラインヘルプファイルを表示します。このオプションは、ReportCaster 構成ツールに ReportCaster Web アプリケーションからアクセスした場合にのみ使用することができます。ただし、このインターフェースに Windows の [プログラム] メニューからアクセスした場合や、WebFOCUS インストールディレクトリ下の bin ディレクトリの editit.bat または editit UNIX スクリプトファイルを実行してアクセスした場合は、このオプションを利用することはできません。

手順

期限切れ ReportLibrary レポートを削除するには

1. ReportCaster ステータスの [ツール] グループで、[ReportLibrary の削除] をクリックします。

[ReportLibrary レポートの削除] ダイアログボックスが表示されます。

2. デフォルト値の [期限切れ ReportLibrary レポートの削除] を受容するか、[削除する過去の ReportLibrary レポート] を選択し、ドロップダウンリストのカレンダーコントロールを使用して日付を指定します。
3. [トレースオプション] 下でデフォルト値の [デフォルトトレース] を受容するか、[トレースなし] または [トレースオン] を選択します。
4. [OK] をクリックします。

構成タブのフォルダ

[構成] タブでは、次のフォルダからさまざまな構成設定にアクセスすることができます。

- ❑ **Distribution Server** Distribution Server を定義、構成します。また、このフォルダには、バックアップとして機能するフェールオーバー Distribution Server の定義や、ワークロードを共有する複数の Distribution Server を構成するための設定も用意されています。このフォルダ下には [その他の設定] フォルダもあります。これらの設定についての詳細は、49 ページの「[Distribution Server の設定](#)」を参照してください。
- ❑ **設定 - 全般** ユーザがスケジュールを作成する際に使用可能にする、配信フォーマット、配信方法を指定します。このフォルダでは、スケジュール禁止期間を設定することもできます。これらの設定についての詳細は、63 ページの「[設定 - 全般](#)」を参照してください。
- ❑ **Email 配信** デフォルトメールホスト、メールホストへの配信試行回数、セキュリティ情報など、Email 設定を構成します。これらの設定についての詳細は、68 ページの「[Email 配信](#)」を参照してください。
- ❑ **通知** 通知メールホスト、デフォルト通知タイプなど、通知設定を構成します。これらの設定についての詳細は、82 ページの「[通知](#)」を参照してください。
- ❑ **FTP の設定** デフォルトの FTP ホスト、ユーザ ID、セキュリティプラグインを指定します。また、サーバにセキュア SFTP 接続が必要かどうかを指定したり、認証方法を指定したりできます。これらの設定についての詳細は、99 ページの「[FTP 設定を構成するには](#)」を参照してください。
- ❑ **圧縮 (ZIP) の設定** 圧縮 (ZIP) ファイルの作成および命名方法を構成するための設定があります。これらの設定についての詳細は、102 ページの「[圧縮 \(ZIP\) の設定](#)」を参照してください。
- ❑ **デフォルトスケジュール** ReportCaster スケジュールのデフォルト終了日時を定義します。これらの設定についての詳細は、108 ページの「[デフォルトスケジュール](#)」を参照してください。

- ❑ **ログ削除と ReportLibrary 有効期限** ログファイルを自動的に削除する時間と期限を指定します。詳細は、108 ページの「[ログ削除と ReportLibrary 有効期限](#)」を参照してください。
- ❑ **LDAP の設定** ReportCaster セルフサービスユーザの認証および認可を、WebFOCUS リポジトリに対してではなく、LDAP データソースに対して実行されるよう構成します。また、LDAP データソースから Email アドレス情報を取得するよう ReportCaster を構成することもできます。これらの設定についての詳細は、110 ページの「[LDAP の設定](#)」を参照してください。
- ❑ **データサーバ** 複数の Reporting Server (クラスタサーバを含む) を構成します。これらの設定についての詳細は、112 ページの「[データサーバの設定](#)」を参照してください。
- ❑ **ReportLibrary** ReportLibrary の設定を指定します。たとえば、ReportLibrary コンテンツアクセスのデフォルト URL や、ReportLibrary に格納されたファイルの圧縮の有無を設定します。このフォルダ下には、[その他の ReportLibrary 設定] および [ウォッチリストの設定] フォルダもあります。これらの設定についての詳細は、118 ページの「[ReportLibrary の設定](#)」を参照してください。

構成設定の変更

ReportCaster Distribution Server の構成設定への変更を有効にするには、変更を保存してから、Distribution Server および ReportCaster Web アプリケーションを再起動する必要があります。構成に加えた変更を保存するには、次の手順を実行します。

1. [構成] フォルダ下でいずれかの構成設定を変更した後、[構成] タブの [構成の管理] グループで [保存] アイコンをクリックします。
保存を確認するウィンドウが開きます。
2. [OK] をクリックします。
確認メッセージのウィンドウが表示されます。保存した変更を有効にするには、Distribution Server および ReportCaster Web アプリケーションを再起動する必要があります。
3. [OK] をクリックします。
4. [構成の管理] グループの [再起動] アイコンをクリックします。
実行中のジョブをすべて停止して再起動することを確認するウィンドウが開きます。
5. [はい] をクリックします。

注意：フェールオーバーまたはワークロード Distribution Server が構成されている場合、すべての Distribution Server が開始されます。

6. 現在ログイン中のすべてのユーザに対して、現在のセッションを再起動して新しい構成情報を有効にするよう通知します。ユーザセッションには ReportCaster 構成に関連する情報がキャッシュされるため、ユーザインターフェースを再起動して、更新された構成情報を取得する必要があります。

デフォルトユーザ ID の変更

[構成] タブのフォルダには、デフォルトユーザ ID およびパスワードを変更するオプションが用意されているものがあります。デフォルトユーザ ID の設定を変更するには、設定フィールド

右側の  アイコンをクリックします。これにより、[ユーザ] ダイアログボックスが開いて、新しいユーザ ID およびパスワードを入力することができます。変更の完了後、[OK] をクリックして [ユーザ] ダイアログボックスに戻ります。変更を有効にするには、変更を保存してから Distribution Server を再起動する必要があります。

Distribution Server の設定

[Distribution Server] フォルダには、Distribution Server を定義、構成する設定があります。また、バックアップとして機能する第 2 フェールオーバー Distribution Server を定義することや、ワークロードを共有する複数の Distribution Server を構成することもできます。リボンの [サーバステータス] オプションを使用して、Distribution Server の再起動、配信の中断と停止、サーバの切り替え、データのリフレッシュを実行することができます。詳細は、34 ページの「[サーバステータス](#)」および 59 ページの「[ReportCaster フェールオーバーおよびワークロード分散の構成](#)」を参照してください。

[Distribution Server] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

設定	オプションまたは必須/ デフォルト値	説明と有効値
第 1 Distribution Server セクション		
ホスト	必須	第 1 Distribution Server のホスト名です。
ポート	必須	第 1 Distribution Server のポート番号です。

設定	オプションまたは必須/ デフォルト値	説明と有効値
第 2 Distribution Server		
第 2 フェールオーバー Distribution Server のホスト名およびポート番号を表示します。[第 2 Distribution Server] テキストボックス右横のアイコンをクリックして、次の設定にアクセスします。		
有効	フェールオーバーサーバで必須です。 デフォルト設定では、有効ではありません。	Distribution Server のフェールオーバー機能を有効または無効にします。
ホスト	フェールオーバーを有効にする場合は必須です。	フェールオーバー Distribution Server のホスト名です。
ポート	フェールオーバーを有効にする場合は必須です。	フェールオーバー Distribution Server のポート番号です。
フェールオーバー間隔	フェールオーバーを有効にする場合は必須です。 デフォルト値は 1 です。	フェールオーバー Distribution Server が、第 1 Distribution Server が稼働中であるかどうかを確認する頻度 (分単位) です。
第 1 サーバと第 2 サーバの同期にリポジトリを使用	デフォルト設定では選択されていません。	選択済み 第 1 サーバと第 2 サーバは、WebFOCUS リポジトリ内のサーバステータスレコードを読み取り、更新するという方法で互いのサーバステータスをモニタします。 未選択 第 1 サーバと第 2 サーバは、ネットワーク経由で互いに通信します。サーバ間のネットワーク通信が切断され、第 2 サーバが第 1 サーバから応答を受信できない場合は、第 1 サーバがフルファンクションモードで稼働中でも、第 2 サーバ自体がフルファンクションモードに変更されます。

設定	オプションまたは必須/ デフォルト値	説明と有効値
ワークロードの分散		
ワークロードの分散を有効にするかどうかを指定します。[ワークロードの分散] テキストボックス右のアイコンを選択すると、次の設定にアクセスすることができます。		
追加	必須 (新規エントリの追加)	ワークロード分散に使用する別のサーバを追加することができます。
削除	オプション	ワークロード分散サーバを削除することができます。
有効	必須 (ワークロードの分散を有効にする場合) デフォルト設定では、有効ではありません。	複数の Distribution Server 間で ReportCaster ジョブを分散させるかどうかを指定します。
ワーカ名	必須 (ワークロードの分散を有効にする場合)	ワーカ Distribution Server を識別する名前です。
ワーカ Distribution Server ホスト	必須 (ワークロードの分散を有効にする場合)	ワーカ Distribution Server のホスト名です。
ワーカ Distribution Server ポート	必須 (ワークロードの分散を有効にする場合) デフォルト値は 8200 です。	ワーカ Distribution Server のポート番号です。
制限する IP アドレス	オプション	Distribution Server へのアクセスを 1 つまたは複数の IP アドレスに制限します。詳細は、61 ページの「 Distribution Server へのアクセスを特定の IP アドレスリストに制限 」を参照してください。

設定	オプションまたは必須/ デフォルト値	説明と有効値
最大スレッド ReportCaster Distribution Server がスケジュール済みジョブの処理に使用できる同時接続 (スレッド) の数を制御します。デフォルト値は 3 です。この設定は、管理コンソールで構成することもできます。最大スレッド数としては、使用中のハードウェアおよびメモリでサポートされる任意の値を指定することができます。		
サーバ名	必須 (1 つまたは複数のサーバが構成されている場合)	サーバの名前を表示します。
スレッド数 (接続数)	必須。デフォルト値は 3 です。	各サーバの同時接続数 (スレッド数) を表示します。
その他のタスク		サーバベース以外のタスクです。
[読み込み間隔]、[リカバリ]、[配信レポートが存在しない場合の処理]、[スケジュール禁止期間ジョブ停止処理]、[タスクあたりの最大データサーバメッセージ数] オプション		
読み込み間隔	必須 デフォルト値は 1 分です。	スケジュール済みジョブを確認する ReportCaster Distribution Server のポーリング間隔 (分) です。 受容可能な値は、1 から 9999999 の正の整数です。負の数および 0 (ゼロ) は許可されません。 注意： この設定は、管理コンソールで行うこともできます。

設定	オプションまたは必須/ デフォルト値	説明と有効値
リカバリ	デフォルト値は [オフ] です。	オン ReportCaster Distribution Server は、スタートアップ中に、スケジュール済みのジョブのうち、処理され完了していないものの回復処理を行います。 オフ (デフォルト値) ReportCaster Distribution Server は、スタートアップ中にスケジュール済みジョブの回復処理を行いません。 注意: この設定は、管理コンソールで行うこともできます。

設定	オプションまたは必須/ デフォルト値	説明と有効値
配信レポートが存在しない場合の処理	必須 デフォルト値は、[エラー]です。	配信するレポートが存在しない場合に Reporting Server から送信される通知をエラーまたは警告のどちらかに指定します。この指定は、グローバルに設定されるため、すべてのスケジュールに影響します。利用可能な値は、次のとおりです。 ❑ エラー 配信レポートが存在しない場合の通知をエラーとして区分し、ReportCaster ログレポートに赤色のメッセージを書き込みます。スケジュールの通知オプションが [エラー] に設定されている場合、通知が送信されます。 ❑ 警告 配信レポートが存在しない場合の通知を警告として区分し、ReportCaster ログレポートにオレンジ色の情報メッセージを書き込みます。スケジュールの通知オプションが [警告] に設定されている場合、エラー通知は送信されません。 これらの設定は、バーストレポートで特定のバースト値に配信レポートが存在しない場合のメッセージにも適用されます。 複数のタスクで構成されたスケジュールでは、配信レポートが存在しない場合の通知がすべてのタスクで生成される場合に限り、この設定が適用されます。このスケジュールのいずれかのタスクでレポートが生成された場合は、この設定はログメッセージまたは通知に影響しません。

設定	オプションまたは必須/ デフォルト値	説明と有効値
スケジュール禁止期間ジョブ停止処理	必須 デフォルト値は、[エラー]です。	スケジュール済みレポートの配信が、スケジュール禁止期間の設定により停止されている場合、このオプションを使用してエラー通知を Email で送信するかどうかを指定します。 ☐ エラー エラー通知を指定した Email 受信者に送信します。 ☐ 警告 エラー通知を指定した Email 受信者に送信しません。 詳細は、126 ページの「スケジュール禁止期間の使用」を参照してください。
タスクあたりの最大データサーバメッセージ数	必須 デフォルト値は 1000 です。	データサーバから送信され、ReportCaster ログファイルに記述されるタスクのメッセージの数を制御します。

設定	オプションまたは必須/ フォルト値	説明と有効値
スキャンバックセクション		
スキャンバックタイプ	必須 デフォルト値は [オン] です。	利用可能な値には、次のものがあります。 ☐ オン ☐ オフ ☐ 次回実行時間

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
スキャンバック間隔	デフォルト値は 15 (24 時間単位) です。	Distribution Server が一定期間使用不可の場合に、実行されていないジョブを Distribution Server がスキャンして実行する 24 時間間隔の値です。この時間間隔は、Distribution Server の再起動時点をゼロとして計算されます。 注意： この設定は、管理コンソールで行うこともできます。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
その他の設定フォルダ		
このサーバには SSL 接続が必要	オプション	このチェックをオンにすると、ReportCaster アプリケーションと ReportCaster Distribution Server 間の通信が暗号化されます。セキュア通信を有効にし、変更を保存した後、ReportCaster アプリケーションと ReportCaster Distribution Server を手動で再起動する必要があります。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
Trusted サーバ証明書の貼り付け	必須 ([このサーバには SSL 接続が必要] のチェックをオンにした場合)	デフォルトの SSL 証明書は、インストールプロセス中に提供されます。必要に応じてデフォルトの証明書をユーザー独自の証明書に置き換えて、セキュア接続を有効にすることもできます。 これを実行するには、CA からのサーバの署名証明書または自己署名証明書を Distribution Server のキーストアにインポート後、キーストアから SSL 証明書をエクスポートする必要があります。 SSL 証明書をエクスポート後、この証明書をこのテキストボックスに貼り付け、構成の変更を保存し、ReportCaster アプリケーションおよび ReportCaster Distribution Server を手動で再起動する必要があります。
トレースを削除するまでの日数	オプション。デフォルト値は 10 です。	指定した日数が経過した trc、log、temp ディレクトリ内のファイルおよびフォルダは、Distribution Server により自動的に削除されます。これは、日単位のジョブログの削除および期限切れ ReportLibrary バージョンの削除と同時に実行されます。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
スケジュールジョブ トレース	オプション。デフォルト値は [オフ] です。	Distribution Server トレースを有効にします。 ☐ オフ トレースは無効です。 ☐ スケジュール スケジュールジョブの処理情報です。 ☐ スケジュールとレポート 配信 Distribution Server にスケジュールジョブ処理情報およびレポート出力が返されます。
ジョブステータス通知 プラグイン	オプション	ReportCaster ジョブステータス通知インターフェースを実装して、スケジュール済みジョブの開始または終了時に、Distribution Server にアクションの実行を指示する (例、Web サービスまたはその他のリスナに通知) カスタム Java クラス名です。詳細は、59 ページの「ジョブステータス通知プラグインを構成するには」を参照してください。
Resource Analyzer の 指標情報を含める	オプション	この機能を使用すると、Reporting Server から Resource Analyzer DBMS 統計が収集され、スケジュールログに表示されます。 注意： Reporting Server で Resource Analyzer が構成されていない場合、この機能は動作しません。 このチェックをオンにすると、ReportCaster ログに、Resource Analyzer DBMS 情報が含まれたメッセージが表示されます。このチェックをオフにすると、メッセージは表示されません。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
リポジトリ接続を保持する	必須 このオプションは、デフォルト設定で選択されています。	選択済み データベースの接続が、スケジュールの実行 (アドレス帳情報の取得やログファイルへの情報の書き込みを含む) を通して有効なままになります。 未選択 データベースの接続が、スケジュールの実行前に切断されます。スケジュールの実行後、新しい接続が確立され、[アドレス帳] 情報の取得や、ログファイルへの情報の書き込みが可能になります。

手順

ジョブステータス通知プラグインを構成するには

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。
3. 左側ウィンドウで、[Distribution Server] フォルダを展開し、[その他の設定] フォルダをクリックします。
4. 前述の表を参照し、Distribution Server の各テキストボックスに値を入力します。
5. [ジョブステータス通知プラグイン] テキストボックスに、ジョブリスナイインターフェースを実装するプログラムの名前を入力します。
6. [保存] をクリックします。

指定したプログラムがスケジュールの開始時と終了時に呼び出され、このプログラムで設定されたカスタムアクションが実行されます。詳細は、Java マニュアルの `ibi.broker.scheduler.plugin` パッケージを参照してください。

ReportCaster フェールオーバーおよびワークロード分散の構成

Distribution Server フェールオーバー機能を使用して、第 1 Distribution Server が (計画的または非計画的に) 中断した場合に、ReportCaster の処理を再開する第 2 Distribution Server を構成することができます。第 1 Distribution Server は常にモニタされ、サーバが稼動していることが確認されます。稼動中に中断が発生すると、フェールオーバー Distribution Server が開始され、第 1 サーバの役割を引き継ぎます。

ワークロードの分散機能を使用すると、ReportCaster がスケジュール済みジョブを複数の Distribution Server に配信できるようになります。これにより、大量の ReportCaster スケジュールを短時間で効率的に処理することができます。複数の Distribution Server インスタンスは、1 つまたは複数のホストにインストールすることができます。1 つのインスタンスがワークロードマネージャとして指定され、その他のインスタンスはワーカとして指定されます。WebFOCUS リポジトリは、ワークロードマネージャとワーカで共有されます。ワークロードの分散は、ReportCaster 構成ツールを使用して設定します。すべてのサーバは 1 つの構成情報を共有し、構成に変更が加えられると、ワークロードマネージャがその変更をワーカに配信します。

ReportCaster のアプリケーションでは、フェールオーバーおよびワークロード分散の一方または両方の機能を構成することができます。次の手順では、両方の機能の構成方法を説明していますが、これらの機能の一方のみを構成する場合は、指示に従ってその機能に関連する手順のみを実行します。

手順

Distribution Server フェールオーバーを構成するには

Distribution Server フェールオーバーを構成するには、次の手順を実行します。

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
ReportCaster ステータスが開きます。
2. [構成] タブをクリックします。
3. 左側ウィンドウで [Distribution Server] フォルダをクリックします。
4. [第 2 Distribution Server] テキストボックス右側のボタンをクリックします。
[第 2 Distribution Server] ダイアログボックスが開きます。
5. [有効] のチェックをオンにします。
6. 第 2 Distribution Server のホスト名、ポート番号、フェールオーバー間隔を入力します。
7. 必要に応じて、[第 1 サーバと第 2 サーバの同期にリポジトリを使用] のチェックをオンにします。
8. [OK] をクリックします。
9. 保存を要求された場合、[保存] をクリックし、続いて [OK] をクリックします。
10. 指定したホストおよびそのホストに指定したポート番号に Distribution Server をインストールします。

手順 ワークロード分散を構成するには

1. ReportCaster ステータスを開き、上部ウィンドウで [構成] をクリックします。
2. 左側ウィンドウで [Distribution Server] フォルダをクリックします。
3. [ワークロードの分散] テキストボックス右側のボタンをクリックします。
[ワークロードの分散] ダイアログボックスが開きます。
4. [有効] のチェックをオンにします。
5. [追加] をクリックします。
6. ワーカ名、ワーカ Distribution Server ホスト、ワーカ Distribution Server ポートを入力します。
追加するワーカ Distribution Server インスタンスごとに上記の手順を繰り返します。
7. [OK] をクリックします。
8. 保存を要求された場合、[保存] をクリックし、続いて [OK] をクリックします。
9. 指定したホストおよびそのホストに指定したポート番号のそれぞれに Distribution Server をインストールします。

Distribution Server へのアクセスを特定の IP アドレスリストに制限

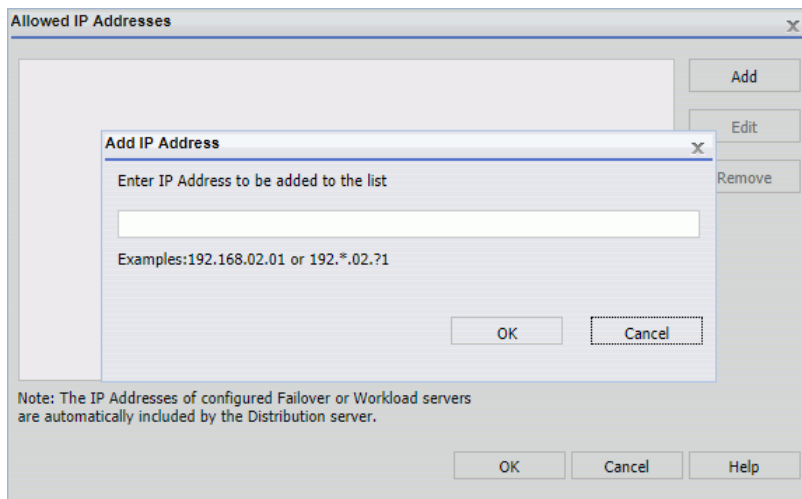
Distribution Server へのアクセス許可を、事前に選択した IP アドレスに制限することで、サーバに対するサービス拒否 (DoS) 攻撃を回避することができます。DoS 攻撃は、悪意のあるサイバー攻撃の 1 つで、複数の IP アドレスから送信するリクエストでサーバに過剰な負荷をかけ、サーバにアクセスする正規の IP アドレスを妨害する手法です。ReportCaster ステータスの [制限する IP アドレス] オプションを使用して、ネットワークのセキュリティを強化することができます。[制限する IP アドレス] テキストボックスに 1 つまたは複数の IP アドレスを入力すると、Distribution Server は指定されたアドレスからの TCP/IP リクエストのみを受容します。この設定のデフォルト値はブランクです。

手順 IP アドレス制限を構成するには

1. ReportCaster ステータスを起動します。
2. リボンの [表示] グループで、[構成] をクリックします。
3. [構成] ウィンドウで、[Distribution Server] をクリックします。
[第 1 Distribution Server] オプションが表示されます。
4. [制限する IP アドレス] のフォルダを開くボタンをクリックします。
[許可する IP アドレス] ダイアログボックスが開きます。

5. [追加] をクリックします。

下図のように、[IP アドレスの追加] ダイアログボックスが開きます。



6. IP アドレスを入力し、[OK] をクリックします。入力した IP アドレスが、[許可する IP アドレス] リストに追加されます。
7. IP アドレスをさらに追加する場合は、手順 5 から 6 を繰り返します。
8. [OK] をクリックして [許可する IP アドレス] リストを保存し、ReportCaster ステータスに戻ります。
9. リボンの [構成の管理] グループで [保存] をクリックし、許可する IP アドレスの変更を保存します。
10. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。

手順

IP アドレスを編集するには

1. [制限する IP アドレス] のフォルダを開くボタンをクリックします。
[許可する IP アドレス] ダイアログボックスが開きます。
2. 変更を加える IP アドレスを選択し、[編集] をクリックします。
[IP アドレス の編集] ダイアログボックスが開きます。
3. IP アドレスを変更し、[OK] をクリックします。
4. リボンの [構成の管理] グループで [保存] をクリックし、許可する IP アドレスの変更を保存します。

5. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。

手順

IP アドレスを削除するには

1. [制限する IP アドレス] のフォルダを開くボタンをクリックします。
[許可する IP アドレス] ダイアログボックスが開きます。
2. 削除する IP アドレスを選択し、[削除] をクリックします。
選択した IP アドレスが削除されます。
3. [OK] をクリックします。
4. リボンの [構成の管理] グループで [保存] をクリックし、許可する IP アドレスの変更を保存します。
5. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。

設定 - 全般

[構成] タブの [設定 - 全般] フォルダには、ユーザが使用可能なスケジュールタスク、配信フォーマット、配信方法を指定するための設定が格納されています。

[設定 - 全般] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
グループスケジュール禁止期間の有効化	必須 このオプションは、デフォルト設定で選択されています。	すべてのユーザを対象として定義するグローバル設定のほかに、グループレベルでのスケジュール禁止期間の定義を許可するかどうかを指定します。定義済みのグループスケジュール禁止期間を表示するには、このオプションを選択する必要があります。
次回実行時間をスケジュール禁止期間終了後の日付に設定	オプション。デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。	このオプションを選択すると、スケジュール禁止期間の実行でキャンセルされたスケジュール配信の繰り返し実行が、翌日の同じ時間に実行されます。詳細は、147 ページの「 スケジュール禁止期間終了後のスケジュール実行日付の制御 」を参照してください。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
パラメータ化されたスケジュールの設定に従来の動作を使用	オプション デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。	スケジュール設定での変数の使用方法を従来の動作に戻します。このオプションを選択すると、Email の [件名] でのみ変数を使用できます。変数の値は、スケジュールとともに ReportCaster パラメータテーブルに格納された値に設定されます。ランタイム値は使用されません。
スケジュールタスク	オプション デフォルト設定では、すべてのタスクタイプが有効になっています。	ユーザによる使用を可能にするタスクタイプを指定します。すべてのアドバンストスケジュールのデフォルトスケジュールタスクは、WebFOCUS レポートです。アドバンストスケジュールツールでタスクを作成する場合、[新規作成] ボタンをクリックすると、選択したデフォルトタスクのダイアログボックスが表示されます。詳細は、64 ページの「 スケジュールタスク設定の指定 」を参照してください。
配信フォーマット	オプション デフォルト設定では、すべてのフォーマットが有効になっています。	ユーザによる使用を可能にするレポートとグラフのフォーマットを指定します。
配信方法	オプション デフォルト設定では、すべての配信方法が有効になっています。	ユーザによる使用を可能にする配信方法を指定します。

スケジュールタスク設定の指定

[設定 - 全般] フォルダの [スケジュールタスク] の設定により、権限を所有するユーザは、ユーザおよびグループが利用できるタスクタイプを指定することができます。

デフォルト設定では、すべてのタスクタイプが有効 (選択) になっています。少なくとも 1 つのタスクタイプが選択されている必要があります。

注意

- ❑ ユーザが特定のタスクでスケジュールを作成した後、この構成設定でそのタスクの選択を解除すると、スケジュールが正しく実行されなくなります。ログに書き込まれたメッセージに、問題の解決方法が示されています。
- ❑ ReportLibrary 配信のスケジュールでレポートのバーストを設定した後、バーストから非バーストに変更することはできません。同様に、非バーストからバーストに変更することもできません。この制限は、各 ReportLibrary 項目にバージョン番号が関連付けられるためです。バースト設定を変更可能にすると、バージョン番号を 1 に再設定する必要があります。

手順

スケジュールタスク設定を指定するには

1. [設定 - 全般] フォルダで、[スケジュールタスク] テキストボックス右側のアイコンをクリックします。
[ReportCaster - スケジュールタスク] ダイアログボックスが開きます。
2. 特定のタスクタイプを有効または無効にするには、次のオプションのチェックをオンまたはオフにします。
 - ☐ WebFOCUS レポート
 - ☐ WebFOCUS サーバプロシジャ
 - ☐ ファイル
 - ☐ URL
 - ☐ FTP
 - ☐ WebFOCUS スケジュール
3. 必要に応じて、アドバンスドスケジュールツールのデフォルトスケジュールタスクを選択します。デフォルト設定では、[WebFOCUS レポート] が選択されています。
4. ReportCaster Distribution Server による、選択解除したタスクタイプのスケジュール済みジョブの実行が必要ない場合は、[選択したタスクのスケジュールだけ実行] のチェックをオンにします。
5. [スケジュールタスク] ダイアログボックスで選択の完了後、[OK] をクリックします。
変更が保存され、[スケジュールタスク] ダイアログボックスが閉じます。

6. 構成の変更を有効にするには、Distribution Server および WebFOCUS Web アプリケーションを再起動する必要があります。

スケジュールフォーマット設定の指定

[設定 - 全般] フォルダの [配信フォーマット] の設定により、ユーザが使用可能なレポートとグラフのフォーマットを指定することができます。

この設定は、WebFOCUS (リポジトリ) プロシジャにのみ適用されます。デフォルト設定では、すべてのレポートおよびグラフフォーマットが有効 (選択) になっています。少なくとも 1 つのレポートまたはグラフフォーマットが選択されている必要があります。

注意: ユーザが特定のフォーマットでスケジュールを作成した後、この構成設定でそのフォーマットの選択を解除すると、スケジュールが正しく実行されなくなります。ログに書き込まれたメッセージに、問題の解決方法が示されています。

手順

スケジュールフォーマットを設定するには

1. [設定 - 全般] フォルダで、[配信フォーマット] テキストボックス右側のアイコンをクリックします。

[ReportCaster - レポートとグラフのフォーマット] ダイアログボックスが開きます。

2. ドロップダウンリストを使用して、[スタイルフォーマット]、[スペシャルフォーマット]、[スタイルなしフォーマット]、または [グラフィイメージ] を選択することができます。デフォルト設定の [スタイルフォーマット] をそのまま使用することもできます。

デフォルト設定では、スタイルフォーマットは各フォーマットタイプが有効な状態で表示されます。

3. スタイルフォーマットを有効または無効にするには、各フォーマットのチェックをオンまたはオフにします。
4. スタイルなしフォーマットを有効または無効にするには、ドロップダウンリストから [スタイルなしフォーマット] を選択します。スタイルなしフォーマットは、WebFOCUS スタイルシートコマンドを使用するスタイルをサポートしないフォーマットです。デフォルト設定では、スタイルなしフォーマットは各フォーマットタイプが有効な状態で表示されます。
5. グラフィイメージを有効または無効にするには、ドロップダウンリストから [グラフィイメージ] を選択します。デフォルト設定では、グラフィイメージは各フォーマットタイプが有効な状態で表示されます。
6. [レポートとグラフのフォーマット] ダイアログボックスで選択の完了後、[OK] をクリックします。

変更が保存され、[レポートとグラフのフォーマット] ダイアログボックスが閉じます。

7. 構成の変更を有効にするには、Distribution Server および ReportCaster を再起動する必要があります。

スケジュール配信方法の設定

権限を所有するユーザは、[設定 - 全般] フォルダの [配信方法] 設定で、ユーザやグループがスケジュールの作成時に使用可能な配信方法を指定することができます。特定の配信方法でスケジュールが作成された後、その配信方法の選択を解除し、[選択した配信方法のスケジュールだけ実行] のチェックをオンにした場合、そのスケジュールが正しく実行されなくなります。ログに書き込まれたメッセージに、配信方法が構成されていないことが示されます。また、1つのスケジュールに複数の配信方法が指定されている場合、[構成] タブの [設定 - 全般] フォルダの [配信方法] 設定で、これらの配信方法のいずれかのチェックをオフにすると、そのスケジュールが実行されなくなります。

デフォルト設定では、すべての配信方法が有効 (選択) になっています。

注意：少なくとも 1 つの配信方法が選択されている必要があります。

[リポジトリ] オプションは、この製品コンポーネントが使用可能な場合にのみ表示されます。リポジトリは、WebFOCUS Client とともにインストールされる製品コンポーネント (オプション) です。

手順

スケジュール配信方法を設定するには

1. [設定 - 全般] フォルダで、[配信方法] テキストボックス右側のアイコンをクリックします。

[ReportCaster - スケジュール配信方法] ダイアログボックスが開きます。

2. 配信方法を有効または無効にするには、各フォーマットのチェックをオンまたはオフにします。

注意：少なくとも 1 つの配信方法を選択する必要があります。

3. 必要に応じて、[選択した配信方法のスケジュールだけ実行] のチェックをオンにすることで、実行するスケジュールを、この設定で選択された配信方法に限定することができます。
4. [スケジュール配信方法] ダイアログボックスで選択の完了後、[OK] をクリックします。
変更が保存され、[スケジュール配信方法] ダイアログボックスが閉じます。
5. 構成の変更を有効にするには、Distribution Server および ReportCaster Web アプリケーションを再起動する必要があります。

Email 配信

[構成] タブの [Email 配信] フォルダには、デフォルト Email 設定、Email 再試行オプション、Email セキュリティなどの設定が格納されています。

[Email 配信] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
埋め込みレポート 配信	必須 デフォルト値は [許可する] です。	スケジュールツールで、Email 本文としてレポートを送信する Email 配信方法を有効にするかどうかを指定します。 注意: ユーザがこのオプションを使用してスケジュールを作成した後、この構成設定でそのオプションの選択を解除すると、スケジュールが正しく実行されなくなります。ログに書き込まれたメッセージに、問題の解決方法が示されています。
Email のパケット化	必須 デフォルト値は [はい] です。	タスクの出力およびバーストコンテンツの Email での配信方法を制御します。 有効な値は、次のとおりです。 ☐ いいえ バースト値またはタスク出力のそれぞれを、別の Email で配信します。 ☐ はい 複数のバースト値や複数のタスクによる出力は、複数のファイルが添付された 1 通の Email として配信されます。 ☐ バースト 配信リストのバースト値ごとに、指定したアドレスへの個別の Email が生成されます。スケジュールのタスク数によっては、Email に 1 つまたは複数のファイルが添付される場合があります。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
許可する Email ドメインとアドレス	デフォルト値は [オフ] です。	配信で使用可能な Email ドメインおよびアドレスを格納します。 [入力をこのリストに制限する] のチェックをオンにすると、ユーザの Email アドレスおよびドメインの入力が、リストに保存された許可アドレスおよびドメインに制限されます。詳細は、75 ページの「許可する Email ドメインおよびアドレスの確認」を参照してください。 注意 ❑ 保存済みのベーシックスケジュール、アドバンストスケジュール、配信リスト、配信ファイル、ダイナミック配信リストの Email アドレスを編集する前に、このリストが変更された場合、新しい Email アドレスおよびドメインが現在有効かどうかシステムによって確認されます。無効な Email アドレスまたはドメインを入力すると、保存する前にこの Email アドレスまたはドメインを変更するよう要求されます。 ❑ 配信用のファイルに Email アドレスを格納している場合、ファイル内の有効なドメインはスケジュールの実行時に確認されます。配信が制限された Email アドレスがファイル内に存在する場合、そのアドレスには配信されず、ログファイルにエラーメッセージが書き込まれます。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
Email 配信をスケジュールオーナーの Email アドレスに制限	オプション	Email 配信をスケジュールオーナーの Email アドレスに制限する場合は、このチェックをオンにします。 注意: セキュリティセンターでスケジュールオーナーの Email アドレスが指定されていない場合、スケジュールを保存することはできません。
配信レポートを常に圧縮してパスワード保護する	オプション	配信レポートをパスワード保護の ZIP ファイルに変換する場合は、このチェックをオンにします。パスワードは、配信ファイルまたはダイナミック配信リストで提供するか、ZIP 暗号化プラグイン経由で提供することができます。パスワードが作成されていない場合、レポートは配信されません。 Distribution Server は、このルールをすべてのスケジュールに強制的に適用します。これには、このチェックをオンにする前に作成されたスケジュールも含まれます。 注意: このチェックをオンにすると、[埋め込みレポート配信] が無効になります。[埋め込みレポート配信] を有効にすると、[配信レポートを常に圧縮してパスワード保護する] のチェックがオフになります。 また、[配信レポートを常に圧縮してパスワード保護する] のチェックをオンにした場合、ベーシックおよびアドバンスドスケジュールツールで作成するスケジュールの [配信] タブで、[ZIP ファイルとしてレポートを送信] のチェックがデフォルト設定でオンになります。
添付メッセージのカスタマイズ	オプション	カスタムメッセージの指定を可能にします。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
デフォルト添付メッセージ	必須	Email 配信で使用するデフォルトメッセージを指定します。ここで指定したメッセージがベーシックスケジュールツールに表示されます。 注意: デフォルトメッセージをカスタマイズした場合、指定した新しいメッセージが新規スケジュールのデフォルトメッセージになります。
メールサーバのデフォルトセクション		
メールサーバ	必須	Email スケジュールの配信に使用するデフォルトのメールサーバ名です。 メールホストのポートを、「hostname:port」の形式で指定することもできます。ポートを指定しない、または指定したポートが存在しない場合は、デフォルトポートが使用されます。
このサーバには SSL 接続が必要	オプション	指定したメールサーバが SSL を使用する場合は、このチェックをオンにします。
このサーバには TLS 接続が必要	オプション	指定したメールサーバが TLS を使用する場合は、このチェックをオンにします。
このサーバには認証情報が必要	オプション	指定したメールサーバでユーザ ID とパスワードによる認証が必要な場合は、このチェックをオンにします。
SMTP ユーザ ID/パスワード	メールホストで SMTP 認可を使用している場合は必須です。 デフォルト値は設定されていません。	メールホストとの接続に使用するユーザ ID とパスワードです。 注意: SMTP 認証は、Email スケジュール配信および ReportLibrary 通知 Email でのみサポートされます。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
SMTP セキュリティプラグイン	オプション	ReportCaster の SMTP セキュリティインターフェースを実装して、SMTP サーバとの接続に必要なユーザ ID とパスワードを動的に取得するカスタム Java クラス名です。詳細は、74 ページの「Email 配信を構成するには」を参照してください。 注意：SMTP 認証は、Email スケジュール配信および ReportLibrary 通知 Email でのみサポートされます。
Email 返信のデフォルトセクション		
Email 送信者	オプション	[Email 送信者] テキストボックスのデフォルト値です。任意の値を使用することができます。
Email 返信アドレス	オプション	Email スケジュールを作成する際のデフォルト Email 返信アドレスです。 注意：[Email 返信アドレス] を指定しない場合、WebFOCUS にログイン済みのユーザの Email アドレスが、ベーシックおよびアドバンスドスケジュールツールで使用するデフォルト返信アドレスになります。 ReportCaster は、WebFOCUS セキュリティシステムからユーザの Email アドレスを取得します。
Email 再試行セクション		

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
Email 再試行	デフォルト値は 1 です。	レポート出力を配信する際に Distribution Server が Email サーバとの接続を試みる回数です。 Distribution Server が最初の試行でメールサーバに接続できなかった場合、[Email 再試行間隔] で指定した時間が経過した後、再度接続を試みます。接続を試行するたびにログファイルにメッセージが書き込まれます。 有効値は 0 から 9 です。
Email 再試行間隔 (秒)	デフォルト値は 60 秒です。	Distribution Server が次の接続の再試行まで待機する時間です。 有効値は 1 から 999 です。
Email 再接続セクション		
SMTP サーバが切断された場合再接続する	デフォルト値は [はい] です。	この値が [はい] に設定されている場合、Distribution Server は、SMTP サーバへの再接続を 3 回試行し、Email 送信を再開します。再接続試行が 3 回とも失敗した場合、Distribution Server は処理を停止し、エラーメッセージがログに書き込まれます。 この値が [いいえ] に設定されている場合、再接続は試行されません。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
接続あたりのメッセージ数	デフォルト値は 0 です。	この値が 0 (ゼロ) に設定されている場合、1 回の接続で送信可能なメッセージ数に上限はありません。 この設定が 0 (ゼロ) 以外の数値に設定されている場合、Distribution Server は、ここで指定した数の Email メッセージを 1 回の接続で送信することができます。送信できなかった Email は、新しい接続で送信することができます。必要に応じて何度でも接続することができます。

手順

Email 配信を構成するには

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。

注意：権限を所有するユーザは、管理コンソールから ReportCaster 構成ツールにアクセスすることもできます。

3. 左側ウィンドウで、[Email 配信] フォルダを選択します。
4. Email 配信の各テキストボックスに値を入力します。次のことが可能です。
 - ☐ 現在の Email 設定を変更します。詳細は、前述の表を参照してください。
 - ☐ スケジュール作成時のデフォルト値を設定する場合は、その値を入力します。
5. メールサーバに認証情報、SSL、TLS が必要な場合は、それぞれ該当する項目のチェックをオンにし、認証情報を入力します。デフォルトの実装を使用する場合は、75 ページの「[SMTP セキュリティプラグインのデフォルト実装を使用するには](#)」を参照してください。
6. [保存] をクリックします。

手順

SMTP セキュリティプラグインのデフォルト実装を使用するには

注意：WebFOCUS バージョン 9 では、SMTP セキュリティプラグインのデフォルト実装で提供される機能は、スケジュールツールのメールサーバオプションを使用して、スケジュール内で有効にすることができます。

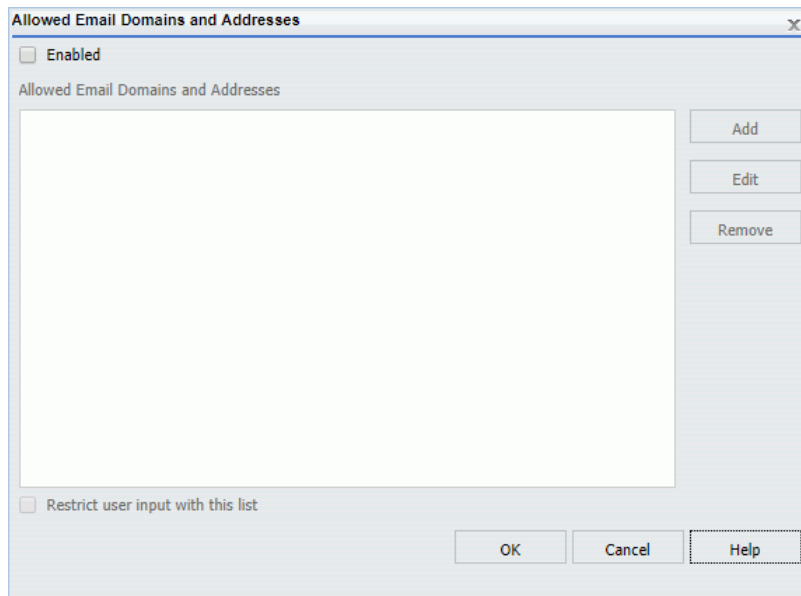
1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。
3. 左側ウィンドウで、[Email 配信] フォルダを選択します。
4. [SMTP セキュリティプラグイン] テキストボックスに次の値を入力します。
`ibi.broker.scheduler.plugin.DefaultSMTPSecurityExit`
5. [保存] をクリックします。
6. 次のフォーマットを使用して、「smtp_security_exit.txt」というファイルを作成します。
`HOSTNAME, AUTHORIZATION
REQUIRED(Y,N), USERNAME, PASSWORD, SSL(Y,N), TLS(Y,N)`
7. smtp_security_exit.txt ファイルを、...¥ReportCaster¥cfg ディレクトリにコピーします。
8. Distribution Server を再起動します。

smtp_security_exit.txt ファイルにメールサーバ (ホスト名) が存在し、AUTHORIZATION REQUIRED フラグが Y に設定されている場合、メールサーバの認証には、ファイル内のユーザ名とパスワードが使用されます。SSL フラグが Y に設定されている場合、SSL が使用されます。TLS フラグが Y に設定されている場合、TLS が使用されます。

許可する Email ドメインおよびアドレスの確認

Email でレポートを送信する場合、ユーザの Email ドメインおよびアドレスの選択を定義済みのリストに制限することができます。

下図は、このオプションが利用可能な ReportCaster ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスを示しています。



[有効] のチェックをオンにすると、Email 配信が、有効な Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。このリストが有効な場合、ユーザがこのリストに存在しない Email アドレスを入力すると、ReportCaster ジョブは保存されません。

[入力をこのリストに制限する] のチェックをオンにすると、ユーザはこのリストで選択した Email ドメインとアドレスのみ使用することができ、他のユーザに対する Email 配信制限のレイヤを追加することができます。

注意: [入力をこのリストに制限する] のチェックをオンにするためには、[有効] のチェックをオンにする必要があります。

無効な Email アドレスおよびドメインの例

この例では、管理者が次の Email アドレスと Email ドメインを [許可する Email ドメインとアドレス] リストに追加した場合を想定します。

☐ john@ibi.com

☐ roger@ibi.com

☐ @gmail.com

❑ @yahoo.com

これらをリストに追加することで、有効なユーザ入力と無効なユーザ入力定義されます。

無効な Email アドレス

たとえば、john@ibi.com がこのリストに追加されているため、ユーザが大文字の「J」を使用して、「John@ibi.com」と入力した場合も、この Email アドレスは有効になります。これは、[許可する Email ドメインとアドレス]の機能が、大文字と小文字を区別しないためです。

一方、ユーザが、リストに追加された 2 つの Email アドレスを組み合わせ「johnroger@ibi.com」と入力した場合、この Email アドレスは無効になります。これは、この特定の Email アドレスがリストに追加されていないためです。

無効な Email ドメイン

ドメインアドレスの入力では、ユーザが、Email ドメインの「@gmail.com」を使用した任意の Email アドレスを入力した場合、アドレスは有効になります。これは、「@gmail.com」はリストに追加されたドメインに該当するためです。

一方、ユーザが、Email ドメインの「@outlook.com」を使用した任意の Email アドレスを入力した場合、アドレスは無効になります。これは、「@outlook.com」はリストに追加されたドメインに該当しないためです。

Email ドメインおよびアドレスの制限

次の場合、制限が適用されます。

❑ ベーシックおよびアドバンススケジュールツールでの Email 配信オプションの編集

下図は、ベーシックおよびアドバンススケジュールツールでの Email 配信オプションを示しています。[入力はこのリストに制限する]のチェックをオンにした場合、[選択]、[送信者]、[返信アドレス] テキストボックスをクリックして、Email アドレスを選択したり、入力したりできます。

The 'Distribution Information' dialog box contains the following fields:

- Type: A dropdown menu currently showing 'Email Address(s)'.
- To...: A text input field.
- From...: A text input field containing the text 'Administrator'.
- Reply Address...: A text input field.
- Subject: A text input field.

□ ベーシックおよびアドバンススケジュールツールでの通知 Email オプションの編集

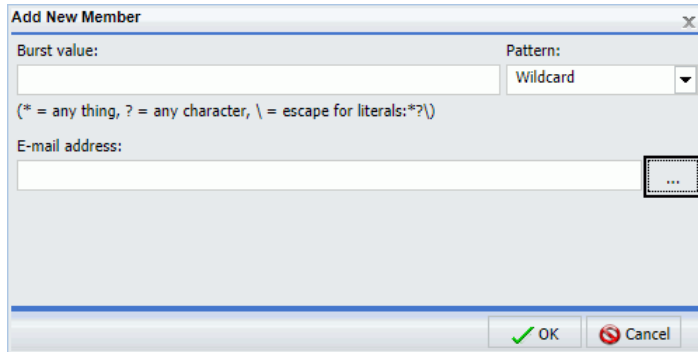
下図は、ベーシックおよびアドバンススケジュールツールでの通知 Email オプションを示しています。[入力はこのリストに制限する]のチェックをオンにした場合、[返信アドレス]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先] テキストボックスをクリックして、Email アドレスを選択したり、入力したりできます。

The 'Notification Email' dialog box contains the following fields:

- Notification Type: A dropdown menu currently showing 'Always'.
- Reply Address...: A text input field.
- Subject: A text input field.
- Brief Message To...: A text input field.
- Full Message To...: A text input field.

□ 配信リストへの新規メンバーの追加

下図は、配信リストの [新規メンバーの追加] ダイアログボックスを示しています。[入力将这个リストに制限する] のチェックをオンにした場合、[Email アドレス] テキストボックス横の [...] (参照) ボタンをクリックして、Email アドレスを選択したり、入力したりできます。



次のファイルタイプにも制限が適用されます。

- ❑ **配信ファイル** 外部配信ファイルをインポートした場合、このファイルの Email リストは、[許可する Email ドメインとアドレス] リストと照合されます。
- ❑ **ダイナミック配信リスト** ダイナミック配信リストを作成した場合、このリストに使用するために選択された Email アドレスは、[許可する Email ドメインとアドレス] リストと照合されます。

Email アドレスの選択ダイアログボックス

[入力将这个リストに制限する] のチェックをオンにした場合、[選択]、[送信者]、[返信アドレス]、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先]、または [...] (参照) ボタンをクリックすると、3つのダイアログボックスのいずれかが表示されます。表示されるダイアログボックスは、[許可する Email ドメインとアドレス] リスト内の Email ドメインおよびアドレス情報のタイプによって異なります。

注意

- ❑ [選択]、[送信者]、[返信アドレス]、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先] テキストボックスには、複数の Email アドレスを入力することができます。
- ❑ [Email アドレスの選択] ダイアログボックスの Email アドレスの選択を取り消すには、Ctrl キーを押しながら Email アドレスを選択します。

Email アドレスのみのリスト

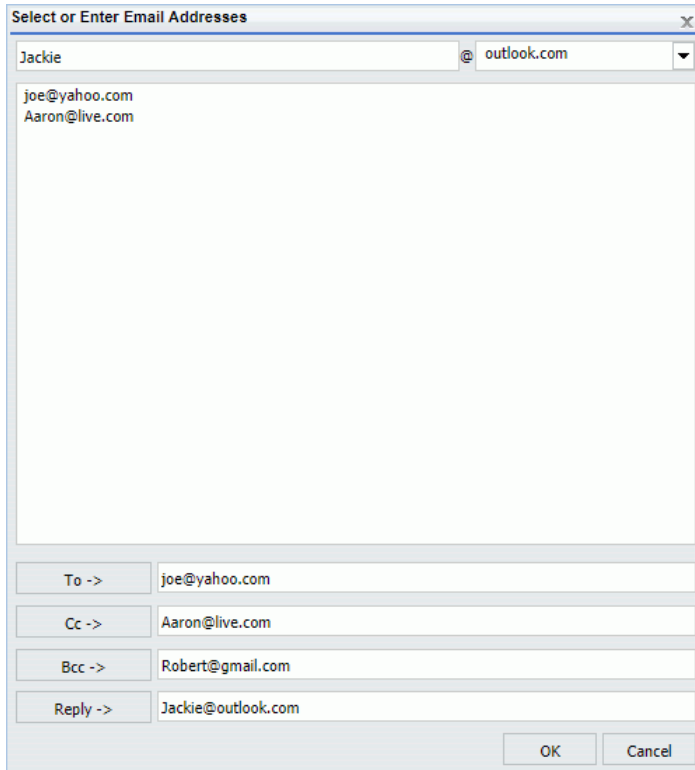
[許可する Email ドメインとアドレス] リストに Email アドレスのみが含まれる場合、下図のように、[Email アドレスの選択] ダイアログボックスを使用して、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信] テキストボックスで Email アドレスを選択することができます。



Email アドレスの選択後、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信] ボタンをクリックして、Email アドレスを各テキストボックスに割り当てることができます。

Email ドメインとアドレスのリスト

[許可する Email ドメインとアドレス] リストに Email ドメインとアドレスの両方が含まれる場合、[Email アドレスを選択または入力] ダイアログボックスで、Email アドレスのリストから選択することができます。このダイアログボックスでは、下図のように、特定のドメインの Email アドレスを作成することもできます。



The dialog box is titled "Select or Enter Email Addresses". It features a text input field at the top with the name "Jackie" and a dropdown menu showing "@ outlook.com". Below this is a list box containing the email addresses "joe@yahoo.com" and "Aaron@live.com". At the bottom, there are four rows of labels and text boxes: "To ->" with "joe@yahoo.com", "Cc ->" with "Aaron@live.com", "Bcc ->" with "Robert@gmail.com", and "Reply ->" with "Jackie@outlook.com". At the very bottom are "OK" and "Cancel" buttons.

Email アドレスの選択または Email アドレスの入力とドメインの選択後、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信] ボタンをクリックして、Email アドレスを各テキストボックスに割り当てることができます。

Email ドメインのみのリスト

[許可する Email ドメインとアドレス] リストに Email ドメインのみが含まれる場合、下図のように、入力ダイアログボックスで Email ドメインを選択し、Email アドレスの名前を入力することができます。

Enter Email Addresses

Jackie @ gmail.com

Select an email domain and enter the name of the email address

gmail.com
live.com
outlook.com
yahoo.com

To -> joe@outlook.com

Cc -> Aaron@live.com

Bcc -> Robert@yahoo.com

Reply -> Jackie@gmail.com

OK Cancel

Email アドレスの入力およびドメインの選択後、[宛先]、[CC]、[BCC]、[返信] ボタンをクリックして、Email アドレスを各テキストボックスに割り当てることができます。

通知

[構成] タブの [通知] フォルダには、デフォルト通知設定が格納されています。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
通知のデフォルトセクション		

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
通知メールサーバ	オプション	通知 Email を配信するメールサーバ名です。何も指定しない場合、ReportCaster は通知メールサーバとしてメールホストの設定を使用します。 ヒント:通知および Email 配信には、異なるメールサーバを使用することをお勧めします。異なるサーバを使用することにより、メールホストに問題が生じても通知が配信されるためです。個別のメールサーバを利用すると、デフォルトのメールサーバに問題が生じた場合、通知されます。 通知メールホストのポートを、「hostname:port」の形式で指定することもできます。ポートを指定しない、または指定したポートが存在しない場合は、デフォルトポートが使用されます。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
デフォルト通知タイプ	デフォルト値は [なし] です。	スケジュールステータスの通知を、指定済みの Email アドレスに送信するかどうかを指定します。利用可能な値には、次のものがあります。 ☐ なし これがデフォルト値です。スケジュールステータスの通知が送信されることはありません。 ☐ エラー時 スケジュールジョブの実行中にエラーが発生した場合、指定したユーザに通知が送信されます。通常は、[エラー時] 通知オプションの使用をお勧めします。 ☐ 常に通知 スケジュールが実行されるたびに指定したユーザに通知が送信されます。 注意: この設定は、管理コンソールで行うこともできます。
簡易通知のみを有効にする	オプション	スケジュールオプションとして [詳細通知] を使用可能にするかどうかを制御します。このチェックをオンにした場合、ユーザがレポートをスケジュールする際に、[簡易通知] オプションのみが選択可能になります。[詳細通知] オプションは選択不可になります。 注意: 詳細通知が無効になると、メッセージがログに表示されます。詳細通知が無効になる前にスケジュールが作成された場合、そのスケジュールの実行時に簡易通知が送信され、スケジュールログに警告メッセージが表示されます。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
システム通知を有効にする	オプション	フェールオーバーイベントが発生した場合、Distribution Server がフェールオーバーモードからフルファンクションモードに変更された場合、または Distribution Server が停止した場合に、指定された管理者に通知を送信するかどうかを制御します。 このオプションを選択した場合、この構成を保存する前に [システム通知] セクションの各テキストボックスに値を入力する必要があります。 Distribution Server がフェールオーバーからフルファンクションモードに変更されると、Email 本文は次のように表示されます。 <Host>:<Port> Distribution Server はフェールオーバーモードからフルファンクションモードに切り替えられました。 Distribution Server が停止すると、Email 本文は次のように表示されます。 <Host>:<Port> Distribution Server を停止します。
システム通知セクション		
管理 Email アドレス	必須	システム通知の送信先となるデフォルト管理 Email アドレスを入力します。この値は必須です。
送信者	オプション	システム通知の送信元となるデフォルト Email アドレスを入力します。この値は必須ではありません。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
返信 Email アドレス	必須	Email 受信者の返信先となるデフォルト返信 Email アドレスを入力します。この値は必須です。
Email 件名	オプション	デフォルトの Email 件名を入力します。この値は必須ではありません。

手順 通知を構成するには

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。

注意：権限を所有するユーザは、管理コンソールから ReportCaster 構成ツールにアクセスすることもできます。

3. 左側ウィンドウで、[通知] フォルダを選択します。
4. 通知の各テキストボックスに値を入力します。次のことが可能です。
 - ☐ 現在の通知設定を変更します。詳細は、前述の表を参照してください。
 - ☐ スケジュール作成時のデフォルト値を設定する場合は、その値を入力します。
5. [保存] をクリックします。

FTP の設定

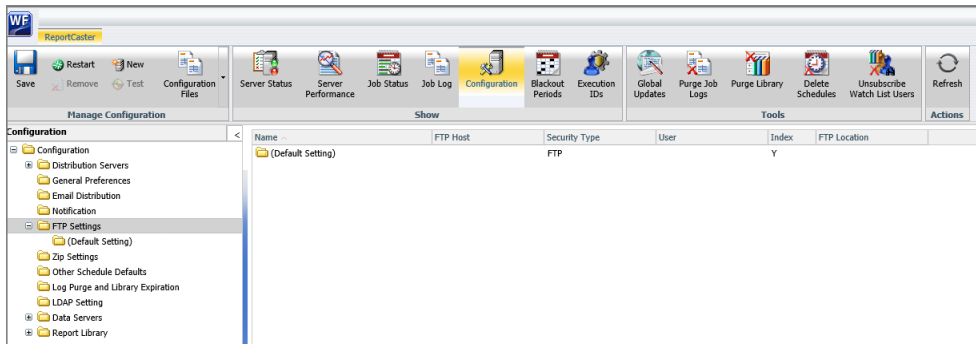
[構成] タブの [FTP の設定] フォルダには、FTP サーバにリンクされた配信ディレクトリノードをターゲットとする、ReportCaster の FTP 配信スケジュールおよびリポジトリ配信スケジュールで使用可能な FTP サーバ構成のリストが格納されています。FTP の設定には、FTP サーバの名前およびネットワークパスを示す詳細情報も含まれます。また、FTP サーバへのアクセスが可能なユーザ名、およびサーバ接続セキュリティの設定についての詳細も含まれます。

定義済み FTP の設定構成は、ベーシックおよびアドバンス配信スケジュールで使うことができます。また、配信するスケジュール済みレポートコンテンツを FTP サーバに転送するために設定された配信ディレクトリノードに割り当てることもできます。

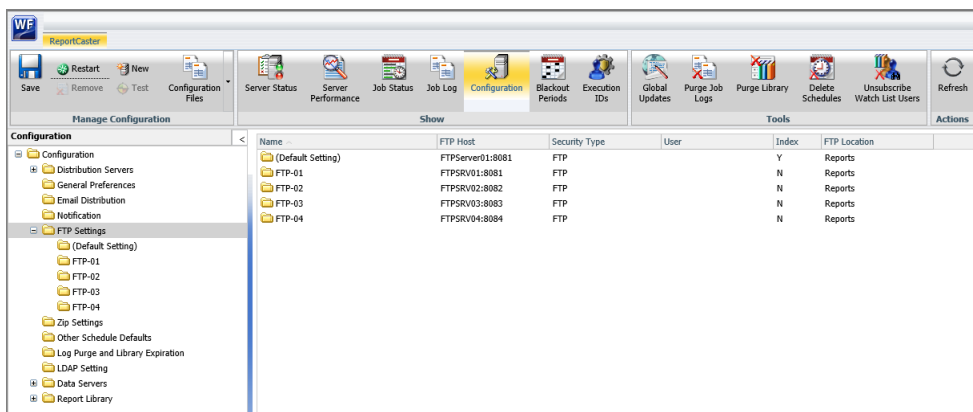
スケジュール済み ReportCaster 出力を FTP サーバに転送することで、組織は負担の少ない FTP プロトコルによる高速で効率的なファイル転送処理を利用することができ、ファイル転送時にユーザ ID およびパスワード保護されたセキュリティを維持することもできます。

FTP の設定ユーザインターフェースの理解

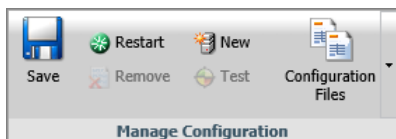
FTP サーバ構成が定義されていない場合、下図のように、[FTP の設定] フォルダには [(デフォルト設定)] という単一フォルダのみが格納されています。



ReportCaster は、レポート出力を複数の FTP サーバに転送することができますが、ユーザ定義の FTP 設定構成が作成されている場合、管理者は、ベーシックおよびアドバンススケジュールツールで使用するデフォルトサーバとしてこれらの中から 1 つを指定する必要があります。組織で単一の FTP サーバを使用し、FTP サーバの選択を定義済み FTP 設定に制限している場合、この FTP の設定構成のみが必要です。追加の FTP サーバ構成が定義されると、下図のように、[FTP の設定] フォルダ下に個別のフォルダが表示されます。他の FTP サーバ構成を追加することはできますが、デフォルト構成は常に [(デフォルト設定)] フォルダで定義されます。



下図のように、[構成の管理] グループの [構成] タブのオプションを使用して、FTP の設定構成フォルダを作成、更新、削除することができます。



- ☐ **新規作成** [FTP の設定] ダイアログボックスが開き、新しい FTP の設定構成を定義するオプションが表示されます。
- ☐ **保存** 新しい FTP の設定構成および更新された FTP の設定構成を保存します。
- ☐ **削除** FTP の設定構成を削除します。
- ☐ **再起動** FTP の設定構成を変更するたびに、Distribution Server を自動的に停止、再起動することで、各変更の登録を完了します。
- ☐ **テスト** 選択したサーバまたはリポジトリとの接続をテストします。このオプションは、FTP の構成には関係しません。

- **構成ファイル** ReportCaster 構成ファイルを表示およびダウンロードするオプションが選択できます。このオプションは、FTP の構成には関係しません。

なお、FTP の設定構成の変更後、これらの変更を ReportCaster の [構成] タブで確認するためには、ReportCaster および WebFOCUS を終了し、WebFOCUS Application Server を停止、再起動する必要があります。

[構成の管理] グループの各オプションは状況依存型であるため、各オプションのアクションが関係する場合のみ選択可能になります。たとえば、左側ウィンドウで FTP サーバフォルダをクリックすると、既存の FTP の設定構成に対応するアクションとして、[削除]、[再起動]、[保存] のオプションがすべてフルカラーで表示され、利用可能になります。

FTP 構成の詳細情報の理解

左側ウィンドウで、各 FTP の設定フォルダをクリックすると、右側ウィンドウにこの FTP 設定構成の詳細情報が表示されます。

FTP の設定構成では、FTP プロトコルを使用してファイルの送受信が可能な FTP クライアントを備えたサーバの名前およびパスを定義します。構成には、このサーバの FTP クライアントへのアクセスに必要なユーザ ID とパスワード、および必要なセキュリティプロトコルも含まれます。

下表は、[FTP の設定] フォルダで指定可能な構成設定の一覧および説明です。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
名前	必須	構成ツリーで、この FTP 設定構成を識別するフォルダの名前です。 この値は、ReportCaster 内でのみ表示されます。実際の FTP サーバ名を使用することも、サーバ構成を一意に識別する別の値を使用することもできます。 FTP の設定構成には、それぞれ一意の名前を指定する必要があります。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
FTP ホスト	必須	FTP スケジュールを作成する際の FTP サーバ名です。 デフォルト以外のポート番号を指定する場合は、「hostname:port」の形式を使用します。
FTP パス	オプション	FTP スケジュールを作成する際の FTP パス (ディレクトリ) です。
ユーザ	必須	FTP ファイル転送の実行権限を所有するユーザの ID およびパスワードです。 ユーザの設定にアクセスするには、[ユーザ] テキストボックス右側のアイコンをクリックします。表示される [ユーザ] ダイアログボックスで、ユーザ名とパスワードを入力することができます。 注意： このテキストボックスに割り当てる名前とパスワードは、この構成で識別される FTP サーバでも定義する必要があります。
SFTP セキュリティブ ラグイン	オプション	ReportCaster SFTP セキュリティインターフェースを実装して、セキュア FTP サーバとの接続に必要なパブリックキーの値を動的に取得するカスタム Java クラス名です。構成についての詳細は、99 ページの「 FTP 設定を構成するには 」を参照してください。
バーストレポートの 配信時にインデック スファイルを作成す る	必須 このオプションは、 デフォルト設定で 選択されています。	このオプションで、バーストレポートの FTP 配信で、スケジュール実行時にインデックスファイルを作成するかどうかを指定します。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
FTP サーバ情報		
このサーバには FTP が必要	このオプションは、 デフォルト設定で 選択されています。 注意: [FTP サーバ情 報] セクションのオ プションの 1 つを 選択する必要があ ります。	このオプションを選択すると、スケジュー ルツールのデフォルト設定で FTP を使用す るオプションが有効になります。 このオプションを選択した場合、追加のセ キュリティ構成は必要ありません。
このサーバには TLS/SSL (FTPS) が必 要	オプション 注意: [FTP サーバ情 報] セクションのオ プションの 1 つを 選択する必要があ ります。	このオプションを選択すると、FTPS が FTP 配信スケジュールツールのデフォルト値に なり、スケジュールツールを使用するた びにこのオプションを選択する必要がなくな ります。 このデフォルト値を上書きする必要がある 場合は、FTP サーバ配信のスケジュールを 作成する際に、[FTP 配信オプション] ダイア ログボックスで [FTPS] のチェックをオフに することができます。 このオプションをオフにすると、FTPS はデ フォルト値ではなくなりますが、FTP サーバ 配信のスケジュールを作成する際に、[FTP 配信オプション] ダイアログボックスで再 度選択することは可能です。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
このサーバには SFTP が必要	オプション 注意: [FTP サーバ情 報] セクションのオ プションの 1 つを 選択する必要があ ります。	このオプションを選択すると、SFTP が FTP 配信のデフォルト値になり、スケジュールツールを使用するたびにこのオプションを選択する必要がなくなります。 このデフォルト値を上書きする必要がある場合は、FTP サーバ配信のスケジュールを作成する際に、[FTP 配信オプション] ダイアログボックスで [SFTP] のチェックをオフにすることができます。 このオプションをオフにすると、SFTP はデフォルト値ではなくなりますが、FTP サーバ配信のスケジュールを作成する際に、[FTP 配信オプション] ダイアログボックスで再度選択することは可能です。
その他のチェックボックス		

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
スケジュールでユーザ定義の FTP を許可しない	オプション	このチェックがオンの場合、ベーシックおよびアドバンスド FTP スケジュールの [FTP 配信オプション] ダイアログボックスで、[FTP サーバ名] テキストボックスの選択可能な範囲が、定義済み FTP のリストに制限されます。ユーザは、このダイアログボックスに直接値を入力して、各スケジュールに FTP サーバの設定構成を割り当てることはできません。 このチェックがオフの場合、ベーシックおよびアドバンスド FTP スケジュールの [FTP 配信オプション] ダイアログボックスで、[FTP サーバ名] テキストボックスに値 (カスタム FTP) が表示され、ユーザは、このダイアログボックスに直接値を入力して、各スケジュールに FTP サーバの設定構成を割り当てることができます。複数の FTP 設定構成が作成されている場合、定義済み FTP 設定のリストが [FTP サーバ名] テキストボックスで使用可能となり、ユーザは、これらの設定から選択することも、スケジュールに独自の FTP 設定構成を入力することもできます。 注意：このチェックボックスは、[(デフォルト設定)] ページにのみ表示されます。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
スケジュール FTP リ ストに表示しない	オプション	このチェックボックスの値は、[スケジュールでユーザ定義の FTP を許可しない] チェックボックスが [(デフォルト設定)] ページでオンになっている場合にのみ関連します。 このチェックがオンの場合、この FTP 設定構成は、FTP スケジュールの [FTP 配信オプション] ダイアログボックスの [FTP サーバ名] リストに表示されません。また、WebFOCUS 管理コンソールで定義された配信ディレクトリノードで利用可能な FTP サーバのリストにも表示されません。 このチェックがオフの場合、この FTP 設定構成が、FTP スケジュールの [FTP 配信オプション] ダイアログボックスの [FTP サーバ名] リストに表示されます。また、WebFOCUS 管理コンソールで定義された配信ディレクトリノードで利用可能な FTP サーバのリストにも表示されます。 注意: このチェックボックスは、追加の FTP 設定構成ページにのみ表示されます。[(デフォルト設定)] ページには表示されません。

FTP 設定構成の展開

FTP の設定構成は、FTP またはリポジトリ配信方法を使用するベーシックスケジュールおよびアドバンスドスケジュールで使用されます。組織は、利用可能な FTP サーバの選択範囲を定義済み構成のリストに制限することも、各 FTP 配信スケジュール用に作成したより広範囲の FTP サーバを選択対象にすることもできます。これは、[(デフォルト設定)] ページに表示される [スケジュールでユーザ定義の FTP を許可しない] のチェックのオンとオフを切り替えることで実行できます。

このチェックがオンの場合、FTP 配信で利用可能な FTP 設定構成の範囲は、[FTP の設定] フォルダで定義された一連の定義済み FTP 設定に制限されます。ユーザは、各 FTP スケジュールに新しい FTP 設定構成を定義することはできません。

このチェックがオフの場合、各ユーザは、定義済み FTP 設定構成を選択することも、デフォルト設定で表示されるオプション (カスタム FTP) を受容し、各 FTP スケジュールの [FTP 配信オプション] ダイアログボックスで新しい FTP 設定構成を定義することもできます。これら 2 つのオプションは、相互排他的な関係です。

配信ディレクトリノードを使用するリポジトリ配信で利用可能な FTP 設定の範囲は、定義済み FTP 設定のリストに常に制限されます。ユーザは、各配信ディレクトリで FTP 設定構成を作成することはできません。

1 つまたは複数の追加の FTP 設定構成が利用可能な場合、管理コンソールの [配信ディレクトリ] 下の [ネットワークパス] ページに [タイプ] オプションが表示されます。管理者は、定義済み FTP 設定構成のいずれかにマッピング可能な配信ディレクトリノードを作成することができます。

ただし、追加の FTP 設定構成が利用できない場合は、管理コンソールの [ネットワークパス] ページに [タイプ] オプションが表示されず、ユーザは、定義済み FTP 設定構成にマッピング可能な配信ディレクトリノードを作成することができません。

[(デフォルト設定)] ページに表示される FTP 構成は、実際の IBFS ノードではありません。そのため、このページに構成が表示されていても、[ネットワークパス] ページに [タイプ] オプションは表示されません。配信ディレクトリで、[(デフォルト設定)] ページに割り当てられた FTP 構成を使用するためには、追加の FTP 設定構成としてこの構成のコピーを作成する必要があります。これにより、ベーシックスケジュールおよびアドバンスドスケジュールの [FTP 配信オプション] ダイアログボックスの定義済み FTP 構成のリストに追加の FTP 設定構成が表示されます。

各 FTP 配信用に FTP 設定構成を作成可能にする機能は、新しい FTP サーバを利用可能にし、FTP 配信スケジュールを設定する権限をユーザに与えます。その一方で、この機能により FTP サーバ接続の作成と管理も許可されるため、一元管理または監視という利点が失われます。そのため、利用可能な FTP 設定構成リストに対するフルコントロールを維持するためには、管理者が、[スケジュールでユーザ定義の FTP を許可しない] のチェックをオンにし、FTP 設定構成を [構成] ページのリストに制限することをお勧めします。

定義済み FTP 設定構成の作成および展開には複数段階の処理が含まれ、次の手順で実行されます。

1. 定義済み FTP 設定構成で利用可能な FTP サーバクライアントを特定し、パス、ユーザ ID、パスワード、セキュリティプロトコル、FTP、FTPS、SFTP に関する詳細情報を特定します。

2. [(デフォルト設定)] ページで、デフォルト設定の FTP 配信で使用可能な FTP 設定構成を作成します。
3. FTP スケジュールで、ユーザ独自の FTP 設定構成の作成を回避するには、[(デフォルト設定)] ページで [スケジュールでユーザ定義の FTP を許可しない] のチェックをオンにします。
4. FTP スケジュールで、ユーザ独自の FTP 設定構成の作成を許可するには、[(デフォルト設定)] ページで [スケジュールでユーザ定義の FTP を許可しない] のチェックをオフにします。
5. 追加の FTP サーバクライアントごとに FTP 設定構成を作成します。
6. FTP 配信スケジュールを作成し、これに定義済み FTP 設定構成を割り当てます。
7. WebFOCUS 管理コンソールの [配信ディレクトリ] 下で配信ディレクトリノードを作成し、これに定義済み FTP 設定構成を割り当てます。
8. リポジトリ配信スケジュールを作成し、定義済み FTP 設定構成をターゲットとする配信ディレクトリをこれに割り当てます。
9. 定義済み FTP 構成設定を使用する FTP およびリポジトリ配信スケジュールをテストし、必要に応じて調整します。

デフォルト FTP 設定構成の設定

[(デフォルト設定)] の構成では、ユーザが新しい FTP 配信スケジュールを作成したり、定義済み FTP 設定構成のリストから選択したりするたびにデフォルト設定で使用する FTP サーバを指定します。組織で定義済み FTP 設定構成が使用される場合、この FTP 設定構成を最初に作成する必要があります。この設定構成は、定義済み FTP 設定構成が使用される限り、利用可能にしておく必要があります。

このデフォルト設定は、他の FTP 設定構成で上書きすることができます。この場合、FTP 配信スケジュールを作成または実行する際に、[FTP 配信] ダイアログボックスの [FTP サーバ名] テキストボックスで選択します。ただし、この構成は実際の IBFS システムノードを定義しないため、WebFOCUS 管理コンソールの配信ディレクトリノードに割り当て可能な FTP 設定構成のリストには表示されず、リポジトリ配信スケジュールに使用することはできません。

デフォルト FTP 設定構成を作成または更新するには、[(デフォルト設定)] 構成ページに新しい値を直接入力するか、新しい値を選択します。[(デフォルト設定)] フォルダ内に存在する FTP 構成が、デフォルト構成として自動的に特定されます。このほかに、この構成をデフォルト構成として特定するためのチェックボックスまたは機能は、FTP 設定構成ページに表示されません。FTP 設定構成の詳細情報を更新したり、別のサーバの詳細情報で置換したりする必要がある場合は、このページの既存の構成の値を新しい値で直接上書きする必要があります。

手順

デフォルト設定構成を作成または更新するには

[(デフォルト設定)] フォルダで定義された FTP 設定構成が、デフォルト FTP 設定構成として自動的に指定されます。次の手順および [(デフォルト設定)] フォルダをクリックすると表示されるページを使用して、このデフォルト構成を作成または更新します。

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。

または

WebFOCUS ホームページで、[ユーティリティ]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。

または

レガシーホームページで、[ツール]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。
2. リボンの [表示] グループで、[構成] をクリックします。
3. 左側ウィンドウで [FTP の設定] フォルダを展開し、[(デフォルト設定)] フォルダをクリックします。
4. 99 ページの「[FTP 設定を構成するには](#)」の説明に従って、右側ウィンドウで FTP の設定を構成します。
5. 次の手順を実行し、ベーシックおよびアドバンスド FTP スケジュールで利用可能な FTP 設定構成の範囲を構成します。
 - a. 利用可能な FTP 設定構成の範囲を定義済み構成のリストに制限するには、[スケジュールでユーザ定義の FTP を許可しない] のチェックをオンにします。
 - b. 定義済み構成リストのほかにユーザ独自の FTP 設定構成の作成を許可するには、[スケジュールでユーザ定義の FTP を許可しない] のチェックをオフにします。
6. 構成の完了後、リボンの [構成の管理] グループで、[保存] を選択します。
7. 「ReportCaster 構成への変更を保存しますか」というメッセージで、[OK] をクリックします。
8. これらの変更を有効にするため、Distribution Server の再起動を指示するメッセージで、[OK] をクリックします。
9. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。
10. ReportCaster を閉じ、WebFOCUS からログアウトします。
11. WebFOCUS Application Server を停止し、再起動します。
12. WebFOCUS に再度ログインし、手順 1 から 4 の説明に従って ReportCaster を再度開き、変更を確認します。

手順 追加の FTP 設定構成を作成するには

次の手順に従って、[FTP の設定] ダイアログボックスを使用して追加の FTP 設定構成を作成します。この機能を使用して作成する FTP 設定構成は、FTP 配信スケジュールおよび配信ディレクトリノードで使用することができます。

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
または
WebFOCUS ホームページで、[ユーティリティ]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。
または
レガシーホームページで、[ツール]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。
2. リボンの [表示] グループで、[構成] をクリックします。
3. 左側ウィンドウで、[FTP の設定] フォルダを選択します。
4. リボンの [構成の管理] グループで [新規作成] をクリックし、[FTP の設定] ダイアログボックスを開きます。
5. 99 ページの「[FTP 設定を構成するには](#)」の説明に従って、FTP の設定を構成します。
6. 構成の完了後、リボンの [構成の管理] グループで、[保存] を選択します。
7. 「ReportCaster 構成への変更を保存しますか」というメッセージで、[OK] をクリックします。
8. これらの変更を有効にするため、Distribution Server の再起動を指示するメッセージで、[OK] をクリックします。
9. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。
10. ReportCaster を閉じ、WebFOCUS からログアウトします。
11. WebFOCUS Application Server を停止し、再起動します。
12. WebFOCUS に再度ログインし、手順 1 から 4 の説明に従って ReportCaster を再度開き、変更を確認します。

手順 FTP の設定構成を編集するには

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
または

WebFOCUS ホームページで、[ユーティリティ]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。

または

レガシーホームページで、[ツール]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。

2. リボンの [表示] グループで、[構成] をクリックします。
3. 左側ウィンドウで [FTP の設定] フォルダを展開し、更新するフォルダをクリックします。
4. 99 ページの「[FTP 設定を構成するには](#)」の説明に従って、右側ウィンドウで FTP の設定を構成します。
5. 編集の完了後、リボンの [構成の管理] グループで [保存] をクリックし、設定を保存します。
6. 「ReportCaster 構成への変更を保存しますか」というメッセージで、[OK] をクリックします。
7. これらの変更を有効にするため、Distribution Server の再起動を指示するメッセージで、[OK] をクリックします。
8. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。
9. ReportCaster を閉じ、WebFOCUS からログアウトします。
10. WebFOCUS Application Server を停止し、再起動します。
11. WebFOCUS に再度ログインし、手順 1 から 4 の説明に従って ReportCaster を再度開き、変更を確認します。

手順

FTP 設定を構成するには

1. [FTP の設定] ダイアログボックスまたは [FTP の設定] ページで、FTP 設定の各テキストボックスに値を入力します。次のガイドラインを参考にしてください。
 - ❑ **名前** この FTP サーバ構成のフォルダを識別する一意の名前を入力します。この名前は FTP スケジュールの作成時には使用されません。一意の名前を指定する必要があります。
 - ❑ **FTP ホスト** この接続のターゲットとなる FTP サーバの名前を入力します。FTP スケジュールの作成時にこの名前が使用されます。
 - ❑ **FTP パス** この接続のターゲットとなる FTP サーバのディレクトリ名を入力します。この名前は FTP スケジュールの作成時には使用されません。
 - ❑ **ユーザ** この FTP サーバへのファイル転送を実行するユーザ ID およびパスワードを入力します。

- ☐ **SFTP セキュリティプラグイン** SFTP サーバで暗号化キーを必要とする場合は、SFTP セキュリティプラグインを使用して値を提供することができます。このプラグインを使用するには、SFTP セキュリティインターフェースを実装して、セキュア FTP サーバとの接続に必要なパブリックキーの値を動的に取得するカスタム Java クラス名を入力します。デフォルトの実装を使用する場合は、75 ページの「[SMTP セキュリティプラグインのデフォルト実装を使用するには](#)」を参照してください。
- 2. FTP スケジュールでの使用時に、この FTP サーバがインデックスファイルを生成する必要がある場合は、[バーストレポートの配信時にインデックスファイルを作成する] のチェックをオンにします。
- 3. [FTP サーバ情報] セクションで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - ☐ **このサーバには FTP が必要** これがデフォルト値です。FTP サーバが SFTP または FTPS を必要としない場合は、この選択を受容します。
 - ☐ **このサーバには TLS/SSL (FTPS) が必要** FTP サーバに FTPS が必要な場合は、このオプションを選択し、FTPS サーバ接続に関連する特性である [セキュリティモード]、[プロトコル]、[データ接続セキュリティ] の設定を選択します。
 - ☐ **このサーバには SFTP が必要** FTP サーバに SFTP が必要な場合は、このオプションを選択し、サーバに必要な認証タイプを選択します。

手順

SFTP セキュリティプラグインのデフォルト実装を使用するには

1. ReportCaster ステータスのリボンの [表示] グループで、[構成] を選択します。
2. 左側ウィンドウで [FTP の設定] フォルダを展開し、SFTP セキュリティプラグインが必要な FTP の設定構成フォルダを選択します。
右側ウィンドウに [FTP の設定] および選択した構成の値が表示されます。
3. [SFTP セキュリティプラグイン] テキストボックスに、SFTP セキュリティプラグインプログラムの名前を入力します。デフォルトのプログラム名は次のとおりです。
`ibi.broker.scheduler.plugin.DefaultSFTPSecurityExit`
4. リボンの [構成の管理] グループで、[保存] を選択します。
5. 変更の保存を確認するメッセージで、[OK] をクリックします。
6. Distribution Server の再起動と、Web アプリケーションの再ロードを指示するメッセージで、[OK] をクリックします。

注意: この手順では、後で Web アプリケーションの再ロードと Distribution Server の再起動を実行します。

7. WebFOCUS Application Server を停止します。
8. テキストエディタを開き、`sftp_private_key.txt` というファイルを作成します。
9. `ssh-keygen` ツールを使用して、暗号化されたプライベートキーを生成します。
`ssh-keygen` ツールについての詳細は、以下の OpenBSD オンラインドキュメントを参照してください。
<http://man.openbsd.org/OpenBSD-current/man1/ssh-keygen.1#NAME>
10. `ssh-keygen` ツールで生成したプライベートキーテキストをコピーし、`sftp_private_key.txt` に貼り付けます。
11. ファイルシステムで、`...ibi¥WebFOCUSnn¥ReportCaster¥cfg` ディレクトリに移動します。
この場合の `nn` は、使用する WebFOCUS ソフトウェアのバージョン番号です。
UNIX 環境を使用する場合、正確なファイルパスは、`../ReportCaster/cfg` です。
12. `sftp_private_key.txt` ファイルを、`cfg` ディレクトリに保存します。

下図は、`cfg` ディレクトリに保存された `sftp_private_key.txt` ファイルを示しています。

Name	Date modified	Type	Size
 <code>dsKeystore.jks</code>	3/8/2018 5:13 PM	JKS File	3 KB
 <code>log4j</code>	3/8/2018 5:16 PM	XML Document	3 KB
 <code>log4j_stop</code>	3/8/2018 5:16 PM	XML Document	2 KB
 <code>log4jUtil</code>	3/8/2018 5:16 PM	XML Document	2 KB
 <code>rametrics</code>	3/8/2018 5:16 PM	FEX File	1 KB
 <code>Readme</code>	3/8/2018 5:16 PM	Text Document	1 KB
 <code>zipencrypt</code>	3/8/2018 5:16 PM	Text Document	1 KB
 <code>log4j2</code>	5/13/2018 10:39 PM	XML Document	10 KB
 <code>log4j2_stop</code>	5/13/2018 10:39 PM	XML Document	2 KB
 <code>log4j2_util</code>	5/13/2018 10:39 PM	XML Document	2 KB
 <code>sftp_private_key</code>	6/1/2018 3:54 PM	Text Document	1 KB

13. WebFOCUS Application Server を再起動します。
14. WebFOCUS に再度ログインし、ReportCaster ステータスを開きます。
15. Distribution Server を再起動するには、ReportCaster ステータスのリボンの [構成の管理] グループで [再起動] を選択します。
デフォルト SFTP プラグインが使用されている場合、Distribution Server は、SFTP 認証を使用する FTP サーバでのスケジュール配信に、`sftp_private_key.txt` ファイルのプライベートキーを使用して SFTP サーバへの認証を試行します。

手順 FTP の設定構成を削除するには

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ステータス] を選択します。ReportCaster

または

WebFOCUS ホームページで、[ユーティリティ]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。

または

レガシーホームページで、[ツール]、[ReportCaster ステータス] を順に選択します。

2. リボンの [表示] グループで、[構成] をクリックします。
3. 左側ウィンドウで [FTP の設定] フォルダを展開し、削除するフォルダをクリックします。
4. リボンの [構成の管理] グループで、[削除] を選択します。
5. 「ReportCaster 構成への変更を保存しますか」というメッセージで、[OK] をクリックします。
6. これらの変更を有効にするため、Distribution Server の再起動を指示するメッセージで、[OK] をクリックします。
7. リボンの [構成の管理] グループで [再起動] をクリックし、変更を適用します。
8. ReportCaster を閉じ、WebFOCUS からログアウトします。
9. WebFOCUS Application Server を停止し、再起動します。
10. WebFOCUS に再度ログインし、手順 1 から 4 の説明に従って ReportCaster を再度開き、変更を確認します。

左側ウィンドウの [FTP の設定] フォルダから、この FTP フォルダが削除されます。

圧縮 (ZIP) の設定

[構成] タブの [圧縮 (ZIP) の設定] フォルダには、配信 ZIP ファイルの拡張子、配信に使用する ZIP 暗号化方法、ZIP 暗号化パスワードプラグインを定義するための設定が格納されています。

[圧縮 (ZIP) の設定] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
指定されていない 場合、拡張子 zip を 追加する	必須 このオプションは、 デフォルト設定で 選択されています。	Email または FTP で配信されたスケジュール に入力した ZIP ファイル名に、自動的に .zip 拡張子を追加するかどうかを制御します。 入力したファイル名の拡張子として .zip を自 動的に追加するには、このオプションを選択 します。 ユーザが入力したとおりのファイル名を使用 して、.zip を追加しない場合は、このオプシ ョンを選択しません。
Email 配信 ZIP ファ イルの最小サイズ	必須 デフォルトサイズ はキロバイト (KB) で、0 (ゼロ) に設定 されています。	[MB]、[KB] のいずれかを選択し、上下の矢印 を使用してファイルサイズをカスタマイズし ます。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
ZIP 暗号化パスワードプラグイン	必須 デフォルト値は [なし] です。	ZIP ファイル形式で配信するスケジュール出力のパスワード保護と暗号化を有効にするグローバル設定です。この設定は、Distribution Server によるパスワードの取得方法を制御します。圧縮ファイルは、AES 256 で暗号化されます。詳細は、107 ページの「デフォルトの ZIP 暗号化パスワードプラグインを構成するには」を参照してください。 利用可能な値には、次のものがあります。 ☐ なし 保護された圧縮ファイルパスワードの取得に、プラグインを使用しません。 [なし] に設定すると、圧縮ファイルの暗号化パスワード機能を使用する際に、プラグインを使用する代わりに、ダイナミック配信リストまたは配信ファイルにパスワードを埋め込むことができます。 ☐ デフォルト 指定されたデフォルトのプラグインを使用して、ZIP 暗号化パスワードを取得します。 ☐ カスタム [ZIP 暗号化パスワードプラグイン名] で指定したカスタムプラグインを使用します。
ZIP 暗号化パスワードプラグイン名	[ZIP 暗号化パスワードプラグイン] を [カスタム] に設定する場合、必須です。	パスワードの取得に使用するカスタムプラグイン名を入力します。このプラグインは、Distribution Server から呼び出し可能な状態にしておく必要があります。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
ZIP エンコード	オプション	ReportCaster Distribution Server プラットフォームのデフォルト以外のエンコードを指定します。指定するエンコードは、Distribution Server 上にインストールされた WinZip または他の ZIP ユーティリティで使用されているエンコードに一致する必要があります。 注意： この設定は、管理コンソールで行うこともできます。
最大同時圧縮数	オプション デフォルト値は 0 (ゼロ) です。	Distribution Server が同時に実行する圧縮処理の総数です。実行中ジョブに圧縮処理が多数存在する場合 (例、送信前の出力の圧縮)、Distribution Server で利用可能なリソースすべてが圧縮処理によって消費される可能性があります。この状況を回避するには、この値を小さくします。
スケジュールで FTP アーカイブファイル名が指定されていない場合、配信ファイル名を使用	オプション	このチェックボックスをオンにすると、配信方法として FTP を使用するスケジュールを作成し、アーカイブファイルをブランクにした場合に、Distribution Server は、配信するアーカイブファイル名として FTP 配信リストに存在する名前を使用します。

ZIP 暗号化保護デフォルトプラグインの使用

ReportCaster が提供するデフォルトプラグインを使用して、暗号化パスワードを、スケジュールレポートが格納される WebFOCUS リポジトリフォルダと関連付けることができます。デフォルトプラグインは、WebFOCUS リポジトリの [ワークスペース] フォルダパスに格納されるレポートのパスワード保護にのみ使用可能です。ZIP 暗号化保護デフォルトプラグインのカスタマイズについての詳細は、107 ページの「[デフォルトの ZIP 暗号化パスワードプラグインを構成するには](#)」を参照してください。

プラグインはスケジュールの実行時にパスワードを Distribution Server に送信し、そこで出力が暗号化されて圧縮されます。デフォルトプラグインを使用するには、[ZIP 暗号化パスワードプラグイン] を [デフォルト] に設定します。デフォルトプラグインは、パスワードファイル `zipencrypt.txt` を参照し、ワークスペースとパスワードを検索します。インストール中、このファイルはブランクの状態です。...¥ReportCaster¥cfg ディレクトリに格納されます。

このファイルのパスワードステートメントは、次のフォーマットで記述します。

`domain, domainhref, password,$`

説明

DomainHREF

WebFOCUS リポジトリフォルダへのリンクを含む HTML ページの参照 (例、`untitled/untitled.htm`) です。

password

関連付けられたワークスペースのコンテンツを表示するためのパスワードです。

注意： ReportCaster ログには、暗号化が使用されたことが示されます。

デフォルトプラグインを使用する際は、次のガイドラインに従います。

❑ `zipencrypt.txt` ファイルは、...¥ReportCaster¥cfg ディレクトリに格納されている必要があります。

❑ `zipencrypt.txt` ファイルには、ReportCaster リポジトリレポートの ReportCaster リポジトリフォルダを記述しておく必要があります。

注意： ZIP 暗号化パスワードプラグインを使用するには WebFOCUS リポジトリフォルダが必要なため、WebFOCUS リポジトリレポート以外のタスクを入力した場合、そのタスクの出力配信に失敗します。

❑ `zipencrypt.txt` ファイルの WebFOCUS リポジトリフォルダのエントリが、パスワードなしで含まれている場合、出力は暗号化されません。その際、圧縮されるかどうかは、スケジュール作成時に選択した ZIP オプションで決定されます。

❑ WebFOCUS リポジトリフォルダとパスワードの両方がパスワードファイルに含まれている場合は、スケジュール作成時に選択した ZIP オプションに関わらず、出力は圧縮されます。

`zipencrypt.txt` パスワードファイルを編集するには、次の手順を実行します。

1. Distribution Server の bin ディレクトリから、「`decdpwds`」という復号化ユーティリティを実行します。

注意: decdpws ユーティリティを実行すると、...ibi¥WebFOCUS8x¥ReportCaster¥log ディレクトリに「decdpws.log」というログファイルが作成されます。

2. ワークスペースの追加やパスワード変更など、必要な追加や編集を加えます。
3. 「encdpws」という暗号化ユーティリティを実行し、ファイルを暗号化します。

注意: encdpws ユーティリティを実行すると、...ibi¥WebFOCUS8x¥ReportCaster¥log ディレクトリに「encdpws.log」というログファイルが作成されます。

手順

ZIP 設定を構成するには

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。

注意: 権限を所有するユーザは、管理コンソールから ReportCaster 構成ツールにアクセスすることもできます。

3. 左側ウィンドウで、[圧縮 (ZIP) の設定] フォルダを選択します。
4. 前述の表を参照し、[圧縮 (ZIP) の設定] の各テキストボックスに値を入力します。
5. 圧縮した出力を暗号化し、パスワードを保護する場合は、ZIP 暗号化パスワードプラグインを使用することができます。ユーザ独自のプログラムを使用してパスワードを提供するには、ドロップダウンリストから [カスタム] を選択し、[ZIP 暗号化パスワードプラグイン名] テキストボックスにプログラム名を入力します。デフォルト値を使用するには、[デフォルト] を選択します。詳細は、107 ページの「[デフォルトの ZIP 暗号化パスワードプラグインを構成するには](#)」を参照してください。
6. [保存] をクリックします。

手順

デフォルトの ZIP 暗号化パスワードプラグインを構成するには

1. 開始ページで [メインメニュー] を選択し、[クイックアクセス] セクション下で [ReportCaster ステータス] を選択します。
2. [構成] ボタンをクリックします。
3. 左側ウィンドウで、[圧縮 (ZIP) の設定] フォルダを選択します。
4. [ZIP 暗号化パスワードプラグイン] ドロップダウンリストから [デフォルト] を選択します。

デフォルト実装を使用するには、埋め込み Email を無効にする必要があります。

[OK] をクリックすると、埋め込み Email が自動的に無効になります。

- 5. [保存] をクリックします。
- 6. ...¥ReportCaster¥cfg ディレクトリに、zipencrypt.txt ファイルを作成します。このファイルに、ZIP 暗号化パスワードプラグインで使用するパスワードを格納します。

このファイルの構造は次のとおりです。

Domain, domainhref, Password,\$

1 列目は「Domain」という語句、2 列目はスケジュールするレポートが格納されたフォルダ名、3 列目はパスワードです。

注意: このプラグインを構成した場合は、WebFOCUS プロシジャのみをスケジュールすることができます。パスワードが見つかった場合、出力が暗号化されます。パスワードが見つからない場合、出力は圧縮されますが、暗号化はされません。

- 7. Distribution Server を再起動します。

デフォルトスケジュール

[構成] タブの [デフォルトスケジュール] フォルダには、 スケジュール終了日およびスケジュール終了時間の設定が格納されています。

注意: タイムゾーンによっては、デフォルトのスケジュール終了日が 2100 年 1 月 1 日に設定される場合があります。

下表は、[デフォルトスケジュール] フォルダで指定可能な構成設定の一覧および説明です。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
スケジュール終了 日	必須	ドロップダウンリストをクリックすると、カレンダーが有効になり、スケジュールの終了日を指定することができます。
スケジュール終了 時間	必須	スケジュールの時間を直接入力することができます。また、上下の矢印を使用して、スケジュールの終了時間を割り当てることもできます。

ログ削除と ReportLibrary 有効期限

[構成] タブの [ログ削除と ReportLibrary 有効期限] フォルダには、ログファイルの削除、ログ削除の期限、ログ削除時間の設定が格納されています。

[ログ削除と ReportLibrary 有効期限] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
Distribution Server の開始時にログを削除	オプション デフォルト設定では、このチェックはオフになっています。	このチェックをオンにすると、[ログ削除の期限] 設定で以前に定義されていた日数は、Distribution Server がコマンドプロンプトから再起動される際に、自動的に削除されます。 注意 ☐ サーバの再起動と同じ日に作成されたログは、この操作により削除されません。 ☐ このオプションは、ReportCaster コンソールから実行されるサーバの再起動には適用されません。 ☐ このオプションによって有効化される削除操作は、[ログ削除時間] 設定によってスケジュールされるログ削除とは無関係です。

ログ削除と ReportLibrary 期限切れの日単位スケジュールセクション

ログ削除の期限 (日数)	オプション	設定した日数を超過したログレポートを自動的に削除します。ログ削除の日単位スケジュールを無効にするには、[ログ削除の期限 (日数)] の値を 0 (ゼロ) に設定します。 注意：この設定は、管理コンソールで行うこともできます。
ログ削除時間	オプション	ログ削除の開始時間です。 注意：この設定は、管理コンソールで行うこともできます。

LDAP の設定

ReportCaster を LDAP データソースから Email 情報を取得するよう構成することができます。LDAP は、Email 情報の管理機能であり、Windows プラットフォームの Active Directory をはじめとする主要なメールサーバベンダーにより採用されています。

[構成] タブの [LDAP の設定] フォルダには、LDAP サーバとの接続とセキュリティを定義する設定、および LDAP Email の設定が格納されています。

[LDAP の設定] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
設定 - 全般		
Active Directory	デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。	LDAP で Active Directory テクノLOGYを使用する場合は、このオプションを選択します。 LDAP でその他のテクノLOGYを使用する場合は、このオプションを選択しません。
セキュア接続 (SSL)	デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。	LDAP サーバとの通信に SSL (セキュアソケットレイヤ) を使用するかどうかを指定します。
LDAP ホスト	デフォルト値は設定されていません。	LDAP ディレクトリサーバのホスト名または IP アドレスです。
LDAP ポート	デフォルト値は 389 です。	ディレクトリサーバのリスナポート番号です。
LDAP サーチベース	デフォルト値は設定されていません。	LDAP の検索フィルタです。LDAP 検索では [サーチベース] 下のサブツリーのみが利用可能です (例、dc=ibi, dc=com)。
サーチタイムアウト	デフォルト値は 120 です。	ReportCaster が LDAP データソースを検索するときのタイムアウトまでの時間を秒単位で指定します。

設定	オプションまたは 必須/デフォルト値	説明と有効値
セキュリティプリ ンシパル	デフォルト値は設 定されていません。	ユーザ認証に使用するサービスアカウントで す。ディレクトリ内のユーザ情報を検索する には、ユーザに適切なアクセス権が必要です。 このオプション右側のアイコンを選択して [ユーザ] ダイアログボックスを開き、ユーザ 名とパスワードを入力します。
LDAP Email の設定		
Email LDAP 有効	デフォルト設定で は、このオプション は選択されていま せん。	ReportCaster による LDAP データソースの Email アドレス情報検索を有効にするかどう かを指定します。
Email マッピング	デフォルト値は [mail] です。	Email 項目の属性タイプです。
Email ユーザフィル タ	デフォルト値は選 択した LDAP タイ プにより異なりま す。	検索する Email 項目のフィルタです。以下は その例です。 <pre>((& (mailnickname=*) ((&(objectCategory=person) (objectClass=user)(!(homeMDB=*)) (!(msExchHomeServerName=*)) (&(objectCategory=person) (objectClass=user)(!(homeMDB=*) (msExchHomeServerName=*)) (&(objectCategory=person) (objectClass=contact) (objectCategory=group) (objectCategory=publicFolder)))))</pre>
名マッピング	デフォルト値は [givenName] です。	名 (ファーストネーム) 項目の属性です。
姓マッピング	デフォルト値は [sn] です。	姓 (ラストネーム) 項目の属性です。

データサーバの設定

[構成] タブの [データサーバ] フォルダには、ReportCaster に関連する Reporting Server の構成設定が格納されています。このフォルダの構成設定を使用して、ReportCaster で複数の Reporting Server を構成することもできます。

注意：データサーバの接続情報は、WebFOCUS Client に格納されます。ReportCaster には格納されません。ReportCaster は、Distribution Server とともにインストールされている WebFOCUS Client を介してスケジュール済みプロシジャを実行します。ReportCaster ジョブが WebFOCUS Client で実行される際は、代替デファードサーバが使用されます (代替デファードサーバが定義されている場合)。代替デファードサーバの構成についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

[データサーバ] フォルダには、次の構成設定が格納されています。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
データサーバフォルダの設定		
グラフエージェント	デフォルト値は 1 です。	グラフの処理を最適化します。パフォーマンスを考慮して、通常は、各同時グラフレポートのグラフエージェントの値を 1 に設定する構成をお勧めします。ただし、最適なグラフエージェントの値は、ユーザの内部テストにより決定されます。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
グラフ Servlet URL	オプション デフォルト値は設定されていません。	デフォルトのグラフサーバの設定を上書きし、グラフィメージファイルが Application Server 上で作成されることを構成します。 次の値を入力します。 http://hostname/context_root/IBIGraphServlet 説明 hostname WebFOCUS Client がインストールされている Application Server のホスト名です。 context_root Application Server に展開した WebFOCUS Web アプリケーションのコンテキストルートです。この値はサイトにより異なります。デフォルト値は <code>ibi_apps</code> です。 この設定は、Reporting Server および WebFOCUS プロシージャで使用することができます。 この設定は、Web サーバのセキュリティがオンの場合は使用しないでください。Web サーバのセキュリティには、基本認証、IWA、SSL、サードパーティセキュリティ製品 (SiteMinder など) があります。これらの認証が有効になっている場合、Web サーバセキュリティの設定により、WebFOCUS でグラフを作成できなくなる可能性があります。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
Excel Servlet URL	オプション	EXCEL 2007 ファイル (.xlsx) を構成するファイルコンポーネントの圧縮に使用する Application Server を次のように指定します。 &URL_PROTOCOL://servername/alias/IBIEXCELSERVURL 説明 URL_Protocol HTTP を表します。 servername WebFOCUS Client がインストールされている Application Server の名前です。 alias WebFOCUS アプリケーションのコンテキストルートです。デフォルト値は <code>ibi_apps</code> です。 この設定は、Reporting Server プロシジャおよび WebFOCUS プロシジャで使用することができます。この設定は、Web サーバのセキュリティがオンの場合は使用しないでください。Web サーバのセキュリティには、基本認証、IWA、SSL、サードパーティセキュリティ製品 (SiteMinder など) があります。これらの認証が有効になっている場合、Web サーバセキュリティの設定により、WebFOCUS で Excel 2007/2010 ファイルを作成できなくなる可能性があります。
FOCEXURL/ FOCHTMLURL	デフォルト値は次のとおりです。 http://localhost:8080	FOCEXURL/FOCHTMLURL のホスト名およびポート番号を含む完全修飾 URL 指定します。SSL セキュリティで実行中の場合は、https を使用するよう URL を更新します。

データサーバの個別設定

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
名前	必須	選択したデータサーバの名前です。 注意：データサーバ名の大文字と小文字は区別されます。WebFOCUS Client ではデータサーバは大文字で定義されるため、ReportCaster でもデータサーバを大文字で定義する必要があります。
デフォルト	必須	このオプションは、デフォルト設定で選択されています。
スケジュール済みプロシジャに FOCEXURL/ FOCHTMLURL を設定	必須	この設定は、デフォルト設定で選択されています。この設定のチェックをオフにした場合、Distribution Server は、スケジュール済みプロシジャに対して FOCEXURL および FOCHTMLURL の値を設定しません。そのため、この設定のチェックをオフにした場合、edasprof.prf ファイルで FOCEXURL または FOCHTMLURL がすでに設定されている場合は、その設定が引き続き有効になります (スケジュール済みプロシジャで値が上書きされていない場合)。
セキュリティセクション		

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
セキュリティタイプ	デフォルトの設定では、このオプションは [ユーザ] に設定されています。	静的 有効な実行 ID とパスワードは、[ユーザ] 設定で指定します。スケジュールの作成時に、実行 ID とパスワードを指定することはできません。 ユーザ スケジュールの作成時に、有効な実行 ID とパスワードを指定する必要があります。 共有 スケジュールの作成時に、ユーザ ID とパスワードが、実行 ID とパスワードとして内部で割り当てられます。 注意： 実際のパスワードは WebFOCUS リポジトリに格納されないため、Reporting Server への接続にパスワードを必要としない場合にのみ [共有] を使用することができます。 Trusted 実行 ID はスケジュールのオーナーで、スケジュールの実行時に Reporting Server にパスワードは送信されません。 注意： [Trusted] オプションを選択する場合、Trusted 接続を受容するよう、Reporting Server を構成しておく必要があります。
ユーザ	[セキュリティタイプ] が [静的] に設定されている場合に必須です。	デフォルトの実行 ID およびパスワードです。 この ID とパスワードにアクセスするには、[ユーザ] テキストボックス右側のアイコンを選択します。表示される [ユーザ] ダイアログボックスで、ユーザ名とパスワードを入力することができます。
グラフセクション		
グラフエンジン	必須。値は [GRAPH53] です。	サーバサイドグラフで使用するグラフエンジンを制御します。デフォルト設定では、[GRAPH53] が指定されています。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
Headless	デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。	Reporting Server 上にグラフィックスカードが存在するかを決定します。グラフィックスカードがサーバ上に存在しない場合は、このオプションを選択します。グラフィックスカードがサーバ上に存在する場合は、このオプションを選択しません。
最大接続数 (スレッド数)	必須 デフォルトの接続数は 3 です。	Reporting Server で利用可能な接続の最大数です。最大スレッド数としては、使用中のハードウェアおよびメモリでサポートされる任意の値を指定することができます。

ReportCaster での Reporting Server の構成

ReportCaster 構成ツールの [データサーバ] フォルダを使用して、ReportCaster で複数の Reporting Server を構成することができます。デフォルトサーバ「EDASERVE」の値は、インストールプログラムにより自動的に入力されますが、追加の Reporting Server はすべて構成ファイルに直接追加する必要があります。

注意：Client でデフォルトの Reporting Server が変更された場合、その変更は、[IBFS キャッシュクリーナ] サービスで指定された期間が経過するまで、または Distribution Server が再起動されるまで有効になりません。Distribution Server が別のマシンにインストールされ、Client のコピーが存在する場合、デフォルトの Reporting Server が変更されると、その変更は、Distribution Server と同一マシンにインストールされている Client に同一の変更を加えるまで有効になりません。

手順 Reporting Server を追加するには

- [構成] タブの左側パネルで [データサーバ] フォルダを選択し、リボンの [構成の管理] グループで [新規作成] をクリックします。
注意：デフォルトデータサーバ名は、SERVER、SERVER 2、SERVER 3 などです。
- [利用可能なデータサーバ] ダイアログボックスで、1 つまたは複数のデータサーバを選択し、[OK] をクリックします。必要に応じて、[すべて選択] のチェックをオンにすることもできます。
- 左側パネルの [データサーバ] フォルダまたは右側パネルのサーバリストで、新しいサーバノードをダブルクリックします。

右側パネルに、選択したサーバのデフォルトプロパティが表示されます。

4. 該当する設定に値を入力します。

[名前] テキストボックスで、ReportCaster 構成に追加するサーバの名前が、WebFOCUS Client サーバ接続の構成で指定されたサーバの NODE 設定に一致することを確認します。WebFOCUS Client サーバ接続を確認するには、管理コンソールの [構成] タブで [Reporting Server] を選択します。

必要に応じて [セキュリティタイプ] および [最大接続数] 設定の値を変更するか、デフォルト値を受容します。

また、追加するデータサーバを新規スケジュール作成時のデフォルトデータサーバにする設定、スケジュール済みジョブ実行時に FOCEXURL/FOCHTMLURL 設定が自動的に追加されないようにする設定、およびデータサーバにグラフィックスカードがないことを示す設定 (Headless) もあります。

5. 変更を ReportCaster で有効にするため、[構成] タブのツールバーで、[保存]、[再起動] を選択します。

注意：サーバ名を変更すると、既存のジョブはすべて実行することができなくなるため、Reporting Server 名の変更はお勧めしません。

ReportLibrary の設定

[構成] タブの [ReportLibrary] フォルダには、ReportLibrary 配信の設定が格納されています。[ReportLibrary] フォルダ下には、[その他の ReportLibrary 設定] および [ウォッチリストの設定] フォルダもあります。[その他の ReportLibrary 設定] フォルダで ReportLibrary アクセスオプションを指定したり、[ウォッチリストの設定] フォルダで ReportLibrary ウォッチリストオプションを設定したりできます。

[ReportLibrary] フォルダには、次の構成設定が格納されています。また、ReportLibrary のバージョン期限切れ処理は、[ログ削除と ReportLibrary 有効期限] フォルダの [ログ削除時間] で指定した時間の 1 時間後に実行されます。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
ReportLibrary フォルダの設定		

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
ReportLibrary 配信オプション	必須	ReportLibrary にスケジュール出力を配信する際に、ReportCaster に表示される ReportLibrary のアクセスオプションまたは Email オプションを非表示にすることができます。
Email 通知のデフォルト ReportLibrary URL	必須 Distribution Server のインストール時に構成されます。 デフォルト値は、<code>http://hostname:port/ibi_apps/library/libreport.jsp</code> です (<code>hostname</code> は Web アプリケーションのホスト名)。ポート番号は、値が 8080 (デフォルト値) 以外の場合にのみ指定します。	Email 通知に含まれる URL により、ReportLibrary の特定のコンテンツにアクセスすることができます。 この値は、配信方法として [ReportLibrary] を選択し、さらに [ReportLibrary にレポート保存後 Email を送信] オプションを選択した場合に、ベーシックスケジュールツールおよびアドバンススケジュールツールの [配信] タブの [ReportLibrary URL] の値として使用されます。 注意： [ReportLibrary URL] をブランクにしておくと、レポート ID およびバースト値が Email 通知とともに送信されることはありません。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
Email 通知にデフォルト ReportLibrary URL を使用	必須	選択済み Distribution Server は、通知を送信する際に、ReportCaster 構成ファイルで指定された URL を常に使用します。 未選択 Distribution Server は、通知を送信する際に、ReportCaster 構成ファイルで指定された URL を自動的に使用しません。スケジュールで指定された URL が使用されます。 注意： ReportLibrary に配信された URL タスクの出力に JavaScript が含まれていると、ReportLibrary Email 通知からレポートを開いた際にスクリプトエラーが発生する場合があります。
通知 Email とともにレポートの ID とバージョンを送信する	必須	選択済み 配信 Email 通知とともに、レポート ID とバースト値が送信されます。 未選択 配信 Email 通知では、レポート ID とバースト値は送信されません。
スケジュールのデフォルト圧縮オプションを選択	デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。	選択済み ReportCaster は、ReportLibrary に格納されるファイルを圧縮します。 未選択 ReportCaster は、ReportLibrary に格納されるファイルを圧縮しません。

その他の ReportLibrary 設定フォルダ

ReportLibrary 有効期限セクション

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
バージョン	デフォルト設定で選択されています。	ReportLibrary には、指定したバージョン数の最新の出力が保存されます。最大で 9999 までの数値を指定することができます。 上下矢印を使用してバージョン数を選択します。
日	オプション ReportLibrary 有効期限のデフォルトオプションは [バージョン] です。	指定された日数期間、レポートを ReportLibrary に保存します。最大で 9999 までの数値を指定することができます。 上下矢印を使用して日数を選択します。
週	オプション ReportLibrary 有効期限のデフォルトオプションは [バージョン] です。	指定された週数期間、レポートを ReportLibrary に保存します。最大で 9999 までの数値を指定することができます。 上下矢印を使用して週の数を選択します。
月	オプション ReportLibrary 有効期限のデフォルトオプションは [バージョン] です。	指定された月数期間、レポートを ReportLibrary に保存します。最大で 9999 までの数値を指定することができます。 上下矢印を使用して月数を選択します。
年	オプション ReportLibrary 有効期限のデフォルトオプションは [バージョン] です。	指定された年数期間、レポートを ReportLibrary に保存します。最大で 9999 までの数値を指定することができます。 上下矢印を使用して年数を選択します。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
期限切れなし	オプション	[期限切れなし] オプションは、デフォルト設定で有効になっています。このオプションを無効にするには、[有効]のチェックをオフにします。 この設定は、ReportLibrary 配信オプションを使用してレポートをスケジュールする際に、[期限切れなし] オプションを選択可能にするかどうかを制御します。
ReportLibrary アクセスオプションセクション		
プライベート (オーナーのみアクセス可)	オプション	スケジュールのオーナーのみが ReportLibrary レポートにアクセスできます。これがデフォルト値です。
公開済み (WebFOCUS セキュリティポリシーによるアクセス許可)	オプション	ReportLibrary レポートの格納先フォルダで表示権限を所有するすべてのユーザが ReportLibrary レポートにアクセスできます。ReportLibrary レポートの格納先フォルダが公開済みフォルダであり、スケジュールのオーナーがそのフォルダ内のコンテンツの公開権限を所有している必要があります。
共有 ([共有コンテンツ] フォルダに表示)	オプション	ReportLibrary レポートの格納先フォルダで表示権限を所有するすべてのユーザが ReportLibrary レポートにアクセスできます。レポートは、[共有コンテンツ] フォルダ下に表示されます。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
高度な共有 (アクセスリストの設定により [共有コンテンツ] フォルダに表示)	オプション	アクセスリストで定義されたグループまたはユーザ、およびスケジュールのオーナーのみが ReportLibrary レポートにアクセスできます。レポートは、[共有コンテンツ] フォルダ下に表示されます。
ウォッチリストの設定フォルダ		
ReportLibrary ウォッチリストを有効にする	デフォルト設定で、このチェックはオンになっています。	有効 ユーザがリポジトリ内の ReportLibrary レポートを右クリックすると、[ウォッチリストに登録] オプションが表示され、その ReportLibrary レポートを登録することができます。 無効 ユーザがリポジトリ内の ReportLibrary レポートを右クリックした際に、[ウォッチリストに登録] オプションは表示されません。
送信者	オプション	ウォッチリストの Email 通知を送信するユーザ名、部署名、グループ名などです。この通知は、ウォッチリストの新しいバージョンのレポートプロシジャ (FEX) が、ReportLibrary に送信されたことを受信者に通知します。通知には、レポートジョブの説明およびレポートプロシジャ (FEX) へのリンクが含まれます。
Email メッセージ	オプション	ウォッチリスト Email 通知の本文のメッセージです。
Email 返信アドレス	オプション	ウォッチリスト Email 通知からの返信が配信される Email アドレスです。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
Email 件名	オプション	ウォッチリスト Email 通知の件名に表示されるテキストです。
通知モード	オプション デフォルト値は [ウォッチリスト] です。	レポートプロシジャ (FEX) が ReportLibrary に保存されてウォッチリストに登録されたときに、Email 通知を送信するようレポートスケジュールが設定されている場合は、次のオプションがあります。 ☐ ウォッチリスト ウォッチリスト通知 Email のみ配信されます。 ☐ ウォッチリストと ReportLibrary ウォッチリストと ReportLibrary の両方の通知 Email が配信されます。 ☐ Email 通知なし ウォッチリストの Email 通知は送信されません。

ReportLibrary 配信オプションの制限

[ReportLibrary 配信オプション] を使用して、ユーザがベーシックスケジュールツールおよびアドバンスドスケジュールツールで ReportLibrary 配信のスケジュールを作成する際に、使用可能な ReportLibrary アクセスオプションおよび Email オプションを制限することができます。

手順

ReportLibrary 配信オプションを制限するには

1. ReportCaster ステータスの [構成] タブで、[ReportLibrary] フォルダを選択します。
2. [ReportLibrary 配信オプション] テキストボックス右側のアイコンをクリックします。

[ReportLibrary 配信オプション] ダイアログボックスが開きます。

次の ReportLibrary 配信オプションが選択可能です。

アクセス スケジュールツールの [アクセスオプション] リストに表示するオプションを指定します。次のオプションがあります。

- ❑ **オーナー (プライベート)** このオプションを選択すると、スケジュールツールに [プライベート (オーナーのみアクセス可)] オプションが表示されます。
- ❑ **共有 (Everyone)** このオプションを選択すると、スケジュールツールに [共有 ([共有コンテンツ] フォルダに表示)] オプションが表示されます。
- ❑ **アクセスリスト (高度な共有)** このオプションを選択すると、スケジュールツールに [高度な共有 (アクセスリストの設定により [共有コンテンツ] フォルダに表示)] オプションが表示されます。
- ❑ **公開済み** このオプションを選択すると、スケジュールツールに [公開済み (WebFOCUS セキュリティポリシーによるアクセス許可)] オプションが表示されます。

注意： 権限を所有するユーザは、リソースツリーで ReportLibrary 項目を右クリックし、[共有する] または [公開] を選択することで、項目のステータスを [共有] または [公開済み] に変更することができます。最初に ReportLibrary 項目が [プライベート] ステータスで作成された後、リソースツリーから項目のステータスを [共有] または [公開済み] に変更した場合、スケジュールのアクセスオプションで指定された [プライベート] はスケジュール実行時には適用されません。この状況が発生するのは、複数バージョンの ReportLibrary 項目を反復的に作成するスケジュールで、変更後のステータスが反映されるようアクセスオプションが更新されていない場合のみです。ReportLibrary 項目は [共有] または [公開済み] ステータスのまま保持され、この問題を示す警告メッセージがスケジュールログに表示されます。

Email スケジュールツールで Email 通知オプションの [ReportLibrary にレポート保存後 Email を送信] オプションを選択可能にするかどうかを指定します。次のオプションがあります。

- ❑ **共有 (Everyone)** 選択不可。
- ❑ **公開済み** 選択不可。

注意： 各 Email オプションは、それぞれに対応するアクセスオプションを選択した場合にのみ選択可能になります。

3. [OK] をクリックして変更を保存し、[ReportLibrary 配信オプション] ダイアログボックスを閉じます。変更を保存しない場合は、[キャンセル] をクリックし、ダイアログボックスを閉じることもできます。

スケジュール禁止期間の使用

スケジュール禁止期間は、スケジュールの実行およびスケジュール実行の設定が禁止されている日付および時間です。スケジュール禁止期間ツールへのアクセス権限を所有するユーザは、スケジュール禁止期間を表示、定義、更新、インポート、エクスポート、削除することができます。

スケジュール禁止期間を表示するには、コンソールの [表示] グループで [スケジュール禁止期間] をクリックします。[スケジュール禁止期間] インターフェースが開き、左側ウィンドウにカレンダーが表示されます。右側ウィンドウには、ユーザが管理権限を所有するスケジュール禁止日のリストが表示されます。

スケジュール禁止期間の管理権限を所有するユーザは、スケジュール禁止期間の追加および削除、既存スケジュール禁止期間の説明の置換、外部ファイルで定義されたスケジュール禁止期間情報のインポート、既存スケジュール禁止期間情報のファイルへのエクスポートを行えます。ReportCaster の [スケジュール禁止期間] インターフェースでは、次の機能を使用してこれらのタスクを実行することができます。

- ❑ [スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックス - [スケジュール禁止期間の管理] グループの [新規作成] または [編集] ボタンをクリックしてアクセスします。
- ❑ [スケジュール禁止日のインポート] ダイアログボックス - [スケジュール禁止期間の管理] グループの [インポート] ボタンをクリックしてアクセスします。
- ❑ [スケジュール禁止期間のエクスポート] - [スケジュール禁止期間の管理] グループの [エクスポート] ボタンをクリックしてアクセスします。

カレンダー上部の矢印を使用して、月または年を変更することができます。使用可能日または禁止日の日付のみが表示されます。左側ウィンドウ右上の矢印をクリックして、左側ウィンドウの表示と非表示を切り替えることができます。

参照

スケジュール禁止期間の構成

すべてのタイプのスケジュール禁止期間プロファイルでは、同一の基本設定 ([グループ]、[名前]、[説明]、[詳細]、[スケジュール禁止時間]) が使用されます。この基本設定下に、さまざまなスケジュール要件に適合する 4 タイプのスケジュール禁止期間があります。次のタイプがあります。

- ❑ **週単位** 指定した週および曜日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。
- ❑ **月単位** 指定した月および日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。
- ❑ **1 日** 指定した日付にスケジュール禁止期間を一度だけ設定します。

□ **毎日** 毎日の特定の時間にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。

これらのプロファイルを使い分けてスケジュール禁止期間を作成し、定期的に繰り返し実行するレポート配信スケジュールに組み込んだり、レポート配信の中断が必要な日をスケジュール禁止日に設定したりすることができます。

参照

スケジュール禁止期間の基本設定

[スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスには、スケジュールを禁止する時期と頻度を定義する設定があります。このダイアログボックスで設定可能な頻度オプションは、[週単位]、[月単位]、[1 日]、[毎日] の 4 タイプです。

下表は、スケジュール禁止日付時間プロファイルの設定を示しています。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
グループ	グループ名 (グローバル)。	グループ名を表示します (グローバル)。
名前	オプション デフォルト設定で、「スケジュール禁止 - [現在の日付] [現在の時間]」が表示されます。 たとえば、「スケジュール禁止 - 2015 年 7 月 26 日 午前 10:27」と表示されます。	スケジュール禁止日付時間プロファイルを表す名前です。 [名前] テキストボックス内をクリックして、デフォルト名を変更することができます。
説明	オプション	スケジュール禁止日付時間プロファイルの説明です。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効性
詳細	プロファイルの作成後に割り当てられます。	スケジュール禁止期間の時期および頻度に関する詳細情報です。 この情報は、[週]、[曜日]、[月]、[日]、[スケジュール禁止時間] 設定で選択した内容の説明です。 この詳細情報は、プロファイルの保存後に自動的に作成され、プロファイルの変更後に自動的に更新されます。この詳細情報を直接作成、編集、削除することはできません。
[スケジュール禁止時間] チェックボックス	デフォルト設定では、このチェックはオフです。	チェックオン スケジュール禁止期間の対象を、[開始 (時間)] および [終了 (時間)] テキストボックスで指定した時間帯に限定します。 チェックオフ スケジュール禁止期間の対象を終日 (丸 1 日) にします。 注意：プロファイルの設定を [1 日] から別の頻度オプションに変更し、スケジュール禁止期間の対象を終日に設定する場合は、このチェックをオフにする必要があります。
開始 (時間)	オプション。デフォルト設定で、現在の時刻 (時間と分) が表示されます。	スケジュール禁止期間を開始する時刻です。 この値は、[スケジュール禁止時間] のチェックをオンにした場合にのみ関係します。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
終了 (時間)	オプション。デフォルト設定で、現在時刻 (時間と分) の 2 時間後の時刻が表示されます。	スケジュール禁止期間を終了する時刻です。 この値は、[スケジュール禁止時間] のチェックをオンにした場合にのみ関係します。
頻度	必須。デフォルト設定では、[週単位] オプションが選択されています。	週単位 指定した週および曜日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。 月単位 指定した月および日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。 1 日 指定した日付にスケジュール禁止期間を一度だけ設定します。 毎日 毎日の特定の時間にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。

手順 スケジュール禁止期間を構成するには

スケジュール禁止期間を構成するには、次の手順を実行します。

1. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[新規作成] をクリックします。
[スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスが開きます。
2. [名前] テキストボックスで、スケジュール禁止期間プロファイルに割り当てられるデフォルト名を受容するか、別の名前を入力します。
3. [説明] テキストボックスに、スケジュール禁止期間プロファイルの説明を入力します。
4. このスケジュール禁止期間の対象を終日にする場合は、[スケジュール禁止時間] のチェックをオフにし、手順 7 へ進みます。
5. このスケジュール禁止期間の対象を 1 日の特定の時間帯にする場合は、[スケジュール禁止時間] のチェックをオンにし、スケジュール禁止期間の開始時間と終了時間を指定します。

詳細は、136 ページの「[スケジュール禁止期間の開始時間と終了時間を構成するには](#)」を参照してください。

6. 次の頻度オプションのいずれかを選択します。

- ☐ **週単位** スケジュール禁止期間の頻度を設定します。詳細は、130 ページの「[週単位スケジュール禁止期間の構成](#)」を参照してください。
- ☐ **月単位** スケジュール禁止期間の頻度を設定します。詳細は、133 ページの「[月単位スケジュール禁止期間の構成](#)」を参照してください。
- ☐ **1日** スケジュール禁止期間の日付を選択します。詳細は、135 ページの「[1日スケジュール禁止期間の構成](#)」を参照してください。
- ☐ **毎日** 毎日の特定の時間にスケジュール禁止期間を設定します。詳細は、135 ページの「[毎日スケジュール禁止期間の構成](#)」を参照してください。

7. 構成を確認します。

- ☐ 日付と時間の構成が要件を満たしていない場合、[OK] ボタンをクリックすることはできません (クリック不可)。頻度オプションの選択を変更して構成を調整し、プロファイルを再設定します。
- ☐ 構成が要件を満たしている場合、[OK] ボタンがクリック可能になり、選択した設定の詳細情報が [詳細] テキストボックスに表示されます。

8. 構成の完了後、[OK] をクリックします。

[スケジュール禁止期間] インターフェースの右側ウィンドウにスケジュール禁止期間プロファイルのエントリが表示され、左側ウィンドウのカレンダーに新しいスケジュール禁止日がハイライト表示されます。

週単位スケジュール禁止期間の構成

[週単位] の構成では、スケジュール禁止期間を特定の週および曜日に繰り返し設定します。この構成は、指定した曜日の日付に関係なく、毎週のスケジュールの一部として繰り返し設定する場合に適しています。

「週単位」という名前から「週 1 回のみ」のスケジュール禁止を連想しますが、この構成では週 1 回に限定されず、スケジュールを禁止する頻度を柔軟に設定することができます。

この構成では、次の項目を指定することができます。

- ☐ **曜日 (複数可)** - スケジュールを禁止する曜日です。

☐ 週 (複数可) - スケジュールを禁止する週です。

☐ 月 (複数可) - スケジュールを禁止する月です。

この柔軟な構成では、スケジュール禁止期間を毎週の同一曜日に設定するだけでなく、週に 2 日以上頻度で禁止期間にすることもできます。また、この構成では、月の特定の週 (複数可) をスケジュール禁止期間の対象外にすることも、年の特定の月 (複数可) を対象外にすることもできます。

週単位スケジュール禁止期間の設定

[スケジュール禁止期間日付時間] ダイアログボックスで [週単位] オプションを選択した場合、指定した週、曜日、月に基づいてスケジュール禁止期間を設定することができます。

設定	オプションまたは必須/ デフォルト値	説明と有効値
オン [週] チェックボックス (左側の列)	必須 (この列で少なくとも 1 つを選択)	一連の週番号がチェックボックスで表示されます。週のいずれかを選択すると、スケジュール禁止期間がその週に設定されます。たとえば、[第 1]、[第 2] 週を選択します。 1 つまたは複数の週を選択することができます。 [すべて選択] のチェックをオンにすると、すべての週が自動的に選択され、スケジュール禁止期間がすべての週に設定されます。

設定	オプションまたは必須/ デフォルト値	説明と有効値
オン [曜日] チェックボックス (右側の列)	必須 (この列で少なくとも 1 つを選択)	一連の曜日がチェックボックスで表示されます。曜日のいずれかを選択すると、スケジュール禁止期間がその曜日に設定されます。たとえば、[月曜]、[火曜] を選択します。 1 つまたは複数の曜日を選択することができます。 [すべて選択] のチェックをオンにすると、すべての曜日が自動的に選択され、スケジュール禁止期間がすべての曜日に設定されます。
[月] チェックボックス	必須 (このグループで少なくとも 1 つを選択)	一連の月がチェックボックスで表示されます。月のいずれかを選択すると、週単位のスケジュール禁止期間がその月に設定されます。たとえば、[1 月]、[2 月] を選択します。 1 つまたは複数の月を選択することができます。 [すべて選択] のチェックをオンにすると、すべての月が自動的に選択され、スケジュール禁止期間が毎月の特定の週および曜日に設定されます。

手順

週単位スケジュール禁止期間設定を構成するには

週単位スケジュール禁止期間設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. [スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスで、[週単位] を選択します。

ダイアログボックスに、週単位のスケジュール禁止期間を構成するためのチェックボックスが表示されます。

注意：[OK] ボタンをクリック可能にしてプロファイルを保存するには、少なくとも 1 つの週、曜日、月を選択する必要があります。

2. スケジュール禁止期間を設定する週のチェックをオンにするか、[すべて選択] のチェックをオンにしてすべての週を一括選択します。
3. スケジュール禁止期間を設定する曜日のチェックをオンにするか、[すべて選択] のチェックをオンにしてすべての曜日を一括選択します。
4. スケジュール禁止期間を設定する月のチェックをオンにするか、[すべて選択] のチェックをオンにしてすべての月を一括選択します。

月単位スケジュール禁止期間の構成

[月単位] の構成では、指定した月および日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。この構成では、指定した日の曜日に関係なく、月の同一日にスケジュール禁止期間を繰り返し設定します。

「月単位」という名前から「月 1 回のみ」のスケジュール禁止を連想しますが、この構成では月 1 回に限定されず、スケジュールを禁止する頻度を柔軟に設定することができます。また、このスケジュール禁止期間を終日に設定することも、1 日の特定の時間帯に設定することもできます。

この構成では、次の項目を指定することができます。

☐ 日 (複数可) - スケジュールを禁止する日です。

☐ 月 (複数可) - スケジュールを禁止する月です。

この柔軟な構成では、スケジュール禁止期間を毎月の同一日に設定するだけでなく、月に 2 日以上頻度で禁止期間を設定することもできます。また、特定の月をスケジュール禁止期間の対象外にすることもできます。

月単位スケジュール禁止期間の設定

[スケジュール禁止期間日付時間] ダイアログボックスで [月単位] オプションを選択した場合、指定した日および月に基づいてスケジュール禁止期間を設定することができます。

設定	オプションまたは必須/デフォルト値	説明と有効値
[日] チェックボックス	必須	一連の日番号がチェックボックスで表示されます。日のいずれかを選択すると、スケジュール禁止期間がその日に設定されます。たとえば、[1 日]、[2 日]、[3 日] を選択します。 1 つまたは複数の日を選択することができます。 [すべて選択] のチェックをオンにすると、すべての日が自動的に選択され、選択した月のすべての日にスケジュール禁止期間が設定されます。
[月] チェックボックス	必須	一連の月がチェックボックスで表示されます。月のいずれかを選択すると、このスケジュール禁止期間がその月に設定されます。たとえば、[1 月]、[2 月] を選択します。 1 つまたは複数の月を選択することができます。 [すべて選択] のチェックをオンにすると、すべての月が自動的に選択され、スケジュール禁止期間が毎月の特定の日に設定されます。

手順

月単位スケジュール禁止期間設定を構成するには

月単位スケジュール禁止期間設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. [スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスで、[月単位] を選択します。

[スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスに、月単位のスケジュール禁止期間を構成するためのチェックボックスが表示されます。

注意: 少なくとも 1 つの日および月のチェックをオンにする必要があります。この要件を満たさない限り、[OK] ボタンがクリック可能にならず、プロファイルを保存することができません。

2. スケジュール禁止期間を設定する日のチェックをオンにするか、[すべて選択] のチェックをオンにしてすべての日を一括選択します。
3. スケジュール禁止期間を設定する月のチェックをオンにするか、[すべて選択] のチェックをオンにしてすべての月を一括選択します。

1 日スケジュール禁止期間の構成

[1 日] の構成では、指定した日付にスケジュール禁止期間を 1 日だけ設定します。また、このスケジュール禁止期間を終日に設定することも、1 日の特定の時間帯に設定することもできます。

1 日スケジュール禁止期間の設定

[スケジュール禁止期間日付時間] ダイアログボックスで [1 日] オプションを選択した場合、スケジュール禁止期間カレンダーのコピーが表示され、指定した日付に基づいてスケジュール禁止期間を設定することができます。

手順

1 日スケジュール禁止期間設定を構成するには

1. [スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスで、[1 日] を選択します。
ダイアログボックスに表示されるカレンダーの日付は、現在の日付に自動的に設定されます。
2. 月を変更するには一重矢印をクリックし、年を変更するには二重矢印をクリックします。
3. 1 日スケジュール禁止期間に設定する年月を特定した後、スケジュール禁止日にする日付をクリックします。

カレンダーで新しい日付がハイライト表示されます。

毎日スケジュール禁止期間の構成

[毎日] の構成では、スケジュール禁止期間を毎日に設定します。[毎日] スケジュール禁止期間の設定によりレポートのスケジュール実行が妨害されないよう、禁止期間を特定の時間帯に限定する必要があります。

毎日スケジュール禁止期間の設定

[スケジュール禁止期間日付時間] ダイアログボックスで [毎日] オプションを選択した場合、[開始] および [終了] テキストボックスのみが表示され、毎日の特定の時間帯にスケジュール禁止期間を設定することができます。それ以外のオプションは関係しません。

手順 毎日スケジュール禁止期間設定を構成するには

1. [スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスで、[毎日] を選択します。
[スケジュール禁止時間] のチェックが自動的にオンになり、開始時間と終了時間の選択を指示するメッセージが表示されます。
開始時間は現在時間に自動的に設定され、終了時間は開始時間の 2 時間後に自動的に設定されます。
2. 開始時間と終了時間の値を変更する場合は、136 ページの「[スケジュール禁止期間の開始時間と終了時間を構成するには](#)」を参照してください。

手順 スケジュール禁止期間の開始時間と終了時間を構成するには

[スケジュール禁止日付時間] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

1. 開始時間の時間要素を変更するには、[開始] テキストボックスの時間セクションをクリックします。
 - a. 上下の矢印をクリックして、時間単位で値を増減します。
 - b. このセクションに時間を直接入力することもできますが、入力範囲が 12 時間である点に注意してください。この範囲を超える値を入力すると、12 時間形式で値が自動的に計算されます。たとえば、「44」と入力すると「8」になります。 $(44 - (12 \times 3)) = (44 - 36) = 8$
 - c. 開始時間が終了時間より前になるように入力します。
2. 開始時間の分要素を変更するには、[開始] テキストボックスの分セクションをクリックします。
 - a. 上下の矢印をクリックして、分単位で値を増減します。
 - b. このセクションに分を直接入力することもできますが、入力範囲が 60 分である点に注意してください。この範囲を超える値を入力すると、60 分形式で値が自動的に計算されます。たとえば、「88」と入力すると「28」になります。 $(88 - 60 = 28)$
 - c. 開始時間が終了時間より前になるように入力します。

3. 開始時間の午前と午後を切り替えるには、[開始] テキストボックスの午前/午後セクションをクリックします。
 - a. 上向き矢印をクリックして、午前を午後に変更します。
 - b. 下向き矢印をクリックして、午後を午前に変更します。
 - c. このセクションに「午前」または「午後」を直接入力することもできます。
4. 終了時間の時間要素を変更するには、[終了] テキストボックスの時間セクションをクリックします。
 - a. 上下の矢印をクリックして、時間単位で値を増減します。
 - b. このセクションに時間を直接入力することもできますが、入力範囲が 12 時間である点に注意してください。この範囲を超える値を入力すると、12 時間形式で値が自動的に計算されます。たとえば、「44」と入力すると「8」になります。 $(44 - (12 \times 3)) = (44 - 36) = 8$
 - c. 終了時間が開始時間より後になるように入力します。
5. 終了時間の分要素を変更するには、[終了] テキストボックスの分セクションをクリックします。
 - a. 上下の矢印をクリックして、分単位で値を増減します。
 - b. このセクションに分を直接入力することもできますが、入力範囲が 60 分である点に注意してください。この範囲を超える値を入力すると、60 分形式で値が自動的に計算されます。たとえば、「88」と入力すると「28」になります。 $(88 - 60 = 28)$
 - c. 終了時間が開始時間より後になるように入力します。
6. 終了時間の午前と午後を切り替えるには、[終了] テキストボックスの午前/午後セクションをクリックします。
 - a. 上向き矢印をクリックして、午前を午後に変更します。
 - b. 下向き矢印をクリックして、午後を午前に変更します。
 - c. このセクションに「午前」または「午後」を直接入力することもできます。

注意：[開始] および [終了] テキストボックスの [時間]、[分]、[午前/午後] セクションを左右に移動するには、キーボードの左矢印キーおよび右矢印キーを使用します。

これらのセクションを Tab キーで移動しようとする、[開始] および [終了] テキストボックスのセクション間を左右に移動する代わりに、下方向に移動して次のオプションが選択されます。

たとえば、Tab キーを使用して [開始] テキストボックスの時間セクションから移動しようとする、[開始] テキストボックスの分セクションではなく、[終了] テキストボックスの時間セクションに移動します。右へ移動するには、キーボードの右矢印キーを使用します。

同様に、Shift+Tab キーを使用すると、[開始] または [終了] テキストボックス内の 1 つ前のセクションに戻るのではなく、1 つ前のオプションに移動します。左へ移動するには、キーボードの左矢印キーを使用します。

手順

スケジュール禁止期間プロファイルを削除するには

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウで、削除するスケジュール禁止期間プロファイルの割り当て先グループのフォルダをクリックします。
2. 右側ウィンドウで、削除するスケジュール禁止期間プロファイルのエントリをクリックします。
3. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[削除] をクリックします。
4. 確認メッセージで [はい] をクリックします。

削除したエントリが右側ウィンドウから除外され、そのエントリに割り当てられていた日付のハイライト表示が左側ウィンドウのスケジュール禁止期間カレンダーから消去されます。

スケジュール禁止期間のインポート

スケジュール禁止期間の [インポート] 機能を使用して、スケジュール禁止期間の管理タスクを一括処理することができます。このツールでは、正しくフォーマットされたインポートファイルを使用して次のことを行えます。

- ☐ 新しいスケジュール禁止期間プロファイルを作成する。
- ☐ スケジュール禁止期間プロファイルを削除する。
- ☐ スケジュール禁止期間情報を置換する。
- ☐ インポートファイルで指定された操作を実行する。

インポートソースファイルには、スケジュール禁止期間プロファイルに関する次の情報を記述します。

- ☐ **日付** スケジュール禁止期間プロファイルを有効にする日付です。[毎日] スケジュール禁止期間プロファイルを作成する場合は、この日付を省略することができます。
- ☐ **開始時間** スケジュール禁止期間を有効にする時間 (HH:MM:SS) です。[毎日] スケジュール禁止期間プロファイルの場合を除き、この値は必要に応じて指定します。

- ❑ **終了時間** スケジュール禁止期間を無効にする時間 (HH:MM:SS) です。[毎日] スケジュール禁止期間プロファイルの場合を除き、この値は必要に応じて指定します。
- ❑ **説明** スケジュール禁止期間プロファイルの説明です。
- ❑ **名前** スケジュール禁止期間プロファイルに割り当てて一意の名前です。

注意: [週単位] および [月単位] スケジュール禁止期間プロファイルの場合、これらのエントリの前に追加コードを記述します。詳細は、140 ページの「[週単位スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト](#)」 および 141 ページの「[月単位スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト](#)」を参照してください。

ReportCaster がインポートソースファイルの情報をどのように処理するかは、インポート機能の実行時に選択したタスクに基づいて決定されます。

次のタスクがあります。

- ❑ **追加** - インポートファイルのレコードからスケジュール禁止期間プロファイルを作成します。
- ❑ **削除** - インポートファイルのレコードの日付および追加情報と、既存スケジュール禁止期間プロファイルの日付および追加情報を比較し、インポートファイルのレコードに一致するプロファイルを削除します。
- ❑ **置換** - インポートファイルのレコードの日付情報と、既存スケジュール禁止期間プロファイルの日付情報を比較し、名前および説明の情報をプロファイルに追加します。
- ❑ **ファイル内の実行オプションを使用** - インポートファイルに記述されたコマンドと、これらのコマンドの影響を受けるスケジュール禁止期間プロファイルのエントリに基づいて、追加、削除、置換を実行します。

運用上の変更により (例、月、四半期、年に一度のスケジュール変更)、レポート実行のスケジュールを全面的に見直す場合、これらのタスクを一括処理することで、スケジュール禁止期間プロファイルを手動で作成、更新、削除する手間を簡素化することができます。

たとえば、次の年のレポート実行のスケジュールに休日を組み込む場合、すべての休日の日付と名前を記述したファイルを用意します。スケジュール禁止期間のインポート機能を使用して、そのファイルをインポートし、1 年間の休日スケジュール禁止日を 1 回の処理で設定することができます。インポート機能を使用しない場合、次の年の休日ごとに [1 日] スケジュール禁止期間プロファイルを作成する必要があります。

スケジュール禁止期間インポートファイルフォーマット

インポートファイルフォーマットでは、スケジュール禁止期間レコードの各エントリに同一の基本構造が使用されますが、プロファイルタイプごとに若干の相違点があります。この相違点に基づいて、エントリの詳細情報から作成されるスケジュール禁止期間プロファイルのタイプが識別されます。

1 日スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト

[1 日] スケジュール禁止期間プロファイルは、各プロファイルの情報をそれぞれ別の行に記述した Flat File からインポートすることができます。各行は、次のレイアウトに準拠する必要があります。

以下はその例です。

```
#Schedule Blackout Date Extract created 161004 102629 by admin
#for date range:(All)
#Dates Extracted from Group: administrators
##BLACKOUT DATE: yyyyMMdd/HH:mm:ss|HH:mm:ss description|name
##BLACKOUT TIME: /HH:mm:ss|HH:mm:ss description|name
##BLACKOUT PATTERN: [101000000000/000000000000000000000000000001]/
HH:mm:ss|HH:mm:ss description|name
##BLACKOUT PATTERN: [101000000000/00001:0001000]/HH:mm:ss|HH:mm:ss
description|name
[000001000000/01000:0000100]/11:44:00|15:44:00 Administrators February 4,
2016|Blackout-Feb 4 2016 11:25 AM
```

- ❑ 日付には YYYYMMDD フォーマットを使用します。
- ❑ 時間には HH:MM:SS フォーマットを使用します。
- ❑ スケジュール禁止時間が終日の場合は、時間要素を省略することができます。

[週単位]、[月単位]、[毎日] スケジュール禁止期間プロファイルでは、このフォーマットと若干異なるフォーマットが使用されます。

週単位スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト

[週単位] スケジュール禁止期間プロファイルは、各プロファイルの情報をそれぞれ別の行に記述した Flat File からインポートすることができます。各行は、次のレイアウトに準拠する必要があります。

[Blackout Pattern] [Description] |[Name]

以下はその例です。

```
[111111111111/10000:0000010]/17:00:00|23:59:00 Report Blackout First Friday
of Every Month 5:00 PM to 11:59 PM|First Friday Afternoons
```

月単位スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト

[Blackout Pattern]/[Start Hour]||[End Hour] [Description]||[Name]

```
[11111111111/100000000000000000000000000000000]/9:00:00|11:59:00 Report  
Blackout First Day of Every Month 9:00 AM to 11:59 AM|First Day Every Month  
Mornings
```

毎日スケジュール禁止期間インポートファイルのエントリレイアウト

```
/[Start Hour]||[End Hour] [Description]||[Name]
```

/21:04:00|23:04:00 Every Day Blackout between 3:00 PM and Midnight|Daily
Afternoon Blackout

141

手順 インポートファイルを使用してスケジュール禁止期間プロファイルを追加するには

インポート機能を使用してスケジュール禁止期間プロファイルを追加する方法では、インポートファイルの情報から新しいスケジュール禁止期間プロファイルが作成されます。そのため、インポートファイルには、インポート機能で ReportCaster に追加するスケジュール禁止期間プロファイルすべてのレコードを記述する必要があります。

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースで、スケジュール禁止期間プロファイルをインポートするグループを選択します。
2. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[インポート] をクリックします。
[スケジュール禁止日のインポート] ダイアログボックスが開きます。

3. [ファイル名] テキストボックスで、ファイルのフルパスを入力するか、[参照] (または [ファイルを選択]) ボタンをクリックし、インポートするファイルを選択します。

注意：このダイアログボックスを Internet Explorer で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの右側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスにテキストは表示されません。このダイアログボックスを Google Chrome で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [ファイルを選択] ボタンが表示され、テキストボックスの左側に「選択されていません」というテキストが表示されます。このダイアログボックスを Firefox で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスに「ファイルが選択されていません。」というテキストが表示されます。

4. [追加] を選択し、[OK] をクリックします。
[スケジュール禁止データのインポート] ダイアログボックスが開き、インポートファイルの各エントリに基づいて、新しいスケジュール禁止期間プロファイルの詳細が表示されます。
5. [追加] をクリックして、[スケジュール禁止データのインポート] ダイアログボックスの新しいスケジュール禁止期間プロファイルをスケジュール禁止日カレンダーおよびグループエントリに追加します。

スケジュール禁止期間が正しくインポートされたことを示すメッセージが表示されます。

6. [OK] をクリックします。
[スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウで、インポートしたスケジュール禁止期間プロファイルの日付がスケジュール禁止日カレンダーでハイライト表示され、右側ウィンドウに新しいスケジュール禁止期間プロファイルが表示されます。

手順 インポートファイルを使用してスケジュール禁止期間を置換するには

インポート機能を使用してスケジュール禁止期間プロファイルを置換する方法では、プロファイルの名前および説明の更新情報が追加されます。指定したプロファイルをインポート処理で正しく更新するには、更新する既存スケジュール禁止期間プロファイルの日付に一致する日付レコードをインポートファイルに含める必要があります。

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウで、スケジュール禁止期間プロファイルをインポートするグループを選択します。
2. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[インポート] をクリックします。
[スケジュール禁止日のインポート] ダイアログボックスが開きます。

3. [ファイル名] テキストボックスで、ファイルのフルパスを入力するか、[参照] (または [ファイルを選択]) ボタンをクリックし、インポートするファイルを選択します。

注意： Internet Explorer で表示した場合、ダイアログボックスの [ファイル名] テキストボックス右側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスにテキストは表示されません。このダイアログボックスを Google Chrome で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [ファイルを選択] ボタンが表示され、テキストボックスの左側に「選択されていません」というテキストが表示されます。このダイアログボックスを Firefox で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスに「ファイルが選択されていません。」というテキストが表示されます。

4. [置換] を選択し、[OK] をクリックします。
[スケジュール禁止日データのインポート] ダイアログボックスが開き、既存のスケジュール禁止期間プロファイルに追加される、インポートファイルの各エントリの詳細が表示されます。
5. [置換] をクリックして、[スケジュール禁止データのインポート] ダイアログボックスに表示された新しい情報を、指定されたスケジュール禁止期間プロファイルに追加します。
スケジュール禁止期間が正しくインポートされたことを示すメッセージが表示されます。
6. [OK] をクリックします。

更新されたスケジュール禁止期間プロファイルのエントリが右側ウィンドウに表示されます。

手順 インポートファイルを使用してスケジュール禁止期間プロファイルを削除するには

インポート機能を使用してスケジュール禁止期間プロファイルを削除すると、そのプロファイルが除外されます。指定したプロファイルをインポート機能で正しく削除するには、削除する既存スケジュール禁止期間プロファイルの日付に一致する日付レコードをインポートファイルに含める必要があります。

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースで、削除するスケジュール禁止期間プロファイルが存在するグループを選択します。
2. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[インポート] をクリックします。

[スケジュール禁止日のインポート] ダイアログボックスが開きます。

3. [ファイル名] テキストボックスで、ファイルのフルパスを入力するか、[参照] (または [ファイルを選択]) ボタンをクリックし、インポートするファイルを選択します。

注意：Internet Explorer で表示した場合、ダイアログボックスの [ファイル名] テキストボックス右側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスにテキストは表示されません。このダイアログボックスを Google Chrome で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [ファイルを選択] ボタンが表示され、テキストボックスの左側に「選択されていません」というテキストが表示されます。このダイアログボックスを Firefox で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスに「ファイルが選択されていません。」というテキストが表示されます。

4. [削除] を選択し、[OK] をクリックします。

[スケジュール禁止日データのインポート] ダイアログボックスが開き、既存のスケジュール禁止期間プロファイルに一致する、インポートファイルの各エントリの詳細が表示されます。

5. [削除] をクリックして、[スケジュール禁止日データのインポート] ダイアログボックスに表示されたスケジュール禁止期間プロファイルを削除します。

スケジュール禁止日が正しくインポートされたことを示すメッセージが表示されます。

6. [OK] をクリックします。

この機能でスケジュール禁止期間プロファイルが削除されると、[スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウでカレンダーのスケジュール禁止日のハイライト表示が消去され、右側ウィンドウでスケジュール禁止期間プロファイルのエントリが除外されます。

手順 インポートファイルを使用して複数のスケジュール禁止期間を管理するには

[ファイル内の実行オプションを使用] オプションを使用して、複数のスケジュール禁止期間プロファイルを追加、削除、または置換するインポートプロセスを単一処理で実行することができます。そのため、インポートファイルには、必要なコマンドをすべて記述し、続いてインポート処理で追加、削除、または置換するスケジュール禁止期間プロファイルのエントリを記述する必要があります。

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウで、スケジュール禁止期間プロファイルを管理するグループを選択します。
2. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[インポート] をクリックします。

[スケジュール禁止日のインポート] ダイアログボックスが開きます。

3. [ファイル名] テキストボックスで、ファイルのフルパスを入力するか、[参照] (または [ファイルを選択]) ボタンをクリックし、インポートするファイルを選択します。

注意：Internet Explorer で表示した場合、ダイアログボックスの [ファイル名] テキストボックス右側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスにテキストは表示されません。このダイアログボックスを Google Chrome で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [ファイルを選択] ボタンが表示され、テキストボックスの左側に「選択されていません」というテキストが表示されます。このダイアログボックスを Firefox で表示した場合、[ファイル名] テキストボックスの左側に [参照] ボタンが表示され、テキストボックスに「ファイルが選択されていません。」というテキストが表示されます。

4. [ファイル内の実行オプションを使用] を選択し、[OK] をクリックします。

[スケジュール禁止日データのインポート] ダイアログボックスが開き、インポートファイルの各エントリの詳細、および更新される情報についての注記が表示されます。

5. [OK] をクリックします。
6. 「スケジュール禁止日がインポートされました」というメッセージで、[OK] をクリックします。

[スケジュール禁止期間] インターフェースの左側ウィンドウのカレンダーで、インポートしたスケジュール禁止期間の日付がハイライト表示されます。新しいスケジュール禁止期間プロファイルおよび更新されたプロファイルのエントリが右側ウィンドウに表示されます。インポート処理でプロファイルが削除された場合、カレンダーでその日付のハイライト表示が消去され、エントリも除外されます。

注意：ファイルを直接インポートする方法でスケジュール禁止期間プロファイルを更新した場合、[編集] コマンドは使用不可になります。これらのプロファイルを更新するには、[インポート] 機能の [置換] オプションを使用する必要があります。

スケジュール禁止期間プロファイルのエクスポート

ReportCaster ステータスから既存のスケジュール禁止期間プロファイル情報をテキストファイル (.txt) にエクスポートすることができます。

ファイルを直接エクスポートすることで、複数のスケジュール禁止期間に関する情報をテキストファイルに移動する時間が節約されます。また、エクスポートしたファイルをスケジュール禁止日カレンダーのバックアップとして保持したり、外部システムにインポートするソースファイルとして使用し、レポート作成や監査に活用したりすることも可能です。

たとえば、次の 6 か月間のスケジュール禁止日に関するバックアップコピーが必要な場合、エクスポート機能を使用して、その 6 か月間を対象としたスケジュール禁止期間すべての日付、名前、説明をテキストファイルに移動することができます。これらのプロファイルが必要になった際にバックアップファイルから基本情報を再現すると、レポートスケジュールの再作成に要する時間が短縮されます。

ファイルフォーマットのエクスポート

ファイルの [インポート] および [エクスポート] 機能では、レイアウトおよびフォーマットに関して同一の規則が適用されます。エクスポートファイルに含まれる追加情報として、エクスポートの対象として選択した日付範囲、およびファイル内のエントリのフォーマットを表すテンプレートがあります。

各エントリタイプのレイアウトについての詳細は、140 ページの「[スケジュール禁止期間インポートファイルフォーマット](#)」を参照してください。

手順 **スケジュール禁止期間プロファイルをファイルにエクスポートするには**

スケジュール禁止期間プロファイルをファイルにエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. [スケジュール禁止期間] インターフェースで、スケジュール禁止期間プロファイルをエクスポートするグループを選択します。
2. リボンの [スケジュール禁止期間の管理] グループで、[エクスポート] をクリックします。

[スケジュール禁止期間のエクスポート] ダイアログボックスが開きます。ダイアログボックスの上部に、スケジュール禁止期間プロファイルのエクスポート元となるグループ名が表示されます。

3. [単一日付の範囲オプション] で次のいずれかを選択します。

☐ [すべて] を選択して、現在保存されているスケジュール禁止期間プロファイルをすべてエクスポートします。

- [日付範囲] を選択して、指定した日付範囲に該当するスケジュール禁止期間プロファイルのみをエクスポートします。

[日付範囲] を選択した場合、[開始日] および [終了日] を入力または選択します。日付を選択するには、テキストボックス横の下向き矢印をクリックします。カレンダーから日付を選択することができます。

4. [OK] をクリックします。
5. ファイルを開くには、ブラウザから提示される [開く] ボタンをクリックします。
ウィンドウが開き、エクスポートしたプロファイルの内容が表示されます。
ファイルを保存し、ウィンドウを閉じるには、[ファイル] メニューのコマンドを使用します。
6. エクスポートファイルの自動ダウンロードを受容するには、[保存] ボタンをクリックします (Google Chrome では、新規ファイル名が表示されたページを閉じるのみ)。
ダウンロードしたファイルは、後からユーザのコンピュータの [ダウンロード] フォルダから開くことができます。また、ファイルの名前を変更したり、アーカイブ目的でファイルを別のフォルダにコピーしたりすることも可能です。
7. ファイルの名前を変更し、別のフォルダに保存するには、[開く] または [プログラムで開く] をクリックしてファイルを開き、[名前を付けて保存] コマンドを使用します。
8. [名前を付けて保存] ダイアログボックスで、ファイルの保存先フォルダに移動し、名前を変更した上で [保存] をクリックします。

ダウンロード時にブランクの Web ページが開いた場合は、ファイルの保存後にその Web ページも閉じます。

注意：デフォルトのエクスポートファイル名は、
`rcbdextract_GroupName_YYMMDD_HHMMSS.txt` です。ここで、GroupName は禁止日のエクスポート元のグループ名、YYMMDD および HHMMSS はファイルが作成された日付 (年、月、日) および時間 (時、分、秒) をそれぞれ表します。

スケジュール禁止期間終了後のスケジュール実行日付の制御

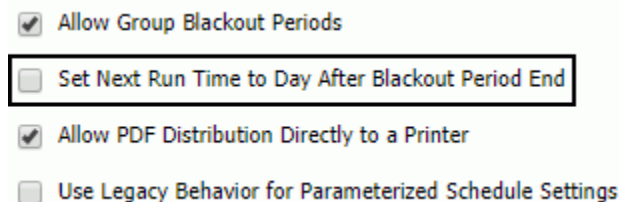
スケジュール禁止期間終了後、次のスケジュール済み繰り返し実行を待たずに自動的にスケジュールが実行されるよう、[次回実行時間をスケジュール禁止期間終了後の日付に設定] オプションが使用できるようになりました。

ReportCaster スケジュールツールを使用して、レポートまたは他のタイプのタスクの実行日付、出力の生成フォーマット、配信方法、レポートの実行頻度を指定することができます。ただし、組織で権限を所有するユーザがスケジュール禁止期間を定義し、この期間にレポートの実行がスケジュールされた場合、スケジュールはデフォルト設定で中止され、このスケジュールで構成した時間間隔の設定に従って再度実行されます。

たとえば、毎週水曜日にレポートを配信するスケジュールを作成したが、組織内の別のユーザがすべての祝日をスケジュール禁止期間に設定した場合を想定します。デフォルト設定では、祝日がレポートの実行がスケジュールされている水曜日にあたる場合、この週のレポート配信は中止され、翌週の水曜日に再度実行されます。ただし、[次回実行時間をスケジュール禁止期間終了後の日付に設定] オプションを使用した場合は、翌日の同じ時間にレポートが自動的に実行されます。

このオプションを選択すると、スケジュール禁止期間に実行されるすべてのスケジュールに即座に適用されます。

[次回実行時間をスケジュール禁止期間終了後の日付に設定] オプションにアクセスするには、ReportCaster ステータスを開きます。リボンの [表示] グループの [構成] ボタンをクリックして、ReportCaster ステータスの構成オプションを表示します。下図のように、左側パネルで [設定 - 全般] フォルダをクリックし、このオプションのチェックボックスを表示します。



このオプションを有効にするには、[次回実行時間をスケジュール禁止期間終了後の日付に設定] のチェックをオンにします。次に、リボンの [構成の管理] グループで、ReportCaster を再起動します。このオプションは、デフォルト設定で無効になっています。

手順

スケジュールの次回実行時間を確認するには

ReportCaster エクスプローラで、スケジュール禁止期間終了後の日付にスケジュールが実行されることを確認することができます。ここでは、スケジュールの実行時間情報が確認できます。

1. ReportCaster エクスプローラを起動します。
2. エクスプローラのツールバーで、[フィルタの変更] をクリックし、[スケジュール] を選択して、リポジトリに保存されたスケジュールのみを表示します。

3. 左側ウィンドウで、スケジュールが格納されたフォルダまたはサブフォルダを選択し、このフォルダ内の保存済みスケジュールをすべて表示します。

[次回実行時間] 列に、スケジュールの次回実行時間が表示されます。

注意：スケジュール実行直後の場合、表示のリフレッシュが必要な場合があります。実行の数分後に [リフレッシュ] ボタンをクリックすると、スケジュールの次回実行時間が更新されて表示されます。

下図は、スケジュール禁止期間中に実行が予定されたスケジュールの実行時間情報を示しています。

Last Time Executed	Last Job Status	Next Run Time
6/13/18 11:33 AM	Error	6/14/18 11:33 AM

スケジュールは中止されたため、このイベントは、[最新のジョブステータス] 列にエラーとして記録されています。ただし、[次回実行時間をスケジュール禁止期間終了後の日付に設定] オプションがスケジュール実行前に設定されていたため、このスケジュールの次回実行時間は、翌日の同時刻と表示されています。

関連する資料

- ❑ スケジュール禁止期間の使用
- ❑ ReportCaster ステータスの使用

実行 ID

実行 ID は、スケジュールタスクを実行するために Reporting Server、FTP サーバ、または Web サーバに接続する際に使用される有効なユーザ ID です。実行 ID をサーバで作成、変更、削除した場合、実行 ID の認証情報を格納するリポジトリテーブルでもその実行 ID を作成、変更、削除する必要があります。同様に、実行 ID のパスワードをサーバで変更した場合、リポジトリテーブルでも実行 ID のパスワードを変更する必要があります。実行認証情報がトラステッド (Trusted) の場合、パスワードの変更は必要ありません。

注意

- ❑ スケジュールの作成時および既存スケジュールのタスクの編集時に実行 ID の入力及要求される場合、その実行 ID のパスワードが検証されます。スケジュールのタスクを編集し、スケジュールツールを閉じた後、パスワードに誤りがあると、そのスケジュールの実行に失敗します。この失敗は、スケジュールジョブログに記録されます。

- ❑ 実行 ID およびパスワードは、変更管理ユーティリティを使用してインポートすることも、エクスポートすることもできません。新しい実行 ID およびパスワードは、選択したシステムで作成する必要があります。
- ❑ FTP ユーザのパスワード変更は、その FTP サーバとスケジュールオーナーのユーザ ID を使用するスケジュールすべてに適用されます。

実行 ID のリストを表示するには、ReportCaster ステータスで [実行 ID] タブをクリックします。

このタブでは、次のことを行えます。

- ❑ 新しい実行 ID の作成。
- ❑ 既存の実行 ID のプロパティの表示。
- ❑ 実行 ID の削除。
- ❑ 実行 ID のリストのリフレッシュ。

注意：実行 ID を作成、変更、削除すると、リポジトリテーブルが更新され、これらの実行 ID が、指定したサーバとの間で同期化されます。ただし、サーバ上のユーザ ID の認証情報は変更されません。

手順

新しい実行 ID を作成するには

新しい実行 ID を作成するには、次の手順を実行します。

1. [実行 ID] タブのリソースツリーで、実行 ID を作成するユーザフォルダを選択するか、[ユーザ] フォルダを選択します。[ユーザ] フォルダを選択すると、実行 ID エディタで特定のユーザを選択することができます。
2. リボンの [実行 ID の管理] グループで、[新規作成] をクリックします。

実行 ID エディタが開きます。

3. 次のパラメータを指定します。
 - a. **オーナーリスト** 実行 ID のオーナーとなるユーザを選択します。

注意：ユーザフォルダのいずれかを選択して [新規作成] をクリックした場合、このオプションは無効になり、選択したユーザ名がオーナーとして表示されます。

- b. **実行 ID** 有効な実行 ID を入力します。
 - c. **サーバタイプ** ドロップダウンリストからサーバのタイプを選択します。[ibi™ WebFOCUS® Server]、[FTP]、[WEB] から選択します。

- d. **サーバ名** [サーバ名] ドロップダウンリストから、認証情報を関連付ける Reporting Server の名前を選択するか、FTP サーバまたは Web サーバの名前を入力します。
注意: [サーバ名] には、ReportCaster の構成で定義されている Reporting Server が表示されます。
 - e. **パスワード** ユーザ ID のパスワードです。このパスワード入力、指定したサーバに新しいパスワードを作成するのではなく、実行 ID 情報が格納されるリポジトリテーブルに既存のパスワードを入力する操作です。
 - f. **パスワードの確認** パスワードを再入力します。
4. 実行 ID をリポジトリテーブルに作成するには [OK] を、リクエストを取り消すには [キャンセル] をクリックします。

手順

実行 ID のパスワードを変更するには

実行 ID のパスワードを変更するには、次の手順を実行します。

1. 実行 ID のリストから、プロパティを変更する実行 ID を選択します (例、admin)。
2. 右側のウィンドウで実行 ID をダブルクリックするか、[編集] をクリックします。
実行 ID エディタが開きます。
3. 次の情報を指定します。
 - a. **パスワード** 実行 ID のパスワードを入力します。このパスワードは、[サーバ名] テキストボックスに表示されるサーバのユーザ ID のパスワードと同一である必要があります。
 - b. **パスワードの確認** パスワードを再入力します。
ReportCaster を使用してパスワードを変更しても、指定したサーバのパスワードは変更されません。
4. [OK] をクリックし、リポジトリテーブル内の実行 ID またはパスワードを変更します。値が変更されたことを確認するメッセージが表示されます。

手順

実行 ID を削除するには

実行 ID を削除するには、次の手順を実行します。

1. 削除する実行 ID を選択します。
2. [削除] をクリックします。選択した実行 ID の削除を確認するメッセージが表示されます。
3. [OK] をクリックします。

実行 ID が削除された後、特定のサーバにあるスケジュール済みのジョブでこの実行 ID が必要なものは、有効な実行 ID にスケジュールが変更されない限り実行されません。削除された実行 ID を指定する単一スケジュールの実行認証情報を変更する場合、ReportCaster により、削除された実行 ID を指定するすべてのスケジュールに変更が適用されます。

グローバル更新

権限を所有するユーザは、スケジュールおよび配信リストに格納される値をグローバルに更新することができます。[グローバル更新] インターフェースで更新可能な設定には、次のものがあります。

- ☐ メールサーバ
- ☐ FTP サーバ
- ☐ Email アドレス
- ☐ Email 送信者
- ☐ ReportLibrary URL
- ☐ データサーバ
- ☐ 通知タイプ
- ☐ 通知返信 Email アドレス
- ☐ 通知件名
- ☐ 通知簡易メッセージの宛先
- ☐ 通知詳細メッセージの宛先
- ☐ 第 1 実行前プロシジャ
- ☐ 第 2 実行前プロシジャ
- ☐ 第 1 実行後プロシジャ
- ☐ 第 2 実行後プロシジャ

グローバル更新は、管理コンソールの globalUpdates ログファイルに記録されます。グローバル更新は、デフォルト設定で記録されます。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

手順 メールサーバをグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [メールサーバ] (デフォルト) を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存のメールサーバを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しいメールサーバを入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用するメールサーバを新しい値に更新します。

手順 FTP サーバをグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [FTP サーバ] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の FTP サーバを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい FTP サーバを入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する FTP サーバを新しい値に更新します。

手順 Email アドレスをグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [Email アドレス] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の Email アドレスを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい Email アドレスを入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する Email アドレスを新しい値に更新します。

手順 Email 送信者をグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [Email 送信者] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の Email 送信者を入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい Email 送信者を入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する Email 送信者を新しい値に更新します。

手順 ReportLibrary URL をグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [ReportLibrary URL] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の ReportLibrary URL を入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい ReportLibrary URL を入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する ReportLibrary URL を新しい値に更新します。

手順 データサーバをグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [データサーバ] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存のデータサーバを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しいデータサーバを入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用するデータサーバを新しい値に更新します。

手順 通知タイプをグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [通知タイプ] を選択します。

[通知タイプ] には、次のオプションがあります。

- ☐ **なし** ReportCaster からスケジュールステータスの通知が送信されることはありません。これがデフォルト値です。
- ☐ **常に通知** スケジュールを実行するたびに、通知を送信します。
- ☐ **エラー時** スケジュールの実行時にエラーが発生したときにのみ、通知を送信します。

詳細は、264 ページの「[ベーシックスケジュールツールの通知オプション](#)」を参照してください。

2. [古い値] ドロップダウンリストから、既存の値を選択します。
3. [新しい値] ドロップダウンリストから、新しい値を選択します。

[古い値] ドロップダウンリストから [なし] を選択した場合、追加のテキストボックスとして [返信 Email アドレス]、[件名]、[通知簡易メッセージの宛先]、[通知詳細メッセージの宛先] が表示されます。各テキストボックスに、必要な値を入力します。

4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する通知タイプを新しい値に更新します。

手順 通知返信 Email アドレスをグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [通知返信 Email アドレス] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の通知返信 Email アドレスを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい通知返信 Email アドレスを入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する通知返信 Email アドレスを新しい値に更新します。

手順 通知件名をグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [通知件名] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の通知件名を入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい通知件名を入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する通知件名を新しい値に更新します。

手順 通知簡易メッセージの宛先をグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [通知簡易メッセージの宛先] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の通知簡易メッセージ宛先を入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい通知簡易メッセージ宛先を入力します。
4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する通知簡易メッセージの宛先を新しい値に更新します。

手順 通知詳細メッセージの宛先をグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [通知詳細メッセージの宛先] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の通知詳細メッセージ宛先を入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい通知詳細メッセージ宛先を入力します。

4. [更新] をクリックして、スケジュールおよび配信リストで使用する通知詳細メッセージの宛先を新しい値に更新します。

手順

第1 実行前プロシジャをグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [第 1 実行前プロシジャ] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の第 1 実行前プロシジャを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい第 1 実行前プロシジャを入力します。
4. [更新] をクリックして、すべてのスケジュールで使用する第 1 実行前プロシジャを新しい値に更新します。

手順

第2 実行前プロシジャをグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [第 2 実行前プロシジャ] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の第 2 実行前プロシジャを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい第 2 実行前プロシジャを入力します。
4. [更新] をクリックして、すべてのスケジュールで使用する第 2 実行前プロシジャを新しい値に更新します。

手順

第1 実行後プロシジャをグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [第 1 実行後プロシジャ] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の第 1 実行後プロシジャを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい第 1 実行後プロシジャを入力します。
4. [更新] をクリックして、すべてのスケジュールで使用する第 1 実行後プロシジャを新しい値に更新します。

手順

第2 実行後プロシジャをグローバル更新するには

1. [グローバル更新] ダイアログボックスで、[設定] ドロップダウンリストから [第 2 実行後プロシジャ] を選択します。
2. [古い値] テキストボックスに、既存の第 2 実行後プロシジャを入力します。
3. [新しい値] テキストボックスに、新しい第 2 実行後プロシジャを入力します。

4. [更新] をクリックして、すべてのスケジュールで使用する第 2 実行後プロシジャを新しい値に更新します。

ジョブログの削除

[ジョブログの削除] 機能では、過去の日数を指定してジョブログを削除するなど、ジョブログをオンデマンドで削除するオプションが提供されます。たとえば、前月のジョブログを削除するには、デフォルト値の 30 日を使用します。さらに、トレースオプションとして [デフォルトトレース]、[トレースなし]、[トレースオン] のいずれかを指定することもできます。

手順 ジョブログをオンデマンドで削除するには

1. ReportCaster ステータスの [ツール] グループで、[ジョブログの削除] をクリックします。
[ジョブログの削除] ダイアログボックスが表示されます。
2. [削除する過去のジョブログ (日数)] テキストボックスで、デフォルト日数を使用するか、別の値を指定します。デフォルト値は 30 日です。
3. [トレースオプション] 下で、デフォルト値の [デフォルトトレース] を受容するか、[トレースなし] または [トレースオン] を選択します。
4. [OK] をクリックします。

スケジュールの削除

[スケジュールの削除] 機能では、すべての非アクティブスケジュールまたは再実行なしのスケジュールを、オンデマンドで削除することができます。さらに、トレースオプションとして [デフォルトトレース]、[トレースなし]、[トレースオン] のいずれかを指定することもできます。

注意: 非アクティブまたは再実行なしのスケジュールをオンデマンドで削除するには、権限が必要です。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

手順 非アクティブまたは再実行なしのスケジュールをオンデマンドで削除するには

1. ReportCaster ステータスの [ツール] グループで、[スケジュールの削除] をクリックします。
[非アクティブまたは再実行なしのスケジュールを削除] ダイアログボックスが表示されます。
2. [非アクティブまたは再実行なしのスケジュールを削除] ダイアログボックスで、非アクティブスケジュールを削除するか、再実行なしのスケジュールを削除するか、またその両方を削除するかを選択することができます。

3. [トレースオプション] 下でデフォルト値の [デフォルトトレース] を受容するか、[トレースなし] または [トレースオン] を選択します。
4. [OK] をクリックします。

コマンドプロンプトインターフェースを使用したスケジュールの削除

必要に応じて、Windows コマンドプロンプトの `purgesched` ユーティリティを使用して、非アクティブまたは再実行なしのスケジュールを削除することができます。このユーティリティは、UNIX でも使用できます。

手順 非アクティブおよび再実行なしのスケジュール削除ユーティリティを実行するには

1. Windows システムでコマンドプロンプトを起動し、`drive:¥ibi¥WebFOCUSnn¥ReportCaster¥bin` ディレクトリに移動します。この場合、`drive` は、WebFOCUS ソフトウェアの格納先のドライブ、`nn` は WebFOCUS ソフトウェアのバージョン番号です。
2. 「`purgesched`」と入力します。
3. Enter キーを押します。
[ReportCaster Schedule Purge Utility Operation] と表示されます。
4. 有効な管理者 ID およびパスワードを入力します。
5. Enter キーを押します。
[delete all inactive schedules] プロンプトが表示されます。
6. すべての非アクティブスケジュールを削除する場合は、「Y」と入力します。それ以外の場合は、「N」と入力します。
7. Enter キーを押します。
[delete all non-recurring schedules] プロンプトが表示されます。
8. すべての再実行なしのスケジュールを削除する場合は、「Y」と入力します。それ以外の場合は、「N」と入力します。
9. Enter キーを押します。
確認のプロンプトが表示されます。
10. 選択したスケジュールの削除を確認するため、「Y」と入力して削除を続行するか、「N」と入力して削除を中止します。
11. Enter キーを押します。

「Y」と入力した場合、ユーティリティは選択したスケジュールの削除を続行し、...ReportCaster¥log ディレクトリの purgesched.log ファイルに処理が記録されます。
「N」と入力した場合、選択したスケジュールは削除されません。

3

配信リストの作成と保守

配信リストを作成しておくと、スケジュールの受信者を個別に入力する代わりに、リポジトリに格納されている受信者リストを指定することができるため、複数の受信者への配信が簡単になります。配信リストを別のユーザが使用できるようにするには、配信リストを共有するか、このオーナーシップを「パブリック」または「公開済み」に変更します。

トピックス

- ❑ [配信リストの作成](#)
 - ❑ [配信リストの編集と削除](#)
 - ❑ [配信リストへのアクセス](#)
 - ❑ [レポートのバースト](#)
 - ❑ [外部配信ファイルの作成](#)
 - ❑ [メンバーリストのインポートによる配信リストの作成](#)
 - ❑ [ダイナミック配信リストの作成](#)
 - ❑ [WebFOCUS リポジトリプロシジャからのダイナミック配信リストの生成](#)
 - ❑ [複数 Email アドレスの指定](#)
-

配信リストの作成

配信リストを使用すると、スケジュールに受信者を個別に入力する代わりに、受信者を列挙したリストを選択することで、複数の受信者にコンテンツを簡単に配信することが可能になります。

LDAP データソースを使用している場合、ReportCaster ステータスの構成ツールで [LDAP Email の設定] を構成し、このデータソースに格納されている Email 情報にアクセスすることができます。この設定を構成すると、社内の Email アドレス帳から Email アドレスを選択することが可能になり、すべての Email アドレスを手動で入力する手間が省けます。

この機能の使用についての詳細は、110 ページの「[LDAP の設定](#)」を参照してください。

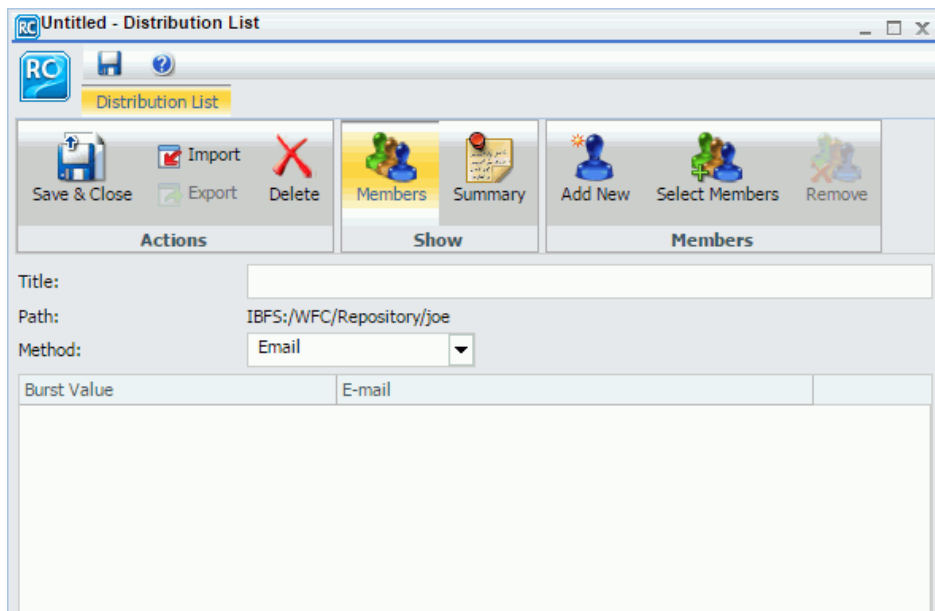
配信リストの作成前に、配信リストへのアクセスが必要なグループおよびユーザを検討した上で、配信リストの作成先フォルダを決定してください。

手順

配信リストを作成するには

1. 開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページを開き、配信リストを作成するワークスペースを選択します。
2. アクションバーで [スケジュール] をクリックし、[配信リスト] を選択します。

下図のように、[配信リスト] ウィンドウが開きます。



3. [タイトル] テキストボックスに、配信リストの記述名を入力します。
4. [方法] ドロップダウンリストから、配信リストの配信方法を選択します。デフォルト設定の配信方法は、[Email] です。
 - ❑ [Email] を選択する場合は、Email アドレスリストを入力する必要があります。また、必要に応じて、Email アドレスに関連付けられたバースト値も入力します。バースト値の入力についての詳細は、170 ページの「[レポートのバースト](#)」を参照してください。

[追加] ボタンをクリックし、[Email アドレス] テキストボックスで、受信者の Email アドレスを指定します (例、個別ユーザの場合は「chuck_hill@ibi.com」、複数 Email アドレスが格納されたメールサーバリストの場合は「#sales@ibi.com」)。確認機能がないため、正確に入力してください。指定可能な Email アドレスの最大値は 9999 です。1 つのアドレス行には、最大 800 バイトの文字を指定することができます。

[Email アドレス] テキストボックスには、複数の Email アドレスを入力することができます。詳細は、181 ページの「[複数 Email アドレスの指定](#)」を参照してください。

ReportCaster ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで [入力はこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。

- ❑ [FTP] を選択する場合、レポートを保持する FTP ファイル名を拡張子も含めて指定する必要があります。また、必要に応じて、FTP ファイルに関連付けられたバースト値も指定します。

ここで指定する拡張子は、スケジュールの作成時に選択するフォーマットに対応する必要があります。たとえば、Windows プラットフォームで Excel または EXL2K を指定した場合、ファイルは、`drive:¥directory¥filename.xls` にする必要があります。配信リストで指定可能な FTP ファイルの最大値は 9999 です。

5. [追加] ボタンをクリックします。

[新規メンバーの追加] ダイアログボックスが表示されます。

6. [バースト値]、[パターン]、[FTP パス] または [Email アドレス] テキストボックスに値を入力します。
7. 必要に応じて、[メンバーの選択] ボタンをクリックし、アドレス帳からメンバーを追加します。
8. 配信リストの作成が完了したところで、[保存して閉じる] をクリックします。

注意

- ❑ ファイルのタイトル値の最大長は 256 バイトです。
- ❑ ファイルのタイトルがフォルダ内の既存ファイルと同一名の場合、既存ファイルを置き換えるかどうかのメッセージが表示されます。

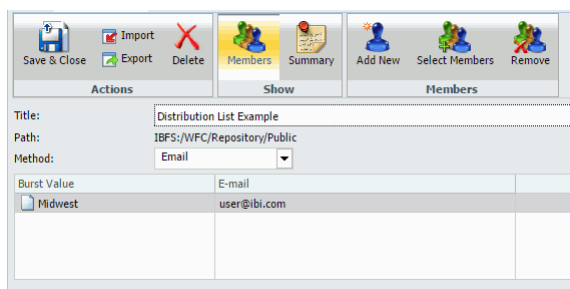
配信リストの編集と削除

配信リストツールへのアクセスが許可されている場合、所有する配信リストを表示、編集することができます。配信リストがグループにより所有されている場合、または公開済みの場合は、その配信リストの編集権限が必要です。

手順 配信リストを編集するには

1. 開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページで、編集する配信リストを右クリックして [編集] を選択するか、配信リストをダブルクリックします。

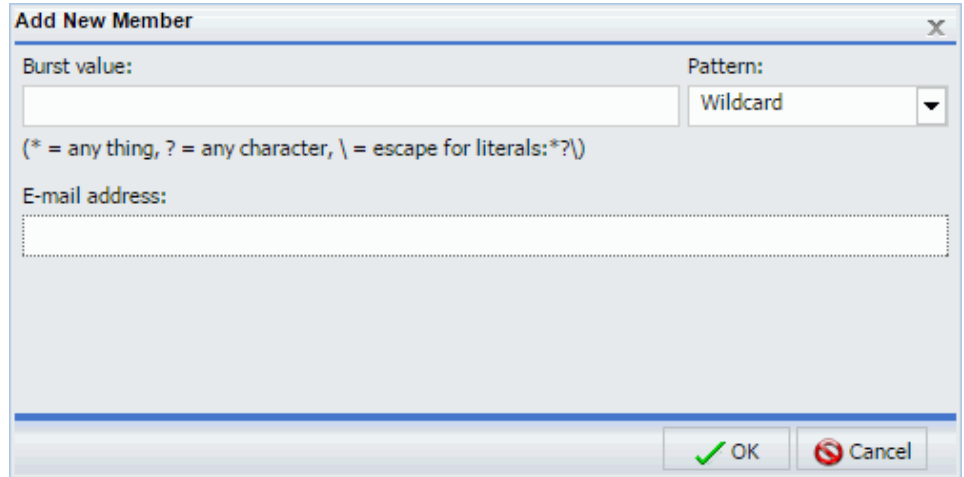
下図のように、選択した配信リストのプロパティが表示されます。



Actions			Show		Members	
Save & Close	Import	Delete	Members	Summary	Add New	Select Members
Title: Distribution List Example						
Path: IBFS:/WFC/Repository/Public						
Method: Email						
Burst Value			E-mail			
Midwest			user@ibf.com			

2. このウィンドウでは、次の操作が可能です。
 - ☐ [タイトル] テキストボックスに、新しい名前を入力し、配信リスト名を変更する。
 - ☐ 配信リストで入力済みの値を変更する。たとえば、配信方法を変更することができます。

- [追加] をクリックするか、[バースト値] または [Email] 列のブランク領域をダブルクリックして、配信リストに新しいメンバーを追加する。下図のように、[新規メンバーの追加] ダイアログボックスが表示されます。



The image shows a dialog box titled "Add New Member". It has a close button (X) in the top right corner. Inside the dialog, there are two input fields: "Burst value:" and "Pattern:". The "Pattern:" field has a dropdown menu currently showing "Wildcard". Below these fields, there is a text explanation: "(* = any thing, ? = any character, \ = escape for literals: *?\\)". Below this, there is a larger text input field labeled "E-mail address:". At the bottom right of the dialog, there are two buttons: "OK" with a green checkmark icon and "Cancel" with a red X icon.

- 項目を選択し、[削除] をクリックして、配信リストの項目を削除する。

注意：ReportCaster ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで、[入力はこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。詳細は、75 ページの「[許可する Email ドメインおよびアドレスの確認](#)」を参照してください。

3. 変更の完了後、[保存して閉じる] をクリックします。

注意：ファイルのタイトルがフォルダ内の既存ファイルと同一名の場合、既存ファイルを置き換えるかどうかのメッセージが表示されます。

変更せずに編集を終了するには、[閉じる] をクリックします。

配信リストへのアクセス

プライベート配信リストを共有すると、オーナーシップを変更せずに、その配信リストを他のグループやユーザが表示したり、スケジュールで使用したりできるようになります。権限を所有するユーザは、プライベート配信リストを、共有対象として許可されているグループやユーザと共有することができます。共有済み配信リストの格納先フォルダへのアクセスが許可されているユーザは、そのフォルダ内の配信リストにアクセスすることができます。

権限を所有するユーザは、配信リストを公開または非公開にすることができます。配信リストが公開されると、その配信リストの格納先フォルダへのアクセスが許可されているユーザが配信リストを使用できるようになります。公開する場合は、項目が格納されているフォルダを公開する必要があります。公開したフォルダを非公開にすると、そのフォルダ内のすべての項目も非公開になります。フォルダおよび項目の公開と共有についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

手順

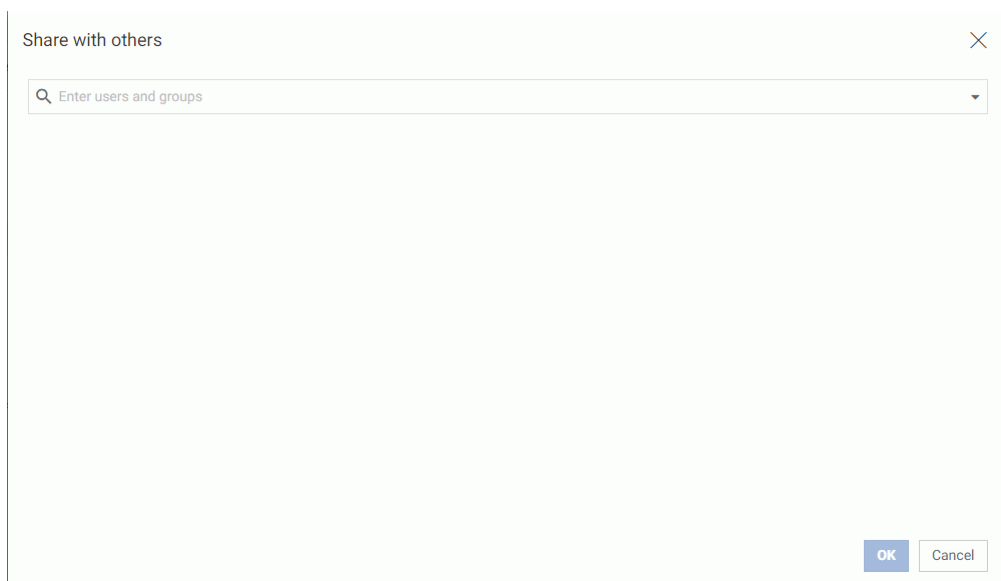
配信リストを共有するには

ユーザが [マイコンテンツ] フォルダ内のプライベートコンテンツを共有する権限を所有している場合、配信リストの格納先フォルダへのアクセスが許可されている他のユーザとその配信リストを共有することができます。この場合、WebFOCUS Hub または WebFOCUS ホームページで、共有するフォルダまたは配信リストを右クリックし、[共有する] を選択します。

[高度な共有] オプションの使用権限を所有している場合は、次の手順を実行して、共有対象として許可されているグループやユーザと、[マイコンテンツ] フォルダ内のプライベートコンテンツを共有することができます。

1. 共有する配信リストを右クリックし、[共有の設定] を選択します。

下図のように、[別のユーザと共有] ダイアログボックスが表示されます。



2. [検索] テキストボックスのドロップダウン矢印をクリックし、ユーザまたはグループの選択条件を表示します。[ユーザ] または [グループ] で検索結果にフィルタを設定できます。

3. フィルタの選択後、検索テキストボックスへの入力を開始すると、選択可能なユーザまたはグループが表示されます。配信リストの表示を許可するユーザまたはグループのリストに追加するユーザまたはグループを選択します。必要に応じて、リストから除外するユーザまたはグループのタイルで X をクリックします。
4. 配信リストを共有するユーザまたはグループの選択を完了後、[OK] をクリックします。

配信リストの公開

配信リストなどワークスペース内の項目を公開するには、そのワークスペース自体を公開する必要があります。公開済みの項目およびフォルダはカラーで表示され、非公開の項目およびフォルダは白黒で表示されます。

WebFOCUS ホームページで、公開する配信リストが格納されたワークスペースを右クリックし、[公開] を選択します。ワークスペース内の配信リストを非公開にするには、[非公開] を選択します。

手順

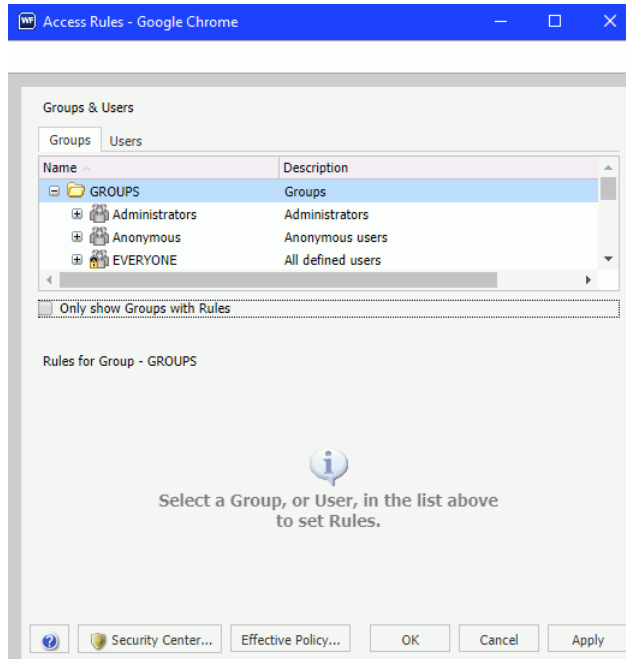
配信リストにセキュリティルールを設定するには

権限を所有するユーザは、非公開配信リストにセキュリティを設定し、他のグループやユーザが配信リストを表示、管理できるよう許可することができます。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

注意：権限を所有するユーザは、配信リストを右クリックし、[セキュリティ]、[有効なポリシー] を順に選択することで、セキュリティポリシーを確認することができます。

1. 配信リストを格納するワークスペースを選択するか、セキュリティを設定する非公開配信リストを選択します。
2. 右クリックして、[セキュリティ]、[ルール] を順に選択します。

下図のように、[アクセスルール] ダイアログボックスが開きます。



3. [グループ] タブで、配信リストへのアクセスを許可するグループまたはユーザを選択します。必要に応じて、[ルールが存在するグループのみを表示する] のチェックをオンにして、ルールが設定済みのグループのみを表示することもできます。

選択したグループの [ルール] が、[グループを対象とするルール] セクションに表示されます。

4. 必要に応じて、[グループを対象とするルール] セクションで [ルール] ドロップダウンリストをクリックし、特定のルールのみを表示することもできます。
5. 必要に応じて、[設定済みのルールのみを表示する] のチェックをオンにして、使用可能なルールのリストにさらにフィルタを設定することもできます。
6. ルールのいずれかを選択します。このルールで定義されている権限に基づいて、アクセスレベルが設定されます。
7. [アクセス] ドロップダウンリストから、許可レベルを選択します。

次のオプションがあります。

- ☐ **設定しない** アクセス許可は設定されていません。アクセス許可は、継承されたルールに基づいて決定されます。

- ❑ **許可する** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を許可します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
 - ❑ **拒否する** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を拒否します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
 - ❑ **最上級の許可** アクセスレベルの [拒否する] を無効にし、[適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を許可します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
 - ❑ **継承のクリア** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールで拒否されているルールをすべてクリアします。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
8. [ユーザ] タブをクリックすると、項目へのアクセスを許可する個別ユーザのリストが表示されます。必要に応じて、[ルールが存在するユーザのみを表示する] のチェックをオンにして、ルールが設定済みのユーザのみを表示することもできます。
- 選択したユーザの [ロール] が、[ユーザを対象とするルール] セクションに表示されます。
9. 必要に応じて、[ユーザを対象とするルール] セクションで [ロール] ドロップダウンリストをクリックし、特定のロールのみを表示することもできます。
10. 必要に応じて、[設定済みのルールのみを表示する] のチェックをオンにして、使用可能なロールのリストにさらにフィルタを設定することもできます。
11. ロールのいずれかを選択します。このロールで定義されている権限に基づいて、アクセスレベルが設定されます。
12. 手順 7 で説明したように、[アクセス] ドロップダウンリストでアクセスレベルを選択します。
13. [適用] をクリックします。
14. [OK] をクリックします。

配信リストのセキュリティ設定の更新が保存されます。

レポートのバースト

ReportCaster のバースト機能を使用して、スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) 全体ではなく、レポートをセクションに分割して、同一の配信先または異なる配信先に配信することができます。分割 (バースト) することにより、各ユーザに関連したレポートのセクションを割り当てることができます。各レポートセクションは、個別のファイルとして保存されます。

表形式のバーストレポートを配信する場合、バースト値は、最初の BY フィールドで決定されます。グラフ形式のバーストレポートを配信する場合、バースト値は、2 番目の BY フィールドで決定されます。バースト値は内部マトリックス (各データベースフィールド値の保存や、TABLE または GRAPH リクエストで参照される値の計算で使用するメモリ領域) によって自動的に決定されます。

セクションごとに受信者の配信先 (Email アドレスまたは FTP サーバパス、ファイル) を指定することにより、1 名の受信者に複数のレポートセクションを配信することが可能になります。複数のレポートセクションを単一の配信先に送信することもできます。配信リストで指定するバースト値は、レポートの作成に使用するデータソース内に存在する必要があります。

注意

- ❑ レポートをバーストする場合、スケジュールのタスクでバーストを有効にする必要があります。タスクでレポートのバーストが指定されない限り、[配信リスト] の [バースト値] 列に指定された値は無視されます。
- ❑ レポート名に使用されている NLS 文字が 60 バイトを超える場合、配信前にレポート名の末尾が切り捨てられて 60 バイトになります。これにより、レポートが Email 配信された際にレポート名の文字化けが回避されます。

例

配信リストのバースト値の指定

配信リストを作成または編集する際は、ソートフィールドのバースト値および配信先 (Email アドレス、FTP) を指定することができます。

各地区担当者の Email アドレスは、主ソートフィールド値 (Northeast Sales、South Sales、Midwest Sales) により、それぞれに関連した売上レポートデータに関連付けられています。user 1 は Northeast 地区のデータのみが必要なため、[Email] 列の Email アドレスに対応する [バースト値] 列には、ソート値「Northeast」が表示されています。

user 2 は、Midwest 地区と South 地区の両方に勤務しています。両方の地区のデータが必要なため、user 2 の Email アドレスは [Email] 列に 2 回表示されています。それぞれの Email アドレスに対応する [バースト値] 列には、各地区の値が表示されています。

注意：列見出しをクリックすると、その列のデータをソートすることができます。

ヒント：単一アドレス行に複数の Email アドレスを指定することができます。詳細は、181 ページの「[複数 Email アドレスの指定](#)」を参照してください。

参照

FTP によるレポート配信時の考慮事項

FTP を使用してバーストレポートを配信する際は、次のことを考慮します。

- ❑ HTML、PDF、EXL2K フォーマットを使用すると、バーストレポート出力にインデックスページが作成されます。
- ❑ FTP 配信用のインデックスページには、配信リストに指定されたバースト値のみが格納されます。レポート出力は、指定されたバースト値にのみ配信されます。
- ❑ スケジュール済みプロシジャ内に BASEURL が指定されている場合、FTP により配信されるバーストレポート出力のインデックスページのリンクは正しくなりません。これは、ReportCaster がスケジュール済みジョブのプロシジャコードを解析および評価しないためです。配信されたファイルを BASEURL ディレクトリに移動するか、インデックスページ内で配信出力の完全修飾ディレクトリパスを指定します。

バーストのガイドラインと制限

ここでは、バースト値の指定方法について説明します。

スケジュール済みのタスクでレポートプロシジャ (FEX) のバーストが指定されている場合、各バーストセクションに対して生成されたすべてのデータ値が Distribution Server に返されます。

- ❑ 配信方法が [リポジトリ] および [ReportLibrary] の場合は、各バーストセクションはリポジトリに配信されます。レポート出力を正常に配信するには、スケジュール済みジョブの実行時に、スケジュールで指定されるリポジトリフォルダに、スケジュールのオーナーによる書き込みアクセス許可が必要です。レポートセクションへのアクセスは、レポートの配信時に作成するリポジトリのセキュリティルールによって制御されます。
- ❑ Email 配信では、特定のバーストセクションは、スケジュールに使用される配信リスト、またはスケジュールで使用する単一の配信先を作成する際に指定されたバースト値に基づいて配信されます。

次に、バースト機能のガイドラインおよび制限事項について説明します。

- ❑ **大文字と小文字** バースト値の大文字と小文字は区別されます。

- ❑ **キーワード** バースト値には、次のキーワードを含めることができます。
 - ❑ **ワイルドカード文字** バースト値の先頭、末尾、中間の文字を表すワイルドカードとして、アスタリスク (*) と疑問符 (?) を使用します。アスタリスク (*) は 1 つ以上の文字を表し、疑問符は任意の 1 文字を表します。次の例に示すように、ワイルドカードを使用するバースト値それぞれの前に、大括弧 ([]) で囲んだワイルドカードキーワードとコロン (:) を指定します (例、[wildcard]:)。

[wildcard]:abc* = 'abc' で始まるすべての値

[wildcard]:a?c = 'a' で始まり 'c' で終わる、3 文字の値すべて

[wildcard]:a?c* = a で始まり 3 番目の文字が c である値すべて

注意：FTP 配信の場合、配信リストでのワイルドカードはサポートされません。

 - ❑ **Java 正規表現** テキストの特定に使用されます。次の例に示すように、Java 正規表現キーワードを使用するバースト値それぞれの前に、大括弧 ([]) で囲んだ正規表現キーワードとコロン (:) を指定します (例、[regexp]:)。
- [regexp]:[bcr]at = bat、cat、rat いずれかの値
- [regexp]:[^bcr]at = bat、cat、rat 以外のすべての値
- ❑ **デフォルト配信** 配信リストで指定されていない任意のバースト値について、[elsesend] を使用してデフォルトの配信先を指定することができます。これを実行するには、配信リストの [バースト値] 列に、次の値を入力します。
- [elsesend]: = 配信リストに含まれていないバースト値のレポートは、指定した受信者に送信されます。
- ❑ **'%BURST' 構文** 配信ファイルの名前に '%BURST' 構文を使用することで、配信ファイル名にバースト値を含めることができます。[Email のパケット化] 設定が [はい] の場合、ZIP ファイル名での '%BURST' の使用はサポートされません。

以下は、Email 配信リストへの入力例で、バースト値のワイルドカードとデフォルト配信キーワードの使用方法を示しています。

バースト値	アドレス
[wildcard]:*an*	sml@company.com
England	ray@company.com

バースト値	アドレス
[elsesend]:	jt@company.com

スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) のレポート出力のバースト値として Country フィールドが指定されており、Country フィールドに Germany、USA、France、Canada、Italy、Chile、England、Japan という値が含まれている場合、配信先は次のようになります。

- ❑ Germany、France、Canada、England、Japan のレポート情報は、sml@company.com に配信されます。
- ❑ England のレポート情報は、ray@company.com に配信されます。
- ❑ USA、Italy、Chile のレポート情報は、jt@company.com に配信されます。

バースト値をブランクにすることはできません。この値は、レポートファイル名に使用されるため、このパラメータに値が割り当てられていない場合は、エラーが発生して配信が終了します。

キーワードまたはワイルドカード文字を含む値を割り当てることにより、1 つまたは複数のインスタンスで値がブランクになる可能性がある場合は、バースト値のすべてのインスタンスがブランクにならないように、代替として特別な値を割り当てるプロシジャをコーディングします。

- ❑ **フォーマット** XML と Excel 以外のすべてのフォーマットは、バーストをサポートします。スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) レポート出力の各バーストセクションには、「burstvalue_filename.format」の形式で名前が付けられます (例、Northeast_Sales.pdf)。
- ❑ **ACROSS コマンド** このコマンドは、主ソートフィールドとして評価されません。また、スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) からバーストレポート出力を作成するには、BY フィールドを含める必要があります。バーストは、BY フィールドで実行されます。
- ❑ **TABLE** 内部ソート処理は実行されません。BY フィールドを指定するには、データソース内のデータがソートされている必要があります。
- ❑ **ON TABLE SUBHEAD/ON TABLE SUBFOOT** スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) のレポート出力で、最初のページのみ SUBHEAD を作成し、最後のページのみ SUBFOOT を作成します。スケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) のレポート出力をバーストする際は、各ソート区切りで SUBHEAD と SUBFOOT を指定する必要があります。このため、ON コマンドで、TABLE の代わりに主ソートフィールドを指定します。以下はその例です。

ON primarysortfield SUBHEAD

- ❑ **AnV** フィールドタイプ AnV フィールドタイプ (ここで、n は整数値) のフィールドでは、バーストはサポートされません。

外部配信ファイルの作成

スケジュールを作成する際に、レポート出力を 1 名または複数の受信者に配信することができます。複数の受信者への配信用にスケジュールを作成する場合、複数の受信者で構成される外部配信ファイルの作成をお勧めします。外部配信ファイルは、任意のスケジュールに割り当てることができます。外部配信ファイルの機能は、ReportCaster の外部で作成されることを除き、配信ファイルと同様です。

また、配信ファイルにパスワードを含めることもできます。配信ファイルにパスワードを含めて ZIP オプションを選択すると、出力はパスワード保護された ZIP ファイルとして暗号化されます。このオプションは、ReportCaster 構成ツールで [ZIP 暗号化パスワードプラグイン] オプションが [なし] に設定されている場合にのみ有効です。ReportCaster 構成ツールで [ZIP 暗号化パスワードプラグイン] オプションが [デフォルト] またはカスタムの値に設定されている場合、パスワードはプラグインによって提供されるため、配信ファイルのパスワードは無視されます。

構文

外部配信ファイルの作成

外部配信ファイルには、カンマ区切りのレコードが格納されている必要があります。各レコードの長さの最大値は、800 バイトです。レコードは、カンマとドル記号の組み合わせ (,\$) で終了しなければなりません。各レコードは、ファイル内の個別の行に入力します。

非バーストプロシジャにレコードを指定するには、次の形式を使用します。

`distributiondestination,, $`

説明

`distributiondestination`

有効な Email アドレスまたは FTP ファイル名です。

バーストプロシジャにレコードを指定するには、次の形式を使用します。

`distributiondestination,burstvalue,$`

説明

`distributiondestination`

有効な Email アドレスまたは FTP ファイル名です。

burstvalue

スケジュールされるレポートの有効なバースト値です。

バースト値をブランクにすることはできません。この値は、レポートファイル名に使用されるため、このパラメータに値が割り当てられていない場合は、エラーが発生して配信が終了します。

キーワードまたはワイルドカード文字を含む値を割り当てることにより、1 つまたは複数のインスタンスで値がブランクになる可能性がある場合は、バースト値のすべてのインスタンスがブランクにならないように、代替として特別な値を割り当てるプロシジャをコーディングします。

ヒント：外部配信ファイルの単一レコード内には、複数の Email アドレスを指定することができます。詳細は、181 ページの「[複数 Email アドレスの指定](#)」を参照してください。

ZIP 出力配信のパスワードを指定するには、次のステートメントを含めて、暗号化とレコードへのフォーマット設定を可能にします。

```
#encryption enabled
distributiondestination,burstvalue,password,$
```

説明

password

ZIP ファイルへのアクセスのパスワードとして使用する値です。

注意

- ❑ 暗号化を有効にしたステートメントの大文字と小文字は区別されません。
- ❑ 配信ファイルに暗号化を有効にしたステートメントを含めた場合、配信ファイルのバースト値にカンマ (,) を含めることはできません。
- ❑ 配信ファイルに暗号化を有効にしたステートメントを含めた場合、パスワードにカンマ (,) を含めることはできません。
- ❑ バースト値はオプションです。バースト値を含めない場合は、配信方法とパスワードの値の間に 2 つのカンマ (,) を入力します。以下はその例です。

```
mcr@company.com,,XTG2,$
```

以下は、暗号化を有効にしたステートメントと、Distribution Server に渡されるパスワードなどのいくつかのレコードが格納された、配信ファイルの例を示しています。


```
#encryption enabled
mcr@company.com,England,abcd,$
jsmith@company.com,Australia,rrrAx,$
rabble@company.com,France,UtLRzet,$
tom@gadgetco.com,Italy,mOmPP,$
```

注意： ReportCaster ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで、[入力をこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。詳細は、75 ページの「[許可する Email ドメインおよびアドレスの確認](#)」を参照してください。

手順 外部配信ファイルを自動削除するには

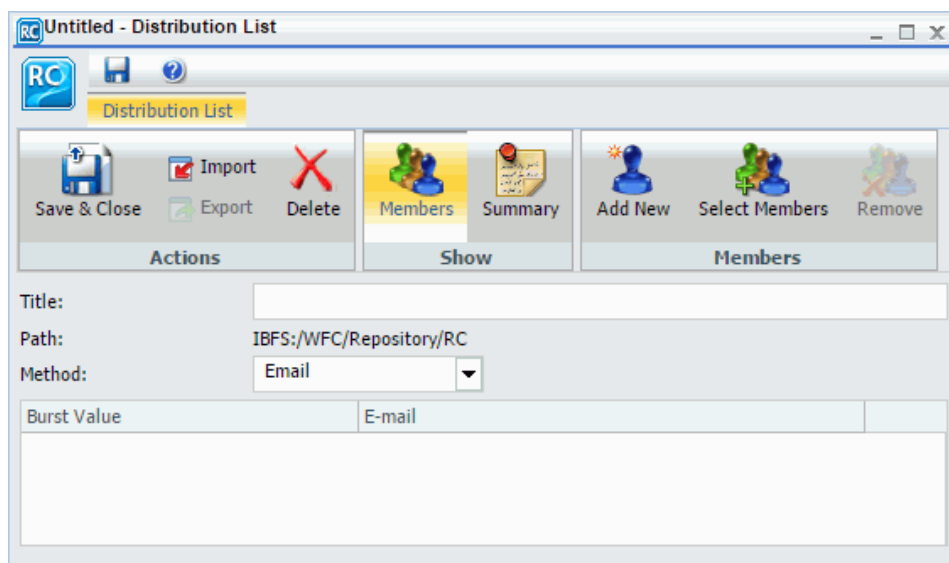
外部配信ファイルを作成し、スケジュールの実行後に自動的に削除することができます。

1. ReportCaster インストールディレクトリ配下の cfg ディレクトリ (例、C:\¥ibi¥WebFOCUS82¥ReportCaster¥cfg) 内にブランクのテキストファイル (fileaddr.txt) を作成します。
2. Distribution Server がインストールされているマシンに、削除済みの配信ファイルを格納する「addrpath」という名前のディレクトリを作成します (例、C:\¥ibi¥WebFOCUS82¥ReportCaster¥addrpath)。
3. fileaddr.txt ファイルを編集し、削除する外部配信ファイルへの完全修飾ディレクトリパス (例、C:\¥ibi¥WebFOCUS82¥ReportCaster¥addrpath) を含めます。ディレクトリパス末尾の円記号 (¥) は省略可能です。fileaddr.txt に無効なディレクトリパスを指定した場合、外部配信ファイルは削除されません。
4. スケジュールの実行時に自動的に削除する外部配信ファイルを、手順 2 で作成したディレクトリ (例、C:\¥ibi¥WebFOCUS82¥ReportCaster¥addrpath) に格納します。
5. スケジュールを編集し、手順 2 で作成したディレクトリ (例、C:\¥ibi¥WebFOCUS82¥ReportCaster¥addrpath) から外部配信ファイルが取得されるようにします。

メンバーリストのインポートによる配信リストの作成

配信リストの各メンバーを直接入力する代わりに、既存の配信リストファイルからメンバーをインポートすることで、新しい配信リストを作成することができます。リストをインポートする前に、配信リストの要件 (例、カンマ区切りレコード) を満たしていることを確認します。これにより、リストが正しくインポートされます。

下図のように、[インポート] オプションは、[配信リスト] タブの [アクション] グループに表示されます。



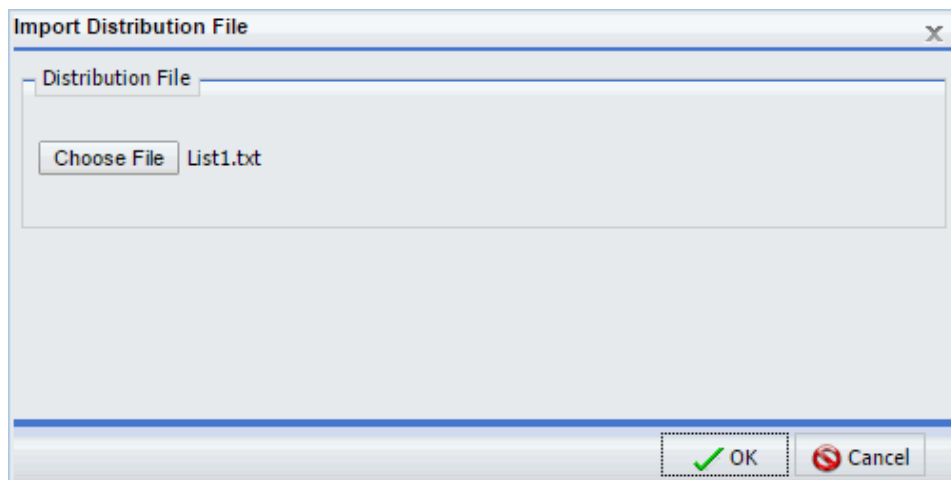
配信リストの最低要件のほかに、ファイルにはその他の情報を含めることができます (例、配信リストの説明、概要、タイプ)。ファイルのインポート時に、これらの情報がそれぞれ対応するフィールドに挿入されます。配信リストファイルの構成方法についての詳細は、174 ページの「[外部配信ファイルの作成](#)」を参照してください。

注意: 特殊文字を含む配信リストファイルは、インポート前に UTF-8 でエンコードする必要があります。

手順

既存の配信リストをインポートするには

1. WebFOCUS ホームページで、配信リストを作成するワークスペースを選択します。
2. アクションバーで [スケジュール] をクリックし、[配信リスト] を選択します。
[配信リスト] ダイアログボックスが開きます。
3. [インポート] をクリックします。
[配信ファイルのインポート] ダイアログボックスが開きます。
4. [参照] (または [ファイルを選択]) をクリックし、ファイルシステムから配信ファイルを選択します。
5. [開く] をクリックします。
下図のように、選択したファイルが [配信ファイルのインポート] ダイアログボックスに表示されます。



6. [OK] をクリックして、ファイルのメンバーを新しい配信リストにインポートします。
これで、インポート後の配信ファイルに登録されているメンバーにコンテンツを配信することができます。
7. 必要に応じて、インポート後の配信ファイルを編集します。
8. [保存して閉じる] をクリックします。

ダイナミック配信リストの作成

ダイナミック配信リストを使用すると、データソース (例、Flat File、SQL データベース、ibiTM FOCUS[®] データソース、LDAP) から、バースト値と配信先のリストの両方、または配信先のリストのみをメモリに返すことができます。サーバプロファイル (edasprof.prf) またはユーザのプロファイルで定義されたサーバのパスからアクセス可能な WebFOCUS プロシジャを記述する必要があります。このプロシジャは、定義したレイアウトのデータを含む配信情報を PCHOLD コマンドを使用して返す必要があります。返された情報を ReportCaster で識別して処理するため、このレイアウトには、特定の値や配信先が格納されている必要があります。

オプションとして、ダイナミック配信リストにパスワードを含めることができます。ダイナミック配信リストにパスワードを含めておくと、ZIP オプションを選択した場合に、配信出力をパスワード保護された ZIP ファイルに圧縮する際に、そのパスワードが使用されます。このオプションは、ReportCaster 構成ツールで [ZIP 暗号化パスワードプラグイン] オプションが [なし] に設定されている場合にのみ有効です。ReportCaster 構成ツールで [ZIP 暗号化パスワードプラグイン] オプションが [デフォルト] またはカスタムの値に設定されている場合、パスワードの提供にはそのプラグインが使用されるため、ダイナミック配信リストのパスワードは無視されます。

注意：ダイナミック配信リストで指定可能なバースト値の数に上限はありません。

例 ダイナミック配信リストの作成

以下は、テキストファイル内の Email 配信情報のためのサンプルマスターファイルです。

```
FILE=MYADDR, SUFFIX=FIX
SEGNAME=SEG01, SEGTYPE=S02
FIELDNAME=BURST_VALUE, BURST, A50, A50, $
FIELDNAME=EMAIL_ADDRESS, EMAIL, A40, A40, $
```

以下は、バーストのサンプルプロシジャです。フィールド名は、値を返す順序に従って「VALUE」、「DEST」の順に指定する必要があります。

```
SET ASNAMES=ON
TABLE FILE MYADDR
PRINT BURST_VALUE AS 'VALUE'
EMAIL_ADDRESS AS 'DEST'
ON TABLE PCHOLD
END
```

以下は、バーストなしのサンプルプロシジャです。この場合、バースト値は必要ないため、「VALUE」フィールドを指定する必要はありません。

```
SET ASNAMES=ON
TABLE FILE MYADDR
PRINT EMAIL_ADDRESS AS 'DEST'
ON TABLE PCHOLD
END
```

注意：マスターファイル内のフィールド名が「VALUE」および「DEST」以外の場合は、プロシジャの TABLE FILE ステートメントの前に「SET ASNAMES=ON」修飾子を追加する必要があります。

以下は、圧縮配信でパスワード保護を実装する方法の例を示しています。次のマスターファイルには、圧縮配信のパスワードが含まれています。

```
FILE=MYADDR, SUFFIX=FIX
SEGNAME=SEG01, SEGTYPE=S02
FIELDNAME=BURST_VALUE, BURST, A50, A50, $
FIELDNAME=EMAIL_ADDRESS, EMAIL, A40, A40, $
FIELDNAME=PASSWORD, PWD, A12, A12, $
```

次のサンプルプロシジャにはパスワード、配信方法、バースト値が含まれています。

```
SET ASNAMES=ON
TABLE FILE MYADDR
PRINT BURST_VALUE AS 'VALUE'
EMAIL_ADDRESS AS 'DEST'
PASSWORD AS 'PASS'
ON TABLE PCHOLD
END
```

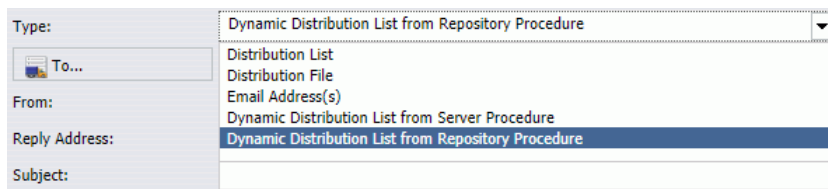
注意：ReportCaster ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで、[入力はこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。詳細は、75 ページの「[許可する Email ドメインおよびアドレスの確認](#)」を参照してください。

WebFOCUS リポジトリプロシジャからのダイナミック配信リストの生成

ダイナミック配信リストプロシジャは、任意のテキストエディタ、または WebFOCUS ユーザーインターフェースで使用可能なテキストエディタを使用して作成することができます。スケジュールに [Email 配信] オプションを割り当てる際に、[リポジトリプロシジャのダイナミック配信リスト] オプションを選択し、リポジトリに格納されているダイナミック配信リストプロシジャを指定します。ダイナミック配信リストプロシジャの格納先でもある Reporting Server に対して、すべてのユーザがアクセス権限を所有するとは限りませんが、リポジトリへのアクセスはほとんどのユーザに許可されています。

手順 リポジトリからダイナミック配信リストプロシジャを選択するには

1. Email 配信を使用するスケジュールを作成します。[配信] インターフェースを使用する場合は、[配信情報] セクションに移動し、[タイプ] ドロップダウンリストをクリックして、すべての Email 配信オプションを表示します。
2. 下図のように、[リポジトリプロシジャのダイナミック配信リスト] オプションをクリックします。



Type:	Dynamic Distribution List from Repository Procedure
To...	
From:	
Reply Address:	
Subject:	

3. [選択] ボタンをクリックすると、[リポジトリプロシジャのダイナミック配信リスト] ダイアログボックスが表示されます。
4. [参照] ボタンをクリックし、リポジトリに格納されたダイナミック配信リストを検索します。リストを検索、選択し、[開く] をクリックします。

リストのファイルパスが [プロシジャ名] テキストボックスに追加されます。[サーバ名] テキストボックスには、デフォルト設定で選択したリストのサーバ名が表示されます。

5. [実行 ID] テキストボックスに、このプロシジャに使用する実行 ID を入力します。
6. [パスワード] ボタンをクリックし、この実行 ID のパスワードを入力します。
7. 上記の設定の入力後、[OK] をクリックします。
8. スケジュールで必要な残りの設定を完了します。詳細は、185 ページの「[スケジュールの作成](#)」および275 ページの「[アドバンススケジュールツールによるスケジュールの作成](#)」を参照してください。

スケジュールの実行時に、選択したダイナミック配信リストのユーザに情報が配信されます。

関連する資料

- [スケジュールの作成](#)
- [アドバンススケジュールツールによるスケジュール作成](#)

複数 Email アドレスの指定

スケジュールまたは配信リストを作成する際は、単一のフィールド、行、またはレコード内に、複数の Email アドレスを指定することができます。

スケジュールまたは配信リストを作成する際は、各 Email アドレスの区切り文字として、カンマ (,) とセミコロン (;) のいずれかを使用します。

スケジュール出力が配信される際は、単一 Email の宛先行に複数の Email アドレスが表示されます。

注意

- アドレスごとに別の Email を配信するには、配信リスト内で、Email アドレスを別の行に指定します。
- ReportCaster ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで、[入力をこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。詳細は、75 ページの「[許可する Email ドメインおよびアドレスの確認](#)」を参照してください。

例 バースト値を含む複数 Email アドレスの指定

デフォルトの構成 ([Email のパケット化] を [はい] に設定) を使用する場合、1 つの Email アドレスに指定された複数のバースト値に対して Email が 1 通配信されます。各行に指定された Email アドレス値は文字列 (キー) として扱われます。1 つのアドレス値 (キー) に対して複数の行が存在する場合、すべてのバースト値を含む Email が 1 通配信されます。たとえば、次の配信リストについて考察します。

バースト値のアドレス

A	user1@abcd.com;user2@abcd.com
B	user1@abcd.com
C	user1@abcd.com

この例では、user1@abcd.com は、スケジュール出力の配信時に Email を 2 通受信します。1 通目の Email では、user1@abcd.com; user2@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイルが 1 つ (バースト値 A) 配信されます。2 通目の Email では、user1@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイルが 2 つ (バースト値 B およびバースト値 C) 配信されます。

各行に Email を 1 通配信するよう指定した構成 ([Email のパケット化] を [いいえ] に設定) を使用する場合、上記の例では、個別の Email が 3 通配信されます。1 通目の Email では、user1@abcd.com; user2@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイルが 1 つ (バースト値 A) 配信されます。2 通目の Email では、user1@abcd.com に添付ファイル (バースト値 B) が 1 つ配信されます。3 通目の Email では、user1@abcd.com に添付ファイル (バースト値 C) が 1 つ配信されます。

スケジュールが複数のタスクで構成され、[Email のパケット化] が [バースト] に指定されている場合は、バースト値のそれぞれについて、すべてのタスクの出力が統合されて配信されます。この例では、個別の Email が 3 通配信されます。1 通目の Email では、user1@abcd.com; user2@abcd.com が宛先行に表示され、複数のタスクで生成されたすべての出力 (バースト値 A) が配信されます。2 通目の Email は、すべてのタスクで生成されたすべての出力 (バースト値 B) で、user1@abcd.com に送信されます。3 通目の Email は、すべてのタスクで生成されたすべての出力で (バースト値 C)、user1@abcd.com に送信されます。

次は、デフォルト構成 ([Email のパケット化] を [はい] に設定) を使用し、1 つのバースト値がアドレス (キー) 値に複数回指定されたときの考慮事項です。たとえば、次の配信リストについて考察します。

バースト値のアドレス

A	user1@abcd.com;user2@abcd.com
B	user1@abcd.com
B	user1@abcd.com

この配信リストでは、user1@abcd.com には Email が 2 通だけ配信されます。1 通目の Email では、user1@abcd.com; user2@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイル (バースト値 A) が 1 つ配信されます。2 通目の Email では、user1@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイル (バースト値 B) が 1 つ配信されます。配信リストの 3 行目は、2 行目と同一のキーおよびバースト値 (B) を含むため、無視されます。

処理の効率化のため、配信情報で、バースト値とアドレス値の組み合わせが重複していないことを確認します。

例

バースト値を含まない複数 Email アドレスの指定

たとえば、バースト値を含まない次のサンプル配信リストについて考察します。

アドレス

user1@abcd.com;user2@abcd.com

user1@abcd.com

user2@abcd.com

user3@abcd.com

user1@abcd.com;user2@abcd.com;user3@abcd.com

この配信リストでは、[Email のパケット化] の設定に関わらず、各アドレス行に Email が 1 通配信されます。これは、各アドレス値が一意であるためです。1 通目の Email では、user1@abcd.com; user2@abcd.com が宛先行に表示され、添付ファイルはスケジュール済みレポートプロシジャ (FEX) のレポート出力全体です。2 通目の Email は、user1@abcd.com に配信されます。残りも同様です。

配信リスト内でアドレス行が重複する場合 (この例では、user3@abcd.com が 6 行目に追加された場合)、[Email のパケット化] が [はい] であれば、user3@abcd.com には Email が 1 通配信されます。ただし、[Email のパケット化] が [いいえ] の場合、user3@abcd.com には Email が 2 通配信されます。

4

スケジュールの作成

スケジュールでは、レポートの実行日時、出力フォーマット、配信方法を指定することができます。スケジュールを作成するには、ベーシックスケジュールツールまたはアドバンストスケジュールツールを使用します。

ここでは、ベーシックスケジュールツールについて説明します。アドバンストスケジュールツールについての詳細は、276 ページの「[アドバンストスケジュールツールの概要](#)」を参照してください。

注意：ESRI マップなど、オンライン接続が必要なグラフィクエストをスケジュールすることはできません。

トピックス

- ☐ [ベーシックスケジュールツールの概要](#)
 - ☐ [ベーシックスケジュールツールによるスケジュールの作成](#)
 - ☐ [ベーシックスケジュールツールのタスクの概要](#)
 - ☐ [パラメータ値としての変数の使用](#)
 - ☐ [ベーシックスケジュールツールの配信オプション](#)
 - ☐ [単一ファイル FTP 配信での FTP フィールド自動入力](#)
 - ☐ [ReportLibrary ファイルのタイトル自動入力](#)
 - ☐ [ベーシックスケジュールツールの通知オプション](#)
 - ☐ [ベーシックスケジュールツールのプロパティの概要](#)
 - ☐ [ベーシックスケジュールツールの実行間隔の概要](#)
 - ☐ [詳細設定](#)
 - ☐ [レポート配信を ReportLibrary のみに制限](#)
-

ベーシックスケジュールツールの概要

レポートプロシジャ (FEX) を選択し、ベーシックスケジュールツールを使用して、プロシジャ (FEX) のスケジュールを作成することができます。リポジトリに格納されているアプリケーションコンテンツおよびスケジュールツールへのアクセスが許可されているかどうかは、WebFOCUS Client のセキュリティ認可モデルによって制御されます。

レポートプロシジャ (FEX) の新しいスケジュールを作成するには、プロシジャが作成されたワークスペースを選択します。スケジュールするレポートプロシジャ (FEX) を右クリックして [スケジュール] を選択し、レポートプロシジャ (FEX) の配信方法を選択します。レポートプロシジャ (FEX) の配信方法として、Email、FTP、ReportLibrary、リポジトリがあります。

ベーシックスケジュールのクイックアクセスツールバー

ベーシックスケジュールツールの上部に表示されているクイックアクセスツールバーは、どのオプションが選択されていても常に表示されます。このボタンからは、最も使用頻度の高い機能にアクセスすることができます。クイックアクセスツールバーからメインメニューを選択し、[新規配信リスト] または [新規アクセスリスト]、[保存]、[名前を付けて保存]、[削除]、[閉じる] オプションにアクセスすることができます。また、このツールバーから [保存]、[実行]、[ヘルプ] オプションにアクセスすることもできます。

[実行] ドロップダウンリストからは、その他の実行オプションを選択することもできます。

注意：[実行] オプションを有効にするには、スケジュールを保存する必要があります。

選択可能な [実行] オプションには、[デフォルトトレース付き実行]、[トレースなし実行]、[スケジュールのトレース付き実行]、[スケジュールとレポートのトレース付き実行] があります。

注意

- ❑ ユーザが [Session Traces] 権限を所有している場合、スケジュールツールに [トレース付き実行] の各オプションが表示されます。トレース付き実行の権限を所有していない場合、これらのオプションは表示されません。
- ❑ オンラインヘルプを表示するには、[ヘルプ] アイコンをクリックします。

ベーシックスケジュールツールのリボン

ベーシックスケジュールツールのリボンには、スケジュールオプションが、次のカテゴリに分類されて表示されます。

❑ アクション

- ❑ **保存して閉じる** スケジュールを保存して閉じます。

- **削除** スケジュールを削除し、スケジュールツールを終了します。
- **表示**
 - **プロパティ** スケジュールの [タイトル]、[パス] (スケジュールの作成先またはスケジュールを開いたパス)、[概要]、[優先度]、[配信するレポートがない場合] などの設定があります。[ジョブの再実行が不要な場合、スケジュールを削除] チェックボックスを使用して、スケジュールの再実行が予定されていない場合に、実行後にスケジュールを削除するよう指定します。[有効 (指定された時間にジョブを実行)] チェックボックスを使用して、スケジュールの [実行間隔] 設定で指定されたとおりにスケジュールを実行するよう指定します。[配信するレポートがない場合] ドロップダウンリストでは、配信するレポートが存在しない場合に結果をエラーとして処理するか、警告として処理するかを指定します。
 - **実行間隔** 配信および繰り返しオプションの実行間隔を表示します。実行間隔の管理 (新規作成、編集、削除) 機能を提供します。
 - **タスク** スケジュールしているレポートプロシジャ (FEX) の情報を提供します。アドバンスドスケジュールツールでは、タスクの作成および削除のオプションも提供されます。タスクの管理 (新規作成、編集、削除) 機能を提供します。
 - **配信** レポートの受信者または配信先を指定するオプションを提供します。また、配信方法を作成、編集、削除することもできます。
 - **通知** スケジュールステータスの通知を設定するためのオプションを表示します。
 - **ログレポート** 各ジョブのジョブ番号およびログレポートを表示します。
- **オプション**
 - **パラメータ** スケジュールするレポートプロシジャ (FEX) の実行時に必要なパラメータ値を指定します。
 - **実行前/実行後プロシジャ** スケジュールしたタスクの実行前または実行後に実行する WebFOCUS サーバプロシジャを指定します。
 - **タスクの詳細設定** レポート言語、および警告として処理する追加の FOC エラーを入力することができます。
 - **メールサーバ** メールサーバの設定を調整することができます。[メールサーバ名] テキストボックスに、デフォルトのメールサーバが表示されます。[このサーバには認証情報が必要] のチェックをオンにした場合、アカウント名とパスワードを入力する必要があります。

ベーシックスケジュールツールによるスケジュールの作成

ここでは、新しいレポートプロシジャ (FEX) スケジュールを作成する手順の概要について説明します。この手順の中には、関連するオプションについての詳細が含まれているものもありますが、別のセクションの参照箇所が記述されているものもあります。これらの参照箇所には、オプションについての詳細な説明とともに、選択する際のヒントなどの追加情報が含まれています。

スケジュールを保存するには、[プロパティ]、[実行間隔]、[配信]、[通知] タブで、必須の情報を入力する必要があります。スケジュールを保存する際に、スケジュールで必須の情報が入力されていない場合、入力が必要なスケジュール情報についてのメッセージが表示されます。

手順 スケジュールを作成するには

1. このセクションの最初の部分の説明を参照し、ベーシックスケジュールツールを開きます。詳細は、186 ページの「[ベーシックスケジュールツールの概要](#)」を参照してください。

2. [プロパティ] タブの [タイトル] テキストボックスで、スケジュール名を編集することができます。

この項目への入力必須で、デフォルトの説明がすでに入力されています。

3. [概要] テキストボックスに、ジョブの概要を入力します。

注意：このテキストボックスへの入力はオプションです。

4. [優先度] を選択します。

優先度のデフォルト値は、[標準 - 3] です。

5. スケジュール実行間隔の設定に基づいて、再び実行する予定のないスケジュールをリポジトリに保存しない場合は、[ジョブの再実行が不要な場合、スケジュールを削除] のチェックをオンにします。

6. 実行間隔の設定に基づいて、スケジュール済みのジョブを実行する場合は、[有効 (指定された時間にジョブを実行)] のチェックはオンのままにします。

7. [実行間隔] タブを選択し、次のように選択します。

- a. [設定] ラジオボタンのリストから、スケジュールでレポートプロシジャ (FEX) を実行する間隔を選択します。

この間隔は、[1 回だけ実行]、[分単位]、[時間単位]、[日単位]、[週単位]、[月単位]、[年単位]、[カスタム] のいずれかに設定することができます。

- b. [タイムゾーン] リストから、スケジュール配信コンテンツの受信者のタイムゾーンを選択します (デフォルトタイムゾーンでない場合)。

- c. [開始] オプションで、ドロップダウンカレンダーから、実行開始の日付時間を選択します。
注意：時間の設定を変更するには、時間と分のいずれかを選択し、矢印を使用して数値を上下させます。
 - d. 実行間隔の選択で該当する場合は、[終了] オプションで、スケジュールの実行を終了する日付と時間を選択します。
 - e. [実行間隔] の選択が有効な場合は、[設定] を選択し、[実行間隔] のチェックをオンにしてカスタム間隔を有効します。
注意：[1 回だけ実行]、[分単位]、[時間単位] を選択した場合、このオプションは無効になります。
8. [タスク] タブを選択します。スケジュール対象として選択したレポートプロシジャ (FEX) に基づいて、[パス]、[プロシジャ]、[サーバ名]、[保存レポート名] テキストボックスに値が入力されます。[タスク] タブについての詳細は、190 ページの「[ベーシックスケジュールツールのタスクの概要](#)」を参照してください。
9. [配信] タブを選択し、レポート配信先の受信者または格納先を指定します。
10. [配信] タブを選択し、選択した配信方法についての情報を指定します。
11. [通知] タブを選択し、スケジュールの実行時に通知を送信するかどうかと、送信条件を選択します。[通知タイプ] には、次のオプションがあります。
- ☐ **なし** ReportCaster からスケジュールステータスの通知が送信されることはありません。これがデフォルト値です。
 - ☐ **常に通知** スケジュールを実行するたびに、通知を送信します。
 - ☐ **エラー時** スケジュールの実行時にエラーが発生したときのみ、通知を送信します。
詳細は、264 ページの「[ベーシックスケジュールツールの通知オプション](#)」を参照してください。
12. [ログレポート] タブで、スケジュールのログの表示とログレポートの管理が行えます。
13. リボンの [保存して閉じる] をクリックし、スケジュールを保存します。
注意：必要に応じて、ツールバーの [保存] をクリックすることで、スケジュールツールを開いたままの状態にすることもできます。
14. スケジュールを格納するフォルダを選択します。
注意
- ☐ この手順を実行するには、このフォルダでのコンテンツの作成権限が必要です。

- ❑ スケジュール保存先のデフォルトパスは、ユーザの権限によって異なります。ユーザがスケジュールツールの起動元フォルダでのコンテンツ作成権限を所有する場合、このフォルダでは、[保存] ダイアログボックスが表示されます。ユーザがこのフォルダでのコンテンツ作成権限を所有しない場合は、[保存] ダイアログボックスは、このフォルダ下の [マイコンテンツ] フォルダで表示されます。[マイコンテンツ] フォルダが使用不可の場合、[保存] ダイアログボックスは、検出された最初の書き込み可能なフォルダで表示されます。

15. スケジュールの名前を入力し、[保存] をクリックします。

注意

- ❑ パラメータを確認する WFDescribe プロセスがスケジュール保存前に完了しなかった場合は、この確認プロセスを続行するか、パラメータを確認せずにスケジュールを保存するかを選択が要求されます。WFDescribe 設定についての詳細は、『ibi[™] WebFOCUS[®] セキュリティ管理ガイド』を参照してください。
- ❑ ファイルのタイトル値の最大長は 256 バイトです。
- ❑ ファイルのタイトルがフォルダ内の既存ファイルと同一名の場合、既存ファイルを置き換えるかどうかのメッセージが表示されます。

ベーシックスケジュールツールのタスクの概要

ベーシックスケジュールツールにアクセスすると、[タスク] タブのオプションは、選択したレポートプロシジャ (FEX) に基づいて、あらかじめ入力されます。パラメータ値の指定、バーストレポートにするかどうかなど、使用可能なオプションの設定を完了します。

注意

- ❑ パラメータ (変数) は、スケジュールの [保存レポート名] テキストボックスで値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータは、&YYMD などのシステム変数にすることも、スケジュール済みプロシジャの実行時に Reporting Server から値が返される任意の変数にすることもできます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用するには、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&|Jones」のように指定します。スケジュールで指定されたパラメータの値がプロシジャ実行時に Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は、「%BURST」記号を使用して [保存レポート名] テキストボックスにバースト値を含めることもできます。

- ❑ WebFOCUS Client ユニバーサルプロファイルは、WebFOCUS リポジトリプロシジャまたは WebFOCUS Reporting Server プロシジャが実行される際に、ReportCaster によって実行されます。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

ベーシックスケジュールツールのタスクオプション

[タスク] タブを選択する場合は、次のオプションがあります。

- ❑ **パス** リポジトリまたは Reporting Server のレポートパスを表示します。
- ❑ **プロシジャ** スケジュールするプロシジャ名を表示します
- ❑ **サーバ名** レポートプロシジャ (FEX) を送信する Reporting Server です。
- ❑ **実行 ID** Reporting Server でレポートプロシジャ (FEX) を実行するユーザ ID です。パスワードを設定するには、このフィールドの右側の [パスワード] ボタンをクリックします。
- ❑ **パスワード** 実行 ID のパスワードを入力します。
- ❑ **アラート** アラートの発動時に、アラートを再び有効にする方法、またはアラート条件を無効にする方法を指定します。[アラート] をクリックして、アラートオプションを指定します。

[アラートオプション] ダイアログボックスで、次のオプションのいずれかを選択します。

- ❑ **アラート実行後、アラート条件が無効になるまでスケジュールを無効にする** アラートの起動後、条件に一致するスケジュールがなくなった時点で、アラートが再度有効になります。アラートの起動後、条件のチェックが続行されます。条件に一致するスケジュールがなくなった時点で、アラートは即座に再度有効になります。これがデフォルト値です。
- ❑ **アラート実行後、スケジュールを継続する** アラートの発動直後にアラートが再度有効になります。
- ❑ **アラート実行後、スケジュールを無効にする** アラートの起動後、スケジュールが無効になります。
- ❑ **遅延** 指定された時間が経過した後、アラートが再起動されます。最大 99 時間、99 日、99 週、99 か月、または 99 年後に、アラートを再起動するよう指定することができます。詳細は、193 ページの「[アラートスケジュールの遅延設定](#)」を参照してください。

注意: スケジュール間隔には、スケジュールされたプロシジャの実行時間より大きい値を設定してください。[遅延] オプションが選択され、指定したスケジュール間隔がプロシジャの実行に必要な時間より短い場合、アラートスケジュールは (選択した配信設定に基づいて) 期待よりも頻繁に配信されます。Email 配信を選択した場合は、結果として不要な Email が配信されるため、アラートレポート配信のビジネスゴールやオペレーショナルゴールに影響を与えます。

- ❑ **有効** デフォルト設定で選択されています。このオプションを使用して、タスクを無効にすることができます。

レポートのプロパティ

- ❑ **バーストレポート** レポートをバーストする場合、[バーストレポート] のチェックをオンにします。バースト機能を使用して、Reporting Server にレポートをセクションごとに作成することを指示し、各セクションが別々に配信されるようにすることができます。詳細は、170 ページの「[レポートのバースト](#)」を参照してください。
- ❑ **プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする** このオプションを選択すると、レポートフォーマットのリストが表示され、プロシジャで指定したフォーマット以外のフォーマットを指定することができます。

注意

- ❑ スケジュールするレポートが SET COMPOUND OPEN 構文を使用する複合レポートの場合、このレポートのスケジュールを作成する際に、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにした上で、フォーマットを指定する必要があります。この方法でフォーマットを指定しない場合、レポートが配信されません。WebFOCUS および App Studio のレポートツール (例、InfoAssist、App Studio ドキュメントキャンパス) で作成された複合レポートの場合、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにする必要はありません。
- ❑ [FLEX]、[VISDIS]、[VISDISAE] レポート出力フォーマットはサポートの対象から除外されました。スケジュール内でこれらのフォーマットのいずれかを使用するタスクを編集する際は、表示されたダイアログボックスで出力フォーマットを変更することができます。
- ❑ [OK] をクリックし、レポートの出力フォーマットが AFLASH (FLEX) に設定されている場合、タスクの出力は AHTML として保存されます。
- ❑ [OK] をクリックし、レポートの出力フォーマットが VISDIS または VISDISAE に設定されている場合、タスクの出力は HTML として保存されます。
- ❑ [閉じる] をクリックした場合、出力フォーマットは変更されず、タスクに加えた変更は保存されません。

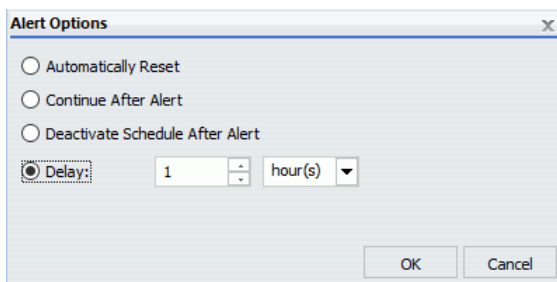
- ❑ 既存のスケジュールをベーシックスケジュールツールで開き、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする]のチェックがオンになっている場合は、フォーマットのリストが表示されます。[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする]のチェックをオフにすると、フォーマットのリストが非表示になります。
 - ❑ 既存のスケジュールをベーシックスケジュールツールで開き、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする]のチェックがオフになっている場合は、フォーマットのリストが表示されません。[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする]のチェックをオンにすると、フォーマットのリストが表示されます。
 - ❑ **保存レポート名** スケジュールの対象として選択したレポートの名前(デフォルト)とは異なるレポート名を指定することができます。
- 注意:** [保存レポート名] テキストボックスに、ファイル拡張子付きの変数が含まれる場合、変数とファイル拡張子の間の区切り文字は、2つの追加ピリオド(.)または1つの縦棒(|)にする必要があります。以下はその例です。
- ❑ **ファイル拡張子の前に2つの追加ピリオド(.)** - 例、car_&YYMD...csv
 - ❑ **ファイル拡張子の前に1つの縦棒(|)** - 例、car_&YYMD|.csv

アラートスケジュールの遅延設定

アラートが発動された場合、特定の状況下ではアラートスケジュールを無効にすることができます。

繰り返し実行のアラートスケジュールで [遅延] オプションが設定されている場合、アラートスケジュールは、セカンダリ実行間隔で繰り返し実行され、アラートの発動後は、次のプライマリ実行間隔まで実行されません。この遅延は、アラートが発動された場合のみ適用されます。

下図は、[アラートオプション] ダイアログボックスを示しています。



たとえば、アラートスケジュールが、毎日 9:00 AM に実行され、セカンダリ実行間隔は 5 分間隔で合計 15 分間継続するよう設定されている場合を想定します。この場合のアラートスケジュールは、9:00 AM、9:05 AM、9:10 AM、9:15 AM と、1 日に 4 回実行されます。下図は、繰り返し実行の設定を示しています。

Schedule Recurrence

Settings

- ☐ Run Once
- ☐ Minutes
- ☐ Hourly
- ☒ Daily
- ☐ Weekly
- ☐ Monthly
- ☐ Yearly
- ☐ Custom

Time Zone: (UTC-05:00) Eastern Time (US & Canada)

Start: Tuesday, November 6, 2018 9:00 AM

End: Monday, December 31, 2018 11:59 PM

Every 1 day(s)

Advanced settings

☒ Repeat schedule every: 5 Minute(s)

☐ Until Time: 2:11 PM

☒ Last For: 0 hour(s) 15 minute(s)

☒ Enabled

OK Cancel

アラートが 9:00 AM に発動された場合、アラート結果レポートは 9:00 AM に配信されます。アラートの発動後、同じレポートを 9:05 AM、9:10 AM、9:15 AM に繰り返し受信する必要はないが、アラートスケジュールを無効にしたくない場合は、[遅延] オプションを使用してアラートスケジュールが次のプライマリ実行間隔で実行されるよう再スケジュールすることができます。

この場合、アラートが火曜日の 9:00 AM に発動された場合、アラートスケジュールは、9:05 AM、9:10 AM、9:15 AM に繰り返し実行されません。セカンダリ実行間隔で実行が予定されていた残りのスケジュール実行はすべてキャンセルされます。ただし、遅延アラートスケジュールは、次のプライマリ実行間隔である水曜日の 9:00 AM に再スケジュールされます。

たとえば、アラートが火曜日の 9:00 AM に発動される前に、アラートスケジュールに 1 時間の遅延を追加した場合、このアラートスケジュールの次の実行時間は 10:00 AM になります。ただし、10:00 AM はセカンダリ実行間隔の時間 (9:00 AM から 9:15 AM の間) より遅いため、アラートスケジュールは翌日水曜日の 9:00 AM まで実行が遅延されます。

パラメータ値の指定

パラメータを使用して、レポートをカスタマイズし、処理を制御することができます。レポートプロシジャ (FEX) をスケジュールする場合、スケジュールタスクの [パラメータ] セクションを使用して、レポートプロシジャで参照されるパラメータの値を入力することや、新しいパラメータを作成した後、パラメータの名前と値を指定することで、スケジュールにパラメータを追加することができます。

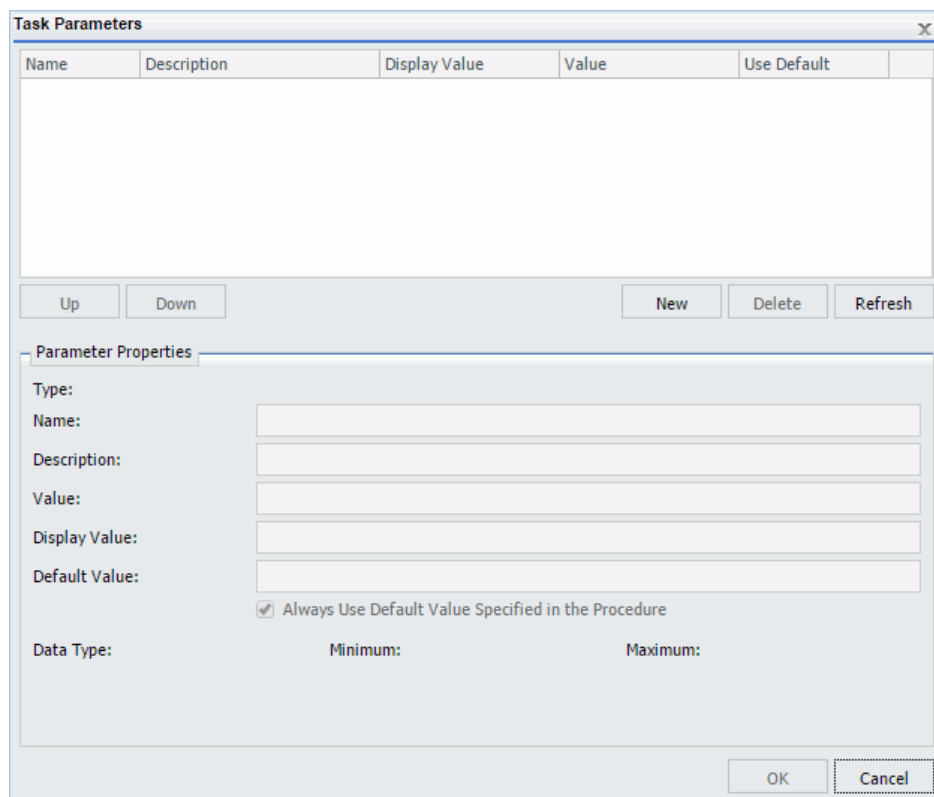
サーバプロシジャに実行前または実行後プロシジャが含まれている場合は、224 ページの「[実行前プロシジャおよび実行後プロシジャをスケジュールするには](#)」を参照してください。

手順

パラメータ値を指定するには

スケジュール済みプロシジャに、実行時に値を指定するパラメータが含まれている場合は、スケジュールツールの [パラメータ] セクションに、これらのパラメータが表示されます。

ベーシックスケジュールツールで [パラメータ] ボタンをクリックし、下図のように [タスクのパラメータ] ダイアログボックスを開きます。



The image shows the 'Task Parameters' dialog box. It has a title bar with a close button (X). Inside, there is a table with the following columns: Name, Description, Display Value, Value, and Use Default. Below the table are buttons for 'Up', 'Down', 'New', 'Delete', and 'Refresh'. At the bottom, there is a 'Parameter Properties' section with fields for 'Type:', 'Name:', 'Description:', 'Value:', 'Display Value:', and 'Default Value:'. There is also a checkbox labeled 'Always Use Default Value Specified in the Procedure' which is checked. Below this, there are fields for 'Data Type:', 'Minimum:', and 'Maximum:'. At the very bottom are 'OK' and 'Cancel' buttons.

[タスクのパラメータ] ダイアログボックスでのパラメータの選択についての詳細は、この章の例を参照してください。

参照

パラメータ値指定時の考慮事項

プロシジャのパラメータ値を指定する場合、次のことを考慮する必要があります。

- ❑ 1つのパラメータの最大バイト数は 3200 です。1つのパラメータに複数の値を保存することができます。1つのパラメータに対する複数の値は、1つの項目として格納されます。この項目は最大値である 3200 バイトを超えることはできません。
- ❑ プロシジャでパラメータが指定されている場合、ReportCaster はパラメータの説明を表示します。指定されていない場合、ReportCaster はパラメータ名を表示します。
- ❑ ReportCaster はデフォルト変数値、および静的または動的の単一選択リストおよび複数選択リストを表示します。

注意

- ❑ 動的複数選択リストには [選択なし] オプションが表示されます。このオプションを選択すると、フィールドのデータ選択テストは実行されません。
- ❑ ReportCaster では、-HTMLFORM コマンドを使用してパラメータ値を動的に選択するリストを作成することはできません。
- ❑ ReportCaster では、マスターファイルで定義済みの FILTERS で使用され、プロシジャで参照されているグローバル変数が表示されます。たとえば、マスターファイルに次の記述が含まれていることを想定します。

```
FILENAME=CAR, SUFFIX=FOC
VARIABLE NAME=&&COUNTRY1, USAGE=A10, DEFAULT=ENGLAND, $
FILTER FILTER1=COUNTRY EQ '&&COUNTRY1'; $
```

さらに、スケジュール中のプロシジャには、次の記述が含まれていることを想定します。

```
WHERE FILTER1
```

この場合、[パラメータ] ウィンドウには、「COUNTRY1」が表示されます。

- ❑ ReportCaster は、-DEFAULTH コマンドでデフォルト値が設定されている変数の入力を要求しません。-DEFAULTH コマンドの目的は、変数にデフォルト値を割り当てることで、この変数への動的プロンプトの表示を防止することです。
- ❑ ReportCaster では、実行時に Distribution Server が設定する内部変数の値の入力は要求されません。たとえば、&DSTOWNER は、スケジュール所有者のユーザ ID です。このパラメータがスケジュール済みプロシジャで参照された場合、実行時に Distribution Server によって、値がスケジュール所有者に設定されるため、この値は使用可能になります。ただし、スケジュールツールの [タスクのパラメータ] ダイアログボックスでは、この値の入力は要求されません。
- ❑ 特殊文字 (例、%、&、|) を使用する場合は、次のことに注意してください。
 - ❑ パラメータ値として WHERE 条件全体を指定する場合、値を 2 つの一重引用符 (') で囲む必要があります。1 つの二重引用符 (") は使用しないでください (例、"WHERE CAR NOT LIKE MOTO%")。
 - ❑ パラメータ値として 1 つの値を指定する場合、パラメータ値を引用符で囲む必要はありません (例、O&DINFO)。
- ❑ 実行前プロシジャまたは実行後プロシジャにパラメータ値を指定する場合、[実行前/実行後プロシジャ] タブを選択し、その値を入力する必要があります。実行前プロシジャおよび実行後プロシジャのスケジュールについての詳細は、224 ページの「[実行前プロシジャおよび実行後プロシジャをスケジュールするには](#)」を参照してください。

- ❑ スケジュールへのパラメータの格納後、ReportCaster のパラメータリストには、そのパラメータの表示が継続され、元のレポートから削除された場合でも、パラメータは、スケジュールが実行される際に Reporting Server に送信されます。パラメータをスケジュール情報から削除するには、スケジュールを編集してパラメータを削除します。スケジュールからパラメータを削除する方法についての詳細は、221 ページの「[パラメータの削除](#)」を参照してください。
- ❑ ファイル名には特殊文字を使用できないため、出力ファイル名を指定するスケジュール設定で、特殊文字を含むパラメータ値を使用することはできません。影響を受けるスケジュール設定の例として、[保存レポート名]、単一ファイル FTP 配信の [レポート名]、および [ZIP ファイル名] の値があります。
- ❑ プロシジャをコーディングして、任意の値の [表示値] を設定することができます。たとえば、値が「ENGLAND」の場合、「England」と表示されるよう [表示値] を設定することができます。

例

レポートプロシジャ (FEX) のデフォルトパラメータの指定

デフォルトパラメータ値は、-DEFAULT コマンドまたは -DEFAULTH コマンドで指定することや、WHERE ステートメントで指定することができます。DEFAULTH コマンドで指定されたデフォルト値の入力は要求されません。

次のプロシジャでは、STATE (アメリカ合衆国の州名の 2 文字または 3 文字の略名) パラメータのデフォルト値として NY が設定されます。

```
-DEFAULT &STATE=NY  
TABLE FILE GGSales  
SUM DOLLARS UNITS  
BY ST  
BY CATEGORY  
BY PRODUCT  
ON TABLE SUBHEAD  
"Product Sales Report"  
WHERE ST EQ '&STATE.2-3 letters for US State.'  
END
```

レポートプロシジャ (FEX) でデフォルト値が定義されているパラメータは、[パラメータ] タブの [値] フィールドに、デフォルト値が表示されます。パラメータがスケジュールに格納されている場合は、ReportCaster によって、実行用に Reporting Server に送信されるスケジュールプロシジャに -SET が追加されます。-SET コマンドにより、- DEFAULT コマンドで指定されたデフォルト値が上書きされます。

下図は、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスに表示された STATE パラメータを示しています。STATE パラメータの [デフォルトの使用] 列の値は [はい] です。[パラメータのプロパティ] セクションでは、[値] および [デフォルト値] テキストボックスに [NY] が表示されています。これがデフォルトのパラメータ値です。

The image shows a 'Task Parameters' dialog box. It contains a table with columns: Name, Description, Display Value, Value, Use Default, and an empty column. The first row is for the 'STATE' parameter, with '2-3 letters for US State' as the description, and 'Yes' in the 'Use Default' column. Below the table are buttons for 'Up', 'Down', 'New', 'Delete', and 'Refresh'. Below the table is a 'Parameter Properties' section. It includes fields for 'Type' (Report Defined), 'Name' (STATE), 'Description' (2-3 letters for US State), 'Value' (NY), 'Display Value' (empty), 'Default Value' (NY), and a checked checkbox 'Always Use Default Value Specified in the Procedure'. There are also fields for 'Data Type', 'Minimum', and 'Maximum'. At the bottom right are 'OK' and 'Cancel' buttons.

Name	Description	Display Value	Value	Use Default	
STATE	2-3 letters for US State			Yes	

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type: Report Defined

Name: STATE

Description: 2-3 letters for US State

Value: NY

Display Value:

Default Value: NY

☒ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

OK Cancel

スケジュールの実行時にデフォルト値以外の値を使用し、プロシジャが変更された場合でもその値が使用されるようにするには、パラメータをクリックし、[パラメータのプロパティ] セクションでパラメータ値を変更します。単純なパラメータの値は、[値] フィールドにパラメータ値を入力して指定します。パラメータタイプには、単一値または複数値の選択が可能な静的パラメータと動的パラメータもあります。これらについては、次の例で説明します。

パラメータがスケジュールに格納されている場合は、ReportCaster によって、実行用に Reporting Server に送信されるスケジュールプロシジャに -SET が追加されます。-SET コマンドは、-DEFAULT コマンドで指定されたデフォルト値を上書きします。

例 パラメータ値の静的単一選択リストの追加

次のプロシジャには、CATEGORY (カテゴリ) フィールドで有効な静的値のリストが含まれています。

```
-DEFAULT &STATE=NY
TABLE FILE GGSales
SUM DOLLARS UNITS
BY ST
BY CATEGORY
BY PRODUCT
ON TABLE SUBHEAD
"Product Sales Report"
WHERE ST EQ '&STATE.2-3 letters for US State.'
WHERE CATEGORY EQ '&CATEGORY. (Coffee,Food,Gifts) .Category.'
END
```


下図は、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスに表示された CATEGORY パラメータを示しています。CATEGORY パラメータの [値] 列の値は [Coffee] です。CATEGORY パラメータにはパラメータ選択値リストが設定されているため、デフォルト値は指定されていません。そのため、[デフォルトの使用] 列はブランクです。

Name	Description	Display Value	Value	Use Default
STATE	2-3 letters for US State			Yes
CATEGORY	Category	Coffee	Coffee	

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type: Report Defined

Name: CATEGORY

Description: Category

Value: Coffee

Display Value:

Default Value:

☐ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

OK Cancel

単一選択パラメータの値を指定するには、[タスクのパラメータ] テーブルでパラメータを選択し、[パラメータのプロパティ] セクションの [値] テキストボックスに値を入力します。値リストから、パラメータに割り当てる値を選択します。静的単一値の選択リストからは、1 つの値のみを選択することができます。

例 パラメータ値の動的単一選択リストの追加

次のプロシジャには、PRODNAME (製品名) フィールドで有効な単一値の選択リストが含まれています。このリストは、GGSALES データソースの値から、動的に作成されます。

```
-DEFAULT &STATE=NY;
TABLE FILE GGSALES
SUM DOLLARS UNITS
BY ST
BY CATEGORY
BY PRODUCT
ON TABLE SUBHEAD
"Product Sales Report"
WHERE ST EQ '&STATE.2-3 letters for US State.'
WHERE PRODUCT EQ '&PRODUCT.(FIND PRODUCT IN GGSALES).Product Name.'
END
```

下図は、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスに表示された PRODUCT パラメータを示しています。PRODUCT パラメータの [値] 列の値は [Espresso] です。PRODUCT パラメータにはパラメータ選択値リストが設定されているため、デフォルト値は指定されていません。そのため、[デフォルトの使用] 列はブランクです。

Name	Description	Display Value	Value	Use Default
STATE	2-3 letters for US State			Yes
PRODUCT	Product Name	Espresso	Espresso	

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type: Report Defined

Name: PRODUCT

Description: Product Name

Value: Espresso

Display Value:

Default Value:

☐ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

OK Cancel

別の値を指定するには、テーブルで [PRODUCT] パラメータをクリックし、[パラメータのプロパティ] セクションでパラメータ値を変更します。動的単一選択リストからは、1つの値のみを選択することができます。

例 パラメータ値の静的複数選択リストの追加

次のプロシジャには、CATEGORY (カテゴリ) フィールドで有効な静的複数值の選択リストが含まれています。

```
-DEFAULT &STATE=NY
TABLE FILE GGSales
SUM DOLLARS UNITS
BY ST
BY CATEGORY
BY PRODUCT
ON TABLE SUBHEAD
"Product Sales Report"
WHERE ST EQ '&STATE.2-3 letters for US State.'
WHERE CATEGORY EQ '&CATEGORY.(OR(Coffee,Food,Gifts)).Category.'
END
```

下図は、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスに表示された CATEGORY パラメータを示しています。CATEGORY パラメータは、値として [Coffee]、[Food]、[Gifts] のみを使用するよう定義されています。これらの選択値は、[値] 列に表示されます。CATEGORY パラメータにはパラメータ選択値リストが設定されているため、デフォルト値は指定されていません。そのため、[デフォルトの使用] 列はブランクです。

Task Parameters

Name	Description	Display Value	Value	Use Default
STATE	2-3 letters for US State			Yes
CATEGORY	Category		'Coffee' OR 'Food' OR 'Gifts'	

Up

Down

New

Delete

Refresh

Parameter Properties

Type:

Report Defined

Name:

CATEGORY

Description:

Category

Value...

'Coffee' OR 'Food' OR 'Gifts'

Display Value:

Default Value:

Always Use Default Value Specified in the Procedure

☐

Data Type:

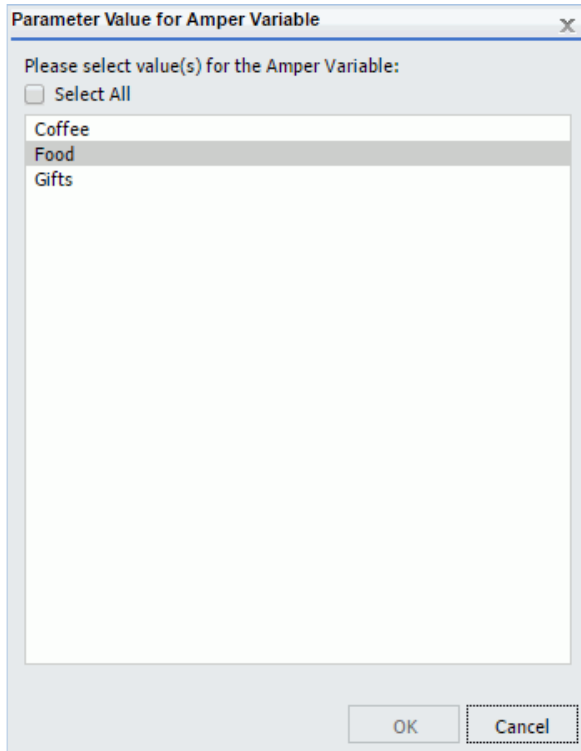
Minimum:

Maximum:

OK

Cancel

[パラメータのプロパティ] セクションで [値] ボタンをクリックすると、下図のように、選択可能な値のリストが表示されます。Ctrl キーを押しながら、静的複数選択リストから複数の値を選択することができます。



例 パラメータ値の動的複数選択リストの追加

次のプロシジャには、PRODNAME フィールドで有効な動的複数値の選択リストが含まれています。このリストは、GGSALES データソースの値から、動的に作成されます。

```
-DEFAULT &STATE=NY;
TABLE FILE GGSALES
SUM DOLLARS UNITS
BY ST
BY CATEGORY
BY PRODUCT
ON TABLE SUBHEAD
"Product Sales Report"
WHERE ST EQ '&STATE.2-3 letters for US State.'
WHERE PRODUCT EQ '&PRODUCT.(OR(FIND PRODUCT IN GGSALES)).Product Name.'
END
```

下図は、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスに表示された CATEGORY パラメータを示しています。CATEGORY パラメータは、GGSALES データソースに存在する任意の値を使用するよう定義されています。これらの選択値は、[値] 列に表示されます。CATEGORY パラメータにはパラメータ選択値リストが設定されているため、デフォルト値は指定されていません。そのため、[デフォルトの使用] 列はブランクです。

The screenshot shows the 'Task Parameters' dialog box. It contains a table with columns: Name, Description, Display Value, Value, Use Default, and an empty column. The table lists two parameters: 'STATE' and 'PRODUCT'. The 'PRODUCT' row is highlighted. Below the table are buttons for 'Up', 'Down', 'New', 'Delete', and 'Refresh'. Below these is the 'Parameter Properties' section, which includes fields for Type, Name, Description, Value, Display Value, and Default Value, along with a checkbox for 'Always Use Default Value Specified in the Procedure' and fields for Data Type, Minimum, and Maximum.

Name	Description	Display Value	Value	Use Default	
STATE	2-3 letters for US State			Yes	
PRODUCT	Product Name		'Latte'		

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type: Report Defined

Name: PRODUCT

Description: Product Name

Value: 'Latte'

Display Value:

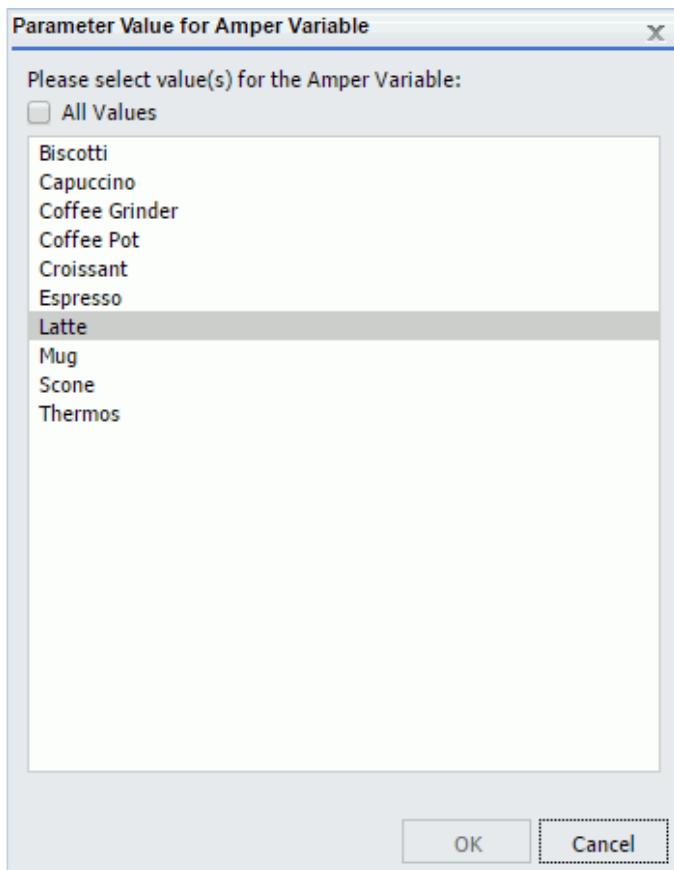
Default Value: '_FOC_NULL'

☐ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

OK Cancel

[パラメータのプロパティ] セクションで [値] ボタンをクリックすると、下図のように、選択可能な値のリストが表示されます。Ctrl キーを押しながら、動的複数選択リストから複数の値を選択することができます。

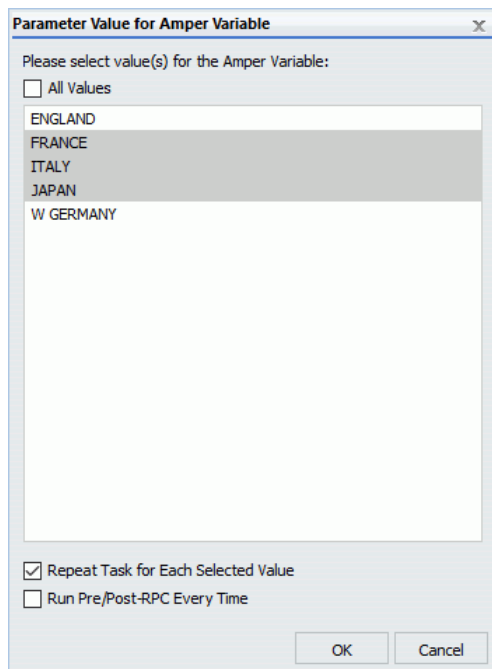


パラメータ値による Analytic Document および複合レポートのバースト

標準のバースト機能を使用して単一レポートをセクション別にユーザ配信する方法のほかに、静的または動的複数選択パラメータのフィルタを使用してレポートをセクション別に配信することもできます。

インタラクティブレポートを含む複合レポートの Analytic Document および Excel フォーマット出力を使用するレポートは、これらのレポートで保存されたパラメータ値を使用してバーストすることができます。また、目次を含む Excel レポートをバーストすることもできます。これらのレポートをバーストするには、最初の BY フィールド以外のフィールドを使用します。

パラメータ値ごとにバーストするためには、[各選択値でタスクを繰り返す] のチェックをオンにする必要があります。下図のように、ベーシックスケジュールツールでもアドバンスドスケジュールツールでも、[各選択値でタスクを繰り返す] のチェックボックスには [変数のパラメータ] ダイアログボックスからアクセスできます。



注意

- ❑ デフォルト設定では、このチェックはオフになっています。
- ❑ [各選択値でタスクを繰り返す] チェックボックスは、静的または動的複数選択パラメータでのみ表示されます。
- ❑ 少なくとも 1 つのパラメータ値を選択する必要があります。
- ❑ [すべての値] のチェックがオンの場合、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスの [値] 列に「_FOC_NULL」と表示されます。サーバは、実行時に WFDDescribe を実行し、パラメータ値のリストを生成します。
- ❑ [各選択値でタスクを繰り返す] 機能は、一度に 1 つのパラメータにのみ適用することができます。

- ❑ [タスク] タブ内の [バーストレポート] のチェックが最初にオンになっている場合、[各選択値でタスクを繰り返す] 機能は無効になり、チェックボックスが選択不可になります。単一スケジュールで 2 つのバースト方法を組み合わせることはできません。
- ❑ [変数のパラメータ] ダイアログボックスで [各選択値でタスクを繰り返す] のチェックがオンになっている場合、[タスク] タブ内の [バーストレポート] チェックボックスは、[パラメータ化レポートフィルタでバースト] チェックボックスになります。このチェックボックスは自動的に選択され、[各選択値でタスクを繰り返す] のチェックをオフにしない限り選択解除されません。

下図のように、選択した値が、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスの [値] 列に大括弧 ([]) で囲まれて表示され、これらが選択値であることが示されます。

Task Parameters

Name	Description	Display Value	Value	Use Default
COUNTRY	COUNTRY:		["JAPAN","ITALY","FRAN"]	

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type: Report Defined

Name: COUNTRY

Description: COUNTRY:

Value... ["JAPAN","ITALY","FRANCE"]

Display Value:

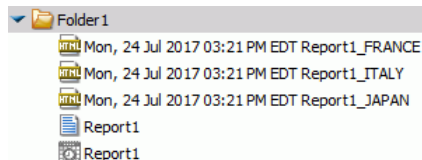
Default Value: '_FOC_NULL'

☐ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

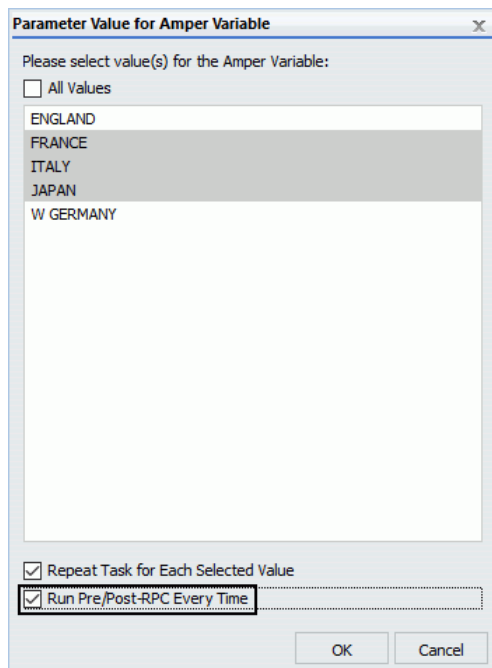
OK Cancel

スケジュールが実行されると、Distribution Server は、選択した各パラメータのタスクの実行を繰り返します。たとえば、パラメータ値の Japan、Italy、France が選択され、[各選択値でタスクを繰り返す] のチェックがオンの場合、スケジュールはレポート情報を 3 つの分割されたレポートにバーストします。下図のように、各レポートには、選択した 3 つのパラメータのいずれかに関連する情報が表示されます。



各パラメータ値の実行前または実行後プロシジャの実行

下図のように、[各選択値でタスクを繰り返す] のチェックをオンにすることで、[実行前/実行後プロシジャを毎回実行] のチェックボックスが選択可能になります。



[実行前/実行後プロシジャを毎回実行] チェックボックスを使用して、Distribution Server は、タスクの繰り返し実行で実行前および実行後プロシジャを毎回実行することができます。

たとえば、3つのパラメータ値が選択され、[実行前/実行後プロシジャを毎回実行]のチェックがオンの場合、実行前プロシジャは、各選択値の前に実行され、実行後プロシジャは各選択値の後に実行されます。

このチェックボックスを選択しない場合、実行前プロシジャは、最初のタスクの実行前に1回のみ実行され、実行後プロシジャは、最後のタスクの実行後に1回のみ実行されます。デフォルト設定では、このチェックはオフになっています。

注意：[実行前/実行後プロシジャを毎回実行]のチェックボックスは、最初に[各選択値でタスクを繰り返す]のチェックがオンになっていない限り選択することができません。

手順

ベーシックスケジュールでフィルタが設定された Analytic Document または Excel 複合レポートをバーストするには

1. 少なくとも1つの静的または動的複数選択パラメータを含む Analytic Document または Excel 複合レポートを作成します。
2. レポートを右クリックして[スケジュール]を選択し、ベーシックスケジュールを開始する配信方法を選択します。
3. [オプション]グループで、[パラメータ]をクリックします。
[タスクのパラメータ]ダイアログボックスが開きます。
4. 編集するパラメータを選択します。
パラメータを選択すると、選択したパラメータについての情報が[パラメータのプロパティ]セクションに入力されます。
5. [パラメータのプロパティ]セクションで、[値]ボタンをクリックします。
注意：[値]ボタンを選択可能にするには、選択したパラメータが複数選択パラメータである必要があります。
[変数のパラメータ]ダイアログボックスが開きます。
6. スケジュールをバーストする値を選択します。Ctrl キーを押しながら、マウスを使用して複数の値を選択します。すべての値を選択するには、[すべての値]のチェックをオンにします。
7. [各選択値でタスクを繰り返す]のチェックをオンにします。
8. 必要に応じて、[実行前/実行後プロシジャを毎回実行]のチェックをオンにします。詳細は、210 ページの「[各パラメータ値の実行前または実行後プロシジャの実行](#)」を参照してください。
9. [OK]をクリックします。

下図のように、選択したパラメータ値が、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスの [値] 列に、大括弧 ([]) で囲まれて表示されます。

Name	Description	Display Value	Value	Use Default
COUNTRY	COUNTRY:		["JAPAN","ITALY","FRANCE"]	

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type: Report Defined

Name: COUNTRY

Description: COUNTRY:

Value... ["JAPAN","ITALY","FRANCE"]

Display Value:

Default Value: '_FOC_NULL'

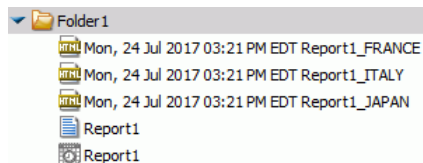
☐ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

OK Cancel

10. [OK] をクリックします。
11. スケジュールのその他すべての必須オプションおよび設定を入力後、スケジュールを保存します。詳細は、188 ページの「[ベーシックスケジュールツールによるスケジュールの作成](#)」を参照してください。
12. スケジュールを実行します。

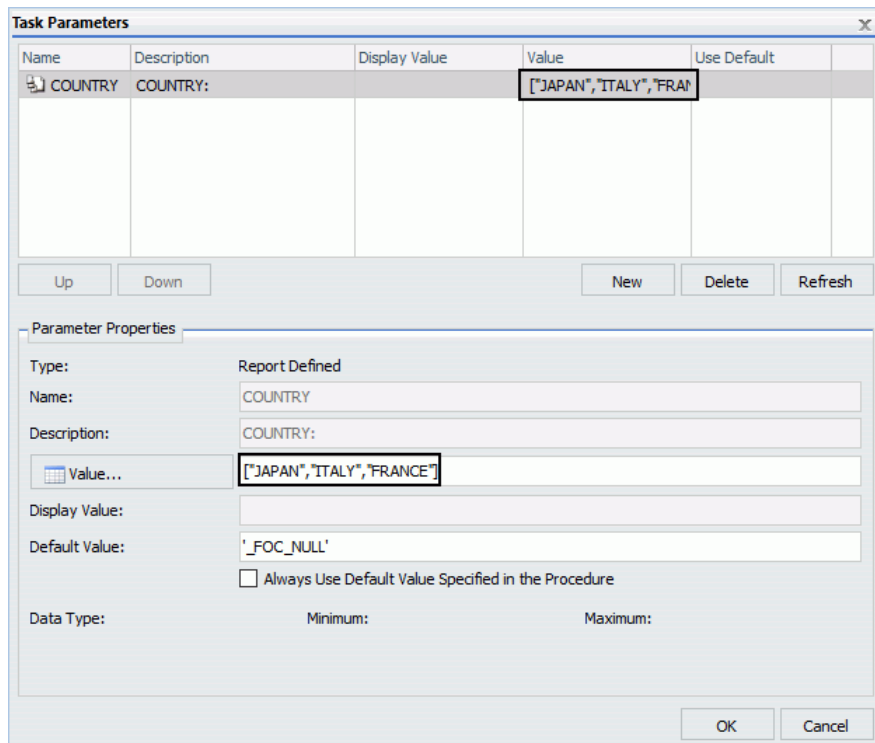
下図のように、スケジュールが実行されると、選択したバーストパラメータごとにレポートが配信されます。



手順 アドバンストスケジュールでフィルタが設定された Analytic Document または Excel 複合レポートをバーストするには

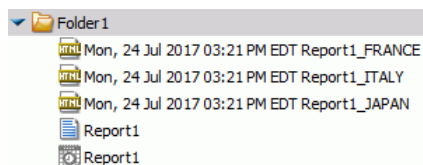
1. 少なくとも 1 つの静的または動的複数選択パラメータを含む Analytic Document または Excel 複合レポートを作成します。
2. 開始ページまたは WebFOCUS ホームページで、新しいスケジュールを作成するワークスペースをクリックします。
3. アクションバーで [スケジュール] をクリックし、[スケジュール] ボタンを選択します。
アドバンストスケジュールツールが表示されます。
4. [タスク] タブをクリックします。
5. [新規作成] ボタン横の矢印をクリックして、タスクタイプを選択し、新しいタスクを作成します。
6. [パラメータ] タブをクリックします。
注意: [パラメータ] タブは、WebFOCUS サーバプロシジャまたは WebFOCUS レポートを選択した場合にのみ表示されます。
7. 編集するパラメータを選択します。
パラメータを選択すると、選択したパラメータについての情報が [パラメータのプロパティ] セクションに入力されます。
8. [パラメータのプロパティ] セクションで、[値] ボタンをクリックします。
注意: [値] ボタンを選択可能にするには、選択したパラメータが複数選択パラメータである必要があります。
[変数のパラメータ] ダイアログボックスが開きます。
9. スケジュールをバーストする値を選択します。Ctrl キーを押しながら、マウスを使用して複数の値を選択します。すべての値を選択するには、[すべての値] のチェックをオンにします。
10. [各選択値でタスクを繰り返す] のチェックをオンにします。
11. 必要に応じて、[実行前/実行後プロシジャを毎回実行] のチェックをオンにします。詳細は、210 ページの「[各パラメータ値の実行前または実行後プロシジャの実行](#)」を参照してください。
12. [OK] をクリックします。

下図のように、選択したパラメータ値が、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスの [値] 列に、大括弧 ([]) で囲まれて表示されます。



13. [OK] をクリックします。
14. スケジュールのその他すべての必須オプションおよび設定を入力後、スケジュールを保存します。詳細は、188 ページの「[ベーシックスケジュールツールによるスケジュールの作成](#)」を参照してください。
15. スケジュールを実行します。

下図のように、スケジュールが実行されると、選択したバーストパラメータごとにレポートが配信されます。



フィルタ設定済みおよびフィルタ未設定レポートを含む Analytic Document または Excel 複合レポートのバースト

フィルタ設定済みおよびフィルタ未設定レポートを含む Analytic Document または Excel 複合レポートを作成する場合、フィルタ設定済みレポートのみバースト構成することができます。

下図では、InfoAssist で作成した 2 つのレポートが 1 つのダッシュボード上に表示されています。MODEL、CAR、COUNTRY、DEALER COST のデータを示すレポートには、COUNTRY フィルタが適用されており、ユーザはレポート結果を国別にフィルタすることができます。MODEL および RETAIL_COST のデータを示すレポートにはフィルタが設定されていません。

MODEL	CAR	COUNTRY	DEALER_COST
100 LS 2 DOOR AUTO	AUDI	W GERMANY	5,063
2000 4 DOOR BERLINA	ALFA ROMEO	ITALY	4,915
2000 GT VELOCE	ALFA ROMEO	ITALY	5,660
2000 SPIDER VELOCE	ALFA ROMEO	ITALY	5,660
2002 2 DOOR	BMW	W GERMANY	5,800
2002 2 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	6,000
3.0 Si 4 DOOR	BMW	W GERMANY	10,000
3.0 Si 4 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	11,000
504 4 DOOR	PEUGEOT	FRANCE	4,631
530i 4 DOOR	BMW	W GERMANY	8,300
530i 4 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	8,400
B210 2 DOOR AUTO	DATSUN	JAPAN	2,626
COROLLA 4 DOOR DIX AUTO	TOYOTA	JAPAN	2,886
DORA 2 DOOR	MASERATI	ITALY	25,000
INTERCEPTOR III	JENSEN	ENGLAND	14,940
TR7	TRIUMPH	ENGLAND	4,292
V12XKE AUTO	JAGUAR	ENGLAND	7,427
XJ12L AUTO	JAGUAR	ENGLAND	11,194

MODEL	RETAIL_COST
100 LS 2 DOOR AUTO	5,970
2000 4 DOOR BERLINA	5,925
2000 GT VELOCE	6,620
2000 SPIDER VELOCE	6,620
2002 2 DOOR	5,940
2002 2 DOOR AUTO	6,355
3.0 Si 4 DOOR	13,752
3.0 Si 4 DOOR AUTO	14,123
504 4 DOOR	5,610
530i 4 DOOR	9,097
530i 4 DOOR AUTO	9,949
B210 2 DOOR AUTO	3,139
COROLLA 4 DOOR DIX AUTO	3,339
DORA 2 DOOR	31,500
INTERCEPTOR III	17,850
TR7	5,100
V12XKE AUTO	8,878
XJ12L AUTO	13,491

スケジュールツールを使用して、この複合レポートの [タスクのパラメータ] にアクセスする場合、パラメータの編集はフィルタ設定済みレポートにのみ適用されます。つまり、フィルタ設定済みレポートのパラメータにのみ値を割り当てることができるということです。下図はこの例を示しています。この場合、COUNTRY パラメータに割り当てられた値が表示されます。

Task Parameters

Name	Description	Display Value	Value	Use Default
COUNTRY	COUNTRY:		["W GERMANY","JAPAN","FRANCE"]	

UpDown

NewDeleteRefresh

Parameter Properties

Type:

Report Defined

Name:

COUNTRY

Description:

COUNTRY:

Value...

["W GERMANY","JAPAN","FRANCE"]

Display Value:

Default Value:

'_FOC_NULL'

☐ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type:

Minimum:

Maximum:

OK

Cancel

複合レポートのバースト配信をスケジュールする際に、[各選択値でタスクを繰り返す] のチェックがオンの場合、フィルタの設定されたレポートが、選択したパラメータ値に基づいてバーストされます。下図では、複合レポートが 3 つのバーストレポートに分割されて配信されます。この場合、各バーストレポートには、それぞれ W GERMANY、FRANCE、JAPAN でフィルタされたデータが表示されます。



各バーストレポートでは、1 つ目のレポートに選択した COUNTRY 値のデータが表示されます。

下図は、W GERMANY のバースト複合レポートを示しています。

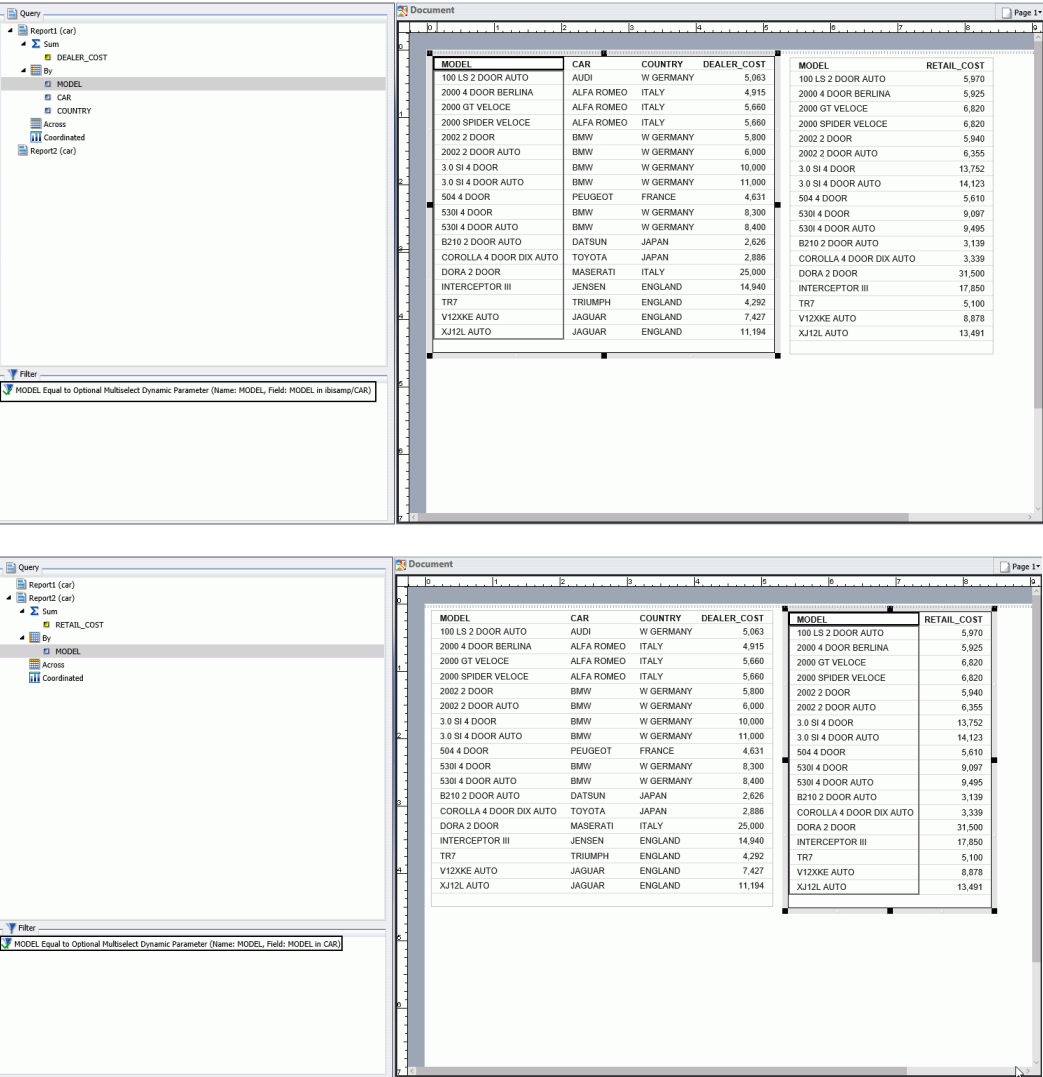
MODEL	CAR	COUNTRY	DEALER_COST	MODEL	RETAIL_COST
100 LS 2 DOOR AUTO	AUDI	W GERMANY	5,063	100 LS 2 DOOR AUTO	5,970
2002 2 DOOR	BMW	W GERMANY	5,800	2000 4 DOOR BERLINA	5,925
2002 2 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	6,000	2000 GT VELOCE	6,820
3.0 Si 4 DOOR	BMW	W GERMANY	10,000	2000 SPIDER VELOCE	6,820
3.0 Si 4 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	11,000	2002 2 DOOR	5,940
530i 4 DOOR	BMW	W GERMANY	8,300	2002 2 DOOR AUTO	6,355
530i 4 DOOR AUTO	BMW	W GERMANY	8,400	3.0 Si 4 DOOR	13,752
7 of 7 records, Page 1 of 1				3.0 Si 4 DOOR AUTO	14,123
				504 4 DOOR	5,610
				530i 4 DOOR	9,097
				530i 4 DOOR AUTO	9,495
				B210 2 DOOR AUTO	3,139
				COROLLA 4 DOOR DIX AUTO	3,339
				DORA 2 DOOR	31,500
				INTERCEPTOR III	17,850
				TR7	5,100
				V12XKE AUTO	8,878
				XJ12L AUTO	13,491
				18 of 18 records, Page 1 of 1	

2 つ目のレポートにはフィルタが適用されていないため、2 つ目のレポートの結果は、各バースト複合レポートで同一になります。COUNTRY フィルタが適用されたレポートのみが変更されます。

フィルタ設定済みレポートのみを含む Analytic Document または Excel 複合レポートのバースト

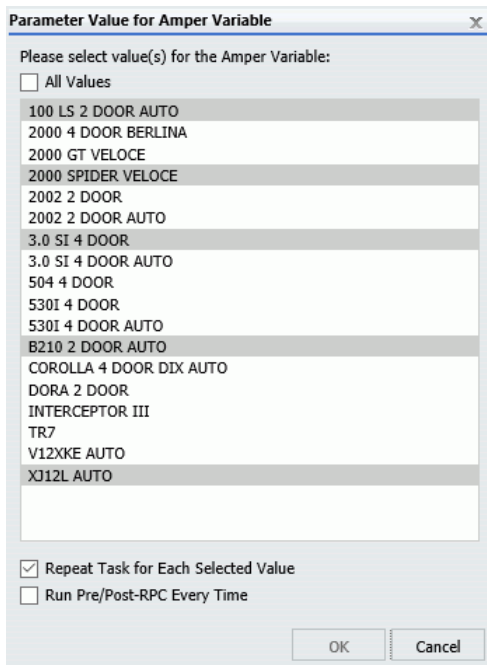
フィルタ設定済みレポートのみを含む Analytic Document または Excel 複合レポートをバーストする場合、すべてのレポートにバーストを適用することができます。

下図では、InfoAssist で作成した 2 つのレポートが 1 つのダッシュボード上に表示されています。両方のレポートで、MODEL データに対して同一のフィルタが使用されます。



スケジュールツールから、この複合レポートの [タスクのパラメータ] にアクセスすると、両方のレポートに MODEL の値を指定することができます。

下図のように、MODEL パラメータにはフィルタ値として、3.0 SI 4 DOOR、100 LS 2 DOOR AUTO、XJ12L AUTO、B210 2 DOOR AUTO、2000 SPIDER VELOCE の値が選択されています。



下図のように、選択した値は、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスで大括弧 ([]) に囲まれて表示されます。

Name	Description	Display Value	Value	Use Default
MODEL	MODEL:		["3.0 SI 4 DOOR","100 LS 2 DOOR AUTO","XJ	

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type: Report Defined

Name: MODEL

Description: MODEL:

Value... ["3.0 SI 4 DOOR","100 LS 2 DOOR AUTO","XJ12L AUTO","B210 2 DOOR AUTO","2000 S

Display Value:

Default Value: ' FOC_NULL'

☐ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

OK Cancel

複合レポートのバースト配信をスケジュールする際に、[各選択値でタスクを繰り返す] のチェックがオンの場合、選択したパラメータ値に基づいてバーストレポートが作成されます。下図では、複合レポートは 5 つの複合レポートにバースト配信され、各レポートには、選択した MODEL でフィルタされたデータが表示されます。

Example	
Document2	
Document2	
HTML	Fri, 26 May 2017 03:43 PM EDT Document2_100 LS 2 DOOR AUTO
HTML	Fri, 26 May 2017 03:43 PM EDT Document2_2000 SPIDER VELOCE
HTML	Fri, 26 May 2017 03:43 PM EDT Document2_3.0 SI 4 DOOR
HTML	Fri, 26 May 2017 03:43 PM EDT Document2_B210 2 DOOR AUTO
HTML	Fri, 26 May 2017 03:43 PM EDT Document2_XJ12L AUTO

各バースト複合レポートでは、両方のレポートに選択した MODEL のデータが表示されます。下図は、3.0 SI 4 DOOR という MODEL の情報が選択されたバースト複合レポートを示しています。バースト複合レポート内の両方のレポートに、選択した MODEL の情報のみが表示されます。

MODEL ▼	CAR ▼	COUNTRY ▼	DEALER_COST ▼	MODEL ▼	RETAIL_COST ▼
3.0 SI 4 DOOR	BMW	W GERMANY	10,000	3.0 SI 4 DOOR	13,752
1 of 1 records, Page 1 of 1				1 of 1 records, Page 1 of 1	

パラメータの削除

スケジュール済みジョブが正常に実行されるようにするため、レポートプロシジャ (FEX) をスケジュールする際は、削除するパラメータが次のように処理されることを確認しておくことが重要です。

- ❑ デフォルト値は、スケジュールを作成しているレポートプロシジャ (FEX) で指定されます。
- ❑ パラメータの値は、スケジュール済みジョブが Reporting Server で実行される際に、レポートプロシジャ (FEX) の処理によって、動的に割り当てられます。
- ❑ レポートプロシジャ (FEX) が Reporting Server で処理される際は、パラメータは参照されません。

パラメータを削除してスケジュール情報に表示されないようにするには、パラメータのテーブルでパラメータを選択し、[削除] ボタンをクリックします。

新規パラメータの作成

スケジュール中のレポートプロシジャで未定義のパラメータと値を、スケジュールジョブによって送信する必要がある場合は、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスで新しいパラメータを作成することができます。スケジュール済みジョブを正常に実行するには、Reporting Server が処理中に参照するパラメータに、値を割り当てる必要があります。必須のパラメータ値が提供されなかった場合は、スケジュールのジョブログレポートに、その情報が格納されません。

手順 新しいパラメータを作成するには

タスクのパラメータを作成するには、次の手順を実行します。

1. 下図のように、リボンの [パラメータ] をクリックし、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスを表示します。

Task Parameters

Name	Description	Display Value	Value	Use Default
------	-------------	---------------	-------	-------------

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type:

Name:

Description:

Value:

Display Value:

Default Value:

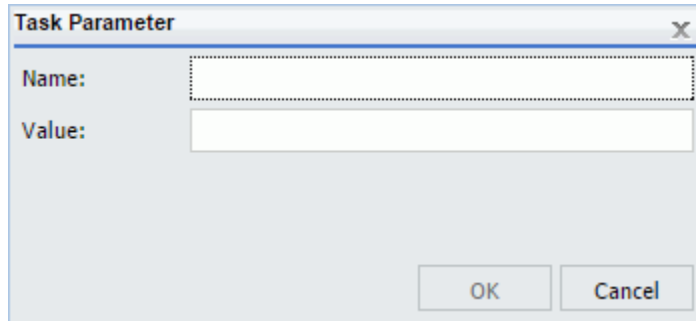
☒ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

OK Cancel

2. [パラメータのプロパティ] セクションの上部にある [新規作成] ボタンをクリックします。

下図のように、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスが表示されます。



The image shows a 'Task Parameter' dialog box with a title bar containing a close button (X). Inside the dialog, there are two labels: 'Name:' and 'Value:'. Next to 'Name:' is a text box with a dotted border. Next to 'Value:' is a solid text box. At the bottom right of the dialog are two buttons: 'OK' and 'Cancel'.

3. [名前] および [値] テキストボックスに、値を入力します。
4. [OK] をクリックします。
[タスクのパラメータ] ダイアログボックスの [パラメータ] テーブルの [名前] と [値] に、それぞれの値が表示されます。
5. パラメータ値を変更する場合は、[パラメータ] テーブルでパラメータを選択し、[パラメータのプロパティ] セクションの [値] テキストボックスで値を指定します。
6. タスクのパラメータ設定の入力を完了後、[OK] をクリックします。

レポートフォーマットの選択

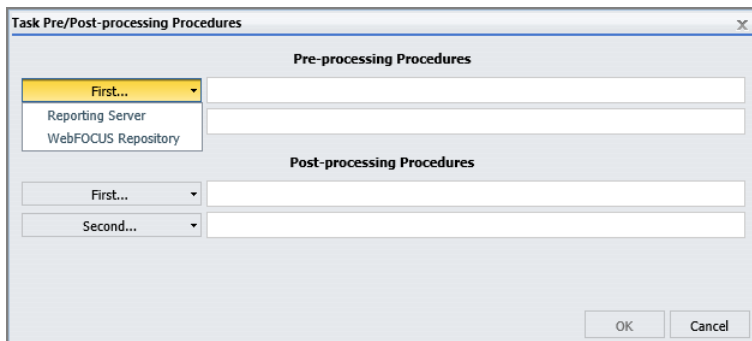
フォーマットを選択する際は、次のガイドラインに従います。

- ❑ バーストをサポートするフォーマットは、AHTML (FML レポート以外)、ALPHA、COM、COMMA、COMT、DHTML (FML レポート以外)、DFIX、DOC、EXL07、EXL2K、EXL2K FORMULA、EXL2K TEMPLATE、EXL97、GIF、HTML、HTML ODP (FML レポート以外)、JPEG、PDF、PNG、PPT、SVG、TAB、TABT、WP です。統合された複合レポートのバーストは、DHTML フォーマット、PDF フォーマット、PPT フォーマットのみでサポートされません。

- ❑ フォーマットを選択すると、[保存レポート名] テキストボックスで指定された出力ファイル名には、適切なファイル拡張子が自動的に追加されます。この拡張子は、手動による変更が必要な場合があります。たとえば、スケジュールで DHTML フォーマットを選択し、レポート出力が Web アーカイブファイル以外の場合は、拡張子を .htm に変更します。スケジュールで HTML フォーマットを選択し、レポート出力が Web アーカイブファイルの場合は、拡張子を .mht に変更します。スケジュールで EXLO7 TEMPLATE フォーマットを選択し、指定されたテンプレートでマクロが有効な場合は、拡張子を .xism に変更する必要があります。DHTML フォーマットおよび EXLO7 TEMPLATE フォーマットについての詳細は、443 ページの「[スケジュール出力の ReportCaster フォーマット](#)」を参照してください。
- ❑ [プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] オプションを使用してフォーマットを選択した場合、埋め込み Email 配信が可能なフォーマットは、DHTML、DOC、GIF、HTML、JPEG、PNG、SVG、WPDHTML、DOC、GIF、HTML、JPEG、PNG、SVG、WP のみです。[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] オプションを使用せず、埋め込み配信がサポートされないフォーマットで埋め込みオプションを選択した場合、出力は添付ファイルとして配信されます。また、レポートを Email に埋め込んで配信する場合、レポートの表示がメールサーバの影響を受けたり、Email がブロックされる可能性があります。JavaScript、埋め込みイメージ、CSS 参照を使用するレポートフォーマットとオプションを使用する前に、メールサーバプロバイダの制限を確認してください。

実行前プロシジャおよび実行後プロシジャをスケジュールするには

サーバプロシジャまたはレポートプロシジャ (FEX) をスケジュールする場合、最大で 2 つの実行前プロシジャと実行後プロシジャをスケジュールすることができます。下図のように、スケジュールする実行前プロシジャおよび実行後プロシジャは、Reporting Server または WebFOCUS リポジトリに配置することができます。



注意：ReportCaster 内部変数 (&DST で始まる変数) はすべて、実行前プロシジャおよび実行後プロシジャに渡されるため、これらの変数がアプリケーション固有のロジックで使用可能になります。詳細は、469 ページの「[ReportCaster 変数](#)」を参照してください。

手順

実行前プロシジャまたは実行後プロシジャをスケジュールに追加するには

1. [スケジュール] リボンの [オプション] グループで [実行前/実行後プロシジャ] を選択し、[タスクの実行前/実行後プロシジャ] ダイアログボックスを開きます。
2. プロシジャを選択するには、次の手順を実行します。
 - a. [実行前プロシジャ] ラベル下で [第 1] を選択後、プロシジャの配置先に応じて [WebFOCUS リポジトリ] または [Reporting Server] のいずれかを選択します。
 - b. [開く] ダイアログボックスで、追加するプロシジャが格納されているフォルダに移動し、このフォルダを開きます。
 - c. 追加するプロシジャを選択後、[開く] を選択してダイアログボックスを閉じ、選択したプロシジャのパスを追加します。
 - d. スケジュールに追加する実行前プロシジャまたは実行後プロシジャごとに、a から c までの手順を繰り返します。
3. プロシジャを入力するには、次の手順を実行します。

- a. [タスクの実行前/実行後プロシジャ] ダイアログボックスの適切なテキストボックスに、フルパスまたはプロシジャ名を直接入力します。

注意：アプリケーションパスを指定しない場合は、Reporting Server のデフォルト検索パスを使用して特定のプロシジャを検索します。

- b. 必要に応じて、プロシジャ名の後に 1 つまたは複数のパラメータ値を入力することもできます。この場合、名前と値の組み合わせ構成を使用します。複数のパラメータ値の組み合わせは、カンマ (,) で区切る必要があります。以下はその例です。

`procedurename name=value, name=value`

これらの組み合わせは、プロシジャ内で使用される順序で記述する必要はありません。

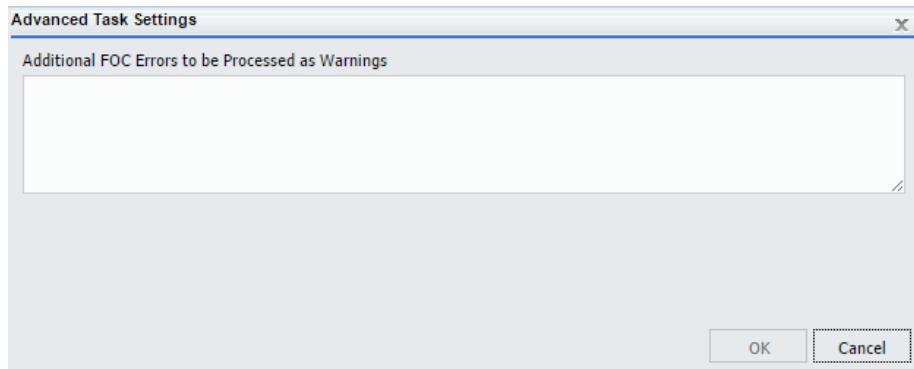
プロシジャにパラメータ値を提供する方法の追加情報については、『[ibi™ WebFOCUS® アプリケーション作成ガイド](#)』の「[別プロシジャからの変数値の提供](#)」を参照してください。

4. [OK] をクリックして、新しい構成を保存します。

タスクの詳細設定

[タスクの詳細設定] タブでは、[警告として処理する追加の FOC エラー] ダイアログボックスを開き、1 つ以上の FOC エラーメッセージ番号をカンマ区切りで指定することができます。これらの FOCUS エラー番号のいずれかがスケジュール実行中に検出された場合、ReportCaster はそのスケジュール実行をエラーではなく、警告として処理します。たとえば、プロシジャから FOC1517 エラーが生成される場合、テキストボックスに「1517」を追加すると、このエラーが警告に変換されます。つまり、レポートが生成された場合、FOCUS エラー番号に関係なくレポートが配信されます。また、エラー発生時に通知を送信するようスケジュールが構成されている場合でも、この FOCUS エラー番号でエラー通知が送信されることはありません。

下図は、[タスクの詳細設定] ダイアログボックスを示しています。



パラメータ値としての変数の使用

パラメータ付きレポートをスケジュールする場合、パラメータ値をリテラル値ではなく変数に設定することができます。この機能を使用することで、実行前にスケジュールを更新する手間が軽減されます。たとえば、最新情報を表示するためにスケジュールを毎日編集する代わりに、実行日の日付を常に表示するようレポートのスケジュールを設定することができます。これは、パラメータ値を &YYMD に設定することで実行できます。下図のように、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスには、[値にシステム変数を含める] というチェックボックスが表示されます。

The image shows a 'Parameter Properties' dialog box. It contains the following fields and options:

- Type:** Report Defined
- Name:** Sale_Date
- Description:** Sale Date: Use &YYMD in Schedules
- Value:** &YYMD
- ☒ The value contains a system variable
- Display Value:** (empty field)
- Default Value:** (empty field)
- ☐ Always Use Default Value Specified in the Procedure
- Data Type:** (empty field)
- Minimum:** (empty field)
- Maximum:** (empty field)

デフォルト設定では、このチェックはオフになっています。このチェックをオンにした場合、先頭にアンパサンド文字 (&) の付いた文字列が変数として処理されます。このチェックをオフにした場合、アンパサンド文字 (&) はリテラル値として処理されます。この機能は、システム変数でも、Reporting Server グローバルプロファイル edasprof.prf で設定されたグローバル変数でも使用できます。

例 パラメータ値としての &YYMD 変数の使用

次の構文は、&YYMD 変数で使用可能な日付パラメータ値を含むサンプルレポートプロシジャ (FEX) です。

```

- *COMPONENT=Define_wf_retail
DEFINE FILE retail_samples/wf_retail
Sale_Date/YYMD='&Sale_Date.Sale Date: Use &|YYMD in Schedules.' ;
Last_Year/YYMD=Sale_Date - 365 ;
Two_Years_Ago/YYMD=Last_Year - 365 ;
Quantity/D12.2=IF WF_RETAIL.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_DATE EQ Sale_Date THEN
WF_RETAIL.WF_RETAIL_SALES.QUANTITY_SOLD ELSE 0 ;
Prior_Year/D12.2=IF WF_RETAIL.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_DATE EQ Last_Year THEN
WF_RETAIL.WF_RETAIL_SALES.QUANTITY_SOLD ELSE 0 ;
Two_Years_Past/D12.2=IF WF_RETAIL.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_DATE EQ Two_Years_Ago
THEN WF_RETAIL.WF_RETAIL_SALES.QUANTITY_SOLD ELSE 0 ;
END
ENGINE INT CACHE SET ON
SET PAGE-NUM=NOLEAD
SET SQUEEZE=ON
-DEFAULTH &WF_HTMLENCODING=ON;
SET HTMLENCODING=&WF_HTMLENCODING

SET HTMLCSS=ON
-DEFAULTH &WF_EMPTYREPORT=ON;
SET EMPTYREPORT=&WF_EMPTYREPORT

-DEFAULTH &WF_SUMMARY='Summary';
-DEFAULTH &WF_TITLE='WebFOCUS Report';
TABLE FILE retail_samples/wf_retail
SUM Sale_Date AS 'Sale,Date'
Quantity AS 'Quantity Sold'
Last_Year AS 'Last,Year'
Prior_Year AS 'Quantity Sold,Last Year'
Two_Years_Ago AS 'Two,Years,Ago'
Two_Years_Past AS 'Quantity Sold,Two Years Ago'
BY WF_RETAIL.WF_RETAIL_GEOGRAPHY_STORE.BUSINESS_REGION
WHERE (WF_RETAIL.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_DATE EQ Sale_Date) OR
(WF_RETAIL.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_DATE EQ Last_Year) OR
(WF_RETAIL.WF_RETAIL_TIME_SALES.TIME_DATE EQ Two_Years_Ago);
ON TABLE SUBHEAD
"&Company.Company Name: Use Widgets&|More in Schedules."
ON TABLE PCHOLD FORMAT HTML
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET CACHELINES 100
ON TABLE SET GRWIDTH 1
ON TABLE SET STYLE *
INCLUDE=IBFS:/FILE/IBI_HTML_DIR/javaassist/intl/EN/combine_templates/
ENIADefault_combine.sty,$
TYPE=REPORT, TITLETEXT=&WF_TITLE.QUOTEDSTRING, SUMMARY=&WF_SUMMARY.QUOTEDSTRING,
ORIENTATION=LANDSCAPE, HFREEZE=OFF, $
TYPE=TABHEADING, LINE=1, JUSTIFY=LEFT, $
TYPE=TABHEADING, LINE=1, ITEM=1, OBJECT=TEXT, SIZE=14, STYLE=BOLD+ITALIC, $
ENDSTYLE
END

```

1. WebFOCUS リポジトリ内のワークスペースまたはフォルダを開きます。アクションバーで[その他]をクリックし、[テキストエディタ]を選択します。

上記の構文例をコピーし、テキストエディタに貼り付け、ファイルを保存します。

2. このレポートプロシジャ (FEX) を右クリックして、[スケジュール]、[リポジトリ] を順に選択し、スケジュールツールを開きます。このスケジュールを保存すると、レポートがフォルダに送信されます。
3. リボンの [オプション] グループで [パラメータ] タブをクリックし、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスを表示します。
4. Sale_Date パラメータを選択します。[パラメータのプロパティ] セクションで、[値] テキストボックスに「&YYMD」と入力します。
5. [値にシステム変数を含める] のチェックをオンにします。
6. Company パラメータを選択します。[パラメータのプロパティ] セクションで、[値] テキストボックスに「Widgets&More」と入力します。このパラメータの [値にシステム変数を含める] のチェックがオフになっていることを確認します。
7. [OK] をクリックし、[タスクのパラメータ] ダイアログボックスを閉じます。
8. リボンの [アクション] グループで [保存して閉じる] をクリックし、このスケジュールをリポジトリフォルダに保存します。
9. スケジュールを保存したフォルダに移動し、配信済みレポートを確認します。必要に応じて、スケジュールを右クリックして [実行] を選択し、追加のレポートを配信します。
10. 配信済みのレポートをダブルクリックして開きます。

下図のように、2021 年 3 月 23 日に配信された Widgets&More 社のレポートに、2021 年、2020 年、2019 年の 3 月 23 日の販売数量が表示されています。

Tue, 27 Mar 2018 02:04 PM EDT Daily_Quantity_Sold

Widgets&More

Store Business Region	Sale Date	Quantity Sold	Last Year	Quantity Sold Last Year	Two Years Ago	Quantity Sold Two Years Ago
EMEA	2018/03/27	1,199.00	2017/03/27	858.00	2016/03/27	590.00
North America	2018/03/27	2,813.00	2017/03/27	1,546.00	2016/03/27	525.00
Oceania	2018/03/27	13.00	2017/03/27	.00	2016/03/27	.00
South America	2018/03/27	89.00	2017/03/27	55.00	2016/03/27	35.00

ベーシックスケジュールツールの配信オプション

ベーシックスケジュールツールの [配信] タブには、レポートプロシジャ (FEX) のレポート出力をスケジュール配信する際に指定可能なオプションが表示されます。プロシジャのコンテキストメニューから次のいずれかの配信方法を選択して、レポート出力を配信することができます。

- ☐ Email
- ☐ FTP
- ☐ ReportLibrary
- ☐ リポジトリ

注意

- ☐ 配信方法は、ReportCaster の構成でグローバル (すべてのユーザ向け) に制限することや、セキュリティ処理でグループまたは個別ユーザを対象として制限することができます。
- ☐ [スケジュールを ReportLibrary 配信のみに制限する] オプションを選択することで、WebFOCUS リポジトリレポートの配信を ReportLibrary のみに制限することができます。詳細は、271 ページの「[レポート配信を ReportLibrary のみに制限](#)」を参 照してください。
- ☐ マップは、ReportLibrary および リポジトリにのみ配信することができます。マップを Email または FTP 配信した場合、マップが正しく開きません。
- ☐ テキストフォーマットで配信されるレポートから末尾のブランクを削除するには、管理者が管理コンソールの [カスタム設定] テキストボックスに「IBIWF_trimreport=YES」を追加する必要があります。また、この設定を特定のレポートフォーマットに適用するには、たとえば「IBIWF_trimreport=WP」と入力します。

ベーシックスケジュールツールでの Email 配信オプションの使用

Email でレポートを配信する際、レポートは Email の本文に埋め込んで送信することや、添付ファイルとして送信することができます。埋め込み Email 配信が可能なフォーマットは、DHTML、DOC、GIF、HTML、JPG、PNG、SVG、WP のみです。

注意：Email 配信を使用するスケジュールを作成するには、Email 配信の権限が必要です。

レポート出力を Email メッセージの本文として配信する方法は、特にモバイルデバイス、または添付ファイルをサポートしない Email システムに配信する際に役立ちます。

注意

- ❑ スケジュール作成時に Email の本文に埋め込んで送信するオプションが利用できるかどうかは、構成ツール (ReportCaster ステータス) の [埋め込みレポート配信] 設定に応じて異なります。
- ❑ 埋め込み Email メッセージとして配信されたレポートの表示は、使用するメールサーバまたはメールクライアントの設定および制限事項の影響を受けます。
- ❑ HTML レポートを Email 配信する場合は、スケジュールするレポートプロシジャ (.fex) で、以下のレポートスタイルオプションに対して完全修飾 FOCEXURL および FOCHTMLURL を設定する必要があります。これらは、Client の構成先 Web サーバまたは Application Server の JavaScript コンポーネントを参照します。Distribution Server は、インストール時に入力されたホスト名およびポート番号を使用して、Email 配信用の完全修飾 FOCEXURL および FOCHTMLURL を設定します。スケジュールするプロシジャでこれらの値を設定することで、元の設定を上書きすることができます。以下はその例です。

```
SET FOCEXURL='hostname:port/ibi_apps/'
```

```
SET FOCHTMLURL='hostname:port/ibi_apps/ibi_html'
```

スタイルオプションには次のものがあります。

- ❑ アコーディオンレポート
- ❑ 目次 (TOC) レポート
- ❑ ピアグラフレポート
- ❑ マルチドリルダウンレポート
- ❑ FREEZE オプション

セキュリティとして SSL を使用する場合は、URL を編集して「https」を指定します。

- ❑ ReportCaster ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで、[入力をこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。詳細は、75 ページの「[許可する Email ドメインおよびアドレスの確認](#)」を参照してください。

参照 複数 Email アドレスへのレポート送信時の考慮事項

Email 配信を使用するスケジュールを作成する際は、下図のように、[選択] テキストボックスに Email アドレスを入力することができます。

The screenshot shows a 'Distribution Information' window. It contains several input fields: 'Type' is a dropdown menu currently showing 'Email Address(s)'; 'To...' is a text box with a black border, indicating it is the active field; 'Cc...' is an empty text box; 'From...' is a text box containing the word 'admin'; 'Reply Address...' is an empty text box; and 'Subject' is a text box containing 'Margin by Product Category'.

[選択] テキストボックスに複数の Email アドレスを入力する場合、各 Email アドレス間にセミコロン (;) またはカンマ (,) を使用して、Distribution Server の情報配信先を指定することができます。

例 選択テキストボックスでのカンマ区切り Email アドレス

Email アドレスの区切り文字にカンマ (,) を使用する場合、すべての Email アドレスがすべての Email 受信者に表示されます。

スケジュールは、「Sales_Metrics_YTD.htm」という名前のレポートをこれらの Email アドレスに配信します。このスケジュールを実行すると、ログレポートには、「Sales_Metrics_YTD.htm」という名前の 1 つのレポートが、両方の Email アドレスに単一 Email で送信されたことが記述されます。

例 選択テキストボックスでのセミコロン区切り Email アドレス

Email アドレスの区切り文字にセミコロン (;) を使用する場合、各受信者には受信者本人の Email アドレスのみが表示されます。

スケジュールは、「Sales_Metrics_YTD.htm」という名前のレポートをこれらの Email アドレスに配信します。このスケジュールを実行すると、ログレポートには、「Sales_Metrics_YTD.htm」という名前の 2 つのレポートが、EmailA@ibi.com と EmailB@ibi.com にそれぞれ個別の Email で送信されたことが記述されます。

参照

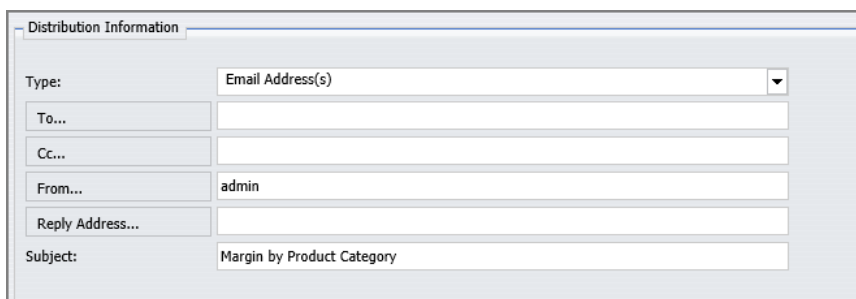
CC および BCC Email オプションの使用

すべての Email スケジュールタイプで、CC および BCC オプションが使用できます。これらのオプションを使用すると、Email 配信のコピーを追加の受信者に送信できるため、Email 配信のスケジュール作成が容易になります。

CC リストの受信者は、各所に配信された Email のコピーを受信し、配信で作成された Email のコピーの受取人として、名前が Email 内の [CC] リストボックスに表示されます。

BCC リストの受信者も、各所に配信された Email のコピーを受信しますが、名前は他の受信者には表示されません。[BCC] リストボックスは、受信者の Email には表示されません。リストは、送信者にものみ表示されます。

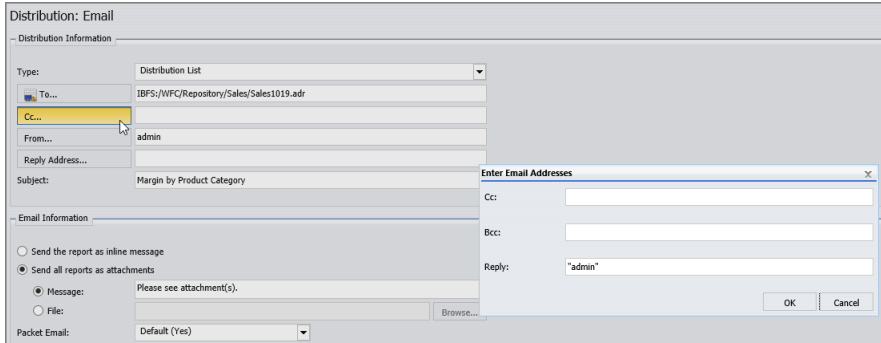
ベーシックスケジュールツールのこの機能にアクセスするには、レポート、グラフ、ドキュメント、ビジュアライゼーション、ポータルを右クリックして [スケジュール] を選択後、Email 配信オプションを選択し、[配信: Email] タブを開きます。下図はこのタブの一部を示しています。



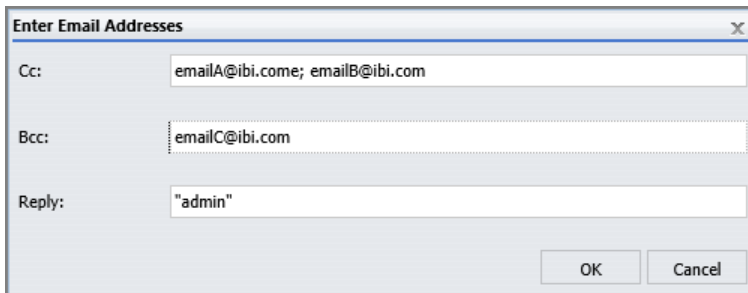
The screenshot shows a 'Distribution Information' dialog box. It contains the following fields:

- Type:** A dropdown menu currently showing 'Email Address(s)'.
- To...** An empty text input field.
- Cc...** An empty text input field.
- From...** A text input field containing the value 'admin'.
- Reply Address...** An empty text input field.
- Subject:** A text input field containing the value 'Margin by Product Category'.

[タイプ] ドロップダウンリストで配信オプションのいずれかを選択するか、[選択] テキストボックスに 1 つまたは複数の Email アドレスを入力すると、[CC] および [BCC] テキストボックスへの受信者の追加が可能になります。下図のように、[タイプ] 下の [CC] ボタンを選択するか、[タイプ] 下の他のボタンのいずれかを選択し、[Email アドレスの入力] ダイアログボックスを開きます。

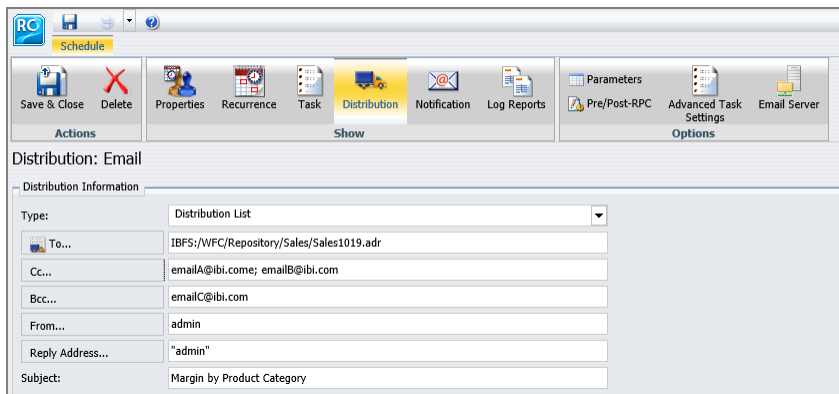


下図のように、スケジュール出力のコピーを受け取る受信者の Email アドレスを [CC] または [BCC] テキストボックスに入力することができます。

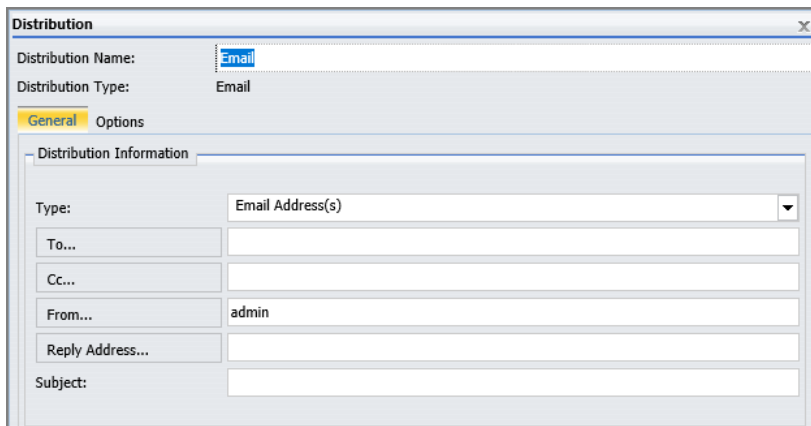


[CC] テキストボックスに入力された Email アドレスは、Email の他の受信者にも表示されます。[BCC] テキストボックスに入力された Email アドレスは、他の受信者には表示されません。[選択] テキストボックスとは異なり、[CC] および [BCC] テキストボックスでは、各 Email アドレスの区切り文字にカンマ (,) を使用してもセミコロン (;) を使用しても、各リスト受信者へのコピーの配信方法は変わりません。

入力の完了後、下図のように、[OK] を選択してメインページの [配信: Email] タブに表示された Email アドレスを確認します。



アドバンススケジュールツールでこの機能にアクセスするには、アクションバーから [スケジュール] を選択します。スケジュールツールバーで、[スケジュール] を選択します。アドバンススケジュールツールのリボンの [表示] グループで、[配信] を選択します。[配信] タブのリボンの [配信の管理] グループで、[新規作成] 矢印をクリックし、[Email] を選択します。[配信] ダイアログボックスが開きます。下図は、[配信] ダイアログボックスの一部を示しています。



[タイプ] ドロップダウンリストで配信オプションを選択し、[選択] テキストボックスに Email アドレス、配信ファイルまたはリストを追加すると、前項で説明したように、[CC] および [BCC] テキストボックスに受信者を追加できるようになります。

手順 Email 配信オプションを使用するには

パラメータ (変数) は、スケジュールの Email 設定で値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータは、&YYMD などのシステム変数にすることも、スケジュール済みプロセスの実行時に Reporting Server から値が返される任意の変数にすることもできます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用するには、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&|Jones」のように指定します。スケジュールで指定されたパラメータの値がプロセス実行時に Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は、「%BURST」記号を使用してバースト値を含めることもできます。[Email のパッケージ化] が [はい] に設定されている場合、ZIP ファイル名にバースト値は代入されません。

注意: ウォッチリストの Email はスケジュールから配信されるものではないため、ウォッチリストの Email で変数を使用することはできません。ウォッチリストの Email は、WebFOCUS Reporting Server と接続しない別のプロセスです。

1. レポートプロセス (FEX) を右クリックし、[スケジュール]、[Email] を選択します。
ベーシックスケジュールツールが表示されます。
2. [配信] タブを選択します。
3. 配信を受信する Email アドレスを指定するには、[タイプ] ドロップダウンリストにデフォルト設定で表示される [Email アドレス] を受容するか、リストから次のいずれかを選択します。
 - ☐ 配信リスト
 - ☐ 配信ファイル
 - ☐ Email アドレス
 - ☐ サーバプロセスのダイナミック配信リスト
 - ☐ リポジトリプロセスのダイナミック配信リスト
4. [選択] テキストボックスで、次のいずれかのタスクを実行します。
 - a. [タイプ] ドロップダウンリストで [Email アドレス] を選択した場合は、配信の受信者の Email アドレスを直接 [選択] テキストボックスに入力します (複数アドレスの入力可能)。
または

[Email アドレスの入力] ダイアログボックスを開いて受信者の Email アドレスを入力するには、[選択] ボタンをクリックします。[CC] または [BCC] テキストボックスにも Email アドレスを追加する必要がある場合は、この機能を使用します。更新の完了後、[OK] をクリックします。

[Email アドレス] フィールドには、複数の Email アドレスを指定することができます。各 Email アドレスをカンマ (,) またはセミコロン (;) で区切ります。複数 Email アドレスをカンマ (,) で区切る場合は、スケジュール出力の配信時に、Email アドレスが単一 Email の [宛先] 行に表示されます。複数 Email アドレスをセミコロン (;) で区切る場合は、スケジュール出力の配信時に、受信者の単一 Email アドレスが、送信された複数の Email の各 [宛先] 行に表示されます。

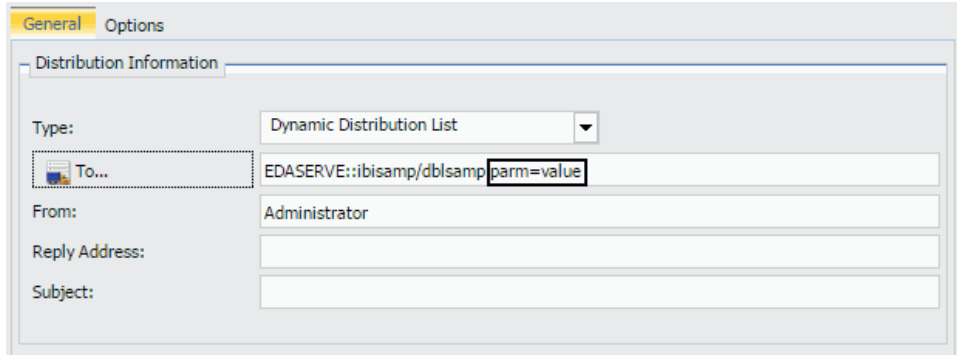
SMTP 規定により、単一 Email アドレスの最大サイズは 130 バイトです。このボックスには、最大 800 バイトの文字を入力可能です。詳細は、181 ページの「[複数 Email アドレスの指定](#)」を参照してください。

注意：[Email アドレス] オプションには、(メールサーバで定義された) グループメールリストを使用することもできます。グループメールリストを使用すると、リポジトリに複数の Email アドレスを保持することなく、複数の受信者にレポートまたは通知を配信することができます。グループ Email リストのフォーマットは、使用するメールサーバにより異なります。たとえば、Microsoft Exchange Server を使用しており、グループ Email リストが「#group1」として定義されている場合、[Email アドレス] テキストボックスには「group1@listdomain」と入力します。グループ Email リストの名前にブランクが含まれている場合は、ブランクを二重引用符 (" ") で囲みます。詳細は、メールサーバ管理者に問い合わせてください。

- b. [タイプ] ドロップダウンリストで [配信リスト] を選択した場合は、[選択] ボタンをクリックし、[開く] ダイアログボックスから構成済みの配信リストを選択します。詳細は、161 ページの「[配信リストの作成と保守](#)」を参照してください。
- c. [タイプ] ドロップダウンリストで [配信ファイル] を選択した場合は、このスケジュールに使用する外部配信ファイルのフルパスおよびファイル名を入力します。パスとファイル名は、WebFOCUS Distribution Server からアクセス可能でなければなりません。詳細は、174 ページの「[外部配信ファイルの作成](#)」を参照してください。
- d. [タイプ] ドロップダウンリストで [サーバプロシジャのダイナミック配信リスト] または [リポジトリプロシジャのダイナミック配信リスト] を選択した場合は、[選択] ボタンをクリックし、ダイナミック配信リストを格納するプロシジャの名前を選択します。

ダイナミック配信リストを使用すると、データソース (例、Flat File、SQL データベース、FOCUS データソース、LDAP) から、バースト値と配信先のリストの両方、または配信先のリストのみをメモリに返すことができます。

[ダイナミック配信リスト] を選択した場合、[選択] ボタンが有効になり、プロシジャ名の選択が可能になります。下図のように、プロシジャの選択後、プロシジャのコマンドラインにパラメータを渡すことができます。



詳細は、178 ページの「[ダイナミック配信リストの作成](#)」 および 180 ページの「[WebFOCUS リポジトリプロシジャからのダイナミック配信リストの生成](#)」を参照してください。

5. [CC] テキストボックスで、次のいずれかのタスクを実行します。

- a. [CC] テキストボックスに Email アドレスを直接入力します。区切り文字には、カンマ (,) またはセミコロン (;) を使用します。

どちらの区切り文字を使用した場合も、Distribution Server から、[CC] または [BCC] リストのすべての受信者に同一のコピーが送信されます。

または

- b. [CC] をクリックして [Email アドレスの入力] ダイアログボックスを開き、受信者の Email アドレスを [宛先]、[CC]、[BCC]、[返信] テキストボックスに入力します。複数の Email アドレスは、カンマ (,) またはセミコロン (;) で区切ることができます。更新の完了後、[OK] をクリックします。

[BCC] リストを追加する場合は、この方法を使用します。[BCC] リストは、[Email アドレスの入力] ダイアログボックスを使用して値を入力するまで [配信: Email] タブには表示されません。

注意

- ❑ レポートの各セクションをバーストで異なる Email 受信者に送信するスケジュールを作成することができます。ただし、[CC] または [BCC] テキストボックスに Email アドレスを入力した場合、バーストレポートの各セクションは同一の CC または BCC Email アドレスに送信されます。

□ [CC] および [BCC] テキストボックスに複数の Email アドレスを入力した場合、アドレスの区切り文字にカンマ (,) を使用するかセミコロン (;) を使用するかに関わらず、[CC] および [BCC] Email は、常に各 Email アドレスに個別に送信されます。

6. [送信者] テキストボックスには、デフォルト設定でユーザ ID が表示されます。これは、別の値で置換することができます。

ReportCaster では、この値の入力は必要ではありませんが、メールシステムによっては必須場合があります。

7. [返信アドレス] テキストボックスに、有効な Email アドレスを入力します。受信者がこの Email に返信する場合、返信メッセージはこのアドレスに送信されます。Email システムがコンテンツを配信できない場合、配信不可能な出力メッセージがこのアドレスに返送されます。ReportCaster では、この項目への入力は必須です。

8. [件名] テキストボックスに、Email の件名行に表示するテキストを入力します。ReportCaster この情報は、では必要ではありませんが、メールシステムによっては必須場合があります。スケジュールの [タイトル] テキストボックスに入力した値は、[件名] のデフォルト値として使用されます。

9. [レポートを本文に埋め込む] または [レポートを添付ファイルとして送信] ラジオボタンを選択して、レポートを Email 添付と埋め込みのどちらで送信するかを指定します。詳細は、230 ページの「[ベーシックスケジュールツールでの Email 配信オプションの使用](#)」を参照してください。

10. Email 本文に表示される「添付ファイルを参照してください」というデフォルトメッセージの代わりに、新しいメッセージを入力することができます。

注意：ReportCaster ステータスの [構成] タブの [Email 配信] 設定で、デフォルト配信メッセージをカスタマイズすることもできます。組織に固有のカスタムメッセージを作成することで、デフォルトメッセージの「添付ファイルを参照してください」を上書きすることができます。このメッセージは、Email 配信でスケジュールを作成する際に表示されます。新しいメッセージは既存のスケジュールに影響しません。

11. [ファイル] オプションを選択し、Email 配信時の配信メッセージが記述されたファイルを WebFOCUS リポジトリから選択します。

注意：[ファイル] オプションを使用すると、配信メッセージの情報を一元的に管理することができます。このファイルを複数のスケジュールで使用する際は、スケジュールごとにファイルに変更を加えることもできます。メールクライアントとメールサーバでのサポート要件を考慮する以外に、ファイルの内容にサイズ制限はありません。

12. [Email のパケット化] オプションの値を指定するか、デフォルト値を受容します。[Email のパケット化] オプションは、管理者が構成したデフォルト値に設定されています。スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合、各受信者に送信する Email 数を指定することができます。次のオプションがあります。

☐ **不可** 各添付ファイルをそれぞれ個別の Email で送信します。

☐ **可能** すべての添付ファイルを 1 通の Email で送信します。

☐ **バースト値** バースト値ごとに複数の添付ファイルを 1 通の Email で送信します。

13. [ZIP ファイルとしてレポートを送信] のチェックのオンとオフを切り替えて、レポートを圧縮ファイル (.zip) として送信するかどうかを指定します。

この設定で、配信レポートをパスワード保護の圧縮ファイルに変換することができます。デフォルト設定では、[ZIP ファイルとしてレポートを送信] のチェックはオフで、レポートは圧縮されません。必要に応じて、配信ファイルまたはダイナミック配信リストにパスワードを含めることで、ZIP ファイルをパスワード保護することができます。

14. [ZIP ファイルとしてレポートを送信] のチェックをオンにした場合は、[ZIP ファイル名] テキストボックスに ZIP ファイル名を入力します。

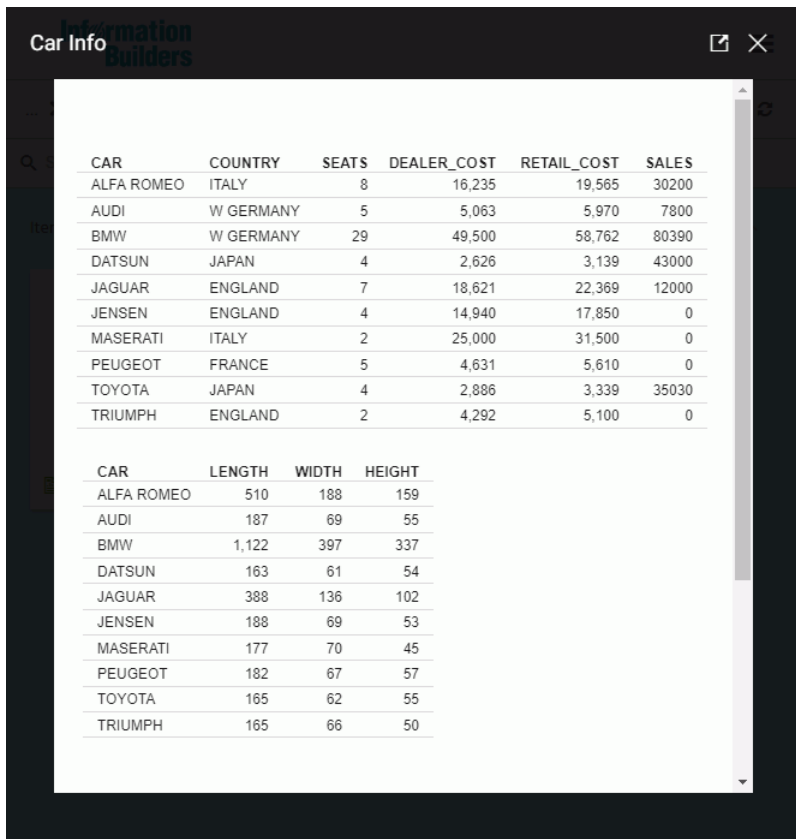
注意： Windows 7 および Windows 2008 Server R2 で Zip ファイル名および Zip ファイル内のコンテンツに対して Unicode 文字をサポートするには、Microsoft のサイト(<http://support.microsoft.com/kb/2704299/en-us>) から Hotfix を入手する必要があります。この Hotfix を使用しない場合、Windows 7 または Windows 2008 Server R2 で Zip ファイルを解凍した後、ファイル名が文字化けします。

15. 必要に応じて、[ZIP 最小サイズ] (キロバイト) のデフォルト値を上書きすることができます。この最小サイズを超える添付ファイルのみが ZIP ファイルに自動的に追加されます。[ZIP 最小サイズ] オプションは、管理者が構成したデフォルト値に設定されています。デフォルト値を変更し、特定のサイズを超える添付ファイルを自動的に ZIP ファイルに追加するには、この値を適切なサイズに設定します。
16. [通知] タブを選択し、スケジュールジョブステータスの Email 通知を送信するかどうかを指定します。[通知タイプ] として [常に通知] または [エラー時] を選択する場合は、[返信アドレス]、[件名]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先] を指定する必要があります。
17. [プロパティ] タブを選択し、[タイトル] と [優先度]、再び実行しない場合にスケジュールを削除するかどうか、スケジュールの実行を有効にするかどうかを指定します。詳細は、266 ページの「[ベーシックスケジュールツールのプロパティの概要](#)」を参照してください。

18. [実行間隔] タブを選択し、スケジュールの実行頻度を指定します。スケジュールの実行日時を指定する場合は、[開始日] および [開始時間] をそれ以降の値に設定します。詳細は、267 ページの「[ベーシックスケジュールツールの実行間隔の概要](#)」を参照してください。
19. [保存して閉じる] をクリックして、スケジュールを保存します。

埋め込み Email メッセージとして DHTML レポートを配信する際の考慮事項

通常、埋め込み Email メッセージとして配信された DHTML レポートは正しく表示されません。たとえば、下図は、DHTML フォーマットの複合レポートを示しています。



CAR	COUNTRY	SEATS	DEALER_COST	RETAIL_COST	SALES
ALFA ROMEO	ITALY	8	16,235	19,565	30200
AUDI	W GERMANY	5	5,063	5,970	7800
BMW	W GERMANY	29	49,500	58,762	80390
DATSUN	JAPAN	4	2,626	3,139	43000
JAGUAR	ENGLAND	7	18,621	22,369	12000
JENSEN	ENGLAND	4	14,940	17,850	0
MASERATI	ITALY	2	25,000	31,500	0
PEUGEOT	FRANCE	5	4,631	5,610	0
TOYOTA	JAPAN	4	2,886	3,339	35030
TRIUMPH	ENGLAND	2	4,292	5,100	0

CAR	LENGTH	WIDTH	HEIGHT
ALFA ROMEO	510	188	159
AUDI	187	69	55
BMW	1,122	397	337
DATSUN	163	61	54
JAGUAR	388	136	102
JENSEN	188	69	53
MASERATI	177	70	45
PEUGEOT	182	67	57
TOYOTA	165	62	55
TRIUMPH	165	66	50

下図は、先の複合レポートを埋め込み Email メッセージで送信した結果を示しています。
Email クライアントでは、レポートが正しく表示されません。

CAR COUNTRY	SEATS DEALER_COST RETAIL_COST SALES
ALFA ROMEO ITALY	8 16,235 19,565 30200
AUDI W GERMANY	5 5,063 5,970 7800
BMW W GERMANY	29 49,500 58,762 80390
DATSUN JAPAN	4 2,626 3,139 43000
JAGUAR ENGLAND	7 18,621 22,369 12000
JENSEN ENGLAND	4 14,940 17,850 0
MASERATI ITALY	2 25,000 31,500 0
PEUGEOT FRANCE	

この問題を回避するため、-HTMLFORM コマンドを使用して複数のテーブルリクエストを含むレポートを埋め込み Email メッセージとして配信することができます。

次のプロシジャは、2 つのテーブルリクエストを含むレポートを生成します。このプロシジャは、-HTMLFORM でコーティングされます。

```
-INCLUDE IBFS:/WFC/Repository/Folder1/car_table1_hold.fex
-INCLUDE IBFS:/WFC/Repository/Folder1/car_table2_hold.fex
-HTMLFORM BEGIN
!IBI.FIL.HOLD2;
!IBI.FIL.HOLD1;
-HTMLFORM END
```

下図は、HTML フォーマットで Email 配信された -HTMLFORM プロシジャの結果を示しています。

Freight Bill Register - Revenue by Day						
Region	Category	Dollar Sales	Unit Sales	Budget Dollars	Budget Units	Product ID
Midwest	Coffee	4178513	332777	4086032	335526	C142
	Food	4338271	341414	4220721	339263	F101
	Gifts	2883861	230854	2887620	232318	G104
Northeast	Coffee	4164017	335778	4252462	335920	C142
	Food	4379994	353368	4453907	351431	F101
	Gifts	2848289	227529	2870552	227008	G104
Southeast	Coffee	4415408	350948	4431429	355693	C142
	Food	4306731	349629	4409288	351509	F101
	Gifts	2966240	234455	2967254	235045	G104
West	Coffee	4473517	356763	4523963	358784	C142
	Food	4202337	340234	4183244	335361	F101
	Gifts	2977092	235042	2934306	236636	G104

This is an automated email from **OD-Focus**

Freight Bill Register - Revenue by Day										
Region	Category	Product ID	Dollar Sales	Unit Sales	Budget Units	Budget Dollars	State	City	Store ID	Date
Midwest	Coffee	C142	4178513	332777	335526	4086032	IL	Chicago	R1020	1996/11/01
	Food	F101	4338271	341414	339263	4220721	TX	Houston	R1019	1996/09/01
	Gifts	G104	2883861	230854	232318	2887620	IL	Chicago	R1020	1996/08/01
Northeast	Coffee	C142	4164017	335778	335920	4252462	MA	Boston	R1044	1997/05/01
	Food	F101	4379994	353368	351431	4453907	MA	Boston	R1044	1996/01/01
	Gifts	G104	2848289	227529	227008	2870552	NY	New York	R1109	1996/02/01
Southeast	Coffee	C142	4415408	350948	355693	4431429	GA	Atlanta	R1041	1997/04/01
	Food	F101	4306731	349629	351509	4409288	GA	Atlanta	R1041	1996/02/01
	Gifts	G104	2966240	234455	235045	2967254	TN	Memphis	R1038	1997/04/01
West	Coffee	C142	4473517	356763	358784	4523963	CA	Los Angeles	R1040	1997/07/01
	Food	F101	4202337	340234	335361	4183244	WA	Seattle	R1248	1996/11/01
	Gifts	G104	2977092	235042	236636	2934306	CA	San Francisco	R1244	1997/03/01

-HTMLFORM についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® アプリケーション作成ガイド』を参照してください。

メールサーバオプションの指定

[Email 配信オプション] ダイアログボックスを使用して、メールサーバ名の表示と割り当て、サーバとの SSL 接続および TLS 接続の選択、サーバ認証の設定、アカウント名とパスワードの割り当てが行えます。[Email 配信オプション] ダイアログボックスにアクセスするには、[メールサーバ] アイコンをクリックします。

メールサーバ名 このスケジュールで使用するメールサーバ名です。デフォルト値は、ReportCaster 構成ツールで設定します。

- ☐ **このサーバには SSL 接続が必要** 指定したメールサーバが SSL を使用する場合は、このチェックをオンにします。
- ☐ **このサーバには TLS 接続が必要** 指定したメールサーバが TLS を使用する場合は、このチェックをオンにします。
- ☐ **このサーバには認証情報が必要** 指定したメールサーバでユーザ ID とパスワードによる認証が必要な場合は、このチェックをオンにします。
 - ☐ **名前** 指定したメールサーバで有効なユーザ ID です。
 - ☐ **パスワード** 指定したユーザ ID のパスワードです。

ベーシックスケジュールツールでの FTP 配信オプションの使用

ここでは、スケジュール済み出力を FTP を使用して配信する方法について説明します。[FTP 配信オプション] ダイアログボックスにアクセスするには、リボンの [オプション] グループで [FTP サーバ] ボタンをクリックします。下図は、[FTP 配信オプション] ダイアログボックスを示しています。

- ❑ FTP 配信を使用するスケジュールを作成するには、FTP 配信の権限が必要です。
- ❑ 組織で、利用可能な FTP サーバの構成範囲を定義済み FTP サーバのリストに制限している場合は、[FTP サーバ名] テキストボックスのみが入力可能です。[FTP サーバ名] リストから値を選択すると、ダイアログボックス内の残りのテキストボックスに、定義済み FTP の設定構成から値が入力されます。
- ❑ [FTP サーバ名] を選択せず、[FTP の設定] 構成に [(デフォルト設定)] 構成が含まれる場合は、[(デフォルト設定)] 構成で指定されたサーバおよびパスがデフォルト設定で配信に使用されます。ただし、[FTP の設定] 構成に [(デフォルト設定)] 構成が含まれない場合は、FTP サーバ接続は定義されず、配信時に接続を完了することができません。

- ❑ 組織で、利用可能な FTP サーバの構成範囲を定義済み FTP サーバのリストに制限していない場合は、[FTP サーバ名] テキストボックスにカスタム FTP の値が表示されている限り、[FTP 配信オプション] ダイアログボックスの各テキストボックスへの入力が可能です。
- ❑ カスタム FTP の値をそのままにした場合、このスケジュールの FTP サーバ構成を設定する値を [FTP 配信オプション] ダイアログボックスに追加することができます。この方法で割り当てた値は、このスケジュールでのみ使用できます。
- ❑ カスタム FTP の値をそのままにし、FTP サーバ構成を設定する値を追加しない場合、[(デフォルト設定)] 構成で指定されたサーバおよびパスがデフォルト設定で配信に使用されます。ただし、[FTP の設定] 構成に [(デフォルト設定)] 構成が含まれない場合は、FTP サーバ接続は定義されず、配信時に接続を完了することができません。
- ❑ [FTP サーバ名] リストから定義済み FTP の設定構成を選択した場合、[FTP 配信オプション] ダイアログボックスの残りの設定には、選択した定義済み FTP 設定構成の値が入力され、変更することはできません。
- ❑ Reporting Server 認証情報の格納方法と同様に、スケジュールの作成時に FTP サーバの認証情報がユーザごとに格納されます。ユーザは、FTP サーバごとに認証情報を一度だけ入力します。[FTP 配信オプション] ダイアログボックスで認証情報を入力すると、ユーザがベーシックスケジュールツールでその FTP サーバを使用する FTP 配信のスケジュールを作成するたびに、同一の認証情報が使用されます。

FTP サーバに SFTP が必要な場合は、[このサーバには SFTP が必要] のチェックをオンにします。次の認証方法のいずれかを選択します。

- ❑ サーバ認証にユーザ ID とパスワードが必要な場合は、[パスワード] を選択します。
- ❑ サーバ認証にパブリックキー認証を使用する場合は、[パブリックキー] を選択します。
- ❑ パブリックキー認証情報を使用して認証し、サーバ認証にユーザ ID とパスワードが必要な場合は、[パブリックキーとパスワード (マルチファクタ)] を選択します。

注意

- ❑ SFTP サーバ認証に使用されるパブリックキーとプライベートキーの組み合わせには、複数のフォーマットがあります。FTP サーバで使用されるパブリックキーとプライベートキーの組み合わせのフォーマットが Distribution Server で認識されない場合は、Distribution Server の sshkeygen ユーティリティを使用して、適切なフォーマットのキーを生成することができます。

- ❑ パブリックキー認証を使用する場合は、サーバのプライベートキーを `sftp_private_key.txt` ファイルに追加しておく必要があります。このファイルは、Distribution Server の `¥cfg` ディレクトリに格納されています。
- ❑ FTP サーバに FTPS が必要な場合は、[このサーバには FTPS が必要] のチェックをオンにします。次のオプションがあります。
 - ❑ **セキュリティモード** 選択可能なモードには、[Explicit] および [Implicit] があります。
 - ❑ **プロトコル** オプションには、[トランスポート層セキュリティ (TLS)] および [セキュアソケットレイヤ (SSL)] があります。
 - ❑ **データ接続セキュリティ** オプションには、[Clear - データ転送を保護しない] および [Private - 整合性とプライバシーを保護する] があります。
- ❑ HTML レポートを FTP 配信する場合は、スケジュールするレポートプロシジャ (.fex) で、以下のレポートスタイルオプションに対して完全修飾 FOCEXURL および FOCHTMLURL を設定する必要があります。これらは、Client の構成先 Web サーバまたは Application Server の JavaScript コンポーネントを参照します。Distribution Server は、インストール時に入力されたホスト名およびポート番号を使用して、FTP 配信用の完全修飾 FOCEXURL および FOCHTMLURL を設定します。スケジュールするプロシジャでこれらの値を設定することで、元の設定を上書きすることができます。以下はその例です。

```
SET FOCEXURL='hostname:port/ibi_apps/'
```

```
SET FOCHTMLURL='hostname:port/ibi_apps/ibi_html'
```

スタイルオプションには次のものがあります。

- ❑ アコーディオンレポート
- ❑ 目次 (TOC) レポート
- ❑ ピアグラフレポート
- ❑ マルチドリルダウンレポート
- ❑ FREEZE オプション

セキュリティとして SSL を使用する場合は、URL を編集して「https」を指定します。

手順 FTP 配信オプションを使用するには

注意: パラメータ (変数) は、スケジュールの FTP 設定で値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータは、&YYMD などのシステム変数にすることも、スケジュール済みプロシジャの実行時に Reporting Server から値が返される任意の変数にすることもできます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用するには、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&| Jones」のように指定します。スケジュールで指定されたパラメータの値がプロシジャ実行時に Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は、「%BURST」記号を使用してバースト値を含めることもできます。複数のレポートが単一アーカイブファイルで配信される場合、ZIP ファイル名にバースト値は代入されません。

1. レポートプロシジャ (FEX) を右クリックし、[スケジュール]、[FTP] を選択します。
ベーシックスケジュールツールが表示されます。
2. [プロパティ] タブをクリックします。
3. [タイトル] テキストボックスにタイトルを入力するか、デフォルト設定のままにします。
必要に応じて、[概要] テキストボックスに概要を入力します。
4. [配信] タブをクリックします。
5. [タイプ] ドロップダウンリストから、FTP サーバに配信する際のファイル名の指定方法を選択します。次のオプションがあります。
 - ❑ **配信リスト** レポートは、選択した配信リストのすべての FTP アドレスに送信されます。詳細は、161 ページの「[配信リストの作成](#)」を参照してください。
 - ❑ **配信ファイル** このスケジュールに使用する外部配信ファイルのフルパスとファイル名を入力します。ReportCaster は、ファイルの有無を確認することはできません。パスとファイル名は、ReportCaster Distribution Server からアクセス可能でなければなりません。詳細は、174 ページの「[外部配信ファイルの作成](#)」を参照してください。
 - ❑ **単一ファイル** 配信するファイルの名前とファイル拡張子を入力します。スケジュールの [保存レポート名] テキストボックスの値が、[名前] テキストボックスに自動的に入力されます。スケジュールレポートをバーストする場合、ReportCaster が自動的に各バーストファイルのファイル名の末尾にバースト値を追加します。必要に応じて、ファイル名の先頭に '%BURST' 構文を追加したり、ファイル名の先頭にディレクトリを追加したり、また同時に両方を追加したりできます。

注意

- ❑ レポートを正しく配信するためには、[名前] の値にファイル拡張子を追加する必要があります。デフォルト設定では、[単一ファイル] の [名前] の値にはファイル拡張子が含まれません。ファイル拡張子を追加するには、[タスク] タブで [プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにしてレポートフォーマットを選択するか、ファイル拡張子を手動で入力します。
 - ❑ ReportCaster は、ファイルパスまたは指定したファイルの有無を確認しません。
 - ❑ このボックスには、最大 800 バイトの文字を入力可能です。
 - ❑ **ダイナミック配信リスト** ダイナミック配信リストを使用すると、データソース (例、Flat File、SQL データベース、FOCUS データソース、LDAP) から、バースト値と配信先のリストの両方、または配信先のリストのみをメモリに返すことができます。
6. [レポートの圧縮] セクションで、レポートの圧縮方法のオプションを指定します。選択可能なオプションには、[アーカイブファイル (.zip) の作成]、[圧縮ファイル (.zip) の作成]、[圧縮ファイル (.gz) の作成]、[なし] (デフォルト) があります。

注意

- ❑ [レポートの圧縮] セクションのデフォルト設定は、構成設定から取得されます。詳細は、102 ページの「[圧縮 \(ZIP\) の設定](#)」を参照してください。
 - ❑ Windows 7 および Windows 2008 Server R2 で Zip ファイル名および Zip ファイル内のコンテンツに対して Unicode 文字をサポートするには、Microsoft のサイト(<http://support.microsoft.com/kb/2704299/en-us>) から Hotfix を入手する必要があります。

この Hotfix を使用しない場合、Windows 7 または Windows 2008 Server R2 で Zip ファイルを解凍した後、ファイル名が文字化けします。
7. [通知] タブを選択し、スケジュールジョブステータスの Email 通知を送信するかどうかを指定します。[通知タイプ] として [常に通知] または [エラー時] を選択する場合は、[返信アドレス]、[件名]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先] を指定する必要があります。
8. [プロパティ] タブを選択し、[タイトル] と [優先度]、再び実行しない場合にスケジュールを削除するかどうか、スケジュールの実行を有効にするかどうかを指定します。詳細は、266 ページの「[ベーシックスケジュールツールのプロパティの概要](#)」を参照してください。
9. [実行間隔] タブを選択し、スケジュールの実行頻度を指定します。スケジュールの実行日時を指定する場合は、[開始日] および [開始時間] をそれ以降の値に設定します。詳細は、267 ページの「[ベーシックスケジュールツールの実行間隔の概要](#)」を参照してください。

10. [FTP サーバ] タブを選択し、[FTP 配信オプション] ダイアログボックスを開きます。
11. [FTP サーバ名] テキストボックスで、次のいずれかの手順を実行します。
 - a. ReportCaster ステータスの [構成] タブの [(デフォルト設定)] ページで定義したデフォルト FTP サーバ構成を使用するためには、[FTP サーバ名] テキストボックスのデフォルト値 (カスタム FTP) を受容し、残りのテキストボックスをブランクのままにします。
 - b. 組織で許可する場合は、[FTP サーバ名] テキストボックスのデフォルト値 (カスタム FTP) を受容し、残りのテキストボックスに値を入力して、この配信スケジュールにのみ適用される新しい FTP サーバ構成を作成します。FTP サーバの設定についての詳細は、245 ページの「[ベーシックスケジュールツールでの FTP 配信オプションの使用](#)」を参照してください。
 - c. [FTP サーバ名] リストから、定義済みの FTP 設定構成を選択します。
12. [保存して閉じる] ボタンをクリックします。

ベーシックスケジュールツールでの ReportLibrary 配信オプションの使用

ReportLibrary は、リポジトリに格納されるコンテンツへのセキュアなアクセスを提供するほか、同一出力の複数バージョンの保存、有効期限の設定、指定したバージョン数の保存が可能です。ReportLibrary を使用できるのは、ReportLibrary レポートの格納先フォルダで、ReportLibrary レポートへのアクセスおよび表示が許可されているユーザのみです。

注意

- ❑ ReportLibrary 配信を使用するスケジュールを作成するには、ReportLibrary 配信の権限が必要です。
- ❑ ReportLibrary 配信を使用するスケジュールのオーナーが変更された場合、このスケジュールの新しいオーナーに合わせて関連する ReportLibrary レポートのオーナーを修正する必要があります。

ReportLibrary レポートへのアクセスが許可されているユーザには、ReportLibrary レポートが作成されたことを通知する Email を送信することができます。この Email 通知は新しいバージョンが配信されるたびにユーザに送信され、ユーザはその URL から新しいバージョンに直接アクセスすることができます。

スケジュールを作成してレポート出力を **ReportLibrary** に配信する際は、レポート出力の配信先フォルダを選択します。[設定] ボタンを使用して、出力の配信先サブフォルダを指定することができます。サブフォルダが存在しない場合は、初回のスケジュール実行時にサブフォルダが動的に作成されます。次回以降のスケジュール実行時には、既存の **ReportLibrary** 項目が格納されているサブフォルダにレポートが配信されます。サブフォルダを作成する場合は、サブフォルダのタイトルに使用するパターンを指定する必要があります。このパターンには、テキスト、パラメータ (変数) のほか、スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は '%BURST' 記号を含めることができます。'%BURST' 記号を使用すると、バースト値ごとに新しいサブフォルダが作成されます。また、**ReportLibrary** レポートをリポジトリに格納する際にレポートを圧縮するオプションを選択することができます。

さらに、[カテゴリ] の値を指定して、**ReportCaster** エクスプローラに表示される **ReportLibrary** レポートリストの分類を容易にすることもできます。このカテゴリ値は **ReportCaster** エクスプローラの [カテゴリ] 列に表示され、この列タイトルを選択して **ReportLibrary** レポートリストをカテゴリ値でソートすることができます。

注意：XML フォーマットの **ReportLibrary** レポートは、新しいウィンドウで開く必要があります。

リポジトリに格納されているレポートプロシジャ (FEX) をスケジュールする場合、レポート出力配信先のデフォルトフォルダは、スケジュール元レポートプロシジャ (FEX) と同一になります。**ReportLibrary** にレポートを配信する場合は、**ReportLibrary** レポートごとに異なるフォルダを作成して指定することをお勧めします。これにより、レポート出力へのアクセスに対するセキュリティを、フォルダレベルで定義、管理することができます。また、同一レポートプロシジャ (FEX) に対して複数のスケジュールを作成する場合や、配信される各レポートセクションのタイトルにバースト値を割り当てるバースト **ReportLibrary** レポートを実行する場合にも、名前の競合を回避することができます。タイトルは、リソースツリーに表示される値です。

たとえば、[Product Information] フォルダに格納されている [Regional Product Sales (Quarterly)] レポートが、四半期ごとに地域別のバーストレポートを [Regional Product Sales (Library Reports)] **ReportLibrary** フォルダに配信するよう設定されていることを想定します。[Regional Product Sales (Library Reports)] フォルダには、レポートリクエストで指定された地域の値に基づいて、地域別の **ReportLibrary** レポートが格納されます。地域別売上レポートの追加のスケジュールを作成する場合は、バーストレポートの説明が同一の地域の値になるため、別のフォルダパスを指定します。

参照 アクセスリストの値に配信を制限する際の考慮事項

ReportLibrary 配信をアクセスリストの値に制限する際は、次のことを考慮する必要があります。

- ❑ アクセスリストで指定されていないバースト値は、どれも ReportLibrary に配信されません。
- ❑ このオプションは、プロシジャの実行やデータソースからのデータの取得方法を変更するのではなく、アクセスリストに指定されたバースト値に基づいて、Reporting Server から返送されたバーストレポートセクションにフィルタを設定します。
- ❑ [バーストレポート] オプションが有効で、[配信をアクセスリストの値に制限] オプションが無効の場合、ReportCaster は、Reporting Server から返されたすべてのバーストレポートの ReportLibrary への配信を継続します。
- ❑ スケジュールを保存する際、スケジュールの [バーストレポート] オプションが有効であるかが検証されます。有効でない場合は、[バーストレポート] オプションを有効にして、アクセスリストで指定した値に配信を制限することを要求するメッセージが表示され、[スケジュール] オプションが再表示されます。
- ❑ ログファイルには、[配信をアクセスリストの値に制限] オプションが選択されたことを示す情報が格納されます。アクセスリストのバースト値ごとに別のログエントリが作成され、各バースト値に対するレポートセクションが ReportLibrary に配信されたかどうかが表示されます。

手順 ReportLibrary 配信オプションを使用するには

注意：パラメータ (変数) は、スケジュールの ReportLibrary 設定で値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータは、&YYMD などのシステム変数にすることも、スケジュール済みプロシジャの実行時に Reporting Server から値が返される任意の変数にすることもできます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用するには、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&|Jones」のように指定します。スケジュールで指定されたパラメータの値がプロシジャ実行時に Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は、「%BURST」記号を使用してバースト値を含めることもできます。

1. レポートプロシジャ (FEX) を右クリックして [スケジュール]、[ReportLibrary] を順に選択し、スケジュールツールを開きます。

2. [表示] グループで [プロパティ] を選択し、[概要] テキストボックスに簡単な説明を入力後、このタブの残りのフィールドに割り当てられている値をそのまま使用するか、更新します。

詳細は、266 ページの「[ベーシックスケジュールツールのプロパティの概要](#)」を参照してください。

3. [表示] グループで [実行間隔] を選択し、この配信の頻度を構成します。

詳細は、267 ページの「[ベーシックスケジュールツールの実行間隔の概要](#)」を参照してください。

注意：スケジュールは、デフォルトタイムゾーンの現在の日時での [1 回だけ実行] に、自動的に構成されます。スケジュールを当日中に実行するには、[開始] の時間値をその時点よりも後の時間に設定します。

4. [表示] グループから [タスク] を選択し、次の手順を実行します。

- a. [スケジュールオブジェクト] グループで、[パス]、[プロシジャ]、[サーバ名] テキストボックスに、リポジトリ内のプロシジャの正しい場所が表示されていることを確認します。

Distribution Server は、スケジュールの実行時に、この情報を使用してプロシジャにアクセスします。[タスク] タブについての詳細は、190 ページの「[ベーシックスケジュールツールのタスクの概要](#)」を参照してください。

- b. バースト値を使用するコンテンツを配信する場合は、[レポートのプロパティ] グループの [バーストレポート] のチェックをオンにします。

注意：バーストレポートの処理では、異なるバースト値を使用するレポートごとに個別のサブフォルダが作成されるため、ReportLibrary の配信スケジュールを作成して保存した後は、このチェックをオフにすることはできません。選択した ReportLibrary 配信コンテンツをバーストする必要がなくなった場合は、[バーストレポート] のチェックをオフにして、新しい ReportLibrary 配信スケジュールを作成する必要があります。

- c. ReportLibrary に格納される出力で異なるフォーマットを使用する必要がある場合は、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにして、表示されるリストから別のフォーマットを選択します。

- d. [保存レポート名] テキストボックスのレポートタイトルを受容または更新します。

5. [表示] グループから [配信] を選択し、次の手順を実行します。

- a. [フォルダパス] テキストボックスに表示された値が、レポート出力の配信先を指定していることを確認します。

そうでない場合は、[フォルダパス] ボタンを選択して [フォルダの参照] ダイアログボックスを開き、レポート出力の配信先フォルダを選択して [OK] をクリックします。

注意

- ❑ [フォルダの参照] ダイアログボックスでは、既存のフォルダのみを選択できます。新しいフォルダを作成することはできません。
 - ❑ 選択したフォルダでのコンテンツ作成権限を所有している必要があります。
 - ❑ ReportLibrary 出力のデフォルト設定のフォルダパスは、スケジュールツールの起動元フォルダになります。このフォルダでのコンテンツの作成権限を所有していない場合、このフォルダ下の [マイコンテンツ] フォルダがデフォルトフォルダパスになります。[マイコンテンツ] フォルダが存在しない場合、このフォルダ下で最初の書き込み可能なフォルダが、デフォルトフォルダパスになります。
- b. レポートの圧縮、オプションのサブフォルダ、バージョンの説明、カテゴリの設定が必要な場合は、[設定] ボタンを選択します。

さらに、必要に応じて、次のオプションを構成します。

- ❑ **保存されたレポートを圧縮する** ReportLibrary レポートをリポジトリに格納する際にレポートを圧縮することができます。

注意：圧縮されたレポートを ReportLibrary に配信する場合、レポート表示の応答時間に影響する可能性があることを考慮する必要があります。圧縮レポートは、配信前に解凍する必要があります。リポジトリの領域の確保と、ReportLibrary からのレポート抽出に要する時間のどちらかを重視するかを検討する必要があります。

- ❑ **サブフォルダを有効にする** レポートの配信先としてサブフォルダを有効にすることができます。[サブフォルダを有効にする] を選択した場合は、パターンを指定する必要があります。パターンには、テキスト、パラメータ (変数)、'%BURST' 記号を含めることができます。
- ❑ **バージョンの説明** [ReportLibrary 詳細オプション] ダイアログボックスで、ReportLibrary に配信されたレポートの各バージョンに、パラメータ化された説明テキストを割り当てることができます。バージョンの説明には、テキスト、変数、および '%BURST' 記号 (レポートがバーストされる場合) を含めることができます。バージョンの説明は、スケジュールの実行時に Distribution Server によって作成されます。レポートビューアを開いた際に、この説明がバージョン番号の横に表示されます。
- ❑ **カテゴリ** ReportCaster エクスプローラで ReportLibrary レポートをソートする際に使用するオプションの値です。詳細は、383 ページの「[ReportCaster エクスプローラの使用](#)」を参照してください。

- c. [アクセスオプション] グループで次のいずれかのオプションを選択することで、ReportLibrary レポートへのアクセスを許可するグループおよびユーザを指定します。

- ☐ **プライベート (オーナーのみアクセス可)** スケジュールのオーナーのみが ReportLibrary レポートにアクセスできます。これがデフォルト値です。
- ☐ **公開済み (WebFOCUS セキュリティポリシーによるアクセス許可)** ReportLibrary レポートの格納先フォルダで表示権限を所有するすべてのユーザが ReportLibrary レポートにアクセスできます。ReportLibrary レポートの格納先フォルダが公開済みフォルダであり、スケジュールのオーナーがそのフォルダ内のコンテンツの公開権限を所有している必要があります。
- ☐ **共有 ([共有コンテンツ] フォルダに表示)** ReportLibrary レポートの格納先フォルダで表示権限を所有するすべてのユーザが ReportLibrary レポートにアクセスできます。レポートは、[共有コンテンツ] フォルダ下に表示されます。
- ☐ **注意：ReportLibrary 配信のスケジュールで、[共有 ([共有コンテンツ] フォルダに表示)] と [ReportLibrary にレポート保存後 Email を送信] の両方のチェックをオンにした場合、スケジュールのオーナーには Email メッセージのみが送信されます。**
- ☐ **高度な共有 (アクセスリストの設定により [共有コンテンツ] フォルダに表示)** アクセスリストで定義されたグループまたはユーザ、およびスケジュールのオーナーのみが ReportLibrary レポートにアクセスできます。レポートは、[共有コンテンツ] フォルダ下に表示されます。

このオプションを選択する場合、[アクセスリスト] ボタンをクリックし、[開く] ダイアログボックスからアクセス権限を所有するアクセスリストを選択します。

[バーストレポート] のチェックをオンにした場合は、[配信をアクセスリストの値に制限] のチェックをオンにすることで、バースト値をアクセスリストで指定された値に制限することができます。

注意：既存のスケジュールのアクセスオプションを変更すると、そのオプションが新しい ReportLibrary レポートの次回配信時のプライベート ReportLibrary レポートのすべてに適用されます。ReportLibrary スケジュールで指定したアクセスオプションは、公開済み ReportLibrary レポートには適用されません。

- d. [ReportLibrary のレポートの期限切れ] グループで、デフォルト設定で選択済みの [期限切れなし] オプションを受容し、レポートが ReportLibrary から削除されることを防止します。

または

[期限切れ] オプションを選択し、次のオプションのいずれかからを選択することで、有効期限を指定します。

- ❑ **バージョン** ReportLibrary に、指定された数の最新レポートを保存します。上下矢印を使用してバージョン数を選択します。

たとえば、指定したバージョン数が 3 で、現在のバージョンが 7 の場合、バージョン 5、6、7 が ReportLibrary に保存されます。ただし、バージョン 6 を削除すると、バージョン 7 と 5 のみが ReportLibrary に保存されます。ここで、バージョン 8 を ReportLibrary に配信すると、バージョン 8 と 7 のみが ReportLibrary に保存されます。これは、バージョン 6 がすでに削除され、バージョン 5 が最新の 3 つのバージョンには該当しないためです。

ReportLibrary には、最大で 9,999,999 件のバージョンを格納することができます。この制限値を超えた場合、新しいレポートは保存されず、ReportCaster ログファイルにメッセージが格納されます。

注意：実際のレポート実行可能回数は、2 を 31 でべき乗し、1 を減算した値です。

- ❑ **日** 指定された日数期間、レポートを ReportLibrary に保存します。上下矢印を使用して日数を選択します。
- ❑ **週** 指定された週数期間、レポートを ReportLibrary に保存します。上下矢印を使用して週の数を選択します。
- ❑ **月** 指定された月数期間、レポートを ReportLibrary に保存します。上下矢印を使用して月数を選択します。
- ❑ **年** 指定された年数期間、レポートを ReportLibrary に保存します。上下矢印を使用して年数を選択します。

注意

- ❑ ReportCaster は、スケジュールされたログ削除時間の 1 時間後に、期限切れのレポートを自動的に削除します。デフォルトのログ削除時間は毎日午前 1 時に設定されているため、デフォルトの ReportLibrary 削除時間は午前 2 時になります。権限を所有するユーザは、ReportCaster ステータスで期限切れ ReportLibrary レポートをオンデマンドで削除することもできます。

6. [表示] グループから [通知] を選択し、スケジュール済みジョブステータスの Email 通知を送信するかどうかを指定します。

[通知タイプ] として [常に通知] または [エラー時] を選択する場合は、[返信アドレス]、[件名]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先] も指定する必要があります。

デフォルト設定では、[件名] テキストボックスにはスケジュールのタイトルが表示されます。

7. 新しいバージョンが配信されるたびに、ReportLibrary レポートへのアクセス許可を所有するユーザに Email 通知を送信する必要がある場合は、[オプション] グループから [ReportLibrary の通知] を選択し、[ReportLibrary にレポートを保存後 Email を送信] のチェックをオンにしてから、次の設定を構成します。

- a. [メールサーバ名] テキストボックスのデフォルト値を受容するか、ReportCaster が ReportLibrary Email 通知の配信時に接続するメールサーバのホスト名と構成に一致するように、この値を変更します。
- b. [ReportLibrary URL] テキストボックスのデフォルト値を受容するか、ReportLibrary へのログインおよびレポートを開く際に使用する URL に一致するように、この値を再設定します。デフォルト値は、ReportCaster 構成ツールで設定します。ユーザが ReportLibrary の Email 通知を受信する場合、その Email には、通知された ReportLibrary レポートへのリンクが格納されています。このリンクには、ReportLibrary URL に通知対象のレポート ID が追加されます。ユーザがこのリンクをクリックすると、ログインするよう要求されます。ReportCaster ユーザに ReportLibrary レポートへのアクセスが許可されているかどうかは、セキュリティモデルにより決定されます。

注意：ReportCaster の構成で、URL が含まれたリンクを送信しないよう設定することもできます。詳細は、43 ページの「[ReportCaster の構成](#)」を参照してください。

- c. [送信者] テキストボックスに、スケジュールの作成者名などの値を入力します。ReportCaster ではこの値の入力は必須ではありませんが、使用する Email システムによっては入力が必要の場合があります。
- d. [返信アドレス] テキストボックスに、送信者の Email アドレスを入力します。この項目への入力は必須です。受信者が通知に対して返信すると、返信メッセージはこのアドレスに送信されます。

注意

- ❑ ユーザ ID とパスワードを使用して、メールサーバによる認証を構成した場合、返信アドレスは、このユーザ ID に関連付けられた Email アドレスになります。
- ❑ メールサーバによる認証が構成され、返信アドレスを ReportCaster 構成ツールで構成した場合、スケジュールツールの [返信アドレス] テキストボックスは無効になります。返信アドレスが構成されていない場合は、このテキストボックスは有効になり、メールサーバに送信する返信アドレスを指定することはできますが、送信される Email の実際の返信アドレスは、認証アカウントのものになります。
- e. [件名] テキストボックスに、Email の件名行に表示する任意のテキストを入力します。

- f. 必要に応じて、[メッセージ] テキストボックスに、Email 通知の本文として表示する任意のテキストを入力します。

Email メッセージには、ReportLibrary のレポートコンテンツへの URL も含まれています。

Email 通知を受信するユーザの数は、[アクセス] オプションで選択した値によって異なります。[アクセスオプション] として [プライベート]、[公開済み]、[共有] のいずれかを選択した場合は、スケジュールオーナーに、スケジュールの実行により ReportLibrary に出力が配信されるたびに Email 通知が送信されます。[アクセスオプション] を [高度な共有] に設定した場合は、アクセスリスト内の各ユーザに、スケジュールの実行により ReportLibrary に出力が配信されるたびに Email 通知が送信されます。アクセスリストに登録されているグループは、Email アドレスの取得には使用されません。Email 通知は、登録されているユーザのみに送信されます。

8. 構成を完了後、[アクション] グループから [保存して閉じる] を選択し、変更を保存します。

ベーシックスケジュールツールでの最上位フォルダへの ReportLibrary レポートのバースト

ReportLibrary 配信のスケジュールを作成する際に、リソースツリーの [ワークスペース] フォルダを最上位フォルダとして選択すると、ReportLibrary レポートの格納先となるサブフォルダがバーストされます。

この方法では、最初にサブフォルダを作成せずに、ReportLibrary レポートをサブフォルダに格納することができます。ReportLibrary レポートを最上位フォルダにバーストするようスケジュールすると、ReportLibrary レポートのバースト先となる新しいサブフォルダが自動的に作成されます。

ReportLibrary レポートは、単一フォルダに配信する必要はありません。さまざまなサブフォルダパターンを使用することで、選択した変数で定義されるバースト値に基づいて、ReportLibrary レポートを複数のサブフォルダに配信することができます。

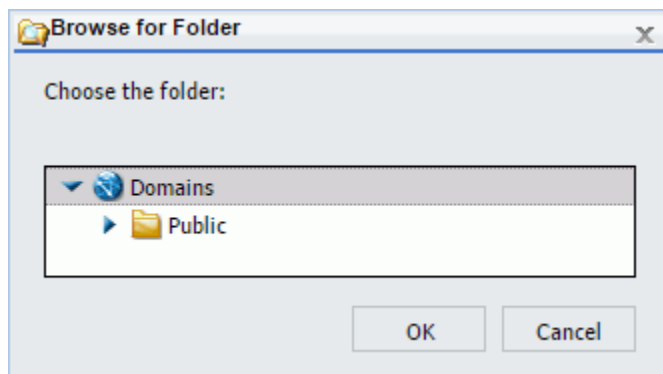
注意：最上位フォルダに ReportLibrary レポートをバーストするには、[ワークスペース] フォルダ下にサブフォルダを作成する権限を所有する必要があります。

手順

ベーシックスケジュールツールで最上位フォルダに ReportLibrary レポートをバーストするには

1. 配信するプロシジャを右クリックし、[スケジュール]、[ReportLibrary] を順に選択します。
ベーシックスケジュールツールの [配信] タブが開きます。

2. [フォルダパス] をクリックします。
[フォルダの参照] ダイアログボックスが表示されます。
3. 下図のように、[コンテンツ] フォルダを選択します。



4. [OK] をクリックします。
5. [配信] ダイアログボックスで、[設定] をクリックします。
[ReportLibrary 詳細オプション] ダイアログボックスが開きます。

6. [サブフォルダを有効にする] のチェックをオンにし、サブフォルダパターンを指定します。このパターンに基づいて、サブフォルダのタイトルが作成されます。下図のように、サブフォルダパターンは「`%BURST`」という変数です。

Library Advanced Options

Distribution Options

☐ Compress Stored Report

☒ Enable Sub-folder

Sub-folder Pattern:

Specify the pattern (for example &VARIABLE| '%BURST' report) to use to create the sub-folder title. When %BURST is specified, the burst value will be used in the sub-folder title.

Display Options

Version Description:

Specify the pattern (for example &VARIABLE| '%BURST' report) to use to create the version description. When %BURST is specified, the burst value will be used in the version description.

Category:

OK Cancel

ReportCaster 変数についての詳細は、469 ページの「[ReportCaster 内部変数](#)」を参照してください。

7. [OK] をクリックします。
8. [タスク] タブをクリックし、スケジュールするタスク (例、WebFOCUS レポート) を指定した後、[バーストレポート] のチェックをオンにします。
9. スケジュールの実行に必要な他の項目をすべて指定し、スケジュールを保存します。詳細は、185 ページの「[スケジュールの作成](#)」を参照してください。
10. 開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページで、作成済みのスケジュールを右クリックし、[実行] を選択します。

[ワークスペース] 最上位フォルダ下に新しいサブフォルダが作成され、それぞれのサブフォルダにバースト ReportLibrary レポートが格納されます。

注意：サブフォルダ構造は、使用された変数に応じて異なります。

ベーシックスケジュールツールでのリポジトリ配信オプションの使用

ベーシックスケジュールツールで、スケジュール済み出力をリポジトリに配信する場合は、レポート出力の配信先としてリポジトリのフォルダパスを指定します。

注意：リポジトリ配信を使用するスケジュールを作成するには、リポジトリへの配信権限が必要です。選択したフォルダにコンテンツを送信するための権限も必要です。詳細は、『[ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド](#)』を参照してください。

繰り返しスケジュールおよびバーストスケジュールの場合は、同一レポートプロシジャ (FEX) で配信するレポートのそれぞれについて、別のフォルダパスを作成して指定することをお勧めします。セキュリティアクセスはフォルダレベルで定義、管理することができ、また、配信済みレポート出力をバーストする場合は、バースト値は配信するレポートセクションのそれぞれのタイトル値として割り当てられるため、このことは重要です。このタイトルの値は、リソースツリーに表示されます。

レポート出力がリポジトリ配信オプションを使用して配信される際に、スケジュールタスク情報で指定する [保存レポート名] の最初に、曜日と日時の情報が追加されます。たとえば、Product Packaging & Price レポートのスケジュールで [保存レポート名] の値として「Product_Packaging_Price.htm」を割り当てた場合について考察します (ブランクと特殊文字は、アンダースコア文字 (_) に置換されます)。

リポジトリ への配信日時が 2011 年 12 月 19 日 (月曜日) 午後 1 時 35 分 (日本標準時) の場合、「2011 年 12 月 19 日 月 午後 01:35 JST Product Packaging Price」という説明が割り当てられます。

手順

リポジトリ配信オプションを使用するには

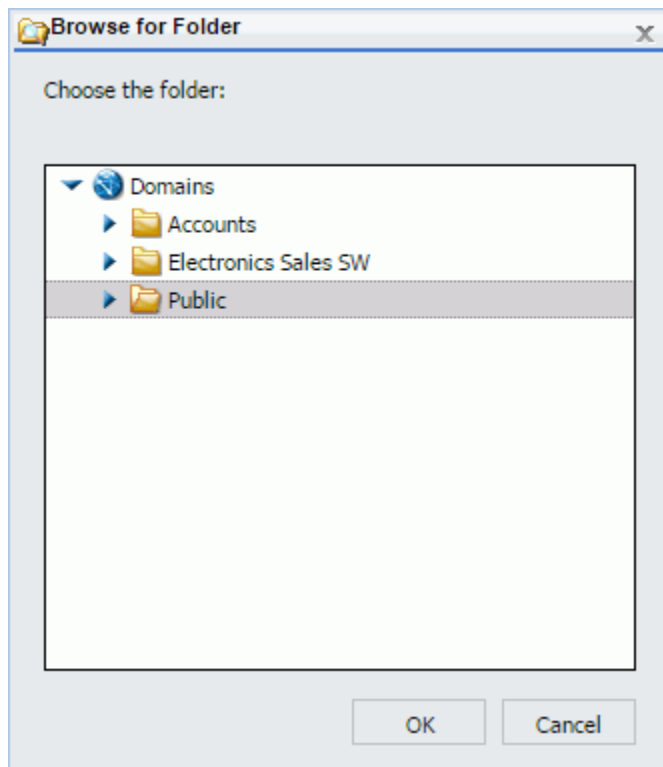
1. レポートプロシジャ (FEX) を右クリックし、[スケジュール]、[リポジトリ] を順に選択します。

新しいウィンドウにベーシックスケジュールツールが表示されます。

2. タスク情報を入力するか、タスク情報を確認します。詳細は、190 ページの「[ベーシックスケジュールツールのタスクの概要](#)」を参照してください。
3. [配信] タブをクリックします。

Distribution Server によって、[タスク] タブの [保存レポート名] で指定した名前の最初に、曜日と日時が追加されます。

フォルダパスとして適切なレポート出力の配信先が指定されていることを確認します。デフォルト設定で、このフォルダパスは、スケジュールの対象として選択したレポートプロシジャ (FEX) と同一のフォルダが指定されています。レポート出力を配信するフォルダを変更するには、[フォルダパス] ボタンをクリックします。下図のように、ダイアログボックスにリソースツリーが表示され、別のフォルダを選択することができます。



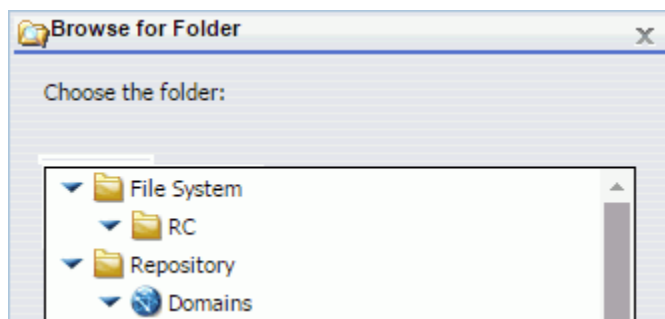
注意：選択したフォルダにコンテンツを送信するための権限も必要です。

4. [通知] タブを選択し、スケジュールジョブステータスの Email 通知を送信するかどうかを指定します。詳細は、264 ページの「[ベーシックスケジュールツールの通知オプション](#)」を参照してください。[通知タイプ] として [常に通知] または [エラー時] を選択する場合は、[返信アドレス]、[件名]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先] を指定する必要があります。
5. [プロパティ] タブを選択し、[タイトル] と [優先度]、再び実行しない場合にスケジュールを削除するかどうか、スケジュールの実行を有効にするかどうかを指定します。詳細は、266 ページの「[ベーシックスケジュールツールのプロパティの概要](#)」を参照してください。

6. [実行間隔] タブを選択し、スケジュールの実行頻度を指定します。スケジュールの実行日時を指定する場合は、[開始日] および [開始時間] をそれ以降の値に設定します。詳細は、267 ページの「[ベーシックスケジュールツールの実行間隔の概要](#)」を参照してください。
7. [保存して閉じる] を選択し、変更を保存します。

ベーシックスケジュールツールでのリポジトリ配信方法によるファイルシステム配信

リポジトリファイルシステム配信機能を使用して、Distribution Server がアクセス可能なディレクトリにレポートを送信することができます。ファイルシステムが構成されたりポジトリに配信する場合、下図のようにファイルシステムフォルダを選択することができます。



注意

- ❑ この方法には FTP サーバは必要ありません。
- ❑ レポートが配信される際は、Distribution Server によって、[タスク] タブの [保存レポート名] の最初に曜日と日時が追加されます。

この配信方法を使用するには、ユーザに [Distribute to File System] 権限が許可されている必要があります。また、管理者は、WebFOCUS 管理コンソールを使用して、ファイルシステムディレクトリを配信用に構成する必要があります。ユーザには、これらのフォルダを表示する権限が付与されている必要があります。この権限を付与するには、そのファイルサブシステムに対して [リスト] コマンドを許可します。詳細は、『[ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド](#)』を参照してください。

権限が付与されたユーザは、構成済みフォルダに配信するコンテンツをスケジュールすることができます。

単一ファイル FTP 配信での FTP フィールド自動入力

FTP でレポートを配信するスケジュールを設定する場合、スケジュールの [保存レポート名] フィールド内のファイル名情報が、[単一ファイル] FTP 配信の [名前] フィールドに自動的に転送されます。

注意: レポートを正しく配信するためには、[名前] の値にファイル拡張子を追加する必要があります。デフォルト設定では、[単一ファイル] の [名前] の値にはファイル拡張子が含まれません。ファイル拡張子を追加するには、[タスク] タブで [プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにしてレポートフォーマットを選択するか、ファイル拡張子を手動で入力します。詳細は、245 ページの「[ベーシックスケジュールツールでの FTP 配信オプションの使用](#)」を参照してください。

ReportLibrary ファイルのタイトル自動入力

システムに ReportLibrary レポートを保存する場合、スケジュールツールの [保存レポート名] フィールド内のファイル名情報が、自動的に ReportLibrary ファイル名の候補になります。詳細は、250 ページの「[ベーシックスケジュールツールでの ReportLibrary 配信オプションの使用](#)」を参照してください。

ベーシックスケジュールツールの通知オプション

ベーシックスケジュールツールの [通知] タブには、特定の Email 受信者にスケジュールステータスの通知を送信するオプションがあります。

注意

- ❑ 通知は、メールサーバが構成されている場合にのみ機能します。メールサーバが構成されていない場合、通知の送信に失敗し、スケジュールジョブログにエラーメッセージが記録されます。
- ❑ パラメータ (変数) は、スケジュールの通知設定で値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータは、&YYMD などのシステム変数にすることも、スケジュール済みプロシジャの実行時に Reporting Server から値が返される任意の変数にすることもできます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用するには、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&|Jones」のように指定します。スケジュールで指定されたパラメータの値がプロシジャ実行時に Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。

- ❑ **ReportCaster ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス]** ダイアログボックスで、[入力をこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。詳細は、75 ページの「[許可する Email ドメインおよびアドレスの確認](#)」を参照してください。

[通知タイプ] には、次のオプションがあります。

- ❑ **なし** ReportCaster からスケジュールステータスの通知が送信されることはありません。これがデフォルト値です。
- ❑ **常に通知** スケジュールが実行されるたびに指定したユーザに通知が送信されます。
- ❑ **エラー時** スケジュールジョブの実行中にエラーが発生した場合、指定したユーザに通知が送信されます。[エラー時] オプションの選択をお勧めします。

ベーシックスケジュールツールでのエラー時通知と常に通知の設定

[通知タイプ] として [エラー時] または [常に通知] を選択した場合、追加のオプションが有効になります。

[エラー時] と [常に通知] には、次の通知オプションがあります。

- ❑ **返信アドレス** 送信者の Email アドレスを入力します。レポートの受信者が通知に対して返信すると、返信メッセージはこのアドレスに送信されます。Email システムがレポートを配信できない場合、配信不可能なレポートメッセージもこのアドレスに返送されます。

注意

- ❑ ユーザ ID とパスワードを使用して、メールサーバによる認証を構成した場合、返信アドレスは、このユーザ ID に関連付けられた Email アドレスになります。
- ❑ メールサーバによる認証が構成され、ReportCaster 構成ツールで返信アドレスを構成した場合、スケジュールツールの [返信アドレス] テキストボックスは無効になります。返信アドレスが構成されていない場合は、このテキストボックスは有効になり、メールサーバに送信する返信アドレスを指定することはできますが、送信される Email の実際の返信アドレスは、認証アカウントのものになります。
- ❑ **件名** Email メッセージの件名に表示するテキストを入力します。最大 255 バイトまでの文字を入力することができます。このテキストボックスには、デフォルト設定でスケジュールのタイトルが自動的に入力されます。
- ❑ **簡易メッセージの宛先** 簡易通知を配信する Email アドレスを入力します。この項目には、構文エラーチェック機能はありません。

ヒント：携帯電話など、メモリ制限のあるデバイスへ通知を配信する際は、[簡易通知] オプションの使用をお勧めします。複数の受信者に通知する場合、Email のすべてに @ 文字と有効なドメインが含まれていれば、メールサーバで定義されたグループ Email リストを使用することができます。

- ❑ **詳細メッセージの宛先** 詳細通知を配信する Email アドレスを入力します。この項目には、構文エラーチェック機能はありません。

ベーシックスケジュールツールのプロパティの概要

ベーシックスケジュールツールにアクセスすると、[タイトル] および [パス] のプロパティオプションは、選択したレポートプロシジャ (FEX) に基づいて、あらかじめ入力されます。

[プロパティ] タブには、次のオプションがあります。

- ❑ **タイトル** スケジュールの目的を記述する短い説明を入力することができます。ベーシックスケジュールツールでスケジュールを作成する場合、この値として、スケジュール中のレポートプロシジャのタイトルが、あらかじめ入力されます。このタイトルは、スケジュールツールを使用して、スケジュールを作成中またはスケジュールの保存後に編集することができます。スケジュールの保存後は、[プロパティ] オプションからもタイトルを編集できます。

スケジュールのタイトルは、スケジュールを保存する際のスケジュール名として使用されます。選択したリソースツリーフォルダに名前の値がすでに存在する場合は、名前がすでに存在することを示すメッセージが表示されます。[タイトル] テキストボックスの値は、[保存] ダイアログボックスで変更することができます。タイトルの変更を保存すると、スケジュール情報の [タイトル] フィールドも更新されます。

- ❑ **パス** スケジュールの作成で選択するレポートプロシジャ (FEX) のリポジットリパスです。
- ❑ **概要** スケジュールの説明を入力することができます。このフィールドへの入力オプションです。
- ❑ **優先度** スケジュール済みジョブを Distribution Server で処理する際の優先度を指定します。デフォルト設定の優先度は、[標準 - 3] です。ただし、ドロップダウンリストを使用して、優先度を設定することができます。
- ❑ **配信するレポートがない場合** このオプションは、管理者が設定したデフォルト値に設定されます。レポートが生成されない場合にエラー通知を送信するには、この値を [エラー] に設定します。レポートが生成されない際に通知を送信しない場合は、この値を [警告] に設定します。

- ❑ **ジョブの再実行が不要な場合、スケジュールを削除** このチェックボックスを使用して、スケジュール済みジョブの処理完了後、再実行が予定されていないスケジュールを削除することを指定できます。このオプションを選択すると、フォルダコンテンツが表示される開始ページまたは WebFOCUS ホームページ、および ReportCaster エクスプローラでスケジュールを表示する際の全体的なパフォーマンスが向上するため、スケジュールを再実行する予定がない場合は、このオプションの選択をお勧めします。
- ❑ **有効 (指定された時間にジョブを実行)** このチェックボックスは、デフォルト設定で選択されています。スケジュール済みジョブの実行がポーリングされる際に、Distribution Server がスケジュールの評価を実行することを指定します。スケジュールの配信基準として [次回実行時間] の値を使用しない場合は、このチェックをオフにします。

ベーシックスケジュールツールの実行間隔の概要

ベーシックスケジュールツールの [実行間隔] タブのオプションで、スケジュールの実行頻度を定義することができます。

ユーザによる指定が必要なオプションは、配信頻度、タイムゾーン、開始時間と終了時間、実行間隔の詳細設定です。配信頻度の設定として、次のいずれかを選択します。

- ❑ 1 回だけ実行
- ❑ 分単位
- ❑ 時間単位
- ❑ 日単位
- ❑ 週単位
- ❑ 月単位
- ❑ 年単位
- ❑ カスタム

デフォルトタイムゾーンは自動的にスケジュールに割り当てられますが、デフォルトタイムゾーン以外の受信者にコンテンツを送信する必要があるスケジュールには、別のタイムゾーンを選択することができます。

ドロップダウンリストを使用して、開始時間と終了時間を割り当てることができます。権限を所有するユーザは、ドロップダウンリストの下向き矢印をクリックしてカレンダーを表示し、スケジュールの配信日を設定することができます。上下の矢印を使用して、スケジュールの配信時間を設定することができます。また、時間を手動で入力することもできます。

[詳細設定] の設定権限を所有するユーザは、[実行間隔] のチェックをオンにして、詳細設定オプションを有効にすることができます。配信スケジュールの繰り返しの頻度、配信スケジュールの [終了時間]、[継続時間] を設定します。この情報は手動で入力するか、上下の矢印を使用してパラメータを設定します。

1 回だけ実行

[1 回だけ実行] オプションは、ジョブの即時実行を設定します。これがデフォルト値です。スケジュールを即時実行しない場合は、日付および時間を変更できます。[開始] オプションを使用して、実行スケジュールの日付と時間、およびタイムゾーンを指定することができます。

タイムゾーンを割り当てるには、[タイムゾーン] リストから値を選択します。

日付を選択するには、日付のドロップダウンをクリックし、カレンダーから日付を選択します。時間を選択するには、時間または分を選択し、上下矢印を使用して数値を上下させます。時間は手動で入力することもできます。

分単位

[分単位] オプションは、スケジュールの n 分間隔での実行を設定します。

[分単位] テキストボックスで、1 から 59 までの分間隔を入力または選択し、スケジュールを実行する曜日のチェックをオンにしてから、スケジュールの [開始]、[終了] の日付と時間を選択して、スケジュール実行期間を指定します。

注意：5 分以下の間隔で実行するようスケジュールを設定すると、システムのパフォーマンスに影響する場合があるため、30 分以上に指定することをお勧めします。[分単位] オプションは、主にアラートスケジュールに役立ちます。

時間単位

[時間単位] オプションは、スケジュールの n 時間間隔での実行を設定します。

[時間単位] テキストボックスで、1 から 24 までの時間間隔を入力または選択し、スケジュールを実行する曜日のチェックをオンにしてから、スケジュールの [開始] および [終了] で日付と時間を選択して、スケジュール実行期間を指定します。

日単位

[日単位] オプションで、n 日ごとにスケジュールを実行するよう設定することができます。

[日] テキストボックスで、スケジュールを実行する日単位の間隔を選択または入力後、[開始] および [終了] の日付と時間を選択してスケジュール実行期間を定義します。

セカンダリ実行間隔を指定することもできます。この設定についての詳細は、270 ページの「[詳細設定](#)」を参照してください。

週単位

[週単位] オプションで、n 週ごとにスケジュールを実行するよう設定することができます。

[週単位] テキストボックスで、スケジュールを実行する週間隔を入力または選択し、スケジュールを実行する曜日のチェックをオンにしてから、[開始] および [終了] で日付と時間を選択して、スケジュール実行期間を指定します。

注意：実行間隔として [週単位] を選択する場合、[開始] の値として、スケジュールを実行する週の初日 (現在または以降) の日付を設定します。実行日として現在の日付を選択した場合、スケジュールの開始時間として、スケジュールを保存した時間よりも後の値が設定されていることを確認してください。スケジュールの開始時間が現在の時間以前の場合、スケジュールの次回実行時間の計算から、現在の日付は除外されます。

セカンダリ実行間隔を指定することもできます。この設定についての詳細は、270 ページの「[詳細設定](#)」を参照してください。

月単位

[月単位] オプションは、スケジュールの n か月間隔での実行を設定します。月間隔の実行間隔の詳細は、次のいずれかのオプションで設定することができます。これらのオプションは互いに排他的に動作することに注意してください。

- ☐ 第 1 週、第 2 週、第 3 週、第 4 週、または最終 n 曜日 (ここで、n は月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日、日曜日のいずれか)。n か月ごとに実行。
- ☐ n か月ごとの特定日。

また、スケジュール開始と終了の日付と時間も選択し、スケジュール実行期間を指定します。

月末日にスケジュールを実行するには、カレンダーの日付の最後にある [月の最終日] ボタンをクリックします。

注意：実行間隔として [月単位] を選択する場合、[開始] を使用して、スケジュールを実行する月の初日の日付を設定します。実行日として現在の日付を選択した場合、スケジュールの開始時間として、スケジュールを保存した時間よりも後の値が設定されていることを確認してください。スケジュールの開始時間が現在の時間以前の場合、スケジュールの次回実行時間の計算から、現在の日付は除外されます。

セカンダリ実行間隔を指定することもできます。この設定についての詳細は、270 ページの「[詳細設定](#)」を参照してください。

年単位

[年単位] オプションは、スケジュールの n 年間隔での実行を設定します。

セカンダリ実行間隔を指定することもできます。この設定についての詳細は、270 ページの「[詳細設定](#)」を参照してください。

カスタム実行間隔

[カスタム] オプションでは、特定のパターンに従わない日付を選択することができます。たとえば、四半期レポートを各四半期の異なる日に実行する場合は、カスタム実行間隔を使用して、3 月 3 日 (土曜日)、6 月 4 日 (月曜日)、9 月 7 日 (金曜日)、12 月 2 日 (日曜日) など、指定した日に実行するようスケジュールを設定することができます。

[開始] および [終了] で日付と時間を選択し、スケジュールが実行される時間範囲を指定します。カレンダーの日付をクリックし、スケジュールを実行する日付を選択します。カレンダー上部の矢印を使用し、月および年を変更します。日付を選択すると、[カスタム日付リスト] に表示されます。[カスタム日付リスト] ノードの下に選択した年月日のフォルダが (存在しない場合は) 自動的に作成されます。

リストから日付を削除する場合は、カレンダーでその日をクリックします。カレンダーで日付は選択が解除され、[カスタム日付リスト] にも表示されません。必要に応じて、左側の一重矢印を使用して日付をリストから削除することもできます。二重矢印は、定義済みリストからすべての日付を削除します。

セカンダリ実行間隔を指定することもできます。この設定についての詳細は、270 ページの「[詳細設定](#)」を参照してください。

詳細設定

[詳細設定] オプションを使用して、スケジュール実行日のセカンダリ実行間隔を作成することができます。セカンダリ実行間隔は、n 分または n 時間単位で特定の時間 (期間または何時何分) まで適用することができます。このオプションは、日単位、週単位、月単位、年単位に実行するスケジュールで利用することができます。

注意: スケジュールを保存する際に、時間の設定は分に変換されます。スケジュールを編集する際、この値は分として表示されます。

スケジュールの作成時には、セカンダリ実行間隔は検証されません。この検証は、スケジュールがセカンダリ実行間隔で実行される際に、スケジュールの次回実行時間が計算されるたびに行われます。セカンダリ実行間隔は、プライマリ実行間隔の次回実行時間を超えることはできません。たとえば、毎日のスケジュールに「1 日ごとのスケジュール」を超えるセカンダリ実行間隔を設定することはできません。セカンダリ実行間隔を次のプライマリ実行間隔の後にスケジュールした場合は、セカンダリ実行間隔は停止され、エラーメッセージが表示されます。このエラーメッセージもログファイルに書き込まれます。

[詳細設定] セクションでは、繰り返しオプションと時間間隔オプションを設定することができます。

[詳細設定] セクションには、次のオプションがあります。

- ❑ **実行間隔** スケジュール実行日に n 分または n 時間ごとにセカンダリ実行間隔を適用します。この例では、10 分ごとに適用します。
- ❑ **終了時間** セカンダリ実行間隔の適用を終了する時間です。この例では、スケジュールは 10 分ごとに実行され、[終了時間] オプションで選択した午後 4 時 10 分に終了します。
- ❑ **継続時間** セカンダリ実行間隔を適用する継続時間を時間と分単位で指定します。このオプションと [終了時間] オプションは、互いに排他的に動作します。

注意：スケジュールが更新される際、次の実行時間の再計算には、プライマリ実行間隔のみが使用されます。つまり、スケジュールにセカンダリ実行間隔が設定されている場合、セカンダリスケジュールが実行可能になる前にスケジュールが更新されると、そのセカンダリ実行間隔は無視され、プライマリ実行間隔に基づいて NEXTRUNTIME が再計算されます。

たとえば、スケジュールが毎日午後 2 時に実行されるよう設定されており、午後 2 時から 3 時まで 10 分ごとのセカンダリ実行間隔が適用されている場合を想定します。スケジュールが午後 2 時に実行される際、セカンダリ実行間隔が尊重され、次回実行時間は 2 時 10 分に再設定されます。このスケジュールが午後 2 時 3 分に更新された場合、NEXTRUNTIME は再計算され、同日の午後 2 時 10 分ではなく、翌日の午後 2 時に設定されます。

レポート配信を ReportLibrary のみに制限

レポート (.fex) のスケジュールを作成する際の配信方法を ReportLibrary のみに制限することができます。この制限は、機密データやプライベートデータが含まれたレポートなど、すべてのレポートに適用されるほか、配信を制限するその他の項目にも適用されます。

レポートの配信を ReportLibrary のみに制限すると、リポジトリに格納された配信済みレポート出力へのアクセスがセキュリティで保護されます。機密データが含まれたレポートの場合、この制限により、ReportCaster を使用して Email やその他の配信方法で情報がスケジュール配信されることを防止することができます。

この機能を使用するには、レポートの [プロパティ] ダイアログボックスの [スケジュールを ReportLibrary のみに制限する] オプションを使用して、レポートの配信を ReportLibrary のみに制限する必要があります。

注意: [プロパティ] ダイアログボックスにアクセスするには、リソースツリーでレポート (.fex) を右クリックします。

この制限を設定した後、ベーシックスケジュールツールでレポートをスケジュールすることができます。配信は、ReportLibrary のみに制限されます。

レポートを作成した後、ベーシックスケジュールツールまたはアドバンスドスケジュールツールを使用してレポートをスケジュール実行することができます。Distribution Server は ReportLibrary のみへの配信制限を常に検証し、配信方法が ReportLibrary のみに制限されたレポートの場合は、その他の方法でレポートを配信できないよう制御します。Distribution Server は、スケジュールが実行されるたびに、この検証を行います。

手順

ベーシックスケジュールツールで ReportLibrary 配信のみに制限されたレポートをスケジュールするには

1. レポートを作成して保存します。
2. 開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページで、レポートを右クリックし、[プロパティ] を選択します。
3. [詳細] タブをクリックします。
4. [スケジュールと ReportLibrary コンテンツのプロパティ] セクションで、[スケジュールを ReportLibrary のみに制限する] のチェックをオンにします。
5. [保存] をクリックします。
6. 開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページで、レポートを右クリックし、[スケジュール] を選択します。

注意: 制限が設定されている場合、配信方法には [ReportLibrary] のみが表示されます。

7. 変更があれば変更を追加し、スケジュールを保存、実行します。
8. 必要に応じて、ReportCaster ステータスの [ジョブログ] セクションを表示し、274 ページの「[ログ情報](#)」に記載されているログ情報を確認します。

詳細は、250 ページの「[ベーシックスケジュールツールでの ReportLibrary 配信オプションの使用](#)」を参照してください。

手順

アドバンストスケジュールツールで ReportLibrary 配信のみに制限されたレポートをスケジュールするには

アドバンストスケジュールツールを起動するには、リソースツリーでワークスペースをクリックし、アクションバーで [スケジュール] ボタンを選択後、[スケジュール] をクリックします。アドバンストスケジュールツールは、既存のスケジュールを右クリックし、[編集] を選択することで起動することもできます。

1. レポートを作成して保存します。
2. 開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページで、レポートを右クリックし、[プロパティ] を選択します。
3. [詳細] タブをクリックします。
4. [スケジュールと ReportLibrary コンテンツのプロパティ] セクションで、[スケジュールを ReportLibrary のみに制限する] のチェックをオンにします。
5. [保存] をクリックします。
6. 開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページで、[スケジュール] ボタンをクリックし、[スケジュール] を選択します。

アドバンストスケジュールツールが表示されます。

7. WebFOCUS レポートのタスクを追加し、制限が設定されたレポートを選択します。

注意：スケジュールに含めるレポートとして、[スケジュールを ReportLibrary のみに制限する] オプションが設定された WebFOCUS レポートを選択した場合、ReportLibrary への配信のみが可能になります。別の配信方法を選択すると、エラーメッセージが表示されます。詳細は、273 ページの「[制限されたスケジュールの警告メッセージ](#)」を参照してください。

8. スケジュールの残りの必須項目を定義します。

- ☐ タイトル
- ☐ 実行間隔
- ☐ 配信 (ReportLibrary のみ)

9. スケジュールを保存します。

制限されたスケジュールの警告メッセージ

レポートのプロパティで [スケジュールを ReportLibrary のみに制限する] オプションが設定されている場合、このレポートをスケジュールする際にエラーメッセージが表示される場合があります。

既存のスケジュールで別の配信方法を選択すると、エラーが表示されます。

複数の配信方法が指定されたスケジュールの場合、このスケジュールに ReportLibrary 配信のみに制限されたレポートを追加すると、エラーが表示されます。

ログ情報

スケジュールの実行後、ReportCaster ステータスの [ジョブログ] セクションからログ情報にアクセスすることができます。詳細は、43 ページの「[ジョブログ](#)」を参照してください。

5

アドバンストスケジュールツールによる スケジュールの作成

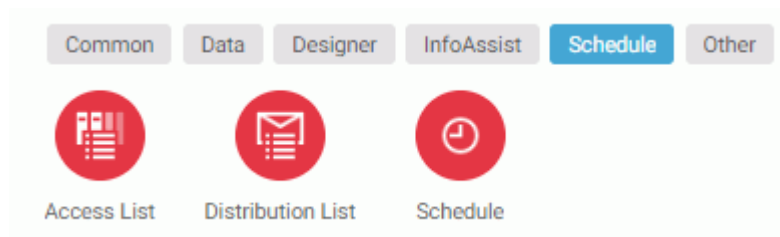
アドバンストスケジュールツールは、WebFOCUS リポジトリプロシジャを対象としたベーシックスケジュールツールと同一のスケジュールオプションを備えています。また、アドバンストスケジュールツールでは、WebFOCUS Reporting Server プロシジャ (FEX)、Distribution Server にアクセス可能なファイルや FTP サーバからアクセス可能なファイル、Web サーバまたは Application Server に送信される完全修飾 URL を対象としたスケジュールを作成することもできます。アドバンストスケジュールツールを使用する場合、スケジュールのタスクおよび配信方法 (Email、FTP、ReportLibrary、リポジトリ) は、このツール内で選択します。

トピックス

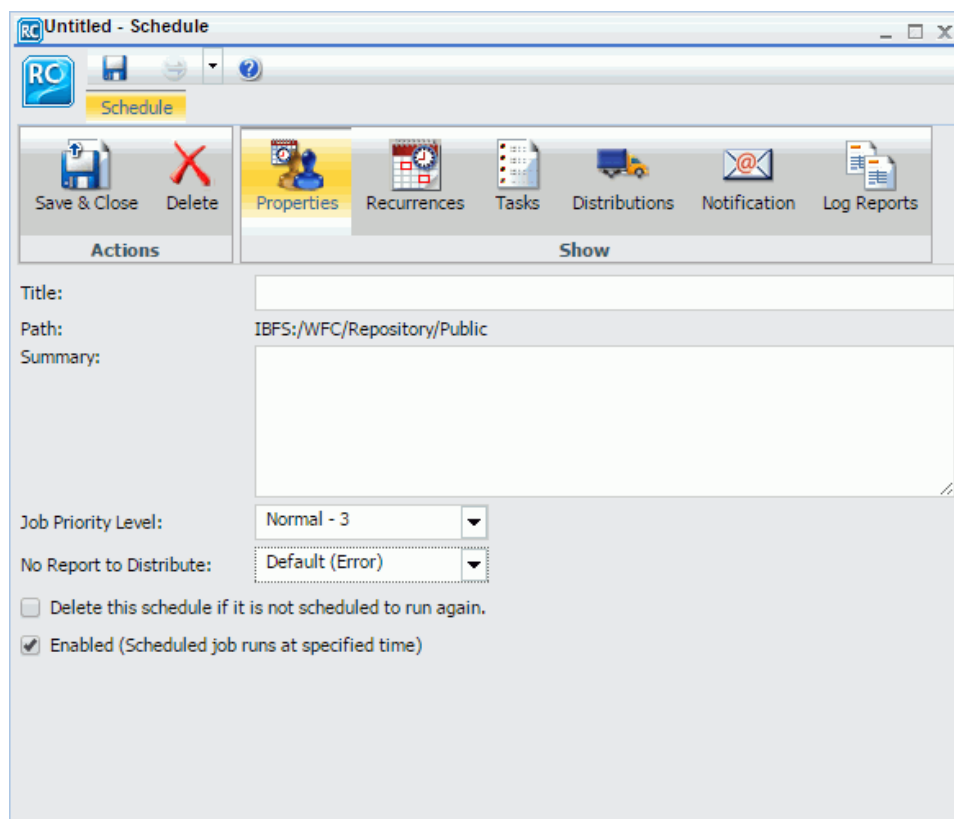
- [アドバンストスケジュールツールの概要](#)
 - [アドバンストスケジュールツールのクイックアクセスツールバー](#)
 - [アドバンストスケジュールツールのリボン](#)
 - [アドバンストスケジュールツールでのスケジュールの作成](#)
 - [アドバンストスケジュールツールのタスクの概要](#)
 - [WebFOCUS スケジュールタスクタイプを使用したスケジュールタスクの構成](#)
 - [アドバンストスケジュールツールの配信オプション](#)
 - [アドバンストスケジュールツールの単一ファイル FTP 配信での FTP フィールド自動入力](#)
 - [アドバンストスケジュールツールの ReportLibrary ファイルでのタイトルフィールド自動入力](#)
 - [アドバンストスケジュールツールの通知オプション](#)
 - [アドバンストスケジュールツールのプロパティの概要](#)
 - [アドバンストスケジュールツールの実行間隔の概要](#)
-

アドバンストスケジュールツールの概要

権限を所有するユーザは、開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページから、および既存のスケジュールを編集する際に、アドバンストスケジュールツールにアクセスすることができます。下図のように、ワークスペースを選択し、アクションバーから [スケジュール] ボタンを選択後、[スケジュール] をクリックします。



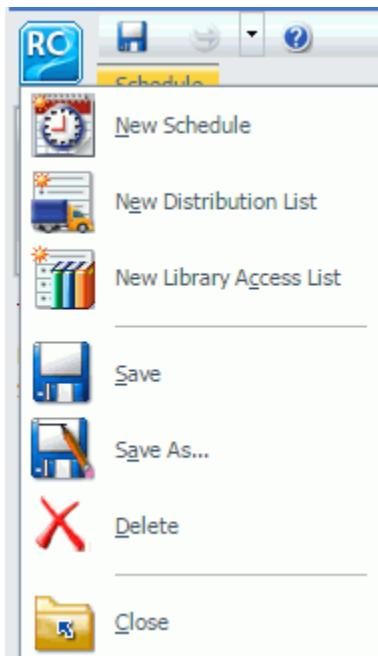
下図のように、アドバンストスケジュールツールが表示されます。



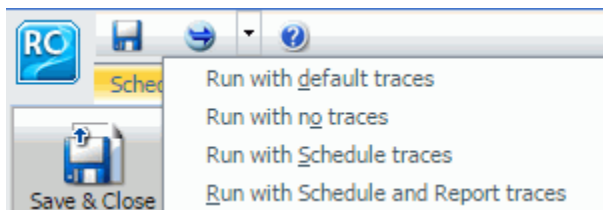
アドバンストスケジュールツールのツールバーには、ベーシックスケジュールツールと同一の機能が表示されます。詳細は、186 ページの「[ベーシックスケジュールツールの概要](#)」を参照してください。また、アドバンストスケジュールツールでは、リボンの [実行間隔]、[タスク]、[配信] オプションそれぞれに [新規作成] オプションがあります。これらのオプションを使用して、スケジュールの実行時期と実行間隔、スケジュールで実行するタスク (配信するレポートやファイルの取得)、レポートやファイルの配信先を指定することができます。[実行間隔]、[タスク]、[配信] オプションそれぞれの [新規作成] オプションについての詳細は、278 ページの「[アドバンストスケジュールツールのリボン](#)」を参照してください。

アドバンストスケジュールツールのクイックアクセスツールバー

アドバンストスケジュールツール上部のクイックアクセスツールバーは、選択されているオプションに関係なく、常に表示されます。このツールバーのメインメニューには、よく使用する機能が表示されます。クイックアクセスツールバーからは、[新規スケジュール]、[新規配信リスト]、[新規アクセスリスト]、[保存]、[名前を付けて保存]、[削除]、[閉じる]、[実行] オプションを選択することができます。下図のように、ツールバーから [ヘルプ] オプションにアクセスすることもできます。



[実行] ドロップダウンリストからは、その他の実行オプションを選択することもできます。これらの実行オプションは、スケジュールの保存に成功した後に選択可能になります。下図のように、選択可能な実行オプションには、[デフォルトトレース付き実行]、[トレースなし実行]、[スケジュールのトレース付き実行]、[スケジュールとレポートのトレース付き実行] があります。



注意

- ❑ ユーザが [Session Traces] 権限を所有している場合、スケジュールツールに [トレース付き実行] の各オプションが表示されます。トレース付き実行の権限を所有していない場合、これらのオプションは表示されません。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

- ❑ オンラインヘルプを表示するには、[ヘルプ] アイコン  をクリックします。

アドバンストスケジュールツールのリボン

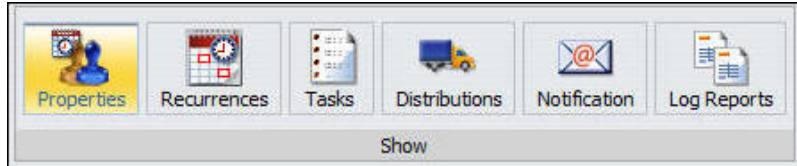
アドバンストスケジュールツールのリボンには、スケジュールオプションが、次のカテゴリに分類されて表示されます。

❑ アクション



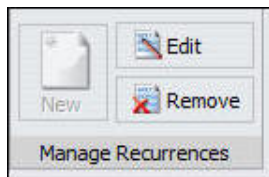
- ❑ **保存して閉じる** スケジュールを保存して閉じます。
- ❑ **削除** スケジュールを削除します。

□ 表示



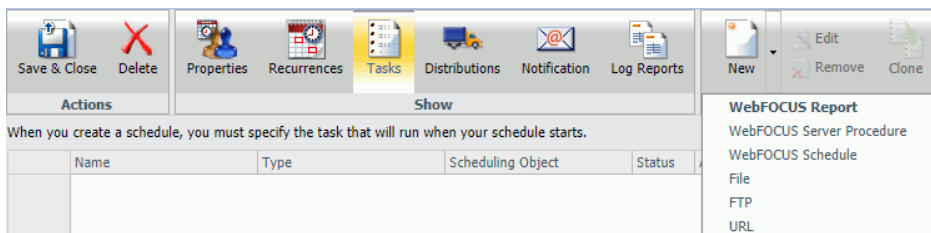
- **プロパティ** スケジュールのタイトル、パス、概要、ジョブ優先度オプション、および配信するレポートが存在しない場合のオプションを表示します。
- **実行間隔** 配信および繰り返しオプションの実行間隔を表示します。
- **タスク** スケジュールに関連付けられたタスクを表示します。
- **分布** 配信方法のドロップダウンリストおよび各配信方法に対応する配信オプションを表示します。
- **通知** スケジュールステータスの通知を設定するためのオプションを表示します。
- **ログレポート** スケジュールが実行されるたびに作成されるログレポートを表示します。

□ 実行間隔の管理



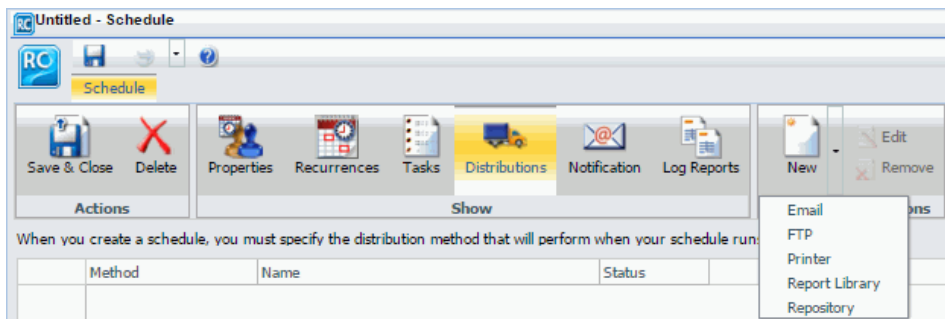
- **新規作成** スケジュールの新しい実行間隔、タスク、配信方法を定義します。
 - [実行間隔] を選択し、[新規作成] をクリックして、新しい実行間隔を作成します。サポートされる実行間隔は 1 つです。

- ❑ [タスク] を選択し、[新規作成] の下向き矢印をクリックしてドロップダウンリストを表示します。下図のように、[WebFOCUS レポート]、[WebFOCUS サーバプロシジャ]、[WebFOCUS スケジュール]、[ファイル]、[FTP]、[URL] のいずれかを選択します。



注意: Email 配信では、複数の実行間隔がサポートされます。複数のタスクを作成するには、スケジュールのタスクを指定する前に、Email 配信を選択します。新しいスケジュールのデフォルト配信方法は [Email] です。

- ❑ [配信] を選択し、[新規作成] の下向き矢印をクリックしてドロップダウンリストを表示します。[Email]、[FTP]、[ReportLibrary]、[リポジトリ] のいずれかを選択します。



- ❑ **編集** 既存の実行間隔、タスク、配信を編集します。
- ❑ **削除** 既存の実行間隔、タスク、配信を削除します。

アドバンストスケジュールツールでのスケジュールの作成

ここでは、新しいレポートプロシジャ (FEX) スケジュールを作成する手順の概要について説明します。この手順の中には、関連するオプションについての詳細が含まれているものもありますが、別のセクションの参照箇所が記述されているものもあります。これらの参照箇所には、オプションについての詳細な説明とともに、選択する際のヒントなどの追加情報が含まれています。

手順 アドバンストスケジュールツールでスケジュールを作成するには

1. アドバンストスケジュールツールを開きます。
2. [プロパティ] タブの [タイトル] テキストボックスに、スケジュールの名前を入力します。
このテキストボックスの入力は必須です。デフォルト設定では空白です。
3. [概要] テキストボックスに、スケジュールの説明を入力します。
4. [優先度] を選択します。

優先度のデフォルト値は、[標準 - 3] です。

5. [配信するレポートがない場合] から、配信するレポートが存在しない場合に実行するアクションを選択します。

注意：このオプションは、管理者が構成したデフォルト値に設定されています。レポートが生成されない場合にエラー通知を送信するには、この値を [エラー] に設定します。レポートが生成されない際に通知を送信しない場合は、この値を [警告] に設定します。

6. 実行間隔の設定に基づいてスケジュールを再実行せず、実行後にこのスケジュールを削除する場合は、[ジョブの再実行が不要な場合、スケジュールを削除] のチェックをオンにします。

このスケジュールを再度実行する予定がない場合は、このオプションを使用します。

7. 実行間隔の設定に基づいてスケジュールジョブを実行する場合は、[有効 (指定された時間にジョブを実行)] のチェックはオンのままにします。
8. [実行間隔] タブで、次のように選択します。
 - a. [新規作成] をクリックします。

下図のように、[スケジュール間隔] ダイアログボックスが表示されます。

The screenshot shows the 'Schedule Recurrence' dialog box with the following details:

- Settings:**
 - ☒ Run Once
 - ☐ Minutes
 - ☐ Hourly
 - ☐ Daily
 - ☐ Weekly
 - ☐ Monthly
 - ☐ Yearly
 - ☐ Custom
- Time Zone:** (UTC-05:00) Eastern Time (US & Canada)
- Start:** Monday, August 5, 2019, 2: 11 PM
- End:** Thursday, December 31, 2099, 11: 59 PM
- Advanced settings:**
 - ☐ Repeat schedule every: 10 Minute(s)
 - ☐ Until Time: 2: 11 PM
 - ☒ Last For: 1 hour(s) 0 minute(s)
 - ☒ Enabled

- b. [設定] ラジオボタンのリストから、スケジュールの実行間隔を選択します。
この間隔は、[1 回だけ実行]、[分単位]、[時間単位]、[日単位]、[週単位]、[月単位]、[年単位]、[カスタム] のいずれかに設定することができます。
- c. [タイムゾーン] リストから、スケジュール配信コンテンツの受信者のタイムゾーンを選択します (デフォルトタイムゾーンでない場合)。
- d. [開始] ドロップダウンカレンダーから、スケジュールの実行を開始する日付と時間を選択します。
注意: 時間の設定を変更するには、時間と分のいずれかを選択し、矢印を使用して数値を上下させます。
- e. 選択した実行間隔の設定に応じて、スケジュールの実行を終了する日付と時間を選択します。
- f. 選択した実行間隔の設定に応じて、[詳細設定] セクションの [実行間隔] のチェックをオンにして、カスタム時間間隔を有効にします。

9. [タスク] タブで [新規作成] の下向き矢印をクリックし、ドロップダウンリストからタスクタイプを選択します。[タスク] ダイアログボックスで、各テキストボックスに値を入力し、[OK] をクリックします。タスクタイプとして [WebFOCUS レポート] を選択し、WebFOCUS リポジトリに格納されているプロシジャを選択すると、そのプロシジャ情報に基づいてその他のテキストボックスに値が自動的に入力されます。[タスク] タブで、別のタスク、実行前プロシジャ、実行後プロシジャ、パラメータを追加することができます。[タスク] タブについての詳細は、284 ページの「[アドバンストスケジュールツールのタスクの概要](#)」を参照してください。

注意: スケジュールツールの [プロシジャ] テキストボックスにパスとプロシジャ名を手動で入力した場合は、[保存レポート名] テキストボックスにも値を手動で入力する必要があります。[タスク] ダイアログボックスの [パラメータ] タブで [リフレッシュ] ボタンをクリックすると、パラメータが自動的に入力されます。複数タスクのスケジュールを作成する場合、配信方法として指定可能なオプションは [Email] のみです。

10. [配信] タブの [新規作成] ドロップダウンリストから、レポートの配信方法を選択します。次の配信方法があります。

☐ Email - 複数のタスクをサポートします。

☐ FTP

☐ ReportLibrary

☐ リポジトリ

注意: 単一タスクのスケジュールを作成する場合は、上記の配信オプションのいずれかを指定することができます。複数タスクのスケジュールの場合、指定可能なオプションは [Email] のみです。

適切な配信オプションを選択します。詳細は、299 ページの「[アドバンストスケジュールツールの配信オプション](#)」を参照してください。

11. [通知] タブで、スケジュール実行中に通知を送信するかどうかと、送信条件を選択します。次のオプションがあります。
 - ☐ **なし** スケジュールステータスの通知は送信されません。これがデフォルト値です。
 - ☐ **常に通知** スケジュールが実行されるたびに通知を送信します。[返信アドレス]、[件名]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先] テキストボックスに値を入力します。
 - ☐ **エラー時** スケジュール実行中にエラーが発生した場合にのみ通知を送信します。[返信アドレス]、[件名]、[簡易メッセージの宛先]、[詳細メッセージの宛先] テキストボックスに値を入力します。
12. [ログレポート] タブでは、スケジュールが実行されるたびに作成されるログレポートを表示することができます。
13. スケジュールツールの [保存して閉じる] をクリックし、スケジュールを保存します。

注意

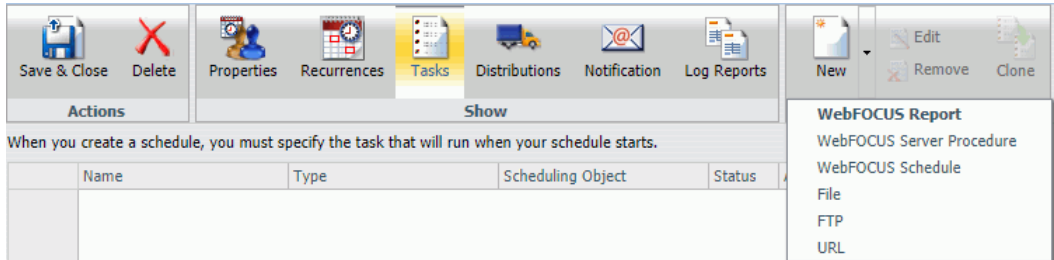
- ☐ ファイルのタイトル値の最大長は 256 バイトです。
- ☐ ファイルのタイトルがフォルダ内の既存ファイルと同一名の場合、既存ファイルを置き換えるかどうかのメッセージが表示されます。

アドバンストスケジュールツールのタスクの概要

[タスク] オプションを使用して、スケジュールの実行対象を選択することができます。たとえば、配信するレポートを取得するタスクを選択します。また、WebFOCUS サーバプロシジャ (FEX) や WebFOCUS レポートの場合は、レポートをバーストするかどうかを指定することもできます。アドバンストスケジュールツールでは、配信方法が Email の場合、複数のタスクを設定することができます。詳細は、190 ページの「[ベーシックスケジュールツールのタスクの概要](#)」を参照してください。

注意： WebFOCUS Client ユニバーサルプロファイルは、WebFOCUS リポジトリプロシジャまたは WebFOCUS Reporting Server プロシジャが実行される際に、ReportCaster によって実行されます。詳細は、『[ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド](#)』を参照してください。

下図は、アドバンストスケジュールツールの [タスク] タブを示しています。[新規作成] タブをクリックすると、WebFOCUS レポートの [タスク] ダイアログボックスがデフォルト設定で表示されます。[新規作成] タブのドロップダウン矢印をクリックすると、すべてのタスクタイプ (WebFOCUS レポート、WebFOCUS サーバプロシジャ、WebFOCUS スケジュール、ファイル、FTP、URL) から選択することができます。

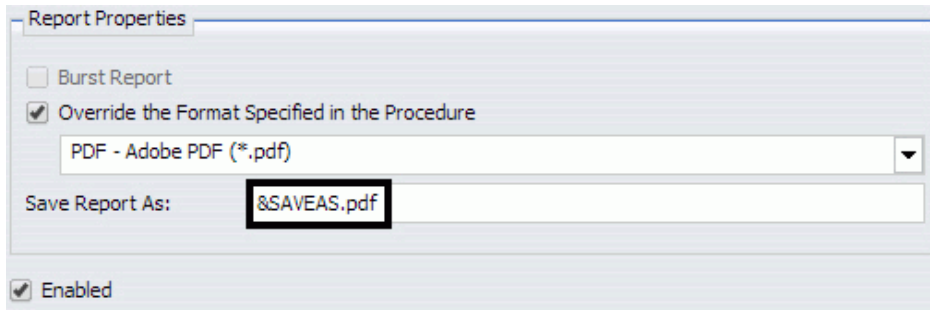


たとえば、WebFOCUS レポートのタスクを作成するには、パス、プロシジャ、サーバ名、実行 ID、パスワードを指定します。[レポートのプロパティ] エリアでは、レポート出力をバーストするかどうかを指定します。必要に応じて、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにして、プロシジャで指定されたフォーマットを、ドロップダウンリストから選択したフォーマットで上書きします。下図は、[WebFOCUS レポート] タスクタイプの [タスク] ダイアログボックスを示しています。

The screenshot shows the 'Task' dialog box with the following fields and options:

- Task Name:** Task 1
- Task Type:** WebFOCUS Report
- Tabs:** General (selected), Parameters, Pre/Post-Procedures, Advanced Options
- Scheduling Object:** WebFOCUS Report
- Path:** /WFC/Repository/Retail_Samples/Reports
- Procedure:** Margin_by_Product_Category.fex (with a 'Browse...' button)
- Server Name:** EDASERVE
- Execution ID:** Administrator (dropdown menu) and Password... (button)
- Alert...** (button)
- Report Properties:**
 - ☐ Burst Report
 - ☒ Override the Format Specified in the Procedure
 - Format dropdown: HTML - Web Page (*.htm, *.html)
 - Save Report As:** Margin_by_Product_Category.htm
- ☒ Enabled
- Buttons:** OK, Cancel

注意：パラメータ (変数) は、スケジュールの [保存レポート名] テキストボックスで値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータは、&YYMD などのシステム変数にすることも、スケジュール済みプロシジャの実行時に Reporting Server から値が返される任意の変数にすることもできます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用するには、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&|Jones」のように指定します。スケジュールで指定されたパラメータの値がプロシジャ実行時に Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は、「%BURST」記号を使用して [保存レポート名] テキストボックスにバースト値を含めることもできます。



[WebFOCUS レポート] および [WebFOCUS サーバプロシジャ] タスクタイプの [タスク] ダイアログボックスには、次の 3 つのタブが表示されます。

- **[全般] タブ** パス、プロシジャ、サーバ名、実行 ID、パスワードを指定します。また、レポート出力をバーストするオプションなどの、レポートのプロパティを指定することもできます。必要に応じて、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにして、プロシジャで指定されたフォーマットを、ドロップダウンリストから選択したフォーマットで上書きします。

注意

- スケジュールするレポートが SET COMPOUND OPEN 構文を使用する複合レポートの場合、このレポートのスケジュールを作成する際に、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにした上で、フォーマットを指定する必要があります。この方法でフォーマットを指定しない場合、レポートが配信されません。WebFOCUS および App Studio のレポートツールで作成された複合レポートの場合、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにする必要はありません。

- ❑ [FLEX]、[VISDIS]、[VISDISAE] レポート出力フォーマットはサポートの対象から除外されました。スケジュール内でこれらのフォーマットのいずれかを使用するタスクを編集する際は、表示されたダイアログボックスで出力フォーマットを変更することができます。
- ❑ [OK] をクリックし、レポートの出力フォーマットが AFLASH (FLEX) に設定されている場合、タスクの出力は AHTML として保存されます。
- ❑ [OK] をクリックし、レポートの出力フォーマットが VISDIS または VISDISAE に設定されている場合、タスクの出力は HTML として保存されます。
- ❑ [閉じる] をクリックした場合、出力フォーマットは変更されず、タスクに加えた変更は保存されません。
- ❑ 既存の WebFOCUS サーバプロシジャまたは WebFOCUS レポートタスクをアドバンストスケジュールツールで開き、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックがオンになっている場合は、フォーマットのリストが表示されます。[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオフにすると、フォーマットのリストが非表示になります。
- ❑ 既存の WebFOCUS サーバプロシジャまたは WebFOCUS レポートタスクをアドバンストスケジュールツールで開き、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックがオフになっている場合は、フォーマットのリストが表示されません。[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにすると、フォーマットのリストが表示されます。

- **[パラメータ] タブ** スケジュールするレポートプロシジャ (FEX) の実行時に必要なパラメータ値を指定します。下図の [パラメータ] タブでは、このスケジュールに保存する、STATE および PRODUCT の 2 つのパラメータと、その値が選択されています。

Name	Description	Display Value	Value	Use Default
STATE			NY	
PRODUCT			'Biscotti' OR 'Croissant'	

Up Down New Delete Refresh

Parameter Properties

Type: User Defined

Name: STATE

Description:

Value: NY

Display Value:

Default Value:

☒ Always Use Default Value Specified in the Procedure

Data Type: Minimum: Maximum:

OK Cancel

アドバンストスケジュールツールの [タスク] ダイアログボックスに表示される [パラメータ] タブの機能は、ベーシックスケジュールツールの [タスクのパラメータ] ダイアログボックスに表示されるパラメータオプションと同一です。実行時入力パラメータ、静的パラメータ、動的パラメータの値の指定についての詳細は、195 ページの「[パラメータ値の指定](#)」を参照してください。

新しいパラメータの作成についての詳細は、221 ページの「[新規パラメータの作成](#)」を参照してください。パラメータの削除についての詳細は、221 ページの「[パラメータの削除](#)」を参照してください。

- ❑ **[実行前/実行後プロシジャ] タブ** スケジュールしたタスクの実行前または実行後に実行する WebFOCUS サーバプロシジャを指定します。
- ❑ **[詳細オプション] タブ** [警告として処理する追加の FOC エラー] ダイアログボックスを開き、1 つ以上の FOC エラーメッセージ番号をカンマ区切りで指定することができます。これらの FOCUS エラー番号のいずれかがスケジュール実行中に検出された場合、ReportCaster はそのスケジュール実行をエラーではなく、警告として処理します。つまり、レポートが生成された場合、FOCUS エラー番号に関係なくレポートが配信されます。また、エラー発生時に通知を送信するようスケジュールが構成されている場合でも、この FOCUS エラー番号でエラー通知が送信されることはありません。

スケジュール内のタスクの無効化

作成済みのスケジュールを編集する際に、スケジュール内の 1 つまたは複数のタスクを無効にすることができます。また、新しいスケジュールを作成し、複数のタスクを追加した後、必要に応じて 1 つまたは複数のタスクを無効にすることもできます。詳細は、281 ページの「[アドバンストスケジュールツールでスケジュールを作成するには](#)」を参照してください。

注意：次の手順は、複数のタスクで構成されたスケジュールに適用されます。スケジュール内のすべてのタスクを無効にすると、そのスケジュールが無効になります。

手順 **スケジュール内のタスクを無効にするには**

1. アドバンストスケジュールツールを使用して複数のタスクで構成されたスケジュールを作成するか、既存のスケジュールを開きます。
2. リボンの [表示] グループで、[タスク] をクリックします。
 - a. 新しいタスクのスケジュールを作成する場合は、[新規作成] をクリックします。詳細は、284 ページの「[アドバンストスケジュールツールのタスクの概要](#)」を参照してください。
 - b. 複数のタスクが定義された既存のスケジュールを編集する場合は、リストからタスクを選択し、[編集] をクリックします。

3. 下図のように、[タスク] ダイアログボックスで [有効] のチェックをオフにします。

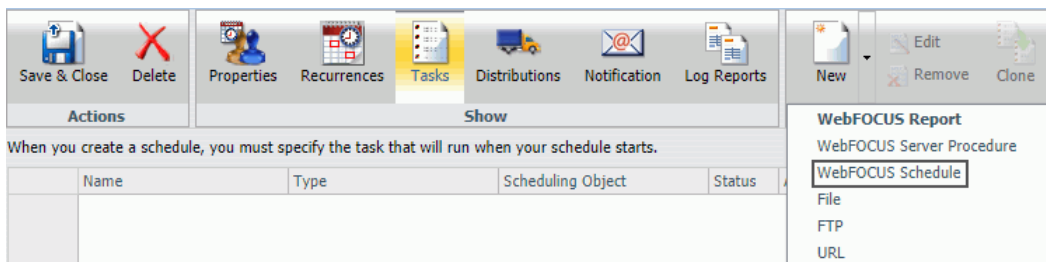
The screenshot shows the 'Task' dialog box with the following details:

- Task Name:** Task 1
- Task Type:** WebFOCUS Server Procedure
- Tabs:** General (selected), Parameters, Pre/Post-Procedures, Advanced Options
- Scheduling Object:** WebFOCUS Server Procedure
 - Server Name:** EDASERVE
 - Execution ID:** bigscm
 - Password:** Password...
 - Procedure Name:** ibisamp/inst
 - Browse...** button
- Report Properties**
 - ☐ Burst Report
 - ☒ Override the Format Specified in the Procedure
 - Format:** PDF - Adobe PDF (*.pdf)
 - Save Report As:** ibisamp_inst.pdf
- Enabled:** ☐ (highlighted with a red box)
- Buttons:** OK, Cancel

4. [OK] をクリックします。

WebFOCUS スケジュールタスクタイプを使用したスケジュールタスクの構成

[WebFOCUS スケジュール] タスクタイプを使用して、1 つまたは複数の個別スケジュールを開始するスケジュールタスクを構成することができます。下図のように、アドバンストスケジュールツールのリボンの [表示] グループで [タスク] タブをクリックし、[新規作成] ドロップダウン矢印から [WebFOCUS スケジュール] タスクタイプにアクセスします。



[WebFOCUS スケジュール] を選択すると、下図のように WebFOCUS スケジュールの [タスク] ダイアログボックスが開きます。

Task

Task Name:

Task 1

Task Type:

WebFOCUS Schedule

General

Parameters

Scheduling Object: WebFOCUS Schedule

Schedule Pathname:

Browse...

Priority:

Normal - 3

Running Mode:

☒ Run immediately and wait for this job to finish

☐ If this task fails repeat every

1

seconds

up to

1

time(s)

☒ Do not continue with the schedule if this task is unsuccessful

☐ Add this job to the queue

Name	Type	Scheduling Object	Status	Alert	Burst

☒ Enabled

OK

Cancel

注意: [WebFOCUS スケジュール] タスクタイプを使用するには、他のスケジュールのスケジュール権限が必要です。詳細は、『Ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

WebFOCUS スケジュールの [タスク] ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

- ❑ **スケジュールパス名** タスクで呼び出すスケジュールのパス名を入力します。[参照] ボタンをクリックして、リポジトリからスケジュールを選択することができます。ユーザのプライベートスケジュールまたは公開済みのスケジュールなど、参照が許可されたスケジュールのみ参照できます。
- ❑ **優先度** スケジュールが Distribution Server で処理される際の優先度を表示します。最上位の優先度は 1、最下位の優先度は 5 です。

- ❑ **実行モード** このタスクで使用する選択したスケジュールの Distribution Server による処理方法を定義するオプションです。次のオプションがあります。
- ❑ **このジョブを即時実行して完了するまで待機** 呼び出し先スケジュールを即時実行するスケジュールを設定します。Distribution Server は、他の待機中のジョブより先に、呼び出し先スケジュールを即時実行します。呼び出し元スケジュールは、呼び出し先スケジュールの完了後に次のタスクを実行します。
- ❑ **タスクが失敗した場合、再試行 (頻度)** このチェックをオンにすると、呼び出し先スケジュールでエラーが発生した場合に、呼び出し元スケジュールが特定の時間間隔 (例、秒単位、分単位、時間単位) で特定の回数だけ呼び出し先スケジュールを再実行します。両方の数値オプションに使用可能な整数の最大値は 999 です。デフォルト設定では、このオプションは選択されていません。
- ❑ **このタスクが失敗した場合、スケジュールを続行しない** このチェックをオンにすると、呼び出し先スケジュールでエラーが発生した場合に、呼び出し元スケジュールの実行が停止されます。このオプションは、デフォルト設定で選択されています。
- ❑ **このジョブを待機項目に追加** 呼び出し先スケジュールを他のスケジュールと関係なく独立して実行するスケジュールを設定します。Distribution Server は、優先度に関係なく、このスケジュールを待機項目に追加します。呼び出し元スケジュールは、呼び出し先スケジュールの完了を待たずに次のタスクを実行します。ワークロードの分散が構成されている場合は、選択した Distribution Server はコンソールを使用してマネージャサーバを呼び出します。
- ❑ **タスクリスト** 呼び出し先スケジュールに保存されているタスクがリスト表示され、タスクごとに名前、タイプ、スケジュールオブジェクト、ステータス、アラート、バーストパラメータが表示されます。
- ❑ **有効** このチェックがオンの場合、タスクは有効です。このオプションは、デフォルト設定で選択されています。

注意

- ❑ Distribution Server は、無限再帰を回避するために、WebFOCUS スケジュールタスクがそれ自体を実行しないことを確認します。Distribution Server が無限再帰を事前に検知した場合は、スケジュールを停止し、このタスクをエラーとしてスケジュールジョブログに記録します。
- ❑ WebFOCUS スケジュールタスクのみを含むスケジュールでは、レポートは配信されませんが、この場合もスケジュールの保存前に配信方法を選択しておく必要があります。

WebFOCUS スケジュールタスクでスケジュールを配信すると、このタスクのログレポートが作成されます。ログレポートは、HTML フォーマットで配信されます。配信スケジュールごとに、ジョブログにはジョブの送信、ジョブの名前、ジョブログへのリンクが記録されます。下図は、サンプルログを示しています。

Job Process Log Report	
Job Description: Car Sales (/WFC/Repository/Test_Plans/RC-1017/~admin/Car_Sales.sch)	
User: admin	Schedule Executed On Demand at bigcontinst01:25044 (bigcontinst01:127.0.0.1)
Procedure: Jca9dclfj5f4aj4dc2j8b8ej02a71540378c	Job placed in the waiting queue at 2017-09-01 14:26:47.931-0400 (1,504,290,407.931)
Schedule ID: S1738833ac11f5a46da0914adfb7b9900545	Job started running at 2017-09-01 14:26:47.949-0400 (1,504,290,407.949)
Start Time: 2017-09-01 02:26:47 PM EDT	Job remained in waiting queue for 0.018 seconds
End Time: 2017-09-01 02:26:52 PM EDT	
Starting task: Task 1	
Task type: WebFOCUS Schedule	
Schedule Pathname: /WFC/Repository/Test_Plans/RC-1017/Car_Sales_1.sch	
The schedule has been executed synchronously and the job ID is JbC2a8a1ej54hej4746iacaejdb5d8e5e8acc	
Task finished.	
Starting task: Task 2	
Task type: WebFOCUS Schedule	
Schedule Pathname: /WFC/Repository/Test_Plans/RC-1017/Car_Sales_2.sch	
The schedule has been executed synchronously and the job ID is Jec3a83e9jb4d2j41f9jbd88jb4fb92b3fefa	
Task finished.	
Starting task: Task 3	
Task type: WebFOCUS Schedule	
Schedule Pathname: /WFC/Repository/Test_Plans/RC-1017/Car_Sales_3.sch	
The schedule has been executed synchronously and the job ID is Jb0d7d2c38ec2j430aj978ejcd809f4c917e	
Task finished.	
Starting distribution: Email	
Distribution method: Email	
Log_Jca9dclfj5f4aj4dc2j8b8ej02a71540378c.html distributed to report_caster@ibi.com	
Log_Jca9dclfj5f4aj4dc2j8b8ej02a71540378c.html distributed to report_caster@ibi.com	
Log_Jca9dclfj5f4aj4dc2j8b8ej02a71540378c.html distributed to report_caster@ibi.com	
Distribution finished.	
Job finished at 2017-09-01 14:26:52.324-0400 (1,504,290,412.324)	
Job time on distribution server after the report completed was 0.321 seconds	
Total running time was 4.375 seconds	
Total elapsed time (including the queue time) was 4.393 seconds	

WebFOCUS スケジュールタスクの実行モードオプション

WebFOCUS スケジュールタスクでは、2つの実行モードオプションを使用することができます。[WebFOCUS スケジュール] タスクは、Distribution Server キューに存在する他のスケジュールの直前に実行するよう設定することも、Distribution Server キューに存在する他のスケジュールから独立して実行するよう設定することもできます。

たとえば、[このジョブを即時実行して完了するまで待機] 実行モードを選択し、このスケジュールで後続の2つのスケジュールを呼び出すよう設定した場合、これらのスケジュールは連続して実行されます。一方、[このジョブを待機項目に追加] 実行モードを選択した場合、これらのスケジュールは同時に実行されます。

呼び出し先スケジュールで使用されたパラメータ値の上書き

スケジュールのファイルパスを [スケジュールパス名] フィールドに割り当てた後、[パラメータ] タブをクリックすると、WebFOCUS スケジュールタスクのパラメータツールが表示されます。

このタブでは、呼び出し先スケジュールで使用されているパラメータを上書きすることができます。たとえば、呼び出し先スケジュールが、**COUNTRY** という名前のパラメータを使用し、パラメータ値「**ENGLAND**」を選択した場合、パラメータ値「**FRANCE**」を使用して呼び出し元の同じパラメータを上書きすることができます。

注意：呼び出し先スケジュールは、呼び出し元スケジュールの実行時のみ新しいパラメータ値を使用します。それ以外の場合は、呼び出し先スケジュールに保存済みの元のパラメータ値が適用されます。

既存のパラメータを上書きするには、[新規作成] ボタンをクリックして [タスクのパラメータ] ダイアログボックスを開きます。[名前] テキストボックスに、呼び出し先スケジュールに存在するパラメータの名前を入力します。[値] テキストボックスに、呼び出し先スケジュールで使用する新しいパラメータ値を入力します。[OK] をクリックして、更新したパラメータを WebFOCUS スケジュールタスクに追加します。

呼び出し元スケジュールの実行時に、呼び出し先スケジュールが、更新されたパラメータ値を使用したレポートを配信します。

手順 アドバンストスケジュールツールで WebFOCUS スケジュールタスクを作成するには

注意：[WebFOCUS スケジュール] タスクタイプを使用するには、他のスケジュールのスケジュール権限が必要です。詳細は、『[ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド](#)』を参照してください。

1. アドバンストスケジュールツールを開きます。詳細は、275 ページの「[アドバンストスケジュールツールによるスケジュールの作成](#)」を参照してください。
2. [タスク] タブをクリックします。
3. [タスクの管理] グループで [新規作成] ドロップダウン矢印をクリックし、[WebFOCUS スケジュール] を選択します。

下図のように、WebFOCUS スケジュールの [タスク] ダイアログボックスが表示されます。

4. タスクに追加するスケジュールのパスを指定するか、[参照] ボタンをクリックしてシステム上またはリポジトリ内のスケジュールパスを指定します。
5. 呼び出し先スケジュールの優先度を選択します。最上位の優先度は 1、最下位の優先度は 5 です。
6. 呼び出し先スケジュールの実行モードを選択します。

- ☐ **このジョブを即時実行して完了するまで待機** 呼び出し先スケジュールを即時実行するスケジュールを設定します。呼び出し元スケジュールは、呼び出し先スケジュールの完了を待って次のタスクを実行します。必要に応じて、次のチェックボックスを選択します。
- ☐ **タスクが失敗した場合、再試行 (頻度)** このチェックをオンにすると、呼び出し先スケジュールでエラーが発生した場合に、呼び出し元スケジュールが特定の時間間隔 (例、秒単位、分単位、時間単位) で特定の回数だけ呼び出し先スケジュールを再実行します。

- ❑ **このタスクが失敗した場合、スケジュールを続行しない** このチェックをオンにすると、呼び出し先スケジュールでエラーが発生した場合に、呼び出し元スケジュールの実行が停止されます。
 - ❑ **このジョブを待機項目に追加** 呼び出し先スケジュールを、Distribution Server で待機中の他のスケジュールと関係なく独立して実行するスケジュールを設定します。呼び出し元スケジュールは、呼び出し先スケジュールの完了を待たずに次のタスクを実行します。
7. 必要に応じて、[パラメータ] タブをクリックし、呼び出し先スケジュールで使用する既存のパラメータを上書きします。詳細は、295 ページの「[呼び出し先スケジュールで使用されたパラメータ値の上書き](#)」を参照してください。
 8. このタスクを無効にする場合は、[有効] のチェックをオフにします。このオプションは、デフォルト設定で選択されています。
 9. [OK] をクリックします。

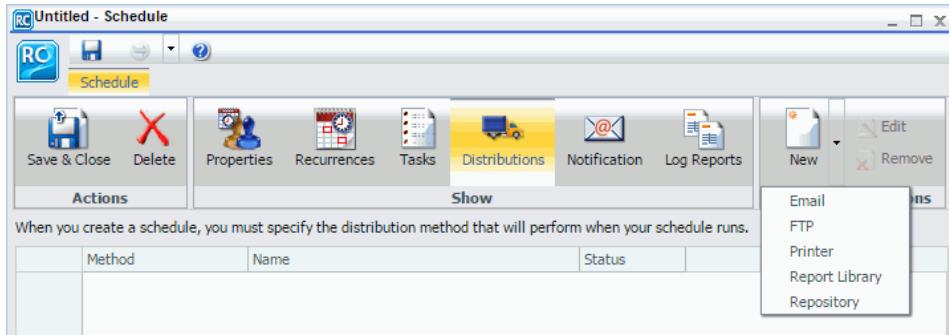
このタスクが、スケジュールのタスクのリストに表示されます。
 10. WebFOCUS スケジュールタスクを追加するには、手順 3 から 9 を繰り返します。

タスクの作成を完了後、スケジュールの [プロパティ]、[実行間隔]、[配信]、[通知] の設定を変更することができます。詳細は、281 ページの「[アドバンストスケジュールツールでのスケジュールの作成](#)」を参照してください。

注意：アドバンストスケジュールに WebFOCUS スケジュールタスクのみが含まれる場合も、スケジュールの保存前に配信方法を選択しておく必要があります。
 11. スケジュールを保存するには、リボンの [アクション] グループで、[保存して閉じる] をクリックします。

アドバンストスケジュールツールの配信オプション

下図のように、アドバンストスケジュールツールの [配信] タブには、スケジュールするレポートプロシジャ (FEX) の配信方法を指定するオプションが表示されます。



レポートの配信方法は、次のとおりです。

- ☐ Email
- ☐ FTP
- ☐ ReportLibrary
- ☐ リポジトリ

注意

- ☐ 配信方法は、ReportCaster の構成でグローバル (すべてのユーザを対象) に制限することや、セキュリティ権限に基づいてグループまたはユーザを対象として制限することができます。ReportCaster の構成についての詳細は、43 ページの「[ReportCaster の構成](#)」を参照してください。
- ☐ マップは、ReportLibrary および リポジトリにのみ配信することができます。マップを Email または FTP 配信した場合、マップが正しく開きません。
- ☐ テキストフォーマットで配信されるレポートから末尾のブランクを削除するには、管理者が管理コンソールの [カスタム設定] テキストボックスに「IBIWF_trimreport=YES」を追加する必要があります。また、この設定を特定のレポートフォーマットに適用するには、たとえば「IBIWF_trimreport=WP」と入力します。

アドバンストスケジュールツールでの Email 配信オプションの使用

Email でレポートを配信する際、レポートは Email の本文に埋め込んで送信することや、添付ファイルとして送信することができます。埋め込み Email 配信が可能なフォーマットは、DHTML、DOC、GIF、HTML、JPG、PNG、SVG、WP のみです。

レポート出力を Email メッセージの本文として配信する方法は、特にモバイルデバイス、FAX マシン、または添付ファイルをサポートしない Email システムに配信する際に役立ちます。

下図は、アドバンストスケジュールツールの [配信] タブで、配信方法として [新規作成] ドロップダウンリストから [Email] を選択した場合の [配信] ダイアログボックスを示しています。

Distribution

Distribution Name: Email

Distribution Type: Email

General Options

— Distribution Information —

Type: Email Address(s)

To...

CC...

From... admin

Reply Address...

Subject:

— Email Information —

☐ Select one report as inline message

☒ Send all reports as attachments

☒ Message: Please see attachment(s).

☐ File: Browse...

Packet Email: Default (Yes)

— Report Compression —

☐ Add Report to Zip File

Zip File Name:

Zip Minimum Size: 0 KB (☐ Override Default)

☒ Enabled

OK Cancel

注意

- ❑ スケジュールの作成時に [レポートを本文に埋め込む] オプションが利用できるかどうかは、ReportCaster ステータスの [構成] タブの [Email 配信] フォルダで構成された [埋め込みレポート配信] の設定により異なります。
- ❑ 埋め込み Email メッセージとして配信されたレポートの表示は、使用するメールサーバまたはメールクライアントの設定および制限事項の影響を受けます。
- ❑ ReportCaster ステータスの [許可する Email ドメインとアドレス] ダイアログボックスで、[入力はこのリストに制限する] のチェックがオンになっている場合、Email アドレスの入力は、許可する Email ドメインとアドレスのリストに制限されます。詳細は、75 ページの「[許可する Email ドメインおよびアドレスの確認](#)」を参照してください。

参照**複数 Email アドレスへのレポート送信時の考慮事項**

Email 配信を使用するスケジュールを作成する際は、下図のように、[選択] テキストボックスに Email アドレスを入力することができます。

[選択] テキストボックスに複数の Email アドレスを入力する場合、各 Email アドレス間にセミコロン (;) またはカンマ (,) を使用して、Distribution Server の情報配信先を指定することができます。

例**選択テキストボックスでのカンマ区切り Email アドレス**

Email アドレスの区切り文字にカンマ (,) を使用する場合、すべての Email アドレスがすべての Email 受信者に表示されます。

スケジュールは、「Sales_Metrics_YTD.htm」という名前のレポートをこれらの Email アドレスに配信します。このスケジュールを実行すると、ログレポートには、「Sales_Metrics_YTD.htm」という名前の 1 つのレポートが、両方の Email アドレスに単一 Email で送信されたことが記述されます。

例 選択テキストボックスでのセミicolon区切り Email アドレス

Email アドレスの区切り文字にセミcolon (;) を使用する場合、各受信者には受信者本人の Email アドレスのみが表示されます。

スケジュールは、「Sales_Metrics_YTD.htm」という名前のレポートをこれらの Email アドレスに配信します。このスケジュールを実行すると、ログレポートには、「Sales_Metrics_YTD.htm」という名前の 2 つのレポートが、EmailA@ibi.com と EmailB@ibi.com にそれぞれ個別の Email で送信されたことが記述されます。

参照 アドバンストスケジュールツールでの CC および BCC オプションの使用

すべての Email スケジュールタイプで、CC および BCC オプションが使用できます。これらのオプションを使用すると、Email 配信のコピーを追加の受信者に送信できるため、Email 配信のスケジュール作成が容易になります。詳細は、233 ページの「[CC および BCC Email オプションの使用](#)」を参照してください。

手順 アドバンストスケジュールツールで Email 配信オプションを使用するには 注意

- ❑ パラメータ (変数) は、スケジュールの Email 設定で値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータは、&YYMD などのシステム変数にすることも、スケジュール済みプロシジャの実行時に Reporting Server から値が返される任意の変数にすることもできます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用するには、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&|Jones」のように指定します。スケジュールで指定されたパラメータの値がプロシジャ実行時に Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は、「%BURST」記号を使用してバースト値を含めることもできます。[Email のパケット化] が [はい] に設定されている場合、ZIP ファイル名にバースト値は代入されません。
 - ❑ 埋め込み Email メッセージとして配信された DHTML レポートは正しく表示されません。詳細は、241 ページの「[埋め込み Email メッセージとして DHTML レポートを配信する際の考慮事項](#)」を参照してください。
1. 新しいスケジュールを作成するワークスペースを開きます。
 2. アクションバーから [スケジュール] を選択します。

3. [スケジュール] ツールバーで [スケジュール] を選択して、アドバンストスケジュールツールを開きます。
4. アドバンストスケジュールツールのリボンの [表示] グループで、[配信] を選択します。
5. [配信] タブのリボンの [配信の管理] グループで、[新規作成] 矢印をクリックし、[Email] を選択します。
6. [配信名] テキストボックスに、この配信で定義された名前を入力します。

[Email] がデフォルト値です。

7. 配信を受信する Email アドレスを指定するには、[タイプ] ドロップダウンリストにデフォルト設定で表示される [Email アドレス] を受容するか、リストから次のいずれかを選択します。

☐ 配信リスト

☐ 配信ファイル

☐ Email アドレス

☐ サーバプロシジャのダイナミック配信リスト

☐ リポジトリプロシジャのダイナミック配信リスト

8. [選択] テキストボックスで、次のいずれかのタスクを実行します。

- a. [タイプ] ドロップダウンリストで [Email アドレス] を選択した場合は、配信の受信者の Email アドレスを直接 [選択] テキストボックスに入力します (複数アドレスの入力可能)。

または

[Email アドレスの入力] ダイアログボックスを開いて受信者の Email アドレスを入力するには、[選択] ボタンをクリックします。[CC] または [BCC] テキストボックスにも Email アドレスを追加する必要がある場合は、この機能を使用します。更新の完了後、[OK] をクリックします。

[Email アドレス] フィールドには、複数の Email アドレスを指定することができます。各 Email アドレスをカンマ (,) またはセミコロン (;) で区切ります。複数 Email アドレスをカンマ (,) で区切る場合は、スケジュール出力の配信時に、Email アドレスが単一 Email の [宛先] 行に表示されます。複数 Email アドレスをセミコロン (;) で区切る場合は、スケジュール出力の配信時に、受信者の単一 Email アドレスが、送信された複数の Email の各 [宛先] 行に表示されます。

SMTP 規定により、単一 Email アドレスの最大サイズは 130 バイトです。このボックスには、最大 800 バイトの文字を入力可能です。詳細は、181 ページの「[複数 Email アドレスの指定](#)」を参照してください。

注意：[Email アドレス] オプションには、(メールサーバで定義された) グループメールリストを使用することもできます。グループメールリストを使用すると、リポジトリに複数の Email アドレスを保持することなく、複数の受信者にレポートまたは通知を配信することができます。グループ Email リストのフォーマットは、使用するメールサーバにより異なります。たとえば、Microsoft Exchange Server を使用しており、グループ Email リストが「#group1」として定義されている場合、[Email アドレス] テキストボックスには「group1@listdomain」と入力します。グループ Email リストの名前にブランクが含まれている場合は、ブランクを二重引用符 (" ") で囲みます。詳細は、メールサーバ管理者に問い合わせてください。

- b. [タイプ] ドロップダウンリストで [配信リスト] を選択した場合は、[選択] ボタンをクリックし、[開く] ダイアログボックスから構成済みの配信リストを選択します。詳細は、161 ページの「[配信リストの作成](#)」を参照してください。
- c. [タイプ] ドロップダウンリストで [配信ファイル] を選択した場合は、このスケジュールに使用する外部配信ファイルのフルパスおよびファイル名を入力します。パスとファイル名は、WebFOCUS Distribution Server からアクセス可能でなければなりません。詳細は、174 ページの「[外部配信ファイルの作成](#)」を参照してください。
- d. [タイプ] ドロップダウンリストで [サーバプロシージャのダイナミック配信リスト] または [リポジトリプロシージャのダイナミック配信リスト] を選択した場合は、[選択] ボタンをクリックし、ダイナミック配信リストを格納するプロシージャの名前を選択します。

ダイナミック配信リストを使用すると、データソース (例、Flat File、SQL データベース、FOCUS データソース、LDAP) から、バースト値と配信先のリストの両方、または配信先のリストのみをメモリに返すことができます。

[ダイナミック配信リスト] を選択した場合、[選択] ボタンが有効になり、プロシジャ名の選択が可能になります。下図のように、プロシジャの選択後、プロシジャのコマンドラインにパラメータを渡すことができます。

詳細は、178 ページの「[ダイナミック配信リストの作成](#)」 および 180 ページの「[WebFOCUS リポジトリプロシジャからのダイナミック配信リストの生成](#)」を参照してください。

9. [CC] テキストボックスで、次のいずれかのタスクを実行します。

- a. [CC] テキストボックスに Email アドレスを直接入力します。区切り文字には、カンマ (,) またはセミコロン (;) を使用します。

どちらの区切り文字を使用した場合も、Distribution Server から、[CC] または [BCC] リストのすべての受信者に同一のコピーが送信されます。

または

- b. [CC] をクリックして [Email アドレスの入力] ダイアログボックスを開き、受信者の Email アドレスを [宛先]、[CC]、[BCC]、[返信] テキストボックスに入力します。複数の Email アドレスは、カンマ (,) またはセミコロン (;) で区切ることができます。更新の完了後、[OK] をクリックします。

[BCC] リストを追加する場合は、この方法を使用します。[BCC] リストは、[Email の入力] ダイアログボックスを使用して値を入力するまで [配信: Email] タブには表示されません。

注意

- ❑ レポートの各セクションをバーストで異なる Email 受信者に送信するスケジュールを作成することができます。ただし、[CC] または [BCC] テキストボックスに Email アドレスを入力した場合、バーストレポートの各セクションは同一の CC または BCC Email アドレスに送信されます。

- [CC] および [BCC] テキストボックスに複数の Email アドレスを入力した場合、アドレスの区切り文字にカンマ (,) を使用するかセミコロン (;) を使用するかに関わらず、[CC] および [BCC] Email は、常に各 Email アドレスに個別に送信されます。

10. [送信者] テキストボックスには、デフォルト設定でユーザ ID が表示されます。これは、別の値で置換することができます。

ReportCaster では、この値の入力は必要ではありませんが、メールシステムによっては必須場合があります。

11. [返信アドレス] テキストボックスに、有効な Email アドレスを入力します。受信者が Email に返信する場合、返信メッセージはこのアドレスに送信されます。Email システムがコンテンツを配信できない場合、配信不可能な出力メッセージがこのアドレスに返送されます。このテキストボックスの入力は必須です。

注意: ReportCaster 構成ツールで [デフォルト Email 返信アドレス] が指定されていない場合、このフィールドに適用されるデフォルト返信アドレスは、WebFOCUS にログインしたユーザの Email アドレスになります。ReportCaster は、WebFOCUS セキュリティシステムからユーザの Email アドレスを取得します。

12. [件名] テキストボックスに、Email の件名行に表示するテキストを入力します。この情報は、ReportCaster では必要ではありませんが、メールシステムによっては必須場合があります。スケジュールの [タイトル] テキストボックスに入力した値は、[件名] のデフォルト値として使用されます。

13. [レポートを本文に埋め込む] または [レポートを添付ファイルとして送信] ラジオボタンを選択して、レポートを Email 添付と埋め込みのどちらで送信するかを指定します。詳細は、300 ページの「[アドバンストスケジュールツールでの Email 配信オプションの使用](#)」を参照してください。

14. Email 本文に表示される「添付ファイルを参照してください」というデフォルトメッセージの代わりに、新しいメッセージを入力することができます。

注意: ReportCaster ステータスの [構成] タブの [Email 配信] 設定で、デフォルト配信メッセージをカスタマイズすることもできます。組織に固有のカスタムメッセージを作成することで、デフォルトメッセージの「添付ファイルを参照してください」を上書きすることができます。このメッセージは、Email 配信でスケジュールを作成する際に表示されます。新しいメッセージは既存のスケジュールに影響しません。

15. [ファイル] オプションを選択し、Email 配信時の配信メッセージが記述されたファイルを WebFOCUS リポジトリから選択します。

注意: [ファイル] オプションを使用すると、配信メッセージの情報を一元的に管理することができます。このファイルを複数のスケジュールで使用する際は、スケジュールごとにファイルに変更を加えることもできます。メールクライアントとメールサーバでのサポート要件を考慮する以外に、ファイルの内容にサイズ制限はありません。

16. [Email のパケット化] オプションの値を指定するか、デフォルト値を受容します。[Email のパケット化] オプションは、管理者が構成したデフォルト値に設定されています。スケジュールに複数のタスクを含める場合、またはスケジュールのタスクでバーストを有効にする場合、各受信者に送信する Email 数を指定することができます。次のオプションがあります。

☐ **不可** 各添付ファイルをそれぞれ個別の Email で送信します。

☐ **可能** すべての添付ファイルを 1 通の Email で送信します。

☐ **バースト値** バースト値ごとに複数の添付ファイルを 1 通の Email で送信します。

17. [ZIP ファイルとしてレポートを送信] のチェックのオンとオフを切り替えて、レポートを圧縮ファイル (.zip) として送信するかどうかを指定します。

この設定で、配信レポートをパスワード保護の圧縮ファイルに変換することができます。デフォルト設定では、[ZIP ファイルとしてレポートを送信] のチェックはオフで、レポートは圧縮されません。必要に応じて、配信ファイルまたはダイナミック配信リストにパスワードを含めることで、ZIP ファイルをパスワード保護することができます。詳細は、174 ページの「[外部配信ファイルの作成](#)」または 178 ページの「[ダイナミック配信リストの作成](#)」を参照してください。

デフォルト設定では、[ZIP ファイルとしてレポートを送信] のチェックはオフで、レポートは圧縮されません。

18. [ZIP ファイルとしてレポートを送信] のチェックをオンにした場合は、[ZIP ファイル名] テキストボックスに ZIP ファイル名を入力します。

注意： Windows 7 および Windows 2008 Server R2 で Zip ファイル名および Zip ファイル内のコンテンツに対して Unicode 文字をサポートするには、Microsoft のサイト(<http://support.microsoft.com/kb/2704299/en-us>) から Hotfix を入手する必要があります。この Hotfix を使用しない場合、Windows 7 または Windows 2008 Server R2 で Zip ファイルを解凍した後、ファイル名が文字化けします。

19. 必要に応じて、[ZIP 最小サイズ] (キロバイト) のデフォルト値を上書きすることができます。この最小サイズを超える添付ファイルのみが ZIP ファイルに自動的に追加されます。[ZIP 最小サイズ] オプションは、管理者が構成したデフォルト値に設定されています。デフォルト値を変更し、特定のサイズを超える添付ファイルを自動的に ZIP ファイルに追加するには、この値を適切なサイズに設定します。

20. [OK] をクリックして、Email 配信情報を保存します。

[配信] タブのテーブルに Email 配信が表示されます。

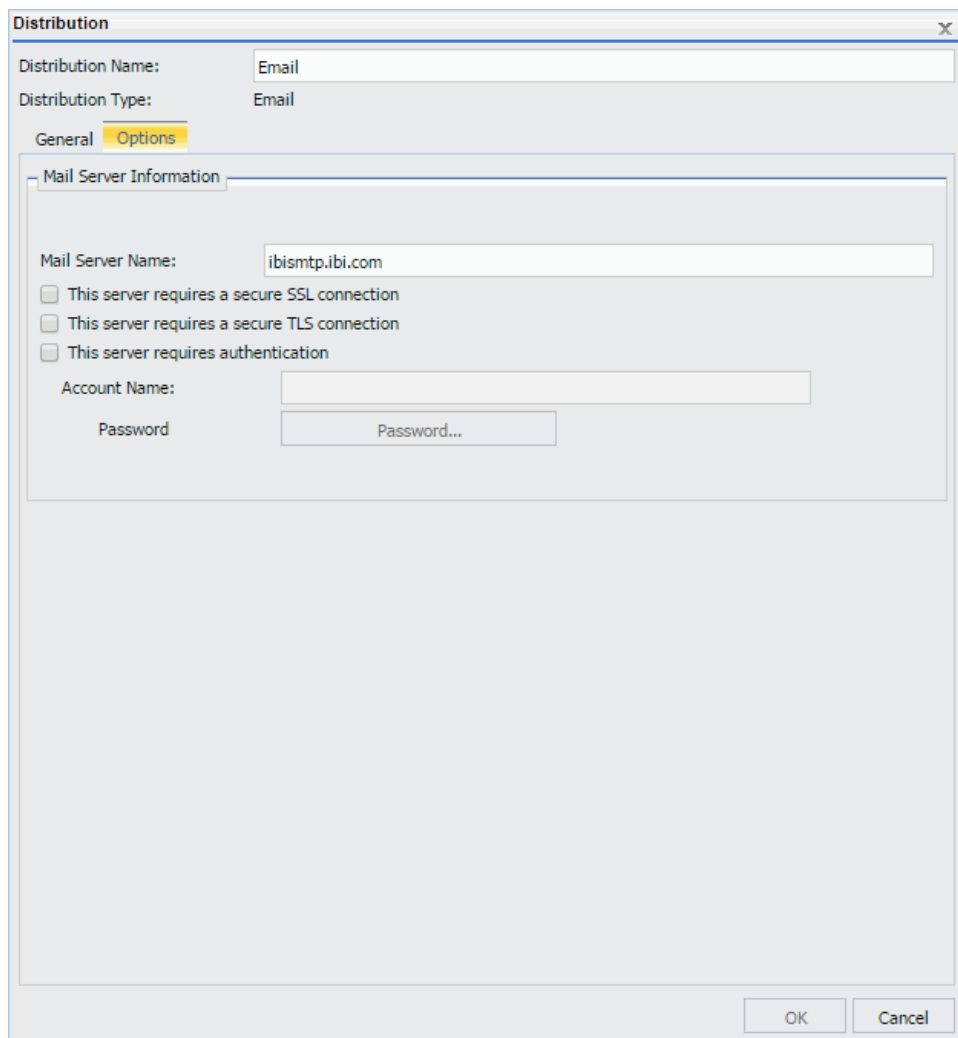
21. [保存して閉じる] をクリックして、スケジュールを保存します。

手順 アドバンストスケジュールツールで Email 配信のメールサーバ情報を設定するには

アドバンストスケジュールツールで Email の配信オプションを指定した後、メールサーバ情報の設定をカスタマイズすることができます。

1. [配信] ダイアログボックスで、[オプション] タブをクリックします。

下図のように、[オプション] タブが表示されます。



The screenshot shows the 'Distribution' dialog box with the 'Options' tab selected. The 'Mail Server Information' section is expanded, showing the following fields and options:

- Distribution Name:** Email
- Distribution Type:** Email
- General** | **Options** (selected)
- Mail Server Information** (expanded)
 - Mail Server Name:** ibismtp.ibi.com
 - ☐ This server requires a secure SSL connection
 - ☐ This server requires a secure TLS connection
 - ☐ This server requires authentication
 - Account Name:** [empty text box]
 - Password:** [empty text box] with a **Password...** button next to it

At the bottom right of the dialog are **OK** and **Cancel** buttons.

[メールサーバ名] テキストボックスに、デフォルトのメールサーバが表示されます。

2. メールサーバを変更する場合は、[メールサーバ名] テキストボックスに新しいメールサーバの名前を入力します。
3. メールサーバに SSL 接続が必要な場合は、[このサーバには SSL 接続が必要] のチェックをオンにします。
4. メールサーバに TLS 接続が必要な場合は、[このサーバにはセキュア TLS 接続が必要] のチェックをオンにします。
5. メールサーバに認証情報が必要な場合は、[このサーバには認証情報が必要] のチェックをオンにします。

このチェックをオンにすると、[アカウント名] テキストボックスと [パスワード] ボタンが有効になり、これらの値を設定することができます。

6. [OK] をクリックして変更内容を保存するか、[全般] タブをクリックします。

アドバンストスケジュールツールでの FTP 配信オプションの使用

ここでは、スケジュール済み出力を FTP を使用して配信する方法について説明します。

手順 アドバンストスケジュールツールで FTP 配信オプションを使用するには

注意：パラメータ (変数) は、スケジュールの FTP 設定で値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータは、&YYMD などのシステム変数にすることも、スケジュール済みプロシジャの実行時に Reporting Server から値が返される任意の変数にすることもできます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用するには、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&| Jones」のように指定します。スケジュールで指定されたパラメータの値がプロシジャ実行時に Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は、「%BURST」記号を使用してバースト値を含めることもできます。複数のレポートが単一アーカイブファイルで配信される場合、ZIP ファイル名にバースト値は代入されません。

1. アドバンストスケジュールツールで、[配信] タブを選択します。
2. [新規作成] の下向き矢印をクリックし、ドロップダウンリストから [FTP] を選択します。

下図のように、[配信] ダイアログボックスが表示されます。

Distribution

Distribution Name: FTP

Distribution Type: FTP

General Options

Distribution Information

Type: Distribution List

Name...

Directory:

Report Compression

☐ None

☐ Create an archive file(.zip)

☒ Create compressed file(s)(.zip)

☐ Create compressed file(s)(.gz)

Zip File Name:

Index File for Report

Index File Name:

☒ Enabled

OK Cancel

3. [配信名] テキストボックスに、この配信の名前を入力します。
デフォルト値は [FTP] です。
4. [タイプ] ドロップダウンリストから、FTP の提供方法、レポートを配信するディレクトリ、ファイル名を選択します。次のオプションがあります。
 - **配信リスト** 配信リストの名前を入力します。レポートは、選択した配信リストのすべての FTP アドレスに送信されます。詳細は、161 ページの「[配信リストの作成](#)」を参照してください。
 - **配信ファイル** このスケジュールに使用する外部配信ファイルのフルパスとファイル名を入力します。パスとファイル名は、ReportCaster Distribution Server からアクセス可能でなければなりません。ReportCaster は、ファイルが存在するかどうかを確認しません。詳細は、174 ページの「[外部配信ファイルの作成](#)」を参照してください。

- ❑ **単一ファイル** 配信するファイルの名前とファイル拡張子を入力します。スケジュールの [保存レポート名] テキストボックスの値が、[名前] テキストボックスに自動的に入力されます。スケジュールレポートをバーストする場合、ReportCaster が自動的に各バーストファイルのファイル名の末尾にバースト値を追加します。必要に応じて、ファイル名の先頭に '%BURST' 構文を追加したり、ファイル名の先頭にディレクトリを追加したり、また同時に両方を追加したりできます。

注意

- ❑ レポートを正しく配信するためには、[名前] の値にファイル拡張子を追加する必要があります。デフォルト設定では、[単一ファイル] の [名前] の値にはファイル拡張子が含まれません。ファイル拡張子を追加するには、[タスク] タブで [プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにしてレポートフォーマットを選択するか、ファイル拡張子を手動で入力します。

- ❑ ReportCaster は、ファイルパスまたは指定したファイルの有無を確認しません。

- ❑ このボックスには、最大 800 バイトの文字を入力可能です。

- ❑ **ダイナミック配信リスト** ダイナミック配信リストを使用すると、データソース (例、Flat File、SQL データベース、FOCUS データソース、LDAP) から、バースト値と配信先のリストの両方、または配信先のリストのみをメモリに返すことができます。詳細は、178 ページの「[ダイナミック配信リストの作成](#)」を参照してください。

5. [ディレクトリ] テキストボックスに、出力の配信先を入力します

- ❑ 新しいプリペアレポートを作成することはできませんが、作成済みのプリペアレポートはサポートされます。
- ❑ プリペアレポート以外の WebFOCUS サーバプロシジャおよび WebFOCUS レポートの場合、FTP ログインディレクトリ、およびレポートの送信先である SFTP または FTP サーバ上のアカウントを持つユーザ ID のパスを指定します。
- ❑ これがブランクの場合、FTP を使用して配信される WebFOCUS サーバプロシジャは、FTP ユーザのホームディレクトリに送信されます。

注意：FTP 配信をスケジュールする場合、[ディレクトリ] テキストボックスに入力するフルパス名の文字数は最大で 255 バイトです。

- 6. [レポートの圧縮] セクションで、レポートの圧縮方法のオプションを指定します。選択可能なオプションには、[アーカイブファイル (.zip) の作成]、[圧縮ファイル (.zip) の作成]、[圧縮ファイル (.gz) の作成]、[なし] (デフォルト) があります。詳細は、102 ページの「[圧縮 \(ZIP\) の設定](#)」を参照してください。

注意

❑ [レポートの圧縮] セクションのデフォルト設定は、構成設定から取得されます。詳細は、102 ページの「[圧縮 \(ZIP\) の設定](#)」を参照してください。

❑ Windows 7 および Windows 2008 Server R2 で Zip ファイル名および Zip ファイル内のコンテンツに対して Unicode 文字をサポートするには、Microsoft のサイト(<http://support.microsoft.com/kb/2704299/en-us>) から Hotfix を入手する必要があります。

この Hotfix を使用しない場合、Windows 7 または Windows 2008 Server R2 で Zip ファイルを解凍した後、ファイル名が文字化けします。

7. オプションの [インデックスファイル名] テキストボックスで、レポートのインデックスファイル名を指定します。

注意：ReportCaster の構成によっては、このオプションが使用できない場合があります。詳細は、99 ページの「[FTP 設定を構成するには](#)」を参照してください。WebFOCUS サーバプロシジャで、レポートをバーストするよう指定する場合は、インデックスページの作成先となるファイルの名前を入力します。

重要：入力するインデックスファイルの名前は、オペレーティングシステムの大文字と小文字の規則に準拠し、小文字で指定する必要があります。

注意：バーストレポート出力のインデックスページには、配信リストで指定されたバースト値のみが含まれます。

8. [OK] をクリックして配信情報を保存します。

アドバンストスケジュールツールに、配信するスケジュールが表示されます。

手順

アドバンストスケジュールツールで FTP 配信の FTP サーバ情報を構成するには

アドバンストスケジュールツールで FTP の配信オプションを指定した後、FTP サーバ情報の設定をカスタマイズすることができます。

1. 下図のように、[配信] ダイアログボックスで、[オプション] タブをクリックします。

[FTP サーバ名] および [アカウント名] テキストボックスには、デフォルト設定で現在値が表示されます。

2. [FTP サーバ名] テキストボックスで、次のいずれかの手順を実行します。
 - ☐ [FTP サーバ名] リストから、定義済み FTP の設定構成を選択します。
 - ☐ ReportCaster の [構成] タブの [(デフォルト設定)] ページで定義したデフォルト FTP サーバ構成を使用するためには、[FTP サーバ名] テキストボックスのデフォルト値 (カスタム FTP) を受容し、残りのテキストボックスをブランクのままにします。

- ❑ 組織で許可する場合は、[FTP サーバ名] テキストボックスのデフォルト値 (カスタム FTP) を受容し、残りのテキストボックスに値を入力して、この配信スケジュールにのみ適用される新しい FTP サーバ構成を作成します。この場合、次の手順を実行します。
- 3. アカウント名を変更するには、[アカウント名] テキストボックスに新しい値を入力します。
- 4. パスワードを変更するには、[パスワード] ボタンをクリックし、[パスワード] ダイアログボックスに新しいパスワードを入力します。
- 5. FTP サーバに SFTP が必要な場合は、[このサーバには SFTP が必要] のチェックをオンにします。次のいずれかのオプションを選択します。
 - ❑ サーバ認証にユーザ ID とパスワードが必要な場合は、[パスワード] を選択します。
 - ❑ パブリックキー認証情報を使用して認証する場合は、[パブリックキー] を選択します。
 - ❑ パブリックキー認証情報を使用して認証し、サーバ認証にユーザ ID とパスワードが必要な場合は、[パブリックキーとパスワード (マルチファクタ)] を選択します。

注意

- ❑ SFTP サーバ認証に使用されるパブリックキーとプライベートキーの組み合わせには、複数のフォーマットがあります。FTP サーバで使用されるパブリックキーとプライベートキーの組み合わせのフォーマットが Distribution Server で認識されない場合は、Distribution Server の sshkeygen ユーティリティを使用して、適切なフォーマットのキーを生成することができます。
 - ❑ パブリックキー認証を使用する場合は、サーバのプライベートキーを `sftp_private_key.txt` ファイルに追加しておく必要があります。このファイルは、Distribution Server の `¥cfg` ディレクトリに格納されています。
6. FTP サーバに FTPS が必要な場合は、[このサーバには FTPS が必要] のチェックをオンにします。サーバの [セキュリティモード]、[プロトコル]、[データ接続セキュリティ] 設定を選択します。
 7. [OK] をクリックして設定を保存します。

アドバンストスケジュールツールでの ReportLibrary 配信オプションの使用

レポートプロシジャ (FEX) をスケジュールしてレポート出力を ReportLibrary に配信する場合は、配信情報を指定します。同一レポートプロシジャ (FEX) の複数のスケジュールを作成する際に名前の競合を回避するため、レポートを ReportLibrary に配信する場合は、ReportLibrary レポートのそれぞれについて、別のフォルダパスを作成して指定することをお勧めします。この配信情報には、レポートを配信する WebFOCUS リポジトリフォルダと、アクセスオプションがあります。また、[ReportLibrary のレポートの期限切れ] および [保存されたレポートを圧縮する] オプションを指定することもできます。

レポートプロシジャをスケジュールして ReportLibrary に配信する際は、レポート出力の配信先フォルダを選択します。[設定] ボタンを使用して、必要に応じて出力の配信先サブフォルダを指定することができます。サブフォルダが存在しない場合は、初回のスケジュール実行時にサブフォルダが動的に作成されます。次回以降のスケジュール実行時には、既存の ReportLibrary 項目が格納されているサブフォルダにレポートが配信されます。サブフォルダを作成する場合は、サブフォルダのタイトルに使用するパターンを指定する必要があります。このパターンには、テキスト、パラメータ (変数) のほか、スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は '%BURST' 記号を含めることができます。'%BURST' 記号を使用すると、バースト値ごとに新しいサブフォルダが作成されます。また、ReportLibrary レポートをリポジトリに格納する際にレポートを圧縮するオプションを選択することができます。

さらに、[カテゴリ] の値を指定して、ReportCaster エクスプローラに表示される ReportLibrary レポートリストの分類を容易にすることもできます。このカテゴリ値は ReportCaster エクスプローラの [カテゴリ] 列に表示され、この列タイトルを選択して ReportLibrary レポートリストをカテゴリ値でソートすることができます。

注意

- ❑ ReportLibrary レポートを配信する既存のスケジュールでは、現在のタスクを削除して新しいタスクを追加すると、新しい ReportLibrary の項目がリポジトリに作成されます。このスケジュールを保存すると、新しい ReportLibrary の項目が作成されたことを通知する警告が表示されます。
- ❑ ReportLibrary 配信を使用するスケジュールのオーナーが変更された場合、このスケジュールの新しいオーナーに合わせて関連する ReportLibrary レポートのオーナーを修正する必要があります。

手順 アドバンストスケジュールツールで ReportLibrary 配信オプションを使用するには

注意：パラメータ (変数) は、スケジュールの ReportLibrary 設定で値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータは、&YYMD などのシステム変数にすることも、スケジュール済みプロシジャの実行時に Reporting Server から値が返される任意の変数にすることもできます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用するには、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&|Jones」のように指定します。スケジュールで指定されたパラメータの値がプロシジャ実行時に Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。スケジュールのタスクでバーストを有効にした場合は、'%BURST' 記号を使用してバースト値を含めることもできます。

1. アドバンストスケジュールツールで、[配信] タブを選択します。
2. [新規作成] ドロップダウンリストをクリックし、[ReportLibrary] を選択します。

下図のように、[配信] ダイアログボックスが開きます。

Distribution

Distribution Name: Report Library

Distribution Type: Report Library

General Options

Distribution Information

Folder Location... IBFS:/WFC/Repository/Public

Advanced

Access Options

☒ Private (Accessible only to the owner)

☐ Published (Accessible according to WebFOCUS security policy)

☐ Shared (Appears under Shared Content folder)

☐ Shared with (Appears under Shared Content folder according to Library Access List)

Access List...

☐ Limit distribution to values in Access List

Expiration of Reports in Library

☒ Expire after 1 version(s)

☐ Never Expire

☒ Enabled

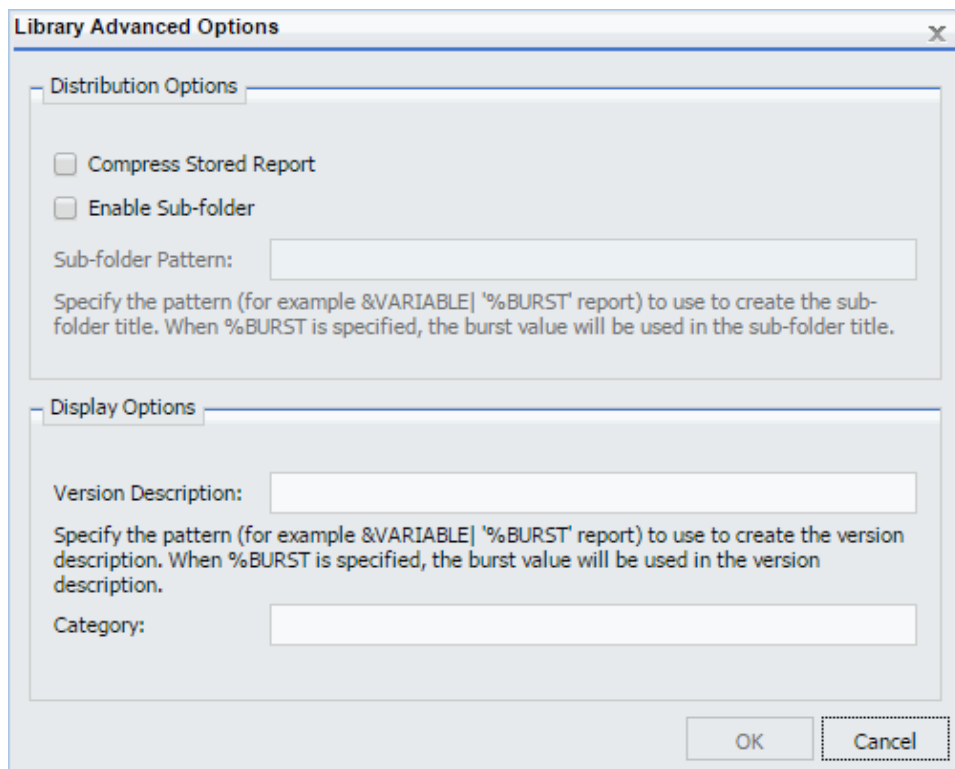
OK Cancel

3. [配信名] テキストボックスに、この ReportLibrary 配信の名前を入力します。
デフォルト値は [ReportLibrary] です。
4. フォルダパスが正しいことを確認し、必要に応じて [フォルダパス] テキストボックスの値を編集します。

デフォルト設定で、このフォルダパスは、スケジュールの対象として選択したレポートブ
ロシジャ (FEX) と同一のフォルダが指定されています。ユーザーが別のフォルダへの書き込
み権限およびコンテンツの作成権限を所有している場合は、レポートの配信先としてその
フォルダを選択することができます。

注意：ReportLibrary レポートの配信先とする別のフォルダを作成し、そのフォルダを指定
することをお勧めします。

5. 必要に応じて [設定] ボタンをクリックし、下図のようにオプションのサブフォルダ、カテ
ゴリ、レポート圧縮を設定します。



The image shows a dialog box titled "Library Advanced Options" with a close button (X) in the top right corner. It contains two main sections: "Distribution Options" and "Display Options".

Distribution Options

- ☐ Compress Stored Report
- ☐ Enable Sub-folder
- Sub-folder Pattern:
- Specify the pattern (for example &VARIABLE| '%BURST' report) to use to create the sub-folder title. When %BURST is specified, the burst value will be used in the sub-folder title.

Display Options

- Version Description:
- Specify the pattern (for example &VARIABLE| '%BURST' report) to use to create the version description. When %BURST is specified, the burst value will be used in the version description.
- Category:

At the bottom right, there are two buttons: "OK" and "Cancel".

設定可能なオプションには、次のものがあります。

- ❑ **保存されたレポートを圧縮する** ReportLibrary レポートをリポジトリに格納する際にレポートを圧縮することができます。
- ❑ **サブフォルダを有効にする** レポートの配信先としてサブフォルダを有効にすることができます。[サブフォルダを有効にする] を選択した場合は、パターンを指定する必要があります。パターンには、テキスト、パラメータ (変数)、'%BURST' 記号を含めることができます。

- ❑ **バージョンの説明** [ReportLibrary 詳細オプション] ダイアログボックスで、ReportLibrary に配信されたレポートの各バージョンに、パラメータ化された説明テキストを割り当てることができます。バージョンの説明には、テキスト、変数、および '%BURST' 記号 (レポートがバーストされる場合) を含めることができます。バージョンの説明は、スケジュールの実行時に Distribution Server によって作成されます。レポートビューアを開いた際に、この説明がバージョン番号の横に表示されます。
 - ❑ **カテゴリ** ReportCaster エクスプローラで ReportLibrary レポートをソートする際に使用するオプションの値です。詳細は、383 ページの「[ReportCaster エクスプローラの使用](#)」を参照してください。
6. [プライベート]、[公開済み]、[共有]、[高度な共有] オプションのいずれかを選択して、ReportLibrary レポートへのアクセスを許可するグループおよびユーザを指定します。
[高度な共有] を選択した場合は、[アクセスリスト] ボタンをクリックして [開く] ダイアログボックスを表示し、アクセスが許可されているアクセスリストを選択します。
 7. スケジュール実行後の特定の日付に ReportLibrary レポートを削除する場合は、[期限切れ] を選択します。デフォルト設定では、[期限切れなし] が選択されています。
 8. [OK] をクリックします。
 9. [保存して閉じる] を選択し、変更を保存します。

手順

アドバンストスケジュールツールで ReportLibrary 配信の ReportLibrary 情報を設定するには

アドバンストスケジュールツールで ReportLibrary の配信オプションを指定した後、メールサーバー情報の設定をカスタマイズすることができます。

1. ReportLibrary の [配信] ダイアログボックスで、[オプション] タブをクリックします。

下図のように、[オプション] タブが表示されます。

Distribution

Distribution Name: Report Library

Distribution Type: Report Library

General Options

☒ Send email after report saved to library

Mail Server Information

Mail Server Name: ibismtp.ibi.com

☐ This server requires a secure SSL connection

☐ This server requires a secure TLS connection

☒ This server requires authentication

Account Name:

Password: Password...

Email for Library

Library URL: http://BIGSCM14:8080/ibi_apps8/library/report.rc

From:

Reply Address:

Subject:

Message:

OK Cancel

デフォルト設定で、配信名の定義済みの値が表示されます。

2. 必要に応じて [ReportLibrary にレポート保存後 Email を送信] のチェックをオンにして、新しいバージョンの ReportLibrary レポートが配信されるたびに、ReportLibrary レポートへのアクセスが許可されているユーザに Email 通知を送信します。Email メッセージには、ReportLibrary のレポートコンテンツへの URL も含まれています。[全般] タブで選択したアクセスオプションに応じて、1 名以上のユーザに Email 通知が送信されます。[アクセスオプション] を [プライベート]、[公開済み]、[共有] のいずれかに設定した場合は、スケジュールオーナーに、スケジュールの実行により ReportLibrary に出力が配信されるたびに Email 通知が送信されます。[アクセスオプション] を [高度な共有] に設定した場合は、アクセスリスト内の各ユーザに、スケジュールの実行により ReportLibrary に出力が配信されるたびに Email 通知が送信されます。アクセスリストに登録されているグループは、Email アドレスの取得には使用されません。Email 通知は、登録されているユーザのみに送信されます。

メールサーバ情報および ReportLibrary の Email 設定をカスタマイズするには、
[ReportLibrary にレポート保存後 Email を送信] のチェックをオンにします。

3. メールサーバを変更する場合は、[メールサーバ名] テキストボックスに新しいメールサーバの名前を入力します。
4. メールサーバに SSL 接続が必要な場合は、[このサーバには SSL 接続が必要] のチェックをオンにします。
5. メールサーバに TLS 接続が必要な場合は、[このサーバにはセキュア TLS 接続が必要] のチェックをオンにします。
6. メールサーバに認証情報が必要な場合は、[このサーバには認証情報が必要] のチェックをオンにします。

[このサーバには認証情報が必要] のチェックをオンにした場合、[アカウント名] チェックボックスおよび [パスワード] が有効になり、これらのテキストボックスでそれぞれの値を設定します。

7. [送信者] テキストボックスに、任意の値 (例、スケジュールを作成したユーザ名) を入力します。このテキストボックスの入力は ReportCaster で必要ではありませんが、メールシステムによっては必要な場合があります。
8. [返信アドレス] テキストボックスに、有効な Email アドレスを入力します。受信者が Email に返信する場合、返信メッセージはこのアドレスに送信されます。Email システムがコンテンツを配信できない場合、配信不可能な出力メッセージがこのアドレスに返送されます。このテキストボックスの入力は必須です。
9. [件名] テキストボックスに、Email の件名行に表示するテキストを入力します。この情報は、ReportCaster では必要ではありませんが、メールシステムによっては必須場合があります。スケジュールの [タイトル] テキストボックスに入力した値は、[件名] のデフォルト値として使用されます。

10. 必要に応じて、Email 本文として表示するメッセージを入力することもできます。
11. [OK] をクリックするか、[全般] タブをクリックします。

アドバンストスケジュールツールでの最上位フォルダへの ReportLibrary レポートのバースト

ReportLibrary 配信のスケジュールを作成する際に、リソースツリーの [ワークスペース] フォルダを最上位フォルダとして選択すると、ReportLibrary レポートの格納先となるサブフォルダがバーストされます。

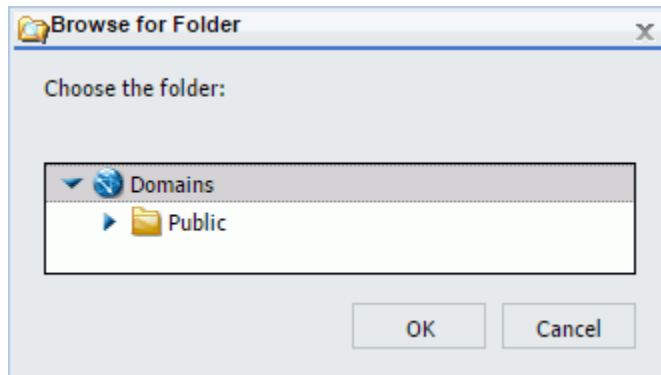
この方法では、最初にサブフォルダを作成せずに、ReportLibrary レポートをサブフォルダに格納することができます。ReportLibrary レポートを最上位フォルダにバーストするようスケジュールすると、ReportLibrary レポートのバースト先となる新しいサブフォルダが自動的に作成されます。

ReportLibrary レポートは、単一フォルダに配信する必要はありません。さまざまなサブフォルダパターンを使用することで、選択した変数で定義されるバースト値に基づいて、ReportLibrary レポートを複数のサブフォルダに配信することができます。

注意：最上位フォルダに ReportLibrary レポートをバーストするには、[ワークスペース] フォルダ下にサブフォルダを作成する権限を所有している必要があります。

手順 アドバンストスケジュールツールで最上位フォルダに ReportLibrary レポートをバーストするには

1. 開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページで、新しいスケジュールを作成するワークスペースを選択します。
2. アクションバーで [スケジュール] をクリックし、[スケジュール] ボタンを選択します。
アドバンストスケジュールツールが表示されます。
3. [配信] タブをクリックし、[新規作成] ボタンのドロップダウン矢印をクリックして [ReportLibrary] を選択します。
4. [フォルダパス] をクリックします。
[フォルダの参照] ダイアログボックスが表示されます。
5. 下図のように、[コンテンツ] フォルダを選択します。



6. [OK] をクリックします。
7. [配信] ダイアログボックスで、[設定] をクリックします。
[ReportLibrary 詳細オプション] ダイアログボックスが開きます。

8. [サブフォルダを有効にする] のチェックをオンにし、サブフォルダパターンを指定します。このパターンに基づいて、サブフォルダのタイトルが作成されます。下図のように、サブフォルダパターンは「'%BURST'」という変数です。

Library Advanced Options

Distribution Options

☐ Compress Stored Report

☒ Enable Sub-folder

Sub-folder Pattern:

Specify the pattern (for example &VARIABLE| '%BURST' report) to use to create the sub-folder title. When %BURST is specified, the burst value will be used in the sub-folder title.

Display Options

Version Description:

Specify the pattern (for example &VARIABLE| '%BURST' report) to use to create the version description. When %BURST is specified, the burst value will be used in the version description.

Category:

OK Cancel

ReportCaster 変数についての詳細は、469 ページの「[ReportCaster 内部変数](#)」を参照してください。

9. [OK] をクリックします。
10. [タスク] タブをクリックし、スケジュールするタスク (例、WebFOCUS レポート) を指定した後、[バーストレポート] のチェックをオンにします。

注意：バーストレポートの処理では、異なるバースト値を使用するレポートごとに個別のサブフォルダが作成されるため、ReportLibrary の配信スケジュールを作成して保存した後は、このチェックをオフにすることはできません。選択した ReportLibrary 配信コンテンツをバーストする必要がなくなった場合は、[バーストレポート] のチェックをオフにして、新しい ReportLibrary 配信スケジュールを作成する必要があります。

11. スケジュールの実行に必要な他の項目をすべて指定し、スケジュールを保存します。詳細は、185 ページの「[スケジュールの作成](#)」を参照してください。

12. 開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページで、作成済みのスケジュールを右クリックし、[実行] を選択します。

バースト ReportLibrary レポートを格納する新しいサブフォルダが、[ワークスペース] 最上位フォルダに作成されます。

注意：サブフォルダ構造は、使用された変数に応じて異なります。

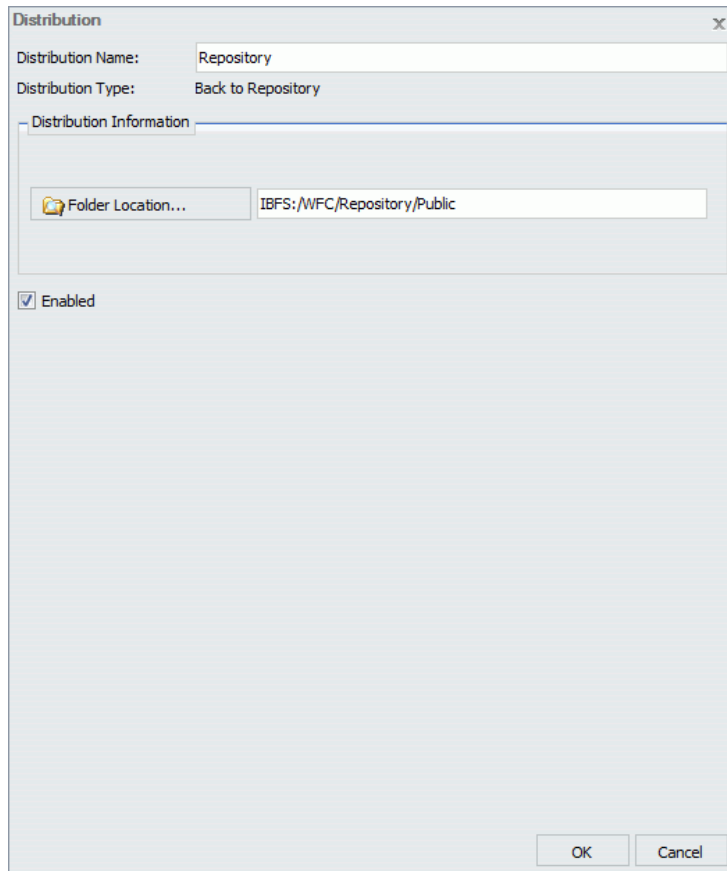
アドバンストスケジュールツールでのリポジトリ配信オプションの使用

アドバンストスケジュールツールで出力をリポジトリに配信するスケジュールを作成する際は、フォルダパスを指定します。

手順 アドバンストスケジュールツールでのリポジトリ配信オプションを使用するには

1. アドバンストスケジュールツールで、[配信] タブを選択します。
2. [新規作成] の下向き矢印をクリックし、ドロップダウンリストから [リポジトリ] を選択します。

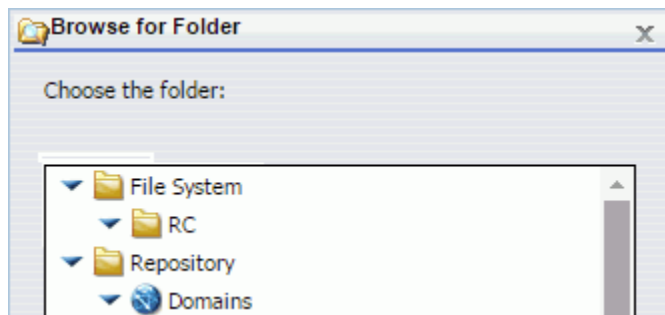
下図のように、[配信] ダイアログボックスが表示されます。



3. [配信名] テキストボックスに、スケジュールの名前を入力します。
デフォルト値は [リポジトリ] です。
4. フォルダパスが正しいことを確認します。[フォルダパス] ボタンをクリックして新しいフォルダを選択するか、テキストボックスでフォルダ名を編集します。
デフォルト設定で、このフォルダパスは、スケジュールの対象として選択したレポートブ
ロシジャ (FEX) と同一のフォルダが指定されています。ユーザが別のフォルダへの書き込
み権限およびコンテンツの作成権限を所有している場合は、レポートの配信先としてその
フォルダを選択することができます。
5. [OK] をクリックします。
6. [保存して閉じる] を選択し、変更を保存します。

アドバンストスケジュールツールでのリポジトリ配信時のファイルシステムへの配信

リポジトリファイルシステム配信機能を使用して、Distribution Server がアクセス可能なディレクトリにレポートを送信することができます。ファイルシステムが構成されたリポジトリに配信する場合、下図のようにファイルシステムフォルダを選択することができます。



注意

- ☐ この方法には FTP サーバは必要ありません。
- ☐ レポートが配信される際は、Distribution Server によって、[タスク] タブの [保存レポート名] の最初に曜日と日時が追加されます。

この配信方法を使用するには、ユーザに [Distribute to File System] 権限が許可されている必要があります。また、管理者は、WebFOCUS 管理コンソールを使用して、ファイルシステムディレクトリを配信用に構成する必要があります。ユーザには、これらのフォルダを表示する権限が付与されている必要があります。この権限を付与するには、そのファイルサブシステムに対して [リスト] コマンドを許可します。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

権限が付与されたユーザは、構成済みフォルダに配信するコンテンツをスケジュールすることができます。

スケジュールでの複数の配信方法とタスクの指定

ReportCaster では、アドバンストスケジュールツールで作成する単一スケジュールに、複数のタスクおよび複数の配信方法を指定することができます。たとえば、2 つ以上の Email 配信が指定された複数タスクスケジュールを作成することができます。この方法では、既存の配信方法を削除し、新しい配信方法を作成する代わりに、有効にする配信方法を切り替えることで複数タスクスケジュールの配信を変更することができます。

注意

- ❑ スケジュールに複数の配信方法が含まれている場合、有効にできる配信方法は 1 つのみです。その他の配信方法はすべて無効にする必要があります。
- ❑ スケジュールに複数のタスクが含まれている場合、有効にできるタスクは 1 つのみです。その他のタスクはすべて無効にする必要があります。

手順

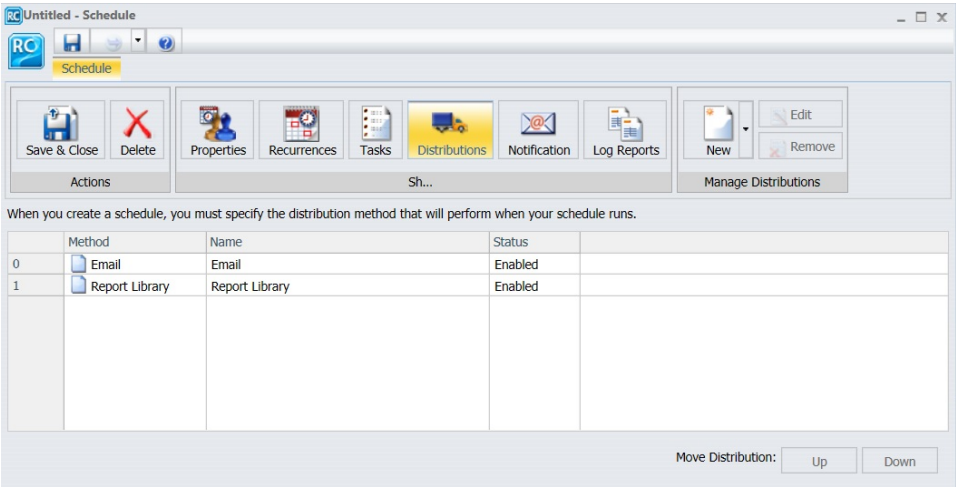
スケジュールで複数の配信オプションを追加するには

1. アドバンストスケジュールツールで、[配信] タブを選択します。
2. [新規作成] ドロップダウンリストをクリックし、配信方法を選択します。

選択した配信方法の必須項目をすべて入力します。各配信方法についての詳細は、300 ページの「アドバンストスケジュールツールでの Email 配信オプションの使用」、309 ページの「アドバンストスケジュールツールでの FTP 配信オプションの使用」、315 ページの「アドバンストスケジュールツールでの ReportLibrary 配信オプションの使用」、325 ページの「アドバンストスケジュールツールでのリポジトリ配信オプションの使用」を参照してください。

3. [新規作成] ドロップダウンリストをクリックし、別の配信方法を選択します。

選択した配信方法の必須項目をすべて入力します。下図のように、選択した複数の配信方法が表示されます。



ここで別の配信方法を選択することも、スケジュールの作成プロセスを完了することもできます。

アドバンストスケジュールツールの単一ファイル FTP 配信での FTP フィールド自動入力

FTP でレポートを配信するスケジュールを設定する場合、スケジュールの [保存レポート名] フィールド内のファイル名情報が、[単一ファイル] FTP 配信の [名前] フィールドに自動的に転送されます。

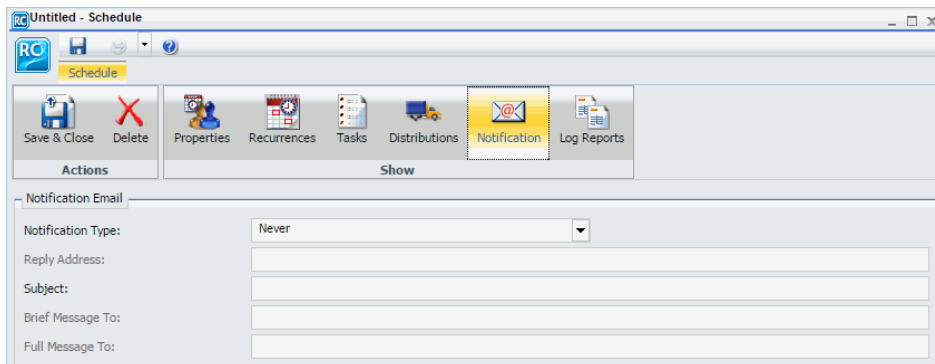
注意：レポートを正しく配信するためには、[名前] の値にファイル拡張子を追加する必要があります。デフォルト設定では、[単一ファイル] の [名前] の値にはファイル拡張子が含まれません。ファイル拡張子を追加するには、[タスク] タブで [プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにしてレポートフォーマットを選択するか、ファイル拡張子を手動で入力します。詳細は、309 ページの「[アドバンストスケジュールツールでの FTP 配信オプションの使用](#)」を参照してください。

アドバンストスケジュールツールの ReportLibrary ファイルでのタイトルフィールド自動入力

システムに ReportLibrary レポートを保存する場合、スケジュールツールの [保存レポート名] フィールド内のファイル名情報が、自動的に ReportLibrary ファイル名の候補になります。詳細は、315 ページの「[アドバンストスケジュールツールでの ReportLibrary 配信オプションの使用](#)」を参照してください。

アドバンストスケジュールツールの通知オプション

下図のように、アドバンストスケジュールツールの [通知] タブには、スケジュールジョブが実行されるたびに特定の Email 受信者にステータス通知を送信するオプションが表示されます。



注意

- ❑ パラメータ (変数) は、スケジュールの通知設定で値を指定する際に使用することができます。これらのパラメータは、&YYMD などのシステム変数にすることも、スケジュール済みプロシジャの実行時に Reporting Server から値が返される任意の変数にすることもできます。変数の後にファイル拡張子を表すピリオド (.) を使用するには、変数の末尾に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「&YYMD|.htm」のように指定します。同様に、アンパサンド (&) を文字として使用するには、アンパサンド (&) の後に縦棒 (|) を追加します。たとえば、「Smith&|Jones」のように指定します。スケジュールで指定されたパラメータの値がプロシジャ実行時に Reporting Server から返されない場合、そのスケジュールは失敗し、「配信するレポートがありません」というエラーメッセージが返されます。

通知タイプには次のものがあります。

- ❑ なし スケジュールステータスの通知は送信されません。これがデフォルト値です。
- ❑ 常に通知 スケジュールが実行されるたびに指定したユーザに通知が送信されます。
- ❑ エラー時 スケジュールジョブの実行中にエラーが発生した場合、指定したユーザに通知が送信されます。通常は、[エラー時] 通知オプションの使用をお勧めします。

アドバンストスケジュールツールでのエラー時通知と常に通知の設定

[通知タイプ] として [エラー時] または [常に通知] を選択した場合、追加のオプションが有効になります。[エラー時] と [常に通知] には、次の通知オプションがあります。

- ❑ 返信アドレス 送信者の Email アドレスを入力します。レポートの受信者が通知に対して返信すると、返信メッセージはこのアドレスに送信されます。Email システムがレポートを配信できない場合、配信不可能なレポートメッセージもこのアドレスに返送されます。

注意

- ❑ ユーザ ID とパスワードを使用して、メールサーバによる認証を構成した場合、返信アドレスは、このユーザ ID に関連付けられた Email アドレスになります。
- ❑ メールサーバによる認証が構成され、返信アドレスを ReportCaster 構成ツールで構成した場合、スケジュールツールの [返信アドレス] テキストボックスは無効になります。返信アドレスが構成されていない場合は、[返信アドレス] テキストボックスが有効になり、メールサーバに送信する返信アドレスを指定することができます。送信された Email の返信アドレスは、認証アカウントの返信アドレスになります。
- ❑ 件名 Email メッセージの件名に表示するテキストを入力します。最大 255 バイトまでの文字を入力することができます。デフォルト設定では、このテキストボックスには、レポート名、および日付と時間のタイムスタンプが含まれます。

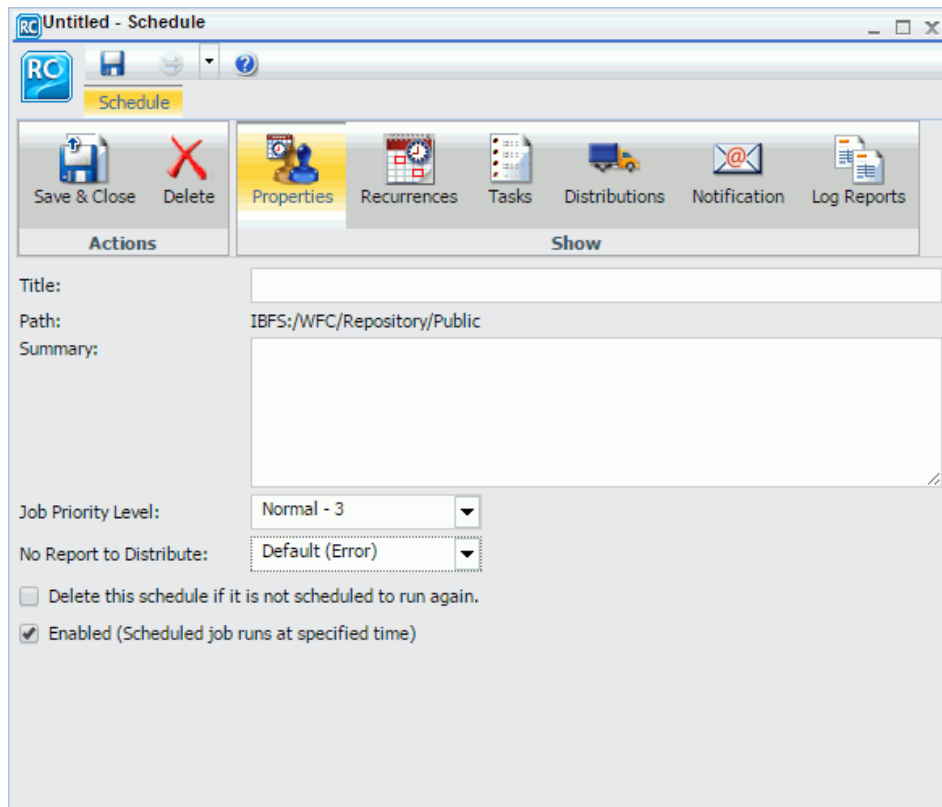
- ❑ **簡易メッセージの宛先** 簡易通知を配信する Email アドレスを入力します。この項目には、構文エラーチェック機能はありません。

ヒント：携帯電話など、メモリ制限のあるデバイスへ通知を配信する際は、[簡易通知] オプションの使用をお勧めします。複数の受信者に通知する場合、Email のすべてに @ 文字と有効なドメインが含まれていれば、メールサーバで定義されたグループ Email リストを使用することができます。

- ❑ **詳細メッセージの宛先** 詳細通知を配信する Email アドレスを入力します。この項目には、構文エラーチェック機能はありません。

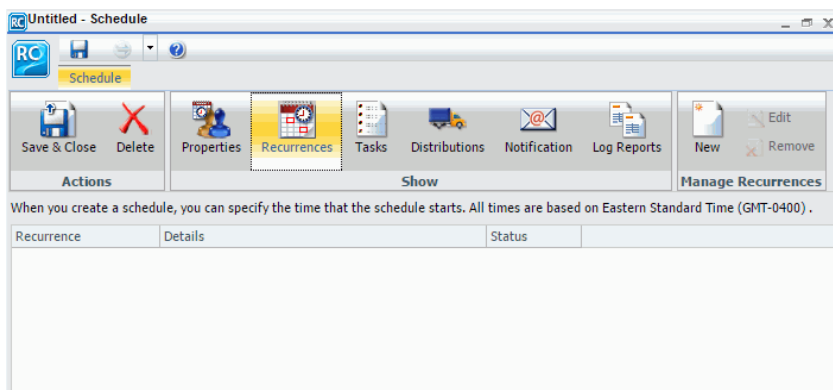
アドバンストスケジュールツールのプロパティの概要

アドバンストスケジュールツールで指定するプロパティオプションには、[タイトル]、[パス]、[概要]、[優先度]、[配信するレポートがない場合]、[ジョブの再実行が不要な場合、スケジュールを削除]、[有効 (指定された時間にジョブを実行)] があります。これらのオプションについての詳細は、266 ページの「[ベーシックスケジュールツールのプロパティの概要](#)」を参照してください。下図は、アドバンストスケジュールツールの [プロパティ] タブを示しています。



アドバンストスケジュールツールの実行間隔の概要

アドバンストスケジュールツールの [実行間隔] タブのオプションを使用して、スケジュールの実行頻度を定義することができます。下図は、アドバンストスケジュールツールの [実行間隔] タブを示しています。



実行間隔を作成するには、リボンの [新規作成] オプションを選択します。下図のように、[スケジュール間隔] ダイアログボックスが表示されます。

The screenshot shows the 'Schedule Recurrence' dialog box with the following details:

- Settings:**
 - ☒ Run Once
 - ☐ Minutes
 - ☐ Hourly
 - ☐ Daily
 - ☐ Weekly
 - ☐ Monthly
 - ☐ Yearly
 - ☐ Custom
- Time Zone:** (UTC-05:00) Eastern Time (US & Canada)
- Start:** Monday, August 5, 2019, 2: 11 PM
- End:** Thursday, December 31, 2099, 11: 59 PM
- Advanced settings:**
 - ☐ Repeat schedule every: 10 Minute(s)
 - ☐ Until Time: 2: 11 PM
 - ☒ Last For: 1 hour(s) 0 minute(s)
 - ☒ Enabled

ユーザによる指定が必要なオプションは、配信頻度、開始時間と終了時間、詳細設定です。配信頻度の設定として、次のいずれかを選択します。

- ☐ 1 回だけ実行
- ☐ 分単位
- ☐ 時間単位
- ☐ 日単位
- ☐ 週単位
- ☐ 月単位
- ☐ 年単位

□ カスタム

これらの設定についての詳細は、267 ページの「[ベーシックスケジュールツールの実行間隔の概要](#)」を参照してください。

デフォルト設定では、WebFOCUS のインストール先サーバのオペレーティングシステムで使われているタイムゾーンが、新しい配信スケジュールに割り当てられます。ただし、ユーザまたはスケジュールコンテンツの受信者のタイムゾーンがデフォルト設定と異なる場合は、[タイムゾーン] リストから異なるタイムゾーンを選択することができます。

スケジュールにタイムゾーンを割り当てると、すべてのスケジュール時間が、指定したタイムゾーンで定義されます。Distribution Server が、スケジュールで指定した時間およびタイムゾーンでスケジュール配信を実行し、コンテンツが予期したとおりに受信者に配信されるようにします。

開始時間および終了時間を割り当てるには、日付値の右横にある矢印を選択します。権限を所有するユーザは、ドロップダウンリストの下向き矢印をクリックしてカレンダーを表示し、スケジュールの配信日を設定することができます。上下の矢印を使用して、スケジュールの配信時間を設定することができます。また、時間を手動で入力することもできます。

選択した間隔でスケジュールを実行するには、[実行間隔] のチェックをオンにして、高度な設定オプションを有効にします。繰り返し実行するスケジュールの頻度を設定します。[終了時間] オプションで、繰り返し実行するスケジュールの終了時間を指定します。[継続時間] オプションで、繰り返し実行するスケジュールの期間を指定します。この情報は手動で入力するか、上下の矢印を使用してパラメータを設定します。詳細は、270 ページの「[詳細設定](#)」を参照してください。

6

スケジュールの保守

スケジュールを保守することで、スケジュールのプロパティの編集や、不要になったスケジュールの削除が行えます。スケジュールのプロパティを新しいスケジュールでも使用する必要がある場合は、複製またはコピーのオプションを使用して、新しいスケジュールに適用するプロパティが記述されたテンプレートを作成することができます。また、スケジュールのステータスを確認することや、ログレポートを実行してスケジュールの詳細情報を取得することもできます。

トピックス

- ❑ [スケジュールの共有](#)
 - ❑ [スケジュールの公開](#)
 - ❑ [コンテキストメニューオプションによるスケジュールの有効化と無効化](#)
-

スケジュールの共有

[マイコンテンツ] フォルダに格納されているスケジュールのオーナーは、そのスケジュールを他のユーザと共有することができます。[マイコンテンツ] フォルダ以外に格納されているスケジュールについてののみ、セキュリティルールを設定することができます。

手順

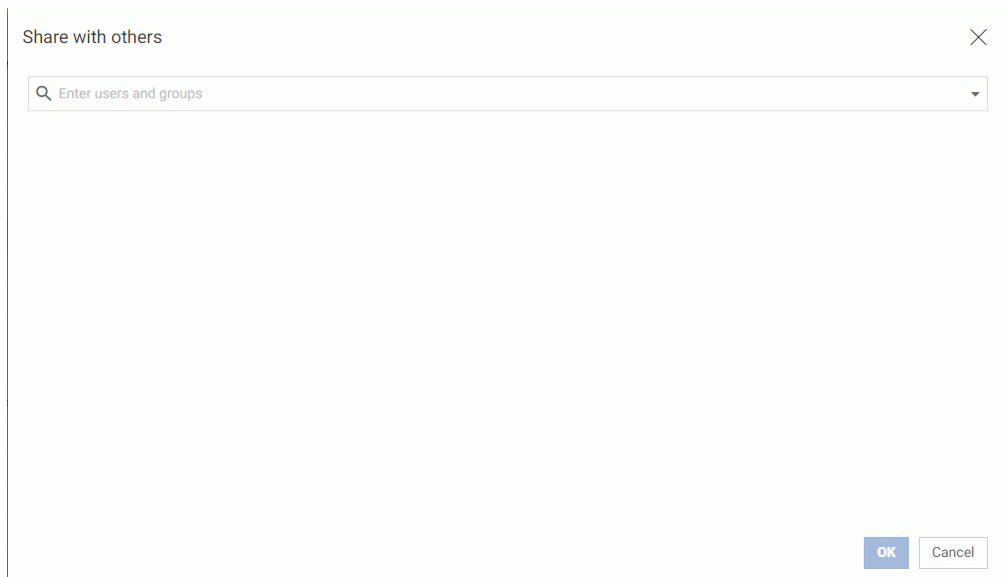
特定のグループまたはユーザとスケジュールを共有するには

ユーザが [マイコンテンツ] フォルダ内のプライベートコンテンツを共有する権限を所有している場合、スケジュールの格納先フォルダへのアクセスが許可されている他のユーザとそのスケジュールを共有することができます。この場合、開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページで、共有するフォルダまたはスケジュールを右クリックし、[共有する] を選択します。

[高度な共有] オプションの使用権限を所有している場合は、次の手順を実行して、共有対象として許可されているグループやユーザと、[マイコンテンツ] フォルダ内のプライベートコンテンツを共有することができます。

1. 共有するスケジュールを右クリックし、[共有の設定] を選択します。

下図のように、[別のユーザと共有] ダイアログボックスが表示されます。



2. [検索] テキストボックスのドロップダウン矢印をクリックし、ユーザまたはグループの選択条件を表示します。[ユーザ] または [グループ] で検索結果にフィルタを設定できます。
3. フィルタの選択後、検索テキストボックスへの入力を開始すると、選択可能なユーザまたはグループが表示されます。スケジュールの表示を許可するユーザまたはグループのリストに追加するユーザまたはグループを選択します。必要に応じて、リストから除外するユーザまたはグループのタイルで X をクリックします。
4. スケジュールを共有するユーザまたはグループの選択を完了後、[OK] をクリックします。

手順

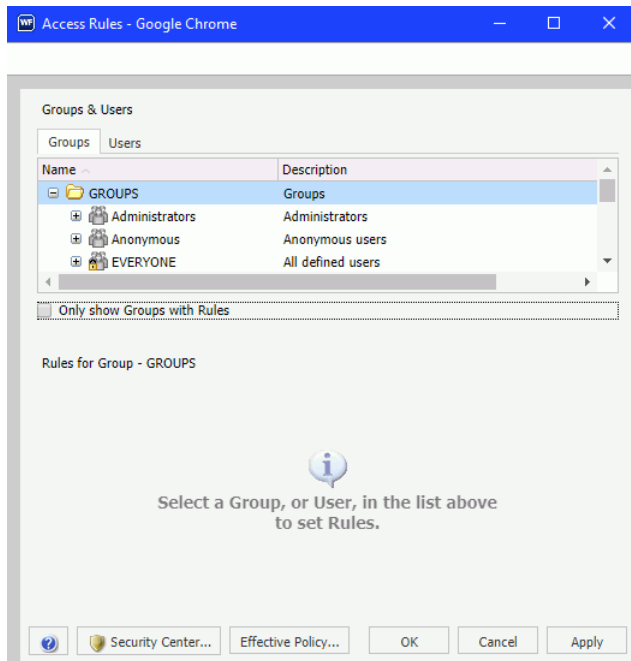
スケジュールにセキュリティルールを設定するには

権限を所有するユーザは、非公開スケジュールにセキュリティを設定し、他のグループやユーザがリストを表示、管理できるよう許可することができます。詳細は、『[ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド](#)』を参照してください。

注意：権限を所有するユーザは、スケジュールを右クリックし、[セキュリティ]、[有効なポリシー] を順に選択することで、セキュリティポリシーを確認することができます。

1. スケジュールを格納するワークスペースを選択するか、セキュリティを設定する非公開スケジュールを選択します。
2. 右クリックして、[セキュリティ]、[ルール] を順に選択します。

下図のように、[アクセスルール] ダイアログボックスが開きます。



3. [グループ] タブで、スケジュールへのアクセスを許可するグループまたはユーザを選択します。必要に応じて、[ルールが存在するグループのみを表示する] のチェックをオンにして、ルールが設定済みのグループのみを表示することもできます。

選択したグループの [ルール] が、[グループを対象とするルール] セクションに表示されます。

4. 必要に応じて、[グループを対象とするルール] セクションで [ルール] ドロップダウンリストをクリックし、特定のルールのみを表示することもできます。
5. 必要に応じて、[設定済みのルールのみを表示する] のチェックをオンにして、使用可能なルールのリストにさらにフィルタを設定することもできます。
6. ルールのいずれかを選択します。このルールで定義されている権限に基づいて、アクセスレベルが設定されます。
7. [アクセス] ドロップダウンリストから、許可レベルを選択します。

次のオプションがあります。

- ☐ **設定しない** アクセス許可は設定されていません。アクセス許可は、継承されたルールに基づいて決定されます。

- ❑ **許可する** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を許可します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
 - ❑ **拒否する** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を拒否します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
 - ❑ **最上級の許可** アクセスレベルの [拒否する] を無効にし、[適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を許可します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
 - ❑ **継承のクリア** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールで拒否されているルールをすべてクリアします。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ] のいずれかを選択することができます。
8. [ユーザ] タブをクリックすると、項目へのアクセスを許可する個別ユーザのリストが表示されます。必要に応じて、[ルールが存在するユーザのみを表示する] のチェックをオンにして、ルールが設定済みのユーザのみを表示することもできます。
- 選択したユーザの [ロール] が、[ユーザを対象とするルール] セクションに表示されます。
9. 必要に応じて、[ユーザを対象とするルール] セクションで [ロール] ドロップダウンリストをクリックし、特定のロールのみを表示することもできます。
10. 必要に応じて、[設定済みのルールのみを表示する] のチェックをオンにして、使用可能なロールのリストにさらにフィルタを設定することもできます。
11. ロールのいずれかを選択します。このロールで定義されている権限に基づいて、アクセスレベルが設定されます。
12. 手順 7 で説明したように、[アクセス] ドロップダウンリストでアクセスレベルを選択します。
13. [適用] をクリックします。
14. [OK] をクリックします。

スケジュールのセキュリティ設定の更新が保存されます。

スケジュールの公開

公開されたスケジュールは、スケジュールが存在するフォルダへのアクセス権限を所有するユーザすべてに表示されます。スケジュールのコンテキストメニューに表示されるオプションは、ログインしたユーザの権限に応じて異なります。たとえば、スケジュール権限を所有するユーザは、公開済みスケジュールを実行することができます。公開済みスケジュールを実行する際は、その実行を開始したログインユーザとしてではなく、そのスケジュールの作成者として実行されます。

注意：公開済みスケジュールは、そのスケジュールの作成者として実行されます。公開済みスケジュールの編集権限を所有するユーザは、スケジュール作成者が権限を所有しない変更をスケジュールに加えることができます。この場合、スケジュールは実行時に失敗します。たとえば、編集権限を所有するユーザは、スケジュールで使用されている配信リストまたはアクセスリストを、スケジュール作成者が編集権限を所有しないプライベート配信リストまたはアクセスリストに変更することができます。変更されたスケジュールを実行すると、作成者がリポジトリから配信リストまたはアクセスリストを取得できないため、スケジュールの実行に失敗します。

コンテキストメニューオプションによるスケジュールの有効化と無効化

リソースツリーから、または ReportCaster エクスプローラを使用して、スケジュールを有効または無効にすることができます。有効にする設定は、ベーシックスケジュールツールおよびアドバンスドスケジュールツールの [プロパティ] タブからもアクセスできます。

注意：スケジュールを有効化または無効化するには、そのための権限が必要です。

WebFOCUS Hub、ホームページのワークスペースエリア、または ReportCaster エクスプローラで、有効化済みのスケジュールを右クリックし、コンテキストメニューから [無効にする] を選択します。スケジュールがすでに無効になっている場合、このオプションは [有効にする] と表示されます。

詳細は、392 ページの「[スケジュールを有効または無効にするには](#)」 および 392 ページの「[複数のスケジュールを有効または無効にするには](#)」を参照してください。

スケジュールのトラッキング

スケジュールに関する情報 (例、配信ジョブの日付、時間、実行ステータス、受信者) にアクセスするには、ログレポートを実行するか、ReportCaster ステータスで [ジョブステータス] をクリックします。スケジュールのリソース利用を分析することもできます。

トピックス

□ ログレポート

ログレポート

ログレポートはスタイルが設定された HTML フォーマットで、別のブラウザウィンドウに表示されます。ログレポートは個別のブラウザウィンドウに表示され、情報の表示方法は指定した内容により異なります。指定された期間内に実行された各スケジュール済みジョブに対して、ログレコードが作成されます。

コンソールによるスケジュールのトラッキング

日付、実行ステータス、配信ジョブの受信者などの情報には、ログレポートの実行およびジョブステータスの確認によって、アクセスすることができます。詳細は、33 ページの「[ReportCaster ステータスの使用](#)」を参照してください。

スケジュールログの使用

ログレポートを使用して、配信されたジョブの情報を表示することができます。この情報には、ジョブの完了状況、スケジュール出力が配信された時間、使用された配信出力フォーマット、配信方法などがあります。ログレポートは HTML フォーマットで、別のブラウザウィンドウに表示されます。ログレポートには、スケジュールツールでスケジュールを編集する際にアクセスすることも、リソースツリーで既存のスケジュールを右クリックする方法でもアクセスすることができます。

ログファイルには、情報が累積されます。リポジトリに格納されている多くのログレポートを管理し、表示されるログレポート情報のパフォーマンスを向上させるには、ログレコードを定期的に消去する必要があります。

右側パネルのリストは、ジョブ ID、ジョブの実行開始時間、ジョブの実行が完了するまでの所要時間、ジョブの全般的なステータスなど、ジョブの実行についての基本的な情報を提供します。ジョブの詳細なレポートを表示するには、ジョブリストでジョブをダブルクリックします。

参照 ログレポートでの &ECHO および -TYPE サポート

プロシジャ内の &ECHO 変数および -TYPE コマンドの値は、ログレポートに表示されます。&ECHO 変数は、プロシジャが実行される際に、テストやデバックの目的で、それらをコマンドラインに表示します。-TYPE コマンドにより、コメントを記述したり、参考用またはデバック用にコードを評価したりすることができます。たとえば、ReportCaster を使用して次のプロシジャのスケジュールを作成すると、次のようなログレポートが作成されます。

注意：2 つ目の -TYPE は、実際にはレポートプロシジャ (FEX) の単一行に記述されています。

```
-SET &ECHO='ALL';
-TYPE Regional Product Sales Forecast
-TYPE Parameter RATE is passed into report to forecast potential sales
growth
-DEFAULT &RATE = .05;
-DEFAULTH &WF_TITLE='WebFOCUS Report';
TABLE FILE GGSales
SUM DOLLARS
COMPUTE GROWTH/D12.2= (DOLLARS * &RATE) + DOLLARS; AS 'Sales, Forecast'
BY REGION
BY PRODUCT
ON TABLE PCHOLD FORMAT HTML
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET PAGE-NUM NOLEAD
ON TABLE SET SQUEEZE ON
ON TABLE SET EMPTYREPORT ON
ON TABLE SET HTMLCSS ON
ON TABLE SET HTMLENCODE ON
ON TABLE SET STYLE *
TYPE=REPORT, TITLETEXT=&WF_TITLE.QUOTEDSTRING,$
ENDSTYLE
END
```

ジョブステータスの確認

スケジュールのトラッキングを行うには、ジョブのステータスを確認する方法もあります。スケジュールステータスは、Distribution Server で実行待ち中の、スケジュール済みジョブリストを提供します。ステータス情報には、スケジュール ID、スケジュールの開始時間、ジョブのステータスなどがあります。

スケジュールのジョブステータス情報にアクセスするには、ReportCaster ステータスの [ジョブステータス] タブを表示します。詳細は、42 ページの「[ジョブステータス](#)」を参照してください。

手順

ログレポートを表示するには

1. WebFOCUS Hub または WebFOCUS ホームページのワークスペースエリアで、スケジュールを右クリックし、[ログの表示] を選択します。

[スケジュールのログオプション] ダイアログボックスが開きます。

2. [最新の実行ジョブ]、[すべて]、[日付] から、表示するログレポートを選択します。

[日付] を選択すると、[開始日時] および [終了日時] パラメータを使用して検索するオプションが表示されます。

3. [OK] をクリックします。

検索条件に一致するログレポートが表示されます。

ログレポートの先頭行には、[ジョブの説明] が表示されます。これは、スケジュールの作成時に指定した一意の説明 ID です。[ジョブの説明] の下の 1 列目には、次の情報が表示されます。

- ❑ **ユーザ** ReportCaster ユーザ ID です。スケジュールのオーナーを示します。
 - ❑ **プロシジャ** ReportCaster により生成される一意のキーです。スケジュール済みジョブの特定の実行を識別します。
 - ❑ **スケジュール ID** ReportCaster により生成される一意のキーです。ジョブのスケジュールの作成時に割り当てられます。
 - ❑ **開始時間** ジョブが開始した日付と時間です。
 - ❑ **終了時間** ジョブが終了した日付と時間です。
- 2 列目には、次の内容を含むメッセージが表示されます。
- ❑ 特定のジョブへの配信方法 (例、Email 配信) などの一般情報。
 - ❑ リクエストの開始、配信の完了、リクエストの完了などを示すプロセス情報。プロセス情報には、リクエストの失敗の原因 (例、データソースの使用不可) などの情報も含まれます。

手順 スケジュールツールでログレポートを表示するには

1. WebFOCUS Hub または WebFOCUS ホームページのワークスペースエリアで、ログを表示するスケジュールを右クリックし、[編集] を選択します。
スケジュールツールが開きます。
2. スケジュールツールで、[ログレポート] タブをクリックします。
[ログレポート] パネルが表示されます。
3. 実行済みのジョブ番号を確認します。
4. ジョブのログレポート情報を表示するには、ジョブリスト下部のウィンドウで、[ジョブ番号] をクリックします。

参照 ログレポート表示時の考慮事項

ログレポートを表示する際は、次のことを考慮する必要があります。

タスク名とレポート名

ReportCaster ログは、WebFOCUS フォルダとプロシジャ (FEX) を、説明ではなくパスおよびファイル名で参照します。

Email アドレス

Email の有効性の確認はメールサーバで行われるため、ReportCaster は Email アドレスを確認できません。メールサーバで認可され、ReportCaster に送信された Email アドレスがすべてログレポートに記述されています。

バーストレポート

- ❑ 有効なバースト値が、配信リスト、配信ファイル、ダイナミック配信リストで省略された場合、ReportCaster は有効なバースト値をブランクと見なします。バースト値がブランクであるため、ログファイルには値が表示されません。これにより、ログファイルのサイズが大幅に減少します。これは、データベースがプロシジャ中の最初の BY 項目に多くの値を含み、これらの値がバーストされる場合に顕著です。
- ❑ バースト値が、配信リスト、配信ファイル、ダイナミック配信リストに指定されており、データベース上に存在しない場合、ログファイルには次のメッセージが表示されます。
バースト値: バースト値のレポートはありません。
- ❑ レポートプロシジャ (FEX) のバーストレポート配信が完了すると、ログファイルには、各バースト値に対する次のメッセージが表示されます。
ファイル名 を 宛先へ配信しました。

無効なオプション

- ❑ タスクタイプ、配信方法が使用不可のスケジュールの実行が許可されていない場合は、エラー通知が送信されます。ジョブプロセスログレポートでは、エラーが赤色のテキストで表示されます。ログレポート、詳細通知、簡易通知には、スケジュールのオーナーが変更する必要のある無効なオプションに関する情報が記載されています。
- ❑ スケジュールで無効なタスクタイプまたは配信方法が指定されている場合でも、スケジュールの実行が許可されている場合は、通常どおりジョブが実行され、ログレポートにメッセージが記録されます。このメッセージは、無効なタスクタイプまたは配信方法が指定された既存のスケジュールが実行可能であることを通知するものです。使用可能なタスクタイプと配信方法の構成についての詳細は、47 ページの「[構成タブのフォルダ](#)」を参照してください。

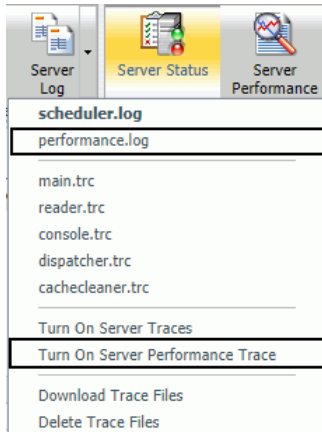
ReportCaster のパフォーマンスログによるスケジュール実行のトラッキング

パフォーマンスログを使用して、ReportCaster を使用したスケジュールでのリソース利用を分析することができます。このログは、各スケジュールおよびスケジュールコンポーネントの処理期間を記録します。

パフォーマンスログを使用するには、ReportCaster ステータスにアクセスします。リボンの [表示] グループで、[サーバステータス] タブをクリックします。次に、[サーバの管理] グループで [サーバログ] ドロップダウン矢印をクリックし、[サーバログ] メニューを表示します。

パフォーマンスログ機能は、デフォルト設定で無効になっています。パフォーマンスログの記録を有効にするには、[サーバパフォーマンストレース オン] を選択します。

下図は、[performance.log] および [サーバパフォーマンストレース オン] のオプションを示しています。



[performance.log] は、各レコードに次の情報を記録します。

- ☐ ジョブ ID
- ☐ スケジュール ID
- ☐ スケジュール名
- ☐ ユーザ ID
- ☐ 時間
- ☐ タイプ - (開始、終了)
- ☐ イベント - (QUEUED、JOB、WF_REPORTING_SERVER、DESTINATION_MAPPING、COMPRESSION、EMAIL、FTP、LIBRARY、REPOSITORY)
- ☐ ソース - (スケジュール ID、タスク ID、配信 ID)
- ☐ サーバ名 - (EDASERVE、FTP サーバ名...)
- ☐ サーバユーザ - (実行 ID)
- ☐ オブジェクト - スケジュール済みプロシジャ

8

ReportLibrary の使用

ReportCaster では、セキュアなレポートストレージおよびデータ抽出機能を備えた ReportLibrary にレポートを配信することができます。レポートを ReportLibrary に配信するには、スケジュールの作成時に [ReportLibrary] 配信オプションを選択します。[ReportLibrary] 配信オプションを選択した場合、ReportLibrary レポートへのアクセスを許可するユーザを選択し、レポートを配信する WebFOCUS リポジトリ内のフォルダを指定します。また、レポートの有効期限を設定したり、保存するバージョン数を指定したりすることができます。レポートへの URL が含まれた Email 通知を送信することもできます。

トピックス

- ❑ [ReportLibrary の概要](#)
 - ❑ [ReportLibrary コンテンツの表示](#)
 - ❑ [Web ビューアレポートの検索](#)
 - ❑ [ReportLibrary レポートの特定バージョンを Excel および他のドキュメントで開く](#)
 - ❑ [アクセスリストの作成と管理](#)
 - ❑ [アクセスリストへのアクセス](#)
 - ❑ [ReportLibrary レポートのパラメータ値の表示](#)
-

ReportLibrary の概要

ReportLibrary は、コンテンツへのセキュアなアクセスを提供するほか、同一出力の複数バージョンの保存、有効期限の設定、指定したバージョン数の保存が可能です。レポート出力を ReportLibrary に配信するスケジュールを作成する際に、アクセスオプションを使用して、レポートへのアクセスを許可するユーザを指定することができます。指定可能なアクセスオプションには、スケジュールのオーナーのみ、WebFOCUS リポジトリ内のレポート格納先フォルダへのアクセスが許可されたユーザすべて、またはアクセスリストで指定されたグループやユーザ (スケジュールで ReportLibrary に配信されるレポート出力の表示が許可されたユーザ) があります。

ReportLibrary レポートの表示が許可されたユーザは、WebFOCUS ホームページから ReportLibrary レポートの最新バージョンを表示することも、すべてのバージョンを表示することもできます。また、ReportCaster エクスプローラで、ツールバーの [ReportLibrary レポート] フィルタオプションを選択することで ReportLibrary レポートを表示する方法もあります。

ユーザが ReportLibrary 管理権限を所有する場合、または他のユーザのプライベートコンテンツを管理する権限を所有する場合は、ReportLibrary レポートを管理、リスト表示、削除することができます。ただし、これらのユーザは、ReportLibrary レポート自体を表示することはできません。

注意

- ❑ ReportLibrary 配信を使用するスケジュールのオーナーが変更された場合、このスケジュールの新しいオーナーに合わせて関連する ReportLibrary レポートのオーナーを修正する必要があります。

ReportLibrary コンテンツの表示

ReportLibrary レポートの表示が許可されたユーザは、リソースツリーおよび ReportCaster エクスプローラから ReportLibrary レポートを表示することができます。表示が許可された ReportLibrary レポートには、次のものがあります。

- ❑ ユーザが所有する ReportLibrary レポート。
- ❑ コンテンツのアクセスおよび表示が許可されたフォルダ内で公開されている ReportLibrary レポート。
- ❑ コンテンツのアクセスおよび表示が許可されたフォルダ内で共有されている ReportLibrary レポート。

注意

- ❑ フォルダ内の ReportLibrary レポートを表示するには、そのフォルダまたはレポートに対するユーザのポリシーに、[Access Library Content] (opLibrary) 権限が含まれている必要があります。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。
- ❑ ReportLibrary レポートにアクセスすると、管理コンソールの libraryAccess ログファイルにイベントが記録されます。ReportLibrary アクセスイベントは、デフォルト設定で記録されます。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

他のユーザが所有するプライベートコンテンツを管理する権限を所有している場合、ReportLibrary レポートへのアクセスおよび管理は許可されますが、そのコンテンツを表示することはできません。

ReportLibrary レポートが作成されると、そのレポートにはスケジュールと同一のタイトルが割り当てられます。レポートがバーストされた場合、ReportLibrary レポートのタイトルはバースト値になります。また、プライベート ReportLibrary レポートには、スケジュールで指定されたアクセスレベルが適用されます。スケジュールでアクセスリストを指定した場合、プライベート ReportLibrary レポートは、レポートが配信されるたびに、アクセスリストで指定されたグループおよびユーザと共有されます。

注意：ユーザがアクセスリストのメンバーである場合でも、レポートが公開されている場合でも、表示可能な ReportLibrary レポートは、WebFOCUS Client セキュリティに基づいてアクセスが許可されたレポートに限定されます。

リソースツリーまたは ReportCaster エクスプローラでは、ReportLibrary レポートの最新バージョンを表示することも、複数のバージョンの中から特定のバージョンを選択して表示することもできます。ReportLibrary レポートで使用可能なオプションは、WebFOCUS Client セキュリティで定義されたユーザ認可に基づいて決定されます。ReportLibrary レポートを削除できるのは、ReportLibrary レポートのオーナー、他のユーザのプライベートリソースの管理権限を所有するユーザ、および ReportLibrary レポートの管理権限を所有するユーザに限られます。WebFOCUS Client のセキュリティについての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

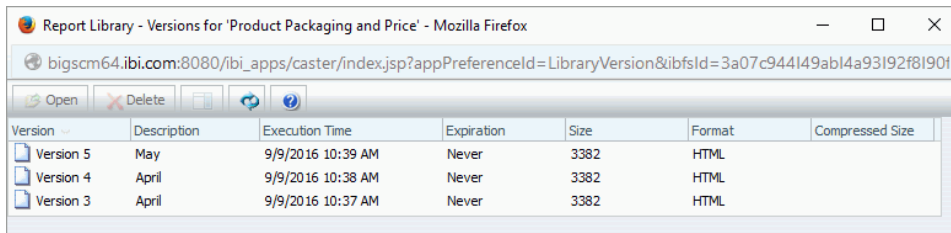
ReportLibrary コンテンツの表示

WebFOCUS Hub またはホームページのワークスペースエリアでは、階層構造のフォルダから ReportLibrary レポートにアクセスすることができます。ReportLibrary レポートは、他の ReportCaster コンテンツや WebFOCUS コンテンツと同一のフォルダに格納することができます。ただし、ReportLibrary レポートをバーストする場合は、バーストされたレポートセクションすべてが同一フォルダに表示されるよう、ReportLibrary レポートを独自のフォルダに格納することをお勧めします。また、各バーストレポートに割り当てられるタイトルは、それぞれのレポートセクションのバーストフィールド値になります。

ReportLibrary レポートを選択した際に使用可能なオプションは、WebFOCUS Client セキュリティ認可に基づいて決定されます。ユーザには、ReportLibrary レポートの表示、バージョン履歴の表示、切り取り、削除、共有、公開、セキュリティ管理の権限が設定できます。

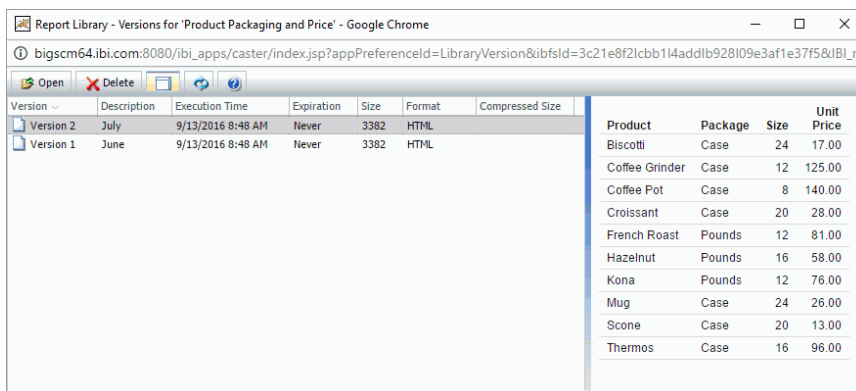
[最新のバージョンを表示] および [バージョン] 表示オプションを使用して、この ReportLibrary レポートの最新バージョンを表示したり、すべてのバージョンのリストを表示したりできます。ReportLibrary レポートを表示する際のデフォルト表示設定を変更するには、WebFOCUS 管理コンソールの [構成] タブで [その他] をクリックします。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

下図は、ReportLibrary レポートで有効なバージョンのリストを示しています。



Version	Description	Execution Time	Expiration	Size	Format	Compressed Size
Version 5	May	9/9/2016 10:39 AM	Never	3382	HTML	
Version 4	April	9/9/2016 10:38 AM	Never	3382	HTML	
Version 3	April	9/9/2016 10:37 AM	Never	3382	HTML	

ReportLibrary のバージョンリストから ReportLibrary レポートを新しいウィンドウに表示するには、ReportLibrary レポートの特定のバージョンを選択し、ツールバーの [開く] をクリックするか、右クリックしてコンテキストメニューから [開く] を選択します。また、ツールバーの [表示ウィンドウの表示] オプションをクリックして、バージョンリスト右側の表示ウィンドウにレポートを表示することもできます。下図では、ReportLibrary レポートが表示ウィンドウに表示されています。



Version	Description	Execution Time	Expiration	Size	Format	Compressed Size
Version 2	July	9/13/2016 8:48 AM	Never	3382	HTML	
Version 1	June	9/13/2016 8:48 AM	Never	3382	HTML	

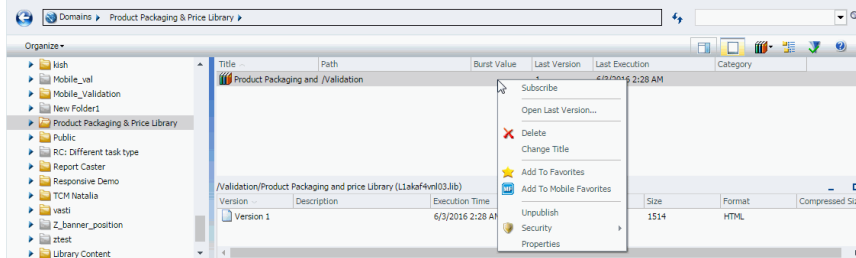
Product	Package	Size	Unit Price
Biscotti	Case	24	17.00
Coffee Grinder	Case	12	125.00
Coffee Pot	Case	8	140.00
Croissant	Case	20	28.00
French Roast	Pounds	12	81.00
Hazelnut	Pounds	16	58.00
Kona	Pounds	12	76.00
Mug	Case	24	26.00
Scone	Case	20	13.00
Thermos	Case	16	96.00

ReportLibrary 表示ウィンドウを非表示にするには、ツールバーの [表示ウィンドウの非表示] オプションをクリックします。表示ウィンドウが表示されている場合、ツールバーの [表示ウィンドウの非表示] オプションがハイライト表示されます。

ReportCaster エクスプローラからの ReportLibrary コンテンツの表示

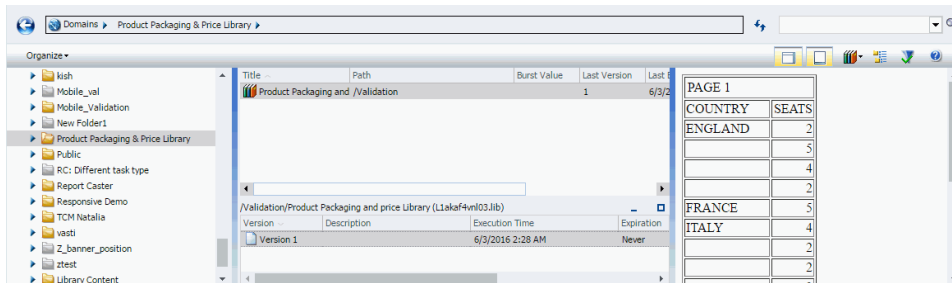
ReportCaster エクスプローラでは、アクセスが許可されている ReportLibrary レポートを表示することができます。ReportCaster エクスプローラツールバーの [フィルタ] および [ファイルを表示] オプションを使用して ReportLibrary レポートおよびウォッチリストレポートのリストを表示する方法、および ReportLibrary レポートに特化した情報についての詳細は、383 ページの「[ReportCaster エクスプローラ](#)」を参照してください。

ReportCaster エクスプローラウィンドウのリストで ReportLibrary レポートを選択し、[バージョンリストウィンドウの表示] アイコンをクリックすると、そのレポートで使用可能なバージョンが下側のウィンドウに表示されます。下図の ReportCaster エクスプローラでは、ReportLibrary レポートの有効なバージョンおよび使用可能なオプションが表示されています。

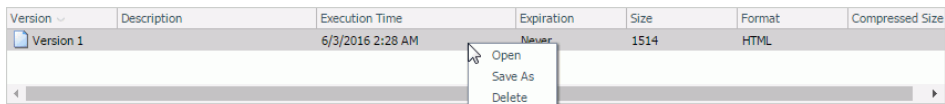


ReportLibrary レポートの最新バージョンを表示するには、ReportLibrary レポートを右クリックして [最新バージョンを開く] オプションを選択します。新しいウィンドウに ReportLibrary レポートが表示されます。

ReportLibrary レポートの特定のバージョンを表示するには、ReportLibrary レポートリスト下側のウィンドウで、そのレポートバージョンを選択します。ReportLibrary レポートの特定のバージョンを選択すると、下図のように、ReportLibrary レポートリスト右側の表示ウィンドウに ReportLibrary レポートが表示されます。



ReportLibrary レポートの特定のバージョンを新しいウィンドウに表示するには、そのバージョンをダブルクリックするか、下図のように右クリックして [開く] を選択します。



ReportLibrary ウォッチリストの使用

ReportLibrary ウォッチリストを使用すると、新しいバージョンの ReportLibrary レポートが作成された際にユーザに Email が送信されるため、ユーザが必要とする情報をすばやく確認することができます。ReportLibrary レポートのオーナーであるかどうかに関係なく、アクセスが許可されている任意の ReportLibrary レポートをウォッチリストに追加することができます。

注意：管理者は、ウォッチリストの ReportLibrary レポートから他のユーザの登録を解除することができます。SMTP 認証が有効化されている場合、ウォッチリストの登録ユーザには、SMTP 認証が適用されます。

- ❑ Windows の場合、この機能を有効にするには、¥ibi¥WebFOCUS92¥ReportCaster¥bin ディレクトリに格納されている unsubscribe.bat ファイルを実行します。
- ❑ UNIX の場合、この機能を有効にするには、/ibi/WebFOCUS92/ReportCaster/bin ディレクトリに格納されている unsubscribe シェルスクリプトを実行します。

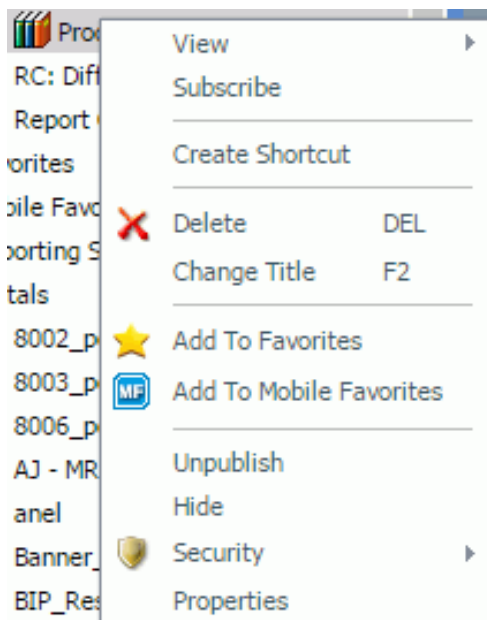
ウォッチリストの Email 通知には、ReportLibrary に格納されているレポートのタイトルと、そのレポートへのリンクが含まれています。ウォッチリストの Email 通知パラメータは、ReportCaster ステータスの [構成] タブの [ReportLibrary] フォルダで定義します。詳細は、43 ページの「[ReportCaster の構成](#)」を参照してください。

ReportLibrary レポートをウォッチリストに追加、またはウォッチリストから削除するには、リソースツリーまたは ReportCaster エクスプローラで ReportLibrary レポートを右クリックし、[ウォッチリストに登録] または [ウォッチリストの登録解除] オプションを選択します。

注意：[ウォッチリストに登録] オプションは、ReportCaster ステータスの [構成] タブで [ReportLibrary ウォッチリストを有効にする] のチェックがオンに設定されている場合にのみ使用できます。詳細は、118 ページの「[ReportLibrary の設定](#)」を参照してください。

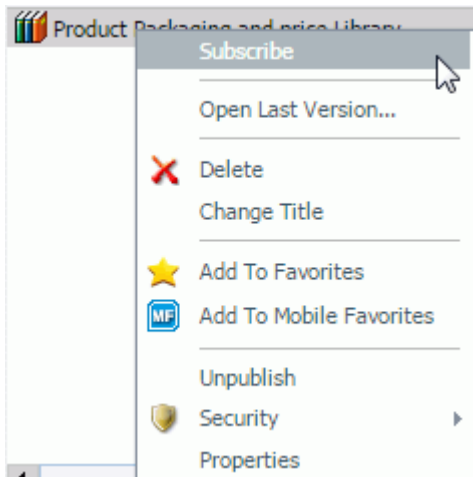
次の例は、リソースツリーおよび ReportCaster エクスプローラで ReportLibrary レポートをウォッチリストに追加する方法を示しています。

- リソースツリーで、ウォッチリストに追加する ReportLibrary レポートを右クリックし、コンテキストメニューから [ウォッチリストに登録] を選択します。レポートがバーストされている場合は、ウォッチリストに追加するレポートセクションを個別に登録します。下図は、リソースツリーの ReportLibrary レポートから表示された [ウォッチリストに登録] オプションを示しています。



- ReportCaster エクスプローラで、ツールバーの [フィルタ] オプションから [ReportLibrary レポート] を選択し、ツリーから ReportLibrary レポートが格納されているフォルダを選択するか、アクセスが許可されている ReportLibrary レポートのフォルダパス上のフォルダを選択します。ReportCaster エクスプローラツールバーの [ファイルを表示] オプションを使用して、選択したフォルダ内の ReportLibrary レポートを表示するか、選択したフォルダとそのサブフォルダ内の ReportLibrary レポートを表示するかを切り替えることができます。ツールバーの [フィルタ] および [ファイルを表示] オプションについての詳細は、383 ページの「[ReportCaster エクスプローラ](#)」を参照してください。

ウォッチリストに追加する ReportLibrary レポートを右クリックし、コンテキストメニューから [ウォッチリストに登録] を選択します。レポートがバーストされている場合は、ウォッチリストに追加するレポートセクションを個別に登録します。下図は、ReportCaster エクスプローラの ReportLibrary レポートリストで、ReportLibrary レポートを選択した際の [ウォッチリストに登録] オプションを示しています。



- ❑ リソースツリーおよび ReportCaster エクスプローラに表示されたウォッチリストレポートは、次のアイコンで識別されます。



下図のリソースツリーでは、[ReportLibrary] フォルダが展開され、バーストレポートの各セクションが表示されています。[FRANCE] レポートセクションは、ウォッチリストレポートです。



ReportCaster エクスプローラツールバーの [ウォッチリスト] フィルタオプションおよび [ファイルを表示] オプションを使用することで、特定のフォルダまたはフォルダパス上のフォルダに格納されているウォッチリストレポートにすばやくアクセスすることができます。詳細は、383 ページの「[ReportCaster エクスプローラ](#)」を参照してください。

ウォッチリストレポートを選択すると、ウォッチリストレポートリスト右側の表示ウィンドウにそのレポートが表示されます。

表示ウィンドウを非表示にするには、ウォッチリストレポートリスト下側のブランク領域をクリックします。また、ウォッチリストレポートを右クリックし、[開く] を選択することで、ウォッチリストレポートを新しいウィンドウに表示することもできます。

注意： 表示ウィンドウの表示と非表示を制御したい場合は、リソースツリーで ReportLibrary レポートまたはウォッチリストレポートを右クリックし、[表示]、[バージョン] を順に選択して [バージョン] ダイアログボックスを開きます。[バージョン] ダイアログボックスのツールバーで、[表示ウィンドウの表示] アイコン  をクリックして、表示ウィンドウの表示を有効にします。ツールバーの [表示ウィンドウの非表示] アイコン  をクリックして、表示ウィンドウを非表示にします。

ウォッチリストからレポートを削除するには、次のいずれかを実行します。

- ❑ リソースツリーで、ウォッチリストレポートを右クリックし、[ウォッチリストの登録解除] を選択します。
- ❑ ReportCaster エクスプローラの ReportLibrary レポートまたはウォッチリストレポートのリストで、ウォッチリストレポートを右クリックし、[ウォッチリストの登録解除] を選択します。[リフレッシュ] をクリックして、ウォッチリストレポートアイコンをクリアします。

ReportLibrary レポートの公開

権限を所有するユーザは、ReportLibrary レポートを公開または非公開にすることができます。ReportLibrary レポートを公開すると、そのレポートの格納先フォルダへのアクセスが許可されているユーザが、ReportLibrary レポートを表示できるようになります。フォルダ内の項目を公開するには、その項目が格納されているフォルダを公開する必要があります。公開したフォルダを非公開にすると、そのフォルダ内のすべての項目も非公開になります。フォルダおよび項目の公開についての詳細は、『[ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド](#)』を参照してください。

注意：[マイコンテンツ] フォルダおよびそのフォルダパス上にあるコンテンツを公開することはできません。

手順 ReportLibrary レポートを公開するには

1. WebFOCUS Hub、ホームページのワークスペースエリア、または ReportCaster エクスプローラから、公開する ReportLibrary レポートまたはフォルダを選択します。

注意：フォルダ内の項目を公開するには、そのフォルダ自体を公開する必要があります。公開済みの項目およびフォルダは、カラーのアイコンで表示されます。非公開の項目およびフォルダは、白黒のアイコンで表示されます。

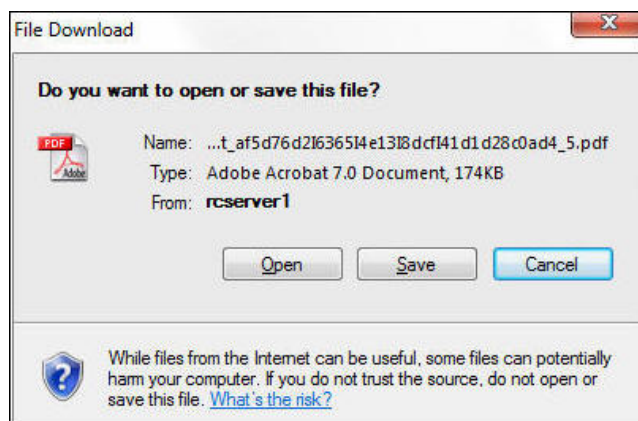
2. 項目またはフォルダを右クリックし、[公開] を選択します。

手順 ReportLibrary レポートを非公開にするには

1. 開始ページのワークスペースエリア、WebFOCUS ホームページ、または ReportCaster エクスプローラで、非公開にする ReportLibrary レポートまたはフォルダを選択します。
2. 非公開にする公開済みフォルダまたは項目を右クリックし、[非公開] を選択します。

ReportLibrary レポートの保存

[ReportLibrary バージョン] ダイアログボックスまたは ReportCaster エクスプローラツリーで ReportLibrary レポートを選択し、[名前を付けて保存] コンテキストメニューオプションを使用することで、ReportLibrary レポートをユーザのマシンに保存することができます。[名前を付けて保存] コンテキストメニューオプションを選択すると、ReportLibrary レポートファイルがユーザのマシンにダウンロードされます。ファイルをダウンロードする際に、Windows の [ファイルのダウンロード] ダイアログボックスが開いて、ファイルを開く、ファイルを保存する、またはファイルのダウンロードをキャンセルするオプションが表示されます。下図は、PDF フォーマットの ReportLibrary レポートの [ファイルのダウンロード] ダイアログボックスを示しています。



Windows の [ファイルのダウンロード] ダイアログボックスに表示される [名前] の値は、レポートが ReportLibrary に配信された際に割り当てられた ReportLibrary レポート名です。Windows の [ファイルのダウンロード] ダイアログボックスで [保存] オプションを選択した場合、Windows の [保存] ダイアログボックスで [名前] の値を変更したり、ReportLibrary レポートの保存先を選択したりできます。

手順

WebFOCUS ホームページで ReportLibrary レポートに名前を付けて保存するには

1. WebFOCUS Hub またはホームページのワークスペースエリアで、マシンに保存する ReportLibrary レポートを選択します。
2. ReportLibrary レポートを右クリックし、[表示]、[バージョン] を順に選択します。
3. [ReportLibrary バージョン] ダイアログボックスで、保存する ReportLibrary レポートバージョンを右クリックし、[名前を付けて保存] を選択します。

Windows の [ファイルのダウンロード] ダイアログボックスが表示されます。

4. [保存] をクリックします。

Windows の [保存] ダイアログボックスが表示されます。ここで、ReportLibrary レポートをユーザのマシンに保存することができます。

手順 ReportCaster エクスプローラで ReportLibrary レポートに名前を付けて保存するには

1. ReportCaster エクスプローラを開きます。
2. ツールバーの [フィルタの変更] ボタンをクリックし、[ReportLibrary レポート] を選択します。

注意: ウォッチリストに ReportLibrary レポートを登録済みの場合は、[ウォッチリスト] を選択することもできます。

3. ReportLibrary レポートが格納されているフォルダを選択するか、ReportLibrary レポートへのパス上のフォルダを選択し、[選択したフォルダとサブフォルダのファイルを表示] ツールバーオプションを選択します。
4. 右側のウィンドウで、ユーザのマシンに保存する ReportLibrary レポートを選択します。
5. ツールバーの [バージョンリストウィンドウの表示] オプションをクリックします。

ReportLibrary レポートリスト下側のウィンドウに、ReportLibrary レポートの各バージョンが表示されます。

6. ユーザのマシンに保存するレポートバージョンを右クリックし、[名前を付けて保存] を選択します。Windows の [ファイルのダウンロード] ダイアログボックスが表示されます。
7. [保存] をクリックします。

Windows の [保存] ダイアログボックスが表示されます。ここで、ReportLibrary レポートをユーザのマシンに保存することができます。

ReportLibrary コンテンツの削除

ReportLibrary からコンテンツを削除するには、ユーザが ReportLibrary レポートのオーナーであるか、ReportLibrary コンテンツを管理する権限または他のユーザのプライベートコンテンツを管理する権限を所有している必要があります。

リソースツリーで ReportLibrary レポートを削除しても、その ReportLibrary レポートの各バージョンは削除されません。リソースツリーまたは ReportCaster エクスプローラの ReportLibrary レポートリストに表示されている ReportLibrary は、ユーザがその ReportLibrary レポートの各バージョンにアクセスできるよう、レポートの作成元スケジュールに関連付けられたものです。リソースツリーで ReportLibrary レポートを削除すると、ユーザはその ReportLibrary レポートの既存のバージョンに一時的にアクセスできなくなりますが、レポートの作成元スケジュールが再実行され、新しいバージョンが配信されると、スケジュールに関連付けられた ReportLibrary レポートが再作成されます。

ReportLibrary レポートまたはウォッチリストレポートの特定のバージョンを削除するには、その ReportLibrary レポートまたはウォッチリストレポートの有効なバージョンのリストを取得します。ReportLibrary レポートの各バージョンのリストは、次の方法でリソースツリーまたは ReportCaster エクスプローラから取得することができます。

- ❑ リソースツリーで、ReportLibrary レポートまたはウォッチリストレポートを右クリックし、[表示]、[バージョン] を順に選択します。
- ❑ ReportCaster エクスプローラで、ツールバーの [フィルタ] オプションから [ReportLibrary レポート] または [ウォッチリスト] を選択し、リソースツリーから ReportLibrary レポートが格納されているフォルダを選択します。選択したフォルダのフォルダパス上のファイルを表示するには、ツールバーの [ファイルを表示] オプションから、[選択したフォルダとサブフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。レポートリストのウィンドウで、レポートを選択します。ReportLibrary レポートリスト下側のウィンドウに、ReportLibrary レポートの各バージョンが表示されます。

削除する ReportLibrary レポートまたはウォッチリストレポートのバージョンを右クリックし、[削除] を選択します。

ReportLibrary レポートの特定のバージョンを削除した場合でも、残りのバージョンの番号は変更されません。たとえば、レポートに 6 つのバージョンが存在し、バージョン 1、2、4 を削除した場合、バージョン 3、5、6 が残り、次に ReportLibrary に配信されるバージョンは 7 です。

ReportLibrary レポートのすべてのバージョンを削除した場合でも、その ReportLibrary レポートは引き続きリソースツリーに表示されます。これは、この ReportLibrary レポートが、今後のレポート配信のためにスケジュールに関連付けられた項目のためです。

ReportLibrary レポートは、次のすべてが削除されるまで ReportLibrary に保持されます。

- ❑ スケジュールの実行により配信された ReportLibrary レポートのすべてのバージョン。

- ❑ リソースツリーのフォルダで、スケジュールに関連付けられている ReportLibrary レポート。
- ❑ ReportLibrary レポートのバージョンを今後作成する予定がない場合は、ReportLibrary レポートが関連付けられているスケジュールを削除します。

切り取りと貼り付けによる ReportLibrary レポートの移動

[切り取り] および [貼り付け] オプションを使用して、リポジトリ内の複数のフォルダ間で ReportLibrary レポートを移動することができます。ReportLibrary レポートの切り取りと貼り付けを実行できるかどうかは、フォルダのユーザアクセス権限に基づいて決定されます。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

手順

ReportLibrary レポートを切り取り、貼り付けるには

1. WebFOCUS Hub またはホームページで、ReportLibrary レポートを右クリックし、[切り取り] を選択します。
2. 新しい移動先のフォルダを右クリックし、[貼り付け] を選択します。

ReportLibrary レポートが、新しいフォルダに表示されます。

注意

- ❑ ReportLibrary レポートを生成するスケジュールは、ReportLibrary レポートの項目を移動した後も正常に実行されます。ただし、この ReportLibrary レポートの生成元のスケジュールを編集する場合は、スケジュールの保存前にこの ReportLibrary レポート配信のパスを更新する必要があります。この配信のパスが更新されなかった場合、警告メッセージが表示されます。ReportLibrary レポートがバーストスケジュールプロシジャで生成された場合、警告メッセージは表示されません。
- ❑ ReportLibrary レポートは、切り取りを実行した同じフォルダに貼り付けることができます。

また、ドラッグアンドドロップ操作で新しいフォルダに ReportLibrary レポートを移動することもできます。詳細は、349 ページの「[ReportLibrary の使用](#)」を参照してください。

Web ビューアレポートの表示

ReportLibrary の Web ビューア機能を使用して、レポートを一度に 1 ページずつ表示し、残りのページを Web サーバまたは Application Server で保持して、必要に応じて表示させることができます。レポートが表示されるまでの待機時間を短縮することができるため、この機能は、レポートが大規模な場合に役立ちます。

Web ビューアレポートは、ReportLibrary の Web ビューア内で開きます。Web ビューアは、レポートのページを表示して、レポート内の特定のページまたは情報を検索するためのフレームワークを提供します。

注意：[ReportLibrary 配信] を選択すると、Distribution Server により、プロシ ज्याに「SET WEBVIEWTARG=OFF」が追加され、ReportLibrary のフレームの動作が制御されます。

SET WEBVIEWTARG により、ON TABLE SET WEBVIEWTARG が上書きされることはありません。そのため、スケジュールするプロシ ज्याに、target_frame 値が指定された ON TABLE SET WEBVIEWTARG ステートメントを含めることはできません。WEBVIEWTARG コマンドおよびその他の Web ビューア設定についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® アプリケーション作成ガイド』を参照してください。

すべての ReportLibrary レポートで、Web ビューアレポートを別のウィンドウに表示することも、ReportLibrary バージョンリストから表示ウィンドウに表示することもできます。

ReportLibrary レポートの表示についての詳細は、350 ページの「[ReportLibrary コンテンツの表示](#)」または 383 ページの「[ReportCaster エクスプローラ](#)」を参照してください。

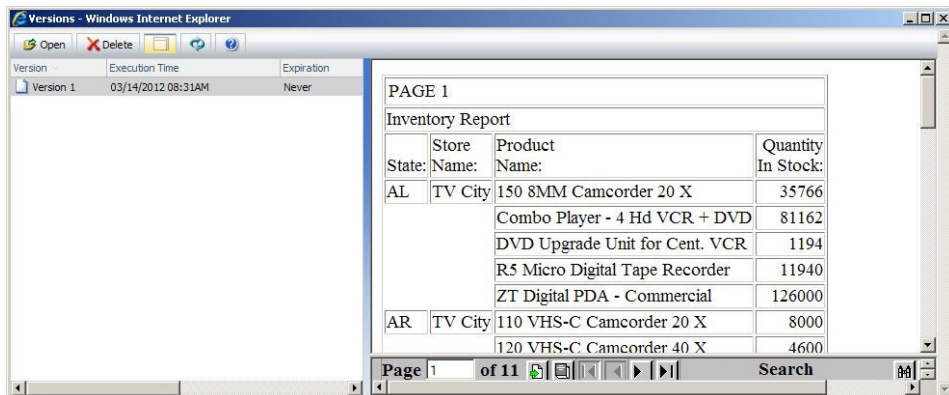
下図の例は、ReportLibrary の表示ウィンドウに表示された Web ビューアレポートを示しています。

Version	Execution Time	Expiration	Size
Version 3	03/19/2012 09:04AM	Never	174977
Version 2	03/15/2012 08:00AM	Never	174977
Version 1	03/14/2012 08:31AM	Never	64990

State:	Name:	Product Name:	Quantity In Stock:
AL	TV City	150 8MM Camcorder 20 X	35766
		R5 Micro Digital Tape Recorder	11940
		ZT Digital PDA - Commercial	126000
AR	TV City	150 8MM Camcorder 20 X	95376
		650DL Digital Camcorder 150 X	5944
		QX Portable CD Player	44000
		R5 Micro Digital Tape Recorder	27860
		ZT Digital PDA - Commercial	294000
AZ	eMart	150 8MM Camcorder 20 X	154986
		650DL Digital Camcorder 150 X	11888
		AR2 35MM Camera 8 X	45996
		QX Portable CD Player	308000
		R5 Micro Digital Tape Recorder	35820
		ZC Digital PDA - Standard	132000
		ZT Digital PDA - Commercial	378000
CA	AV VideoTown	150 8MM Camcorder 20 X	166908

Page 1 of 36 Search

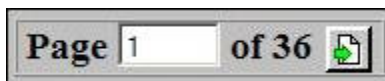
ReportLibrary バージョンの [表示] ウィンドウで Web ビューアレポートを表示した場合、Web ビューアコントロールパネルが完全には表示されず、縦のスクロールコントロールとともにレポートが表示されます。この問題を回避するには、ツールバーまたは選択した ReportLibrary レポートのコンテキストメニューから [開く] オプションを選択して、下図のように Web ビューアレポートを新しいウィンドウに表示します。



WebFOCUS ビューアの下部には、下図のような Web ビューアのコントロールパネルが表示されます。



これらのコントロールを使用して、特定のページを表示することができます。特定のページを表示するには、[ページ] テキストボックスにページ番号を入力して Enter キーを押すか、[ページ] テキストボックス横の [移動] アイコンをクリックしてページ番号を入力します。下図は、コントロールパネルに表示される [ページ] テキストボックスとアイコンを示しています。



前ページまたは次ページを順に表示するには、下図の [戻る] または [次へ] 矢印をクリックします。



レポートの最初または最後のページを表示するには、下図のような [最初のページ] または [最後のページ] の矢印をクリックします。



レポート全体を 1 つのドキュメントとしてブラウザにダウンロードするには、下図のような [すべてのページ] アイコンをクリックします。



WebFOCUS ビューアを閉じるには、下図のような [閉じる] アイコンをクリックします。



Web ビューアレポートの検索

ビューアコントロールパネルには、レポート内を検索するためのコントロールがいくつか用意されています。ビューアの検索コントロールを使用して、レポート内の語句や数字グループなどの文字列情報の選択や、一致した個々の文字列の検索が行えます。語句の大文字小文字の正確な一致 (大文字と小文字を区別した検索)、または検索の方向 (レポート上の検索開始地点から前方または後方のいずれか) を指定して、さらに検索方法をカスタマイズすることができます。これらのコントロールを使用して、レポートを検索します。

- ☐ 大文字小文字を区別した検索を実行するには、下図のような [大文字と小文字の区別] をクリックします。



- ☐ レポートを後方へ検索するには、下図のような [検索方向] をクリックします。



- ☐ 特定の文字列を検索するには、下図のようなテキストボックスに、検索する文字列を入力して [検索] アイコンをクリックします。

注意：この検索機能を使用すると、入力した文字列が存在するページが検索され、その文字列に下線が付けられます。ページ内の文字列を検索するには、ブラウザの検索オプションを使用する必要があります。



手順 Web ビューアレポートを検索するには

1. [検索] テキストボックスに文字列を入力します。
2. 大文字小文字を区別した検索を実行するには、[大文字と小文字の区別] アイコンをクリックします。

WebFOCUS ビューアでは、[大文字と小文字の区別] が有効な場合、赤いラインが引かれた状態で表示されることに注意してください。

3. 検索を開始するには、次のいずれかをクリックします。
 - a. 検索方向 - 現在のページから最初のページに向けて、文字列を検索します。

または

- b. 検索 - レポートの現在のページから最後に向けて検索します。

WebFOCUS ビューアでは、レポートを検索して最初に一致した文字列が、下線付きで表示されます。

注意：この検索機能を使用すると、入力した文字列が存在するページが検索され、その文字列に下線が付けられます。 ページ内の文字列を検索するには、ブラウザの検索オプションを使用する必要があります。

4. 一致する他の文字列を検索するには、再度 [検索] アイコンをクリックします。

注意：一致する文字列が複数個検索され、これらが同一ページに表示される場合は、次の文字列に下線が付けられます。最後の文字列に到達すると、一致する文字列の次のページが表示され、先頭の文字列に下線が付けられます。

例 ビューアコントロールパネルを使用した検索

この例では、ビューアコントロールパネルを使用して、「Inventory Sales within State」という大規模レポートで、販売している電化製品タイプの「Digital」という文字列を検索します。レポートを実行後、WebFOCUS ビューアにレポートの最初のページが表示されます。

1. 「Digital」という文字列を含む電化製品を検索するには、入力ボックスに「Digital」と入力し、[検索] アイコンをクリックします。



The screenshot shows a web browser window titled "WebFOCUS Viewer - Windows Internet Explorer". The main content is an "Inventory Report" titled "Store Inventory within State". It displays a table of inventory items with columns for State, Store Name, Product Name, and Quantity In Stock. A search bar at the bottom shows "Page 1 of 36" and a search box containing "Digital".

State:	Store Name:	Product Name:	Quantity In Stock:
AL	TV City	150 8MM Camcorder 20 X	35766
		R5 Micro Digital Tape Recorder	11940
		ZT Digital PDA - Commercial	126000
AR	TV City	150 8MM Camcorder 20 X	95376
		650DL Digital Camcorder 150 X	5944
		QX Portable CD Player	44000
		R5 Micro Digital Tape Recorder	27860
AZ	eMart	ZT Digital PDA - Commercial	294000
		150 8MM Camcorder 20 X	154986
		650DL Digital Camcorder 150 X	11888
		AR2 35MM Camera 8 X	45996
		QX Portable CD Player	308000
		R5 Micro Digital Tape Recorder	35820
CA	AV VideoTown	ZC Digital PDA - Standard	132000
		ZT Digital PDA - Commercial	378000
		150 8MM Camcorder 20 X	166908

Page 1 of 36 Search Digital

WebFOCUS ビューアにレポートが返され、下図のように、検索文字列と最初に一致した文字列が下線付きで表示されます。



The screenshot shows a web browser window titled "WebFOCUS Viewer - Windows Internet Explorer". The main content is an "Inventory Report" titled "Store Inventory within State". The report is a table with four columns: "State:", "Store Name:", "Product Name:", and "Quantity In Stock:". The table lists inventory items for three states: AL, AR, and AZ. The search term "Digital" is entered in the search box at the bottom, and the results show that the word "Digital" in the product names is underlined.

State:	Store Name:	Product Name:	Quantity In Stock:
AL	TV City	150 8MM Camcorder 20 X	35766
		R5 Micro <u>Digital</u> Tape Recorder	11940
		ZT Digital PDA - Commercial	126000
AR	TV City	150 8MM Camcorder 20 X	95376
		650DL Digital Camcorder 150 X	5944
		QX Portable CD Player	44000
		R5 Micro Digital Tape Recorder	27860
AZ	eMart	ZT Digital PDA - Commercial	294000
		150 8MM Camcorder 20 X	154986
		650DL Digital Camcorder 150 X	11888
		AR2 35MM Camera 8 X	45996
		QX Portable CD Player	308000
		R5 Micro Digital Tape Recorder	35820
CA	AV VideoTown	ZC Digital PDA - Standard	132000
		ZT Digital PDA - Commercial	378000
		150 8MM Camcorder 20 X	166908

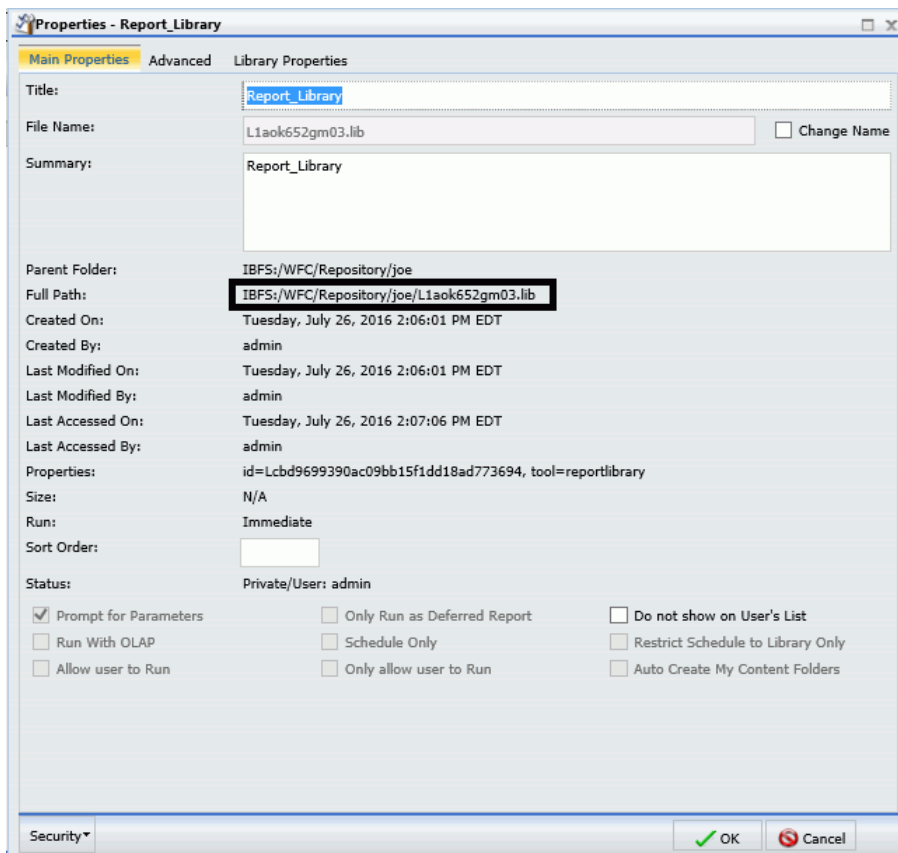
Page 1 of 36 Search Digital

2. [検索] を再度クリックし、「Digital」と一致する次の文字列を検索します。

注意：一致する文字列が複数個検索され、これらが同一ページに表示される場合は、次の文字列に下線が付けられます。最後の文字列に到達すると、一致する文字列の次のページが表示され、先頭の文字列に下線が付けられます。

ReportLibrary レポートの特定バージョンを Excel および他のドキュメントで開く

下図のように、ReportLibrary レポートのプロパティには、パスを含めた URL が表示されます。この URL を使用して、特定バージョンの ReportLibrary レポートを Excel で開くことができます。



この機能に使用する URL は、次の URL コンポーネントで構成されます。

- ❑ **パス** ReportLibrary レポートの [プロパティ] ダイアログボックスに表示されます。
- ❑ **ReportLibrary URL** ReportLibrary を識別する標準 URL です (http://host:port/ibi_apps/lib-report.rc)。

上図の例では、パス情報と ReportLibrary URL を組み合わせると、完全な URL は次のようになります。

http://host:port/ibi_apps/lib-report.rc?path=IBFS:/WFC/Repository/joe/L1ack652gm03.lib

注意：上記の疑問符 (?) は、修飾 URL の必須コンポーネントです。

この URL を使用して、この方法で識別される ReportLibrary レポートの現在バージョンを Excel で開いたり、Microsoft Word や HTML ページなどの他のタイプのドキュメントで開いたりできます。

アクセスリストの作成と管理

アクセスリストは、スケジュールの実行により ReportLibrary に配信されたレポート出力にアクセス可能なグループおよびユーザを定義したリストです。同一のアクセスリストを複数のスケジュールで使用することもできます。

アクセスリストは、ユーザが所有するプライベート項目として作成され、他のグループやユーザがスケジュールの作成時にそのアクセスリストを使用できるように共有することができます。共有済みアクセスリストの使用が許可されているユーザは、ReportLibrary にレポートを配信するスケジュールを作成し、配信されたレポートを、共有対象として許可されているグループやユーザと共有することができます。

注意：アクセスリストに変更を加えた場合、その変更はアクセスリストで保護されている ReportLibrary レポートに適用されますが、実際に適用されるのは、その ReportLibrary レポートを作成するスケジュールの次回実行時になります。

下図は、[ReportLibrary アクセスリスト] タブを示しています。

Burst Value	Member
	/Sales/GroupAdmins
	/Retail/Developers
	/Sales/Developers

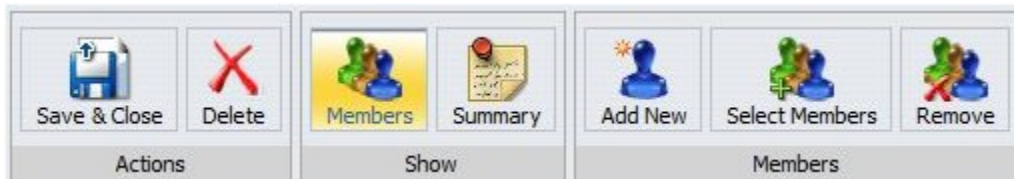
アクセスリストツールにアクセスし、リソースツリーのフォルダに保存する権限を所有しているユーザは、次のことを行えます。

- ❑ 新しいアクセスリストの作成。
- ❑ 新しいメンバーの追加。[追加] オプションを使用して、メンバー情報を入力することができます。アクセスリストを保存するには、少なくとも 1 名のメンバーを指定する必要があります。
- ❑ メンバーの選択。[メンバーの選択] オプションを使用して、アクセスが許可されている既存のアクセスリストからメンバーを選択することができます。
- ❑ アクセスリストの削除。アクセスリストのオーナー、および他のユーザのプライベートコンテンツを管理する権限を所有しているユーザは、アクセスリストを削除することができます。
- ❑ アクセスリストを保存して閉じる。書き込みが許可されているフォルダにアクセスリストを保存することができます。
- ❑ ReportLibrary のリフレッシュ。これにより、最新のアクセスリスト情報に更新することができます。[メンバーの選択] タブでアクセスリストのリストを更新するには、[リフレッシュ] をクリックします。
- ❑ プロパティの編集。アクセスリストのオーナー、および他のユーザのプライベートコンテンツを管理する権限を所有しているユーザは、リソースツリーまたは ReportCaster エクスプローラから、タイトルおよび概要を変更することができます。多言語がサポートされません。

アクセスリストツールのツールバーには、新しいアクセスリストを作成する [新規アクセスリスト] オプションのほか、現在のアクセスリストの [保存]、[名前を付けて保存]、[削除]、[閉じる] オプションがあります。ヘルプ情報にアクセスすることもできます。



リボンでは、アクセスリストを保存して閉じる、アクセスリストの削除、メンバーの表示、概要の表示、アクセスリストへの新規メンバーの追加、アクセスリストに追加するメンバーの選択、アクセスリストからのメンバーの削除を行えます。下図のようなリボンが表示されます。



手順 新しいアクセスリストを作成するには

新しいアクセスリストを作成するには、次の手順を実行します。:

1. 開始ページのワークスペースエリアまたは WebFOCUS ホームページで、新しいアクセスリストを作成するワークスペースを選択します。
2. アクションバーで [スケジュール] をクリックし、[アクセスリスト] ボタンを選択します。
[アクセスリスト] ダイアログボックスが開きます。
3. [メンバー] タブの [タイトル] テキストボックスに、アクセスリストの名前を入力します。

4. [追加] または [メンバーの選択] タブをクリックし、アクセスリストに新しいメンバーを追加します。
 - ❑ [追加] タブをクリックすると、共有対象として選択可能なグループおよびユーザが表示されます。アクセスリストにグループまたはユーザを追加すると、そのグループやユーザが、アクセスリストで保護されている ReportLibrary レポートを表示できるようになります。これらのグループやユーザが ReportLibrary レポートのコンテンツを表示するには、[Access Library Content] 権限を所有している必要があります。
 - ❑ [メンバーの選択] タブをクリックすると、メンバーの表示および選択が許可されている既存のアクセスリストが表示されます。
5. 必要に応じて、[バースト値] テキストボックスにバースト値を入力して、グループまたはユーザに配信するレポートセクションを指定します。この値の大文字と小文字は区別されます。レポートの配信をアクセスリストのバースト値に制限するには、アクセスリストが指定されたスケジュールで、[バーストレポート] のチェックをオンにする必要があります。バースト値についての詳細は、170 ページの「[レポートのバースト](#)」を参照してください。
6. アクセスリストの説明をユーザに提示する場合は、[概要] タブをクリックし、アクセスリストの説明を入力します。

注意：アクセスリストツールを閉じずに別のアクセスリストを作成するには、メインメニューをクリックし、[新規アクセスリスト] を選択します。
7. [保存して閉じる] をクリックして、アクセスリストを保存します。

注意

 - ❑ 別のアクセスリストを作成するには、現在の [アクセスリスト] ウィンドウを閉じ、手順 1 に戻る必要があります。別の方法として、アクセスリストツールバーのメインメニューをクリックし、[新規アクセスリスト] を選択します。
 - ❑ ファイルのタイトル値の最大長は 256 バイトです。
 - ❑ ファイルのタイトルがフォルダ内の既存ファイルと同一名の場合、既存ファイルを置き換えるかどうかのメッセージが表示されます。

手順

アクセスリストを編集するには

ユーザが所有するアクセスリスト、またはユーザが管理権限を所有するアクセスリストを編集するには、リソースツリーまたは ReportCaster エクスプローラで次の手順を実行します。

1. 編集するアクセスリストを選択します。
2. アクセスリストを右クリックし、[編集] を選択します。

[アクセスリスト] ウィンドウが表示されます。

3. アクセスリストに必要な変更を加え、[保存して閉じる] をクリックします。アクセスリストのタイトルを変更しても、そのアクセスリストを識別する一意の内部名は変更されません。
4. アクセスリストからメンバーを削除するには、[削除] タブをクリックします。
5. アクセスリストを編集する場合は、必要な変更を加えた上で、[保存して閉じる] をクリックします。

手順 アクセスリストをコピーするには

リソースツリーまたは ReportCaster エクスプローラの [複製の作成] オプションまたは [コピー] と [貼り付け] オプションを使用して、ユーザが所有するアクセスリスト、またはユーザが管理権限を所有するアクセスリストのコピーを作成することができます。

既存のアクセスリストのコピーを同一フォルダ内に作成するには、次の手順を実行します。

1. WebFOCUS Hub、ホームページのワークスペースエリア、または ReportCaster エクスプローラで、アクセスリストで項目にフィルタを設定し、コピーするアクセスリストを選択します。
2. アクセスリストを右クリックし、[複製の作成] を選択します。アクセスリストのコピーが同一フォルダ内に作成され、ファイル名の末尾に連続番号が追加されます。

たとえば、「Products」というタイトルのアクセスリストの複製を作成すると、リソースツリーにアクセスリストのコピーが「Products_1」というタイトルで表示されます。別の方法として、[コピー] と [貼り付け] オプションを使用して、アクセスリストを同一フォルダ内にコピーすることもできます。その場合は、374 ページの「[既存のアクセスリストを別のフォルダにコピーするには](#)」を参照し、アクセスリストのコピー先フォルダを選択する際に、コピー元のアクセスリストと同一のフォルダを選択します。

手順 既存のアクセスリストを別のフォルダにコピーするには

書き込みおよびコンテンツの作成が許可されている別のフォルダに既存のアクセスリストをコピーするには、次の手順を実行します。

1. WebFOCUS Hub、ホームページのワークスペースエリア、または ReportCaster エクスプローラで、アクセスリストで項目にフィルタを設定し、コピーするアクセスリストを選択します。
2. アクセスリストを右クリックし、[コピー] を選択します。
3. リソースツリーで、アクセスリストのコピー先フォルダを選択します。
4. 右クリックして [貼り付け] を選択します。

手順 アクセスリストを別のフォルダに移動するには

開始ページのワークスペースエリア、WebFOCUS ホームページ、または ReportCaster エクスプローラの [切り取り] と [貼り付け] オプションを使用して、ユーザが所有するアクセスリスト、またはユーザが管理権限を所有するアクセスリストを別のフォルダに移動することができます。

重要: アクセスリストを別のフォルダに移動した場合、そのアクセスリストを参照している既存の ReportLibrary スケジュールを編集し、移動先フォルダ内のアクセスリストを参照するよう更新する必要があります。これは、ReportLibrary スケジュール情報にアクセスリストのパスおよび名前が格納されているためです。この情報に基づいて、スケジュールの実行時にアクセスリスト情報が取得されます。

書き込みおよびコンテンツの作成が許可されている別のフォルダに既存のアクセスリストを移動するには、次の手順を実行します。

1. WebFOCUS Hub、ホームページのワークスペースエリア、または ReportCaster エクスプローラで、アクセスリストで項目にフィルタを設定し、別のフォルダに移動するアクセスリストを選択します。
2. アクセスリストを右クリックし、[切り取り] を選択します。
3. リソースツリーで、アクセスリストの移動先フォルダを選択します。
4. 右クリックして [貼り付け] を選択します。

注意: アクセスリストの貼り付け先フォルダへの書き込みおよびコンテンツ作成が許可されている必要があります。選択したフォルダにアクセスリストのタイトルがすでに存在する場合は、メッセージが表示されます。貼り付け操作の完了後、このアクセスリストを使用する ReportLibrary スケジュールが、新しいフォルダを参照するよう更新する必要があります。

手順 アクセスリストを削除するには

WebFOCUS Hub、ホームページのワークスペースエリア、または ReportCaster エクスプローラで次の手順を実行することで、所有または管理権限を所有するアクセスリストを削除することができます。

重要: アクセスリストを削除すると、そのアクセスリストを参照しているスケジュールが正しく実行されなくなります。アクセスリストを削除する前に、そのアクセスリストを参照しているスケジュールが存在するかどうかを確認します。

1. WebFOCUS Hub、ホームページのワークスペースエリアで、削除するアクセスリストを選択します。

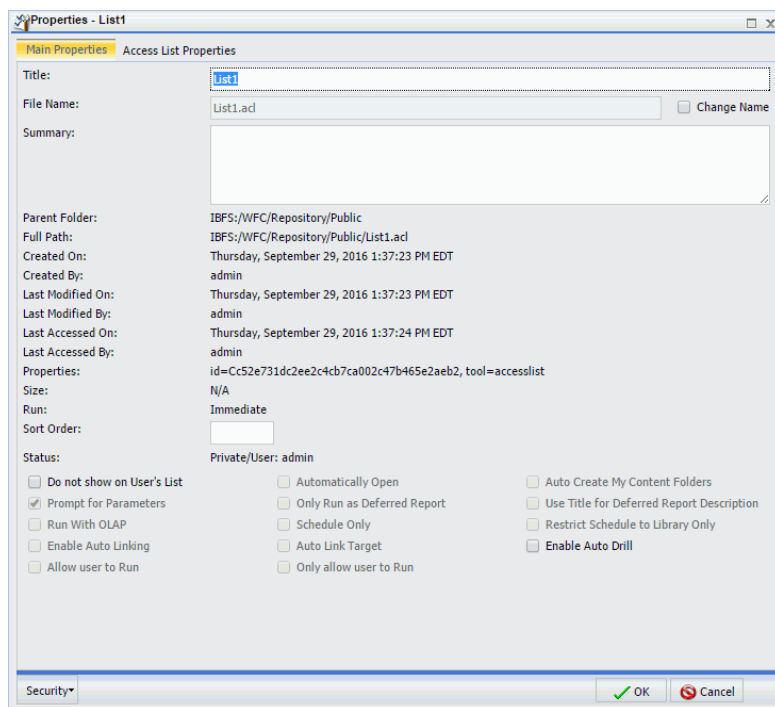
2. アクセスリストを右クリックし、[削除] を選択します。
3. アクセスリストを削除する場合、アクセスリストの削除を確認するメッセージが表示されます。[OK] をクリックして、アクセスリストの削除を確定します。

手順

アクセスリストのタイトルまたは概要を変更するには

リソースツリーの [プロパティ] オプションまたはアクセスリストツールを使用して、ユーザが所有するアクセスリスト、またはユーザが管理権限を所有するアクセスリストのタイトルまたは概要を変更することができます。[プロパティ] オプションを使用してタイトルまたは概要を変更するには、次の手順を実行します。

1. 下図のように、WebFOCUS Hub、ホームページのワークスペースエリア、または ReportCaster エクスプローラで、タイトルまたは概要を変更するアクセスリストを右クリックし、[プロパティ] を選択します。



2. [タイトル] テキストボックスに、新しいタイトルを入力します。
3. [概要] テキストボックスに、新しい概要を入力します。このテキストボックスの入力はオプションです。
4. タイトルおよび概要を入力後、[OK] をクリックします。

手順 アクセスリストツールでタイトルまたは概要を変更するには

アクセスリストツールでアクセスリストのタイトルまたは概要を変更するには、次の手順を実行します。

1. WebFOCUS Hub、ホームページのワークスペースエリア、または ReportCaster エクスプローラで、タイトルまたは概要を変更するアクセスリストを右クリックし、[編集] を選択します。
2. [タイトル] テキストボックスに、新しいタイトルを入力します。
3. オプションの概要を入力するには、[概要] タブをクリックし、新しい概要を入力します。
4. 概要を入力後、[保存して閉じる] タブをクリックします。

アクセスリストへのアクセス

プライベートアクセスリストを共有すると、オーナーシップを変更せずに、そのアクセスリストを他のグループやユーザが表示したり、スケジュールで使用したりできるようになります。権限を所有するユーザは、ユーザのプライベートアクセスリストを、共有対象として許可されているグループおよびユーザと共有することができます。共有済みアクセスリストの格納先フォルダへのアクセスが許可されているユーザは、そのフォルダ内のアクセスリストにアクセスすることができます。

権限を所有するユーザは、アクセスリストを公開または非公開にすることができます。アクセスリストを公開すると、そのアクセスリストの格納先フォルダへのアクセスが許可されているユーザがアクセスリストを使用できるようになります。公開する場合は、項目が格納されているフォルダを公開する必要があります。公開したフォルダを非公開にすると、そのフォルダ内のすべての項目も非公開になります。フォルダおよび項目の公開と共有についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

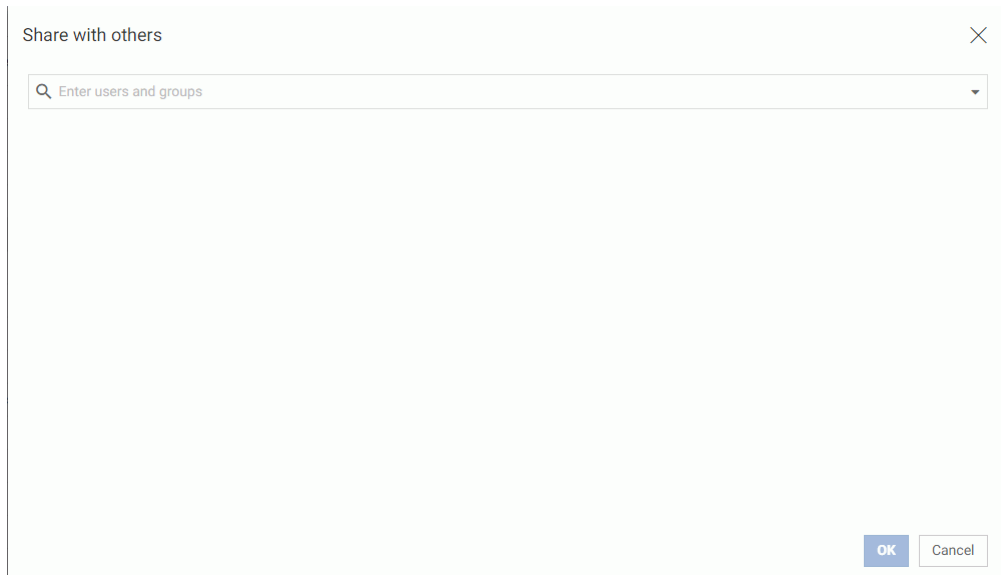
手順 アクセスリストを共有するには

ユーザが各自の [マイコンテンツ] フォルダに保存したプライベートコンテンツを共有する権限を所有する場合、WebFOCUS Hub またはホームページのワークスペースエリアで、アクセスリストが保存されているフォルダを右クリックして [共有する] を選択することで、このフォルダへのアクセス権限を所有するユーザとアクセスリストを共有することができます。

[高度な共有] オプションの使用権限を所有している場合は、次の手順を実行して、共有対象として許可されているグループやユーザと、[マイコンテンツ] フォルダ内のプライベートコンテンツを共有することができます。

1. 共有するアクセスリストを右クリックし、[共有の設定] を選択します。

下図のように、[別のユーザと共有] ダイアログボックスが表示されます。



2. [検索] テキストボックスのドロップダウン矢印をクリックし、ユーザまたはグループの選択条件を表示します。[ユーザ] または [グループ] で検索結果にフィルタを設定できます。
3. フィルタの選択後、検索テキストボックスへの入力を開始すると、選択可能なユーザまたはグループが表示されます。アクセスリストの表示を許可するユーザまたはグループのリストに追加するユーザまたはグループを選択します。必要に応じて、リストから除外するユーザまたはグループのタイルで X をクリックします。
4. アクセスリストを共有するユーザまたはグループの選択を完了後、[OK] をクリックします。

アクセスリストの公開

アクセスリストなどワークスペース内の項目を公開するには、そのワークスペース自体を公開する必要があります。公開済みの項目およびフォルダはカラーで表示され、非公開の項目およびフォルダは白黒で表示されます。

WebFOCUS Hub またはホームページのワークスペースエリアで、公開するアクセスリストが格納されているドメインを右クリックし、[公開] を選択します。ワークスペースおよびワークスペース内のアクセスリストを非公開にするには、[非公開] を選択します。

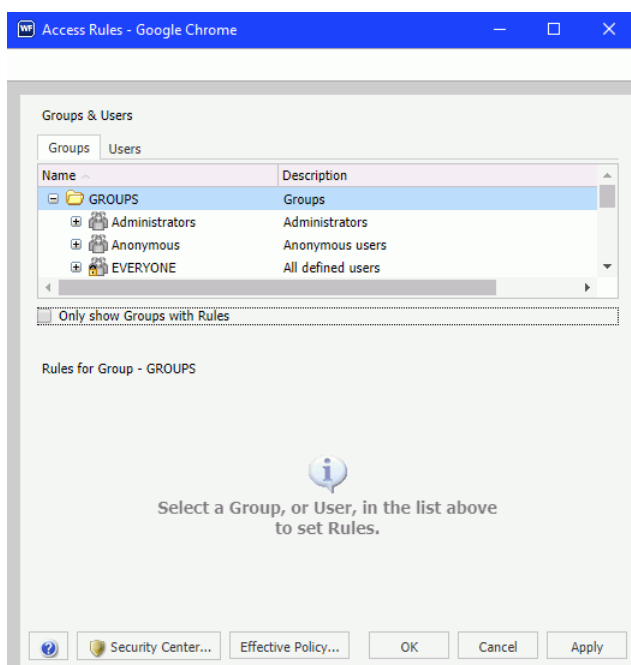
手順 アクセスリストにセキュリティルールを設定するには

権限を所有するユーザは、非公開アクセスリストにセキュリティを設定し、他のグループやユーザがアクセスリストを表示、管理できるよう許可することができます。詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

注意：権限を所有するユーザは、アクセスリストを右クリックし、[セキュリティ]、[有効なポリシー] を順に選択することで、セキュリティポリシーを確認することができます。

1. アクセスリストを格納するワークスペースを選択するか、セキュリティを設定する非公開アクセスリストを選択します。
2. 右クリックして、[セキュリティ]、[ルール] を順に選択します。

下図のように、[アクセスルール] ダイアログボックスが開きます。



3. [グループ] タブで、アクセスリストへのアクセスを許可するグループまたはユーザを選択します。必要に応じて、[ルールが存在するグループのみを表示する] のチェックをオンにして、ルールが設定済みのグループのみを表示することもできます。

選択したグループの [ルール] が、[グループを対象とするルール] セクションに表示されます。

4. 必要に応じて、[グループを対象とするルール] セクションで [ルール] ドロップダウンリストをクリックし、特定のルールのみを表示することもできます。

5. 必要に応じて、[設定済みのルールのみを表示する]のチェックをオンにして、使用可能なルールの上にさらにフィルタを設定することもできます。
6. ロールのいずれかを選択します。このルールで定義されている権限に基づいて、アクセスレベルが設定されます。
7. [アクセス] ドロップダウンリストから、許可レベルを選択します。

次のオプションがあります。

- ☐ **設定しない** アクセス許可は設定されていません。アクセス許可は、継承されたルールに基づいて決定されます。
 - ☐ **許可する** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を許可します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ]のいずれかを選択することができます。
 - ☐ **拒否する** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を拒否します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ]のいずれかを選択することができます。
 - ☐ **最上級の許可** アクセスレベルの [拒否する] を無効にし、[適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールの権限を許可します。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ]のいずれかを選択することができます。
 - ☐ **継承のクリア** [適用先] ドロップダウンリストで指定したレベルで、選択したロールで拒否されているルールをすべてクリアします。[適用先] ドロップダウンリストから、[フォルダと下位]、[フォルダのみ]、[下位のみ]のいずれかを選択することができます。
8. [ユーザ] タブをクリックすると、アクセスリストへのアクセスを許可するユーザのリストが表示されます。必要に応じて、[ルールが存在するユーザのみを表示する]のチェックをオンにして、ルールが設定済みのユーザのみを表示することもできます。
選択したユーザの [ロール] が、[ユーザを対象とするルール] セクションに表示されます。
 9. 必要に応じて、[ユーザを対象とするルール] セクションで [ロール] ドロップダウンリストをクリックし、特定のロールのみを表示することもできます。
 10. 必要に応じて、[設定済みのルールのみを表示する]のチェックをオンにして、使用可能なルールの上にさらにフィルタを設定することもできます。
 11. ロールのいずれかを選択します。このルールで定義されている権限に基づいて、アクセスレベルが設定されます。

12. 手順 7 で説明したように、[アクセス] ドロップダウンリストでアクセスレベルを選択します。
13. [適用] をクリックします。
14. [OK] をクリックします。

アクセスリストのセキュリティ設定の更新が保存されます。

ReportLibrary レポートのパラメータ値の表示

ReportLibrary のユーザインターフェースまたは ReportCaster エクスプローラを使用して ReportLibrary レポートを表示する場合、[パラメータ] 列には、各バージョンのパラメータと値の組み合わせが表示されます。下図では、ReportLibrary ユーザインターフェースに ReportLibrary レポートの 3 つのバージョンがリスト表示されています。各バージョンでは、同一パラメータに異なるパラメータ値が使用されています。

Version	Description	Execution Time	Parameters	Expiration	Size	Format	Compressed Size
Version 3		6/27/2018 6:06 PM	COUNTRY=JAPAN	Never	2579	HTML	
Version 2		6/27/2018 6:05 PM	COUNTRY=ITALY	Never	3038	HTML	
Version 1		6/27/2018 6:05 PM		Never	3038	HTML	

ReportCaster エクスプローラ

ReportCaster エクスプローラでは、ReportCaster 項目のリストをタイプ別に取得し、選択した項目タイプに特化した詳細情報を表示することができます。

注意：ここでは、ReportCaster エクスプローラを「エクスプローラ」と記述しています。

トピックス

- ❑ [ReportCaster エクスプローラの使用](#)
 - ❑ [エクスプローラのツールバー](#)
 - ❑ [エクスプローラのツリー](#)
 - ❑ [エクスプローラの項目リストパネル](#)
 - ❑ [エクスプローラのスケジュール詳細情報](#)
 - ❑ [エクスプローラの配信リスト詳細情報](#)
 - ❑ [エクスプローラのアクセスリスト詳細情報](#)
 - ❑ [エクスプローラの ReportLibrary レポートおよびウォッチリストレポート詳細情報](#)
 - ❑ [エクスプローラの項目オプション](#)
 - ❑ [サブフォルダの検索](#)
-

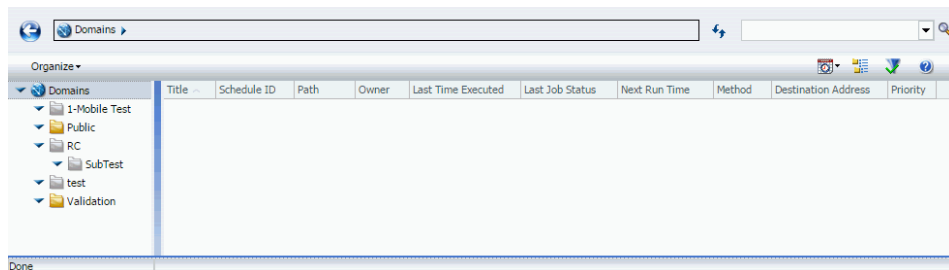
ReportCaster エクスプローラの使用

エクスプローラでは、ReportCaster 項目のリストをタイプ別に取得し、選択した項目タイプに特化した詳細情報を表示することができます。このリストは、選択したフォルダ内のスケジュール、配信リスト、アクセスリスト、ReportLibrary レポート、ウォッチリスト別にフィルタすることができます。また、このリストには、選択したフォルダ下のサブフォルダ内の項目も含めることもできます。ReportLibrary 通知 Email のリンクから ReportLibrary レポートを表示すると、[ReportLibrary レポート] 項目タイプでフィルタされたエクスプローラが開きます。

エクスプローラへのアクセスは、WebFOCUS Client セキュリティ認可モデルにより制御されます。エクスプローラへのユーザアクセスが [コンテンツ] フォルダレベルで許可されている場合もあれば、特定の低位フォルダで許可されている場合もあります。ReportCaster ツールへのアクセスを制御する権限についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

権限を所有するユーザは、フォルダのコンテキストメニューから [エクスプローラ] オプションにアクセスすることができます。[ワークスペース] フォルダからエクスプローラにアクセスする権限を所有しているユーザは、WebFOCUS ホームページの [ユーティリティ] メニューから [エクスプローラ] オプションにアクセスすることもできます。

[ユーティリティ] メニューから [ReportCaster エクスプローラ] を選択した場合、エクスプローラが新しいタブで開きます。[ワークスペース] フォルダノードがデフォルトのフォルダパスになり、ユーザがアクセス権限を所有するフォルダのリストがその下に展開表示されます。下図のエクスプローラでは、フォルダパスとして [ワークスペース] フォルダが選択されています。



フォルダのコンテキストメニューから [ReportCaster エクスプローラ] を選択した場合、選択したフォルダパスがエクスプローラに渡され、そのフォルダがエクスプローラツリーで選択された状態になります。右側パネルには、ユーザがアクセスを許可されているスケジュールのリストが表示されます。

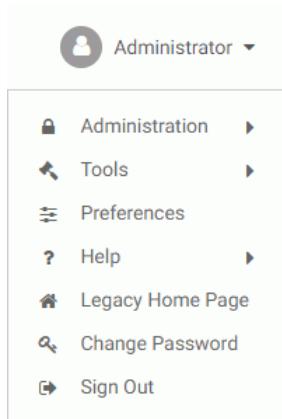
注意： WebFOCUS ホームページから ReportCaster エクスプローラを起動した後、WebFOCUS ホームページからログアウトするか、WebFOCUS ホームページを閉じた場合、ReportCaster エクスプローラは開いた状態で保持されます。この場合、WebFOCUS ホームページからログアウトするか、WebFOCUS ホームページを閉じた後に、ReportCaster エクスプローラを手動で閉じる必要があります。ReportCaster エクスプローラの前のセッションが開いた状態で WebFOCUS ホームページに別のユーザ名で再度ログインすると、前のセッションの ReportCaster コンテンツが ReportCaster エクスプローラに表示されます。

手順 開始ページから ReportCaster エクスプローラツールにアクセスするには

1. 開始ページ左上のメインメニューをクリックし、メニューオプションを展開します。
2. [クイックアクセス] 下で、[ReportCaster エクスプローラ] を選択します。
ReportCaster エクスプローラが開きます。

手順 WebFOCUS ホームページから ReportCaster エクスプローラツールにアクセスするには

1. 下図のように、WebFOCUS ホームページ右上の [ユーティリティ] メニューをクリックします。



2. [ReportCaster エクスプローラ] を選択します。
ReportCaster エクスプローラツールが表示されます。

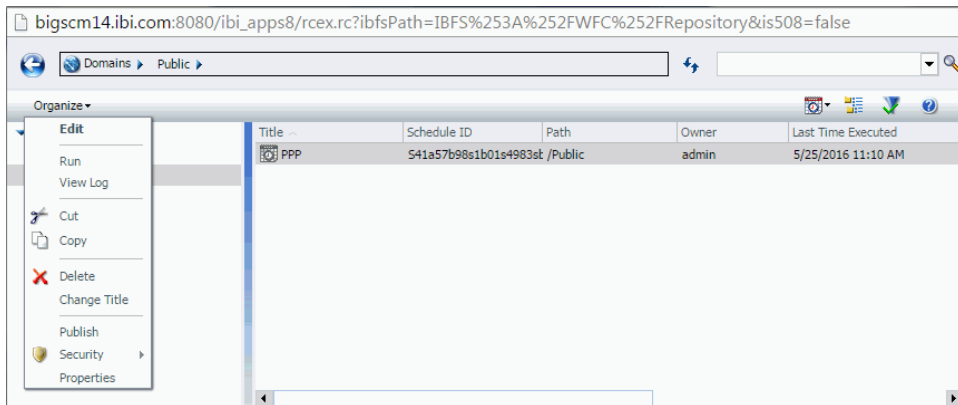
エクスプローラのツールバー

下図は、エクスプローラのツールバーを示しています。ツールバーを使用すると、選択した ReportCaster 項目で使用可能なオプションにすばやくアクセスすることができます。リストに表示する ReportCaster 項目のタイプを指定するオプションや、現在のフォルダ内の項目のみを表示するか、現在のフォルダとそのサブフォルダ内の項目を表示するかを切り替えるオプションがあります。オンラインヘルプにアクセスすることもできます。

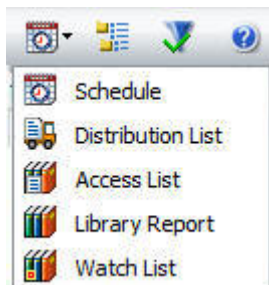


[編成] メニューには、右側パネルで選択した ReportCaster 項目に対して、ユーザが使用を許可されているオプションが表示されます。下図は、右側パネルで選択したスケジュールに対して使用可能な [編成] メニューオプションを示しています。

注意：[編成] メニューは、下図のように、右側パネルで項目が選択されている場合にのみ有効になります。



[フィルタの変更] オプションを使用して、リストに表示する項目タイプとして、[スケジュール]、[配信リスト]、[アクセスリスト]、[ReportLibrary レポート]、[ウォッチリスト] のいずれかを指定することができます。デフォルトのフィルタは [スケジュール] です。下図は、エクスプローラのツールバー右側で展開された [フィルタの変更] オプションを示しています。



ReportCaster 項目のリストは、選択したフィルタに基づいて表示されますが、[選択したフォルダとサブフォルダのファイルを表示] オプションを使用することで、現在のフォルダ内の項目のみを表示するか、現在のフォルダとそのサブフォルダ内の項目を表示するかを切り替えることができます。デフォルト設定では、現在のフォルダ内の項目のみがリストに表示されます。

注意： ツールバーの [選択したフォルダとサブフォルダのファイルを表示] アイコンは、切り替えボタンです。このボタンをクリックして、フォルダ検索の深さ (選択したフォルダのみ、または選択したフォルダとそのサブフォルダ) を切り替えることができます。この操作は、現在のリストのフォルダの深さには影響しません。右側パネルの [パス] 列で、ReportCaster 項目のフォルダパスを確認します。

下図のアイコンは、[選択したフォルダとサブフォルダのファイルを表示] オプションを示しています。このオプションが選択されている場合、選択したフォルダとそのサブフォルダ内の ReportCaster 項目のリストが、選択済みのフィルタに基づいて表示されます。



下図のアイコンは、[選択したフォルダのファイルを表示] オプションを示しています。このオプションが選択されている場合、選択したフォルダ内の ReportCaster 項目のリストが、選択済みのフィルタに基づいて表示されます。



下図のアイコンは、[コンテンツが存在するフォルダのみを表示] オプションを示しています。このオプションを選択すると、コンテンツが存在するフォルダのみが表示されます。



下図のアイコンは、[すべてのフォルダを表示] オプションを示しています。このオプションを選択すると、元のフォルダ表示に戻り、すべてのフォルダが表示されます。このオプションは、[コンテンツが存在するフォルダのみを表示] オプションが選択されている場合にのみ表示されます。



下図のアイコンは、[ヘルプ] オプションを示しています。このアイコンをクリックすると、ReportCaster エクスプローラのヘルプ情報が表示されます。



エクスプローラのツリー

エクスプローラのツリーでは、WebFOCUS ホームページと同様の操作でフォルダ間を移動することができます。フォルダをダブルクリックして、フォルダを展開したり折りたたんだりします。

エクスプローラの項目リストパネル

エクスプローラの右側パネルには、ツールバーの [フィルタの変更] および [選択したフォルダとサブフォルダのファイルを表示] オプションの設定に基づいて ReportCaster 項目が表示されます。選択した ReportCaster 項目タイプごとに、表示される列が異なります。選択した ReportCaster 項目で使用可能なオプションは、ツールバーの [編成] メニューまたは項目のコンテキストメニューからアクセスすることができます。

エクスプローラのスケジュール詳細情報

スケジュールのリスト権限を所有するユーザは、エクスプローラの右側パネルに、スケジュールに関する情報を表示することができます。

Title	Schedule ID	Path	Owner	Last Time Executed	Last Job Status	Next Run Time	Method	Destination Address	Priority
Top Ten Stores	S5b1b32d3c6602c4020c9ddesc1e40e0d2842	/Public	admin	8/14/17 3:29 PM	Error	8/14/17 3:25 PM	Print,Email,FTP,Repository,Library	///WFC/Repository/Public,Owner	3

- ☐ **タイトル** スケジュールのタイトルを表示します。
- ☐ **スケジュール ID** スケジュールの一意の ID を表示します。
- ☐ **パス** スケジュールが格納されているリポジトリパスを表示します。
- ☐ **オーナー** スケジュールのオーナーの名前を表示します。
- ☐ **最新の実行時間** スケジュールが最後に実行された日時およびタイムゾーンを表示します。
- ☐ **最新のジョブステータス** 最後に実行されたスケジュールジョブでエラーが発生したかどうかを表示します。
- ☐ **次回実行時間** 次回のスケジュール実行日時およびタイムゾーンを表示します。
- ☐ **優先度** スケジュールが Distribution Server で処理される際の優先度を表示します。最上位の優先度は 1、最下位の優先度は 5 です。

エクスプローラの配信リスト詳細情報

配信リストのリスト権限を所有するユーザは、エクスプローラの右側パネルに、下図のように、配信リストに関する情報を表示することができます。

Title	Path	Method	Owner
 Distribution List	/Public	Email	admin

- ☐ **タイトル** 配信リストのタイトルを表示します。
- ☐ **パス** 配信リストが格納されているリポジトリパスを表示します。
- ☐ **方法** 配信リストの作成時に指定された配信方法 (Email、FTP) を表示します。
- ☐ **オーナー** 配信リストのオーナーの名前を表示します。

エクスプローラのアクセスリスト詳細情報

アクセスリストのリスト権限を所有するユーザは、エクスプローラの右側パネルに、下図のように、アクセスリストに関する情報を表示することができます。

Title	Path	Owner
 Access List	/Public	admin

- ☐ **タイトル** アクセスリストのタイトルを表示します。
- ☐ **パス** アクセスリストが格納されているリポジトリパスを表示します。
- ☐ **オーナー** アクセスリストのオーナーの名前を表示します。

エクスプローラの ReportLibrary レポートおよびウォッチリストレポート詳細情報

ReportLibrary レポートのリスト権限を所有するユーザは、エクスプローラの右側パネルに、ReportLibrary レポートに関する情報を表示することができます。これらの ReportLibrary レポートには、ウォッチリストレポートが含まれている場合があります。

注意：ウォッチリストレポートに関する情報は、元の ReportLibrary レポートの情報と同一です。ウォッチリストレポートは、ユーザがウォッチリストに登録した ReportLibrary レポートであるため、列には同一の情報が表示されます。ReportLibrary レポートの新しいバージョンが作成されると、登録済みユーザに Email 通知が送信されます。

下図は、ReportLibrary レポートおよびウォッチリストレポートで表示される列タイトルを示しています。

Title	Path	Burst Value	Last Version	Last Execution	Category	Owner
 ENGLAND	/Public	ENGLAND	1	8/4/17 8:37 PM		admin
 FRANCE	/Public	FRANCE	1	8/4/17 8:37 PM		admin
 ITALY	/Public	ITALY	1	8/4/17 8:37 PM		admin
 JAPAN	/Public	JAPAN	1	8/4/17 8:37 PM		admin
 W GERMANY	/Public	W GERMANY	1	8/4/17 8:37 PM		admin

- ☐ **タイトル** ReportLibrary レポートのタイトルを表示します。
- ☐ **パス** ReportLibrary レポートが格納されているリポジトリパスを表示します。
- ☐ **バースト値** ReportLibrary レポートのバースト値を表示します。
- ☐ **最新のバージョン** ReportLibrary レポートの最新バージョンを表示します。レポートを選択すると、ReportLibrary レポートリスト下側のパネルに、そのレポートで有効なバージョンがすべて表示されます。
- ☐ **最新の実行日** ReportLibrary レポートが作成された日時を表示します。
- ☐ **カテゴリ** オーナーが ReportLibrary レポートを割り当てたカテゴリを表示します。[カテゴリ] 列のタイトルをクリックして、カテゴリ値を基準に ReportLibrary レポートをソートすることができます。カテゴリ値は、スケジュールの作成時に指定された情報です。
- ☐ **オーナー** ReportLibrary レポートのオーナーの名前を表示します。

エクスプローラの項目オプション

権限を所有するユーザは、ReportCaster 項目 (スケジュール、配信リスト、アクセスリスト、ReportLibrary レポート、ウォッチリスト) を選択し、[編成] メニューまたはコンテキストメニューのオプションを使用して、次の操作を実行することができます。

- ☐ スケジュールを開く。詳細は、391 ページの「[スケジュールを開くには](#)」を参照してください。
- ☐ スケジュールを実行する。詳細は、392 ページの「[スケジュールを実行するには](#)」を参照してください。
- ☐ スケジュールを有効または無効にする。詳細は、392 ページの「[スケジュールを有効または無効にするには](#)」を参照してください。
- ☐ 複数のスケジュールを有効または無効にする。詳細は、392 ページの「[複数のスケジュールを有効または無効にするには](#)」を参照してください。

- ❑ スケジュールを削除する。詳細は、393 ページの「[スケジュールを削除するには](#)」を参照してください。
- ❑ 配信リストを開く。詳細は、393 ページの「[配信リストを開くには](#)」を参照してください。
- ❑ 配信リストを削除する。詳細は、393 ページの「[配信リストを削除するには](#)」を参照してください。
- ❑ アクセスリストを開く。詳細は、393 ページの「[アクセスリストを開くには](#)」を参照してください。
- ❑ アクセスリストを削除する。詳細は、394 ページの「[アクセスリストを削除するには](#)」を参照してください。
- ❑ ReportLibrary レポートをウォッチリストに登録する。詳細は、394 ページの「[ReportLibrary レポートをウォッチリストに登録するには](#)」を参照してください。
- ❑ ReportLibrary の最新バージョンを開く。詳細は、394 ページの「[ReportLibrary レポートの最新バージョンを開くには](#)」を参照してください。
- ❑ ReportLibrary レポートの複数のバージョンを表示する。詳細は、394 ページの「[ReportLibrary レポートの複数バージョンを表示するには](#)」を参照してください。
- ❑ ReportLibrary レポートを削除する。詳細は、395 ページの「[ReportLibrary レポートを削除するには](#)」を参照してください。
- ❑ ウォッチリストを開く。詳細は、396 ページの「[ウォッチリストレポートを開くには](#)」を参照してください。
- ❑ ウォッチリストの登録を解除する。詳細は、396 ページの「[ウォッチリストから項目の登録を解除するには](#)」を参照してください。

注意：ReportCaster エクスプローラでは、複数のファイルを同時に選択して、[編集]、[実行]、[ログの表示]、[切り取り]、[コピー]、[削除]、[共有する] の操作を実行することができます。

手順

スケジュールを開くには

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [スケジュール] を選択します。デフォルトのフィルタオプションは [スケジュール] です。
3. エクスプローラで、開くスケジュールを選択します。

4. 選択したスケジュールを右クリックし、コンテキストメニューから [編集] を選択します。

手順 **スケジュールを実行するには**

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [スケジュール] を選択します。デフォルトのフィルタオプションは [スケジュール] です。
3. エクスプローラで、実行するスケジュールを選択します。
4. スケジュールを右クリックし、[実行] を選択します。
5. 必要に応じて、複数のスケジュールを同時に実行する場合は、Ctrl キーを押しながら、実行する各スケジュールを選択します。Ctrl キーを離し、選択したスケジュールのいずれかを右クリックして [実行] を選択します。

手順 **スケジュールを有効または無効にするには**

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. ドロップダウンリストで [スケジュール] を選択します。デフォルトのフィルタオプションは [スケジュール] です。
3. 有効なスケジュールを右クリックします。
コンテキストメニューが表示されます。
4. [無効にする] をクリックします。スケジュールがすでに無効になっている場合、このオプションは [有効にする] と表示されます。

手順 **複数のスケジュールを有効または無効にするには**

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. ドロップダウンリストで [スケジュール] を選択します。デフォルトのフィルタオプションは [スケジュール] です。
3. Ctrl キーを押しながら、有効または無効にするスケジュールを選択します。
4. 選択したスケジュールのいずれかを右クリックします。
コンテキストメニューが表示されます。

5. 選択したスケジュールをすべて有効にするには [有効にする] をクリックし、選択したスケジュールをすべて無効にするには [無効にする] をクリックします。

手順 **スケジュールを削除するには**

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [スケジュール] を選択します。デフォルトのフィルタオプションは [スケジュール] です。
3. エクスプローラで、削除するスケジュールを選択します。
4. スケジュールを右クリックし、[削除] を選択します。

手順 **配信リストを開くには**

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [配信リスト] を選択します。
3. エクスプローラで、開く配信リストを選択します。
4. 配信リストを右クリックし、[編集] を選択します。

手順 **配信リストを削除するには**

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [配信リスト] を選択します。
3. エクスプローラで、削除する配信リストを選択します。
4. 配信リストを右クリックし、[削除] を選択します。

手順 **アクセスリストを開くには**

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [アクセスリスト] を選択します。
3. エクスプローラで、開くアクセスリストを選択します。
4. アクセスリストを右クリックし、[編集] を選択します。

手順 **アクセスリストを削除するには**

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [アクセスリスト] を選択します。
3. エクスプローラで、削除するアクセスリストを選択します。
4. アクセスリストを右クリックし、[削除] を選択します。

手順 **ReportLibrary レポートをウォッチリストに登録するには**

1. ウォッチリストに登録する ReportLibrary レポートが格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [ReportLibrary レポート] を選択します。
3. エクスプローラで、ウォッチリストに登録する ReportLibrary レポートを選択します。
4. 選択した ReportLibrary レポートを右クリックし、[ウォッチリストに登録] を選択します。

手順 **ReportLibrary レポートの最新バージョンを開くには**

1. アクセスする ReportLibrary レポートが格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [ReportLibrary レポート] を選択します。
3. エクスプローラで、開く ReportLibrary レポートを選択します。
4. 選択した ReportLibrary レポートを右クリックし、[最新バージョンを開く] を選択します。

手順 **ReportLibrary レポートの複数バージョンを表示するには**

1. 表示する ReportLibrary レポートが格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [ReportLibrary レポート] を選択します。
3. エクスプローラで、複数のバージョンを表示する ReportLibrary レポートを選択します。

4. ReportLibrary リストの下側ウィンドウに、選択した ReportLibrary レポートの複数のバージョンが表示されます。下図は、表示された複数のバージョンを示しています。

Title	Path	Burst Value	Last Version	Last Execution	Category	
ENGLAND	/Report_Caster	ENGLAND	10	6/3/2016 5:48 AM		
FRANCE	/Report_Caster	FRANCE	10	6/3/2016 5:48 AM		
ITALY	/Report_Caster	ITALY	10	6/3/2016 5:48 AM		
JAPAN	/Report_Caster	JAPAN	10	6/3/2016 5:48 AM		
W GERMANY	/Report_Caster	W GERMANY	10	6/3/2016 5:48 AM		

/Report_Caster/ENGLAND (L1akapind704.lib)						
Version	Description	Execution Time	Expiration	Size	Format	Compressed Size
Version 10		6/3/2016 5:48 AM	Never	675	HTML	
Version 9		6/3/2016 5:43 AM	Never	675	HTML	
Version 8		6/3/2016 5:41 AM	Never	675	HTML	
Version 7		6/3/2016 5:40 AM	Never	675	HTML	
Version 6		6/3/2016 5:40 AM	Never	675	HTML	

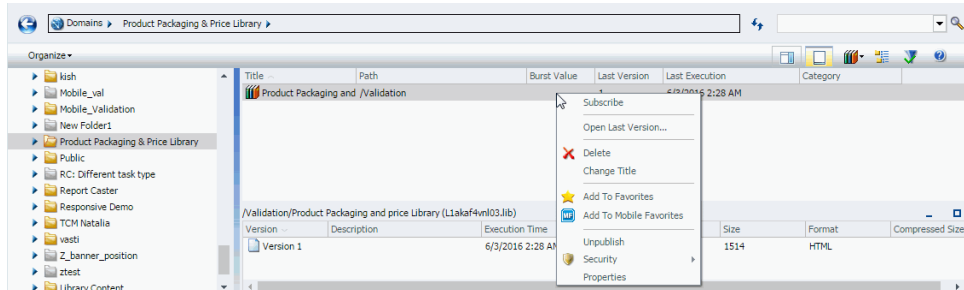
手順

ReportLibrary レポートを削除するには

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [ReportLibrary レポート] を選択します。
3. エクスプローラで、削除する ReportLibrary レポートを選択します。

注意：これは、スケジュールに関連付けられている ReportLibrary レポートです。この ReportLibrary レポートを削除すると、スケジュールの次回実行時まで、このスケジュールで配信された ReportLibrary レポートのすべてのバージョンにアクセスできなくなります。

4. 下図のように、選択した ReportLibrary レポートを右クリックし、[削除] を選択します。



手順 ReportLibrary レポートの特定バージョンを削除するには

1. アクセスする項目が格納されているフォルダを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [ReportLibrary レポート] を選択します。
3. 1 つまたは複数のバージョンを削除する ReportLibrary レポートを選択します。
4. 下図のように、下側のウィンドウでレポートバージョンを右クリックし、[削除] を選択します。

注意：複数のレポートバージョンを同時に削除するには、Ctrl キーを押しながら、削除するレポートバージョンを順に選択します。

Version	Description	Execution Time	Expiration	Size	Format	Compressed Size
Version 10		6/3/2016 5:48 AM	Never	675	HTML	
Version 9		6/3/2016 5:43 AM	Never	675	HTML	
Version 8		6/3/2016 5:43 AM	Never	675	HTML	
Version 7		6/3/2016 5:43 AM	Never	675	HTML	
Version 6		6/3/2016 5:43 AM	Never	675	HTML	

手順 ウォッチリストレポートを開くには

ウォッチリスト内の ReportLibrary レポートを表示するには、ReportLibrary レポートを登録する必要があります。詳細は、394 ページの「[ReportLibrary レポートをウォッチリストに登録するには](#)」を参照してください。

1. アクセスするウォッチリストレポートが格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [ウォッチリスト] を選択します。
3. エクスプローラで、開くウォッチリストレポートを選択します。
4. 登録済みの項目を右クリックし、[開く] を選択します。

手順 ウォッチリストから項目の登録を解除するには

ウォッチリスト内の ReportLibrary レポートを表示するには、ReportLibrary レポートを登録する必要があります。詳細は、394 ページの「[ReportLibrary レポートをウォッチリストに登録するには](#)」を参照してください。

1. 登録を解除する ReportLibrary レポートが格納されているフォルダを選択し、ツールバーの [選択したフォルダのファイルを表示] オプションを選択します。
2. [フィルタの変更] ドロップダウンリストから [ウォッチリスト] を選択します。
3. エクスプローラで、登録を解除するウォッチリストレポートを選択します。

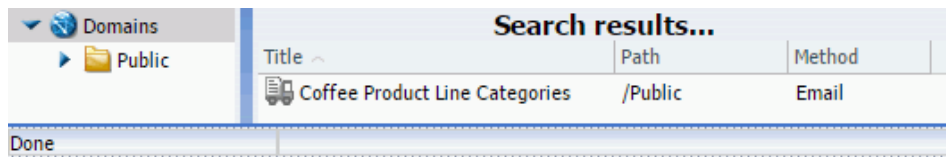
4. 登録済みの ReportLibrary レポートを右クリックし、[ウォッチリストの登録解除] を選択します。

サブフォルダの検索

エクスプローラへのアクセス権限を所有するユーザは、下図のように、エクスプローラ右上の [検索] 機能を使用して、選択した ReportCaster 項目フィルタに基づいて、ReportCaster 項目およびフォルダを検索することができます。



リポジトリ内の項目を検索中に、ReportCaster エクスプローラ最下部のステータスバーに [処理中] または [完了] が表示されます。[処理中] は検索項目の取得中に表示され、[完了] は検索結果が取得された際に表示されます。下図は、この例を示しています。



注意

- ❑ サブフォルダを検索する場合、検索を実行する前に設定済みのフィルタ (例、スケジュール、配信リスト、ReportLibrary レポート、アクセスリスト、ウォッチリスト) を変更しない限り、そのフィルタが引き続き使用されます。フィルタの使用についての詳細は、385 ページの「[エクスプローラのツールバー](#)」を参照してください。
- ❑ ReportCaster エクスプローラで検索を実行した後、検索テキストボックスに入力した内容をクリアした場合に、エクスプローラの右側ウィンドウの項目リストがリフレッシュされません。エクスプローラの表示を元の状態に戻すには、ブラウザのリフレッシュ機能を使用します。

10

トレースの使用

ReportCaster で権限を所有するユーザは、トレースを使用して、ReportCaster コンポーネントの内部処理に関する情報を取得することができます。ReportCaster リクエストのトレースを実行すると、実行されたイベントを記述する一連の詳細なステートメントが生成され、トレースファイルに格納されます。

トピックス

- ❑ [トレースの有効化](#)
 - ❑ [Servlet トレース](#)
 - ❑ [Distribution Server スタートアップトレースファイル](#)
 - ❑ [スケジュールトレースおよびレポートトレース](#)
 - ❑ [Distribution Server 初期化トレース](#)
 - ❑ [Reporting Server のトレース](#)
-

トレースの有効化

Distribution Server スケジュールトレースは、ReportCaster ステータスの構成ツール、ReportCaster Servlet トレースは、管理コンソールで有効または無効にします。

Servlet トレース

Servlet トレースは、ReportCaster API を含めて、Web アプリケーションに展開済みのすべての ReportCaster Servlet のトレースを有効にします。Servlet トレースは、リポジトリへのクエリおよび保守に関する情報を提供します。これには、スケジュールの作成時に発生するイベントも含まれます。

注意：Application Server のログファイルも確認してください。デフォルト設定では、Apache Tomcat トレースファイルは、Apache Tomcat インストールパスの `logs` ディレクトリに格納されます。Apache Tomcat が WebFOCUS Client とともにインストールされた場合、Apache Tomcat は、`ibi` ディレクトリ配下にインストールされます。ReportCaster が WebFOCUS Client とともに構成されている場合、Client の Servlet トレースファイルも作成されます。これらのトレースファイルにアクセスするには、管理コンソールを開き、[機能診断] タブの [セッションモニタ] をクリックします。

手順 Servlet トレースにアクセスするには

- 1. 管理コンソールを開きます。
- 2. [機能診断] タブをクリックします。
- 3. [機能診断] タブで [ログファイル] をクリックします。

下図のように、ログファイルのリストが表示されます。



ConfigurationSecurityReportCasterDiagnostics

Diagnostics

- About WebFOCUS
- Client Verification
- HTTP Request Info
- JVM Property Info
- Session Monitor
- Log Files

Log Name	Logger Name	Log Level
audit	com.ibi.uoa	ERROR
	com.ibi.uoa.config	INFO
	com.ibi.uoa.content	INFO
	com.ibi.uoa.groups	INFO
	com.ibi.uoa.ownership	INFO
	com.ibi.uoa.roles	INFO
	com.ibi.uoa.rules	INFO
	com.ibi.uoa.seats	INFO
	com.ibi.uoa.shares	INFO
	com.ibi.uoa.signin	INFO
	com.ibi.uoa.users	INFO
cleanup	ibi.util.cleanup	DEBUG ▾
cm_export	com.ibi.uoa.impex.export	DEBUG ▾
cm_import	com.ibi.uoa.impex.import	DEBUG ▾
dbconvert	com.ibi.dbmigration.application.DbMigrationLogger	INFO ▾
esri	ibi.esri	OFF ▾
event	com.ibi.bid	ERROR ▾
	com.ibi.bip	WARN ▾
	com.ibi.caster	WARN ▾

4. 下図のように、[ログレベル] ドロップダウンリストから、アクセスするログファイルの情報タイプを選択します。

event	com.ibm.bid	ERROR ▾
	com.ibm.bip	WARN ▾
	com.ibm.caster	WARN ▾
	com.ibm.common	OFF
	com.ibm.common.ApplicationValues	FATAL
	com.ibm.config	ERROR
	com.ibm.fdm	WARN
	com.ibm.ibfs	INFO
	com.ibm.ibss	DEBUG
		TRACE
		INFO ▾

ReportCaster ログレベルオプションは、次のレベルの機能診断情報を提供します。

- ☐ **オフ** イベントを収集しません。
 - ☐ **重大** システム処理を中断するイベントのみを収集します。
 - ☐ **エラー** 重大イベント以外に、エラーメッセージを生成するイベントを収集します。
 - ☐ **警告** エラーイベントおよび重大イベント以外に、警告メッセージを生成するイベントを収集します。
 - ☐ **情報** 警告イベント、エラーイベント、重大イベント以外に、情報メッセージを生成するイベントを収集します。
 - ☐ **デバッグ** 情報イベント、警告イベント、エラーイベント、重大イベント以外に、トレースメッセージを生成するイベントを収集します。
 - ☐ **トレース** デバッグイベント、情報イベント、警告エラーイベント、エラーイベント、重大イベント以外に、トレースメッセージを生成するイベントを収集します。
5. トレースを表示するログファイルをクリックします。

下図は、event.log ファイルが選択された場合の例を示しています。

[2012-03-28 17:00:36,692]	DEBUG	CasterViewController	http-8080-8	- admin - returning view getServletPath /ui-se-rc
[2012-03-28 17:00:36,692]	DEBUG	CasterViewController	http-8080-8	- admin - returning view getRequestURL http://localhost
[2012-03-28 17:00:36,692]	DEBUG	CasterViewController	http-8080-8	- admin - returning view appName tools/rcaster/reso
[2012-03-28 17:00:36,692]	DEBUG	CasterViewController	http-8080-8	- admin - returning view att IBINF_SES_AUTH_TOKEN =
[2012-03-28 17:00:36,692]	DEBUG	CasterViewController	http-8080-8	- admin - IBSSOperation.opRCServerManagement: true
[2012-03-28 17:00:36,692]	DEBUG	CasterViewController	http-8080-8	- admin - IBSSOperation.opSchedule: true
[2012-03-28 17:00:36,692]	DEBUG	CasterViewController	http-8080-8	- admin - IBSSOperation.opRCConfiguration: true
[2012-03-28 17:00:36,712]	DEBUG	CasterMetadataInterceptor	http-8080-8	- admin - IBSSOperation.opRCServerManagement: true
[2012-03-28 17:00:36,712]	DEBUG	CasterMetadataInterceptor	http-8080-8	- admin - IBSSOperation.opSchedule: true
[2012-03-28 17:00:36,712]	DEBUG	CasterMetadataInterceptor	http-8080-8	- admin - IBSSOperation.opRCConfiguration: true
[2012-03-28 17:00:36,745]	INFO	CasterViewController	http-8080-12	- admin - returning view with Wed Mar 28 17:00:36 E
[2012-03-28 17:00:36,745]	DEBUG	CasterViewController	http-8080-12	- admin - returning view getServletPath /ui-lo-rc
[2012-03-28 17:00:36,745]	DEBUG	CasterViewController	http-8080-12	- admin - returning view getRequestURL http://local
[2012-03-28 17:00:36,745]	DEBUG	CasterViewController	http-8080-12	- admin - returning view appName tools/rcaster/reso
[2012-03-28 17:00:36,745]	DEBUG	CasterViewController	http-8080-12	- admin - returning view att IBINF_SES_AUTH_TOKEN =
[2012-03-28 17:00:36,745]	DEBUG	CasterViewController	http-8080-12	- admin - IBSSOperation.opRCServerManagement: true
[2012-03-28 17:00:36,745]	DEBUG	CasterViewController	http-8080-12	- admin - IBSSOperation.opSchedule: true
[2012-03-28 17:00:36,745]	DEBUG	CasterViewController	http-8080-12	- admin - IBSSOperation.opRCConfiguration: true
[2012-03-28 17:00:36,765]	DEBUG	CasterMetadataInterceptor	http-8080-12	- admin - IBSSOperation.opRCServerManagement: true
[2012-03-28 17:00:36,765]	DEBUG	CasterMetadataInterceptor	http-8080-12	- admin - IBSSOperation.opSchedule: true
[2012-03-28 17:00:36,765]	DEBUG	CasterMetadataInterceptor	http-8080-12	- admin - IBSSOperation.opRCConfiguration: true
[2012-03-28 17:00:36,264]	INFO	RIP_EntityManagerHelper	http-8080-8	- admin - finding RIP_UserProfile instance with prop
[2012-03-28 17:00:50,241]	DEBUG	CommandController	http-8080-12	- admin - Creating new command of class [com.ibi.co
[2012-03-28 17:00:50,311]	DEBUG	CasterEMF	http-8080-12	- admin - Clear Caster cache from EntityManagerFact
[2012-03-28 17:00:50,341]	DEBUG	CasterMetadataInterceptor	http-8080-12	- admin - IBSSOperation.opRCServerManagement: true
[2012-03-28 17:00:50,341]	DEBUG	CasterMetadataInterceptor	http-8080-12	- admin - IBSSOperation.opSchedule: true
[2012-03-28 17:00:50,341]	DEBUG	CasterMetadataInterceptor	http-8080-12	- admin - IBSSOperation.opRCConfiguration: true
[2012-03-28 17:00:50,436]	DEBUG	CommandController	http-8080-5	- admin - Creating new command of class [com.ibi.co
[2012-03-28 17:00:50,436]	DEBUG	StandardReportPropertiesByCmdProducer	http-8080-5	- admin - ibtsid: untitledjapp[80582554.fex
[2012-03-28 17:00:50,446]	DEBUG	CasterEMF	http-8080-5	- admin - Clear Caster cache from EntityManagerFact
[2012-03-28 17:00:50,861]	DEBUG	ScheduleUtils	http-8080-5	- admin - name: FOCFOCEXC
[2012-03-28 17:00:50,861]	DEBUG	ScheduleUtils	http-8080-5	- admin - name: FOCXURL
[2012-03-28 17:00:50,861]	DEBUG	ScheduleUtils	http-8080-5	- admin - name: FOCHTMLURL
[2012-03-28 17:00:50,861]	DEBUG	ScheduleUtils	http-8080-5	- admin - name: GOOGLEMAPSAPIKEY
[2012-03-28 17:00:50,861]	DEBUG	ScheduleUtils	http-8080-5	- admin - name: WF_TITLE
[2012-03-28 17:00:50,861]	DEBUG	ScheduleUtils	http-8080-5	- admin - IBFSamplerVarType: set
[2012-03-28 17:00:50,861]	DEBUG	ScheduleUtils	http-8080-5	- admin - name: FOCREL
[2012-03-28 17:00:50,861]	DEBUG	ScheduleUtils	http-8080-5	- admin - name: EXCELSEVURL
[2012-03-28 17:00:50,861]	DEBUG	ScheduleUtils	http-8080-5	- admin - name: ECHO
[2012-03-28 17:00:50,861]	DEBUG	ScheduleUtils	http-8080-5	- admin - IBFSamplerVarType: system
[2012-03-28 17:00:50,861]	DEBUG	ScheduleUtils	http-8080-5	- admin - name: RepCols
[2012-03-28 17:00:50,861]	DEBUG	ScheduleUtils	http-8080-5	- admin - IBFSamplerVarType: unresolved
[2012-03-28 17:00:50,881]	DEBUG	CasterMetadataInterceptor	http-8080-5	- admin - IBSSOperation.opRCServerManagement: true

Distribution Server スタートアップトレースファイル

スケジュールトレースを有効にすると、次の Distribution Server のコアトレースファイルが ¥ibi¥WebFOCUS¥82¥ReportCaster¥trc¥ ディレクトリに作成されます。Distribution Server の新しいインスタンス開始時に、これらのトレースファイルが以前のトレースファイルと置き換わります。

- ☐ **main.trc** Distribution Server のメインスレッドにより処理されるコマンドをトレースします。これらのコマンドには、初期化、シャットダウン、ジョブの即時実行があります。
- ☐ **reader.trc** Distribution Server のスケジュールチェックをトレースします。デフォルトのポーリング間隔は 1 分です。
- ☐ **disp.trc** Distribution Server と Reporting Server 間のスレッドをトレースします。最大スレッド数は、ReportCaster 構成ツールの [最大スレッド] の設定で定義します。デフォルトのスレッド数は 3 です。
- ☐ **console.trc** ReportCaster API および ReportCaster Servlet と Distribution Server との通信をすべてトレースします。

スケジュールトレースおよびレポートトレース

Distribution Server スケジュールトレースを有効にするには、コンソールの [構成] タブで [Distribution Server] フォルダ下の [その他の設定] フォルダを選択し、[スケジュールジョブトレース] を [スケジュール] (レポートトレースも有効にする場合は [スケジュールとレポート]) に設定します。

ReportCaster では、オンデマンドでスケジュールを実行する場合に、スケジュールごとに [スケジュール] または [スケジュールとレポート] のトレースを有効にすることもできます。スケジュールを実行する際は、ReportCaster 構成ツールで指定したスケジュールトレース設定が、そのスケジュールのみの設定を変更するオプションとともに表示されます。

特定のジョブに関連付けられたトレースファイル

[スケジュールジョブトレース] パラメータを [スケジュール] に設定した場合、ReportCaster が生成するトレースファイルに、実行中の特定のジョブに関連する ReportCaster Distribution Server 情報が記録されます。次のトレースファイルがジョブごとに作成され、¥ibi ¥WebFOCUS82¥ReportCaster¥trc¥Jobid ディレクトリに格納されます。ファイル名には一意のジョブプロセス ID (Jobid) が付けられます。

- ❑ **Jobid.trc** (例、J0ud2a6kqk01.trc) ジョブの実行に関連した情報がすべて格納されます。スケジュールプロシジャ、配信情報、ログ作成とそのコンテンツに関する情報が格納されます。[スケジュールとレポート] トレースを選択した場合、このファイルには、Reporting Server から返信されたレポートも含まれます。
- ❑ **procedure.log** 配信情報、レポートパラメータ (存在する場合)、実行前プロシジャおよび実行後プロシジャ (存在する場合)、プロシジャコード (WebFOCUS レポート の場合)、または -INCLUDE FOCEXEC (サーバプロシジャの場合) が格納されます。
- ❑ **Jobid.err** プロセスエラーが発生した場合、ReportCaster により、レポートの配信が失敗した原因に関連する情報を記述した jobid.err ファイルが作成されます。トレースファイルを表示する際は、*.err ファイルを検索することをお勧めします。
- ❑ **DistRun.trace** IBFS トレース情報が格納されます。
- ❑ **DistRun.html** レポートの .html バージョンが格納されます。
- ❑ **session.log** IBFS セッションに関する情報が格納されます。

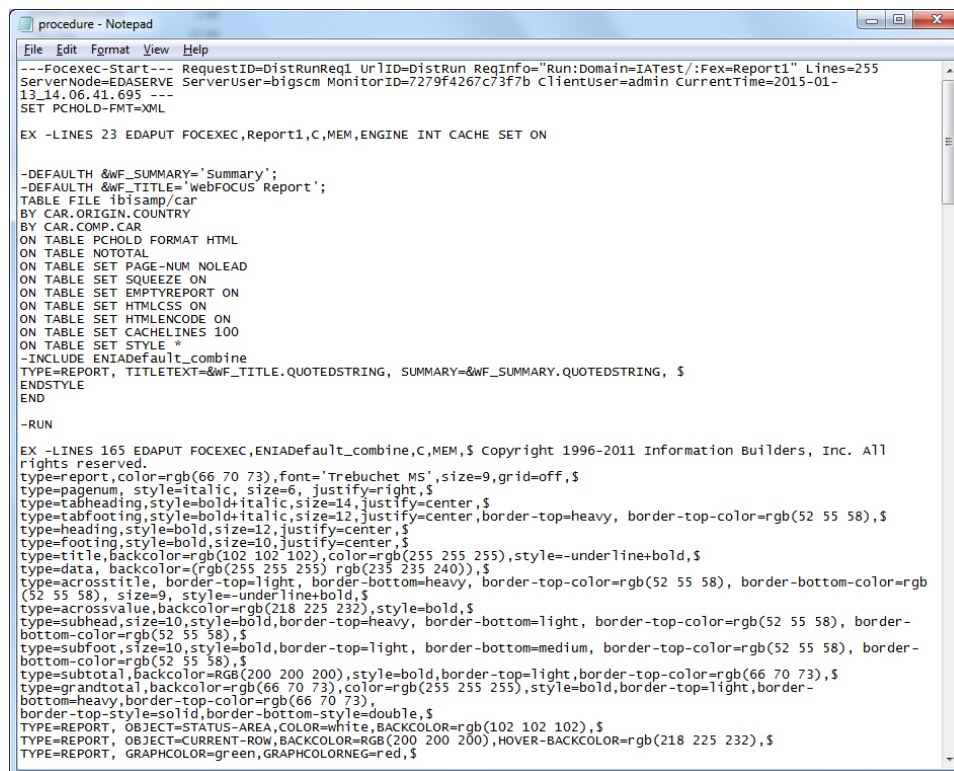
注意：ターゲットジョブのジョブプロセス ID は、ログレポートを実行することで特定できます。詳細は、343 ページの「[スケジュールのトラッキング](#)」または 43 ページの「[ジョブログ](#)」を参照してください。ジョブプロセス ID は「J」で始まり、その後に一連の乱数と小文字が続きます。

例 スケジュールトレースファイルの使用

以下は、ジョブ ID が reportcaster.log_2011-12-20.log のスケジュールトレースファイルの一部を示しています。reportcaster.log_2011-12-20.log ファイルには、ワーカスレッドの開始日時、スケジュール済みジョブに関連付けられたパラメータ、リポジトリの接続情報が記述されています。

参照 プロシジャログファイル

次のスケジュールトレースファイルは、プロシジャログファイルに関連するプロシジャを示しています。



```
procedure - Notepad
File Edit Format View Help
---Focexec-Start--- RequestID=DistrunReq1 URLID=Distrun ReqInfo="Run:Domain=IATest/:Fex=Report1" Lines=255
ServerNode=EDASERVE Serveruser=bigscm MonitorID=7279f4267c73f7b ClientUser=admin CurrentTime=2015-01-
13_14.06.41.695 ---
SET PCHOLD-FMT=XML

EX -LINES 23 EDAPUT FOCEXEC,Report1,C,MEM,ENGINE INT CACHE SET ON

-DEFAULTH &wF_SUMMARY='Summary';
-DEFAULTH &wF_TITLE='webFOCUS Report';
TABLE FILE ibisamp/car
BY CAR,ORIGIN,COUNTRY
BY CAR,COMP,CAR
ON TABLE PCHOLD FORMAT HTML
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET PAGE-NUM NOLEAD
ON TABLE SET SQUEEZE ON
ON TABLE SET EMPTYREPORT ON
ON TABLE SET HTMLCSS ON
ON TABLE SET HTMLENCODE ON
ON TABLE SET CACHELINES 100
ON TABLE SET STYLE *
-INCLUDE ENIAdefault_combine
TYPE=REPORT, TITLETEXT=&wF_TITLE.QUOTEDSTRING, SUMMARY=&wF_SUMMARY.QUOTEDSTRING, $
ENDSTYLE
END

-RUN

EX -LINES 165 EDAPUT FOCEXEC,ENIAdefault_combine,C,MEM,$ Copyright 1996-2011 Information Builders, Inc. All
rights reserved.
type=report,color=rgb(66 70 73),font='Trebuchet MS',size=9,grid=off,$
type=pagenum,style=italic,size=6,justify=right,$
type=tabheading,style=bold+italic,size=14,justify=center,$
type=tabfooting,style=bold+italic,size=12,justify=center,border-top=heavy,border-top-color=rgb(52 55 58),$
type=heading,style=bold,size=12,justify=center,$
type=footing,style=bold,size=10,justify=center,$
type=title,backcolor=rgb(102 102 102),color=rgb(255 255 255),style=underline+bold,$
type=data,backcolor=(rgb(255 255 255) rgb(235 235 240)),$
type=acrosstitle,border-top=light,border-bottom=heavy,border-top-color=rgb(52 55 58),border-bottom-color=rgb
(52 55 58),size=9,style=underline+bold,$
type=acrossvalue,backcolor=rgb(218 225 232),style=bold,$
type=subhead,size=10,style=bold,border-top=heavy,border-bottom=light,border-top-color=rgb(52 55 58),border-
bottom-color=rgb(52 55 58),$
type=subfoot,size=10,style=bold,border-top=light,border-bottom=medium,border-top-color=rgb(52 55 58),border-
bottom-color=rgb(52 55 58),$
type=subtotal,backcolor=RGB(200 200 200),style=bold,border-top=light,border-top-color=rgb(66 70 73),$
type=grandtotal,backcolor=rgb(66 70 73),color=rgb(255 255 255),style=bold,border-top=light,border-
bottom=heavy,border-top-color=rgb(66 70 73),
border-top-style=solid,border-bottom-style=double,$
TYPE=REPORT, OBJECT=STATUS-AREA,COLOR=white,BACKCOLOR=rgb(102 102 102),$
TYPE=REPORT, OBJECT=CURRENT-ROW,BACKCOLOR=RGB(200 200 200),HOVER-BACKCOLOR=rgb(218 225 232),$
TYPE=REPORT, GRAPHCOLOR=green,GRAPHCOLORNEG=red,$
```

トレースエラーファイル

ReportCaster に予測外のエラーや異常終了が発生した場合は、次のエラーファイルが作成されます。

- ❑ **console.err** コンソールの終了時に作成されます。
- ❑ **disp.err** ディスパッチャの終了時に作成されます。
- ❑ **main.err** メインスレッドの終了時に作成されます。
- ❑ **reader.err** リーダの終了時に作成されます。
- ❑ **Jobid.err** ジョブの処理でのエラー発生時に作成されます。

スケジュールトレースファイルのクリーンアップ

スケジュールトレースの設定をオフにした場合、Distribution Server の %temp ディレクトリ内のファイルとフォルダ、および %trc ディレクトリ内のスケジュールトレースファイル (J*.*) は、Distribution Server の起動時に削除されます。このため、これらのファイルを保持するには、ファイルのバックアップを作成するか、スケジュールトレースを有効にします。スケジュールトレースを有効にするには、ReportCaster 構成ツールで [スケジュールジョブトレース] の値を [スケジュール] または [スケジュールとレポート] に設定します。

Resource Analyzer のサポート

ReportCaster は Resource Analyzer をサポートします。ReportCaster は、サーバプロシジャまたは WebFOCUS レポートを実行する際に、WebFOCUS Reporting Server にコマンドを送信します。Resource Analyzer は、これらのコマンドを取得して、ReportCaster から配信される出力の作成時に使用されたリソースをモニタします。Resource Analyzer を使用していない場合は、コマンドは Reporting Server で無視されます。

スケジュールのトレース機能が ReportCaster で有効な場合、特定のジョブの [スケジュールトレース] ファイル内のコマンドを表示することができます。

ReportCaster ジョブトレースファイルのダウンロード

スケジュールの実行後またはジョブログの削除、ReportLibrary の削除、スケジュールの削除のいずれかの機能の使用後に、ReportCaster ステータスに保存された対応するジョブログを選択し、各ジョブで作成されたトレースファイルをダウンロードすることができます。

手順 ReportCaster ジョブトレースファイルをダウンロードするには

1. スケジュールを実行するか、ジョブログの削除、ReportLibrary の削除、スケジュールの削除機能のいずれかを使用します。

注意：ReportCaster ジョブのトレースファイルを取得するには、このジョブのトレースを有効にしておく必要があります。

詳細は、以下を参照してください。

❑ 186 ページの「[ベーシックスケジュールのクイックアクセスツールバー](#)」

❑ 277 ページの「[アドバンスドスケジュールツールのクイックアクセスツールバー](#)」

❑ 157 ページの「[ジョブログの削除](#)」

❑ 46 ページの「[期限切れ ReportLibrary レポートを削除するには](#)」

2. ReportCaster ステータスを開きます。リボンの [表示] グループで、[ジョブログ] ボタンをクリックします。
3. [ジョブログ] ウィンドウで、表示するジョブログが格納されたフォルダを選択します。
右側のウィンドウに、ジョブログが表示されます。
4. ジョブログをクリックします。
5. リボンの [ジョブログの管理] グループで、[トレースの表示] ボタンの下向き矢印をクリックします。

[トレースファイルのダウンロード] メニューオプションが表示されます。

6. [トレースファイルのダウンロード] オプションを選択します。

Windows の [保存] ダイアログボックスが表示されます。ここで、トレースファイルをユーザのマシンに保存することができます。ログのジョブ ID が、開くまたは保存する ZIP ファイルの名前になります。

Distribution Server 初期化トレース

scheduler.log トレースファイルは、常に ¥ibi¥WebFOCUS82¥ReportCaster¥log ディレクトリ内に作成されます。このファイルは、Distribution Server の初期化をトレースし、ReportCaster 構成ツールで有効にしたオプションを表示します。また、ログファイルに書き込まれた情報も表示します。

Reporting Server のトレース

Reporting Server トレースは、ジョブの実行と配信に関する情報を提供します。サーバトレースを有効にするには、次の手順を実行します。

1. Reporting Server コンソールにアクセスします。
2. [ツール] メニューから [ワークスペース] を選択し、ナビゲーションウィンドウの [ログとトレース] を展開して [トレース] を右クリックします。
3. [トレースを有効にする] をクリックします。

11

ReportCaster レポートコーディング上のヒントとテクニック

ここでは、既存の WebFOCUS レポートの評価や、ReportCaster によるスケジュールおよび配信の要件を満たす新しいレポートの開発のためのヒントとテクニックを提供します。

HTML およびグラフ出力として配信されるレポートの最適なコーディング方法を紹介するほか、-HTMLFORM や GRAPH FILE などの WebFOCUS コマンドを使用した例についても説明します。

トピックス

- | | |
|--|--|
| ☐ WebFOCUS プロシジャの編集 | ☐ FML の作成 |
| ☐ アンパサンド (&) または一重引用符 (') の使用 | ☐ &&KILL_RPC フラグの使用 |
| ☐ HTML レポートおよびドリルダウンレポート | ☐ Excel 複合レポート |
| ☐ -HTMLFORM の使用 | ☐ 複合レポートと統合された複合レポート |
| ☐ ReportCaster による目次レポートの配信 | ☐ アコーディオンレポート機能によるソートデータの表示制御 |
| ☐ データのグラフ化 | ☐ WebFOCUS 機能の制限事項 |
| ☐ GRAPH FILE コマンドの使用 | ☐ WebFOCUS コマンド使用時の既知の問題 |
| ☐ グラフイメージを組み込んだ PDF レポートの配信 | ☐ バーストレポートでの WebFOCUS コマンドの使用 |
| | ☐ スケジュール出力の言語指定 |
-

WebFOCUS プロシジャの編集

ReportCaster を使用してスケジュールする WebFOCUS プロシジャの編集には、「ワードパッド」ではなく、「メモ帳」を使用することをお勧めします。「ワードパッド」では、行末にブラックが追加されるため、WebFOCUS は適切に解析することができないためです。これは、特に切り取りと貼り付けによる編集時に発生する可能性があります。

アンパサンド (&) または一重引用符 (') の使用

ReportCaster では、次のテキストボックスで、アンパサンド (&) および一重引用符 (') を使用することができます。

- ❑ タイトル
- ❑ Email の件名および送信者
- ❑ (WebFOCUS からスケジュールされた) FTP レポート名
- ❑ WebFOCUS リポジトリフォルダ名
- ❑ 通知の件名

変数値内でのアンパサンド (&) の使用 文字列内のアンパサンド (&) とその次の文字の間に連結記号 (|) を入力します。以下はその例です。

```
-SET &COMPANY='AT&|T';  
-TYPE &COMPANY
```

変数値内での一重引用符 (') の使用 値に一重引用符 (') が 1 つ含まれているときは、一重引用符 (') を 2 つ使用します (例、O''Brien)。引用符で囲まれた文字列では、2 つの一重引用符 (') は、1 つの一重引用符 (') として認識されます。

注意：この方法をお勧めしますが、CTRAN サブルーチンを使用して、文字を変更することもできます。

構文

CTRAN による文字の変換

CTRAN (inlen, infield, decfrm, decto, output)

説明

inlen

入力文字列の文字数を指定する整数です。

infield

英数入力文字列です。

decfrm

変換される文字の 10 進数の値です。

decto

decfrm の代替文字として使用される 10 進数の値です。

output

英数文字列の出力結果です。

このサブルーチンを使用するには、内部マシン表現での文字の 10 進数値を把握している必要があります。印刷可能な EBCDIC 文字、ASCII 文字、およびその 10 進数の値は、文字コード表に記載されています。

例

CTRAN による一重引用符 (') から二重引用符 (") への変換

次のコードを使用することにより、一重引用符 (') を二重引用符 (") に変換することができます。

```
TABLE FILE TRAIN
PRINT TRAIN AND COMPUTE
ALT_MOD/A20 = CTRAN(20, MODEL, 39, 34, ALT_MOD);
BY COUNTRY
END
```

HTML レポートおよびドリルダウンレポート

配信する HTML レポートまたはドリルダウンレポートに Web サーバまたは Application Server 上のコンテンツへの参照が含まれている場合は、スケジュールするプロシジャに FOCHTMLURL コマンド (WebFOCUS レポートプロシジャで使用) または BASEURL コマンドを使用して、完全修飾 URL を指定する必要があります。完全修飾 URL を指定することで、レポートを表示するユーザが、WebFOCUS Client がインストールされている、または参照するコンテンツが存在する Web サーバまたは Application Server 上のコンテンツにアクセスできるようになります。その結果、HTML レポートまたはドリルダウンレポートの実行、イメージの表示、ハイパーリンクの解決、外部 CSS の適用が可能になります。

注意：ユーザがレポートを受信するには、外部 CSS ファイルが完全修飾され、アクセス可能である必要があります。

ドリルダウンレポートを実行するには、Web サーバと WebFOCUS Reporting Server にアクセスする必要があります。WebFOCUS Reporting Server がセキュアモードで稼働している場合、ユーザがレポートを実行するためには、有効なユーザ ID とパスワードが必要です。ユーザが有効な実行 ID とパスワードを持たない場合、認証メッセージが表示されます。

ドリルダウンをコーディングする際は、ホスト名に「localhost」は使用しないでください。localhost がホスト名に指定されると、ユーザマシンへのレポートの送信時には、ユーザのログイン先のマシンが参照されます。ドリルダウンリクエストを実行するには、WebFOCUS Client がインストールされている Application Server のホスト名にリクエストを送信する必要があります。

参照 ポップアップ説明表示のためのコーディング要件

ReportCaster を使用してポップアップフィールド説明付きの HTML レポートを配信するには、WebFOCUS Client 内にある JavaScript コンポーネントを使用する必要があります。ReportCaster で配信するレポートからこれらのコンポーネントにアクセスするには、スケジュールするプロシジャに SET FOCHTMLURL コマンドを含める必要があります。このコマンドには、デフォルト値の /ibi_apps/ibi_html ではなく、絶対 URL を設定します。

以下はその例です。

```
SET FOCHTMLURL = http://hostname[:port]/ibi_apps/ibi_html
```

説明

`hostname[:port]`

WebFOCUS Web アプリケーションの展開先のホスト名とオプションのポート番号です。ポート番号はデフォルト値以外を使用している場合に入力します。

`ibi_apps/ibi_html`

WebFOCUS82¥ibi_html ディレクトリのサーバエイリアスです。この値はサイトにより異なります。デフォルト値は、ibi_apps/ibi_html です。

-HTMLFORM の使用

展開環境では、-HTMLFORM コマンドを使用することで、プロシジャに HTML コマンドを含めることができます。これにより、Web ページの機能が拡張されます。Web ページには、標準の HTML 要素 (例、文字スタイル、ハイパーリンク、グラフィメージ、テーブル、フォーム、フレーム) をすべて使用することができます。このコンテンツは、必要な機能を内蔵する 1 組のアンサーセットである必要があります。

例

-HTMLFORM の使用と HTML ページでの 2 つの表形式レポートの表示

```

TABLE FILE CENTORD
SUM
  LINEPRICE
BY
  PRODCAT AS 'Product Category'
HEADING
" "
" "
ON TABLE SET PAGE-NUM OFF
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET ONLINE-FMT HTML
ON TABLE SET STYLE *
.....
.....
ENDSTYLE

ON TABLE HOLD AS HOLD1 FORMAT HTMTABLE
END
TABLE FILE CENTORD
SUM LINEPRICE AS 'Sales'
BY STORE_CODE AS 'Store'
BY PRODCAT AS 'Category'
WHERE STORE_CODE EQ '4003NY' OR
STORE_CODE EQ '1003CA'
HEADING
" "
" "
ON TABLE SET PAGE-NUM OFF
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET ONLINE-FMT HTML
ON TABLE SET STYLE *
.....
.....
ENDSTYLE

ON TABLE HOLD AS HOLD2 FORMAT HTMTABLE
END
-HTMLFORM SALES

```

-HTMLFORM コマンドにより、WebFOCUS Reporting Server パスに存在する .HTM ファイルが実行されます。下図の例では、HTML ページに 2 つの表形式レポートが表示されています。この HTML ページは、下図のとおり配信されます。

Century Corp Sales Analysis				
Sales by Category		Sales By Category For Select Stores		
Product Category	Line Total	Store	Category	Sales
CD Players	\$85,034,454.74	1003CA	CD Players	\$555,790.98
Camcorders	\$739,819,546.58		Camcorders	\$8,755,177.98
Cameras	\$24,856,684.65		Cameras	\$361,298.05
DVD	\$112,057,864.09		DVD	\$2,821,530.46
Digital Tape Recorders	\$81,204,933.20		Digital Tape Recorders	\$1,854,704.60
PDA Devices	\$490,694,824.12		PDA Devices	\$11,502,951.64
VCRs	\$59,954,512.81		VCRs	\$700,307.48
		4003NY	CD Players	\$264,394.76
			Camcorders	\$2,306,444.02
			Cameras	\$173,836.22
			DVD	\$1,621,890.92
			Digital Tape Recorders	\$679,284.00
			PDA Devices	\$4,164,274.76
			VCRs	\$33,866.80

ReportCaster による目次レポートの配信

動的 HTML を基準とする TOC (目次) を追加して、大規模な HTML レポートの内部ナビゲーション機能を拡張することができます。この機能を活用するには、少なくとも 1 つの BY フィールドを、レポートに含める必要があります。レポートに複数の BY フィールドが含まれている場合、目次の階層は、リクエストで BY フィールドが指定された順序に基づいて決定されます。下位のソートフィールドに TOC を追加する場合は、その親にも TOC を追加する必要があります。

TOC には、最上位の BY フィールドのすべての値と、TOC オプションが指定された下位の BY フィールドの値が、ハイパーリンクとして表示されます。リクエストで特に指定しない限り、最上位のソートフィールドが変更されたところで、新しいページが開始します。

注意

- ReportCaster では、TOC を有効にしたレポートのバーストはサポートされません。

- ❑ 複数レポートの制御機能は、『ibi™ WebFOCUS® アプリケーション作成ガイド』の「複数レポートの制御」に記載されていますが、この機能は ReportCaster ではサポートされません。
- ❑ TOC が有効なレポートのサイズは、WebFOCUS Client のメモリサイズにより制限されます。

構文

ReportCaster による目次レポートの配信

ReportCaster を使用して目次 (TOC) レポートを配信するには、プロシジャに次のコードを追加します。

```
SET BASEURL=http://hostname[:port]
```

説明

`hostname[:port]`

WebFOCUS Web アプリケーションの展開先のホスト名とオプションのポート番号です。
ポート番号はデフォルト値以外を使用している場合に入力します。

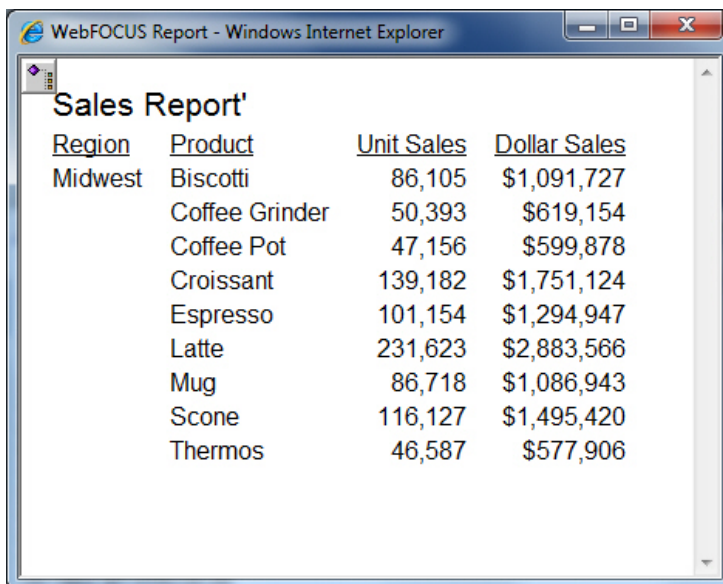
`ibi_apps/ibi_html`

サイトごとに異なる WebFOCUS82¥ibi_apps¥ibi_html ディレクトリの Web サーバエイリアスです。ここで、ibi_apps/ibi_html はデフォルト値です。

以下はその例です。

```
SET BASEURL=http://server1:8080/
TABLE FILE GGSales
HEADING
"Sales Report"
SUM GGSales.SALES01.UNITS/I08C
GGSales.SALES01.DOLLARS/I08M
BY GGSales.SALES01.REGION
BY GGSales.SALES01.PRODUCT
ON TABLE PCHOLD FORMAT HTML
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET PAGE-NUM NOLEAD
ON TABLE SET SQUEEZE ON
ON TABLE SET EMPTYREPORT ON
ON TABLE SET HTMLCSS ON
ON TABLE SET HTMLENCODE ON
ON TABLE SET STYLE *
TYPE=REPORT, GRID=OFF, FONT=ARIAL, SIZE=12,$
TYPE=HEADING, SIZE=16, $
ENDSTYLE
ON TABLE SET COMPOUND BYTOC
END
```

下図は、HTML レポートを示しています。ダイナミック HTML ベースの TOC が左上部に表示されています。このレポートは、作成後に ReportCaster で配信することができます。



The screenshot shows a web browser window titled 'WebFOCUS Report - Windows Internet Explorer'. Inside, there is a report titled 'Sales Report'. The report contains a table with the following data:

Region	Product	Unit Sales	Dollar Sales
Midwest	Biscotti	86,105	\$1,091,727
	Coffee Grinder	50,393	\$619,154
	Coffee Pot	47,156	\$599,878
	Croissant	139,182	\$1,751,124
	Espresso	101,154	\$1,294,947
	Latte	231,623	\$2,883,566
	Mug	86,718	\$1,086,943
	Scone	116,127	\$1,495,420
	Thermos	46,587	\$577,906

EXL2K 目次レポートの配信

WebFOCUS レポートで EXL2K 目次 (TOC) を生成するレポートを作成し、このレポートを ReportCaster で配信すると、最初のシートのみが作成されます。これは、ReportCaster が BYTOC リクエストを正しく処理していないためです。この場合、BYTOC リクエストが正しく処理されるよう SET ONLINE-FMT=EXL2K を追加して、この問題を解決することができます。以下はその例です。

```
SET BASEURL=http://server1:8080/
SET COMPOUND=BYTOC
SET ONLINE-FMT=EXL2K
TABLE FILE GGSales
SUM GGSales.SALES01.UNITS/I08C
GGSales.SALES01.DOLLARS/I08M
BY GGSales.SALES01.REGION
BY GGSales.SALES01.PRODUCT
ON TABLE SET PAGE-NUM OFF
ON TABLE SET BYDISPLAY ON
ON TABLE NOTOTAL
END
```


下図は、SET ONLINE-FMT=EXL2K を指定した場合の EXL2K レポートを示しています。レポートの下部に、地域別のタブが表示されています。

	A	B	C	D	
1	Region	Product	Unit Sales	Dollar Sales	
2	Midwest	Biscotti	86,105	\$1,091,727	
3	Midwest	Coffee Grinder	50,393	\$619,154	
4	Midwest	Coffee Pot	47,156	\$599,878	
5	Midwest	Croissant	139,182	\$1,751,124	
6	Midwest	Espresso	101,154	\$1,294,947	
7	Midwest	Latte	231,623	\$2,883,566	
8	Midwest	Mug	86,718	\$1,086,943	
9	Midwest	Scone	116,127	\$1,495,420	
10	Midwest	Thermos	46,587	\$577,906	
11					
12					
◀ ▶ ◀▶ ◀▶▶ ▶▶▶ Midwest Northeast Southeast West					

データのグラフ化

HTML レポートをより強力にするため、選択したデータのグラフを直接レポート出力に挿入することができます。これらの視覚的な表現は、データ間の関係や動向をより明確にする縦または横のピアグラフ形式で表されます。ピアグラフは、WebFOCUS レポートまたは サーバプロシジャで使用可能です。

たとえば、次のコードは、CENTHR データソースから情報を取得します。

```
SET BASEURL=http://hostname[:port]/
TABLE FILE CENTHR
SUM EMP_COUNT
BY PLANT
ON TABLE SET STYLE * GRAPHTYPE=DATA, FIELD=EMP_COUNT, GRAPHCOLOR=RED,$
END
```

説明

`hostname[:port]`

WebFOCUS Web アプリケーションの展開先のホスト名とオプションのポート番号です。
ポート番号はデフォルト値以外を使用している場合に入力します。

`ibi_apps/ibi_html`

サイトごとに異なる WebFOCUS82¥ibi_apps¥ibi_html ディレクトリの Web サーバエイリアスです。ここで、ibi_apps/ibi_html はデフォルト値です。

出力結果は、下図のようなグラフフォーマットで表示されます。この出力を、ReportCaster で配信することができます。

PAGE 1		
Plant Location	Employed Count	
BOS	18	
DAL	25	
LA	58	
ORL	30	
SEA	14	
STL	6	

手順

WebFOCUS がインストールされていない Web サーバでピアグラフを表示するには

WebFOCUS がインストールされていない Web サーバでピアグラフファイルを使用するには、次の手順を実行します。

1. 現在の ReportCaster 構成に応じて、Web サーバ上で /ibi_html または ibi_apps/ibi_html のエイリアスを作成します。

WebFOCUS /ibi_html エイリアスの作成についての詳細は、使用しているプラットフォームに対応する『ibi™ WebFOCUS® インストールガイド』を参照してください。
2. ¥ibi_html ディレクトリ配下に vis サブディレクトリを作成します。
3. WebFOCUS Client がインストールされている Application Server から、GIF ファイルを outside¥vis¥ ディレクトリにコピーします。outside は、WebFOCUS がインストールされていない Web サーバの名前です。
4. 配信レポートを作成するプロシジャ内で、「SET BASEURL=http://outside/」を実行します。

GRAPH FILE コマンドの使用

TABLE FILE コマンドを GRAPH FILE コマンドに置き換えることにより、ほとんどの TABLE リクエストは、GRAPH リクエストに変換することができます。ただし、グラフフォーマットの性質による制限はあります。この方法で TABLE リクエストを変換すると、グラフのフォーマットおよびレイアウトは、リクエストの本文を構成するさまざまな句により決定されます。GRAPH FILE リクエストによって作成されたグラフのタイプは、使用した表示コマンド (SUM または PRINT) およびソート句 (ACROSS または BY) により異なります。

WebFOCUS で使用される内部グラフエンジンは、ReportCaster Distribution Server に統合されています。したがって、ReportCaster Distribution Server に GRAPH FILE リクエストのデータが返されると、グラフが作成され、配信されます。GRAPH FILE コマンドを使用する際は、ReportCaster Distribution Server にデータを返すためには、コマンドに SET GRAPHEDIT=SERVER 構文を含める必要があります。バーストはサポートされ、GRAPH FILE リクエストの 2 番目の BY フィールドで実行されます。ReportCaster スケジュールを作成するときは、グラフィックイメージフォーマット (GIF、PNG、SVG) のいずれかを指定する必要があります。

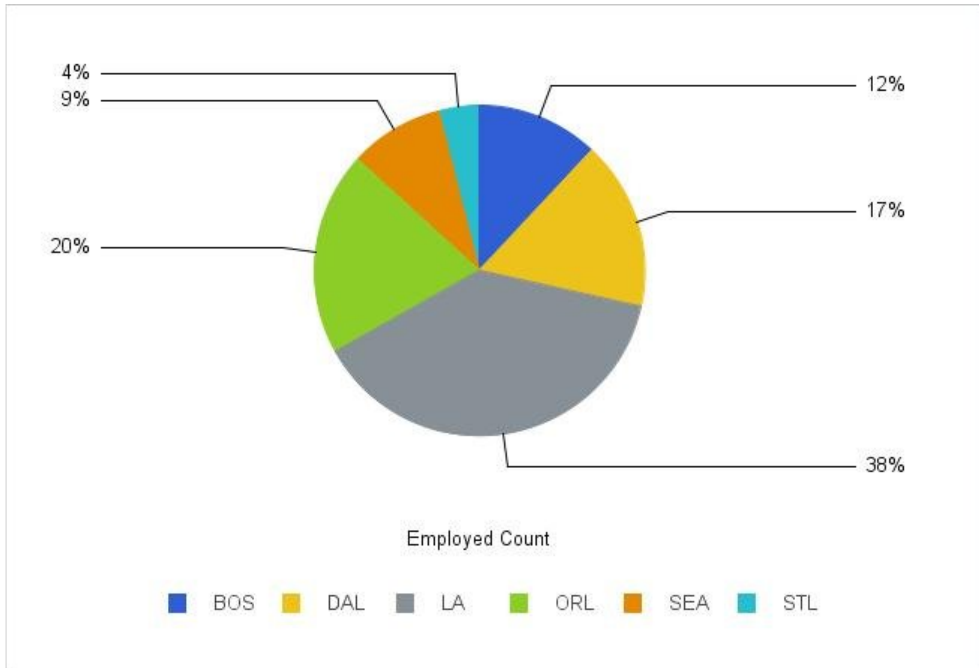
注意：見出しまたは脚注が含まれたグラフをイメージフォーマット (GIF、JPEG、PNG、SVG) で配信する場合は、InfoAssist で見出しおよび脚注をイメージとして埋め込むオプションを選択する必要があります。埋め込みオプションを選択しない場合、配信されるイメージファイルに見出しと脚注は含められません。この場合、見出しまたは脚注を含むグラフは、HTML、HTML5、または PDF を使用して配信する必要があります。

例 円グラフを出力表示するレポートの作成

InfoAssist を使用して、出力を円グラフとして表示するレポートを作成することができます。

```
-DEFAULTH &WF_STYLE_UNITS='PIXELS';
-DEFAULTH &WF_STYLE_HEIGHT='405.0';
-DEFAULTH &WF_STYLE_WIDTH='770.0';
-DEFAULTH &WF_TITLE='WebFOCUS Report';
GRAPH FILE CENTHR
  -* Created by Info Assist for Graph
  SUM CENTHR.EMPSEG.EMP_COUNT
  BY CENTHR.EMPSEG.PLANT
  ON GRAPH PCHOLD FORMAT HTML
  ON GRAPH SET HTMLENCODE ON
  ON GRAPH SET GRAPHDEFAULT OFF
  ON GRAPH SET ARGRAPHENGIN JSCHART
  ON GRAPH SET VZERO OFF
  ON GRAPH SET GRMERGE ADVANCED
  ON GRAPH SET GRMULTIGRAPH 0
  ON GRAPH SET GRLEGEND 0
  ON GRAPH SET GRXAXIS 1
  ON GRAPH SET UNITS &WF_STYLE_UNITS
  ON GRAPH SET HAXIS &WF_STYLE_WIDTH
  ON GRAPH SET VAXIS &WF_STYLE_HEIGHT
  ON GRAPH SET GRMERGE ADVANCED
  ON GRAPH SET GRMULTIGRAPH 0
  ON GRAPH SET GRLEGEND 1
  ON GRAPH SET GRXAXIS 0
  ON GRAPH SET LOOKGRAPH PIEMULTI
  ON GRAPH SET GRAPHSTYLE *
  setReportParsingErrors(false);
  setSelectionEnableMove(false);
  setCurveFitEquationDisplay(false);
  setPieDepth(0);
  setPieTilt(0);
  setDepthRadius(0);
  setPieFeelerTextDisplay(1);
  setPlace(true);
  ENDSTYLE
  ON GRAPH SET STYLE *
  INCLUDE=IBFS:/FILE/IBI_HTML_DIR/javaassist/intl/EN/ENIADefault_combine.sty,$
  TYPE=REPORT, TITLETEXT=&WF_TITLE.QUOTEDSTRING, $
  ENDSTYLE
END
```

下図は、ReportCaster による配信が可能な複数色の円グラフ出力の例を示しています。



グラフィイメージを組み込んだ PDF レポートの配信

グラフィイメージを組み込んだ PDF レポートは、ReportCaster で配信することが可能です。次の手順を実行します。

1. WebFOCUS Reporting Server の一時ディレクトリにグラフを作成し、PDF レポートのヘッダまたは本文にイメージを挿入します。
2. グラフィイメージを作成し、PDF レポートに埋め込んだ後、PDF プロシジャ (FEX) を保存します。ReportCaster を使用してこのプロシジャ (FEX) のスケジュールを作成し、PDF レポートとして配信することができます。スケジュールを作成する際は、必ず PDF レポートフォーマットを選択してください。

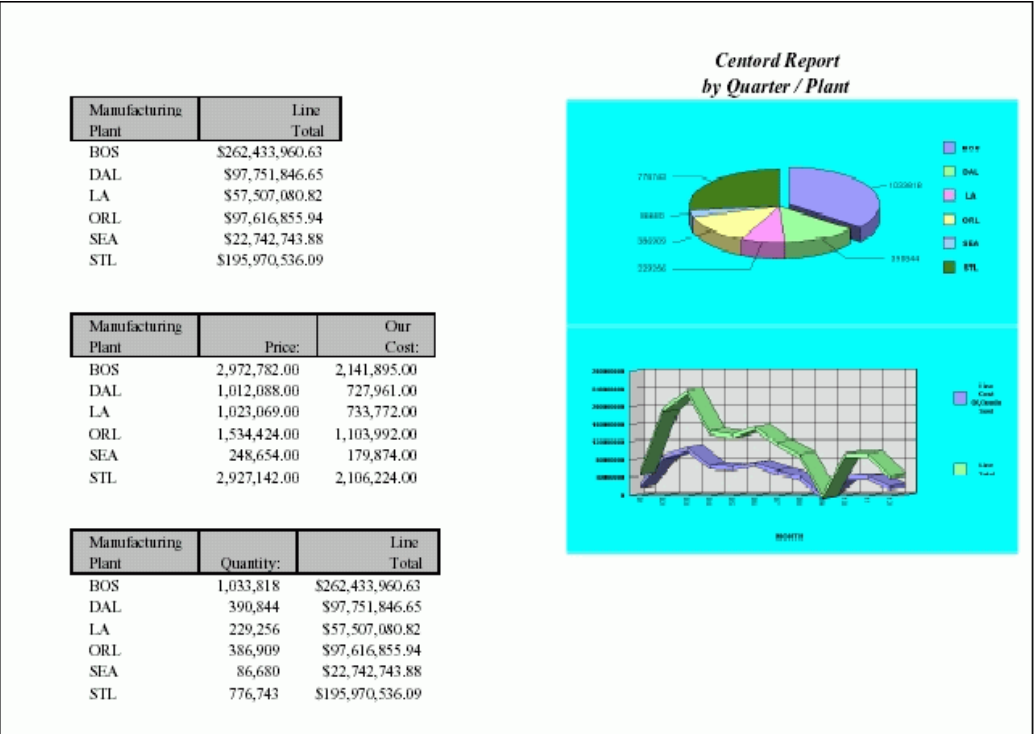
WebFOCUS Reporting Server で JSCOM3 グラフオプションを有効にした場合、GRAPHSEVURL を設定する必要はありません。以下はその例です。

```
SET GRAPHSEVURL=http://hostname:port/ibi_apps/IBIGraphServlet
```

GRAPHSEVURL を使用すべきでない構成については、『ibi™ WebFOCUS® セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

例 複数のグラフィメージを組み込んだ PDF レポートの作成

下図の PDF 複合ドキュメントは、3 つの PDF レポートで構成され、そのうちの 1 つに GIF イメージが 2 つ含まれています。



次のコードは、上図に示す PDF 複合ドキュメントを作成します。このプロシジャは次の URL から入手できます。

https://techsupport.informationbuilders.com/tech/wbf/wbf_tcn_088.html

```
SET GRAPHSEVRURL=http://hostname:port/ibi_apps/IBIGraphServlet
-* where hostname:port is the host name and port number of your
-* Application Server
GRAPH FILE CENTORD
SUM QUANTITY AS ''
ACROSS PLANT
ON GRAPH SET LOOKGRAPH PIESINGL
ON GRAPH SET GRAPHEDIT SERVER
ON GRAPH SET GRAPHSTYLE *
```

```

setPieDepth(99);
setPieTilt(57);
setAutofit(getLegendText(0), false);
setFontSize(getLegendText(0), 14);
setAutofit(getLegendText(1), false);
setFontSize(getLegendText(1), 14);
setAutofit(getLegendText(2), false);
setFontSize(getLegendText(2), 14);
setAutofit(getLegendText(3), false);
setFontSize(getLegendText(3), 14);
setAutofit(getLegendText(4), false);
setFontSize(getLegendText(4), 14);
setAutofit(getLegendText(5), false);
setFontSize(getLegendText(5), 14);
setSizeAbsolute(getPieSliceLabel(), true);
setAutofit(getPieSliceLabel(), false);
setFontSize(getPieSliceLabel(), 14);
setFontStyle(getLegendText(0), 2);

setBorderColor(getX1MinorGrid(), new Color(133, 133, 133));
setBorderColor(getY1MinorGrid(), new Color(133, 133, 133));
setAutofit(getLegendText(0), false);
setFillColor(getChartBackground(), new Color(0, 255, 255));
setPieSliceDetach(getSeries(0), 52);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(0), true);
setAutofit(getO1Label(0), false);
setFontSize(getO1Label(0), 12);
setMarkerDisplay(true);
setConnectLineMarkers(false);
setConnectScatterMarkers(false);
setO1LabelDisplay(true);
setO1AxisSide(0);
setO1MajorGridDisplay(true);
setO1MajorGridStyle(0);
setO1MinorGridDisplay(false);

setSeriesType(0, 0);
setY1LabelDisplay(true);
setY1AxisSide(0);
setY1MajorGridDisplay(true);
setY1MajorGridStyle(0);
setY1MinorGridDisplay(false);
setPieFeelerTextDisplay(1);
setPieLabelDisplay(0);
setTextFormatPreset(getPieSliceLabel(), 1);
setTextFormatPreset(getY1Label(), 1);
setLegendDisplay(true);
setSizeAbsolute(getLegendText(), true);
ENDSTYLE

```

```
ON GRAPH SET BARNUMB OFF
ON GRAPH SET 3D OFF
ON GRAPH SET VZERO ON
ON GRAPH SET GRID ON
ON GRAPH SAVE AS GRAPH1 FORMAT GIF
END
```

```
GRAPH FILE CENTORD
SUM LINE_COGS LINEPRICE
ACROSS MONTH
ON GRAPH SET LOOKGRAPH VLINSTK
ON GRAPH SET GRAPHEDIT SERVER
ON GRAPH SET GRAPHSTYLE *
```

```
setGridStep(getY1MajorGrid(),1.0E8);
setGridStep(getY2MajorGrid(),4.0E7);
setTextWrap(getLegendText(0),true);
setDisplayBarAsPictograph(true);
setAutofit(getLegendText(0),false);
setFontSize(getLegendText(0),11);
setAutofit(getLegendText(1),false);
setFontSize(getLegendText(1),11);
setAutofit(getY1Label(),false);
setFontStyle(getLegendText(0),2);
setBorderColor(getX1MinorGrid(),new Color(133,133,133));
setBorderColor(getY1MinorGrid(),new Color(133,133,133));
setRect(getLegendArea(),new Rectangle(10901,-9500,4698,20800));
setAutofit(getLegendText(0),false);
setDataLineThickness(39);
setDepthAngle(19);
setDepthRadius(18);
```

```
setFillColor(getChartBackground(),new Color(0,255,255));
setFillColor(getFrame(),new Color(223,223,223));
setFillColor(getFrameSide(),new Color(191,191,191));
setFillColor(getFrameBottom(),new Color(179,179,179));
setRiserBarGroupSpacing(52);
setRiserWidth(31);
setScaleMax(getY1Axis(),5.0E8);
setScaleMax(getY2Axis(),2.8E8);
setScaleMin(getY2Axis(),0.0);
setSeriesType(getSeries(0),2);
setSeriesType(getSeries(1),2);
```



```
setFontSizeAbsolute(getO1Label(0), true);
setAutofit(getO1Label(0), false);
setFontSize(getO1Label(0), 12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(1), true);
setAutofit(getO1Label(1), false);
setFontSize(getO1Label(1), 12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(2), true);
setAutofit(getO1Label(2), false);
setFontSize(getO1Label(2), 12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(3), true);
setAutofit(getO1Label(3), false);
setFontSize(getO1Label(3), 12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(4), true);
setAutofit(getO1Label(4), false);
setFontSize(getO1Label(4), 12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(5), true);
setAutofit(getO1Label(5), false);
setFontSize(getO1Label(5), 12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(6), true);
setAutofit(getO1Label(6), false);
setFontSize(getO1Label(6), 12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(7), true);
setAutofit(getO1Label(7), false);
setFontSize(getO1Label(7), 12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(8), true);
setAutofit(getO1Label(8), false);
setFontSize(getO1Label(8), 12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(9), true);
setAutofit(getO1Label(9), false);
setFontSize(getO1Label(9), 12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(10), true);
setAutofit(getO1Label(10), false);
setFontSize(getO1Label(10), 12);
setFontSizeAbsolute(getO1Label(11), true);
setAutofit(getO1Label(11), false);
setFontSize(getO1Label(11), 12);
```

```
setMarkerDisplay(false);
setConnectLineMarkers(true);
setConnectScatterMarkers(true);
setO1LabelDisplay(true);
setO1AxisSide(0);
setO1MajorGridDisplay(true);
setO1MajorGridStyle(0);
setO1MinorGridDisplay(false);
setSeriesType(0,2);
setSeriesType(1,2);
setY1LabelDisplay(true);
setY1AxisSide(0);
setY1MajorGridDisplay(true);
setY1MajorGridStyle(0);
setY1MinorGridDisplay(false);
setPieFeelerTextDisplay(0);
setTextFormatPreset(getPieSliceLabel(),1);
setTextFormatPreset(getY1Label(),1);
setLegendDisplay(true);
setFontSizeAbsolute(getLegendText(),true);
setFontSizeAbsolute(getY1Label(),true);
setFontSize(getY1Label(),11);
setFontStyle(getY1Label(),2);
ENDSTYLE
```

```
ON GRAPH SET BARNUMB OFF
ON GRAPH SET 3D ON
ON GRAPH SET VZERO ON
ON GRAPH SET GRID ON
ON GRAPH SAVE AS GRAPH2 FORMAT GIF
END
```

```
SET COMPOUND = OPEN NOBREAK
TABLE FILE CENTORD
SUM
    LINEPRICE
BY
    PLANT
HEADING
" <40 "
"Centord Report "
"by Quarter / Plant "
ON TABLE SET PAGE-NUM OFF
ON TABLE SET BYDISPLAY OFF
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET ONLINE-FMT PDF
```

```

ON TABLE SET STYLE *
    UNITS=IN,
    PAGESIZE='Letter',
    LEFTMARGIN=0.500000,
    RIGHTMARGIN=0.500000,
    TOPMARGIN=0.000000,
    BOTTOMMARGIN=0.000000,
    SQUEEZE=ON,
    ORIENTATION=LANDSCAPE,
$

TYPE=REPORT,
    FONT='TIMES NEW ROMAN',
    SIZE=8,
    COLOR=BLACK,
    BACKCOLOR=NONE,
    STYLE=NORMAL,
$

TYPE=TITLE,
    GRID=ON,
    BACKCOLOR=SILVER,
$

TYPE=REPORT,
    IMAGE=GRAPH1.gif,
    POSITION=(4.000000 0.700000),
    SIZE=(3.200000 1.600000),
$

TYPE=REPORT,
    IMAGE=GRAPH2.gif,
    POSITION=(4.000000 2.300000),
    SIZE=(3.200000 1.600000),
$

TYPE=HEADING, LINE=2, SIZE=10,STYLE=BOLD+ITALIC, JUSTIFY=CENTER, $
TYPE=HEADING, LINE=3, SIZE=10,STYLE=BOLD+ITALIC, JUSTIFY=CENTER, $
ENDSTYLE
END

```

```
SET COMPOUND = NOBREAK
TABLE FILE CENTORD
SUM PRICE COST
BY
    PLANT
ON TABLE SET PAGE-NUM OFF
ON TABLE SET BYDISPLAY OFF
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET ONLINE-FMT PDF
ON TABLE SET STYLE *
    UNITS=IN,
    PAGESIZE='Letter',
    LEFTMARGIN=0.500000,
    RIGHTMARGIN=0.500000,
    TOPMARGIN=0.000000,
    BOTTOMMARGIN=0.000000,
    SQUEEZE=ON,
    ORIENTATION=LANDSCAPE,
$

TYPE=REPORT,
    FONT='TIMES NEW ROMAN',
    SIZE=8,
    COLOR=BLACK,
    BACKCOLOR=NONE,
    STYLE=NORMAL,
$

TYPE=TITLE, BACKCOLOR=SILVER,
    GRID=ON,$
ENDSTYLE
END
SET COMPOUND = CLOSE
TABLE FILE CENTORD
SUM
    QUANTITY
    LINEPRICE
BY
    PLANT
ON TABLE SET PAGE-NUM OFF
ON TABLE SET BYDISPLAY OFF
ON TABLE NOTOTAL
ON TABLE SET ONLINE-FMT PDF
ON TABLE SET STYLE *
    UNITS=IN,
    PAGESIZE='Letter',
    LEFTMARGIN=0.500000,
    RIGHTMARGIN=0.500000,
    TOPMARGIN=0.000000,
    BOTTOMMARGIN=0.000000,
    SQUEEZE=ON,
    ORIENTATION=LANDSCAPE,
$
```

```

TYPE=REPORT,
  FONT='TIMES NEW ROMAN',
  SIZE=8,
  COLOR=BLACK,
  BACKCOLOR=NONE,
  STYLE=NORMAL,
$
TYPE=TITLE, BACKCOLOR=SILVER,
  GRID=ON, $
ENDSTYLE
END

```

FML の作成

FML (Financial Modeling Language) は、バランスシート、連結、予算など、財務データの作成、計算、表示に使用します。これらのレポートは、計算が複数の行や列で行われるため、他のレポートとは区別されます。

POST および PICKUP コマンドを使用した FML レポートをスケジュールする際は、次のガイドラインに従います。POST と PICKUP は、次の 2 つのプロシジャに分割します。

- ❑ **POST** FML レポート結果の保存に必要です。POST コマンドは、実行前プロシジャで使用します。実行前プロシジャの実行中にレポートを生成しないよう、ON TABLE HOLD 構文を POST コマンドにより保存されたレポートに記述する必要があります。このプロシジャは、WebFOCUS Reporting Server に格納する必要があります。
- ❑ **PICKUP** POST コマンドにより保存されたデータの検索に必要です。スケジュールするプロシジャです。このプロシジャは、WebFOCUS Reporting Server、WebFOCUS リポジトリ、またはローカルアプリケーションに格納することができます。

注意：FML レポートでは BY フィールドを使用しないため、FML レポートのバーストはサポートされません。

例

FML リクエストでの POST コマンドの使用

次のコードは、FML レポートを作成します。LEDGEOUT 作業ファイルには、POST コマンドにより 2 つのタグ行が保存されます。このプロシジャは、WebFOCUS Reporting Server に格納する必要があります。

```
FILEDEF LEDGEOUT DISK D:¥IBI¥LEDGEOUT.DAT
DEFINE FILE LEDGER
CUR_YR/I5C=AMOUNT;
LAST_YR/I5C=.87 * CUR_YR - 142;
END

TABLE FILE LEDGER
SUM CUR_YR LAST_YR
FOR ACCOUNT
1100 LABEL AR POST TO LEDGEOUT OVER
1200 LABEL INV POST TO LEDGEOUT OVER
RECAP CA=R1 + R2; AS 'ASSETS' ON TABLE HOLD
END
```

例 FML リクエストでの PICKUP コマンドの使用

次のコードは、LEDGEOUT 作業ファイルから送信されたデータを検索し、RECAP 計算に使用します。このプロシジャの出力は、ReportCaster によって配信されます。

```
FILEDEF LEDGEOUT DISK D:¥IBI¥LEDGEOUT.DAT
DEFINE FILE LEDGER
CUR_YR/I5C=AMOUNT;
LAST_YR/I5C=.87 * CUR_YR - 142;
END

TABLE FILE LEDGER
SUM CUR_YR LAST_YR
FOR ACCOUNT
1010 TO 1030 AS 'CASH' LABEL CASH OVER
DATA PICKUP FROM LEDGEOUT AR
AS 'ACCOUNTS RECEIVABLE' LABEL AR OVER
DATA PICKUP FROM LEDGEOUT INV
AS 'INVENTORY' LABEL INV OVER
BAR OVER
RECAP CUR_ASSET/I5C = CASH + AR + INV;
END
```

&&KILL_RPC フラグの使用

&&KILL_RPC フラグは ReportCaster の変数です。このフラグは、条件に基づいて ReportCaster の処理を停止し、スケジュール済みプロシジャを実行しない場合、実行前プロシジャに使用することができます。条件には、データ検索の有無や、スケジュールが実行可能な日数の制限などがあります。条件を評価するコードには、WebFOCUS Reporting Server でサポートされるダイアログマネージャコマンドと FOCUS コマンドの組み合わせが使用できます。&&KILL_RPC 変数は、ダイアログマネージャを使用して設定する必要があります。

次のサンプルコードは、実行前プロシジャとして実行するよう構成されています。現在の日付が休日リストに含まれる場合、リクエストを停止します。

```

_*
-* TEST CURRENT DATE AGAINST A CALENDAR OF BUSINESS EXCEPTION DAYS
-* The assumption here is that the dates in the data file are in
-* ascending order
FILEDEF HDAYRCLB DISK baseapp/hdayrclb.dat
-RUN
_*
-SET &TDAYX = &YYMD;
-SET &&KILL_RPC = 'N';
_*
-*set PREV_DATE to some value that will cause the first IF to continue
-* the loop
-SET &PREV_DATE = 00000101;
-REPEAT DATELOOP WHILE &&KILL_RPC NE 'Y';
-READ HDAYRCLB &FILEDATE.I8
-SET &&KILL_RPC = IF &TDAYX EQ &FILEDATE THEN 'Y' ELSE 'N';
-IF &PREV_DATE GE &FILEDATE THEN GOTO ENDME;
-SET &PREV_DATE = &FILEDATE;
-DATELOOP
-ENDME

```

下図は、ログレポートに表示される情報 (例、「pre-prc (実行間プロシジャ) 実行中」や「KILL_RPC フラグによるユーザ強制終了です」などのメッセージ) を示しています。

Job Process Log Report	
Job Description: salesbys (IBFS:/WFC/Repository/Sales/salesbys.sch)	
User: admin	Schedule Executed On Demand at 572HJN1:25030 (572HJN1/169.254.2.157)
Procedure: J48032115jbfce8j4b2ejaacej774e3025ff83	Job placed in the waiting queue at 2020-01-16 14:12:56.039-0500 (1,579,201,976,039)
Schedule ID: S45a01c77sabfes4e75ab2e1s82a2627351a9	Job started running at 2020-01-16 14:12:56.350-0500 (1,579,201,976,350)
Start Time: 2020-01-16 02:12:56 PM EST	Job remained in waiting queue for 0.311 seconds
End Time: 2020-01-16 02:12:59 PM EST	Starting task: Task 1
	Task type: WebFOCUS Report
	WebFOCUS Report: /WFC/Repository/Sales/salesbys.fex
	Task domain: Sales
	Connecting to server EDASERVE with execution id admin at 2020-01-16 14:12:57.330-0500 (1,579,201,977,330)
	Executing pre-rcp: baseapp/rpc1
	User termination via KILL_RPC flag.
	No report to distribute.
	Total running time was 2.883 seconds
	Total elapsed time (including the queue time) was 3.194 seconds

スケジュール済みジョブの実行を停止するため、&&KILL_RPC が「Y」に設定されている場合、スケジュールの NEXTRUNTIME の値は、WebFOCUS リポジトリに格納されている情報に基づいて計算されたスケジュールの次回実行時間に設定されます。これは、「On Error」通知条件のトリガとして機能します。この動作は、次に示す実行前プロシジャのグローバル変数を使用して制御することができます。

- **&&KILL_RPC_NRT** スケジュール済みジョブの停止の際、「Y」に設定すると、NEXTRUNTIME 間隔が再設定され、「N」に設定すると再設定されません。デフォルト値は Y です。

- **&&KILL_RPC_ERR** スケジュール済みジョブ停止時に、「Y」に設定すると、[エラー時通知]が発動し、「N」に設定すると、発動されません。デフォルト値はYです。変数が「N」に設定されると、「Y」に設定された &&KILL_RPC に関するメッセージは、エラー以外のメッセージとしてログに書き込まれます。

次のサンプルコードは、上記の例に次回実行時間と &&KILL_RPC のグローバル変数通知を追加します。その結果、現在の日付が休日リストに含まれるため、スケジュールの次回実行時間は再設定されず、スケジュールが停止した場合も、エラー時通知は送信されません。

```
-*
-* TEST CURRENT DATE AGAINST A CALENDAR OF BUSINESS EXCEPTION DAYS
-* The assumption here is that the dates in the data file are in
-* ascending order
FILEDEF HDAYRCRB DISK baseapp/hdayrcrb.dat
-RUN
-*
-SET &TDAYX = &YYMD;
-SET &&KILL_RPC = 'N';
-SET &&KILL_RPC_NRT = 'N';
-SET &&KILL_RPC_ERR = 'N';
-*
-*set PREV_DATE to some value that will cause the first IF to continue
-* the loop
-SET &PREV_DATE = 00000101;
-REPEAT DATELOOP WHILE &&KILL_RPC NE 'Y';
-READ HDAYRCRB &FILEDATE.I8
-SET &&KILL_RPC = IF &TDAYX EQ &FILEDATE THEN 'Y' ELSE 'N';
-IF &PREV_DATE GE &FILEDATE THEN GOTO ENDME;
-SET &PREV_DATE = &FILEDATE;
-DATELOOP
-ENDME
```

Excel 複合レポート

Excel 複合レポートを使用して、EXL2K 出力フォーマットで複数のワークシートレポートを作成することができます。

Excel 複合レポートの構文は、PDF 複合レポートの構文と同一です。デフォルト設定では、複合レポートの各コンポーネントレポートは、新しい Excel ワークシートとして作成されます (PDF で新しいページが作成されることと同様)。NOBREAK キーワードを使用する場合は、次のレポートが同一ワークシート上の現在のレポートの下に作成されます (PDF の同一ページでのレポートの開始と同様)。

PCHOLD を使用してクライアントに送信、または HOLD を使用してファイルに保存した場合は、いずれも Microsoft Web アーカイブフォーマットで出力されます。このフォーマットは、Excel の [名前を付けて保存] ダイアログボックスの [単一ファイル Web ページ] に対応します。このフォーマットのファイル拡張子は、.mht または .mhtml です。WebFOCUS では EXL2K レポートと同一の拡張子 .xht を使用します。レポートは常に 1 つのファイルに出力されるため、ReportCaster で配信することができます。

Excel 複合レポートのコンポーネントには FORMULA または PIVOT レポートを使用することができます。Excel 複合レポート機能についての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® Language リファレンス』を参照してください。

注意：EXL2K フォーマットを使用する場合は、Excel 2002 (Office XP) 以降がインストールされている必要があります。Excel 複合レポートは Web アーカイブファイルフォーマットをサポートしないため、以前のバージョンの Excel では、Excel 複合レポートは動作しません。Excel 複合レポートは、バーストをサポートしません。

複合レポートと統合された複合レポート

ReportCaster では、AHTML、DHTML、EXL2K、PDF、PPT、PPTX フォーマットで作成された複合レポートを配信することができます。

ReportCaster では、DHTML、PDF、PPT、PPTX フォーマットで作成された、統合された複合レポートをバースト配信することができます。

アコーディオンレポート機能によるソートデータの表示制御

アコーディオンレポート機能を使用すると、HTML レポートページに表示するソートデータの数量を制御することができます。生成したレポートで、BY フィールドの値ごとにデータを展開して表示したり、折りたたんで非表示にしたりできます。アコーディオンレポートをはじめて表示した場合、先頭 (最上位) の BY フィールドデータ値のみが表示され、それ以外のデータは非表示になっています。レポートを手動で展開し、下位ソートフィールドのデータ値を表示することができます。

アコーディオンレポートを作成すると、最上位のソート項目を指定している見出しの下、各列データ値の左側に、プラス記号 (+) が表示されます。下位のソートフィールドに対応するデータ値の左側にプラス記号 (+) が表示され、実際のデータは、これらを手動で展開しない限り表示されません。最下位ソートフィールドのデータ値を展開することはできません。

展開可能ソートフィールドのプラス記号 (+) をクリックするだけで、下位ソートフィールドのデータを表示することができます。最下位から 2 番目のソート項目を指定している見出しのデータ値を展開すると、対応するデータがすべて表示されます。

アコーディオンレポートを作成するには、BY 句を使用して 2 つ以上の BY フィールドを含める必要があります。コマンド構文に 2 つ以上の BY 句が存在しない場合、EXPANDABLE コマンドは無視され、標準の HTML レポートが作成されます。この場合、メッセージは生成されません。

アコーディオンレポートでは、ACROSS ソートフィールドを使用することもできます。ACROSS ソートフィールドの見出しは、標準の HTML レポートでは BY ソートフィールドの見出しの上部に表示されますが、アコーディオンレポートでは、各ソートフィールドの列で少なくとも 1 つのソートデータ値を手動で展開した時点で表示されます。

アコーディオンレポートでは、PDF フォーマットと Excel フォーマットはサポートされません。

参照 アコーディオンレポートの要件

アコーディオンレポートを作成する際は、次の要件を考慮する必要があります。

- ❑ アコーディオンレポートにドリルダウンリンクを追加する場合は、TARGET パラメータの値に、新しい HTML フレームを指定する必要があります。
- ❑ アコーディオンレポートの作成およびユーザへの配信完了後、ユーザがレポートで作業する際、WebFOCUS Reporting Server への呼び出しは行われません。ソートフィールドの折りたたみフォルダコントロールには、WebFOCUS Client の JavaScript が必要です。この機能を使用するには、ユーザが WebFOCUS Web 階層コンポーネントに接続している必要があります。ユーザが WebFOCUS へオンラインで接続している場合、レポートに変更を加える必要はありません。ただし、ReportCaster を使用してレポートを配信する場合は、434 ページの「[ReportCaster によるアコーディオンレポートの配信](#)」を参照し、Email 添付ファイルまたは ReportLibrary のアーカイブレポートとして、レポートが正しく配信されるようにします。

参照 ReportCaster によるアコーディオンレポートの配信

アコーディオンレポートを ReportCaster で配信するには、WebFOCUS Client 上に存在する JavaScript コンポーネントおよびイメージを使用する必要があります。

ReportCater で配信されたレポートからこれらのコンポーネントにアクセスするには、スケジュール済みプロシジャに SET FOCHTMLURL コマンドを記述する必要があります。このコマンドは、デフォルト値ではなく、絶対 URL に設定する必要があります。以下はその例です。

```
SET FOCHTMLURL = http://hostname[:port]/ibi_apps/ibi_html
```

説明

`hostname[:port]`

WebFOCUS Web アプリケーションの展開先のホスト名とオプションのポート番号です。
ポート番号はデフォルト値以外を使用している場合に入力します。

`ibi_apps/ibi_html`

サイトごとに異なる WebFOCUS82¥ibi_apps¥ibi_html ディレクトリの Web サーバエイリアスです。ここで、ibi_apps/ibi_html はデフォルト値です。

参照

アコーディオンレポートサポート

アコーディオンレポートでは、次のコマンドはサポートされません。

`BORDER, COLUMN, FOR, IN, OVER, PAGE-NUM, ROW-TOTAL, TOTAL`

ピアグラフ、OLAP、Web ビューア、ReportCaster バーストレポートも使用できません。

構文

アコーディオンレポートの作成

アコーディオンレポートを有効にするには、次の構文を指定します。

```
ON TABLE SET EXPANDABLE = {ON|OFF}
TABLE FILE GGSales
SUM UNITS DOLLARS
BY REGION BY ST BY CITY BY CATEGORY
ON TABLE SET EXPANDABLE ON
END
```

説明

ON

アコーディオンレポートを有効にします。

OFF

アコーディオンレポートを無効にします。デフォルト値は OFF です。

例

アコーディオンレポートの作成

次の例では、EXPANDABLE コマンドを使用して、アコーディオンレポートを設定しています。

```
TABLE FILE GGSales
SUM UNITS DOLLARS
BY REGION BY ST BY CITY BY CATEGORY
ON TABLE SET EXPANDABLE ON
END
```

下図は、アコーディオンレポートの最上位ソートフィールドである Region の全データを表示しています。ここで表示されているデータ値は展開された状態ですが、これは、レポートの最上位、第 2 位、第 3 位のソートフィールドのプラス記号 (+) をユーザがクリックした結果です。

Region	State	City	Category	Unit Sales	Dollar Sales
Midwest					
Northeast	CT				
	MA				
	NY	New York	Coffee	116659	1459160
			Food	125473	1555165
			Gifts	70194	887940
Southeast					
West	CA	Los Angeles	Coffee	109082	1383924
			Food	110417	1381698
			Gifts	78571	1006381
		San Francisco			
	WA				

WebFOCUS 機能の制限事項

ReportCaster の複雑な内部処理のため、スケジュールするプロシジャでは次の機能はサポートされません。

- ❑ **PCSEND** 別のファイルにレポートセクションを格納する WebFOCUS レポート機能です。
- ❑ **HTML フォーマットの複数 TABLE または GRAPH リクエスト** 内部的には、複数の HTML ドキュメントです。最初の TABLE または GRAPH リクエスト (HOLD または SAVE コマンドなし) のみが配信されます。
- ❑ グラフの配信には、GIF、HTML、JPG、PDF、PNG、SVG フォーマットのいずれかを使用する必要があります。

複数ファイルの配信、または Web サーバや Application Server コンポーネントとの統合が必要なため、次の WebFOCUS 機能は、ReportCaster の Email 配信および FTP 配信では使用できません。

- ❑ **OLAP** レポート全体またはバーストレポートセクションのみが配信されます。OLAP 機能では、Web サーバまたは Application Server 上の WebFOCUS コンポーネントへの接続と認証が必要です。
- ❑ **Web ビューア** レポート全体またはバーストレポートセクションのみが配信されます。レポート出力はキャッシュされ、レポートの最初のページが WebFOCUS ビューアとともに、ブラウザに送信されます。ReportLibrary に配信する HTML ODP フォーマットのレポートでは、ON TABLE SET WEBVIEWTARG コマンドは使用しないでください。
- ❑ **グラフドリルダウン** GRAPH リクエストが実行されるときに、ReportCaster はグラフをイメージとして作成します。WebFOCUS Client を介して GRAPH リクエストが実行されるときは、HTML フォームとグラフィイメージが存在します。HTML フォームには、グラフィイメージおよび対応するドリルダウンを表示するための参照があります。

SET コマンドによる有効リンクまたはドリルダウンへのアクセス

有効リンク、または WebFOCUS レポートへのリンク (ドリルダウン) を含むレポートを配信する際は、URL コンテキストは完全修飾であり、レポートを実行またはリンクのコンテンツにアクセスするために、Web サーバおよび Application Server に接続している必要があります。SET FOCHTMLURL または SET BASEURL コマンドを使用し、有効リンクを完全修飾することができます。SET FOCHTMLURL を使用して、ibi_apps/ibi_html エイリアス下に存在するリソースにアクセスします。WebFOCUS レポート以外のプロシジャには、SET BASEURL を使用します。これにより、WebFOCUS で作成されたドキュメント (HTML ファイル、イメージ) を参照する相対 URL のデフォルトパスが指定されます。SET FOCEXURL コマンドを使用し、ドリルダウンを完全修飾することができます。SSL セキュリティを使用する場合、URL に「https」を指定します。デフォルト設定では、ReportCaster 構成ツールの [データサーバ] フォルダの設定を使用して、Distribution Server が自動的に FOCHTML および FOCEXURL コマンドを構成します。

WebFOCUS コマンド使用時の既知の問題

下表は、ReportCaster を使用してスケジュールされたプロシ ज्या内で特定のコマンドを使用したときに発生する、既知の問題とその説明および解決方法を記載しています。

コマンド	既知の問題	解決方法
&DATE	実行前プロシ ज्याで EDAPATH の設定および &DATE に基づくフィールドの計算を行うと、ログファイルに次のメッセージが表示されます。 No report for ReportCaster to distribute	&DATE ではなく、&YYMD 変数を使用してください。
ON TABLE SUMMARIZE	複数の動詞を含む TABLE リクエストで ACROSS および COMPUTE とともに使用すると無視されます。	複数の動詞には、この構文を使用しないでください。
TABLE	SQL Server では、「USER」というフィールド名は使用できません。USER は予約語です。このフィールド名を参照した場合、TABLE コマンドが失敗します。	データベースフィールド名を「USERID」に変更してください。
FORMAT YYM と FORMAT YM	MVS で値が表示されません。	DATEDISPLAY=ON に設定してください。
-INCLUDE	ReportCaster は 1 組のアンサーセットのみ受信可能なため、複数の配信レポートを出力するレポートは作成できません。	出力を保存 (HOLD または SAVE) するプロシ ज्याとともに使用してください。スタイルシート (.sty)、カスケードスタイルシート (.css)、GIF (.gif) ファイルには、- INCLUDE が使用できます。 複合レポート機能を使用してください。

コマンド	既知の問題	解決方法
-EXIT -QUIT	これらのコマンドは、スケジュール済みジョブを実行している内部セッションを停止するため、スケジュールするプロシジャ内には使用しないでください。スケジュール済みジョブの実行中に内部セッションが停止したときでも、レポート出力の配信が正常に完了する可能性はありますが、スケジュール実行のログ情報は処理できません。	ダイアログマネージャコマンドを使用し、プロシジャの終了点にあるラベルに分岐してください。これにより、アプリケーションロジックを実装することができます。また、ReportCaster による、指定したすべての実行後プロシジャの実行およびログ情報の処理が可能になります。
FOC_NONE	ReportCaster では、FOC_NONE 構文を使用したサーバプロシジャはサポートされていません。	FOC_NONE は、ReportCaster でスケジュールする WebFOCUS レポートプロシジャ、および WebFOCUS Client でのみ使用します。WebFOCUS Client でこの値を設定するには、IBIF_describe_null を FOC_NONE に設定します。この値を設定するには、WebFOCUS 管理コンソールの [構成] タブで、[アプリケーションの設定] 下の [パラメータのプロンプト] をクリックします。

注意：これらのコマンドについての詳細は、『ibi™ WebFOCUS® アプリケーション作成ガイド』を参照してください。

バーストレポートでの WebFOCUS コマンドの使用

ここでは、バーストレポートで WebFOCUS コマンドを使用する際の考慮事項について説明します。

バーストレポートでの総合計の自動非表示

バーストレポートで SUBTOTAL、SUB-TOTAL、SUMMARIZE、RECOMPUTE のいずれかのコマンドを使用する場合、WebFOCUS Reporting Server は自動的に総合計を非表示にします。たとえば、次のコードの場合、PRODCAT (製品カテゴリ) をバースト値として、下図のような Excel レポートが生成されます。

```
TABLE FILE CENTINV
SUM QTY_IN_STOCK
BY PRODCAT SUBTOTAL
BY PRODTYPE BY PRODNAME
ON TABLE PCHOLD FORMAT EXL2K FORMULA
END
```

在庫数 (Quantity in Stock) の値は、製品カテゴリ (Product Category) の値ごとに合計されていますが、製品タイプ (Product Type) の値ごとの合計は非表示になっています。

Product Category:	Product Type:	Product Name:	Quantity In Stock:
CD Players	Digital	QX Portable CD Player	22000
*TOTAL PRODCAT CD Players			22000
Camcorders	Analog	110 VHS-C Camcorder 20 X	4000
		120 VHS-C Camcorder 40 X	2300
		150 8MM Camcorder 20 X	5961
		250 8MM Camcorder 40 X	60073
	Digital	650DL Digital Camcorder 150 X	2972
		750SL Digital Camcorder 300 X	10758
*TOTAL PRODCAT Camcorders			86064

バーストレポートの列合計表示

ON TABLE COLUMN-TOTAL を使用したレポートをバーストすると、バースト値ごとに列合計が作成されます。たとえば、次のコードの場合、PRODCAT (製品カテゴリ) をバースト値として、下図のような Excel レポートが生成されます。

```
TABLE FILE CENTINV
SUM QTY_IN_STOCK
BY PRODCAT
BY PRODTYPE SUBTOTAL BY PRODNAME
ON TABLE PCHOLD FORMAT EXL2K FORMULA
ON TABLE COLUMN-TOTAL
END
```


製品タイプ (Product Type) の値ごとの列合計が作成され (例、Analog)、在庫数 (Quantity in Stock) の値が、製品タイプの値ごとに合計されています。

Product Category:	Product Type:	Product Name:	Quantity In Stock:
CD Players	Digital	QX Portable CD Player	22000
*TOTAL PRODTYPE Digital			22000
Camcorders	Analog	110 VHS-C Camcorder 20 X	4000
		120 VHS-C Camcorder 40 X	2300
		150 8MM Camcorder 20 X	5961
		250 8MM Camcorder 40 X	60073
*TOTAL PRODTYPE Analog			72334
	Digital	650DL Digital Camcorder 150 X	2972
		750SL Digital Camcorder 300 X	10758
*TOTAL PRODTYPE Digital			13730

スケジュール出力の言語指定

スケジュールするプロシジャに SET LANG パラメータを記述することにより、スケジュール出力の表示言語を指定することができます。たとえば、「SET LANG=ja」と設定すると、レポートは日本語で表示されます。

プロシジャに値を入力する代わりに、プロシジャのスケジュール時に表示されるメッセージで言語値を選択することもできます。これは、値を指定するドロップダウンリストを提供するプロシジャに、変数を使用することによって可能です。

スケジュール時には、ユーザが選択した値および ReportCaster Distribution Server のコードページの言語セットは検証されません。マスターファイルにはないタイトル言語オプションを選択した場合、「title=」という値が表示されます。TITLE が存在しない場合、FIELDNAME 値が使用されます。

注意： ReportCaster ユーザインターフェースの言語を指定する WebFOCUS 管理コンソールの [言語の切り替え] 設定は、この設定とは無関係に動作します。SET LANG コマンドは、ログレポートを含むすべてのレポート出力に影響します。SET LANG コマンドについての詳細は、『TM WebFOCUS® アプリケーション作成ガイド』の「環境のカスタマイズ」を参照してください。



スケジュール出力の **ReportCaster** フォーマット

スケジュールを作成すると、ReportCaster は、プロシジャで定義されているフォーマットでレポートを出力します。また、プロシジャでフォーマットが指定されていない場合は、デフォルトフォーマットが使用されます。必要に応じて、プロシジャで指定されているフォーマットを上書きし、スケジュールで別のフォーマットを指定することができます。ここでは、ReportCaster で使用可能なフォーマットについて説明します。また、これらのフォーマットの使用および配信の際の考慮事項も記載しています。フォーマットによっては、プロシジャで定義されているフォーマットを上書きする方法で出力できないものもあります。これらのフォーマットで出力するには、スケジュールするレポート自体でフォーマットを定義する必要があります。上書きする方法で出力できないフォーマットは、スケジュールツールでフォーマットを選択する際のリストに表示されません。詳細は、各フォーマットの考慮事項を参照してください。

トピックス

- | | |
|---|---|
| ☐ AHTML | ☐ EXL2K TEMPLATE |
| ☐ ALPHA | ☐ EXL97 |
| ☐ APDF | ☐ GIF |
| ☐ COM | ☐ HTML |
| ☐ COMMA | ☐ HTML5 |
| ☐ COMT | ☐ JPEG |
| ☐ DFIX | ☐ PDF |
| ☐ DHTML | ☐ PNG |
| ☐ DOC | ☐ PPT |
| ☐ EXCEL | ☐ PPT TEMPLATE |
| ☐ EXL07 | ☐ PPTX |
| ☐ EXL07 FORMULA | ☐ PPTX TEMPLATE |
| ☐ EXL07 TEMPLATE | ☐ SVG |
| | ☐ TAB、TABT |

- | | |
|--|------------------------------|
| ☐ EXL2K | ☐ WK1 |
| ☐ EXL2K FORMULA | ☐ WP |
| ☐ EXL2K PIVOT | ☐ XML |
-

AHTML

フォーマット：AHTML (.htm, .html)

説明：カスタマイズ可能なオプションを備えた HTML フォーマットのレポートを作成します。
このレポートでは、Excel ブックなどで使用可能な機能を使用することができます。

用途 (推奨)：ReportLibrary、Web ブラウザでの Email 表示

考慮事項

- ☐ FML レポートおよび複合レポート以外のバーストをサポートします。
- ☐ Email の添付ファイルでのみ配信が可能です。Email メッセージ本文として配信することはできません。

ALPHA

フォーマット：ALPHA (.ftm, .txt)

説明：スケジュール出力を固定フォーマットの文字データとして保存します。

用途 (推奨)：テキストドキュメントでの表示および WebFOCUS でのレポート作成に使用するほか、データソースを変更するためのトランザクションファイルとして使用します。

考慮事項

- ☐ HOLD ファイルとして作成した場合、対応するマスターファイルが作成されます。
- ☐ バーストをサポートします。

APDF

フォーマット：APDF (.pdf)

説明：「Analytic PDF」とも呼ばれ、PDF に Flash ファイルが埋め込まれたレポートを作成します。

用途 (推奨)：レポートの動的な表示に使用します。

COM

フォーマット: COM (.cvs)

説明: スケジュール出力をカンマ (,) 区切り可変長テキストファイルとして保存します。この場合、文字値は二重引用符 (") で囲まれます。フィールド内のブランクは保持されません。

Microsoft Access などのパッケージソフトウェアでは必須のフォーマットです。

用途 (推奨): データベースアプリケーションでの処理に使用します。このフォーマットタイプは、Excel や Lotus などのアプリケーションにインポートすることができます。

考慮事項

- ☐ このフォーマットタイプは、マスターファイルを作成しません。
- ☐ バーストをサポートします。
- ☐ ReportLibrary から Excel で開くことができます。
- ☐ SMARTDATE フィールドおよび日付フォーマットオプション付きの I または P フォーマットの日付フィールドは数値として扱われ、出力ファイル内では二重引用符 (") で囲まれます。日付オプション付きの文字フィールドは文字として扱われ、出力ファイル内では二重引用符 (") で囲まれます。
- ☐ コンチネンタル 10 進表記 (CDN=ON|SPACE|QUOTE) はサポートされません。間にカンマ (,) のある数値は、Microsoft Access などのアプリケーションでは、2 つのフィールドとして認識されます。

COMMA

フォーマット: COMMA (.csv)

説明: スケジュール出力をカンマ (,) 区切り可変長テキストファイルとして保存します。この場合、文字値は二重引用符 (") で囲まれます。フィールドのブランクはすべて保持されます。

Microsoft Access などのパッケージソフトウェアでは必須のフォーマットです。

用途 (推奨): データベースアプリケーションでの処理に使用します。このフォーマットタイプは、Excel や Lotus などのアプリケーションにインポートすることができます。

考慮事項

- ☐ このフォーマットタイプは、マスターファイルを作成しません。
- ☐ バーストをサポートします。

- ❑ ReportLibrary 内で Excel で開くことができます。また、COMMA レポートは、レポートを右クリックして ReportLibrary の外部に保存することで、Lotus 1-2-3 で開くことができるようになります。
- ❑ SMARTDATE フィールドおよび日付フォーマットオプション付きの I または P フォーマットの日付フィールドは数値として扱われ、出力ファイル内では二重引用符 (") で囲まれません。日付オプション付きの文字フィールドは文字として扱われ、出力ファイル内では二重引用符 (") で囲まれます。
- ❑ コンチネンタル 10 進表記 (CDN=ON|SPACE|QUOTE) はサポートされません。間にカンマ (,) のある数値は、Microsoft Access などのアプリケーションでは、2 つのフィールドとして認識されます。

COMT

フォーマット：COMT (.csv)

説明：COMMA ファイルにタイトルを追加します。スケジュール出力をカンマ (,) 区切り可変長テキストファイルとして保存します。この場合、文字値は二重引用符 (") で囲まれます。フィールドのブランクはすべて保持されます。

Microsoft Access などのパッケージソフトウェアでは必須のフォーマットです。

用途 (推奨)：データベースアプリケーションでの処理に使用します。このフォーマットタイプは、Excel や Lotus などのアプリケーションにインポートすることができます。

考慮事項

- ❑ このフォーマットタイプは、マスターファイルを作成しません。
- ❑ バーストをサポートします。
- ❑ ReportLibrary から Excel で開くことはできません。
- ❑ SMARTDATE フィールドおよび日付フォーマットオプション付きの I または P フォーマットの日付フィールドは数値として扱われ、出力ファイル内では二重引用符 (") で囲まれません。日付オプション付きの文字フィールドは文字として扱われ、出力ファイル内では二重引用符 (") で囲まれます。
- ❑ コンチネンタル 10 進表記 (CDN=ON|SPACE|QUOTE) はサポートされません。間にカンマ (,) のある数値は、Microsoft Access などのアプリケーションでは、2 つのフィールドとして認識されます。

- ❑ COMT フォーマットで作成されたレポートの ReportCaster スケジュールを作成し、COMT フォーマットで配信する場合は、[プロシジャで指定されたフォーマットを上書きする] のチェックをオンにした上で、COMT フォーマットを再指定する必要があります。この方法でフォーマットを再指定しない場合、.csv ファイルが生成される際に、出力から CR/LF (キャリッジリターン / ラインフィード) が失われる場合があります。

DFIX

フォーマット： DFIX (.ftm, .txt)

説明： 任意の文字を区切り文字として機能させます (DELIMITER = 選択する文字)。文字フィールドの前後には引用符を含めます (ENCLOSURE = “)。フィールドタイトルを含めます (HEADER = YES/NO)。

以下は、区切り文字としてパイプ文字 (|) を指定する PCHOLD ステートメントの例を示しています。文字フィールドの前後に引用符を追加し、フィールドタイトル (見出し) は含まれていません。

```
ON TABLE PCHOLD AS OUT1 FORMAT DFIX DELIMITER | ENCLOSURE " HEADER NO
```

用途 (推奨)： カスタム (標準外) の区切り文字が必要なファイルで使用します。

考慮事項

- ❑ ミッシングデータに、値は表示されません。囲み文字を指定する場合、ミッシングの文字フィールドは、“” で表されます。ミッシングの数値フィールドは、2 つの区切り文字で表されます。
- ❑ バーストをサポートします。

DHTML

フォーマット： DHTML (.htm, .mht)

説明： ハイパーリンクおよびその他の WWW (World Wide Web) 機能をサポートします。スタイルシートのフォーマットを保持します。

HTML の機能に加えて、DHTML は Web アーカイブフォーマット (.mht) をサポートします。 .mht ファイルには、複数のレポートおよびグラフを含めることができ、WebFOCUS の統合された複合レポートに利用することができます。

用途 (推奨)： ReportLibrary、Web ブラウザでの Email 表示

考慮事項

- ❑ DHTML フォーマットのデフォルトファイルタイプは .mht です。プロシジャから取得される出力が HTML の場合、出力ファイルを適切に開くには、ファイルタイプを .html に手動で変更する必要があります。
- ❑ FML レポート以外のバーストをサポートします。
- ❑ Reporting Server から取得されるファイルが Web アーカイブファイル (.mht) 以外の場合、DHTML を Email メッセージの本文として配信することができます。取得されるファイルが Web アーカイブファイルの場合は、このフォーマットを本文として配信することはできません。
- ❑ 出力が .mht ではなく .htm の場合は、DHTML を Email の添付ファイルとして配信し、Email メッセージの本文として送信することができます。
- ❑ DHTML には、2 つのフォーマットがあります。
 - ❑ リクエストに SET HTMLARCHIVE=ON コマンドが設定されていない場合、スケジュールプロシジャは HTML ファイルを出力します。Email または FTP で配信する場合は、ファイルタイプ .htm を使用します。
 - ❑ リクエストに SET HTMLARCHIVE=ON コマンドが指定されている場合、スケジュールプロシジャは Web アーカイブファイル (.mht) ファイルを出力します。Email または FTP で配信する場合は、ファイルタイプ .mht を使用します。

DOC

フォーマット：DOC (.txt)

説明：スケジュール出力をワードプロセッサ用テキストとして開きます。テキストは、すべてのワードプロセッサアプリケーションで開くことができます。ASCII フォームフィード文字を保持し、ページ出力を正しく表示します。

用途 (推奨)：ワードプロセッサアプリケーション、Email、ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ❑ ほとんどのフォーマットを保持しません。ハイパーリンクやアラートはサポートしません。
- ❑ Email の添付ファイルまたは Email メッセージの本文として配信することができます。
- ❑ バーストをサポートします。

- ❑ ReportCaster で開くには、Microsoft Office 2000 SR-1 (9.0.3821) 以降が必要です。

EXCEL

フォーマット：EXCEL (.xls)

説明：スケジュール出力を Microsoft Excel 2000 または 2003 スプレッドシートファイルとして開きます。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ❑ Excel 2000 または 2003 以降のバージョンをインストールする必要があります。
- ❑ バーストレポートやアラートはサポートしません。
- ❑ 見出し、脚注、中間見出し、中間脚注は保持されません。
- ❑ フォーマットはバイナリです。
- ❑ ReportLibrary 内で開くには、Microsoft Office 2000 SR-1 (9.0.3821) 以降が必要です。
- ❑ ReportCaster が BY HIGHEST *primarysortfield* 構文を含む TABLE リクエストで作成された EXCEL レポートを配信する場合、レポートには主ソートフィールド値ごとにページ区切りが挿入されます。

EXL07

フォーマット：EXL07 (.xlsx)

説明：スケジュール出力を Excel 2007 または 2010 以降のバージョンで開きます。

ほとんどのスタイルシート属性をサポートしているため、完全なレポートのフォーマット設定が可能です。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ❑ このフォーマットによるレポート配信をスケジュールする場合、プロシジャ、ReportCaster の構成設定、Excel サーバ URL のいずれかで、Excel 2007 ファイルコンポーネントを配信用に圧縮する Application Server が指定されていることを確認します。プロシジャの Excel サーバ URL は、ReportCaster 構成ツールで指定された値を上書きします。
- ❑ 複合レポート以外のバーストをサポートします。

EXL07 FORMULA

フォーマット：EXL07 FORMULA (.xlsx)

説明：スケジュール出力を Excel 2007 または 2010 以降のバージョンで開きます。

列合計、行合計、中間合計など、集計情報はすべて Excel 関数として格納され、結果が計算、表示されます。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ このフォーマットによるレポート配信をスケジュールする場合、プロシジャ、ReportCaster の構成設定、Excel サーバ URL のいずれかで、Excel 2007 ファイルコンポーネントを配信用に圧縮する Application Server が指定されていることを確認します。プロシジャの Excel サーバ URL は、ReportCaster 構成ツールで指定された値を上書きします。
- ☐ 複合レポート以外のバーストをサポートします。

EXL07 TEMPLATE

フォーマット：EXL07 TEMPLATE (.xlsx)

説明：スケジュール出力を Excel 2007 または 2010 以降のバージョンで開きます。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ EXL07 TEMPLATE フォーマットのデフォルトファイル拡張子は .xlsx です。プロシジャで使用するテンプレートでマクロが有効な場合、出力ファイルを適切に開くには、拡張子を .xlsm に手動で変更する必要があります。
- ☐ スケジュールプロシジャに、次のような PCHOLD ステートメントが含まれている必要があります。

`ON TABLE PCHOLD FORMAT EXL07 TEMPLATE templatenam SHEETNUMBER
sheetnumber`

- ☐ Windows XP または Windows 2003 以降を使用する必要があります。
- ☐ Excel 2002 以降のバージョンをインストールする必要があります。
- ☐ フォーマットは ASCII です。
- ☐ バーストをサポートします。

EXL2K

フォーマット：EXL2K (.xls)

説明：スケジュール出力を Excel 2000 以降のバージョンで開きます。

ほとんどのスタイルシート属性をサポートしているため、完全なレポートのフォーマット設定が可能です。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ Excel2000 以降のバージョンをインストールする必要があります。
- ☐ ReportLibrary 内で開くには、Microsoft Office 2000 SR-1 (9.0.3821) 以降が必要です。
- ☐ フォーマットは ASCII です。
- ☐ .xht 拡張子を持つすべての EXL2K 出力は、Email または FTP 配信用に、動的に .xls に変更されます。Web サーバの MIME テーブルを編集して、.xls 拡張子をバイナリではなく ASCII アプリケーションデータにする必要があります。
- ☐ 複合レポート以外のバーストをサポートします。

EXL2K FORMULA

フォーマット：EXL2K FORMULA (.xls)

説明：スケジュール出力を Excel 2000 以降のバージョンで開きます。

列合計、行合計、中間合計など、集計情報はすべて Excel 関数として格納され、結果が計算、表示されます。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ EXL2K FORMULA レポートのフォーマットをスケジュールで上書きしない場合、ReportLibrary ではフォーマットとして EXL2K と表示されます。
- ☐ Excel2000 以降のバージョンをインストールする必要があります。
- ☐ ReportLibrary 内で開くには、Microsoft Office 2000 SR-1 (9.0.3821) 以降が必要です。
- ☐ フォーマットは ASCII です。

- ❑ .xht 拡張子を持つすべての EXL2K 出力は、Email または FTP 配信用に、動的に .xls に変更されます。Web サーバの MIME テーブルを編集して、.xls 拡張子をバイナリではなく ASCII アプリケーションデータにする必要があります。
- ❑ 複合レポート以外のバーストをサポートします。

EXL2K PIVOT

フォーマット：EXL2K PIVOT (.xls)

説明：スケジュール出力を Excel 2000 以降のバージョンで開きます。

複雑なデータの分析に使用します。このフォーマットを使用すると、ピボットテーブル内でデータフィールドをドラッグアンドドロップすることができ、行や列でソートするなど、データを異なるビューで表示することが可能になります。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ❑ EXL2K PIVOT レポートのフォーマットをスケジュールで上書きしない場合、ReportLibrary ではフォーマットとして EXL2K と表示されます。
- ❑ Excel2000 以降のバージョンをインストールする必要があります。
- ❑ ReportLibrary 内で開くには、Microsoft Office 2000 SR-1 (9.0.3821) 以降が必要です。
- ❑ フォーマットは ASCII です。
- ❑ Reporting Server で、主ファイルとキャッシュファイルの代わりに単一出力ファイルが作成されるよう、WEBARCHIVE=ON コマンドを使用する必要があります。Reporting Server のデフォルト構成では、WEBARCHIVE=ON に設定されています。
- ❑ .xht 拡張子を持つすべての EXL2K 出力は、Email または FTP 配信用に、動的に .xls に変更されます。Web サーバの MIME テーブルを編集して、.xls 拡張子をバイナリではなく ASCII アプリケーションデータにする必要があります。
- ❑ 複合レポートのスケジュールには使用できません。
- ❑ スケジュールプロシジャに、次のような PCHOLD ステートメントが含まれている必要があります。

ON TABLE PCHOLD FORMAT EXL2K PIVOT

- ❑ バーストはサポートされません。

EXL2K TEMPLATE

フォーマット：EXL2K TEMPLATE (.xls)

説明：スケジュール出力を Excel 2002 以降で開きます。

スケジュール出力からのデータが入力された Excel テンプレートです。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ EXL2K TEMPLATE レポートのフォーマットをスケジュールで上書きしない場合、ReportLibrary ではフォーマットとして EXL2K と表示されます。
- ☐ スケジュールプロシジャに、次のような PCHOLD ステートメントが含まれている必要があります。

```
ON TABLE PCHOLD FORMAT EXL2K TEMPLATE templatename SHEETNUMBER
sheetnumber
```

- ☐ Windows XP または Windows 2003 以降を使用する必要があります。
- ☐ Excel 2002 以降のバージョンをインストールする必要があります。
- ☐ フォーマットは ASCII です。
- ☐ .xht 拡張子を持つすべての EXL2K 出力は、Email または FTP 配信用に、動的に .xls に変更されます。Web サーバの MIME テーブルを編集して、.xls 拡張子をバイナリではなく ASCII アプリケーションデータにする必要があります。
- ☐ バーストをサポートします。

EXL97

フォーマット：EXL97 (.xls)

説明：スケジュール出力を Excel97 ワークシートファイルとして開きます。レポートフォーマットおよびドリルダウンをサポートをする HTML ベースの表示フォーマットです。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ Excel97 以降のバージョンをインストールする必要があります。
- ☐ ReportLibrary 内で開くには、Microsoft Office 2000 SR-1 (9.0.3821) 以降が必要です。

- ❑ バーストをサポートします。

GIF

フォーマット：GIF (.gif)

説明：スケジュール出力を GIF フォーマットのグラフィイメージとして開きます。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ❑ GRAPH FILE 構文を含むプロシジャにのみ使用することができます。
- ❑ バーストはサポートされ、GRAPH FILE リクエストの 2 番目の BY フィールドで実行されません。
- ❑ GIF フォーマットは静的イメージを作成するため、ドリルダウンはサポートしません。
- ❑ GIF フォーマットを使用する場合、単一レポートに複数のイメージを使用して配信することはできません。単一レポートで複数のイメージを配信する場合は、PDF フォーマットを使用します。
- ❑ 見出しまたは脚注が含まれたグラフをイメージフォーマット (GIF、JPEG、PNG、または SVG) で配信する場合は、InfoAssist で見出しおよび脚注をイメージとして埋め込むオプションを選択する必要があります。埋め込みオプションを選択しない場合、配信される GIF ファイルに見出しと脚注は含められません。この場合、見出しまたは脚注を含むグラフは、HTML、HTML5、または PDF を使用して配信する必要があります。
- ❑ GIF レポートを UNIX 上で配信するには、eschkbr スクリプトファイルを編集し、#!/bin/ksh 行の後に次のコードを追加します。

```
DISPLAY=IP_Address export DISPLAY TERM=xterm export TERM
```

説明

[IP_Address](#)

xterm が実行されているマシンの IP アドレスです。

注意：この手順は、グラフが GRAPH FILE リクエスト (WebFOCUS サーバプロシジャ、WebFOCUS レポート) で作成された場合にのみ必要です。ファイルを配信する場合には必要ありません。

- ❑ 埋め込み Email メッセージがサポートされます。

HTML

フォーマット： HTML (.htm、.html)

説明： ハイパーリンクおよびその他の Web ベースの機能をサポートします。スタイルシートのフォーマットを保持します。

用途 (推奨)： ReportLibrary、Web ブラウザでの Email 表示

考慮事項

- ☐ HTML フォーマットのデフォルトファイルタイプは .htm です。プロシジャから取得される出力が .mht ファイルの場合、出力ファイルを適切に開くには、ファイルタイプを .mht に手動で変更する必要があります。
- ☐ グラフを HTML フォーマットでスケジュールし、配信する場合、バースト配信されません。グラフを正常にバースト配信するためには、次のフォーマットが選択できます。
 - ☐ バースト可能なイメージフォーマットは、次のとおりです。
 - ☐ PNG
 - ☐ SVG
 - ☐ JPEG
 - ☐ GIF
 - ☐ バースト可能なファイルフォーマットは、次のとおりです。
 - ☐ PDF
 - ☐ PPTX
 - ☐ EXL07
- ☐ 通常、イメージが含まれた HTML ページを出力するには、フォーマットとして DHTML を選択し、出力を拡張子が .mht のファイルとして配信します。配信フォーマットとして HTML を選択することができます。ReportCaster のデフォルト設定では、HTML を選択すると、拡張子が .htm の出力が作成されます。

注意： HTML レポートにイメージを表示するには、プロシジャで SET BASEURL="" コマンドを指定する必要があります。

スケジュールプロシジャに SET WEBARCHIVE = ON コマンドが含まれている場合は、イメージが含まれたページが出力されますが、フォーマットとして HTML を選択する場合は、[保存レポート名] テキストボックスの拡張子を .htm から .mht に変更してください。

- ❑ HTML レポートを Email または FTP 配信する場合は、スケジュールするレポートプロシジャ (.fex) で、以下のレポートスタイルオプションに対して完全修飾 FOCEXURL および FOCHTMLURL を設定する必要があります。これらは、Client の構成先 Web サーバまたは Application Server の JavaScript コンポーネントを参照します。以下はその例です。

```
SET FOCEXURL='hostname:port/ibi_apps/'
```

```
SET FOCHTMLURL='hostname:port/ibi_apps/ibi_html'
```

スタイルオプションには次のものがあります。

- ❑ アコーディオンレポート
- ❑ 目次 (TOC) レポート
- ❑ ピアグラフレポート
- ❑ マルチドリルダウンレポート
- ❑ HFREEZE オプション

セキュリティとして SSL を使用する場合は、URL を編集して「https」を指定します。

- ❑ FML レポート以外のバーストをサポートします。
- ❑ Email の添付ファイルまたは Email メッセージの本文として配信することができます。
- ❑ GRAPH FILE 構文を含むプロシジャで 사용할 수 있습니다。GRAPH FILE で 사용할 경우、ReportCaster は 그래프를 Reporting Server (JSCOM3 を使用) 上で自動的に生成し、HTMLEMBEDIMG=ON を使用して HTML 出力に埋め込みます。スケジュールプロシジャで HTMLARCHIVE=ON が指定されている場合、この設定は HTMLEMBEDIMG=ON を上書きし、以前のバージョンの Internet Explorer で表示可能な出力を生成します。

HTML5

フォーマット：HTML5 (.htm)

説明：スケジュール出力をグラフィイメージとして開きます。これらのグラフィイメージは、ビットマップで、1600 万色をサポートします。また、HTML5 グラフを圧縮してもデータ損失が発生しないため、圧縮したファイルを解凍して元の状態に戻すことができます。そのため、HTML5 イメージを保存、変更、再保存しても、全体の画質が低下することはありません。

用途 (推奨)：ReportLibrary、Email、FTP

考慮事項

- ❑ HTML5 で配信されたレポートは、Internet Explorer 8 では正しく表示されない場合があります。Internet Explorer 8 では HTML5 はサポートされないため、Internet Explorer 8 は、HTML5 フォーマット (JSCHART) で配信されたグラフを最初に Adobe Flash プラットフォームを使用して表示しようとします。表示できない場合、Microsoft VML 標準が使用されます。
- ❑ GRAPH FILE 構文を含むプロシジャにのみ使用することができます。
- ❑ FML レポート以外のバーストはサポートしません。
- ❑ このフォーマットは静的イメージを作成するため、ドリルダウンはサポートしません。
- ❑ Email および FTP 配信では、完全修飾 FOCEXURL を使用する必要があります。SSL セキュリティを使用する場合、URL に「https」を指定します。

JPEG

フォーマット：JPEG (.jpg, .jpeg, .jpe, .jfif)

説明：スケジュール出力を JPEG フォーマットのグラフィイメージとして開きます。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ❑ GRAPH FILE 構文を含むプロシジャにのみ使用することができます。
- ❑ バーストはサポートされ、GRAPH FILE リクエストの 2 番目の BY フィールドで実行されます。
- ❑ JPEG フォーマットは静的イメージを作成するため、ドリルダウンはサポートしません。
- ❑ 見出しまたは脚注が含まれたグラフをイメージフォーマット (GIF、JPEG、PNG、または SVG) で配信する場合は、InfoAssist で見出しおよび脚注をイメージとして埋め込むオプションを選択する必要があります。埋め込みオプションを選択しない場合、配信される JPEG ファイルに見出しと脚注は含まれません。この場合、見出しまたは脚注を含むグラフは、HTML、HTML5、または PDF を使用して配信する必要があります。
- ❑ 埋め込み Email メッセージがサポートされます。

PDF

フォーマット：PDF (.pdf)

説明：スケジュール出力が PDF として保存され、Adobe Reader で表示することができます。関連するすべてのスタイルシートフォーマットが保持されます。

用途 (推奨)：Email、ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ Email 添付ファイル内のハイパーリンクはサポートしません。受信者は、Adobe Reader を使用して表示する必要があります。
- ☐ バーストをサポートします。
- ☐ ReportCaster で BY HIGHEST primarysortfield 構文を含む TABLE リクエストで作成された PDF レポートを配信する場合、レポートには主ソートフィールド値ごとにページ区切りが挿入されます。
- ☐ PDF ドリルスルー機能をサポートします。

PNG

フォーマット：PNG (.png)

説明：スケジュール出力をグラフィイメージとして開きます。これらのグラフィイメージは、ビットマップで、1600 万色をサポートします。さらに、PNG グラフは、データ損失が生じない方法で圧縮されるため、データは完全に元どおりに解凍されます。そのため、PNG を保存、変更、再保存しても、全体の画質が低下することはありません。PNG グラフは、この点において GIF グラフより優れています。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ GRAPH FILE 構文を含むプロシジャにのみ使用することができます。
- ☐ バーストはサポートされ、GRAPH FILE リクエストの 2 番目の BY フィールドで実行されます。
- ☐ このフォーマットは静的イメージを作成するため、ドリルダウンはサポートしません。
- ☐ 見出しまたは脚注が含まれたグラフをイメージフォーマット (GIF、JPEG、PNG、または SVG) で配信する場合は、InfoAssist で見出しおよび脚注をイメージとして埋め込むオプションを選択する必要があります。埋め込みオプションを選択しない場合、配信される PNG ファイルに見出しと脚注は含められません。この場合、見出しまたは脚注を含むグラフは、HTML、HTML5、または PDF を使用して配信する必要があります。

- ❑ 埋め込み Email メッセージがサポートされます。

PPT

フォーマット：PPT (.ppt)

説明：Web アーカイブフォーマットで新しい PowerPoint ファイルを作成します。

スケジュール出力から取得されたデータが PPT テンプレートに挿入されます。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ❑ バーストをサポートします。
- ❑ PowerPoint ファイルは、単一レポートとして出力することができます。レポート (TABLE) のスタイルシートに埋め込み、必要な数のグラフを含めることができます。さらに、既存の PowerPoint テンプレート内に単一の PowerPoint レポートを挿入することができます。

PPT TEMPLATE

フォーマット：PPT (.ppt)

説明：Web アーカイブフォーマットで新しい PowerPoint ファイルを作成します。

スケジュール出力から取得されたデータが PPT テンプレートに挿入されます。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ❑ バーストをサポートします。
- ❑ スケジュールプロシジャに、次のような PCHOLD ステートメントが含まれている必要があります。

```
ON TABLE PCHOLD [AS name] FORMAT PPT TEMPLATE templatename SLIDENUMBER n
```

- ❑ PowerPoint ファイルは、単一レポートとして出力することができます。レポート (TABLE) のスタイルシートに埋め込み、必要な数のグラフを含めることができます。さらに、既存の PowerPoint テンプレート内に単一の PowerPoint レポートを挿入することができます。

PPTX

フォーマット：PPTX (.pptx)

説明：Open XML 形式を使用して作成される新しい PowerPoint ファイルを Web アーカイブフォーマットで生成します。

スケジュール出力から取得されたデータが PPTX テンプレートに挿入されます。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ❑ バーストは、Reporting Server バージョン 8.1 SP05 でサポートされ、プロシジャの当初のフォーマットを変更せずにスケジュールする場合に使用できます。つまり、プロシジャで ON TABLE PCHOLD FORMAT PPTX が指定され、ユーザが [上書き] オプションを選択せずにスケジュールを作成する必要があります。
- ❑ PPTX を選択した場合、スケジュール実行時に、Distribution Server が実行するプロシジャ (.fex) に SET DISTRIBUTE=PPTX を追加します。
- ❑ PowerPoint (PPTX) ファイルは、単一レポートとして出力することができます。レポート (TABLE) のスタイルシートに埋め込み、必要な数のグラフを含めることができます。さらに、既存の PowerPoint テンプレート内に単一の PowerPoint レポートを挿入することができます。

PPTX TEMPLATE

フォーマット：PPTX (.pptx)

説明：Open XML 形式を使用して作成される新しい PowerPoint ファイルを Web アーカイブフォーマットで生成します。

スケジュール出力から取得されたデータが PPTX テンプレートに挿入されます。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ❑ バーストはサポートされません。
- ❑ スケジュールプロシジャに、次のような PCHOLD ステートメントが含まれている必要があります。

```
ON TABLE PCHOLD [AS name] FORMAT PPTX TEMPLATE templatename SLIDENUMBER  
n
```

- ❑ PPTX を選択した場合、スケジュール実行時に、Distribution Server が実行するプロシジャ (.fex) に SET DISTRIBUTE=PPTX を追加します。

SVG

フォーマット：SVG (.svg)

説明：スケジュール出力をグラフィイメージとして開きます。このファイルフォーマットは、XML ベースで、強力でインタラクティブなイメージを提供します。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ GRAPH FILE 構文を含むプロシジャにのみ使用することができます。
- ☐ バーストはサポートされ、GRAPH FILE リクエストの 2 番目の BY フィールドで実行されます。
- ☐ 見出しまたは脚注が含まれたグラフをイメージフォーマット (GIF、JPEG、PNG、または SVG) で配信する場合は、InfoAssist で見出しおよび脚注をイメージとして埋め込むオプションを選択する必要があります。埋め込みオプションを選択しない場合、配信される SVG ファイルに見出しと脚注は含められません。この場合、見出しまたは脚注を含むグラフは、HTML、HTML5、または PDF を使用して配信する必要があります。
- ☐ このフォーマットは静的イメージを作成するため、ドリルダウンはサポートしません。
- ☐ 埋め込み Email メッセージがサポートされます。

TAB、TABT

フォーマット：TAB (.tab, .tsv, .txt)

説明：スケジュール出力をタブ区切りフォーマットで開きます。TABT フォーマットでは、最初の行として列見出しが含まれています。

Microsoft Access などのパッケージソフトウェアでは必須のフォーマットです。

用途 (推奨)：Email および ReportLibrary に使用します。

考慮事項：バーストはサポートされます。

WK1

フォーマット：WK1 (.wk1)

説明：スケジュール出力を Lotus 1-2-3 または Excel で開きます。

用途 (推奨)：Email

考慮事項

- ☐ Lotus 1-2-3 または Excel をインストールする必要があります。
- ☐ WebFOCUS 管理コンソールの [出力先変更設定] または mime.wfs 構成ファイルで、次のように指定します。
 - ☐ Lotus 1-2-3 を起動するには、[リダイレクト] 列で [No] を指定します。
 - ☐ Excel を起動するには、[リダイレクト] 列で [Yes] を指定します。
 - ☐ フォーマットは [バイナリ] です。
- ☐ バーストレポートやアラートはサポートしません。
- ☐ 見出し、脚注、中間見出し、中間脚注は保持されません。
- ☐ Lotus 1-2-3 で WK1 レポートを開くには、レポートを右クリックし、ReportLibrary 外部に WK1 ファイルとして保存します。
- ☐ ReportLibrary で開くことはできません。ただし、Lotus 1-2-3 内の COMMA レポートを右クリックし、それを ReportLibrary の外に保存することで、開くことができます。

WP

フォーマット： WP (.txt)

説明：スケジュール出力を Web ブラウザ上のワードプロセッサ用テキストとして開きます。テキストは、すべてのワードプロセッサアプリケーションで開くことができます。

用途 (推奨)：ワードプロセッサアプリケーション、Email、ReportLibrary に使用します。

考慮事項

- ☐ 改ページやほとんどのフォーマットを保持しません。
- ☐ ハイパーリンクやアラートはサポートしません。
- ☐ Email の添付ファイルまたは Email メッセージの本文として配信することができます。
- ☐ バーストをサポートします。

XML

フォーマット： XML (.xml)

説明：スケジュール出力を SGML から派生したマークアップ言語の XML フォーマットで開きます。

用途 (推奨): 異なるシステムのアプリケーションで利用するためのデータ記述およびデータ交換に使用します。

考慮事項 パーストはサポートされません。

B

ReportCaster の WebFOCUS リポジトリテーブル

ここでは、ReportCaster 情報が格納される WebFOCUS リポジトリの各テーブルのコンテンツおよび主キーについて説明します。この情報は、組織内での ReportCaster の使用状況に関するレポートを作成する際に活用することができます。

トピックス

- [リポジトリレポートの概要](#)
- [WebFOCUS リポジトリテーブル](#)

リポジトリレポートの概要

WebFOCUS リポジトリに関するレポートを作成、実行するには、最初に WebFOCUS リポジトリ内の各テーブルのシノニムを作成します。シノニムを作成してレポートを実行するには、使用するデータベースの WebFOCUS アダプタが必要です。

WebFOCUS リポジトリテーブル

ReportCaster は、配信情報およびスケジュール情報を WebFOCUS リポジトリテーブルに格納します。インストール時に、選択した場所に SQL ベースのリポジトリが作成されます。

下表は、ReportCaster 情報、コンテンツ、主キーが格納される WebFOCUS リポジトリテーブルの一覧です。

テーブル	コンテンツ	主キー
BOTACCES	アクセスリスト名。 1 アクセスリストにつき 1 レコード。 BOTLIST と 1:m。	アクセス ID

テーブル	コンテンツ	主キー
BOTADDR	各配信リストのプロパティ(例、配信リスト名、パブリックまたはプライベートのいずれか)。 1 リストにつき 1 レコード。BOTDEST と 1:m。	アドレス帳 ID
BOTCAT	ReportLibrary カタログテーブル ReportLibrary 内の 1 レポートにつき 1 レコード。スケジュールでレポートをバーストした場合、各バーストレポートは 1 レコードとして記録されます。	レポートグループ ID
BOTCDATE	スケジュールのカスタム実行間隔に関する情報。	カスタム日付 ID
BOTDEST	配信リスト内の受信者および配信先。1 ターゲットにつき 1 レコード。	配信リスト名、特定の配信リストの各メンバーへの 1 から n までのカウンタ
BOTDIST	配信情報	配信 ID
BOTSIT	実行間隔情報	実行間隔 ID
BOTLDATA	ReportLibrary に格納されたレポート (BLOB フォーマット)。	レポート ID、ReportLibrary に格納された各レポートの 1 から n までのカウンタ
BOTLIB	バージョンと有効期限情報。 ReportLibrary 内の 1 レポートにつき 1 レコード。	レポートグループ ID、バージョン
BOTLIST	各アクセスリスト内のユーザ ID およびバースト値。1 ターゲットにつき 1 レコード。	アクセスリスト名、特定のアクセスリストの各メンバーへの 1 から n までのカウンタ

テーブル	コンテンツ	主キー
BOTLOG	全般ログ情報 (例、実行された各ジョブの開始時間と終了時間)。 実行されたジョブ 1 つにつき 1 レコード。BOTLOG2 は 1:m。	ジョブの実行時に生成されるプロセス番号
BOTLOG2	実行されたすべてのジョブの詳細ログレコード。1 ジョブメッセージにつき 1 レコード。	プロセス番号、特定のプロセス番号の詳細ログレコードそれぞれに 1 から n まで実行するカウンタ
BOTPACK	各スケジュールを一意的に識別するパケット ID。	パケット ID
BOTPARMS	各タスクのパラメータ名と値。1 タスクの 1 パラメータにつき 1 レコード。	スケジュール ID、タスク ID、パラメータ名、タスク内の各パラメータへの 1 から n までのカウンタ
BOTSBDS	スケジュール禁止日テーブル。グローバルおよびグループのスケジュール禁止日と説明。	ID
BOTSCHEID	特定のスケジュールの実行時期、頻度、接続情報。配信方法 (例、Email、FTP)、補助的な情報 (例、返信アドレス、受信者の場所)。配信リスト (使用された場合)。 1 スケジュールにつき 1 レコード。	スケジュール ID
BOTSCIT	スケジュールのカスタム実行間隔に関する情報。	
BOTSTATE	フェールオーバーおよびワークロード配信情報。	

テーブル	コンテンツ	主キー
BOTTASK	個々のタスク情報 (例、タスク名、タスクの実行 ID、WebFOCUS Reporting Server 名)。WebFOCUS レポートの場合、BOTTASK には、WebFOCUS リポジトリ内でのフルパスも記録されます。1 つのスケジュールのそれぞれのタスクには、BOTTASK が 1 つ含まれます。1 つのスケジュールには複数のタスクが存在可能なため、BOTSCHED とは 1:m の関係があります。	タスク ID、パケット ID
BOTTSKEX	ReportCaster ユーザ ID、実行 ID とパスワード。実行タイプ (例、WebFOCUS サーバプロシジャ)。実行タイプによっては、サーバ名 (WebFOCUS サーバプロシジャおよび WebFOCUS レポートの場合)、アプリケーション名 (ファイルの場合)、またはサーバ名とポート番号 (URL の場合) も含まれます。 1 タスクにつき 1 レコード。	ReportCaster ユーザ ID、実行 ID、サーバ名、サーバタイプ
BOTWATCH	ReportLibrary ウォッチリスト情報。	



ReportCaster 変数

ReportCaster Distribution Server は、&DST で始まる変数を作成し、その変数を各スケジュールジョブプロシジャ (FEX) に追加します。これらの変数名は、ReportCaster で使用するために予約されています。これらの変数をスケジュール済みプロシジャ (FEX) で参照することも、カスタムアプリケーションロジックの ReportCaster 実行前プロシジャおよび実行後プロシジャで参照することもできます。&DST で始まる同一名の変数を作成すると、ReportCaster の内部処理に影響するため、ユーザ自身でこれらの変数名を作成することはお勧めしません。

トピックス

[ReportCaster 内部変数](#)

ReportCaster 内部変数

下表は、ReportCaster Distribution Server で作成される内部変数のリストです。

変数	説明
DSTJOBID	特定のスケジュールジョブ実行を識別する ID です。
DSTJOBNAME	Distribution Server で作成され、Reporting Server に送信されるスケジュールジョブプロシジャ (FEX) の名前です。
DSTSCHEDID	スケジュールを識別する一意の ID です。
DSTSCHEDDESC	スケジュールのタイトル (説明) です。
DSTOWNER	スケジュールオーナーのユーザ ID です。
DSTPACKETID	複数タスクのスケジュールで、タスクグループを識別する一意の ID です。単一タスクスケジュールの場合、各スケジュールのタスクを識別する一意の ID です。

変数	説明
DSTTASKID	スケジュール内の特定のタスクを識別する ID です。タスク情報には、タスクの実行 ID および WebFOCUS Reporting Server 名があります。WebFOCUS リポジトリに格納されているレポートの場合、タスク情報には IBFS フルパスも含まれます。
DSTPRERPC1	1 つ目の実行前プロシジャ (FEX) の名前です。
DSTPRERPC2	2 つ目の実行前プロシジャ (FEX) の名前です。
DSTPOSTRPC1	1 つ目の実行後プロシジャ (FEX) の名前です。
DSTPOSTRPC2	2 つ目の実行後プロシジャ (FEX) の名前です。
DSTDOMAIN	スケジュールタスクが WebFOCUS リポジトリに格納されているプロシジャ (FEX) の場合のワークスペースフォルダ名です。
DSTFEXNAME	プロシジャ (FEX) の名前です。
DSTBURST	レポート出力のバーストです (Y/N)。
DSTEDAUSER	Reporting Server への接続に使用されるユーザ ID です。
DSTRPTSERVER	スケジュールプロシジャ (FEX) の送信先 Reporting Server です。
DSTHOST	Distribution Server のホスト名です。
DSTPORT	Distribution Server のポート番号です。



D

DBLocator イグジットの使用

DBLocator イグジット (プラグイン) は、Java クラスを記述するインターフェースであり、データベースのユーザー ID、パスワード、ドライバ、JDBC ドライバの URL を取得するために使用できます。

DBLocator イグジットは、外部 DBMS で管理され、標準の ReportCaster リポジトリ DBMS の代わりに使用される ReportCaster リポジトリデータベースに接続する場合に使用します。DBLocator イグジットを使用することで、データベースへのアクセスに使用される資格情報をデータベース自体内ではなく外部の場所に保持することができるため、追加のセキュリティレイヤの提供に役立ちます。

トピックス

- ☐ [DBLocator イグジット変数](#)
 - ☐ [DBLocator イグジットの作成](#)
 - ☐ [DBLocator イグジット JAR ファイルの展開](#)
 - ☐ [WebFOCUS の DBCLocator イグジットへのリダイレクト](#)
-

DBLocator イグジット変数

DBLocator イグジットには、次の設定で代替データベース用に定義された値が含まれています。

- ☐ IBI_Repos_DB_User
- ☐ IBI_Repos_DB_Password
- ☐ IBI_Repos_DB_Driver
- ☐ IBI_Repos_DB_URL

WebFOCUS のインストールで代替 ReportCaster リポジトリデータベースの使用を実装するには、管理コンソールのこれらの設定のデフォルト値を #exit(com.a.exits.CustExit) 値に置き換える必要があります。ここで、com.a.exits.CustExit は、代替 DBCLocator イグジットに割り当てられた名前を表します。管理コンソールの設定変更を保存すると、この変更は install.cfg ファイルに保存されます。

新しい値により、代替リポジトリデータベースへのアクセスを提供する値が定義されている DBLocator イグジット内の対応する設定に、クエリが自動的にリダイレクトされます。

DBLocator イグジットを使用するよう WebFOCUS のインストールを構成するには、次のことを行う必要があります。

- ❑ DBLocator イグジットを作成する
- ❑ DBLocator イグジットを展開する
- ❑ DBLocator イグジットを使用するよう WebFOCUS と ReportCaster のリダイレクトを設定する

これらのタスクについては、次の手順で詳しく説明します。

DBLocator イグジットの作成

独自のイグジットを作成することも、イグジットのデフォルト実装が利用可能な場合はそれを使用することもできます。

利用可能なイグジットを所有する場合は、476 ページの「[DBLocator イグジット JAR ファイルの展開](#)」に進みます。

独自の DBLocator イグジットを作成する場合は、472 ページの「[DBLocator イグジットの要件](#)」および 473 ページの「[CustExit.java](#)」のサンプルイグジットで定義されているように、Java JDK または別の開発ツールを使用して DBLocator イグジットのメソッドを実装するプログラムを作成してコンパイルします。

イグジットを作成する場合、次のことも行う必要があります。

- ❑ イグジットを JAR ファイルにコンパイルする
- ❑ この jar ファイルを依存関係のクラスパスに追加する

DBLocator イグジットの要件

メソッド

getVariableValue DBLocator イグジットから設定が必要な変数の名前を取得して `getProperties` メソッドに転送し、その変数に割り当てられた値をメインプログラムに返すパブリックメソッドです。

getVariableNames 今後の使用のために予約されています。

変数

IBI_Repos_DB_User 外部データベースによって WebFOCUS に割り当てられた識別子です (例、WebFOCUS)。

IBI_Repos_DB_Password 外部データベースによって WebFOCUS に割り当てられた識別子を認証するパスワードです (例、WebFOCUS)。

IBI_Repos_DB_Driver 外部データベースによって使用されるドライバの名前です (例、org.apache.derby.jdbc.ClientDriver)。

IBI_Repos_DB_URL 外部データベースの場所を識別する URL です (例、jdbc:derby://127.0.0.1:1527/WebFOCUSxx;create=true)。ここで、xx はインストールのバージョン番号を表します。

fileName 変数値を含むファイルのパスと名前です (例、c:/ibi/WebFOCUSxx/config/CustExit.txt)。ここで、xx はインストールのバージョン番号を表します。

例

CustExit.java

ここでは、DBLocator イグジットに必要なコードのサンプルを示します。このサンプルには、外部データベースへのアクセスを提供する変数と、外部データベースへの接続が必要な場合に、これらの変数に割り当てられた値を取得するメソッドが含まれています。

このサンプルは、例示のみを目的としており、組織の要件に合わせて調整する必要があります。

注意： 次の例では、fileName パラメータに割り当てられる値は「c:/ibi/WebFOCUS**91**/config/CustExit.txt」です。この例をコピーして貼り付ける場合は、**91** を現在インストールされているバージョン番号に置き換える必要があります。同様に、IBI_Repos_DB_URL パラメータに割り当てられる値は、「jdbc:derby://127.0.0.1:1527/WebFOCUS**91**;create=true」です。この例をコピーして貼り付ける場合は、**91** を現在インストールされているバージョン番号に置き換える必要があります。

```
/*
 * To change this license header, choose License Headers in
 * Project Properties.
 * To change this template file, choose Tools | Templates
 * and open the template in the editor.
 */
package com.a.exits;

import com.ibi.common.ApplicationValueNames;
import com.ibi.config.WFValueExit;
import java.io.FileReader;
import java.io.IOException;
import java.io.Reader;
import java.util.Map;
import java.util.Map.Entry;
import java.util.Properties;
import java.util.Set;
import java.util.TreeMap;

/**
 *
 * @author
 */
public class CustExit extends WFValueExit {
```

```

//    private Map<String,String> variables;

    private String fileName;

    public CustExit() {
        // set defaults - if the file is not found
        variables = new TreeMap<String,String>();
        // variables.put("IBI_Repos_DB_User", "webfocus");
        // variables.put("IBI_Repos_DB_Password", "webfocus");
        // variables.put("IBI_Repos_DB_Driver",
"org.apache.derby.jdbc.ClientDriver");
        // variables.put("IBI_Repos_DB_URL", "jdbc:derby://127.0.0.1:1527/
WebFOCUS91;create=true");
        fileName = "c:/ibi/WebFOCUS91/config/CustExit.txt";
    }

    /**
     * Currently not used, for future use.
     */

    @Override
    public Set<String> getVariableNames() {
//        return variables.keySet();
        Properties props = getProperties();
        return props != null ? props.stringPropertyNames(): null;
    }

    @Override
    public String getVariableValue(String varName) {
//        return variables.get(varName);
        Properties props = getProperties();
        return props != null ? props.getProperty(varName): null;
    }

```

```

private Properties getProperties() {
    Properties props = null;
    Reader reader = null;
    try {
        reader = new FileReader(fileName);
        props = new Properties();
        props.load(reader);
    } catch(IOException e) {
        printMsg(e.getMessage());
    } finally {
        if (reader != null) {
            try {
                reader.close();
            } catch(IOException e) {
                printMsg(e.getMessage());
            }
        }
    }
    return props;
}

private void printMsg(String msg) {
    System.out.println(msg);
}
}

```

DBLocator イグジット JAR ファイルの展開

WebFOCUS および ReportCaster が外部データベースを呼び出す際に、ファイルに含まれる値にアクセスできるようにするには、DBLocator イグジットを含む JAR ファイルのコピーを次のフォルダに配置する必要があります。

❑ %WebFOCUSxx%webapps%webfocus%WEB-INF%lib

❑ %WebFOCUSxx%ReportCaster%bin%classpath

ここで、xx は、インストールのバージョン番号を表します。

これらのタスクについては、次の手順で詳しく説明します。

手順

DBLocator イグジット JAR ファイルを WebFOCUS ライブラリファイルディレクトリに展開するには

1. Tomcat を停止します。
2. オープン展開の使用を選択した場合は、新しい DBLocator イグジット を含む JAR ファイルをコピーして、drive:%ibi%WebFOCUSxx%webapps%webfocus%WEB-INF%lib ディレクトリに貼り付けます。ここで、xx は、インストールのバージョン番号を表します。

3. WAR ファイル展開の使用を選択した場合は、WinZip や 7-Zip などのファイル圧縮ツールを使用して、新しい DBLocator イグジットを含む JAR ファイルを、`drive:¥ibi¥WebFOCUSxx¥webapps` ディレクトリの `webfocus.war` ファイルに追加します。ここで、`xx` は、インストールのバージョン番号を表します。
4. Tomcat を再起動します。

手順

DBLocator イグジット JAR ファイルを ReportCaster ライブラリファイルディレクトリに展開するには

1. Tomcat を停止します。
2. 新しい DBLocator イグジット を含む JAR ファイルをコピーして、`drive:¥ibi¥WebFOCUSxx¥ReportCaster¥lib` ディレクトリに貼り付けます。ここで、`xx` は、インストールのバージョン番号を表します。
3. `drive:¥ibi¥WebFOCUSxx¥ReportCaster¥bin¥classpath` ファイルに移動します。ここで、`xx` は、インストールのバージョン番号を表します。
4. `classpath` ファイルをテキストエディタで開きます。
5. 下方向へスクロールし、`CLASSPATH` 設定 (16 行目付近) を特定します。
6. 次の例で強調表示されているように、新しい DBLocator イグジットを含む JAR ファイルのパスを `CLASSPATH` 設定に入力します。

```
CLASSPATH=/home/user1/jdbc/postgresql-42.2.24.jar:/home/user1/ibi/
WebFOCUS91/ReportCaster/lib/webfocus-caster-server-9.1.1.jar:/home/
user1/WebFOCUS91/ReportCaster/lib/jarfilename.jar
```

ここで、`jarfilename.jar` は、DBLocator イグジットを含む JAR ファイルに割り当てた名前を表します。

7. 変更を保存し、`classpath` ファイルを閉じます。
8. Tomcat を再起動します。

WebFOCUS の DBLocator イグジットへのリダイレクト

管理コンソールの [構成] タブの [Client 設定] ページと [リポジトリ] ページの設定により、WebFOCUS が外部リポジトリデータベースに接続されます。

代替 DBLocator イグジットを識別するには、プラグインクラス設定に割り当てられたデフォルト値を代替 DBLocator Exit の名前に置き換える必要があります。

代替 ReportCaster リポジトリデータベースへの呼び出しをリダイレクトするには、インストールに含まれる標準リポジトリデータベースを指定する [データベースユーザー ID]、[データベースパスワード]、[データベース URL]、[データベースドライバ] に割り当てられているデフォルト値を、DBLocator イグジットで定義されたカスタムリポジトリデータベースの対応する値にクエリをリダイレクトする、`#exit(com.a.exits.CustExit)` の値に置き換える必要があります。

これらのタスクについては、次の手順で詳しく説明します。

手順

WebFOCUS Application Server と ReportCaster Distribution Server を停止するには

変更された構成が自動的に認識されるようにするため、DBLocator イグジットをインストールする前に、ReportCaster Distribution Server と WebFOCUS Application Server の両方を停止し、インストールの完了後、これらを再起動する必要があります。

1. WebFOCUS ReportCaster Distribution Server を停止します。
2. WebFOCUS Application Server を停止します。

手順

リポジトリデータベース設定にリダイレクト値を割り当てるには

1. `drive:¥ibi¥WebFOCUSxx¥WebFOCUS¥config¥` に移動します。ここで、xx は、インストールのバージョン番号を表します。`install.cfg` をテキストエディタで開きます。
2. IBI_REPOS_DB_USER、IBI_REPOS_DB_PASSWORD、IBI_REPOS_DB_DRIVER、IBI_REPOS_DB_URL 設定に割り当てられたデフォルト値を、次のフォーマットを使用するリダイレクト値に置き換えます。

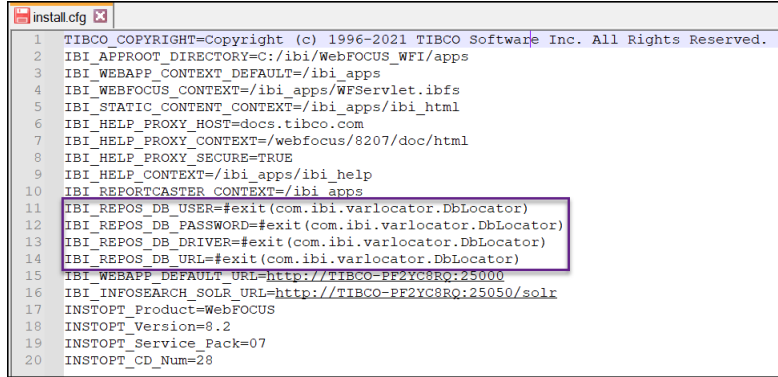
```
#exit(com.a.exits.CustExit)
```

説明

`com.a.exits.CustExit`

使用する必要がある値が含まれる代替 ReportCaster リポジトリデータベースイグジットの URI を識別します。

下図の例では、「com.ibi.varlocator.DbLocator」が指定されています。



```

1 TIBCO_COPYRIGHT=Copyright (c) 1996-2021 TIBCO Software Inc. All Rights Reserved.
2 IBI_APPROOT_DIRECTORY=C:/ibi/WebFOCUS_WFI/apps
3 IBI_WEBAPP_CONTEXT_DEFAULT=/ibi_apps
4 IBI_WEBFOCUS_CONTEXT=/ibi_apps/WServlet.ibfs
5 IBI_STATIC_CONTENT_CONTEXT=/ibi_apps/ibi_html
6 IBI_HELP_PROXY_HOST=docs.tibco.com
7 IBI_HELP_PROXY_CONTEXT=/webfocus/8207/doc/html
8 IBI_HELP_PROXY_SECURE=TRUE
9 IBI_HELP_CONTEXT=/ibi_apps/ibi_help
10 IBI_REPORTCASTER_CONTEXT=/ibi_apps
11 IBI_REPOS_DB_USER=#exit (com.ibi.varlocator.DbLocator)
12 IBI_REPOS_DB_PASSWORD=#exit (com.ibi.varlocator.DbLocator)
13 IBI_REPOS_DB_DRIVER=#exit (com.ibi.varlocator.DbLocator)
14 IBI_REPOS_DB_URL=#exit (com.ibi.varlocator.DbLocator)
15 IBI_WEBAPP_DEFAULT_URL=http://TIBCO-PF2YC8RQ:25000
16 IBI_INFOSEARCH_SOLR_URL=http://TIBCO-PF2YC8RQ:25050/solr
17 INSTOPT_Product=WebFOCUS
18 INSTOPT_Version=8.2
19 INSTOPT_Service_Pack=07
20 INSTOPT_CD_Num=28
  
```

3. 変更した *install.cfg* ファイルを保存します。

手順

変更をテストするには

1. WebFOCUS Application Server を開始します。
2. WebFOCUS ReportCaster Distribution Server を開始します。
3. WebFOCUS にログインし、管理コンソールの [構成] タブに移動します。
4. ナビゲーションツリーから [リポジトリ] 設定ノードを選択し、新しい値が [データベース ユーザー ID]、[データベースパスワード]、[データベースドライバ]、[データベース URL] 設定に表示されていることを確認します。
5. カスタマイズしたリポジトリデータベースへの接続をテストします。

Legal and Third-Party Notices

SOME TIBCO SOFTWARE EMBEDS OR BUNDLES OTHER TIBCO SOFTWARE. USE OF SUCH EMBEDDED OR BUNDLED TIBCO SOFTWARE IS SOLELY TO ENABLE THE FUNCTIONALITY (OR PROVIDE LIMITED ADD-ON FUNCTIONALITY) OF THE LICENSED TIBCO SOFTWARE. THE EMBEDDED OR BUNDLED SOFTWARE IS NOT LICENSED TO BE USED OR ACCESSED BY ANY OTHER TIBCO SOFTWARE OR FOR ANY OTHER PURPOSE.

USE OF TIBCO SOFTWARE AND THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THE TERMS AND CONDITIONS OF A LICENSE AGREEMENT FOUND IN EITHER A SEPARATELY EXECUTED SOFTWARE LICENSE AGREEMENT, OR, IF THERE IS NO SUCH SEPARATE AGREEMENT, THE CLICKWRAP END USER LICENSE AGREEMENT WHICH IS DISPLAYED DURING DOWNLOAD OR INSTALLATION OF THE SOFTWARE (AND WHICH IS DUPLICATED IN THE LICENSE FILE) OR IF THERE IS NO SUCH SOFTWARE LICENSE AGREEMENT OR CLICKWRAP END USER LICENSE AGREEMENT, THE LICENSE(S) LOCATED IN THE "LICENSE" FILE(S) OF THE SOFTWARE. USE OF THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THOSE TERMS AND CONDITIONS, AND YOUR USE HEREOF SHALL CONSTITUTE ACCEPTANCE OF AND AN AGREEMENT TO BE BOUND BY THE SAME.

This document is subject to U.S. and international copyright laws and treaties. No part of this document may be reproduced in any form without the written authorization of Cloud Software Group, Inc.

TIBCO, the TIBCO logo, the TIBCO O logo, ibi, ibi logo, ActiveMatrix BusinessWorks, TIBCO Administrator, BusinessConnect, TIBCO Designer, Enterprise Message Service, Hawk, and Maporama are either registered trademarks or trademarks of Cloud Software Group, Inc. in the United States and/or other countries.

Java and all Java based trademarks and logos are trademarks or registered trademarks of Oracle Corporation and/or its affiliates.

This document includes fonts that are licensed under the SIL Open Font License, Version 1.1, which is available at: <https://scripts.sil.org/OFL>

Copyright (c) Paul D. Hunt, with Reserved Font Name Source Sans Pro and Source Code Pro.

All other product and company names and marks mentioned in this document are the property of their respective owners and are mentioned for identification purposes only.

This software may be available on multiple operating systems. However, not all operating system platforms for a specific software version are released at the same time. See the readme file for the availability of this software version on a specific operating system platform.

THIS DOCUMENT IS PROVIDED "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, OR NON-INFRINGEMENT.

THIS DOCUMENT COULD INCLUDE TECHNICAL INACCURACIES OR TYPOGRAPHICAL ERRORS. CHANGES ARE PERIODICALLY ADDED TO THE INFORMATION HEREIN; THESE CHANGES WILL BE INCORPORATED IN NEW EDITIONS OF THIS DOCUMENT. CLOUD SOFTWARE GROUP, INC. MAY MAKE IMPROVEMENTS AND/OR CHANGES IN THE PRODUCT(S) AND/OR THE PROGRAM(S) DESCRIBED IN THIS DOCUMENT AT ANY TIME.

THE CONTENTS OF THIS DOCUMENT MAY BE MODIFIED AND/OR QUALIFIED, DIRECTLY OR INDIRECTLY, BY OTHER DOCUMENTATION WHICH ACCOMPANIES THIS SOFTWARE, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY RELEASE NOTES AND "READ ME" FILES.

This and other products of Cloud Software Group, Inc. may be covered by registered patents. Please refer to TIBCO's Virtual Patent Marking document (<https://www.tibco.com/patents>) for details.

Copyright © 2023. Cloud Software Group, Inc. All Rights Reserved.